

日本漢文史

籍叢刊

第三輯

雜史

十二



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

圖書在版編目(CIP)數據

日本漢文史籍叢刊. 第3輯, 雜史 / 周斌, 孫錦泉,
粟品孝主編 — 上海: 上海交通大學出版社, 2014

ISBN 978-7-313-11956-8

I. ①日… II. ①周… ②孫… ③粟… III. 日本—
歷史—史籍—叢刊②日本—歷史—雜史 IV. ①K313-55

中國版本圖書館 CIP 數據核字(2014)第 199077 號

日本漢文史籍叢刊 第三輯 雜史

主 編 周 斌 孫錦泉 粟品孝

副主編 陳小法 尤 佳

上海交通大學出版社出版發行 北京人天書店有限公司經銷

(上海市番禺路 951 號 郵政編碼 200030)

電話:64071208 出版人:韓建民

北京中獻拓方科技發展有限公司印刷

開本:889mm×1194mm 1/16

印張:946 字數:18920 千字

2014 年 9 月第 1 版 2014 年 9 月第 1 次印刷

ISBN 978-7-313-11956-8/K

定價:23800.00 圓(全二十八冊)

版權所有 侵權必究

統 籌 陳建華 施 維 劉邦權

責任編輯 陳建華 劉邦權

裝幀設計 陳燕靜

第三輯目錄

第一冊目錄（總第62冊）

雜史

佛教

元亨釋書

（目錄、表、卷一—卷三十）

本朝高僧傳

（總目、序、凡例、援引書目、卷一—卷二）

四三五

第二冊目錄（總第63冊）

本朝高僧傳

續（卷三—卷四十七）

一

第三冊目錄（總第64冊）

本朝高僧傳

續（卷四十八—卷七十五）

一

東國高僧傳

（序、卷一—卷十）

二四三

續日本高僧傳

（序、總目、援引書目、凡例、卷一—卷九）

三七九

第四冊目錄（總第65冊）

續日本高僧傳

續（卷十一—卷十一）

一

吉水實錄

（序、卷第一—卷第十四）

三七

正法山六祖傳

.....

二五五

日本往生全傳

（序、極樂記、續本朝往生傳、拾遺往生傳、後拾遺往生傳、本國新修往生傳）

二七三

扶桑往生傳

（序、卷上—卷下）

四〇九

總目錄

淨土真宗付法傳 四五五

三國高僧略傳 (序、例言、卷之上—卷之中) 四七五

第五冊目錄 (總第66冊)

三國高僧略傳 續 (卷之下) 一

近世禪林僧寶傳 (序、凡例、目錄、卷之上—卷之下) 二七

高僧名士傳 一二七

和漢高僧傳 一五三

門跡傳 二四一

天台圓宗列祖略傳 三〇三

密宗血脉鈔 三二九

日本國大師一覽 四五一

唐鑑真過海大師東征傳 四五九

東福開山聖一國師年譜 四八七

蒼龍窟年譜 五〇九

東海一休和尚一代記 (上) 五二九

第六冊目錄 (總第67冊)

東海一休和尚一代記 續 (下) 一

智証大師年譜 一三

正受老人崇行錄 三五

東海鐵塔諸祖年譜略頌 六一

峨山禪師行實並法語 九一

方廣開山無文元選禪師行狀 九九

越溪道蹟 一一三

損翁老人見聞寶永記 一二一

近世高僧年表 一六三

淨土傳燈總系譜 (序、卷上、中、下) 一九九

東大寺要錄 (序、卷一—卷六) 二六九

興福寺年代記 (序、卷一—卷六) 三八五

長谷寺緣起 四三九

扶桑伽藍紀要 四六一

慧超往五天竺國傳箋釋 四七七

第七冊目錄 (總第68冊)

入唐求法巡禮行記 (卷第一—卷第四) 一

參天台五臺山記 (卷第一—卷第八) 一四九

神道

神道五部書 (卷第一—卷第五) 三〇五

皇國神社志 三七三

古義神代考 (卷第一—卷第三) 三九三

天滿宮世家 四三七

祖志 (序、緒論、目次、卷一—卷三) 四五五

第八冊目錄 (總第69冊)

祖志 續 (卷四—卷六) 一

雜紀

古事記 (卷一—卷三) 八三

春記 (卷一—卷三) 一六三

玉葉 (序、例言、目錄、卷一—卷十二) 二一七

第九冊目錄 (總第70冊) 一

玉葉 續 (卷十三—卷二十六) 一

第十冊目錄 (總第71冊) 一

玉葉 續 (卷二十七—卷四十) 一

第十一冊目錄 (總第72冊) 一

玉葉 續 (卷四十一—卷五十五) 一

第十二冊目錄 (總第73冊) 一

玉葉 續 (卷五十六—卷六十六) 一

明月記 (諸言、目次、第一) 三九一

第十三冊目錄 (總第74冊) 一

明月記 續 (第一、第二) 一

第十四冊目錄 (總第75冊) 一

明月記 續 (第二、第三) 一

第十五冊目錄 (總第76冊) 一

明月記 續 (第三、補遺) 一

古語拾遺 三四三

將門記 三六一

大塔物語 三八三

保建大記 (卷上—卷下) 四〇九

本朝稽古篇 (上中下、續上中下) 四三七

十三朝紀聞 (慶弘紀聞) (序、卷一—卷三) 四七五

第十六冊目錄 (總第77冊)

十三朝紀聞 續 (卷四—卷七、跋) 一

今日鈔 (卷一—卷七) 七五

柱史鈔 (卷上—卷下) 一七七

近古史談 (卷一—卷四) 二二一

近世史談 (卷一—卷四) 二九三

帝國史談 (卷上—卷下) 三六五

續近事紀略 (卷一—卷三、征臺略記) 四一五

尊攘紀事 (卷之一—卷之六) 四七三

第十七冊目錄 (總第78冊)

尊攘紀事 續 (卷七—卷八、跋) 一

尊攘紀事補遺 (卷一—卷四) 二五

行在或問 (卷上—卷下) 七九

皇朝靖獻遺言 (卷一—卷八) 九五

慶安小史 一七一

先朝私記 一八五

遠野史談 (卷上—卷下) 二一一

西京傳新記	(初編—四編)	二三七
-------	---------	-----

日本詩史	(卷一—卷五)	三三三
------	---------	-----

回天詩史	(卷上—卷下)	三九一
------	---------	-----

和漢茶誌	(卷一—卷三)	四三一
------	---------	-----

本朝畫史	(卷上—卷下)	五一
------	---------	----

第十八冊目錄 (總第79冊)

續本朝畫史	(卷上—卷下)	一
-------	---------	---

近世畫史	(卷一—卷五)	二七
------	---------	----

雲煙略傳	(卷上—卷下)	一一五
------	---------	-----

日本國事跡考		一五七
--------	--	-----

史館茗話		一九七
------	--	-----

寤眠錄		二二三
-----	--	-----

幽囚錄		二三九
-----	--	-----

在津紀事	(卷一—卷二)	二六五
------	---------	-----

正名緒言	(上下)	二八九
------	------	-----

本朝蒙求	(上—中—下)	三三三
------	---------	-----

扶桑蒙求	(上—中—下)	四〇九
------	---------	-----

神代千字文		四九五
-------	--	-----

本朝千字文		五〇九
-------	--	-----

內國千字文		五二一
-------	--	-----

日本千字文		五三三
-------	--	-----

第十九冊目錄（總第80冊）

大統歌（上下）.....一

盡忠錄.....一九

涉史偶筆（卷一—卷六）、涉史續筆（卷一—卷七）.....四一

香亭雅談（上下）.....一八九

櫻史新編.....二三五

酒史新編（上下）.....二五五

國朝佳節錄.....二九七

外史劄記.....三一

歷代君臣名功錄（上中下）.....三三三

傳疑小史.....三九三

仙臺支傾錄.....四〇九

先哲醫話（上下）.....四三七

奇談新編.....五二三

第二十冊目錄（總第81冊）

中朝事實（上下）.....一

潛中紀事（卷一—卷六）.....一〇七

正保野史.....二六五

稽古要略.....二七三

丙丁炯戒錄（上下）.....二八五

養真亭藏泉譜.....三二一

新撰寬永泉譜 (前編—後編) 三九九

明治新撰泉譜 (一集—三集) 四二一

明治新撰泉譜別集 (初編—貳編) 四八三

大東世語 (序、卷一—卷二) 五一七

第二十一冊目錄 (總第82冊) 一

大東世語 續 (卷三—卷五) 一

近世叢語 (卷一—卷六) 三五

新撰叢語 (卷一—卷三) 一〇七

修身叢語 (上下) 一五一

日本智囊 (卷一—卷十) 二二三

皇朝金鑑 (上書、序、凡例、總目、卷一—卷十七) 三三九

第二十二冊目錄 (總第83冊) 一

皇朝金鑑 續 (卷十八—卷五十五、跋) 一

戰略新編 (序、目錄、卷一—卷五) 四一七

第二十三冊目錄 (總第84冊) 一

戰略新編 續 (卷六—卷十一) 一

策府 (題、序、凡例、目次、卷一—卷二十四) 七九

第二十四冊目錄 (總第85冊) 一

策府 續 (卷二十五—卷三十、跋) 一

外史

日本外史前記 (卷一—卷五) 九七

日本外史	(序、例言、引用書目、目次、卷一—十八)	二二九
------	----------------------	-----

第二十五冊目錄(總第86冊)

日本外史	續(卷十九—卷二十二)	一
續日本外史	(卷一—卷十)	七三
近世日本外史	(卷一—卷八)	二五三
續近世日本外史	(卷一—卷二)	三九一
日本外史補	(自序、凡例、目次、引用書目、卷一—卷七)	四四一

第二十六冊目錄(總第87冊)

日本外史補	續(卷八—卷十四)	一
江戶將軍外史	(卷一—卷五)	六一

史表

皇朝金石年表	二五五
日本金石年表	二八七
史籍年表	三一九
日本史籍年表	三五九

第二十七冊目錄(總第88冊)

日本史籍年表	續(前編續—後編)	一
--------	-----------	---

第二十八冊目錄(總第89冊)

日本史籍年表	續(後編續)	一
銅鑄和漢年契		四五
增訂新撰年表		七七

近世儒林年表	一三五
日本外史年表	二三五
重撰和漢皇統編年合運圖 (上下)	二六三
年代紀略	三四一
新編分類本朝年代記 (卷一—卷七)	三六一
國史年表	五二九
逸號年表	五三九

第十二冊目錄(總第73冊)

玉葉 續(卷五十六—卷六十六) ·····

明月記 (諸言、目次、第一) ·····

玉葉

卷第五十六

自文治五年十月
至同 年十二月

十月

一日、如雨下、平座如常、少納言不參云々、親雅〔朝臣〕申、春日行幸之間條々事、

三日、乙多武峯鳴動解狀到來、即占之、口舌云々、

四日、寅多武峯恠異物忌也、今日、主稅助安陪晴光來

申云、多武峯恠異、去月廿八日午時、奉渡、御占六甲云、女

子有_二徵召之慶_一云々、是嫁娶之儀也、可謂吉兆、御

入內表示也云々、他人不申此旨、尤有興、仍不堪

或賜_二小櫛頭_一、單衣降庭拜而退出了、

五日、辛卯物忌如昨、召大外記師尙、給維摩會差文、

會差氏人、交名也、此次仰御元服勘文事、

六日、壬辰以光綱仰遣前上西門院道令之間事於忠親

卿許、答云、次第實難治也、早可被奏聞歟、不被

奏遣令例已多、辨官皆神事也、宗隆申御元服奉行

之由、明日定以後、尤可有_二禪歟_一、此條尤可被從上

御定歟、又上卿直史下知、專不可然云々、宗隆來、

御元服定之間條々事仰之、大略一切不存歟、不足言、々々々、親雅進維摩會不足米文、付宗賴了、問他文書、于今不進之由、忘却云々、有若亡、有若亡、

七日、癸巳〔天〕晴、此日、御元服定也、午刻、着直衣參

內、大納言依御物忌不參御前、直向西直廡、近年、其

直廡而公廡座太狹、人數多參、仍其座、角屋爲

一切不可、仍今日暫就本直廡也、先是仰職事仲資、奉

仕直廡裝束、其儀如叙位除目、垂東南西三方簾、立

亘四尺屏風、東第一間、與方南、敷高麗端一枚、爲

余座、前右方置、現第一合、不第二間以西三之間、二行敷

同疊八枚、順引敷敷之、爲大臣已下座、叙位除目之時、大臣

有_二經席_一、主人座敷、書圖座也、實治御元服定、御直廡之儀、

也、仲年時、區房等記知、今儀、仍一向所追、彼攝也、以西子

午廊爲公卿休所、入夜舉掌燈、座上下各一燈也、

布打敷、先是、召寄御元服御調度等、調度、并當今大書會

也、如格加檢知、大略併紛失、納殿狼藉不能左右、嘉應

御調度、所殘只唐匣宮一也、大書會御調度、又屏風

〔之〕外、無可被用之物、但御帳見在云々、不召進、其外別進御、此間、宗廟、真、催、未時之由、云、然而及日沒、更不參、仍先有行幸舞人定、余出居賓筵、東、漸、依、屬、昏、舉、燭之後召、宗賴、先立、切、燈、大、役、之、、即持硯、硯紙等、居前廣庇、撤雜具、盛例文於柳宮、以、其、持、來、覽、之、余、取、例、文、置、前、宗、賴、收、、柳宮退下、余讀例文、春日行幸、并、舞、人、許、讀、之、、令書宗賴、書了又盛柳宮持來、余見了卷龍例文、置柳宮返給、宗賴更進取之退下、加盛〔續〕紙殘硯等、取之退下、始、自、持、參、至、退、下、不、換、例、也、、行幸定不載、摺袴、定例也、又以天永定文爲例文也、今度行幸、偏依被追彼例也、次召宗隆問公卿參否、左大臣已下皆參、但右大臣未參云々、左大臣申云、今夜可被行公卿分配、歟、定前如何、余云、先可有定者、其後良久人々不來、仍以宗賴尋之、即左右兩府已下右大臣只、令、參、入、云々、、諸卿十人來着座、皆悉着座之後、余召宗賴朝臣、問日次於陰陽師、陰陽師、實、憲、朝、臣、大、舍、人、頭、兼、後、朝、臣、等、據、所、召、諸、卿、也、須、召、季、弘、朝、臣、也、而、候、天、王、寺、之、間、就、安、宗、之、上、薦、召、三、葉、後、也、、御元服、二日丁巳、三日戊午、四日己未、後、宴、又、吉、、後宴〔五日〕庚申、中日有、云々、重問兩日優劣并子細、歸來申云、二日伐盜日也、然而承平天永被用也、三日雖不入

吉日、新撰陰陽書、入三月立吉日、正月戊、兩日如、此、午、云々、、業後申云、三日稱三長、殊用吉事之日也云々、余仰人々令定申、左府云、自下臈可申歟、余諾、人自下臈定申之、惣七ヶ條也、

一日次事、

左大臣已下九人、皆申三日可被用之由、通資卿人、申二日宜之由、

後宴日事、左大臣就支干吉、四日可宜云々、右大臣已下申五日可被行之由、是天祿、永祚、寬仁、寬治、天永、皆置中一日被行之、至于申日之條、天祿、永祚〔之〕嘉例也、不可被僭云々、

余云、御元服三日、無左右事也、不入吉日例等有云々、○南按云々、之中、寬仁、大、崇、嘉、應、又、當、院、當、作、兩、三、歟、親、王、之、時、御、元、服、等、也、、嘉應戊寅日、即入正月吉日、如今之戊午、仍彌不可及異議歟、後宴猶依日次勝、可被用四日歟、後宴必三ヶ日之内、所被行也、四日於非吉日者勿論也、若被點五日、臨期如甚雨之降出來、頗無便宜、歟、旁可被用四日歟、至于吉例多之條、先撰日之善惡之上事歟、人々猶有執五日之氣、且是爲人一日休息有其要云々、

一伊勢幣、可被付三月次祭哉否事、

一向各別可宜云々、此事已流例也、雖不及議、天祿、寬仁、被付三月次祭、又嘉應其沙汰出來、仍一旦及議定也、

一山陵員數、三所敷四所敷事、

一同申可被申三陵之由、是可依天永吉例、今度專被逐彼例之故也、但經房卿申云、嘉應被申四陵、若有由緒敷、被尋件條、可有左右云々、余重示人々云、天祿以往皆四陵也、而永祚圓融院御見存、仍除父帝敷、可被申三陵也、而始加高祖大内山、寬平、注皇御陵也、被申四々所、其後寬治又如永祚白川院、御座也、仍被尋彼例之處、諸記之中無所見、仍只除父帝、被申三陵了、天永如此、大治父會祖共御見存、仍被申三陵、久安又追寬治天永例、被申三陵、嘉應之度、須被追寬治等例之處、永祚加高祖之例、忽以被檢出了、仍被申四陵加高祖白川院也、次第如此、今度依永祚嘉應例、可被加高祖敷、將只一向守天永例、可被申三陵敷、今被尋問之詮在斯、重可被申者、今度只人々、曰々所、人々申云、不可被倣久安例、只申也、余思此由也、

可被用寬治天永例也、久安ニモ追代々吉例ヲ

コソ、萬事被行ケル、而一向被棄彼例、如何云々、經房、效光、余云、此事不可然、自本誰云哉一向可申此旨、

棄置久安之由、至于此條、四陵三陵共有例、而不加高祖、被減員數之條、大治久安頗不快也、永祚嘉應加高祖、被申四陵、有其理之上、又不被按有脫字敷猶不快例、仍及此儀也者、忠親卿云、此條可然、但嘉應之度、并寬治求永祚、即永祚又似嘉應其父帝御座之故也、於今度者、天永一向相叶、祖帝御座之時、無被申四陵之例、仍頗可異嘉應之時議敷云々、余云、此條理可然、但如此事、猶以道理可爲先、申神宮告諸陵、其意在敬祖宗、然者論其多少、可就多例敷、加之御見存之條、父祖其儀惟同、更不可有差別敷、但人々被申旨又可然、且爲聞此衆議所出疑也、所詮奏聞之後、可在勅定者、人々不言、一朝拜事、

人々一同、申不可有之由、其中忠親申云、御內裏之時、可有此議之由有所見、而天永雖御內裏、無此議、今追彼例不候、何事之有哉、右大

臣申云、八省已無實、旁不可候歟、此條依八省無實、不可有其沙汰一歟、但定日時之次必被定擬侍從、加之天祿以後雖無此禮、至于嘉應又及議定、只大治久安都此沙汰不出來、仍故所出此問也、此旨仰知人々了、忠親申尤可及議之由也、

一御調度事、

嘉應御調度已紛失、仍任寬治并嘉應例、可被用大嘗會御調度、其不足可被新調也、而御帳可被用大嘗會一歟、寬治嘉應將又可被新造一歟、天永大治久安如何人々一向申可被用大嘗會御帳之由、余云、山陵雖有久安之不吉、猶不棄天永例、御帳、依大治等之不快、棄天永之例如何、人不言、

但恩案〔又〕尤可被用大嘗會御帳也、

一上壽人事、

人々一同大中納言之間、可依壽考云々、忠親獨申云、大治久安用大納言、可被避云々、余云、大中納言更不可及沙汰、只可撰壽考、已謂上壽、加之先例用第一之耆老、不可有異

議事歟、

一賀表作者事、

通親獨申公卿可作之由、

自余、皆申式部大輔可宜之由、或又式部大輔文章博士之間、可在勅定、

余云、文章博士一人在任國、一人有障、寬治記云、文章博士兩人、當時服假、臨彼時雖不可有障、猶非優美云々、然者今度又可同加之、寬治天永共、式部大輔作之、今度可逐彼嘉應者、

此外母后拜觀事、其人御座之時、久安之外必在之、其人不御之時勿論、而天永二條太后准母儀、然而無拜觀、今度又可同、仍不可及沙汰之由存之、然而又何樣可有哉之由、一旦示人々、爲遁後日之難也、人々云實不可及及議定者、右大臣云、當時拜禮猶以被略、彌以勿論云々、

定間、宗隆於座末廣庇邊、注側記、院還御之時、可奏聞之故也、余仰之也、事了人々退出、兩丞相暫居、余後宴山陵員數等事、粗示之、各開口、頗有伏理〔之〕色歟、兩府又退出了、

家實明曉參天王寺云々、仍余條々事仰付了、其中遣令事同申了、主上聊御膳乖例云々、仍實慶暫可候、護身之由雖仰之、更不承引、仍同以家實申院了、

余召宗隆、仰御調度、可用大嘗會御帳不可新調之由仰之、

八日、甲午入夜雨下、僧正被來、依母堂法事、去晦比所被上洛也、數刻談語、亥刻披歸了、來十月正月、佛事了可歸南都、小童可相具云々、

主上聊御頸邊令腫給云々、召醫師等之處皆相違、醫博士有忠奉見、申無殊御事之由云々、

九日、乙未天陰雨下、自去夜病惱、終日前後不覺、

內裏邊御事、有小増、與樂頭賴基、醫博士信康等奉見、共申無殊御事之由云々、左中辨親雅參上、給雄摩會文書、依所勞無術、以人傳給宣旨聽衆文、宗賴朝臣書之、

十日、丙申天晴、家實自天王寺示條々事、遣令事也、必可被行云々、辨事可仰合人々者、召光綱、仰可問兩府之由了、今日役夫工、外宮、判官主典等、官符請印、少納言不參、仰可責之由了、又入

夜光綱歸來、申兩府返事、左大臣申云、遣令專不可被行事也、違期之上、神事吉事指合、太無便宜、歟、然而院宣有限、仍必可被行者、御元服奉行職事、專可有其憚、雖爲希代之例、官外記如計申、上卿參陣召史、下知親經奉行之由、可裁官符歟云々、右大臣申云、大略同前、仍明日遣令事一定之由仰光綱了、又上卿直仰史事、兼日之支度、不可然、臨期辨官遲參之體、可致沙汰之由仰之、又光綱申云、少納言不參、可付吉上之由仰了、又行事辨定存歟、殊可忿參之由可遣告、又上卿可告兼光卿領狀之由、同仰之、及深更兼光卿告云、承少納言參入之由、參結政了云々、入夜能保卿示送云、賴朝卿申遣云、去九月三日誅秦衡了云々、天下之慶也、

十一日、丁酉天晴、此日、前上西門院被奏遣令、違期之條、先例遲退、六條院、高松院之外、無例、吉事神事之間、於事無便宜、然而依殊院宣、強被行此儀、上卿實宗卿、依辨官不參、上卿直仰史、可作親經奉行之官符云々、沙汰之趣見昨日記、光綱來云、內覽如何、仰不可然之由、又云、去夜辨遂以不參云々、此事

驚奇不_レ少、被_レ置_二役夫工上卿辨等_一、而以_二他上卿少納言等_一、請_二印造官使官符_一、行事辨不_レ參之條、未曾有事也、上卿不_レ參用_レ假之條、常事也、奉行辨不_レ參希代之事歟、定經不足_二器量_一之人歟、其性不_レ及_レ父、其言學_レ父、人以不_レ爲_レ可、

十二日、_戊天晴、此日爲_レ修造此亭、渡_二九條亭_一、依_レ爲_二戊日_一、先於_二普成佛院樓門邊_一、聞_二報鐘_一之後向_二九條_一、今日晝間大納言參內、歸來云、於_レ今、無爲、御樂被_レ止、只每_二日_一兩三度、奉_レ伺_二之云々_一、右少辨宗隆參上、每事不足_レ言、如_レ例兩少辨、雖_レ可_レ貴_二重代_一、非_レ職事辨官之器量、可_レ悲々々、入_レ夜能保卿示送云、主上御湯殿之刻、信康_士若卿可有_二抽賞_一哉、然者可_レ相存_二歟云々_一、返事云、_國行奉_レ如此事可依_二御有樣_一也、先日有_二御惱_一、典藥頭賴基參_二御療治_一、即時御平愈、然而無_二殊事_一、今又同前歟、賴基道之長者也、若無_二幾之差別_一者、玄隔之沙汰、可有_二猶豫_一歟、但又被_レ尋_二女房等_一、今度御事、若自_二以前_一、事々しき樣あらは、及_二勅祿_一、何事_二之_一有哉、_訓勅祿_一、非_レ給_二御衣_一、之類、給_二之例也_一、又只能保私致_二沙汰_一可_レ立、且_レ可_レ被_二相計_一也、此由仰示遣_二者_一也、

間事、令_レ加_二檢知_一、十三日、_亥天晴、入_レ夜時々雨、白地向_二堂_一、此夜召_二慶忠_一、_當世_一能_レ讀、令_レ候_二夜居_一、甚_レ優美、報鐘以前歸_二了_一、彼堂爲_二自領宅_一、不_レ宿_二本所_一者、自領又一夜付_二忌_一、仍北方犯土不可_レ叶之故、雖_二一夜_一不可_レ宿_二堂也_一、今日、藏人左京權大夫光綱來申云、御方遠行幸、十七日之由、有_二其沙汰_一、而相當御物忌、仍可_レ延引_二歟_一、十六七日、八九日、四ヶ日御物忌也、仍廿日可有_二行幸_一之處、復日也、御惱之後可有_二憚之由_一、陰陽師所_レ申也、爲_レ之如何、仰云、廿三日可_レ宜_二歟_一、復日之條、若有_二如此之例_一哉、然者何事_二之_一有哉、可_レ尋問_二歟_一、又云、遣令以後政始十七日也、而辨官皆辭退云々、可_レ責_二定經_一之由仰_レ之、十四日、_庚自_二今日_一、僧正仰_二寺僧勸慶_一、於_二春日御社_一始_二入內祈_一、十六日、_壬今日法皇自_二天王寺_一還御、便御_二覽通親卿_一久我亭、有_二種々進物等_一、人以不_レ爲_レ可、可_レ彈指_二可_一彈指、今夜御宿、明日可_レ還_二御六條殿_一云々、十七日、_癸此夜有_二御方遠行幸_一、_白川押_一小路殿、今明共御物忌也、然而爲_二大內修造_一、依_レ可_レ被_二忿_一、被_二復推_一之處、無

〔谷還吉慶云々、仍所被遂行也、余依所勞不參入、今日午刻、法皇御入洛、宗賴朝臣來、申條々事、〔經院奏事等也〕、

十八日、^{甲辰}頭中將成經、爲御使來、賴朝賞之間事也、申子細了、入夜又來、先可被問云々、可仰帥卿之由、召仰了、不被問人々云々、定長卿來、依招也、條々事令院奏了、

此夜定春日行幸雜事、長房執筆、^{衣冠帶銀}余冠直衣、以寬治定文爲例文、

十九日、^{乙巳}雨下、此日、春日行幸御祈奉幣也、^社廿一上卿大納言兼房〔卿〕、辨親雅、先勘行幸日時、余居所遼遠、仍內覽可用如在之禮之由仰了、自昨日神齋如例、召宗隆并陰陽師等、內々令勘御元服次第日次等了、

〔棟範申造內裏之間事、〕

廿日、^{丙午}陰晴不定、能保卿示送云、奥州事併召取了、不漏一人云々、送注文一紙、實天〔之〕令然也、非言語之所及、

廿一日、^{丁未}此夜、實通律師參夜居、定長爲院御使來、示奥州之間事、又二宮御元服之間事同示之、

廿二日、^{戊申}宗賴朝臣來申條々事、二宮御元服事、今年不可有云々、

廿三日、^{己酉}此日爲故內府奉書供養一日經、余已下男女陪仕、并兩法印、大納言女房等皆書之、先有懺法、申刻供養、以佛殿房爲導師、聊依有夢告、破石所書也、

廿六日、^{壬子}雨下、二宮元服、并兩宮及女宮親王宣旨之間事、宗賴朝臣來傳院宣、御元服十二月九日、支干叶白川院、可被行歟云々、先日、今年不可被行之由有仰、如何々々、

廿七日、^{丑癸}雨下、自今日公家御精進、被忌僧尼服者、但魚味不憚之、春日社之習也、今日依日次不宜、明日可御覽御馬云々、

廿八日、^{寅甲}此日、行幸行事上卿兼房卿參陣、行召仰事、并〔奏〕宣命草、內覽事兼觸示云、內覽之後待歸來者、今日下向南都不可叶、仍給內記、即欲下向如何、余許之、此夜可有神寶御覽、而猶有不具事、仍不能御覽、只有御馬御覽云々、入夜參內、大納言相伴、依明曉行幸也、先參院、依召參御前、數刻預勅語、及亥刻參內也、

今日、自_レ院給_二御牛御馬等_一、御馬爲_二余車後相具_一也、但不_レ相_二具御厩舍人_一、御牛將_二向南都_一了云々、是其所借預_一也、京出牛先日下給、是永下給也、

今日、余及大納言方、當色給_レ之了、家實來申_二御後殿上人散狀_一、三人領狀云々、

廿九日、_卯(天)晴、此日、當今初度春日行幸也、依_二天

永_{鳥羽院}初度、例_一所_レ被_レ行也、未明着_二束帶_一參_二御所_一、先_{小治}又有_二身堅事_一、解除之條、雖_レ不可_レ必然、明日可_レ破_二物忌_一、于_レ時御依_レ有_二其忌_一、今晚付_二帶物_一(於_二社司_一)、仍所_レ解除也、

湯殿了、御膳之間也、次召_二經家卿_一、令_レ奉_二仕御總角_一、

無_二付髮_一、依_二御裝束等_一、_{如例}、即有_二神寶御覽事_一、_{若_二御}衣_一可_レ御覽也、然而已依_二依_一略儀、金銀(御)幣、御鏡、御

劔許、所_二御覽_一也、出御以前豫取置、是皆念_レ事之故也、宗賴朝臣參上覽_レ之、次五位殿上人撤_二神寶_一、次入

御、先_レ是內大臣右大將、已下、公卿五六人、近將少々參入、又以_二家實_一欲_レ仰_二留守事_一之間、遮以仰下之由、

家實所_レ申也、猶以_二上卿_一可_二下知_一歟、_{上卿中納言經房}也、法皇渡_二御々棧敷_一之後、主上出御、_{余指_二御候_一御、藏}

_{內侍候_二前後_一如_レ常、於_二御帳西間_一御反閉如_レ例、_{陰陽權助}于_レ時辰刻許歟、_{弘朝臣候_二之_一、次主上立_二御御帳前_一、次右將渡_レ左、此間東}}

暨不_レ候、仍尋召之處、今朝早參、暫逐電了云々、_{不_レ參、於_二路頭_一、次公卿列立、_{右大臣金會、兩大將立_二次寄_一御}與、_{參會云々、}無_二關司給奏等_一、神社行幸例也、御與_二鳳璽也_一、永祚用_二金花_一、神事}

出御與、余着_レ查立_二對南階邊_一、御與出_二御自_一東陣、

先居伺四人、_{前_二有_一前驅笠持_一、}

次移馬舍人四人、_{二行、給_二當色_一、二盞上下、濃款}

次前驅廿人、_{四位二人、五位十六人、六位二人、二行、}

次上薦隨身四人、_{給_二染分持袴_一、不_レ給_二他物_一、持胡露加_二修理_一、}

次余車、_{懷德毛、車副六人、答_二冠襦等_一、其色目如_レ例、}

次馬一疋、_{申_二院御馬鹿毛_一、置_二鏡鞍_一、青色薄物透脫有_二橘_一、蘇芳}

人布衣也、赤色上下、濃款冬衣、馬不_レ結_二唐尾_一如_レ例、但猶不_レ指_二泥障_一也、

次下薦隨身六人、

次雜色廿人、_{雖_二長上_一、括_二着_一藥}

赤衣仕丁持_二雨皮張筵_一如_レ例、

御路、經三條東洞院三條大宮、七條朱雀造路鳥羽等也、

於三院御棧敷^{三條北、室町四也}、東邊五六段程、前駟等下馬、余

欲昇放之間、以御隨身敦助、早可過之由頻有仰、

仍前駟等更騎馬、渡御棧敷前、^{手時午正、於路頭經三二}

同、無指事^{扣與、不違前}申終、御美津頓宮、幔外未

及三三三下、車入東暢門、并都屋東面、參御前、

先是下御了、即供^{左衛門督通}膳御膳、又供御破子、女

房中納言典侍、卿殿參頓宮、都屋東北角二ヶ間、立

廻屏風、爲余休所、五位藏人家實來觸、仍余伴大

納言^{折敷高杯}臨其所、索備^{六本}、五位藏人光綱陪膳、

勸酒盞之後、不下着起了、大納言不羞膳如何、行

事之失歟、先例可然之人同着者也、即寄御與、公卿

只二人、通親、此大納言許也、列立、近衛次將僅兩三人

也、家經取御劍、安^{頓宮、內侍不}盞中、即乘御、余乘車

候^{後陣不見、經他道歟、先例於洛外者、近ク供奉也、}御輿後、

於^{大納言暨騎馬供奉、而乘馬痛足、密々余同車也}母祖杜、有^{大納言暨騎馬供奉、而乘馬痛足、密々余同車也}駄餉事、余下自車參會、頭中將勤陪

膳、然而不御覽入、即撤之、余又乘車供奉如元、大

納言暫騎馬供奉、而乘替馬病足、仍密々與余同車

也、亥終着御社頭、於法花寺鳥居邊、大納言更騎馬

供奉、他卿一人不候、不可說々々事歟、於三鳥

居下、下車入自西門^{南方}、經公卿列後、^{家禮之}入

自着到殿西面、參御左右、即仰行事辨、昇立神寶

於東庭、^{當着到殿南庭、先敷筵、其上}如形供御湯漬、^{女房}

也、即供御手本、同前、此間、上卿付頭中將、奏宣

命清書、^{付內侍、內侍即返給、}次主上着御^{々々}拜座、^殿

角間、良面供^{之、小筵}、次召御笏、^{宗朝朝臣}次供御贖物、^{宗朝}

上數^{牛帖一枚也}、次召御笏、^{持參也}次供御贖物、^{宗朝}

家實被供^之、次宮主獻御麻、宗賴取^之持參、一撫了返

給、宮主取^之着座、^{神寶與着到殿之間、數宮主使}次上卿

經前庭、着座、次撤御贖物、次舞人三人引立御馬、

引^{運參之間、數度盤之、引入自東暢門、北東面引立之、}出御馬了、次使取御幣立、次主上御拜、^{兩段}

余咳驚使^{置幣復座}、次別當隆房卿取^{再拜、訖}插頭花、入

自東暢門、指使冠退下、次使直出東暢門、參社

頭、次撤神寶、此間余示^{宗賴、欲仰社司賞之間、}奉行家實先以仰了云々、次撤神寶、此間主上、起

御拜座、御平敷御座、次供御膳、次余退出、自北鳥

居、^{當着到殿}向^{乾角也}休幕、昇南階、入^{以黑木造之、}簾中、^{東西並立之、五}

居、^{當着到殿}向^{乾角也}休幕、昇南階、入^{以黑木造之、}簾中、^{東西並立之、五}

同四面通也、四有殿上人座、屋同東西事也、暫件
屋南立、第一字三間許、餘件座南有昇階、
刻許家實來云、御願平安遂了之由、上卿所申也云々、
先是余付寢也、

今日着染下重人々、

三位中將忠經、少將家經、公繼、五位藏人家實、

今日內大臣、至于頓宮供奉、其後乘車前陣云々、右
大臣自宇治參向、近衛次將多以用宇治路、又大理
同用宇治路、太以不當事等也、

卅日、(丙辰)晴、此日還幸也、未明着東帶相待、人々

來臨、辰人々漸來集、皆用西廊階、而通親卿一人、昇

自南階云々、奇恠々々、內大臣右大將、來臨、直着

公卿座、(典座)公卿同着座、余此間開南庇東障子四枚、

出自件間、如本引塞障子、着橫座、右府可來云

云、仍暫相待之不始事、即右大臣來、昇自南階、

着端座、次一獻、左中辨親雅朝臣持來盃、(殿上人)

家司三人可入、而二人參入、人不諸大夫取瓶、余取盃擬右

大臣、(親雅)取瓶酌、右府同取、內府不取、次童舞、先萬

歲樂六人、次賀殿六人、(若右舞鼓束舞之例也、同)每舞

訖、諸大夫給祿、(正朝國朝也、近代凡稱)此間居汁、余陪

不、(先例如此)

膳親雅朝臣、右大臣陪膳伊豫守季長朝臣、內大臣陪膳
前攝津守以政朝臣、大納言以下汁兼居之、依急事
也、次右大辨定長申上、余以下々々着、次二獻、(親雅持盃)
余讓右大臣、々々々辭之、再三雖讓之、遂以不
取、仍余又取之、擬右大臣、々々々讓內大臣、內大
臣又辭之、遂擬右大臣了、(流)巡如恒、次召親
雅朝臣、仰寺司可召着之由、(其間、別當權)親雅退歸
出殿上人座上、北布障子了、(件障子爲役)即山階寺別
當法印覺憲、權別當法印範玄等、出自件布障子、經
南寶子、着座、(法眼自平裝裝也、從僧置)次依余氣色、頭
中將成經朝臣、(座中傳召)來余座前、余仰寺司賞事、成
經直欲赴別當座、余咳留、仍右大臣座頭仰之退下、
不覺情、(歎)先召別當法印覺憲、進座後上方、大臣
仰云、任申請、以業修大法師、叙法眼者、(覺憲復)
座、次召範玄、仰之儀同前、但以信宗律師補權
少僧都云々、次給寺司祿、右少將成家朝臣取別當
祿、少將家經朝臣取權別當祿、各綾掛也、(依非僧)
正也、或法印之時給織物、此事不可然、仍所賜
綾也、是例也、(文多存也)右大臣召右大辨定長

卿仰之、

余此時委示、
右大臣也。

定長經、庇參上、候大臣異方、

承仰復座、抑乍置爲氏院別當之中辨、強被仰

公卿大辨、定有由緒、歟、雖公卿大辨、爲辨別當

之時、仰之例也、乍置辨別當、召公卿例、尤可

尋知也、三綱憲成叙法橋事、不仰別當、只仰辨

官也、此間舞曲了、更發樂打、饌飽、打了給饌飽、

〔女〕祿諸大夫役之、次供饌飽、樂人已下就南階、供

之、諸大夫傳取供之、余已下手長如初、人別二前、傳飽
殿上人座、次五位役也、其實略而
不居之。居了申上、余已下々

箸、取所立飯之箸、立饌飽更食之、以件箸、如

本立飯、定能細知此、他人不
立飯、立饌飽也。次引々出物馬、自東方

引出之、兩府各一疋、隨身等引之、右大臣品類毛、右府忠
生武、右番長清彥引

之、一週之後、前近受取之、內大臣連天重毛、右府
生下藤恒元等引之、一週之後、其息家經受取之。次余以下拔

箸自下膳起座、大納言已下、降自南廊、列立前

庭、北面上、東面、兩府降自南階、加列上、次余起座、降自

南階東邊、刑部卿宗雅
朝臣殿旁、對右府相揖東行、〔家禮人居、大〕經
〔納言同之〕

鳥居參御在所、入簾中、右大臣已下次第經同路、

着公卿幄、大納言未着陣、
即參御所。次余召家實、令敷筵道、

饌飽女可參着之、由仰之、家實云、早參入申云々、此

事不當、余參〔上〕之後、尤可參也、但於今者何爲、仍

召宗賴、仰可召諸卿之由、先是數座、當四第二
次、

右大臣已下着座、大納言於楊門
邊立加之。次陪從可進立、大鼓邊

發物音、而一切不見、仍以成經朝臣、仰片舞并所

作人々、成經仰右大臣、々々傳仰人々、各起座

出、楊門、袒裼參上、先陪從等進立、定能卿取拍子、

其後進出也、舞了歸入了、先是給饌飽女祿了云々、

近衛官人給之、自
御所不見也。自公卿起座、於楊門、先奏見參、

右大臣付、宗
賴奏之。付內侍、余見了返給、次給公卿祿、殿上四

位已下取之、先是成經取余祿進來、示可持返

之由、仍持返給余隨身、次公卿肩祿列立、兩大臣不
持祿也。次

寄御輿、公時役、劔璽、乘御、此時可發、言、
其音不聞、如何。余於鳥居

外乘車、供奉如昨、于時未一點也、〔於母祖杜〕

駄餉如昨、申刻着御頓宮、供御膳、如昨、陪膳通親
病也。

即還御、余依所勞、自路直向九條亭、今夜依御方

達、還御押小路殿、明曉可還幸閑院也、

立片舞人、

大納言、兼房、良經、

中納言、通親、

參議、通資、能保、

散三位、忠經、

拍子、定能卿、

笛、公時、

大納言、今日着染下重、カエテ、

〔賞、見、端、〕

十一月

〔二日、丁〇南漢云、內元無被、行春日行幸賞、〕

三日、已今私加之以下同、被行春日行幸賞、

賴朝臣、仰女御名字可擇申之由、相次余出上達部

座、大納言同之、次召宗賴朝臣、內々問日次等、次

在宣注折紙申之、件注文、在別、此間、大納言并兼光等、議

屏風詩題之間事、以宗賴朝臣、明年正月十一日、可

有入內之由奏內、依永久例也、又諸國所課、今

日先美作國催祿、遺宗賴朝臣、其後兼光退下、今日自九

條參內、其後歸宅、女房自九條、直歸大炊亭、有前

驅五六人、地下、君達諸大、

九日、丑、乙、官奏、不堪荒奏也、棟篁候之、

又定五節臨時祭等事、宗賴書定文、

十三日、已、京官除目也、執筆右大辨定長如例、昨日光

綱向左大臣亭、召仰云々、今日、上首忠親卿、子刻事

始、寅始事了、太以爲早速、今夜余在籠中、

十四日、午、庚、定長卿來申請大間、密々給也、余謁之、

十五日、未、辛、入內定、在別記、下名也、

此日吉田社有遷宮事、

〔文治五年〕十一月十五日、辛未、〔天〕晴、終日風烈、此日、

女子叙三位、又定入內雜事、早旦姫君、參詣大原野

社、爲祈入內事也、密々事也、余綱代車、牛車遣

出衣、白色、不著打衣、前驅八人、君達四人、諸大夫四人、此

右府生下野忠武、在車後、赤色上下、前宮內卿季經卿

衣、乘車扈從、侍三人在其後、洛中如此、於城外者、御

衣仕丁持御幣前行、先欲出之時修祓、祓、陰陽師主祝頭

京、申刻歸宅、路之間無殊事、桂河頗雖水出、不及

妨渡云々、社司賜樹、大樹也、酉刻許、公卿等來集、藤中

納言兼光卿、持參名字勘文、付宗賴朝臣進入、書檀

紙一枚、無、裏紙、載五ヶ字、典子、立子、任子、載本文〔等〕

即余着束帶、嘉祿四年、入太子宮、之定文等、是今日所〔用〕

例文也、延久永久、出賓筵、出自座數座于也、先於上達部座東

以之爲例文、二間、謂右大辨定長、今夜下名任人事、

以件人、自院依被仰下也、忠
季任中將云々、申、其申之由了、召、宗賴朝臣、仰、入內日時
可、勘申之由、此間有、名字評定、以、勘文、給、大納言、其、經、
見、下、之、被、房、綱、追、加、一同申、可、被、用、任字、之、由、右、大、辨、
座、更、取、上、見、之、大任有、身、生、此文王、之
語、此、中、定、能、經、房、等、加、申、位、字、又、宜、之、由、雅、長、加、申、立、字、
文、毛、詩、文、也、可、謂、殊、勝、云々、兼、日、示、合、左、大、臣、以、甲、斐、守、
使、及、大、外、記、師、尚、等、(各)稱、此、字、珍、重、無、異、議、之、由、
師、向、今、朝、群、議、一、決、了、仍、召、頭、中、將、成、經、朝、臣、爲、仰、此、事、
進、勘、文、仰、女子、名字、任、字、以、人、不、傳、眼、前、所、仰、也、即、參
入、了、其、後、頃、之、宗、賴、朝、臣、指、日、時、文、(杖)持、來、
上、圖、月、下、先、跪、候、氣、色、覽、之、余、取、之、披、見、了、置、前、入、內、
隨、目、進、來、如、常、也、覽、之、余、取、之、披、見、了、置、前、井、遣、
帳、(敷)、日、時、等、硯、紙、等、可、持、參、之、由、宗、賴、持、空、杖、退
也、登、籠、一、禮、紙、下、即、敷、圓、座、舉、燈、切、燈、臺、有、打、數、仰、藏、人、頭、其、寄、尤、重、仍、所、
常、次、宗、賴、朝、臣、持、笏、參、上、着、座、次、諸、大、夫、持、參、硯、
加、置、硯、紙、件、硯、瓦、常、例、自、持、參、硯、也、而、依、爲、藏、人、
也、居、折、敷、如、例、置、宗、賴、前、頭、爲、異、他、使、人、置、之、非、參、議、
大、辨、又、可、宗、賴、卷、返、續、紙、候、氣、色、余、目、之、宗、賴、座
用、之、歟、墨、染、筆、余、取、出、例、文、讀、之、定、入、內、雜、事、宗、賴、書、之、又、
以、所、賜、之、宗、賴、書、訖、撤、硯、等、盛、折、敷、返、裏、盛、持、來、余
引、寄、之、乍、折、敷、留、置、宗、賴、先、披、見、定、文、等、然、而、不、置、
之、如、本、卷、之、披、日、時、禮、紙、卷、加、之、與、兼、房、卿、次

第見下、如本卷之取上、今度、只自端座取上也、余取
之、以、入、內、日、時、定、文、等、卷、加、一、禮、紙、置、折、紙、指、
出、之、此、次、仰、季、長、朝、〔宗、賴、參、上〕取、之、加、盛、硯、等、指
出、之、臣、可、召、之、由、〔宗、賴、參、上〕取、之、加、盛、硯、等、指
出、之、何、余、云、自、可、持、退、也、除、目、執、筆、雖、不、取、宮、
〔笏、取、之、退、下〕退、下、之、時、取、大、同、宮、退、次、御、帳、行、事、家、司、季、長、朝、臣、參、上、
文、退、下、之、時、取、大、同、宮、退、起、足、准、據、者、歟、宗、賴、諸、次、御、帳、行、事、家、司、季、長、朝、臣、參、上、
余、給、造、帷、之、日、時、仰、可、始、之、由、季、長、取、之、退、下、
於、中、門、南、廊、始、之、次、諸、大、夫、撤、圓、座、切、燈、臺、等、此
間、人々、退、出、良、經、定、能、雅、長、兼、忠、等、卿、留、候、次、宗、賴
朝、臣、來、云、勅、使、成、經、朝、臣、參、上、者、仰、可、令、敷、座、之
由、即、諸、大、夫、等、垂、公、卿、座、簾、撤、其、中、掌、燈、廣、庇、西、第
一、間、西、邊、敷、管、圓、座、原、圓、爲、余、座、同、第、二、間、東、邊、敷、
高、麗、臺、一、枚、其、上、加、東、京、錦、茵、爲、勅、使、座、兩、座、中
間、副、北、柱、舉、燭、次、余、出、自、西、一、間、簾、着、圓、座、
東、次、以、宗、賴、朝、臣、召、勅、使、其、詞、二、勅、使、此、方、次、勅、使、藏、人、頭、左
面、近、衛、中、將、成、經、朝、臣、入、自、車、寄、戶、經、中、門、廊、西、緣、來、
着、勅、使、座、先、可、居、板、敷、歟、可、仰、叙、位、之、由、而、不、仰
之、即、左、衛、門、督、定、能、卿、權、中、納、取、祿、女、裝、束、蘇、芳、織、物、
白、腰、裝、束、經、透、渡、殿、寢、殿、東、殿、簀、(子)等、來、授、余、々、乍
居、指、笏、取、祿、更、起、跪、勅、使、座、下、授、之、勅、使、取、之

退下、余隱_二簾中_一、爲_レ不_レ受_レ拜也、勅使降_二中門內方_一、出_二砌外_一再拜退出、次諸大夫等、如_レ元舉_レ燭、卷_レ簾撤_レ座、次召_二宗賴朝臣_一、仰_二三位方家司職事等_一、宗賴退下、書_二仰書下_一之云々、此間公卿等歸着、次家司職事列_二中門內_一、立_二內事_一、先_レ家司職事、任_レ位交立、次家司右衛門權佐長房、申_二事由_一再拜_{先申三位御方、次余、退出、}次余欲_レ出行之處、家實爲_二院御使_一來、下名任人事也、謁_レ之、承_レ仰之後參內、先公卿列_二立中門外_一、次余降_二自_二中門南方_一、_{忠季朝臣持_二來查_一、於_二門外_一、_{對_二上首定能卿_一、小揖、定能已_二下_二三人居_一地、大納言進_二中門_一也、乘_レ車參內、入_二自_二左衛門陣_一、進_二射場殿_一北面立、付_二頭中將盛經朝臣_一、奏_二事由_一拜舞、昇_二自_二小板_一敷、參_二御前_一、即退出、公卿等自_レ是留_レ了、但定能、雅長等卿猶相伴、余參_二院_一、以_二定能卿_一入_二見參_一、御念誦之間云々、即退出、長保元年、上東門院、叙_二給三位_一之日、御堂參內拜賀、退出之次參_二東三條院_一給、令_レ追_二彼例_一也、家司、}}

伊豫守季長朝臣、
右中辨親經朝臣、
左中辨親雅朝臣、
左衛門權佐長房、

甲斐守長兼、
職事、

右馬權頭兼親、

散位仲資、

刑部權大輔宣房、

下家司、

知家事右衛門忠安陪親賴、

案主、<sub>左衛門府生盛安、
宣史生久經、</sub>

進物所預、

散位紀宗季、民部大夫也、

出納三人、

今日參入公卿、

大納言、兼房(卿)、忠親(卿)、其經(卿)、

中納言、定能(卿)、經茂(卿)、隆房(卿)、兼光(卿)、

參議、雅長(卿)、兼忠(卿)、定長(卿)、

大原野詣前駟、

左兵衛權佐行輔、中務大輔忠行、_{已上殿上人、}

皇太后宮亮有經、散位保季、<sub>已上、地
下君達、</sub>

右馬權頭兼親、散位國行、

散位仲資、對馬守親光、<sub>已上藏
人五位、</sub>

御共、

前宮內卿季經卿、

隨身、

左府生忠武、

侍、

右衛門尉平貞時、

左兵衛尉豐原康遠、

右兵衛尉藤泰基、

御裝束儀、

上達部座、不立屏風、不敷筵、(二行敷)高麗

疊、余座無座上下舉燭、

寢殿出几帳、不出女房袖、

良角卯酉廊敷紫端堂六枚、爲家司職事座、不

引幔於所々也、

今日奉行、

家司宗賴朝臣、職事長俊、

御出奉行家司職事、

兼親、仲貞、

御物詣行事家司職事、

國行、親光、

十六日、壬申此日、吉田祭也、神馬十列如例、

〔十七日〕、

十八日、甲戌今夜有御方違行幸、余依病不參、大納言

參入云々、

十九日、乙亥此日被下親王宣旨、高倉院若宮二人、

二宮守貞、三宮惟明、

已上光範撰之、頗有難云々、上卿右大將實房卿、有

親族拜二也云々、余依疾不參也、召定經、仰役夫

工之間事、每事不足言々々々、

廿日、丙子〔天〕晴、此日、大原野祭也、余立神馬十列如

例、陪膳以政朝臣、乘尻之人、忽違亂之間及晚、仍先

女房幣立之、於南庭修祓如例、以政勤陪膳也、

廿一日、丁丑此夜五節參入也、公卿、大納言忠良、被免參入御覽參入、參議兼忠同前、

受領、長門紀伊余依風病更發、俄不參內、

廿二日、戊寅殿上淵醉入夜云々、

廿三日、己卯〔天〕晴、相扶所勞參內、今年不出衣、又着綾淺黃指貫、大納

言相具、出浮文織物紅梅原衣、浮文薄色指貫、忠季朝臣、能季、定家、等扈從、

酉刻、殿上淵醉始、日沒之後廻五節所、乘燭之後、童

女參上、長門一所也、御座間左右柱下通長押、舉燈、又前庭、主殿官人立明、童下仕參入之後、

欲置扇、而童女等一切不承引、前右衛門佐陸雅付之、雖人解、遂不置扇、依經數刻、令退下了、大輪二通如恒之氣、是欲令置扇、應召公卿良經、通親、忠經等卿之故歟、切腹事也、也、今日余不出殿上、直候儀中也、頭中將成經申云、新嘗祭、上卿宰相共以闕如云々、各仰可催之由了、余退出之後、子刻來示猶闕如之由、仍侍男一人令騎御廐馬、馳遣兼忠卿許申可參之由、是雖不可然、爲不闕公事也、後聞兼光卿、又參入云云、

廿四日、庚晴、節會也、秉燭以前、着束帶、先參院、謁龍顏、退出之間、定長卿傳條々勅語、關東返上國國事也、余申所存了、雖有恐偏存恩忠故也、定長有服膺之氣色、即以參內、節會如例、內辨實宗卿、初度事無殊失歟、良經卿依不着陣、不着外辨、自中門邊、加立云々、外辨上首左衛門督定能卿、奏外任奏之次、申大歌別當代官事、以當座下臈親宗、可仰之由仰之、內辨大歌別當也、先例無相兼事、仍用代官也、其後出御、供白黑酒、未供二獻之前入御、內侍不取御置之間、公卿不可居、而

玉葉卷五十六 文治五年十一月

也、今日、陪膳采女未練之間、御膳違亂、又五位職事家實、委不沙汰歟、入御之後即退出、

廿五日、辛、夜定長卿來仰、昨日奏聞子細、所申可然、披腹心不漏纖芥、御本意已足、任計奏旨、早可仰遣云々、此次談世上事等、數刻之後退歸了、今日法性寺座主被來、

廿六日、壬晴、此日發遣三社奉幣、是入內祈也、大治之外無此例、大治雖非最吉、尊崇神明之道、不可問例之吉凶、況先公之行跡哉、又殊有所存所發遣也、早旦、親經朝臣進告文草、余入一句、之由、仰民部大夫貞親下賜、令清書、依遲筆忽不、可書出、仍仰越中權守有雅、相共令書之、辰刻小浴了、已刻着束帶、先降居庭中座、陰陽師主祝頭賀茂在宣朝臣着座、左中辨親雅朝臣陪膳、供御贖物、行事職事前上野守賴高役送之、三社使取幣帛、列立、春日、式部少大イ輔藤原範光、殿上人、大原野、甲斐守同長兼、吉田、刑部權大輔同宣房等也、已上皆氏家司也、春日帶、願進、南立、中央、大原野、願退立四方、願向社方、吉田同願退、與大原野使同程立也、立東、同向、其社方、此立機余令案也、在宣讀中臣祓了、陪膳取大麻持來、子乍持笏一吻一撫了、便撤贖物、陰陽師次範光持來春日幣也、依同余持笏

五百七十三

取幣、向、南兩段再拜此同、範光退居西了、召、範光、返

給之次、自、懷中、取、出告文、給、之、例、云、殊可、返、長、保、

也、範光退下、次目、長兼、々々持、來幣、余取、之、不、拔、

更結、指、向、坤方、社、方、兩段再拜了、返、給幣之次、給、告

文、同、前、次召、吉田幣、兩段再拜了、返給之次、給、告

文、同、前、三人退下、出門了之後余歸外、今日奉幣

之間、信心發起、爲、悅々々、今日、陪膳等皆悉用、藤

氏、依、有、所存、也、申刻、下方有、燒亡、依、風惡、馳

參、內裏、風忽直不、及、其恐、隨、又無、程滅了、檢非違

使參入、於、殿上口、奏、燒亡之由、藏人有雅奏、之、不

知、故實、歟、日沒後余退出、入、夜檢非違使等來申、

燒亡之由、職事信光、着、此夜、光長卿室初參、姫御前御

方、其弟同、之、忠季朝臣、光長、行輔等參會、長房、宣房、

連、車、又有、出車一兩、云々、

此夜、中將公繼爲、拜賀、來、召、雁前、謁、之、公卿座所、

也、

廿七日、未、晴、此日、二三宮侍始云々、於、法皇宮、有、

此事、余不參、兼無、告示人、之上、又可、無、參入之要、

之故也、此夜有、宣奏、不堪和奏也、左大臣依、所勞、右

大臣參入、親宗、納言、定長、左、右、等候、之、棟範侍

始事了參入之間、及、子刻、事始、余亥刻參、內裏、其

後數刻待、之、先有、施米定、候、御所、之間覽、之、其後

又付、內侍、奏聞云々、次余向、直廬、職事兼資爲、御

裝束奉行、如、先、奏者辨來之後、余出、居上達部座、

不立、屏風、例、也、藏人左京權大夫光綱爲、奏申、家司棟

範官奏之儀如、先度、今度欲、退下、之時、次余歸入、改、

着直衣、退出了、今朝、立、日吉社神馬十列、陪膳以政

朝臣、陰陽師晴光、行事仲盛、

廿八日、申、天晴、此日、入內祈、立、三、幕使、此事雖

無、先規、殊有、所思、所、告申、也、就、中於、木幡、者、

雖、他事先規已希、思、先年夢告、所、祈申、也、辰刻、光

重朝臣參入、他使遲參、依、多武峯路遠、且發遣也、其

儀先前庭敷、御拜座、如、奉幣時、余着、束帶、帶、御、前、

不帶、御、云々、此事已吉事也、且爲、遠、彼、儀、又、使、事、理、參、神、社、

前、之時、雖、解、御、於、家奉幣之時帶、之、以、之、思、之、不、可、撤、歟、仍

帶、御、懷、告文、降、拜座、先披、告文、讀、之、此、條、又、爲、致、

也、其後副、笏兩段再拜了、召、光重、給、告文、仰、願、可、

祈申、之由、光重退出之後、余歸外、已刻爲季參入、更

下、堂拜了、召、使給、告文、其後木幡使猶以遲參、仍

又歸外、午刻長房參入、拜了給、告文、又同前、當、座、見、替、

之、仍仰_二長房_一、於_二閑_一、須_二同時參入_一賜_レ之也、然而路遠日短、所_レ令_レ入_二其字_一也、待_二遲參之人_一者、難_レ遂_二遠_一所之前途、仍且給_レ之也、多武峯_ハ氏之始祖也、萬事可_レ祈_レ之、淡海公者、我氏王胤出來給始也、其後繼_レ踵不_レ絕、御堂者、累祖之中爲_二帝外祖_一之人雖_レ多、繁華之榮、莫_レ過_二彼公_一、宇治殿以後、絕而無_二此事_一、爲_レ取_二其始終_一、尤可_レ祈_二申_一此兩所_レ歟、入內之本意、只在_二皇子降誕_一者歟、所_レ憑_二只御社御寺之靈應_一也、今日雖_二物忌_一、依_レ爲_二重事_一、不_レ忌_二外人_一、此物忌強不_レ重之故也、

廿九日、_西〔天〕晴、賀茂臨時祭也、依_二物忌不_一參內、大納言參入、自_二內裏_一直可_レ參_二法成寺_一之由仰了、使頭大藏卿宗賴朝臣、近代貫首不_レ勤_二此役_一、而顯隆、顯賴、光賴皆爲_レ頭勤_二之云々_一、仍宗賴所_二勤仕_一也、

十一月

一日、_戊〔天〕晴、早旦小浴修_レ祓、_着衣冠_一、奉_二拜_一太神宮、依_レ有_二所思_一云々、來月至_二于入內期_一、每_二一日_一可_レ奉_二拜_一也、如此臨時遙拜、無_二前後之齋_一云々、猶依_二不_一審、昨日召_二神祇大副兼貞_一問_レ之、不_レ可_レ有_二之由_一所_レ申也、陰陽師在宣朝臣、此日、有_レ告_二御元服_一伊勢幣定、上

卿右大臣辨親雅朝臣、入_レ夜爲_二內覽_一持來、戌刻、大納言着_レ陣、左衛門督定能卿、右大辨定長朝臣扈從、前驅五位六人、殿上人、右中將忠季朝臣、_左少將定家等也、

亥刻、余着_二〔衣〕冠_一、_{毛束、隨身}參_二法成寺_一、昨日依_二物忌不_一參、今日且爲_二堅義聽聞_一所_二參入_一也、講師公胤僧都、問者朝座貞覺律師、夕座有辨已講、講演了、探題山階寺權別當法印範玄自_二南階_一參上着座、次問者五人_{眞慶已講、聖弘、永輝、等得衆也}、着座、_上、注記在_二其後座_一、次堅者東大寺、入_レ自_二東庇南面戶_一參上、先於_二御前_一讀_二短冊_一、直着_二高座_一、次豫取_二件短冊_一、先覽_二探題_一之後、賦_二門者_一、次貞慶出_二門題_一、_{內明、內明、各一帖也}、五重疑_レ之、其上探題又難_レ之、三重之後、_{探題不_レ引、聲如_レ恆、判得_レ略、_{內明得_レ四、明未列}、第二門論義之間、余依_二風氣_一退出了、今日、右京大夫季能卿一人參、依_二無_一上薦、余須_レ在_二休所_一也、然而爲_レ聽_二聞_一堅義、始終在_二外座_一也、此日以_二定長_一、自_二院被_一尋_二五節淵醉_一、并昨日臨時祭入_二夜漏_一之條、是其宗賴懈怠也、可_レ尋沙汰云々、申_二子細了_一、近代公卿陵夷、一切無_二御沙汰_一、宗賴被_レ處_二惡之上_一、定長等譏口之間、有_二此沙汰_一歟、依_二人事異_一、}

實無術之世也、但宗賴遲參、又無所通敷、天性頗緩怠之令、〔然〕歟、今日定經來問、〔名〕字、_{〔妹親等〕}也、_{〔光範〕}也、可被問、左大臣、兼光卿、師尚等、之由申了、此次仰、役夫工之間事、一切不致沙汰云々、勿論不、定言事歟、此人爲體不能左右、父卿一切不知、其子愚、太不便云々、〔又光綱、家實等、申、條々事、又親雅申、條々事、〕入內事用途不足、每事欲闕、今日忌他事了、

二日、〔天〕晴、依昨日院宣、召問宗賴朝臣、以家實奏院了、入夜棟範爲院御使來、右大臣辭大將之間事也、五位中將、頗爲難事之由、被仰下云云、就之右府申云、追難叙四品、明春之除目、被任中將者、朝恩可足云々、此條重可計申之由、所被仰下也、此條尤可然、縱同時雖被行、還可表五位中將之爲規模之由何事之有哉、況今被申請之旨、可謂穩便、就中大將辭退之趣、已以懇切也云々、不可及異議之由申了、戌刻着束帶、相伴大納言參法成寺、每事如例、夕座散花之間、行道如常、雅長、經家、兼忠等卿所參也、事了歸家、三日、〔天〕晴、今日依伊勢幣前齋、不參御堂、於

神今食齋者、依爲恒例事、雖不憚入寺、〔有〕_{〔由緒〕}事也、至于臨時神事者、猶可憚之由、先々有其沙汰一事也、今日未刻、着直衣、相伴大納言參大內、巡檢修造之體、關東所課國、其勤莫大、他國々大略如無其功、就中兩三ヶ國、一切不懸手、宰史之懈怠、責而有餘、先經化德門見南殿、其次見軒廊陣座等、次向清涼殿、自其藤壺梅壺、北陣方等、大略見廻了、上卿兼光卿、辨棟範等參候、余前驅七八人、殿上人、忠季朝臣、宗雅朝臣、已下四五人、職事光綱、大夫史廣房等候、巡見了、暫經廻南殿邊、召棟範等仰次第事等、懈怠國々可召龍難掌、兼又別功國、安壽、陽明待賢門等、一切不致其沙汰、明後日已土用也、其以前犯土事、不及沙汰、土用以後、遷幸以前、又以不可叶、於今者、決定闕如了、〔被〕_{〔知〕}行件國也、又出雲國不進子細於實宗卿許之由仰了、〔被〕_{〔知〕}行件國也、又出雲國不進難掌、可鈞遣之由例之、又紫宸殿南階、爲職沙汰、而於丹波國大布施袖、雖探置其材、莊々人夫稱深雪、無其勤之由、所訴申也、仍於今者、權門莊々、儘可遣官使之由仰之、末代事、王化輕自鴻毛、

公事偏如無實、無治術之世也、巡檢了參院、依召參御前、執申難事等退出、

今日、自內裏退出之間、家實來仰、昨日所奏聞之宗賴朝臣事、御返事、誠將來、今度事不可及、恐懼云々、

四日、己(天)晴、此日、御元服之山被告申伊勢幣也、上卿右大臣、申終、內記內覽宣命草、仰清書免之由、依御物忌、主上於清涼殿有御拜云々、行事辨左中辨親雅朝臣也、余爲勞風病不參、宗賴朝臣申條々事、定經來云、姬宮御名、親字宜之由、左大臣、兼光卿、師尙等令申云々、申尤可然之由了、又申役夫工之間事、光綱、家實等、申條々事、又宗隆來、申御元服之間事、御遊召人、追可有沙汰之由、有院宣云々、又申云、管絃御物等、玄上、鈴鹿、共破損云、又御笛箱、先年亂逆之後、紛失了云々、仰可奏事由旨了、座主全玄、申牛車宜旨云々、是年餘八旬、身爲法務大僧正御持僧、今度御元服御祈、御修法可勤仕之處、御加持之役不可叶、聽牛車欲參勤云々、所申有哀憐、今生餘執、只此一事許歟、仍

被許容不可有巨難歟、凡於牛車者殊私之恩也、有其故有此恩、然而近代無指事被許之、近則公顯、雖無所慕、依最勝講證誠、有此恩、於全玄者、已爲御加持僧、其勢尤可被優賞歟、仍勅許有何事哉之由、奏聞了、此事宗隆所申也、定經今日云、明日准后可參歟之由可尋申旨有院宣者、申可參之由了、雖無其要事、爲追從也、

五日、庚(天)晴、此日、故女院御忌日也、余依神事不向道場、女房密々行向、季經、々家等卿、參入云々、今日、法皇女宮、被下親王并准后宣旨、雖未同日之例、依御定所被行也、余未刻着直衣、鹿車、前驅七八人許衣冠、隨身布衣、上戴冠、參內、大納言着束帶所相伴也、申刻、上卿右大臣參陣、宗賴云、姬宮未被參院御所、右衛門督候被御共、密々儀云々、其後歸家、改裝束可參陣、可補勅別當之人也、其後可宣下之由、定經所申也、件定經、奉行人也、云々、者、余云、全不可待彼歸參、早可宣下勅別當、只爲立親族拜也、件拜ハ、事訖一度可有也、待金吾始宣下者、萬事可擁怠、早々可宣下也者、仍向陣先宣下親王事、載名字於一紙、可爲親王之由、又書年號月日云々、此事有說々事

也、白川院親王宣下之時如此、具見土御、次上卿仰、右大辨定

門記、御名字、光範朝臣、申之、觀于云々、其後宣下勅別當、其後仰、准后勅書、本封外、可加手

長云々、及晚奏勅書草、見了返給、仰、可、清書之由、其

後經數刻、奏清書、內記書入日、仍無御書日、先例也、他勅書有御書、隨身兵仗、并此勅書如此、

見了返給、草清書其內覽之外、無奏聞之儀、仍大臣乍

在陣座、付職事也、此間右金吾參陣云々、于時

日沒以後、秉燭以前也、人々列弓場云々、右大臣、權大納言實宗、右

衛門督通親等也、此間、余先相、伴大納言參院、勅使等事、仰付宗親等、成經可爲

勅使、依着直衣、入自六條南門、候西渡殿邊、大納

言廻東方、着公卿座、以棟範入見參、始被仰、暫

可候之由、余粗申、今日次第、棟範又來云、依風病

在浴殿、爲見參、雖罷上、猶不快、指而無可奏

事歟、如何云々、申、全無可申入事、之山了、其

後、勅使頭中將成經朝臣參入、立東中門內、藏頭範能

朝臣申之、依召勅使參着其座、東邊渡、殿云々、次三獻、一獻實

二獻定能卿、三獻大給祿、自殿北兩東西、北一間、被推出、通親卿云々、次給祿、通親卿勅三獻孟、直取之給勅使、

次勅使自中門內方、進出砌外、再拜了退了云々、次

良經、定能、(定長)、等卿、來語、今日儀、即余退、出自

六條南門、天治之比、頻被下親王宣旨、通仁、君仁、等也、又大治、上西門院侍始(之)日、故殿御參之次第如今日、仍追彼例也、勅使雖參入、暫不申事(之)由、先被補家司職事、其拜賀之後、有次第事等云々、勅使給祿之後、可被補家司已下、歟、又次第頗相違、可尋也、

六日、辛卯(天)晴、此日太政大臣兼宣旨也、先奉行職事

仲資、奉仕御裝束、

其儀寢殿東底三ヶ間、敷滿弘庭、無差庭、鋪子等、東南二面

上、簾、西北二面不懸簾、副障子立廻四尺屏風、

南第一間迫北柱、敷高麗端疊一枚、其上敷龍鬘

地鋪、其上敷東京錦茵、已上、爲勅使座、北一間迫

南柱、敷高麗端疊一枚、東西、爲余座、件疊、誤敷、細間

着座之後見之、仍不能改直也、寬治天永敷兩座中間副

庇柱、舉燈二燈、寢殿北庇東面妻戸之内、爲余假

座、(尋常公卿座、不敷筵、不立屏風、余座)儲

橫敷、副西、第二間以東三ヶ間、敷高麗端帖八枚、

二行、爲上座部座、々上下舉燈、座上燈副、北事之、自余如

例、以東隨身所、爲上客料理所、鋪設雜具、任

例新調云々、初任大臣、定日饗饌、儲殿上人座、而
任太政大臣、定日無所見、寬治天永例也、仍今日又
不儲殿上人座、午刻、院主典代景能來召大納言、
申只今可參之由、申刻、大納言着束帶時給、參
院、前庭、五位六人、殿上人三人、居從、定家、高直、賴房等也、此間余着束帶時給待
勅使之間、定能卿來談雜事、又他公卿少々來云
云、戌刻人來、告大納言歸來之由、仍余着束帶妻
戶簾中座、大納言來立東中門、宗賴朝臣相逢、申
事之由、進殿前仰可召之由、即余披南障子屏風
等、着座、面、南次勅使權大納言良經卿、升自中門內
方、經中門廊西簀子、并透渡殿、先踞居長押下、余
目之、入自妻、我座後副與方、進來余座前、余又
出廷、上仰勅語、可成給太政大臣余奏御返事、雖身不甘、
能欲止、長承之由、即退歸跪居座南方、依余目、著
座、居、東方也、次參議雅長卿於障子上西妻戶
下、取祿、女裝束一具、密藏藏芳小兒文機物唐衣、白腰裳、赤袴等也、唐衣打裏也、經中門廊、
并二棟廊前廣庇等、跪長押下、與余、々置笏也、
取祿、大納言起座來前、余賜之、大納言置笏取
之、左手取祿、右手笏、經透渡殿中門西簀子等降自中門內

方、渡平橋、出砌外、向北再拜、直出中門、錄定家
之、高直、歸參六條殿、以實明、申上余御返事旨、
歸出、仰聞食之由云々、即歸來也、勅使起座、即余
起座歸入本所、不受拜也、勅使歸參之後、余出
自東面妻戶簾、着上達部座、勅使座不着東面橫座
也、召宗賴朝臣、仰人々可着座之由、人々先來居
參來之間、各起座、即二位大納言兼房卿、堀川大納言
忠親卿、左衛門督定能卿、藤宰相雅長卿等、着座
〔也〕、次召宗賴朝臣、仰大盤日時可擇申之由、
宗賴退下、指日時於文杖持參覽之、主稅頭賀茂在
光、參、候藏人余披見了置前、仰硯續紙可持參之
由、宗賴退下、其後諸大夫、置圓座、立切燈臺舉
燭、依藏人頭執筆、次宗賴參着圓座、次諸大夫持參
硯續紙、是又藏人頭、置宗賴前、次宗賴定墨染筆、
卷返續紙、候氣色、先卷返續紙、候氣色、可計之後、揭墨
余自懷中、取〔出〕大治例文、讀之、令書定文、
先定大要、經事、讀也、次一宗賴書之、今度定機、折紙、
兩行讀之、其後不讀之、取出、置前書也、此
間、余寶劔之間事示合忠親卿、頃之書定文了、
盛折敷、殿、硯覽之、余見了、卷籠日時禮紙、與

兼房卿、次第見下、更取上、自端座直取上也、余取之給宗

賴、々々加盛折敷也、加現指、笏取之退下、諸大夫

等、撤圓座切燈臺等、次居饌、余陪膳以政朝臣、諸

大夫爲大中納言手長、余四本、但當時三本也、今一本菓子也、納言已下二本也、餘菓子二本也、人別兼居飯也、於汁者追可居、而汁同居之不可然、又一人分居二本了、更可

居之而人別先居飯高坏了、更居巨汁高坏、此事不可然、仍余仰聞者也、次一獻、以政朝臣持

參盃、居折數也、余取之擬兼房卿、次第流巡如恒、次

居汁、二獻之後可居了之、居了之後、定長巾上、下箸如例、

次二獻、以政持參孟如初、忠親卿讓良經卿、件人居饌之間、白院歸來也、再

三雖固辭、強讓之、仍良經受盃、兼房孟也、擬忠親、

次重下箸、自本所居之汁也、先例兩度居汁次三獻、同先之由、所見也、仍舍此之由也、

次居菓子、余前、二獻之後居之、太早速也、各高坏也、次著積粥、居折數持來之、陪膳取

之、各高坏也、各不待居了食之、次余以下拔箸、自下

臍起座退出、二位大納言暫留居、被示泰通卿申

二ヶ條事、一宮司事、二國所望事、

今日參入卿、

大納言、兼房、忠親、其經、

中納言、定能、參議、雅長、定長、

執定文筆二人、

宗賴朝臣、

勅使、

良經卿、是寛治天永例也、

傳祿人、

雅長卿、寛治天永中納言取之、大治家司取之、今度左衛門督

從議盡取哉、如此事不可守株、仍令三位寄取之也、

日時書樣、

擇申可被行大饗日時、

今月十四日己亥、時申戌、

文治五年十二月六日

主稅助安倍晴光、主稅頭賀茂朝臣在宣、

定文〔書樣〕、追可注之也、

七日、壬辰〔天〕陰小雨、宗賴朝臣來申三條々事、〔又光綱、

家實、同申之〕廣房來申齋宮寮米之間事、

八日、癸巳宗隆來、申御元服之間事、其中全玄牛車事、

有勅許云々、〔宗賴又申條々事〕長房申御拜賀、

氏院參賀之間事、經房卿以有經申云、五節之間、流

口等有_二狼藉事_一、長門紀伊等國、不_レ遣_二瀧口送物_一之間事、散樂_二候_一、吐_二種々謔言等_一云々、此事卿相已上事、豈如_レ此事、○有脫字歟尤可有_二沙汰_一、其中友弘余直、張本之由所_レ承也云々、即件男追却了、自_レ本尾籠第一之男也、日來存_レ可_二追却_一之由、以_二此次永追却了_一、

九日、甲午〔天〕晴、今日、住吉北野等奉_二幣帛_一、爲_レ祈_二屏

風詩歌事_一也、住吉使、職事業清、經永子孫也、北野、刑部大輔

菅原在高非在茂男、等、爲_レ使、陪膳文章博士光輔朝臣、余

着_二衣冠_一、無_二告文_一、依_二略儀_一也、陰陽師主稅頭在宣朝

臣、申刻、右大辨定長來、依_レ招也、余謁_レ之、奏云、山大

衆欲_レ拂_二座主_一云々、事尤不便、大略火急之結構歟、殊

可_レ被_二禁遏_一者、定長云、去夜此事、座主所_レ觸送也云

云、又定長云、東寺修理、長門國忽不_レ可_レ叶云々、乃偏

爲_二院御沙汰_一、爲_二播磨國功_一、可_レ被_二修造_一云々、此事尤

珍重之由申了、此次語云、近日五位職事等不和、聞諍

不_レ可_二勝計_一云々、此間於_レ院、兩度宗隆、家實、口論、

及_二罵詈_一云々、良久歸參了、

今日姬宮侍始、余不_レ參、子細追可_二尋記_一也、此夕始大

饗御裝束、家司職事、兩三參入、先懸_二御簾一間_一云々、

十日、乙未〔天〕晴、光綱申_二平野大原野等_一、修造懈怠之間事、院宣之趣、各可計中在國歟又定經申_二明日月次祭

之間事、〔棟範申_二大內修造之間事_一〕

今日、先日所_レ申請_一之法曹事類草十四合、返_二上院_一

遣_二定長許_一也、

十一日、丙午雪降、此日、月次祭并神今食也、月次祭上卿

大宮大納言實宗、神今食上卿親宗、辨定經兼行云々、

月次使被_レ付_二別〔當〕_一、伊勢幣、是外宮御鎖澁固事也、

仍上卿先參陣被_レ奏_二宣命草_一、戊刻少內記以業持_二來

宣命草、問_二懈怠之由_一、奉行職事光綱遲參之故也云々、

尤不敵々々、去夜半、奉行辨定經來申_二幣料一切闕如

之由、此人奉行事每度如此、非_二其人_一居_二其職_一、實無

術事歟、家雖_レ可_レ貴、器無_レ可_レ褒何爲哉、歲末急忙之

比、又別被_レ立_二奉幣使_一之條、尤不便歟、仍今日、余兩

面綾絹等沙汰、遣_二定經許了_一、事太不穩、然而爲_レ重

神事、爲_レ成_二公事_一也、又自_二去年_一有_二沙汰_一、別宮御裝

束、今度可_レ被_二副獻_一之處、同以依_レ無_二用途_一、不_レ被_二副

獻云々、可_レ被_レ付_二二月新年使_一之由仰了、今日姬君

參_二詣日吉社_一、余綱代車、牛童遣之、藏人五位前驅六人、衣、雜色長

忠武在車後、又左少將定家連車、社司給大褂、
十二日、丁後齋如恒、

十三日、戊法印被來、昨今、大饗掃除、裝束之外無他
事、依先日院宣、御持僧三人例問綱所、高倉院例
勘申之、仍覺成僧正護持僧事仰下了、仰宗也、此旨又申

院了、先日爲定長奉行、仍付其人丁、

十四日、亥雨降、此日任太政大臣也、大饗裝束、堂上堂

下皆悉辨備了、具見未刻許、左衛門督定能着直衣

來、於近邊可改申終、余着束帶、兩給細銀、鋪地、參內、

下自中門內方、出中門、於東四足外、乘車、二位

大納言兼房、於門下權大納言良經、左衛門督定能、

改要束之藤宰相雅長等連車扈從、殿上人、左中將親

能朝臣、右中將忠季朝臣、左少將定家、右少將高通

〔等〕同連車、前驅四位已下廿人、隨身官人束帶、番

長已下垂袴、左番長和武依、降召、假番胡籙、長依、無隨身召吉上、不召具一

員、例也、經二條東洞院、大炊御門、油小路〔等〕、須直

炊御門四行也、而前近於冷泉油小路下車、入自右衛

門陣、祇候直廬、當時直廬太無、便立、藏人左京權大夫光

仍今日用、本直廬也

綱今日節會奉來日、公卿少々參入、右大臣未參云々、
仰可告之由、扈從公卿等、赴陣方了、小時右大臣

參入云々、頃之光綱持來宣命草、任天永例草之、但見

了返給、又持來清書、同見了返給、今日內覽外不、良久

光綱來告宣制訖之由、戊刻即公卿來直廬方、大納言

三人兼房、隆經南庭、寬治例中納言已下密々經堂上、

依雨也、余降自直廬西面、入西中門、公卿等隨便停

下居殿上人十餘人乘松明前行、隨身同相從發前

音、前驅留西透廊外、余下襲裾隨身官人忠武懸弓持

之、手時兩脚微、仍不擁笠、公卿等相從余後、余

出經南庭、出東中門、立弓場殿、北頭中將成經朝

臣出向、氣色參上御所、此次余奏要錄歸出仰聞食之

由、饗祿事同聞食了、又仰昇殿事、余兩事混合、拜舞

訖、依御物忌不召御前也、拜間、兼房、良經等隨居地、他卿等

在中門四方不見、兼房卿他時不居、依康平寬治例所居歟

經本路、良經、定能之外、公卿等余留之、於西中門

外、前驅乘燭前行、殿上人留了、出、自右衛門陣、於

三條坊門宮小路、乘車、於此處、前近以政朝臣、參院、進

立東中門、良經、定能等隨相伴、大治宗殿上人如元、付別

忠、伊通、兩人扈從之例也

當修理大夫定輔朝臣、奏事〔之〕由、拜舞了、告召之由、余昇自中門外方、入車寄戶、參御前、御于寢殿東面妻戶處、中、御坐左右、燭、邊渡殿敷、即自西方牽出御馬一疋、五位二人乘燭前行、又五位二人引之、御馬至于寢殿、程之、比、揖起座、經中門廊西簀子、下自同南妻、於砌內一指、笏取上手綱末一拜了、良經卿受取之、授共殿上人、忠孝朝臣受取之、殿上人給前駟國行、司、國行給隨身忠武、引出中門了、余渡綱於良經之後、即拔笏出中門、着、查、親能朝臣只今不見、還立中門、付同人申般富門院御方、依御重喪、不拜退出、直向大炊亭於南面門下車、參內之時、雖家之時用、開、暫入內寢、聞尊者來門外之由、余隨身路、是先例也、尊者來門外之由、余隨身等進出前庭西陽方、右大臣進中門下之後、余出自寢殿、西渡殿南面妻戶、經南簀子、着親王座上頭、件坐在第二間、依兩儀無拜儀也、天永如此、嘉應、雨有拜云々、人以不爲可、又非吉例也、召宗賴朝臣、仰直可被昇之由、可告尊者旨、即尊者右大臣、昇自中門廊內方、經透〔渡〕殿并寢南面東第一間、及與座後等、先居大納言座程、當余座下、余示可

被着茵之由、然而猶不進、此間、右中將忠孝朝臣、取菅圓座、座也、進自西方階西間敷之、此間、二位大納言經透渡殿之間、余即進着件圓座、更起直自座、即目右大臣、々々進就第一茵座、依所狹、隨見參、只數茵一枚也、次二位大納言已下次着座、大納言、兼房、實宗、隆忠、良經、中納言、定能、隆房、參議、雅長、通資、實教、定長等也、納言已上、皆着例、通親、經房等雖來、依無座退出云々、次非參議左大辨基親朝臣已下辨少納言等、着東庇座、南上西面、一帖、當東面妻戶控立敷之、而非參議大辨參之時、頗進南中敷之、故實也、次上官等、五位外記史已下、着東北卯西廊座、座惣三間也、上下皆悉着座了、先立尊者已下机、尊者陪膳前攝津守以政朝臣、先持參贊、機二脚、陪膳也、大納言已下諸大夫、爲手長、大納言一人、中納言一人、立座前也、辨少納言、及上官座素立机、辨已下不也、皆數黃、辨少納言、及上官座素立机、辨已下不也、皆數黃、候、次居尊者着物、手長役送、次一獻、四位家司、正、大納言折敷、左近中將成、余取之擬尊者、已下巡流、定長傳盃、定朝臣取瓶于、於辨座、基親朝臣進寄受盃歸座、不居座、只居寄敷、次二獻、左少將家經朝臣經與座居尊者上勸之、其盃直下、不疑、余也、盃傳辨座如初、已上皆勸之、次居粉熟、手長如前、

居_三折敷_二持來、陪膳取居也、公卿別計、辨少納言懸計也、居了申上、余已下下箸、不_レ建也、

此後事不_レ被_レ記也、

壽永三年正月迄比以內閣一本及黑川本（有明和三年藤原賴實校之署）加一校且畧正反點句讀問疑處則下割注或傍注加僻案訖但夫有事難止者以僅々三句之日數不可不_レ一切之事不_レ過然讀隨而疎漏蓋不少乎是爲慊後日當正之而已
明治丁未五月小滿後二日

矢野南溟識

玉葉卷第五十六終

玉葉 卷第五十七

自文治六年（建久元年）正月
至同年五月

文治六年 建久元年

正月

一日、辰陰晴不定、卯刻、四方拜如例、午刻手水、陪膳
朝臣、未刻、人々來集、即余着東帶、赤紐、魚袋、在打出
間、召長房、告裝束了之由、即有拜禮事、申次右
衛門權佐長房、來寢殿南簀子、申事由、降自中門
內方、示氣色、次左衛門督定能、帥中納言經房、別當
降房、藤中納言兼光、二位宰相雅長、右兵衛督能保、治
部卿顯信、太宮權大夫光雅、前宮內卿季經、新三位經
家等卿、頭中將成經朝臣已下、殿上人十餘人、大外記
師尚已下、上官諸大夫等、兼、在此列、列立南庭、立列、
二拜了、直出中門、公卿列立北方、西上南、次余出、自
打出西間妻戶、經南簀子、降自南階、左中將親能、出
中門、公卿等、定能已下皆居、二位大納言、
二、於房來會、立列上、仍余相揖而過、於門外、乘車參
院、六條、於東門外、昇放轎、所相、待諸卿、于時自
本參會人々、降立中門外、余降自車、經列前、直

進立中門、右大臣追加列次、次院別當左衛門督定能
卿、進出氣色于余、右廼昇自中門外方、參御前、
寢殿階、同爲御所、進其東間簾下也、即定能昇、上、其
後頗經程、若法皇未出御、缺、奉行人、亦可申沙汰也、奏事
之由、右廼退歸、降中門廊西簀子南妻、經柱外砌、
來余前、氣色、直出中門、立北方、觀能朝臣、余氣色
于右大臣、西進、砌東外三四尺打出練始、當寢殿南階
東柱、北面而立、右大臣、余東去四五尺許立、次第列
立、依庭狹參議列後、殿上人保盛朝臣已下卅人許、
五位又皆悉列立之後、余已下拜舞了、殿上人、下前公
卿等、皆出中門了、余掛離列、經列前、定能居地、經
中門、於寢殿異程練留、出中門、昇自外方、不入
車寄戶、依法皇、入北脇戶、并中門廊東西北妻戶、
着公卿座、右大臣經同路着座、二位大納言同前、他
人在殿上方、余問右大臣云、若可被持登御座御
劔者前後之間事、如何、當時、御推在前、依寶劔不
歸座之故也、空手內侍在後、今假用他劔之時、猶

可在前歟、將又只可從後歟、如何、右大臣云、猶御
 劔可在前歟、其物雖非靈寶、其儀已准御護之故
 也云々、小時、秉燭前參八條院、謁女房、次退出、于

時秉燭、參大內、經陽明、建春、布政、宣仁等門、及
 軒廊、階下、弓場殿等、着殿上御倚子下、於小板敷、即

起座、經上戸、參御所、召經家卿、令奉仕御總角
 御裝束等、即余歸着殿上、告人々、自下薦起座、余

同起座、於弓場殿着靴、列立同東砌、余立廊南端
 程、頭中將出、自無名門、示氣色歸入、少時歸來、

仰聞食之由、余已下經明義、仙花等門、列立清涼殿
 東庭、公卿、殿上人、六位、各一列、公卿侍臣立庭、六位立
 仁壽殿西庭、依庭後也、

拜舞了歸出、於弓場殿改着淺履、經殿上、參御所、
 〔依〕未入御、余參上、褰母屋御簾入御、即余參朝

餉、祭醴之間事、有御習禮、此間、家實內覽外任奏、
 此次申請諸司奏、可付內侍所之由、余披見了、返

給諸司奏事、仰聞食之由、家實又申云、少納言不參
 云々、大略、日來不致沙汰歟、尤不便々々、儘可鈎

出之由仰之、余向南殿覽御裝束、今日無出御、仍
 如例年也、次退出、今日、小朝拜御倚子、立御帳南

間、當南方列、南庭櫻樹東枝偃下、仍着上テ指挾、爲內

辨謝座路、今日、內辨二位大納言、初度也、今日、余家
 打出櫻衣、大納言、除夜任左大將、仍今日不出仕、
 依日次不宜也、三日可遂拜賀也、

二日、〔天〕晴、午後小雪、手水陪膳季長朝臣、今日
 不出行、人々少々來、召家實、御劔之間事、問人々、

及深更、申人々申旨、御卜官人有申旨之由、上卿
 兼光卿所申也、仍明日未明、召具兼友、兼貞等、可

參內、〔召〕問子細、奏聞之後、可事切、已明日事也、
 不可懈怠之由仰合了、尋問趣條々、其在

三日、〔天〕晴、此日、天皇御元服也、加冠余、理髮左
 大臣實定、能冠內藏頭範能朝臣、御劔之沙汰、依職事

家實懈怠、及晚事始、東拜之間、日入、加冠之禮、掌燈
 以後也、子細在別記、今日、大將拜賀也、

〔御元服奉行、職事宗隆、六位貞綱等也、今日、始破
 相具盡御座御劔〕御元服奉行以下、九條本皆書、今從
 重編、以爲異文、今併存焉、玉海載于此、又三日乃至十一日記事

五日、〔天〕晴、此日、御元服後宴也、上壽親信卿、內
 辨左大臣、上壽了退出、今日、依酒筵不具、經數

刻、裝束使過意也、事了有叙位儀、執筆定長卿、
 六日、〔天〕晴、今日、撰定和歌了、詩又左大臣被撰

〔天〕晴、今日、撰定和歌了、詩又左大臣被撰

進、兼光、先日撰進之内也、

七日、壬戌〔天〕晴、此日、白馬宴會也、〔有〕賀表恩赦等

事、內辨右大臣、外辨上卿二位大納言、余已刻、着直

衣、先參內、於直廬、光範朝臣、持來賀表、以宗隆

給大外記師尙、未刻、着束帶、參御前、申刻、於殿

上、賀表加署、次渡御南殿、次第在別記、

昇賀表案一人、大納言二人、宗房、中納言二人、宗能、參

議二人、雅良、此夜、節會了、參院參御前、

〔十一日、丙寅〕午上雨降、午後猶天陰、入夜風靜月明也、

此日有入內事、德長女、從三位任子、生年十八、余冊二、早旦、宗賴朝臣參

上、使立宣令、勤事、御着裳、并立御帳、日時等、見了

返給了、已刻着直衣、先以參內、湯色、令奉仕藤齋裝

束、定能、兼光、季經等卿、同參入、皆束帶也、宗賴朝

臣、忠季朝臣已下、殿上人十人許、季長朝臣、長房已

下、家司職事、各々有奉行事、守職掌參候、已上各束帶也、

又諸司官人等十餘人、着衣冠、勤雜役、先吉時午刻、

立御帳、行事家司季長朝臣、先立南柱、坤也、大乾、大

南至東、次立御調度、余命令立之、其外、所々鋪設

裝束等、皆悉辨備之間、時刻推移、戌刻雜役了、歸大

炊御門亭、

〔文治六年正月三日、戊午〕天皇御元服、加冠太政大臣、

理髮左大臣、實定、能冠內藏頭範能朝臣、奉行職事宗

隆、六位貞綱等也、今日、始被相具、具盡御座御飯、依

其沙汰、日景順、申終、始有御髮事、其後東拜、日猶不

燭、今日之遺恨、子細在別記、今日、大將拜賀也、

五日、御元服後宴、又叙位儀、酒具不具之間、從經二

時、公卿疲佇立、實不便也、叙位執筆右大辨、兩事共在別記、

七日、賀表、上卿右大臣、被仰內辨、依非可乞、具

在別記、

八日、御齋會始、并終日御幸、左大將着陣、

十一日、丙寅入內也、子細在別記、

十四日、行火於大炊殿、御捧靴納辛櫃、夜殿御会被

撤也、

十六日、露顯、女御宣下、後朝御事、三夜餅侍始、官

奏、政始、

十七日、御帳中、本寮御衾撤之、納辛櫃、

廿二日、除目始、執筆右大辨、

廿三日、同中日、

廿四日、入眠、

文治六年正月三日、戊午（○前三日條云、子細在別記

者、即是也、）天晴、此日、天皇御元服也、加冠余、理髮

左大臣實定、能冠內藏頭範能朝臣、裝束司左中辨親

雅朝臣、奉行職事藏人右少辨左衛門權佐宗隆、藏人檢

非違使左衛門尉源貞綱等也、辰刻着直衣、（朝代車、隨車中納言、前近

衣冠、參內、親雅、廣房之外、一府生不見、先見、廻南

殿御裝束、誦御机、廻第三間、南面立之、余曰、嘉應

迫東南、又先例、粗如此、但寬弘記、迫西南之由、

見公房記云々、是里內也、彌无通西南、理非所

疑、天永如何、親雅云、天永（大內）爲隆記、又迫西南云

云、通東南立之由、大江之外無所見云々、大江

間、敷縮之間、迫東歟云々、余云、代々或古稱廻南

之由、不載東西、今所立、偏西柱下也、猶頗可引

東之由仰之、又御帳中可敷韻鬢、而敷他筵、仍令

改直之、又誦几机之中、東子午妻机、所置之鳥新酒

海等、寬弘以來、誦隨南、今度如此、久安古即雖

有道理、爲先例之間、不改之、又肴物小机同前、

卯酉妻尤叶道理、然而、久安之外、無此例也、北庇

御裝束、又無殊事、各檢知之後、參御所、即向直應、

（庭事、此間召宗隆卿、（脫仰字）條々事、經季卿遲參、度々

遣召、未刻、適參入、余着裝束、此間、良經卿參入、（先中

度、今朝持來兵部省和文、季長朝臣、〇〇親雅、候內裏之邊、其後參

會云々、其他行移文、〇〇_{（中）}吉上以下、同給之、一員如例、前近十六

人、此中、四位二定能卿又來、此間、季實申御劔御下之間

人、六位四人、（此事、寺大衆作了、今日未明、可申上、院典役、多事可定

兼友申狀、（之由也、而及未終參上、不可脫也、凡近代職事解意

不此一事、萬事如此、不能顧看也、而自己爲吐者明有限、此事不奏

者、又不可一決、被奏之、御所程遙、時刻欲過、

十一日、（丙陰陽不將日、鬼宿、）（○前十一

天陰、入夜、風靜月明也、此日攝政大臣長女有入

內事、（余昆女、生年十蓋依長保永久例行之、辰刻、主稅

頭賀茂在宣朝臣參入、勘申立御帳（之）日時、并着

衣、裳等、日時、午刻、着直衣、（薄色指貫）相伴定能、

兼光、季經等卿、（自公卿至奉行并殿上人等、參大內

藤壺、（定能、兼光、）先立御帳、（先坤、次乾、行事家司伊

豫守季長朝臣、先立始坤柱也、立帳、（自南壁至引壁

代、鋪設雜具、悉皆辨備、（諸司官人勅、雜役、藏人懸帳帷

了之後、無隙之人、（謂夫婦、妻、無長房、長兼等、敷

疊、并表筵等、（伴表、盛、燭其後、左衛門督定能卿、置御

枕、御衾等、（定能調進之、納幸同卿（又南北設衣架）又

懸御衣、二色御衣、余家所調之也、(唐衣裳)、懸北衣架也、(御衣架、下懸懸、南衣架、設宮門院所、賜芳衣可懸之、也)、而未刻來、仍可懸之、先是、立御調度、(世屋底共立之、)、教家司疏光了、四條宮入內之時所被立之調度云々、(沃懸地、發給御調度、)、上東門院御調度在平等院、昨日家司以政、行向彼所、取出也、余命男共令立也、又薰物袋四種、(樹花、荷葉、無腦息之、腦息川、在家物也、侍從黑方納、四重、傾仰、前大膳、大夫家綱、合之、彼家傳此、小左大臣師平流也、)、樂四壺、每壺樂三奏、併十二奏、以檜紙袋之、(吉樂名、樂等)、各納其宮、(忠孝朝臣、能先例、陰陽師、御所四角立、)、机、而帳四隅歟、家四角歟、未決也、永承、寬治等例、已以不同、(永承、家四角、此外、寬治、在宣申云、多打帳四角、云々、)、而余案之、凡人禮可然、於入內者可然、猶可打御所四角歟、是嫁娶之禮、在夜御殿之故也、仍仰其旨了、兼光卿稱善、又立屏風等、(五尺屏風、時、四尺、和歌、)、凡所々鋪設雜具等、皆悉調了、戌四點、歸大炊亭、先是、公卿已下多以來集、出車皆悉到來、所々御使少々參入云々、余改着束帶、此間、女房等乘出車、(東面、申寄奉之、大將并中將兼良朝臣等、寄一車、其寶、大無路、相宜之司近、近他殿上人、能季、宗行輔、寄三次之車、半物雜仕、出門外乘之、姬君、御帳等也、)、平敷御座、(吐儀在、)、余奉令着御裳、以引腰結

之、(無小腰、)、自袖下引まはして、(諸是結之、衣上先例也、)、次余出客亭、先是公卿五六人在饗座、次奉行家司藏人頭大藏卿宗賴朝臣來申云、八條院御使參入也、余仰可敷座之由、即透渡殿敷也、(諸大夫役之、余座皆圓茵也、)、次余起座、(此間、公卿等起座、傳、經、寢殿東簀子、着菅圓座、東面在造合間、次召宗賴朝臣、仰女院御使可召之由、即八條院御使左少將成家朝臣、持薰物、置余前、着座、不正候了、其人不可見、)、取祿之人不被注之、即取祿、(給之、使臂祿退下、)、此間、余起座、立、再拜了退下、次余復座、諸大夫行出來、取薰物、進臺盤所、次般富門院御使、次前齋院御使、次姬宮御使、(已上、機同前、但般富門院給袂束、而不納衣、納衣、之、可懸南、)、已上、公卿各取祿、御使皆來了、余歸入寢殿、次御書使右近衛中將忠季朝臣參入、立中門、宗賴朝臣相逢、申事由、(就寢殿南庭東面、余在簾中、仰可敷座之由、)、諸大夫敷之、(恒、次中將忠季朝臣持御書參進、就簾下進之、)、女房大貳、(朝親女、光長爲子、令於簾中取入之、)、自袖下同取入之、(理須自袖、也、)、於簾中取入之、(中司被取入、)、而衣、(打、仍望宜也、)、傳女房三位殿傳北政所云々、傳余了、

持參進三位殿、披之御覽了、次權大納言降忠卿、取

祿女裝與之、無御返、忠季取之、於砌外再拜退下、

次前庭殿上人諸大夫、取松明參進、公卿已下降立

中門外、次陰陽師在宣朝臣參進、自南階東欄外、入

自南階間、中奉仕反問、先是、取屏風立帳、前件

歸出、經本路退下、余令外相大夫以(隨)次、青糸毛車

於寢殿南階、諸司官人(二分)十二人、權大納言兼房卿、左

大將良經卿等、立几帳屏風、次三位殿、并母儀三品乘

之、依糸毛不出衣、但此間殿上人已下取松明、列

居南庭、欲引出御車之間、前行騎馬也、次引出

御車、懸牛、門內猶諸司二分付、轅、但車副二人遣

之、門外、車副十二人付之、余於南面西門一乘車、

於大炊御門高倉辻、北邊、見行列、半物車後、公卿車之

前、余列之、經大炊御門、東洞院、土御門等大路、入

自三上東門、余同於三上東門下車、他公卿同前、但密

々々、於三陽明門下、車人々々在之、到三朔平門外、先

是、糸毛車昇放牛立、南面者朔平門北側、一昨文、當中央、出車等、

列立其東、下仕半物、於三上東門外可下車、而近例

同於三朔平門邊下車云々、然而、事不穩便、於三北陣

〔東辻〕邊、可下車之山仰之、而後行列出車尤奇怪、

仍宗賴朝臣追入之、次藏人修理亮源忠國着青色、

出朔平門立壇下、朔(外)仰手車、其間云、從三位藤原朝臣

仰了、歸入木路了、次盤車ヲ引上壇上、南北行立

之、着廻糸毛車、以(總)毛方、盤三盤車下、糸毛ハ高ク、盤

也、(仍)車副并余、大將等身等持、諸大夫等、付前後轅、兼

房、良經等卿取几帳一指掩之、兼房、其息兼良傳之、余、

此間、在三朔平門壇上、北也、公卿〔等〕、徘徊門內、兩人

三位殿、乘移了、母儀着紅衣、乍、乘之、撤几帳、立盤車障子、之時、撤

之也、立之撤之、共諸大夫位、昇下之、引去糸毛車、次

手車前方を南に引向之、諸大夫十二人付之、前後

轅、各六人、一方各三、引入門、前庭殿上人諸大夫、取松明、二

後、經玄輝門、并承香殿間等、到藤葉東面北車寄、件

位殿、豫參候御車寄、京極殿、余又在簾中、下御、引出

手盤、立北陣、即御帳前平敷御座也、先、是、下三南面格子、

于杜下立燈臺、六角、次供三御前物、機物、打敷、御座、陪膳北

政所女房役送、大將同、余候御前、先取簾花三箸食

之、食之、食了、取出之、可遣御乳母之許、而取出

進物所了云々、失也、次勅使內侍伊〔來〕入東庇

南一間、余自_{女裝}本在此所、謁之、即女房按_察局、取_祿與_之、內侍取_之歸參、次女_{御殿}參上給、女房六人在_{御共}、

御劔、一條殿、左大臣女、

御火取、大納言殿、忠親婦女、

御裳唐衣、按捺、

御几帳二人、大貳、兵衛佐、

余、及大將、同候_之、

先是、主上着_給御冠、御直衣、又於_{御手水間}、着_御

指鞋、入_{三夜御殿}西戶御帳西_{御跡}、御帳中、經_{南面東}

「一間」妻戶、并渡殿、_{御湯殿}御湯殿北、并御殿西面妻

戶上御壺禰等、入_{三夜御殿}北戶御帳北面等、次自_本

安_{內藏寮御衾}紅色并紅色御直垂等、次主上撤_御

裝束、_{余奉_脫之、先取_{御冠}、置_{御机}上、次_脫、}次三位殿脫_御

袴御衣、北方_{押道}て臥御、_{主上南、三位殿北、}其上、先着_{紅御直}

垂、其上奉_{着_{御衾}、以_{有_表着_上也、}次取_{御指鞋}、以_{左大}}

將_{三夜御殿}、次余及大將退下、候_{御共}女房等、終夜

候_{上御壺禰}、_{御取_之、女房}次余、及大將、歸_{着藤壺}

襪座、兼房已下在_座、次一獻、_{々々}次二獻、次三獻

了、次事了、人々退下、余歸入、北政所相共付_寢、御

指鞋在_{傍也}、藤壺坤小局、爲_{北政所宿所}、余直廬、
擬華舍也、余取_{布脂燭}、移_{付夜殿}良燈樓燭、持_{來藤}
壺、_{大將持}「移」_{付陰館}內燈樓、三箇日夜不_{消也}、其邊
生火置_之、今夜、公卿座、女房出_袖、即車衆也、公卿
座、三箇間南面二箇間、_{御帳間、并妻戶間等、未_出之、但}
御衾事、_{今夜_依下_{格子}不_出南面也、}

左衛門督調_{進之}、仰_{職事兼資}、_{障、相_具辛櫃、亦}
_{仕_丁昇}遣_{彼家}迎_之、早旦遣_{之處}、辛櫃獲、聊有_懈
怠事、及_{晚持來}、使_{左衛門督置}帳中、件人、殊夫
婦之間、爲_{最吉}之故也、沉枕二、同以置_之、
內藏寮御衾、豫付_{女房}云々、三位殿參上之間、余
取_之、安_{三夜御殿}御帳中、

御衣事、

般富門院_{所賜}之御衣、并家所_調儲之、御衣二具
懸_{衣架}也、而女院所_賜之蘇芳御衣八、余歸家之
後、以_{御使}給_之、仍先以_{不能}懸_之、余家所_儲
之二色御衣、豫以渡_之、左衛門督懸_之、北方衣架
懸_之、唐衣裳、列_{前方}、_南懸_之、御袴、下_腰
懸_之、南衣架、可_懸女院所_賜之衣也、其懸樣、
教_{置家司式部少輔範光}了、_{件範光、忽加_{御殿}來行事}
{長房長俊等、本所有{三奉行}}

本、又可_レ勅_二勅_一左衛門督、調_二進色衣_一、今夜、三位殿所_二着用_一也、

永久右大臣、雅實、懸_二御衣_一云々、

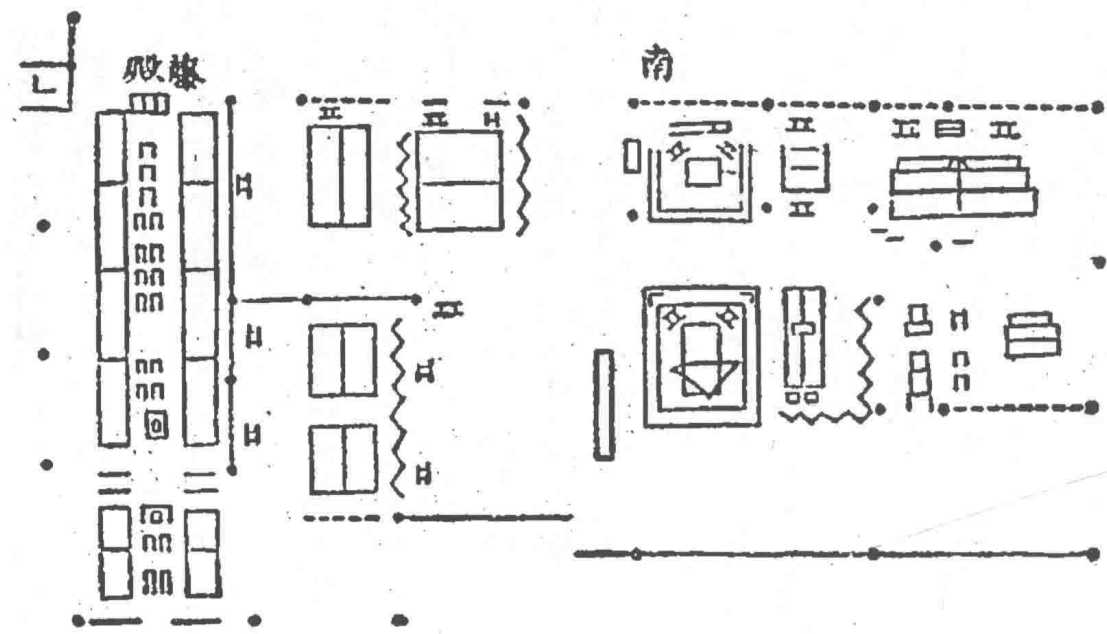
立_二御帳_一事、

季長朝臣、立_二始柱_一、其後、工等勤仕也、立了、長房、長兼等、無障人也、昇_レ曼敷_レ之、他物等、同以無障人令_レ置_レ之、御衾、御枕、御劔等、左金吾置_レ之、

御調度事、

薰物、四疊、藥、四疊、各納_二其物_一了、忠季朝臣、相共納_レ之、又雲母同納_レ之、於_二異香_一者、不知_二其物_一、仍不能_レ納_レ之、藥每壺三袋、合十二袋也、不知_二先例_一、只今吉物召_二醫家_一、以_二禮紙_一驗_レ之、其銘醫家藥香_レ之、若不_レ齊_レ之物、忽手自_レ齊_レ之、薰物四種、梅花、荷葉、豫仰_二前大膳大夫家綱_一、彼家傳_二此藝_一之故也、令_レ合_二和之_一、今日進_レ之、造子宮、本無_二納物_一、仍尋_二申女院_一、以_二他造子寸法_一相叶_レ納_レ之、齊_二古歌_一也、母屋調度、申_二八條院_一、四條宮御調度歟、沃懸地、燈輪螺鈿也、底調度、平等院經藏所_レ納之上東門院御調度也、脇息、火取等無_レ之、脇息用_二余家調度之具_一、火取先例不_レ置_レ之、仍略了、先例、可_レ然人立_二御調度_一歟、今度無_二其人_一、仍余仰_二男共_一令_レ立_レ之、

御裝束事、具在_二指圖_一、



〔歸宅之後、女房等、令乘_二出車_一、_{殿上人}寄_二其車_一、先是公卿殿上人、多以來集、余改_二着束帶_一、又雜事等、令沙汰、可渡之御物等、皆悉令_二沙汰_一了、此間、所々御使、皆悉來集、排_二御便所_一云々、先三位着_二御衣_一、_{定能}出_二居寢殿南面_一、母儀同_レ之、先着_レ裳、着事、余奉_レ結御腰、其事了、余出_二賓筵_一、二位大納言已下在座、次宗賴朝臣來云、般宮門院御使參上者、余仰_二可被_一參之由、宗賴退下、

十二日、_卯人々來、儲_レ饗、有三獻、打出如_二昨日_一、十三日、_辰人々來、有三獻、如_二昨日_一、打出如_二昨日_一、十四日、_巳今朝、取_二燈樓燭_一、給_二進物所_一、大炊殿等、無_レ障女房、_佐給_二兼時_一、_{無障}兼時給_二資兼_一、々々分_二道兩方_一也、

十六日、_未取_二御指鞋_一給_二余辛櫃_一、又取_二御衾_一給_二御辛櫃_一、此日露顯、女御宣旨、後朝御書、三夜餅、侍始、〔御書使、主上渡御、女御宣旨〕、女官祿等也、先女房等着_二裝束_一、_{紅梅}又官奏、政始也、

十七日、御帳中、本寮御衾披_レ之、納_二辛櫃_一、今日、北政所退出、

廿二日、除日始、執筆右大辨、

廿三日、同_二中日_一、

廿四日、入眠、

廿五日、入夜、白地退下、

廿六日、雨降、今日歸參、

廿七日、_午天晴、此日、御元服之後、始有_二朝覲之禮_一、余聊有_二相勞事_一之間、朝間不_二參上_一、且御裝束已下事、可被_二念之由_一、觸_二女房之許_一、此間有_二召仰事_一、上卿內大臣、

奉行職事光綱持_二來日時_一、見了〔乃〕返給、已刻着_二束帶_一、_{時給細御}參_二御所_一、于_レ時〔未_レ召_二御鬘_一〕、又內侍不_レ上_二髮_一、凡女房等懈怠、言而有_レ餘、右衛門督參上、奉_二仕御鬘_一、御裝束等、女房等加_二譴責_一、內侍適上_二髮_一、如此之間、及_二午〔刻〕終_一、出_二御南殿_一、其儀如_二常_一、余候_二御裾_一、於_二額間長押上_一、召_二御捧鞋_一、_{成經朝臣}進_レ之、內侍執_二劔

匣_一、候_二前後_一、_{御在}經_二清涼殿弘庇_一、長橋、南殿北庇西戶等、_{自清涼殿額間、至件}戶等、_{自清涼殿額間、至件}御帳後間、暫令_二立留_一給_二兩內侍近_一、自_二御帳左右_一、_{御在}次主上進_二立給御帳西間_一、給行〔西方〕、_{候西方}次御反間、陰陽頭宣_二憲朝臣參_一上

自_二西階_一、入_二自西南_一、奉_二仕之_一、退下、給_二祿如_一恒、_自明義門、_{北子四}次經_二御帳與柱之間_一、令_二進立南庇_一、_{戶例也、今路如何}

給、（內侍給）余候西間、（庇三間々）次右次將渡、左、（一本作東）東江、（御與長望身等、里內渡、三節、仍、隨身不從也、（主君）則、南築垣、渡之、大內之時、渡、隨下、（之時）從、主人也、

此間、聞司奏了、須公卿列立之後可、奏也、然而、依

爲同事、不追歸、次公卿列立、先內大臣、（右大）經三階

下、立三坤角、次左大將、經三櫻樹北、立三階巽、次定能卿

已下列、立其巽庭、見公卿七人、皆悉衛府也、次少

納言賴房給奏、次寄御與、源宰相中、通資參上、（昇、南、下、脫、階、西間、跪置了、）經三御與與、柱之間、開三登

戶、先取御與、跪、安三登中、經本路、跪、候西間簀子、

次余進寄、奉扶持主上、即乘御、召三成經朝臣、令

取御押鞋、給三東童、（成經、經、三、參上、）次通資取三御劍、安

之、閉三登戶、退下、次奉昇、出御與、兩大將前行、他

公卿早以前、行御與、出自三承明、建禮、待賢等門也、

御與欲昇出之間、余經三南庇、直來三進於東階下、着

沓、經三宣仁、華德等門、於三陽明門、乘車、自三太宮

南行、此間、御與未、出、待賢門、仍暫扣、忽、余前駟十

八人、四位二人、六位一人、五位十五人也、隨身染分如

恒、車副着三蘇芳揭、牛童着揭、皆如春日行幸時、良

久、御與出、待賢門、過三後陣、之後、從三幸路、御與

於三二條大宮邊、過過三一時半、是前三陣、後陣、衛府

等、不前行、自三路頭、多打出之間、經三程也、經三太宮六

條等大路、到三院御所東四足下、（六條北、四、）法皇於三六

條堀川御棧敷、有御見物、余前駟下馬、依仰、更騎

渡也、如春日行幸時、余於三右衛門陣末程下、車、（隨身、於三六條油小、）經三六條西洞院等、（此間、供奉人馬從、（類）等、

自御與、南進、立御與前、先是、左右大將立三門內、

外、（南、上、）時、權大納言隆忠卿揖離列、與余、（余、

門之中央、相揖、右廻入、自三北較門、中門等、經三南庭御

前、（其、司、不、見、及、或、又、隨、間、）奏三事由三歸出、（此、間、樂、國、令、撤、

（屋）幔、（中門外所、）出三中門、立三始所、余又頗立對、相揖

隆忠、復列、此間、諸司三中門、敝三筵道、余先前行、

隨身相從也、（前、駟、不、入、）次左右大將前行、立三中門外南北、

左大將三、（次、御與進行、於、中門、際、）昇三廻三之、（以、御、

向、東、是、例、御與、以、御前、爲、東、昇、居、中門內、（御與、同、余、

已下、大將公卿、（近例）皆居地、兩大將、先例入三中門

內、（仍）余仰、此旨最不覺也、東禮之時、昇廻御與、以

東爲前（時）、大將（先）入三中門內（者）、可候御與

前、於三今時、（前、於、今、時、）一作後是以不可入三中門（也）、余不覺

悟此事、殊又左大將可謂三尾籠（也）、次通親卿參進、

脫靴開_也盤戶、取_也御璽、候_也御與西北方、_{期內}次余參進
〔御與候、_也〕成經朝臣、持_也參御草鞋、主上下御、
〔於_也筵道上、着御也、〕通資前行、主上昇_也終_也自中
門廊南妻給、余指_也笏取_也御裾、次公時卿取_也御劔、候_也
御後、此後事不_也改記_也也、

三月

一日、乙〔天〕晴、辰刻出_也御燈、_{大炊御門末河原}着_也衣冠、_{劔劔入}
乘_也毛車、隨身楊冠壺胡錄、前駟十人許、着_也布袴、檢非
違使左尉中原明基着_也布衣冠、在_也車後、河原諸司儲
幄、開_也後幔門、引_也入車轅於幄中、立_也榻、_{件幄、子午裝立}
疊石立_也、<sub>不_也川_也次供_也手水、_{川_也手洗、陪膳以政朝臣、開_也八足、散_也半帖、}
指_也紙一枚、白木_也持_也即撤_也之、次陰陽師主稅頭賀茂在宣朝
臣、<sub>東_也進_也着半帖、又供_也贖物、置_也前板、如_也初、_{一前_也陪}
膳同人、前駟等役送、祓了、_{稱_也高天原之時、解_也二、}陪膳取_也
大麻_也持來、余撫_也之、鳴_也之了、陪膳取_也具御贖物、撤
了、指_也開戶、次懸_也牛、經_也本路歸_也家、改_也着直衣、未
刻參院、_{綱代車、前近衣}以_也定長、申_也條々事等、
役夫工事、未濟所々、可_也付_也使圖云々、
殿上番事、_{早可_也結番、圖_也動否、}可有_也沙汰云々、</sub></sub>

座主事、_{先可_也補_也公願、本寺人事、可_也問_也公願}
三壇法事、_{井山門僧綱等云々、即仰_也家實了、}
當今母儀事、_{可_也計沙汰、三品敷、准}
今年御厄年、可_也有_也改元_也敷事、早可_也申_也沙汰、
酉刻、參內宿仕、先參_也朝餉、歸_也來宿所、改_也裝束、參_也
女御之方、

今日、遣_也使者於能保許、先日示送事、仰_也遣返事也、
親國申云、祭使猶可_也催_也公經云々、能保卿、殊可_也出
立_也之由、可_也仰遣云々、又云、馬助可_也被_也任_也清實云
云、〔棟範、內宮役夫工免除庄々注文二卷所進也、是
爲_也定_也外宮支配、所_也召也、〕

二日、_{丙_也辰}〔天〕晴、召_也五位藏人光綱、以_也前大僧正公願、
可_也補_也天台座主事、過_也御燈齋、明後日四日可_也宣下、
豫上卿已下可_也催儲_也之由仰_也也、
家實、座主事、注_也申人々申狀、
左大臣、

可_也被_也補_也天台座主事、慈圓法師、若當仁敷、不然
者、加_也持院宮、令_也補給、又別儀也、且可_也被_也尋_也可_也
然之僧侶、委不_也知_也子細_也候之故也、以_也此趣、可_也
令_也申上_也給_也之狀如_也件、

三月二日

左大臣〔、〕

右大臣、

此事、輒難計申、歟、若可、依、請次、上臈者、昌雲當其仁、歟、但度々、漏、恩了、未、知、其子細、此外、圓良、顯眞、慈圓等之間、被、計任、可、宜歟、

內大臣、

輒難計申、山門之趣、不可、被、尋仰、歟、三塔會合、可、然之、並兩三人、可、撰申、也、隨、其狀、可、被、計任、歟、爲、向後、可、宜歟、

堀川大納言、忠親卿、

天台座主、以前大僧正公顯、可、被、補任、其後、可、被、抽、任誰人、哉事、山門僧綱之內、雖、可、被、補上臈、無、其望、之由傳承、然者、可、被、補、無動寺法印、歟、且、可、在、勅定、之由、可、令、言上、給、之狀如件、

三月二日

大納言、

已上、四人之内、於、大臣三人者、各行向問、之、而左大臣、追以、消息、所、被、申也、忠親卿、自、本以、舊札、問、之云々、內府申狀無、謂歟、大衆可、計申、之由、專不可、申事也、入、夜〔藏人次官平〕親國、爲、院御

使、來示、祭近衛使闕如事、余可、計奏云々、所存具以令、申了、家經尤當仁歟、

三日、巳〔天〕晴、已刻許、白地退出、御燈御禊事、頭中將致、沙汰云々、入、夜、女御殿御節供、自、南面、供之、家司頭大藏卿宗賴勳之陪膳左中辨親雅朝臣、家司、範光、仲資、長兼、盛經等、勤、仕役送云々、於、大炊殿、女房節供如、常、陪膳彈正大弼資泰朝臣云々、今日、平等院一切經會、開封家司闕如了、仍宣房催遣之、樂屋行事仲盛、國基等也、今日、上巳御祓、主稅頭賀茂在宣朝臣於、大炊御門河原、修、之、使侍長可、勤、仕之、而當時無、其人、仍侍可、勤歟、而今日三月三日、相當上巳、頗爲、希代事、仍以、職事國行、爲、使、又主稅助安陪晴光於、川合、恒例御祓行之、侍勤、使、必兩方不可、行之、而晴光恒例勤仕之由、行事人不知、之、催、在宣、仍忽不、改、定兩方、行之、無、其妨、之故也、此夜、宿、大炊亭、〔廣元來、〕

四日、戊午〔天〕晴、權右中辨棟範來、申、役夫工之間事等、〔親國申、祭使事、昨今、御所中間不能、奏達云云、〕入、夜歸參、內裏宿候、此夜調樂也、二歌事、陪從範宣與、有賴、論申、尋、聞兩方申狀、可、奏、院之由、仰、

光綱、

五日、己〔天〕晴、午刻許、人告、實命有恩命云々、仍

以兼親、令進鳥羽、畏申此事、依法印強款申、度々奏請、今有恩免、於

南殿北壺、御覽左寮御馬三正、去比、賴朝卿所、實進也、瀧口等騎

之、右中將忠季朝臣、候御前、及丑刻、兼親自鳥

羽歸來、以家寶申入了、仰云、雖爲重科之者、度

度申請旨、爭默止哉、仍所免給也云々、又以定長

〔卿〕被仰座主之間事、條々委細不能具錄、大略、

圓亮可被補之趣歟、家寶來申僧綱等申狀、已經數

日、仍御斗敷以前、不可有沙汰歟之由、相存之處、

忽有此仰、未知是非、事重事也、已而以如兼親、

被傳仰、頗輕忽也、定長煩路之僻遠、不來臨、太奇

恠、仍余送書札、仰明日可來之由、敢不可承引、

然而理之所致也、實命恩免之由、即告西山、法印被

也、有恩悅之報狀、出洛而可悅申之處、座主事、

有沙汰云々、議內之一分也、仍猶豫未思得云

〔々〕、親國云、祭使可催兼宗朝臣、百日參籠、仍先日

彼免、而依事關如、更被責之云々、

主上聊御風氣御坐、然而殊事不御、

六日、〔天〕晴、早旦、退出大炊御門亭、午刻、定長返

事到來云、天台座主事、可被仰下願眞法印也云

云、願眞、遁世年久、偏入念佛之一門、棄眞言之萬

行、三千貫首、更無希望之由、書起請事數度、近

則、衆徒拂全玄之刻、爲願眞所行之由、風聞之時、

注誓狀奏院、又與余、而今與定長謀議、忽預此

恩、愛知外表上人之翔、內有貫首之望けりと、萬人

分知之人、之餘執召、今如此、可悲々々、今日、依次

日、明日可宣下之、以光綱奏條々事等、又召少

將信消、仰其妹帥典侍、女使出立之間、可奉仕之

由、慈願狀、親國來、近衛使兼宗、堅以辭退云々、猶可

奏之由仰之、及晚、光綱歸來、條々仰御返事、〔觀

性法橋來、〕入夜歸參內〔裏〕、

七日、〔天〕晴、今日、法皇參熊野給、御進發也、又

宣下天台座主事、法印願眞、上卿別當少納言信消、先例、

有上薦之時、被任僧正、即被仰座主也、而明雲

乍置上薦、被補之、爲不吉例、今又如此事、先々

度々申置事也、然而、無其沙汰之上、今度座主之次

第一々不當、仍萬事只以目耳、

今日於直廬、竊書大般若外題、

親國申云、祭使兼宗領狀了、其由去夜奏聞了云々、

〔八日、壬戌〕入夜、退出大炊亭、

九日、癸亥召宗賴、仰三條々事、當今母儀御事、可問三人

事、中興厄事、殿上番事也、又立后事等、條々仰

之、

十日、甲子算博士行衡、大外記師直等參上、今年依中興

御厄、可有改元哉否事也、行衡重仰、可勘當件

厄之年、無改元一例之由了、

十一日、丑乙〔天〕晴、右大辨定長來、申東大寺大佛之後

山可被壞之間事、人々井上人中、爲實檢件事、下向、

相率道寺官等云々、今日申次長房、

〔棟範、申役夫工之間事、光綱申三條々事、長方申次

之、法印入夜被來、

十二日、寅丙〔天〕晴、入夜、參內宿仕、今夜、女御殿昇

給、余扶持之、今日、法印又來、終日談語、明日可歸

入西山、〔又晦比可出京云々〕、

十三日、卯丁早日參上、奉下女御殿、下宿廬休息、入

夜參三條殿、深更歸大炊亭、今日、於內裏、南都三

綱、爲別當法印覺憲使參入、申三條々事、八幡領、於山、

人、故書御領天山山人、仰子細了、即召別當辨親雅朝

臣、仰可仰遣八幡別當成清許之狀、親雅參前賀

茂、仍遲參之間、寺家使、殊依忌申、以他人尋聞、又
仰子細了也、

十四日、辰戊靜實法印來、今日、臨時祭御馬御覽也、余

不參、頭大藏卿定賴朝臣參入云々、先來此亭、申三條

條事、入夜、親國來、申稻荷祇園論申御供頭事、仰

所存了、此日、竿博士行衡來、申公家中興御厄之間

事、召前問子細、大途可有改元之趣也、康平、保

安例也、

十五日、巳己〔天〕晴、已刻參內、依女房陪膳闕如也、入

夜、女房參內、密々事也、能學在共、出車一、余及女房共宿

候、自今日、始行春日社唯識會、恒例事也、家司上臈

等、各現病故障等無疑、仍宜房下向、余所作如何、

十六日、午庚〔天〕陰、此日、〔石清水〕臨時祭也、午刻、着

束帶、參御前、依〔使〕舞人遲參、及申刻、着御御裝

束、右衛門督通親卿、右少將、先黃檗御袍也、暫待〔御〕使

〔之〕參、申終、使參入、即出御、余裝御、出御自御座間、

成經朝臣、御拜座、南面、小延二枚上、供牛、余候御座東北

邊、仰成經朝臣、進御笏、次供御贖物、成經時、次宮

主獻御麻、成經於中門廊西緣南妻、取之持參、主上

一撫了返給、年令持御麻於成經、即取之、返給宮主、

於本所、宮主着庭中座、南面、順向、坤、次使着座、次舞人三人、立御馬、自四方、引之、次御禊了、宮主退出、次撤御贖物、次引出御馬、今日早速引出、失也、次使取三所御幣各一棒、鏡可取之、而一之、立主上御殿、順向、坤給、兩段再拜了、次使置幣退下、次成經參進、給御笏退下、次入御、余要御座、成經給御座、次改御裝束、順平敷御座、立御椅子、又二間、出三几帳帷、并打出等、先是、與、以、女御參上、候上御壺欄、以尋常鬼同二間、爲其所、四間爲御所、參上路、經南殿御後、小御所南面、二邊也、尋常之時、二間是也、并查御座、女御方女房、經內御方置御座、雖不可燃、依無他路也、又先々如此云々等、入自東鳥居障子也、扨從女房宰相局、御乳母光長、取火取在前、次大納言局、女、取御劔、在其後、次女御殿、大貳、兵衛佐、兩人差几帳、仍依所狹無路、自三臺御座北降子邊退歸、候小御所南面四二間邊也、次兵衛督局、取御裳唐衣、候御後、已上、着三物具、其次三位殿、不着三物具、非三職、掌之扨從之故也、其後に引渡て、女儀三品、不着三物具、相具女房、一兩參上、件女房兩人、自南殿御後通了、件共女房之中、中臈二人之外、四人候女房候所、御所東、打出同也、母儀候女御居所、上御壺欄、并女房裝束等、在奥、次主上改着御袍、青、赤、白、藍、不似、御下襲同改着給也、而件御下重、而張綾裏又同張之、先々未見如此之御

下盤、仍問通親卿、件卿云、高倉院御時、年々見之、
全以不然、面如例樣々、裏浦菟染打也、稱之梅御下
重、未見面裏共張之者、仍今日只改御袍許給也、
先例雖無御服之違例、猶改召即袍許不改了、御下殿事、度々在之、況今日御下重、不似往年、仍只改御袍也。
出御、如初成經余奉裾自西之後、經御前簀子、着
殿上、先々候之間、而被髮、一同口准大内例、候殿上也。次成經參御所、告人々、
此事必シ、次大納言實宗卿已下、着壁下座、余忘却シテ、直可召召、
毛不燃歟、
(人)尋之由、示成經(而)依實宗仰、駕示召返之、失儀之甚也、(可耻々々)、次余進居上戸下、年中行事障子、如常立戸前也。公卿皆着了、宗賴朝臣、入自青瑣門代、
候三年中行事障子北邊、候氣色退歸、經公卿兩座之
間、并庭座前、徒既也。向瀧口方、四物門之邊也。召使已下更歸、
此度、經庭座南、大使已下、參上着座、使替第二斷重下、示氣色於實宗卿云々、得
心曰使令若第一座也、舞人、陪從座之中、有其路、而如敷連、仍
召宗賴仰之、頗令開其道也、次一獻、次大破總宗額朝臣、瓶
于祇、次二獻、實宗卿、數刻不起、待禮畢告歟、太無謂(々々)未聞事也。着垣下座、五位殿上人、六位
人居、六位次置挿頭花臺、并螺杯銅盞等於長橋南妻、次
三獻、陸忠卿、不次置三重坏圓座、次勸三重坏、右中将忠孝朝臣、右少將雅
行朝臣、勸舞人、五位次親國就指頭花下、經庭座前、次實
藏人親國、勸貽從、
宗(卿以下)、次第給挿頭花、各右邊、直上中門、若殿上
也、此中、手經卿一人左邊過

渡了、主上、女御、共歸給、暫御二女御々方、余向

冬、表着蒲萄染、唐衣白腰裳、〔施〕海浦如例、以不出

持、件打出、自_二瀨口方_一、藏人等昇之、_二傳置_一件所、須女
房_一、可_レ持_二參之_一、而依_二無_一領宜、如此、又先例也、
御衣

薄蒔黃掛八領、紅單衣、紅打衣、襟櫻二重織物表着、
無小掛、衣相具店衣也、唐衣并裳腰、同二重織物也、大納言殿、紫白、宰相殿、兵衛
督_一殿、大貳、兵衛佐、

已上、着_二物具張袴_一、

三位殿櫻衣、

不着_二物具_一、爲_二打出沙汰_一、臨時參入也、_一櫻衣_一、
母儀、紫掛櫻、

今日、依_二臨時祭齋_一、不_レ勤_二唯識會所作_一、

十七日、_{辛未}雨降_一、申刻退出、行水、修_二唯識會所修_一也、
昨日料、同未昨日、女御殿御物忌也、仍仰_二法成寺、平等

院、并御持僧等、行_二種種御祈等_一、

十八日、_{壬申}天陰、不_レ雨、唯識會所作、如_二昨日_一、此夜、

御方違行幸也、余供奉、白川押小路內裏也、曉鐘以後
還御、其後、余退出、公卿四人供奉、還御只一人、不_レ敬
不_レ敬、光綱奉行職事也、少納言信清、

十九日、_{癸酉}天陰、此日、女御殿御祈、修_二熒惑星_一御
祭_一、使職事天文博士廣元先日申云、熒惑已欲_レ犯_二軒轅
女御星_一、來廿日餘之比、天下猶不_レ々、○天下云々、一兼可祈
作可見犯否

謝云々、仍所_レ行也、即廣元勤_二御祭_一也、此夕、女房退
出、直向_二九條堂_一、余今日可_レ違_二四十五日方_一、而日來不
致_二沙汰_一、及_二今日_一了、卒附之間、不可_レ叶、忽然而留
了、可_レ向_二水田高渡邊_一、而日景已闌之故也、

廿日、_{戌甲}雨下、早旦向_二九條_一、依_二故內府月忌_一也、入_二夜
歸來_一、宗賴朝臣來、申_二母儀准后之間事_一、人々申狀、右
臣、堀川大納言右大臣申云、三品可_レ宜、忠親卿申云、准后
〔每申狀也〕可_レ然、今日、宗賴、親國等申_二大神宮穢氣之間事_一、仰
可_レ問_二法家_一之由、

廿一日、_{亥乙}天晴、明法博士明基、勘_二大神宮穢之間
事_一、宗賴又申_二條々事_一、覺憲法印、注_二申衆徒張本之間
事_一、

廿二日、_{子丙}宗賴今日向_二左大臣仁和寺宮_一、問_二母儀御
事_一、被_レ申_二進可_レ申之由_一云々、

廿三日、_{丑丁}入_二夜參內_一、女御殿被_レ昇、深更退出、明日
爲_二物忌_一之故也、

廿四日、_{寅戊}雨、宗賴申云、母儀御事、左大臣以_二消息_一被
申云々、三品立后之間可_レ宜、准后不可_レ然云々、

廿五日、_{卯己}天晴、昨今物忌也、雖然依_二明日_一可_レ直_二
平等院阿彌陀堂_一、不_レ顧_二物忌_一、枉向_二宇治_一、今夜經宿、

可移方忌之故也。件方忌之同事、于辰始、先向九條、未刻、着直衣、烏帽等、乘網代車、首途、布衣前近十餘相交、公卿、御宮內卿、奉經一人、着布衣、連車、隨身布衣持胡、股、移馬、下馬布衣也、多水干持機也、忠武者、例布衣也、侍、在共、釣殿寄船、先參本堂、暫候、次向阿彌陀堂、

見可直之間事、次向經藏同之、秉燭、向棧敷御所、一切經會時、件屋、先年故女院一切經會之時、渡御之年、余宿此屋、仍殊宿此處、可移方忌之由、陰陽師令申、仍所宿也、季長朝臣、爲開封、參會、衣冠、

廿六日、庚終日雨降、辰刻、着直衣烏帽、詣阿彌陀堂、見廻之後、向小御所、居西面妻戶、向佛正面、季經卿在前緣、先於本堂修誦誦、本堂供僧上、爲導師、給一領、是依可直阿彌陀也、自去十九日、於本堂、觀音經御讀經、仁王講、於五大堂、五大尊念誦、念誦、等修之、爲同祈也、今日、又供僧等詣諸堂、可祈念之、由仰之、又離宮社獻幣帛、卒爾之間、只付料於社司也、即直堂、召南都工、令直也、僅不及一時、須臾直了、此間、余凝信力、念誦、信心發起、感應何疑哉、可悅々々、今日、能々調此堂、事了、來廿九日可直廻廊等、其後又可直經藏之由仰之、直了之後、余又向堂見了、向經藏、開封家司、季長朝臣、着衣冠、又執行井殿司二人候之、即余入戶內、季經

卿、同令候之、開始御厨子、八角厨子、是也、先奉禮弘法大師、愛染明王、次奉佛舍利、聊依有不審之事也、慈覺大師本三粒也、而去文治三年參入之時、有六粒、仍今日重奉見之、猶六粒也、然而三粒不似、常舍利、疑地震之時、取交他沙等、被置歟、又弘法大師舍利七粒也、而有八粒、是、無不審舍利也、次見手本少々、依日暮退下、向本堂、御所上下着膳、次於釣殿乘船、於東岸乘車歸洛、到九條、暫逗留、自是返還所從等、入夜、僅具一兩男共、歸大炊亭了、

廿七日、辛巳天晴、今日、以覺成僧正、令護身女御殿、入內以後、雖始祈等、于今不加護身、自然懈怠也、昨日謂此法印、而近日暫不出仕之由被存歟、仍不被來之間、召覺成也、今日依日次宜也、棟範申役夫工之間條々事、仁和寺宮房領等、早可下知之由被申云々、又親國申今夜御書所作文之間事、右大辨定長參來、去十五日參向東大寺、佛後山令壞之間事、加檢知之處、壞去山土之跡、御佛後、破損、若不壞此山者、豈知彼之破損、壞山之事、萬人不甘心、齊衡年中被築以來、已經數百年、而忽以

人力撤去之條、人々所疑、一旦可然、仍以造寺長官、爲被實檢、所下遺定長也、而不待其御使、上人自由壞件山、所行之由、雖似有自專之科、偏代本願聖主之御靈、所爲歟、可恐可貴、件破損之所、神妙可奉鑄繼、又山代鑄銀柱、數年可奉着之、然者、一切不可有事厄云々、此間事等猶多、又申他事等、今日、又有記錄所評定云々、入夜、着直衣參內、依御書所作文也、以西蓋盤所應、假爲其所、雖太無便宜、高倉院御時、以此屋爲其所云々、加之、爲有便觀覽也、先儒士光範朝臣已下參入、有饗饌、盃酌等、三獻云々、其事了、撤大盤饗饌了、奏事由、即以渡御、先儒士女次殿上人、儒士等着座、儒士在奧、光範朝臣、雖爲殿上人、也、殿上人、藏人頭大藏卿朝臣已下十人許、次置圓座、在端座、或直衣、或束帶之衆、在端座、次置圓座、文臺等、一人、左右手持之、太見苦、又切想盡可、次置時、先置大儒士等着座了、殿上人、自六位、儒士、光範朝臣、宗朝時之後、置之、爲座、實守朝臣、下爲、依爲藏人頭、置後經時之後、置之、今違彼例、是非可尋之、座席亂位、雖、次講師通業取座、於時者、任位大可置歟、實守作法可尋之、
儒士等、皆衣冠也、儒士、參上講之、大學頭在茂朝臣、儒士、勤講師、皆講了、有連句三十餘韵、其後分散、今日絕句也、寬治、天永、御元服以後、初度絕句也、

題者、御書所別當御侍禮、式部大輔光範朝臣、

序者、大學頭菅原在茂朝臣、

兼日、被點式部權大輔致綱朝臣、而俄服暇事出來、數經朝臣領死之故也、仍今日申刻、被改、仰在茂朝臣、早速、終篇、所參入也、

廿八日、此日直物也、上卿右大臣、執筆右大辨定長卿、文治三年春以後、不被行直物之間、召名多積云々、余忘却不賜、去春公卿給、大外記師直、亥刻來乞之、忽披大間、須更候之、給了、不及半時、今日、祭供奉官、少々被任、又被任、少納言親家、是忠親卿養子也、故美乃權頭昌隆子、少納言家隆孫云々、元爲伯耆守、上官兼遠、國吏先例邂逅、仍追奏事由、可被任、移他人歟、今夜、不付兼字、而上卿執筆、不問職事、只稱被付落之由、自由付之云々、不足言々々々、末代事皆如此、何爲哉、依爲忠親卿國、定長所構歟、可彈指、今夜不付兼字者、可飛任國歟、依小事、現矯飾、可謂遺恨々々々々、

四月

〔四月十一日改文治六年爲建久元年〕

一日、甲〔天〕晴、未刻〔暴〕雨、即晴、入夜微雨、平座

上卿別當(云々)、此日、平野祭也、宣命上卿左衛門督、
祭上卿右衛門督、有御禊、依御物忌、陪膳役送人々
隨候、使宮主不隨、近例云々、少納言賴房勸使、余神
事、當社精進云々、仍余不食魚類也、

二日、乙(天)晴、梅宮祭也、立神馬十列、如例、陪膳
光範朝臣、使雅樂助忠賴、行事勾當業家、祭上卿兼忠
卿云々、

三日、丙入夜參內、女御殿參給、今夜宿仕、

四日、丁(未刻許退出)、於南殿御後、(密々)有小弓
〔御〕會、忠季〔朝臣〕、信清〔朝臣〕等候之、

五日、戊(法印被來)、來十一日可有改元之由、以
宗賴朝臣、宣下左大臣、依明年三合、天本今年中興、平康
等御厄、會有此事、四月又先例吉之故也、兼光卿、

光範、光輔等朝臣也、

六日、己依大神祭使立、今日神事、

七日、庚(天)晴、法皇今日自熊野御下向、令落付

今熊〔野〕給云々、以宗賴奏條々事、

八日、辛今日、依大神祭、公家不被行灌佛、伴祭

以、使立日、爲神事、祭日不齋、往古例如此、而近古
以來、猶被止灌佛、仍就近例、被停止之、又故殿

御記(云)、不論灌佛之有無、至于八日、僧尼參入、
敢不可憚之由、有法皇仰白川院(仰)云々、仍鳥羽院
御宇如此也、而近代又無灌佛之年、自朔日爲神
事、如此之事、不論是非、只就重爲善、是末世愚
暗之儀而已、抑大神宮御祭者、九月十七八日也、然而
自九月一日、至于十二日、爲神事、十三日以後、全
不潔齋、十七八日、公私佛事例太多、以之思之、他
神事、不可過神宮事、依大神祭、被止灌佛、猶於
理有妨者歟、今日、入夜參院、依御殿不入見
參、即參內宿候、此夜、密々於御前、有詩會、左大將、
右衛門督已下、近習人五六許輩也、

十日、癸(天)晴、此日、太政大臣初度上表也、寬治以
來、寬仁多以三月獻初度表、而依爲院御熊野詣
之間、空以過了也、已刻、使陰陽師主稅頭在宣朝臣

勘申日時、以人傳作者式部大輔光範朝臣、清書中務
少輔伊經、來會公卿、左大將、左衛門督、藤中納言、右

大辨、太后宮權大夫、前宮內卿等也、申刻、作者參入、
即余着直衣、出座、尋常公卿座、不改御裝束、召奉行家

司右衛門權佐長房、問作者參否、申參入之由、仰可

召之由、即光範朝臣、取副表於笏參來、進于前獻

表、余便仰可讀之由、光範讀了、以文下爲余方指也與余、件草、如例、如例、余與左大將、左大將見了、與定能

卿、定能卿見端許、與兼光、余云、繙讀前、兩三

人也同時被見歟、即展置前板敷、光長共見之之後、

光雅又見之、欲與季經卿、余仰不可必然之由、

人別非可見事、只屬文之人可見也、仍仰此旨、

也、即取上、余取之置前、次召長房、給草、仰可

清書之由、數刻之後、此同、與余、人交、持來清書、余與兼

光卿、令見落字、書失等、申無誤之由、返上之、

左大將、長房、持來表宮、不、如、花、并檀紙、持來五枚也、

余開硯宮、染筆加署、名、二、字也、卷之加禮紙、表、三枚也、其、

入表函中、如本覆蓋、檀紙餘今一枚、匣、此間、家司行、

長、職事兼資、昇案立余座當間廣庇、東、西、要、花、足、其、

被立之、仍當間立也、次余召長房、給表函、長房取

之、就案下開覆、置函於花足上、如本引掩テ、又

結緒、案下、只一、緒、之也、次家司職事四人、大炊頭中、

結緒、如何、其、上、片、是、可、緒、也、次家司職事四人、原、師、綱、

參進、昇案退下、次召作者

參進、昇案退下、次召作者

參進、昇案退下、次召作者

參進、昇案退下、次召作者

玉葉卷五十七

文治六年（建久元年）四月

光範於前給祿、長房取之、次召清書伊經、同給之、白、

房取之、一領也、諸大夫等依不參、家司兩人取之、寬治爲

房、行事、時範等、取之故也、先是、人々退下、次余歸

入、其後改裝束、其儀、公卿座、垂庇簾、前廣庇敷滿

長筵、西一間、設勅使座、高、一、枚、加、東一間、敷取祿

人之座、同、高、也、其中央間、副北簾、立燈臺一本、舉燭

也、入夜、左衛門督定能卿、持來本表、立中門、長

房謁之、即左大將降中門內方、徒跪、跪指笏、受取

表宮、入、本、經中門內簀子、持來公卿座末南面妻戶

下、余在廳中、衣冠、取之、次召長房、召勅使、即勅使

昇自中門內、經透渡殿東簀子等、着廣庇座、東、次

左大將着東座、西、次以政朝臣持來祿、白、勅使取

之、經本路出砌外、再拜退出、先是、左大將起座

了、次余歸入、持、表、次如元、上公卿座簾、撤廣庇座、

次余出座、左大將獨在座、次長房進、巾吉書候之

由、次官方親雅、次藏人方宗、次政所長、次余歸入、暫

而參內、中、部、車、隨、身、上、編、冠、前、宿仕、表、臣、兼、實、中、

十一日、平、天晴、此日改元也、改文治爲建久、光、

上卿左大臣、依公家御慎、中、與、并明年三合、太一

之、

六百五

厄、及天變等事也、

十四日、丁今日祭也、近衛使左中將兼宗朝臣、有御前召、又御覽飭馬、引馬等、但僕從等不被渡、北陣、能保養、去夜逝去、依其事也、於公事、ハ、不可及沙汰、件御見物、非指事之故也、今日、祭可渡、能保家前、哉否、有沙汰、遂不被憚、其家門前了、此日、立后兼宣旨也、勅使成經朝臣、余自取祿、定能編、今夜無定、依永久例也、

十五日、戊今日、第二度上表也、使兼良朝臣、勅答使高通朝臣、左大將代、余テ、役三ヶ事、家實來、申准后之間事、人々申狀、

十六日、乙未刻、祭主能隆、内々告送云、大神宮心御柱顛倒事、付次第解了、且所申也云々、驚思不少、即以棟範、役夫工事令申之、次、奏院了、

十七日、庚子依心御柱事、立后可延引哉事、問忠親卿、并師尙、師直等、各申不可延引之由、

十八日、辛巳刻、神宮奏狀到來、心御柱事也、即問例於官外記、又被行軒廊御下也、上卿二位大納言、口以宗賴、問立后可延引哉事於左右大臣、入夜、定長、爲院御使來、被仰大臣召之、間事、内大臣

辭大將、以忠親卿、可任大臣之由舉申、是左大臣去職、可任公繼於參議之由、被申之故也、云云、余申云、辭大將舉大臣、古今未曾有、又忠親爭超兼房卿、哉者、

十九日、壬寅明日、可有仗議之由仰下了、宗賴朝臣輕服事出來、仍仰家實了、今日、當今母儀、叙三位、即被下准后宣旨了、是余再三所奏請也、勅別當權中納言親信卿云々、伯人也、上卿内大臣、今日、又余上

第三座表、使右中將忠季朝臣、今日給作者清書等祿也、表中載不義之詞、余難之、改不才了、兼光卿不示左右、仍余問此不審、其時申可然之由、仍以行事家司長房、仰作者令改直也、今夜、參内宿仕、

廿日、癸卯天晴、此日、大神宮心御柱顛倒事、被行仗議、上卿左大臣、人々大略依天仁、天永等例、申可被改立之由、但可行御占云々、忠親卿獨不可及御占之由申也云々、

此夜、女御退出、先仰手盤、在宣朝臣、次寄車、余大將寄之、公卿忠親已下降立、殿上人乘松明、列居於右衛門陣外、乘移糸毛、給車、

大將、左衛門督等、指_二几帳、出車十兩、毛車、女房各二人乘之〔得

還〕半物連_レ之、已上、侍各二人具之、次余已下、公卿十餘人、經_二

條、東洞院、大炊御門等、入_レ御自_二東面四足、余降_レ自_二

南面門、寄_レ車下御了、次於_二尋常公卿座、自明日、可_レ爲_二女御殿殿上、今

夜爲_二方也、有_二立后定事、執筆宗賴朝臣、忠親卿已下、公卿

十餘人在_レ座、先召_二陰陽師於前、在宜、令_レ勘_二申日時、

次書_二定文也、其後着_レ覆、覆居也、雖_レ非_レ覆、及_二深更_レ之上、且依_二大治之例也、有_二

二獻、每度、家司持_二初獻居_レ汁、二獻居_二湯漬、但不_二居了、

余拔_レ箸、仍人々退出了、以_二永久定文爲_二例文〔也〕、

上東門、陽明門等定文、不_二求得_レ之故也、今日〔朝〕、大

般若已下經論等、并布施已下、送_二南京、又家司長房、

布施取諸司官人等下向、

廿一日、甲辰〔天〕晴、此日、於_二春日御社、供_二養四部經唯

識論等、蓋果_二多年之舊願也、抑又祈_二永代之家〔門〕

也、願文兼光草、左大將清書、旨趣見_二願文、并可_レ下_二

御寺〔之〕長者宣也、自_二今日、卽始_二行法花十講、明日

可_二結願〔所日〕也、

廿二日、乙巳〔天〕晴、此日、女御退出之後、御書使到來、

左中將公繼朝臣、申_二次宗賴來、公卿八人、永久、有_二三

獻、給_二御返事祿等、受_二取御書、人定能卿也、此後有_二

院號定、母儀〔之〕御事也、七條院云々、余參內、卽退出

了、公卿引_二參本院云々、

廿三日、丙午長房歸_二參自_二南都、申_二御經供養、及御八講

無爲被_二遂行_レ了之由、僧正又被_レ示_二同旨、寺僧悅申無

極云々、

廿五日、戊申雨止、藏人權大夫光綱、立后召仰仰左大臣、

廿六日、己酉晴、此日、女御任子有_二冊命立后事、延喜大

四月廿六日有_二立后、待賢門院、正月廿六日己酉又立

后、日月叶_二延長例、支干付_二永久、可_二吉祥耳、去十五日兼

宣旨、同十八日始_二御裝束、同廿日出御、同日定_二雜事、

口日時之支干、併符_二合永久例了、昨今掃除裝束無_二

他事、已刻、兼光卿來、仰_二合庭上暢事、延久、應保、久

安、不_レ引_レ之、永久引_レ之、他例無_二所見如何、兼光申_レ

可_レ被_レ逐_二永久例_レ之由、仍引_レ之、御裝束事、家司定

賴、職事兼時等、所_二奉行也、小時、兼光退出了、午刻

着_二束帶、有文帶、紐參內、于_レ時御裝束大略了、打出未

出、他事少々遲引、然而、爲_レ催_二促內口事、仰_二置定賴

朝臣、參內了、大將遣參入、隨身官人束帶、立后、任大臣等如

此、先是、召_二藏人左京權大夫光綱、賜_二宮司土代、加

封、仰_二可_レ奏_二院之由、卽馳參了、余候_二內裏之間、光

綱歸來、仰_二早可_レ被_レ任之由、傳奏定長、密々云、領令同官

外記、內記、公卿、次將、一切不參入、仍仰光綱令

相催、又余下鵬隨身兩人、遣公卿等許、左大臣、內大臣已

五六、示可被早參之由、是非指禮、只爲早事也、

寬治之比、故大略、二條殿、常以三國身爲使、被催、及未刻、人

漸參集、申刻、左大臣參陣、即光綱仰宣命趣、

其詞、以女御從三位藤原朝臣任子、可爲中宮職、可載宣命、數、宣

命二、中宮二、皇后宮二、只皇后下殿也、然不、此仰謂、頗不審也、然

面、承久例如此被仰也、是爲令、小時奏宣命草、不、入、名、先

也、見了返給、仰口口遺之由、不經幾程、持來滑

書、又見了返給、已上、見了、口間、內侍上髮、向、南殿、余

同向、南殿、見御裝束、主上、御直衣、密、相、具、女房等、御

御、若、御東帶、候、御、而近代無、其、延、久、如、相、撲、召、合、但、東

如、今日、水久久不出、御、仍今度無、出、御、也、同、四、邊、或、二、間、東、邊、立、也、

第二間東邊、同、四、邊、或、二、間、東、邊、立、也、立、內、辨、几、子、此

間、諸卿出、外辨仰光綱、令引陣、立、陣、也、建、康、而、給

已下三人、右派、次、內、辨、左、大臣、乍、副、宣、命、於、笏、進、立、軒

廊、東、間、可、立、四、間、又、大、內、次、內、侍、臨、水、入、唐、衣

如、例、須、曳、歸、入、次、左、大、臣、昇、階、下、其、經、簀、子、着、几

子、着、也、次、被、催、開、門、次、被、尋、開、司、在、四、方、近、邊、之、間、

久、少、納、言、不、進、適、以、參、入、少、納、言、親、家、也、及、少、納、言、家、臣、就

版、大臣仰云、刀禰召才、其、音、又、微、也、給、少、納少、納、言、稱、唯

退下、先、是、內、大、臣、已、次、外、辨、公、卿、內、大、臣、已、下、入、自、東

中、門、各、就、下、列、立、中、門、外、臣、自、東、對、南、階、被、檢、始、也、大、臣

召、宣、命、使、別、當、降、房、也、召、問、左、兵、舍、人、司、錄、發、隆、房、卿、

揖、離、列、也、右、經、二、位、中、納、言、列、末、入、自、軒、廊、東、間、

昇、東、階、不、見、及、進、立、南、簀、子、東、第、二、間、東、邊、方、也、

直、向、乾、不、揖、如、何、或、向、西、揖、向、乾、揖、旁、或、直、向、乾、揖、

大臣給宣命於隆房、指笏及テ取之、頗退立、西面

揖、左廻退下、降東階、軒廊東間東邊、西面而立、是、又、有

或、四、一、間、北、上、南、面、立、或、次、大、臣、起、座、經、几、子、降、長、押、

立、同、二、間、或、又、如、今、日、經、本、路、降、東、階、南、邊、有、揖、右、廻、東、行、對、宣、命、使、

揖、隆、房、出、自、軒廊東間、經、樹等東、更西進、自、御殿

異程、經、始、經、內、大、臣、後、經、其、後、之、就、標、可、立、左、大、臣

西、南、行、有、揖、斜、進、經、列、前、就、宣、命、版、位、其、三、四、尺

宣、制、兩、段、群、臣、每、段、再、拜、先、是、主、上、還、御、了、長、和、後、段、拜、

記、次、宣、命、使、拔、笏、揖、左、廻、南、行、欲、折、經、親、定、後、中、納

下、上、復、列、次、左、大、臣、已、下、揖、左、廻、各、列、我、列、後、退

下、出、東、中、門、了、列、最、末、人、或、右、廻、或、左、廻、次、余、召、光

綱、兩、大、臣、及、右、大、辨、等、仰、可、召、之、由、即、向、西、直、廣、

着三圓座、如余目發東、一、龍立屏風、二行數高麗法、與座上絕
座、天口一、四尺人數、內大臣座北一同、副北、數三、圓座、爲三余
圓座、被爲執筆座、即光綱來云、不待召、左大臣已
被參上、略被着陣、歟云々、即可被着座之山、然
而猶向陣召內大臣也、左大臣直經緣上、廻座末、
着與座、次內大臣來、同着座、被、輕內庭來也、次右大辨定長、
着端座末、余目之、定長着圓座、正笏候、余又目之、
定長召男共、可召五位
祿人名、歟、光綱參上、定長仰云、硯、續
紙、光綱退下、暫不進、頻被加催、持參之、可入自
第二間而
入自第一間、定長引寄硯、又候氣色、余目之、定長置
不、可然也、
笏摺墨、卷續紙、副笏、又候氣色、余目之、即自
懷中、取出宮司土代與之、今朝奏院注文也、再
立帳無二年號月日、定長
取之、披置前書除目、定長云、少遲兩人、或共不、
或一人圍、字、如何、永久共不、
字、續字云々、余云、長保又如此、但共六位也、五位六位之時、若置、
字、歟、然而、永久五位六位也、猶不、
圍、後例、歟、仍共不、
字、續字、

中宮職

大夫正二位藤原朝臣兼房、延
 權大夫從三位藤原朝臣家房、延
 亮正四位下藤原朝臣宗賴、延
 權亮正四位下藤原朝臣兼良、延
 大進正五位下藤原朝臣長房、延

權大進從五位上藤原朝臣長兼、
少進從五位下源朝臣兼時、
少進正六位上藤原朝臣行方、
大隅從五位下大江朝臣政職、
少屬正六位上三善朝臣仲親、兼
權少屬正六位上安倍朝臣資兼、

建久元年四月廿六日

書了、放_二紙餘、奏_二除目、置_二座下方、相_二加續紙、置_二之、發
 撤_二硯等、取_二返柳筥、置_二除目、指_二笏、取_二柳筥、進寄、可_二置_二硯上、歟、
 引_二廻置、余前、余置_レ笏、引_レ寄置_レ之、定長復座、余一見
 了、置_レ前、定長返_二置雜具、揖起座復座、退下了、余置
 了、取_二除目、與_二內大臣、大臣副_二笏起座、於_二公卿休
 所、與_二祿兼光卿_二云々、左大臣先以退出、爲_二勞_二所勞、參_二本
 被_レ申、仍光卿催_二諸清書上知_二云々、永久、大臣向_レ陣清書了、下_二式
 部、并仰_二啓陣_二事等、讓_二次人、被_二退出了、然者、今_二口口口口向_レ陣可
 讓_二次人、更_レ不及_二讓_二他上知_二歟、然而、近代事如此、這_二口口爲_二口口、
 讓_二次人、更_レ不及_二讓_二他上知_二歟、然而、近代事如此、這_二口口爲_二口口、
 日了、大臣稱、近代不_レ向、余召_二光綱、啓陣事、早可_二宣下_二之
 陣、於_二休所、與_二事云々、
 山仰、直遂_レ退出、于時日未_レ沈、西山、先是、典侍中使
 等參儲云々、此間、大夫、樞大夫等、進_二立中門、付_二亮
 啓_二事山、亮道_二殿南庇東面妻戶
 下_二啓、余在_二件戶內也、歸出復_レ列、即拜舞了、昇

堂、大夫、權大夫、權亮等、除目了、清書以前、於三司、次冊命勅使

藏人頭右近中將成經朝臣來、立中門、亮相達啓事

由、餘仰可數座之由、即諸大夫三人敷也、二人

也、次宗賴召中使、中使昇自中門內、着座、北面、

次大夫兼房、於中門廊南妻邊、五位侍從、指笏、

取祿、給勅使、一領、成經取之、進出砌

外、再拜退出了、次御物等使藏人修理亮源忠國、申事

由、仰可召之由、是永先例也、宗賴退歸、仰大進長房

令召之、是永先例也、長房降自中門內、召之、忠國參上

着座、如成經、次權大夫家房取祿、如發來、於祿所取之

給之、忠國於庭中、再拜退下、次亮、權亮、兩人參

進寢殿南口司、次諸大夫等、進大床子、被下御物、

先大床子二脚、一脚、長兼、成經昇之、

圓座、盛經持參之、

次師子形、國行、兼時、

次打敷、鎮子等、國行、

次椅子、國行、兼時、

次御指鞋、置御指、

南階東間、頗卷御簾、宗賴、兼長兩人入其內、次第昇

之也、先大床子、立御帳東間母屋、東西、其上敷圓座、

次師子形、置御帳前異坤、柱內也、次立御椅子、

如舊記、者、椅子自南階間、可昇入、歟、今日隨便

自同間、昇入也、次宗賴、兼良等退下、即仰女房、取

几帳二本、如本立南階并同東間、件二、間、不出、打出、

明門院立后例、他、召宗賴、令出几帳帷、次修理職、置火

炬屋、內匠寮、立時簡於中門內、又立御暗棚柱陣屋

云々、此間、宗賴告公口、內大臣已下、列立中門外、先

是、中宮着御々帳西平敷御座、即遣左大將、迎理

髮典侍、御乳母中納言典侍也、件人、御乳母子也、其身無夫、雖御

髮典侍、乳母之儀、能保女禮也、利部卿典侍、一切不出仕、仍點此

人、即參上、奉差表、退下、件典侍、各一本、中宮、

先是片桐局、兵衛佐等、內々奉理、御髮、上額、不

諸卿侍從、皆列了、付權亮兼良朝臣、啓事由、近南階

之、大床、中宮着御々椅子、先於椅子東邊、之後、仰聞

食了之由、兼良朝臣退下、仰聞食之由、出中門了、

次內大臣已下、列立前庭、上首當、南階東間柱、而立、俟

侍從一列、皆悉立了、再拜、于時、日入未暮、燈、公了各經列

前、退下、內大臣、進、自中門內、着圓座、侍從昇自中

門廊北一間邊、取盃、余起座、於四位侍從座上程、公
也、跪指、笏取盃、亮季和授、孟、直折數持來也。欲勸與座之間、左大
臣參入、着端座、仍余又歸、經廣庇、居左大臣上、大
夫又經公卿下、并與、居內大臣上、同時入酒、各勸
之、余瓶于左中將親能初臣取之、權亮可取之、而依有父子之禮、用他四位、與座瓶于光緒也。余放盃、拔
筯、左大臣授孟於次人、之後、揖直居、昇本座、大夫
不復座、次二獻、端座極大納官隆恩、與座極大夫家房次居、余手長彈正臣、左大臣手長以政朝臣、內大臣手長時發朝臣、件時
盤下家司、自院備賜也、大納言已下、與座各一人、四位侍從座、
次五位役送、皆悉居了、定長申上、余已下下箸、又如
形食之、次三獻、端座左衛門督定能稱、與座極大夫家房五位
侍從座、初獻、大進、二獻、與座極大夫、三獻、又大進云々、不可次
居飯、手長、役送、次居、有進居了、申上、下箸如
恒、次居熱汁、有進物、居了申上、下箸如恒、次居菓
子、次諸大夫敷圓座於寢殿南簀子、陪東并透渡殿等、
宗賴示氣色、余已下着簀子圓座、北面次居、有物、大
三本、自餘二本、手長役送同前、但大臣之
外略之、簀子太無、便宜之故也、次勸盃、右衛門督親親、
國、先是、砌外敷召人座、陪從六人着座、給三衝重、次
置御遊物具、次殿上人參進、次糸竹合音、此同仰可給
由、雙調、安名尊、鳥破、席田、律、伊勢海、萬歲樂、三
急、永久、此定也、而律時、絃管同音、更衣、五常樂急、次

給公卿祿、先參議散三位、次大中納言、次大臣、亮、權
之、各加、次公卿起座退下、余起座歸入自初所、次
機物掛等、供御膳、出自御飯宿、經透殿并簀子等、自大床子
間、供之、陪膳采女候、簾下供之、先是、中宮經御
帳後、着御大床子上、以三尺几帳、立大床子上、
角、又取母屋際几帳一本、立同間端簾下、本几帳、頃
合兩几帳、自其中、威儀女房八人、中儀四人、列居同間庇、
央、取入御膳也、中儀四人、在北、二行、先南端下膳二人、昇一脚、如、立
下膳四人、在南、二行、大床子前、殿、手、次北下膳二人、昇今一脚、同立之、
次御膳等、次第供之、各居陪膳、一々取居之、返給
盤、皆悉供了、陪膳取箸一雙、進中宮、余候御邊、
申次第、先取最花、一箸食給之、返給箸、陪膳折
懸其端、返置馬頭盤、次召盤取居之、撤御膳等、馬
頭盤同撤之、不撤大床子等、即供夕膳、如初、撤
御膳了、昇出大床子、次供御手水、主水女官供之、先
供手洗、可居、蓋、而不居、失次椀二口、次銀器二口、居
一口入、也、實寶追（進力）出也次手掛篋、皆供了、陪膳取御楊子進宮、
入、如、形仕之返給、次洗手給、次可洗、而次罷出之、
次、宮渡御常御所、威儀女房退下、次余出上達部座、
仰御匣殿、宣旨、內侍等、於大夫、大夫仰亮、亮成令

官、下、知、應、云々、御座殿左大臣女、哀旨、光長妻御乳母、次又

補職事、五人、長曆例也、忠孝朝臣、高、次有、應始、光、權亮、共

也、次大殿祭、御攝後、出、自、西間、次御膳宿、次御湯殿、次進物

所、次宮司下、格子、次名調、亮已下、參、候南簀子、權大

進向也、侍等在、庭云々、次啓時、本儀、應始廿八日

也、而自、明日、入、五月節、仍今夜始也、

廿七日、庚、雨降、申刻、人々來、乘燭余出、庭、衣冠、薄色

一獻、持、米盃、可、居、折敷、而、持、手、失、也、余取、之、巡、

流殿上人座、大進、次五位了、瓶子、二獻權大夫、殿上人

座權大進、次居汁、次三獻、別當殿上人座、大夫進、次居

菓子、次人々起座、次余歸入、供、御膳御手水、如、昨、

房不、上也、長曆例也、三月一日皆

廿八日、辛、雨降、立后第二日也、公卿少々來後、先始

公卿座事、余如、昨、着、衣冠、出、座、大夫、左大將、平中納

座、次殿上人雅行朝臣、公經朝臣、宗隆等、着、廣庇座、

次一獻、亮宗賴朝臣、持、參盃、居、折敷、瓶子余取、盃、宗

入、酒、擬、大夫、巡流了、殿上人座、大進長房勸盃、

瓶子取、次二獻新宰相中將、上五位殿上人座、權大進長

兼、瓶子取、次居汁、飯本余手長伊與守季長朝臣、大中

納言手長役送諸大夫如、恒、殿上人座、次五位役也、次

公時申上、下、箸如、恒、此間、權大納言隆忠來、次三獻

平中納言、瓶子殿上殿上人座、少進兼時、瓶子次此間、季

經卿參來、次居菓子、手長前送同、前、次殿上人起座、

勅使未、來、仍且可、供、御膳、之由仰、之、余入、簾中、

次供、御膳、如、昨、次供、御手水、同、前、此間、公卿等

猶來、三位中將公衡、二位宰相雅長等卿來、小時、御書

使左中將實明朝臣來、權亮相逢、申、事由、東面退歸召

之、今日、親昵人、無、謂、取、御書、此間、諸大夫敷、座、高麗、

枝、諸大夫役、之、透渡殿、又敷、圓座五枚、勸盃公卿料也、

南、寄、西邊、也、又敷、圓座五枚、勸盃公卿料也、

次中使實明朝臣、持、御書、昇、自、中門內方、參上、就、

殿南庇東面妻戶下、獻、之、女房大貳取、入、之、余取

之、持、參御前、進、中宮、御覽之後、余書、御返事、

之、紅清儀一、以、今、一、重、此間、有、勸盃、一獻權大納言隆

忠、二獻平中納言、三獻二位宰相、四獻新宰相中將、已

上皆居、圓座、給、肴物、有、轉盃、五獻權大夫、雖、敷、

圓座、不、着座、先例也、次公卿等、自、下、廊、起座、次

自、簾中、押、出、祿物、女裝御書、實明就、簾下、指、笏取

之、直退出、不、拜、依、初次諸大夫、撤、座并肴物等、次

佐參入之由、仰可着座之由、次左少將定家朝臣、右少將高通朝臣、左衛門權佐家實、右衛門權佐長房、預爲言司、右兵衛權佐親兼左近衛等者座、中門廳、次一獻權亮兼良朝臣、瓶子詰二獻大進長房、起啓將座一勸之、瓶子取三獻權大進長兼、次殿上人四位已下、取祿給之、次將佐起座、此後可有氏院參賀、而日來人衆未參、其間、卿相、數刻難談云々、余即歸入簾中、了、此間、別當參入云々、秉燭以後、猶以不參、此間、隆等稱退出、依無所役、度々遣使、及戌終、逼以參集、余出客亭、氏院有官別當已下、列立中門外、大進長房、入見參二通於宮持來、余見了返給、仰可啓之由、長房取之、直經彩殿西簀子、就南庇東面妻戶啓之、女房取之、持參御前、御覽了返給、須留御所也、余兼長房又持來、余取之置前、長房取空宮退下了、次有官別當已下、秀才、學頭、學生等、列立前庭、于時雨即暫止、仍不、二拜了、昇自中門內、着座、北上、有座、座下之、要次一獻、與座大夫、端座左大將、各於座末、取盃、自座後進、也、次一獻、先除座于上、上葉月、數座、公卿勸盃人於後、葉月內、取盃、有盃宜、今座上無路、仍、次二獻、與座中納、次朗詠、於座下、取盃、專失、盃宜也、

嘉辰令、次三獻、與座新宰相中將、次居汁、諸大夫、居也、次箸下、次

四獻、與座宗親、端次復飯、次五獻、與座宗親、端次居菓子、次撤饗、諸大夫、次給祿、諸大夫、次學生等退出、次有奉幣定、大進長房、先入日時勘文於宮持參、一通奉幣日時、來月三日、一通一宛、日時余見了返給、仰可啓之由、須留御所、加定文可啓、長房取之、如初啓之、返給、持來宮、置余前、次長房退下、次立切燈臺舉燭、諸大夫、次長房持參、觀、續紙、居廣庇、拔笏候氣色、余目之、無例文、大治、長房書定文、書了、撤觀覽之、余取文、返給折敷、依有宮也、余見了、卷籠日時之禮紙內、與大夫、大夫見了返上、余返入宮、給長房、可啓定文之由仰也、長房又就簾下啓之、返給、硯已下取之退下、次余歸入、次有所宛事、以東廊爲座、大進執筆云々、余不見之、可尋記之、

次押宮司分配云々、

今夜、又仰職事、別口別當可仰下、而忘却、明後日可仰也、

廿九日、壬今日、雖可撤御裝束、依日次不宜、明日可撤之、自今日御手水、於御所近邊供之、女房三人、各一人、着釵子、不上、供之、即撤之、又日御

膳、自_{膳所}供之、同女房三人、役供之、已上、每日事

也、但於三日御膳者、旬日一日、十一日、不供之、采女依

參勤也、件御膳、用御大盤、如三ヶ日儀也、

卅日、西_晴此日、氏寺參賀也、又今日、依爲吉日、

撤_所御裝束并御倚子等、

〔寢殿、撤鎮子、差筵等、自餘如本、但今日依吉日、

撤御倚子、賜掃部寮、其儀、權大進長兼、少進兼時參

入、昇出之、同撤之、自中門內方、給掃部寮官人、

件官人給、其跡、如本敷經綢、立調度、但今日不立之、

女房不出袖、只出几帳帷、如例、寢殿北底東面妻

戶、立后日、彼妻戶扉、懸掩簾爲祿所、如本立扉、

元被立之所也、出几帳帷、東北二棟廊、元公備、撤母屋

簾、懸庇、立后妻座也、皆撤母屋際屏風、差筵、東中妻

戶、如本立之、西第一間南面、撤格子、如本立妻

戶、件戶、尋常、又同間東妻戶、同立之、依同數不定、要之時、

入之公卿侍臣等之所、件妻戶以東四ヶ間、爲女房謁參

殿上座、謂之殿上、同屋東底、數紫端疊二枚、爲

下之、同東面北間、上、懸懸簾、出几帳帷、爲女房

謁宮司之所、其前卯西廊、數紫端四枚、爲宮司候

所、二棟廊北面、撤屏風几帳等、與侍、中門廊、紫疊撤

之、侍上二間不敷疊、追案之、件所、猶敷疊、下爲臺上之

無可設座之理、其所從未可置兩所、中門南廊、并寢殿西

子午廊等、掩簾皆撤之、但參賀以三件西廊北三ヶ間、

爲余方公卿座、東面、格子二間、妻戶一間也、自宮御方寢殿、顯見

立出唐垣、今日依爲參賀、中門內外、及門前、更掃除、

又敷砂、未刻、公卿少々來、大夫兼房卿、左大將良經

卿、大宮權大夫光雅卿等也、

申刻、興福寺僧徒參入、列立東中門外、亮藏人頭宗賴

朝臣、降自中門外、已上効、謁之、取見參歸昇、各覽

宮入之、入自中門廊南妻戶、經透渡殿、就寢殿南

庇東面簾下、啓之、女房取入之、治部卿取入之、當時依

其入、余居同所、見之、持參覽宮、御座寢殿、返給覽

宮、宗賴更指笏、取之歸出、返給宮於侍所、如元降

自中門外、告仰可引立中門內之由、即歸、次別當

法印覺憲已下、入自中門、列立、北上四面、兼不存敷、欲進

之、中門內北廊間有樹、其面列立、庭中、仍余置_{並力}致訓

也、三綱五人、南方四上北面、列立也、合廿一口、是代々定例也、

次大宮權大夫光雅卿、於中門、降自中門外、也、挿笏取祿、

玉葉

卷第五十七

五七

白大褂、入中門、自僧綱與三綱之間、經列前一

授別當法印、下立拔笏、左廻經、本路退歸、自中

門外歸昇了、次亮藏人頭宗賴朝臣、同捧笏取

祿、經同路、授權別當法印範玄、跪捧笏、左廻

退歸、已下四位殿上人、左京大夫經家朝臣已下、次第

取之、依殿上人不足兩三人、二反取之、雖地下官司取之、五師得業、猶殿上人可取之、而諸大夫取之、失也、

大夫、取三綱祿、次僧徒自下廂退出、各着白平袈裟

也、次法性寺僧徒二口參入、供僧阿闍梨行替、上座法橋辨重、宗賴相逢、

取見參啓之、次第如初、次兩人列立中門內、只依二口、無供僧所司之差別、一列立也、

次大進長房、權大進長兼等、取祿給

之、各退出、次法成寺供僧上廂權大僧都延景已下七

口、三綱三口參入、宗賴取見參啓之如初、次列立

中門內、如興福寺、亮宗賴朝臣已下、殿上人、官司等、

取之、三綱祿、諸大夫取之、次退下了、次大夫已下退

出、

永久例、

山階寺別當眞範僧正祿、權大夫中納言左兵衛督經

輔取之、

權別當權少都之祿、四位殿上人頭取之、今度、

正權別當、雖爲同職、又爭無正權差別哉、仍公

卿取別當祿、亮兼貫首、不可比他殿上人、仍

取權別當祿也、別當爲僧正之時、多大夫取之、

延久、別當法印祿、大夫資綱取之、但仲納言也、彼

是共依其人、可有斟酌歟、

永久、權別當已下參入、大治、別當許參入也、

應保度、中門內引慢之由、慥覺悟、然而、年々記不

見引慢之由、彼例、強非規模、仍今日不引之、

祿法、

役人、

五月

一日、寅、甲天晴、小浴解除、着衣冠降庭上、奉拜

太神宮、爲新立后事、自去正月有此拜、於今者、

雖可止之、有所思、暫不止之、今日、終日神事也、

山階寺僧綱已下、爲訴訟雖可來、依神齋、明日可

來九條之由、所仰也、此亭爲宮御所之上、余方

藏人所障子上、其所狹少之間、數輩寺僧難參集之

故、可來會九條堂之由、下知者也、

二日、卯、乙天晴、未刻、向九條堂、先是、寺僧百餘人

來集、親雅朝臣同參候、即以中門臣問子細、先所司

俊範、申_三乘徒申狀、其後、寺僧等申_三所存、其中貞愛已講、殊申_三子細、是石清水〔宮〕寺領、切山住人、與_三天山和入、依_三時二月之間事、也、此事、去三月院御熊野詣以前、寺家訴申、奏_三事由、依_三院宣召切山犯人、而別當成消、左右通_三之、卅餘々日之間、敢不_三召進、仍衆徒成_三鬱憤、發_三向切山、可_三燒拂_三之由結構、殊加_三制止、又仰_三子細於成消、所_三召〔取〕彼犯人也、其後、天台方、召_三證人於氏院、先召_三問兩方、非對決也、此間、法皇還向、其後以_三兩方申狀、奏聞之處、犯人不_三臣伏、申_三於使廳、可_三被_三決之由、被_三仰下、仍以_三彼院宣、家宣、仰寺家_三之處、驚_三其事、寺僧等群參所_三訴申_三也、其趣、古來於_三衆徒許_三者、云_三與福寺、云_三延曆寺、全不_三召證人、不_三決_三眞僞、只任_三申請、被_三斷獄者例也、是非_三霄崇_三一宗之佛法、衆徒議定、無疑殆_三之故也、雖_三社寺之訴、雖_三尊貴之條、任_三法被_三處_三罪科、是皆輕忽微少之訴也、更不_三及_三今度之濫行、而強被_三召_三證人之間、愁以_三召_三進之、以_三件申狀、被_三問_三犯人之處、所_三申不_三詳、頗無_三所_三遁歟、雖_三似_三指申、實犯證據不_三分明、次第申狀、前後相違、殆所_三謂奏事不實歟、不_三及_三使廳之沙汰、早可_三被_三斷罪、可_三被_三禁若猶雖_三及_三使廳之沙

汰、若無_三承伏之狀、可_三及_三拷決、訴人又可_三有_三返拷、是法意之所差、使廳之故實也、以_三之謂_三之、寺家之訴、還可_三被_三處科_三歟、一寺同心之訴訟、未_三有_三如_三此之例、殆貽_三寺之瑕瑾〔之條〕、豈又非_三氏之耻辱哉、是、次此事、倩案_三事趣、偏別當成消〔之〕結構也、先々、卿相已上及_三罪科、全雖_三不_三知_三其事之根元、推而處_三造意之首、被_三行_三刑罰、如_三此、況今度之事、成消之過非_三一、始_三日不_三召進、事、并犯人指_三實犯_三之、仍先可_三停_三止成消之所職等、是、次依_三今度之犯過、可_三領_三知彼切山相論之地、是又非無例、先年與_三當寺與_三東大寺、有_三如此之濫行、依_三其事、改_三東大寺領、爲_三我寺領知行_三來、〔又余以_三〕之思_三之、彼相論之地、於_三今者、不_三及_三理非之沙汰、可_三爲_三御寺之進止者、是、余先此條々事、仰_三子細、成消犯過事、無_三指證據、無_三左右_三難_三斷罪_三事、并相論之地、不_三經_三沙汰、可_三知行_三之由、事似_三奸佞、甚無謂之由等也、然而、猶可_三奏聞_三之由執申、仍付_三家實_三奏聞_三之、據所_三召_三移、刻之後、家實歸來、傳_三院宣_三云、於_三犯人之科斷者、任_三申請_三不_三經_三使廳之問注、可_三給_三獄所、於_三今兩事者、非_三裁斷之限_三者、即以_三親雅、仰_三寺僧等_三了、又私有_三訴申事、是氏院公文、院司

貞職與御寺下所司等、致闕諍之故、可被處勘之事
云々、問親雅之處、寺僧申旨有理、貞職無披陳方
之由所申也、仍早可停所職之由下知了、仍兩事已
裁許、僧綱已下成、悅退出了、其後、別當法印覺憲來、
余相逢、仰衆徒之間事、如此之間及亥終、即以參
八條院、子終歸大炊御門了、

三日、丙辰〔天〕晴、此日、中宮八社奉幣也、辰刻、文章博
士光輔朝臣持參告文草、先內々見之、依有不審事
等、以長房問之、條々以證文陳申之、依有先
例等、不改直之、告文料紙自藏人方未渡、持參之
後、且以清書、少內記二人、外記一人候參候、已刻、大夫兼房卿、相具權亮
兼良參入、大夫候殿上、相次權大夫家房、同參候殿
上、使々大略參集、先是、中宮有御湯殿事、無鳴鼓、初
度之外、無新御湯帷自廳進之、其後着御帳南面平
敷御座、着給御物具、唐衣等、御衣ハ以引腰結之、不付小陪
膳御座、腰也、又雖不理、御裝蓋格綴手、是使事理所爲也、
膳御座、同差銀子、不理、着物具等、可然之中膳等
各有障、仍兵衛督殿、爲取入御贖物之役人、裝束銀
陪、兩人候御座前、此間、長房入告文草於覽宮、就
寢殿南庇東面妻戸簾下、啓之、女房取入之、余先見
之、余今日浴之、着束帶、是水承例也、大治依御所旁之間、着給直衣、久安、宇治左大臣着衣冠、今日依水承例也、其

玉葉卷五十七 文治六年（建久元年）五月

後、余持參御前、中宮御覽了返給、仰可清書之由、
件草、先覽大、此使二人、賀茂使保朝臣、平野使雅行朝臣、已終、清
夫之後啓也、臣等也、願以備促、暫待參入、
書告文了、件兩人猶以不參、仍賀茂使改隆保、入成家
朝臣了、件人、爲餘分相備、早雅行雖遲參、吉時也、欲
過、仍且仰可啓清書之由、即長房入告文清書
八通於宮、先覽大夫之後、就初簾下啓之、余先見
之、即覽中宮、返給了、件清書、每告文有表書、各書社號、
常文如此、而永久書兩字、仍今日追彼例也、長房取之、置大夫前、次有御禊
事、陪膳右近衛中將忠季朝臣、件人、職事上備也、始備使申、
不憚、猶相備之處、陪膳無其人、亮持御贖物、自南階間簾
下、供之、兵衛督殿、取入之、傳大進長房、取今一前相
從、忠季傳取供之、次第如初、次宮主、持大麻參進
中門邊、忠季朝臣、於中門北廊西簀綠南妻、跪指笏、
取之參進、如初自南面簾下進之、女房次第傳取、
中宮取志手、撫之吻之了、返給、陪膳取之、於初
所返給宮主、宮主取之着南庭座、以就爲宮立也、次
讀祓詞、敷、小時起座退下了、御禊之間、中宮自解解
繩、撫人形給、各入敷米、次石清水使刑部卿源宗雅朝
臣正笏、若、入自中門、於西案北頭、跪指笏、其實、
取第一幣、八幡御幣也、自本立、此間、中宮有御拜、向社

六百十七

殿拜畢、大使如_レ本倚幣、跪拔_レ笏、其自_二國中_一、歸_二中門外_一、次賀茂上下、六社使、平野使推行、編以通至、次第列參、各跪_二案北頭_一、同時指_レ笏取_レ幣而立、此間、中宮次第有_二御拜_一、始自賀茂、終吉田、各向其社方、其事訖、余仰_二可_レ從_レ幣之由、仍各返_二立幣_一、跪拔_レ笏、各不_二國中_一、如_レ法、歸_二出中門_一了、次小使廳官等參進、取_二八幡已下幣_一、出_二中門_一、對_二於_二待_二使_一、次八幡已下使、任_二社次第_一、一々參進、大夫於_二殿上_一、居_二向座_一、賜_二告文_一、各副_二笏退下_一、相_二具幣物_一、參_二向本社_一、此中間、雅行朝臣參入、長房申_二此由_一、余仰_二早參入可_レ取_レ幣之由、仍雅行參進、指_レ笏取_レ幣立、中宮向_二平野方_一、又拜給了、余告示、仍返_二置幣_一退下、直參進給_二告文_一、至_二于典_一、見_レ退下、此間、小使進_二取幣_一退下、次中宮渡_二御常御所_一、余出_二殿上_一、謁_二兩大夫_一、次長房已下、宮司三人參入、撤_二御拜座_一、所司、自_二座_一上、給_二之下_一、給_二御_一、此間、余召_二宗賴朝臣_一、仰_二行啓御祈之間事_一、次余歸入了、即大夫退下、小時權大夫退出了、

今日、先早旦、宮司供_二御拜座於御帳前_一、先撤_二元平敷御座_一、其跡立_二廻五尺御屏風_一、其中敷_二小筵二枚_一、其上敷_二高麗端半帖一枚_一、南面有_レ口、又庭中當_二南階間砌下去五許丈_一、立案一脚、東面、東、西、相並立_一之、八社御幣、每案各

四捧行_二立之_一、其北敷_二宮主圓座_一、始用_二四座_一、仍改_二直敷_一了、其以東、使等料管圓座敷_二八枚_一、宮主圓座西南方立_二八足_一、余仰_二長房_一撤_レ之、神祇官祓、不用_二八足_一之由、有_二所見_一之故也、猶依_二不_一密以_二長房_一問_二宮主_一、又雖_レ敷_二其座_一、使等不_二着座_一也、理須_二着_一座也、然而永承以後皆以不_二着座_一也、仍使_二々不_一着也、

幣物事、所宛以後也、須_二御季所勤_一之、然而御封未_レ濟也、又事卒爾也、仍申_二無_一用意之由、之間、仰_レ廳、爲_二年預資兼沙汰_一相_二催之_一、少々事、余納殿、又致_二沙汰_一云々、永久例、即應_二儲也_一、但彼所宛以前也、然而已叶_二後例_一了、

〔告文、

使等、

石清水

刑部卿源宗雅朝臣、

賀茂

右少將成家朝臣、

松尾

散位能季朝臣、

平野

右少將源雅行朝臣、

稻荷

左少將定家朝臣、

春日

權亮右近中將兼良朝臣、

大原野

左少將高通朝臣、

吉田 中務權大輔忠行、

吉田使、初催左衛門佐資能、而繼服以後、七ケ日内也、三ケ日以後、雖不可憚、本社申七ケ日之由、又他人已領狀、仍重召催也、

今日、中宮御神齋、僧尼、重服、輕服、姪者等、不參宮中、月水人在座、不參御前、仍輕服人除服了、參御前也、久安、大宮有前後齋、而即件左府記、不可存前後齋之由、引寬仁小野宮記、被注也、臨貳祭、又無前後齋、仍只當日齋也、家實來申條々事、棟範依服假、辭申役夫工事、仍昨日奏聞之處、可仰親經者、親經只今參入、棟範服同人在之、仍重可奏之由仰了、自今日、被始今熊野御精進了、四日、天晴、入夜、宗賴申條々事、五日、進藥玉、又進昌蒲、御樂湯事有沙汰、内々供大盤所、

六日、宗賴、自今熊野來、仰條々事、

七日、庚天陰雨降、及晚頗休、此日、臨時伊勢幣也、

依内宮心御柱顛倒、被發遣之、即自今日、廢朝五ケ日也、夫天仁、外宮心注顛倒、廢朝三ケ日、天永例、上福中宮大奉夫兼房卿、於宗隆、内宮之度五ケ日也、今依内宮例、奉行職事藏人左京權大夫光綱也、依御物忌、於御殿

有御拜、余、申刻、着直衣參内、是依幣物不具、至于今、朝臣猶未有一定、仍猶豫之間、幣物不具、自院有御沙汰、具之由、宗隆所申也、依之、告存一定參入之間、所遲々也、于時、光綱、宗隆等伺候、即上卿參陣、宗隆、内覽日時、申、今月今日、余於二間、見了返給、次以光綱、仰宣命之趣、大抵、依天永例、仰可被、廟可有誤、是年限運宮、近在九月、其程不幾之上、可立假殿之上也、已遣雜宮、仍召祠官等、被問于細之後、可有左右之由也、并今年御領、聊注一紙給之、大内記稱病、今日不參、文章生内記以業草之、如此大事、猶尤大内記可出仕也、不然者、又可被仰儒辨歟、而親經服之間、只被仰少内記也、又廢朝事、幣帛發遣之後、可被仰、次是廢朝以後、不能舉公務之故也、然即天永例、發遣以前、於陣被仰云々、見師遠紀、所注遣也、仍今日被追彼例、晚頭、光綱持來宣命草、見了返給、仰可清書之由、卒、仰宣命草、其狀、雖須懸候御物忌之間、依無其要、清書了之後退出、

〔八日、中宮聊不例、御咳、仍始樣々祈等〕

玉葉卷第五十七終

玉葉

卷第五十八

自應久元年七月
至同年十二月

建久元年
七月

〔一日、^五癸小雨、光綱來申云、神泉御讀經、今日滿^三五箇日、昨日雨降、可^三結願之由、覺成僧正所^レ申也、何樣可^レ候哉者、余仰云、近日雖^三小雨降、不^レ及^レ霑^三率土、早可^三延行者、又申^三公卿勅使驛家難事之間事、入^レ夜、宗賴朝臣申^三石清水宮修造之間事、當宮先例無^三假殿遷宮之由、先々有^三其沙汰、而今度大破之由、成清所^レ申也、仍可^レ爲例之由仰了、官外記追可^三勘申之由申之、且師尙朝臣勘文所持來也、延久二年有^三沙汰、行^三御占、雖^三造儲假殿、追猶有^レ議、遂不^レ遷^三御假殿、奉^三移殿內、他間被^三修造云々、又方忌事、於^三舊神社者、不^レ避^三方忌之由、師尙并在宣等勘申云々、近則宇佐宮造營之時、不^レ可^レ被^レ憚之由、事切畢云々、又申^三他條々、前宮內卿季經來、召^三簾前、談^三和歌事^二〕

〔廿一日、^甲戊今日向^三九條、自^三明日可^レ始^三恒例念佛之故也、〕

廿三日、^乙亥午刻、先請^三法然坊源空上人受戒、次始^三恒例念佛、今日、先沐浴、今日、法皇參^三給日吉云々、卅日、^壬午念佛了、入^レ夜歸^三大炊亭、先向^三大將亭、見^三所勞^三太以大事^三見、歎思事不^レ少、可^レ始^三祈等事、致^三其沙汰、

八月〔小〕

三日、^乙御方違、行^三幸大內、曉更還御、余以^三車參^三會自^三開路、今日、別當通親卿、稱^三院宣、示^三使廳夜行之間事〔等〕

四日、^丙〔雨下〕、北野祭、立^三神馬十烈^四、如^レ例、陪膳季長朝臣、使難色忠光、今日雨下、

五日、^丁釋奠也、雨下、

六日、^戊雨下、祈年穀奉幣、上卿權大納言隆忠卿、辨右

中辨親經、職事家實、當日有_二日時使等定_一、尤不當事也、酉刻發遣云々、余有_二勞事_一、在_二里亭_一、入_レ夜參內宿候、

七日、_丑雨下、此日、公卿勅使日時定、上卿內大臣、辨定經、又有_二勅使召仰事_一、戌刻、權大納言賴實卿、參_二內殿上_一、以_二五位藏人光綱_一仰_レ之、參宮來十八日也、勅使今日可_レ被_レ延之由令_レ申云々、

八日、_寅天晴、白地向_二九條_一、大將祈、以_二隆憲法印_一、奉

供_二養樂師佛_一、同經十二卷、又自_二今日_一、_二尊勝_一、_二宗嚴_一、_二律師_一、不

勸_二法橋_一、修法始_レ之、件所勞、昨今_一始_二祈等_一有_二減云

云、入_レ夜歸_二參內裏_一、

十三日、_乙公卿勅使前齋如_レ例、

十四日、_丙雨下、此日、_二發遣_一伊勢公卿勅使、勅使權

賴實卿、上卿內大臣、辨定經、光範朝臣、草_二進宸筆宣命_一、余

清_二書之_一、辰刻、小浴解除、着_二衣冠_一、參內、奉行職事

光綱、豫以參候、神寶持參了云々、即參_二朝餉方_一、上猶

御寢、示_二女房_一奉_レ驚_レ之、先可_レ有_二御浴殿_一之由、示_二

置女房、參_二宮御方_一、即退_二下直廬_一、此間、宸筆宣命作者

式部大輔光範朝臣參入、余於_二客亭_一召_レ之、即持_二來宣

命草_一、_二禮幣三枚_一、_二書之_一、_二加禮幣_一、余取_レ之、開_レ封見_レ之、一

如_二本數_一、_二重御座_一、

所有_二加入事_一、_二召光範於_一、即退下、余歸入、欲_二御覽神寶_一之處、頭未_レ參、_二前入_レ之、_二頭中將成經朝臣、院卿

之由、未_レ參云々、仍余且清_二書宸筆宣命_一、光綱進_二硯

續帶等_一、_二硯筆、_二墨、_二小刀、_二檀香_一、件檀香不_二尋常_一、仍以下余所_二

用意_一之檀香、清_二書之_一、書寫漸了、此間、宗賴朝臣參入

云々、仍參_二御所_一、先是、御裝束了、_二御引直衣、_二紅御袴、_二白生

支、而內藏頭不_二訓導_一、至于_二余供_一、御手水、即以出御、着_二御

御帳間庇圓座、_二面、_二余候_一、御帳南間母屋圓座、_二面、_二先是、

撤_二畫御座_一、其跡敷_二大床子圓座_一、爲_二御座_一也、同南第

一二間、副_二奧端_一敷_二長筵_一、次五位殿上人、并藏人等、

運_二置神寶件筵上_一、_二內宮東廂、_二外宮西廂_一、皆悉置了、召_二藏人頭宗賴_一、

御鏡、并金銀御幣等、備_二御覽_一、_二內外宮共覽_一之、御覽持_二參_一也、是

次有_二御馬御覽事_一、此間、余退_二下宿所_一、比_二校宣命_一、

端一枚書改續_レ之、次改_二着束帶_一、參_二御所_一、即光綱

覽_二宣命草_一、見了返給、此間、御裝束了、次覽_二清書_一、見

了返給、又更奏聞、_二此事無_一、_二內覽奏聞可_レ有_二兩度_一、_二草同可_レ然

如何、此次申_二使王御馬之由_一、仰_二聞食了之由_一、此間、

請_二申宸筆宣命_一、封_レ之引_二墨_一、_二不加_一、次出_二御查御座_一、

先是、撤_二圓座等_一、余候_二御座北間_一、_二數_一、次召_二宗賴朝臣_一、

如_二本數_一、_二重御座_一、

召勅使、宗賴實卿參上、先候南一間簀子、依主
上御目、自簀子北進、跪候當間、余示氣色、即指
笏昇長押、更立昇小膝行進寄、主上給宣命、以文下
以右御手結之、簀子御座之後、余進宣命了、仰云、能ク申テ奉レ、十八日可
參宮、勅使給之退下、拔笏取副宣命、起退下、余
以宗賴可燒宣命之由仰之、先是、上卿參神
祇官了云々、次余參宮御方、頃之歸參內御方、間
伊勢幣發遣了哉否、小舍人未歸參云々、小時、小舍
人歸參、申發遣了之由、仍主上渡御南殿、御裝束未攝
却也、數座道如恒、右中將基宗朝臣、取余取御下襲、宗賴
重御座御前、又召御草鞋如恒、余取御下襲、宗賴
取余下襲、藏人持候御笏、經二棟廊南簀子、并南
殿北庇等、入自中戸、更東進着御々拜座、於屏風
下獻御笏、宗賴進之、於御座下脫御草鞋、次御拜、兩
拜、仍進御草鞋、次返給御笏、次還御候御裾、如
初、次余退下直廬、改着直衣、參宮御方、及晚參
內御方、小時退出、

十五日、雨下、放生會、上卿通資卿、參議辨親雅、法
皇有御見物、如例也、

十六日、雨下、駒牽、上卿通親卿、霖雨之間、有天下
之損、又勅使、途中大河太多、仍旁可被行御祈等、

今日所被行止雨奉幣也、上卿同人、入夜發遣、宣
命辭別載公卿勅使事、

十七日、已暴風大雨、自曉、更殊太、終日不止、鴨川、

桂川、各以洪水、近年少比類云々、此日有霖雨之

御上、上卿兼光卿、官寮共卜申巽乾神祟之由、又仰

神祇官人、申定輔令參龍神祇官、令祈止雨之由、

又仰東大興福延曆等寺、令修仁王經御續經、止雨御

讀經依禁中神事、於陣不勘日時、內々問日次、

以御教書、各仰本寺長吏、光綱奉行又成宣旨給之、又

仰東大寺、興福寺、延曆寺等、令修仁王經御讀經、又

仰神祇官人中臣定輔、令參龍神祇官、令祈止雨

之由、又勅使途中依不審、明曉差飛脚可遣之、

此次、心御柱來廿五日可奉立之由仰之、廿日依可

指合勅使參宮之故也、差遣宮使二人、所下人二

人、此上、能保卿召使者、相副之、且是驛家事、仰國

司之上、爲下知彼郎從等也、

十八日、庚子天晴、止雨御祈、并勅使途中雜事、心御柱

事等、致沙汰旨如此、昨日、洪水泛溢之間、人不能

通、仍今日奏聞之由、以宗賴朝臣奏院了、入夜退

出、

十九日、辛丑雨下、勅使去夜申云、依洪水一日逗留、廿日可參宮、猶若可延引ハ、又重可申、不然不可申云々、

廿日、壬寅雨下、至今夕、每夜有御拜、今夕又有止雨幣、以藏人爲使、被進寮御馬、例也、今日、奈良僧正被供養持佛堂、余引與馬一疋、

廿一日、癸卯〔天〕晴、參入條院、般富門院等、欲參鳥羽、路有煩之上、不參之由有仰、仍〔不〕參、參内、早旦召典藥頭賴基、加灸治、先指點也、今夜無御拜、勅使重不申之故也、宗賴云、祇園所司申云、昨日、廿日辰時ヨリ、至今日、灰毛ナル〔女〕犬參寶前、スロノ木ヲ、數反遶行、又出門廻諸神社、次又歸入大門内方、一丈ヲトテ、又行道、于今不止、人欲飼食、不喰之、清淨調備飼之時喰之云々、實奇異事歟、可問准據例、又可奏院之由仰之了、

廿二日、甲辰雨下、巳刻、密々向宇治、灸以後不可遠行、仍先以所向也、來十月可有御幸、件御所事、爲見廻也、昨日指點、明日可灸也、余向宇治〔之〕間、宗賴於九條邊逢途中、傳院宣等、廿三日、乙巳雨下、終日加灸治〔今日、謁法印棟範、

申大内修造事等、未申覆勘之國々、早可申覆勘之山催之、又遂不致沙汰所々、申事由可催之由仰了、

廿四日、丙午雨下、今日又終日加灸、召賴基、問神人所在不審事等、宗賴、親經、光綱、宗隆等、〔各申〕條々事、申之、止雨御祈等事、猶可申沙汰之由、仰宗賴了、

廿五日、丁未雨下、此日、太神宮御體、奉移東寶殿、奉改立心御柱、明日可遷御本殿也、自今夜、被始修止雨法、不動、覺成僧正、於本坊修之、

廿六日、戊申風雨殊太、此日、依大神宮遷御本殿、西寺國忌、被付寺家了、先例、假殿遷宮時、公家神事哉否、忽依覺悟問人々、〔入道關白、兼光卿、師尙朝臣等也〕各無懺存知之人、然而、事已希代也、仍可被付寺家之由、官外記所申也、

廿七日、己酉〔天〕晴、及晚、密々召法印童輝、於西壁見之、經家卿、忠季朝臣、宗國朝臣等、在前廣庇、中宮女房、一兩密々來見之、舞了、宗國唱催馬樂、頗不堪事歟如何、

廿八日、庚戌〔天〕晴、此日、止雨十社奉幣也、〔伊石賀松平、稻春、日北、祇〕

也、此中、伊、平、稻、北、祇等當御卜方角社也、其外、臨時被加申了、上卿內大臣、八幡使右宰相中將實教卿、

廿九日、亥雨降、此日、於三十社、有止雨御讀經、仁王除伊勢入大原野、此外、皆奉幣之社等也、今日、即定日時、明日雖爲遷宮、自今日被始、不可有_二其憚之上、散所佛事、又非無例者也、右中辨親經來申、於東大寺、上棟之間條々事等、季經卿持來人丸影、見了返給之、

〔八月卅日、右中辨親經來申、東大寺上棟之間條々事〕

九月六

一日、壬子〔天〕晴、宗隆申造宮之間事、光綱申止雨法結願日事、今日修禊、依灸治不拜之、只爲致謹慎也、入夜、伊勢守爲季來、神寶發遣、驛家難事、闕如事等申也、

二日、丑〔天〕晴、早旦、廣房爲季等參來、神寶發遣、驛家難事之間事、終日致沙汰、以親國奏院、又招左大辨定長、奏聞子細、國司申旨、依有不審事等、仰

含子細、大略申可致沙汰之由、退出了、鷲羽五十枚、付行事所也、

三日、寅雨下、親國又來仰院宣云、驛家闕如事、殊可致沙汰、聞食驚云々者、親經來申東大寺之間條條事、答子細了〔宗賴申條々事〕宗隆申神寶用途不足事、

四日、卯〔天〕晴、宗隆申地神寶之間事、并人夫散狀、親雅申氏院條々事、親國申驛家庄々散狀、祭主能隆來、廣房參上、申人夫不可闕如之狀、條々事等、仰能隆了、家實申御笛師事、院宣云、可仰實教卿〔卿〕云々、長房申宇治御幸之間事、

五日、辰〔天〕晴、唐錦一段、鷲羽卅餘枚、被宛備之外、依闕如給行事所、此外、紫草十餘枚、內々給廣房、同依闕如也、例幣奉行辨親經、棟範、宗隆之間、可催之由、有院宣云々、光綱所申也、仰早可催之由了、廣房、宗隆等來、申明後日神寶發遣之間事、〔親經來〕申東大寺事、

六日、巳〔天〕晴、赤地錦二丈、余又給行事所、依闕如也、入夜、神宮奏狀到來、瑞垣御門顛倒事云々、去月廿七〔己酉〕日〔奏〕狀、今夕到來、太懈怠也、仰問

例可行御占之由、兼又明後日、且可勘下修造日時之由了、雖片時可被忿之故也、此事、光綱申也、又相殿御體相違事、明日召具祭主可參、重可問子細之由、仰光綱了、

七日、戊午〔天〕晴、此日、伊勢遷宮神寶發遣日也、早旦、廣房、師直等參上、官方外記方事、皆沙汰了、又行事所事、併沙汰調了、只待上卿參許也云々、宗隆同申此旨、暫相待之、未發遣、仍午時出京、爲方違向水田高濱邊也、依灸治用輿、於鳥羽南乘船、入夜着水田、午船逗留、

八日、己未自夜雨下、天曙雨止、未明解纜、戊刻着草津、今夜留九條上家、有太白之疑也、

九日、庚申〔天〕晴、已刻歸大炊御門亭、此日、被勘後鎮祭日時、去六日遷宮、當瑞垣御門顛倒事、只被下修造宣旨、不被勘下日時、是先例云々、官并祭主所申也、成經朝臣、申五節事、左大將當仁之由申了、職事辨官來、申條々事、左大將公繼朝臣、美作、淡路、藏人事、高入道相國申、未曾有々々々、非藏人事云々、一人又非重代也、

宗賴申事、

三合御祈事、他條々尤多、

光綱申事、

紀伊國濟物免除事、院宣率分給可被願云々、

相殿御體相違事、院宣不可行御卜、只可奉居直云々、

家實申事、

十日、辛酉雨下、〔宗賴朝臣來、申條々事〕祭主來、仰付中宮御祈事、給御表着小街等、能隆申夢想事、一生有馮々々、去夜有光物、流星歟、

十一日、壬戌〔天〕晴、此日例幣也、上卿大納言實家卿、并權右中辨棟範、申刻、大內記持來宣命草、今年御慎、并相殿御體相違事、并四御門顛倒事等載之、明年三合事、可載之由仰之、申云、先例、必シモ不載三合之由云々、又仰云、然者雖不載其事、今年御慎之由、可載之者、又清書內寬免之由仰之、十二日、癸亥〔天〕晴、今日、觀性法橋、參神宮了、爲逢御遷宮也、神寶發遣、驛家雜事、無違亂之由、伊勢國司所申也云々、〔宗賴、長房等、申條々事〕十三日、甲子自夜雨下、及晚天晴、今日以後、公家爲神事哉否、人々不審、檢舊記之處、具見嘉保匡房記、上古不齋、天喜以後、爲致齋、遷宮當日許致齋、

又無後齋云々、仍申、內裏并中宮了、又仰、宗賴了、〔此日、東北院念佛始也〕、

十四日、丑〔天〕晴、宗賴申、條々事、又仰、條々事、三合御祈、并過差制等事也、去夜、於大將九條亭、密々講、百首、花月各五十首、法印密々被行向云々、

十五日、丙〔天〕晴、親國申、更衣用途闕如〔之〕事、長房申、明日向宇治之由、親經申、東大寺條々事、八幡并佐保陵使事、猶自公家可被立、可載子細於宣命之由、仰之、是院宜之趣也、

十六日、丁〔天〕晴、宗賴來申、條々事、八十島佛舍利事、猶可被爲先神事之由、人々申之、又朝所事、可被行御占之由、多申之、各可隨人々申狀之由仰之、

此日、伊勢太神宮、遷御新造宮之日也、仍公家、并余爲致齋、雖有通拜之志、依灸治不拜、但修祝、又臨刻限期、正衣冠、祈念之、

十七日、戊〔天〕晴、親雅申、氏院條々事、長房申、宇治御幸之間事、昨日遣季長々房〔等〕於宇治、加檢知也、

十八日、己〔雨降〕、今日、法印來、親雅來申云、今日、仁

王會出居、而依遷宮年、十八日以前、可忌佛事之由、有師平勘草旨、大外記師直令申、如何者、余云、非佛事、加之、彼、若外宮歟、然者、十七日遷宮、十八日後齋也、今度、內宮十六日遷宮、今日非齋限、仍早可行之者、今日雨降、

十九日、庚〔天〕晴、舍利講如例、行舜、圓能、問答有興、此日、御方遠行幸、去夜依雨延引也、余及大將依灸治不參入、

廿日、辛〔天〕晴、女房爲逢故內府月忌、向九條、今夜宿休、明後日懺法結願也、

廿一日、壬雨降、親經來、東大寺條々事令申、伊勢幣〔之〕間事、仰子細了、太神宮遷宮、無爲被了之由、自伊勢多申上之、爲悅不少、

廿二日、癸雨降、已後天晴、〔宗隆來申云、神宮奏狀到來、遷宮之間、殊無爲之由言上、又禰宜等、覆勘文申上云々、仰可奏聞之由了、又殊爲天下悅之由、可奏聞之由仰了〕、此日九條懺法結願也、申刻、女房歸來、大〔將〕同來、入夜、俊成入道、季經卿已下歌人、五六人、來大將方、花月百首、各撰定十首合之、俊成入道決雌雄云々、余并法印、於簾中竊聞之、興味

尤深、

廿三日、甲戌〔天〕晴、此夜、女房參內裏、如例、召三人車、侍未_レ在共、忠行乘車在共、今日、定長卿來、依招也、條々事、可_レ奏院之由、仰付了、三合御祈、并諸國事等、凡天下〔大事等也、親經爲院御使來、東〕大寺上棟之間事、可_レ被_レ申八幡佐保陵等〔之〕事、自公家可_レ被_レ申之由也、

廿四日、乙亥〔天〕晴、法印被_レ來、親性同來、佛法興隆之間事談義、入夜、俄有和歌、及子刻、大將歸九條、召親雅、仰五節之間之事、召長房、仰宇治御儲、以本堂御所、可_レ爲御在所之由了、日來以棧敷、可_レ爲御所〔敷〕之由、有其沙汰事也、

〔廿五日、丙子職事等來申條々事〕

廿六日、丁丑親雅參上、仁王會用途闕如了、仍可_レ被_レ延引云々、猶必可_レ果遂之由仰之、然而、諸國永宣旨國々都以難濟、成功之者一切不出來、佛供燈明料、○料猶以不可_レ叶云々、

廿七日、戊寅自院爲定長奉行、被_レ仰下云、流人三人、未_レ赴配所、二位卿上洛以前、儘可_レ追下之由、可_レ致沙汰者、仰官并使廳了、使廳申云、未

承上卿、遠國犯人、使廳不_レ致沙汰云々、官申云、可_レ相尋〔云々〕、及深更、返事等到來、仍明曉進日吉了、今日物忌也、

廿八日、己卯〔天〕晴、已刻、重院宣到來、流人事、殊可_レ致沙汰、件流人赴配所之後、可_レ參洛之由、賴朝卿令申云々、今日、召集大夫史廣房、并左衛門府領送使、奉行史等、問子細、件流罪、去七月晦日宣下、而領送使等、于今未_レ出京云々、大略、奉行職事、能不仰之、又官懈怠歟、是又近代之流例也、召各申狀進院了、又大理許、可_レ遣使廳使之由仰之、頗有申旨歟、

廿九日、庚辰〔天〕晴、自院被_レ仰下云、被_レ遣使廳使、尤可_レ宜歟、仍宣下〔了〕、今日、法華經五十部、僧裝束〔具〕五十具、經机五十前、進日吉〔了〕、又自中宮、經卅部、經机廿前、被_レ進了、各廳官下家司副之、明後日千僧料也、大將、又經三部、袈裟一帖、依催獻之、卅日、辛巳〔天〕晴、此日、御方遠行幸也、○押小路左大將所勞之後初參、此次申中宮大夫拜賀、○內中依行幸不召具一員、前驅七八人許、如例出仕也、依略儀不申余并母儀、又不申他所也、明曉還御、上下不

改衣服也、余又爲三方遠向雲林院、

十月〔小建〕

一日、壬〔天〕晴此日、中宮御方御更衣、行事小進兼時仕、所進御疊、御帳、御几帳等、廳沙汰云々、御服所獻御衣、

今日、赦詔、晝日須參內事也、而依灸治盛爛、不能行步、大內記長守持來里亭、以人傳取入一日兩字了、召大內記於簾前、直給之、御晝日成了之後、以地下人傳給、依無便宜也、

今日、於日吉社、法皇被供養千僧、有赦〔令〕非常教、稱太神宮八幡宮等所之外、皆教除之云々、總禮、右大臣爲上首云々、

又有賞云々、〔親雅、申五節雜事、親經、申一條々事〕此日、主上有御讀書事、親經始所參也、五帝本紀云々、今日依旬日解陣、依灸治、不遙拜、

二日、未雨降、及晚止、今日、法皇自日吉出給、家實注送日吉御幸賞事、兼不被仰合、不可說々々々、

梶井宮、承仁、親王宣旨云々、

三日、甲〔天〕晴、此日、佐保山陵使發遣、依東大寺棟上事也、雖爲上皇御汰沙、自院依被申請、自公

家、發遣此使、此旨被載告文也、上卿內大臣、雖爲神宮上卿、依先例、勸此上卿、使新宰相中將公時、次官時盛朝臣、行事辨右中辨親經朝臣、今日有沙汰、不被獻幣物、荷前〔之〕外、獻幣物例、不分明之故也、當今御元服、并被崩東大寺之山之時、依廣房申、被獻幣物、大略爲失誤云々、〔親雅參上、申五節之間雜事、并氏院條々事〕

四日、乙〔天〕晴、今日、宗賴參院、申一條々事、各有御返事等、平野大原野行幸事、必可被行之由有仰、他事不遠記、此日、奈良禪師、法華會暨義所作日也、自兼日修祈等、十二歲遂業、古來無蹤跡、可謂希代事、

五日、丙〔天〕晴、卯一點、奈良僧正送札云、禪師所作、神妙殊勝、感淚難抑、我寺佛法并興隆、只在此事云云、悅思不少、大明神冥助、更不可謝盡々々々、親雅申五節散狀、入夜、親經朝臣來、申東大寺條條事、

六日、丁〔天〕晴、親國申宇佐使之間事、又查御座御帳、昔御帳懸改了、依宗賴與奪下知官也云々、件之間事、以院宣、責仰子細、無所遁欺、有若亡、

禪師堅義事、自南都僧綱等、多示悅、實不可思議次第云々、大明神〔之〕御恤、將來有憑々々、〔宗賴、申〕條々事、

七日、^{戊子}〔天〕陰不雨、宗賴申條々事、又親經、東大寺之間、左大臣申狀來申、御拜事、雖入御南大門、猶可、有之由、余示之事也、又親雅申五節之間事、今日物忌也、

八日、^丑己親雅持來維摩會文書、明日可返給也、不足米文、先日付宗賴朝臣了、

九日、^寅庚此日、左大將着陣也、藤中納言定能、扈從殿上人二人、前驅八人、大舍人頭業俊、勘申日時、親雅奉行之、依大辨不參、親雅作申文云々、大將自今日、在此亭〔此夜〕、條々事、可仰寺家之由、仰親雅朝臣了、

十日、^卯辛今日、維摩會始也、今旦、親雅下向了、入夜、親雅自途中、以書札申云、大衆拂晴圓了云々、仰云、以院宣被仰下〔之〕者也、無左右拂了、尤奇怪、儘可免衆勘者、

十一日、^辰壬御寺所司良信、爲寺家使〔來云〕、衆徒申云、研學堅義〔者、寺家〕第一之學道也、而晴圓以非器

身、猥稱內奏、尤奇怪、佛法〔之〕滅相也、仍拂了之由所申也云々、仰子細了、

十二日、^巳癸家實、宗賴等來、流人奉行使并府沙汰者等、可解任之由、有院宣云々、又去春、賴朝所注進之流人事、近〔日〕、可遣領送使之由、有院宣、此事不可然、仍其旨可奏之由、仰家實了、

十三日、^午甲早旦、宗賴、家實等來、即相共參院了、即宗賴歸來、傳院宣、史久友、官掌職直、檢非違使資兼等、儘可致任云々、又領送使、猶儘可遣云々、及逆鱗云々、未得其心、入夜、親經進東大寺上棟次第畫了、返遣之、

十四日、^未乙親經持來東大寺上棟次第正本、奏院之所、可見余之由有仰云々、見了返給、昨今宇治御儲、南都下向、并參社之間事、無他事營之、流人之間事、示遣右大臣、并經房卿等許、各返報之旨、如恩案也、

十五日、^申丙終日、沙汰宇治御儲之間事、及晚向宇治、大將同車、亥刻參着、平等院巡檢了、宿小川亭、法印被來、

十六日、^酉丁〔天〕晴、參經藏、家司季長、中宮大進長房、

着衣冠、開封、此宮御時、宮司未參、今日依爲吉日、故所令開始也、其後參本堂、及子刻（まで）、御裝束已下事、致沙汰、

十七日、戊晴、時雨間瀝不及濕衣、此日、（太上）

法皇、依東大寺上棟事、（來十九日、御下向南都、於此）

宇治平等院、有登御儲事、已刻臨幸、上下淨衣、須

與還御、供御膳、獻贖物引出物等、又給御馬一

疋、一拜如常、余始精進、仍浴後修祓、依經營此事、

去十五日、先以下向、右衛門權佐長房、奉行雜事、平

等院修理事、兼親自元所奉行也、自兼日、所々差

定侍行事等、修理、掃除、鋪設、饗饌、各所掌行也、寬

治元年、白川院自臨幸當寺以來、宇治御幸、其例雖

多、便路御儲、僅四ヶ度、所謂、寬治二年白川院高野

詣之次、御此院、是其臨觸也、鳥羽院永治春日御幸還

御之次、於常樂院御所、有此御儲、當院、嘉應二年東

大寺御受戒之次、幸平等院、文治元年大佛開眼之時、

又以臨幸、（此般、上下替淨衣、今度又同）彼皆先代之賢相、當時之寵臣

也、經營有便、臨幸得境、今度、萬事庭弱、定招後

代之嘲歎、

御裝束儀、可召奉行有記、又在指圖、大槓記之、

以本堂北廂、爲御所、（寬治、嘉應、文治等例、東第二間、

敷龍鬚疊二枚、（文治敷、經緯疊、其外、經緯之上、加龍鬚、今

錦緣也、（度且存、略儀、且通、今案、以龍鬚爲疊、差

副東妻戶、敷高麗端帖一枚、（南差、小錦緣、爲御座、

大桎一口、（頗有、積炭、生火也、北廣庇東北兩面、

懸簾垂之、其中、東西行、敷高麗端疊八枚、（對座、

本堂西庇北妻二ヶ間、爲備御膳之所、御所與件

所之間、立絹障子、爲隔、副南布障子、立四階

黑塗小厨子二脚、（無、其、上案御膳、此後、依無別紙、不

今日始精進、仍浴後修祓、

十八日、（天）晴、早旦浴、解除之後、已刻出宇治、申

刻着佐保殿、以兼親可入見參之由、觸院近臣、

院御所、東南院也、今日不可申之由有仰、入夜、大

僧正相具禪師被來、又親經來仰、又寺僧等賞事、

申存旨、明日可有議定歟、今日、浴間有吉祥、

十九日、（天）陰不雨、辰刻、參春日御社、有一員

御前等、獻金銀幣、親雅取之、宗賴、長房等、在京

都之故也、自御社、參東南院、依仰先參東大寺、

相次御幸、午刻、（實未刻、）上棟、法皇已下付綱、次有拜、

并長吏并工等賞事了、余參與福寺、戌刻向字治、
〔今日有赦〕

廿日、^{辛丑}〔天〕晴、申刻、院著字治給、御儲如先日、但

無引出物、供御膳了、還御、今日、官人向獄門、

免囚人、昨日、依行程不叶之故也、此夜歸九條、自

其參內、行詔書事、上卿平中納言、

廿一日、^{壬寅}〔天〕晴、今日祇候內裏、以家實、條々事奏

院、入夜親經參上、於朝餉、有御設事、^榮亥刻退

出、

廿二日、^{癸卯}〔天〕晴、親雅持來維摩會後奏、返給三通^試

殘留了、孝重進天文奏、家實來示昨日奏聞事

等、來廿五日、於直廬、新制定可、有之由、被仰下、

仰宗賴、催公卿、入夜法印被來、

〔今日、主上、始有御簡事、右宰相中將實教、爲御師

匠、着御引直衣、於查御座、有此儀云々、余依

風病不參、寬治、大殿不候給也、

〔廿三日、^{甲辰}此日、法印房、如形被始傳法事、〕

廿六日、^{丁未}天晴、昨今物忌也、此日、京官除目也、執筆新

宰相中將公繼、生年十六歲、可謂珍重、公時、以爲

上臈、在其座、未曾有例也、於大辨者、不論上下

臈、必勤仕之、大辨有故障之時、自上臈、次第被

催者例也、而前左大臣、殊結構、其意趣如何者、執筆

事、父〔右〕大臣如形勤仕之、花園文書等傳而在、家、

須繼其處、自然不勤其事、空以致仕、愁生之

間、使公繼勤其役、以欲謝我怨云々、以此旨、先

觸定長、僞而稱病、不可參勤之由也、又近曾以

同趣觸下官、是定長不參者、必可被催公繼云

云、仍以此趣奏院、仰云、餘執可、慙、早可令催

勤云々、加之、雅長近日罷居、兼忠重喪之後、未從

如此之役、公時卿、又聞左大臣意趣、避而不望云

云、仍雖爲最末參議、強從此役者也、但公時卿

執筆、被召着圓座之後、追加座、勤仕顯官舉、及

清書等役、尤得便宜歟、而自最前在座、而見下

臈之應召、頗似無用心、

余、辰刻參內、宗賴朝臣、去夜雖參院、不得達退

出、今旦早參了、未刻歸來、余出客亭、^{直衣}內覽申文、

宗賴、光綱、親國等也、此外長房覽殿方申文、如例、

次於公卿休所、撰申文、此間、奉仕除目裝束、^{仲盛}行此

事、^{西刻}撰申文了、宗賴又參院、小時歸來、相續

家實來、^{持御}雅賢卿依病辭參議、以其息有雅、申

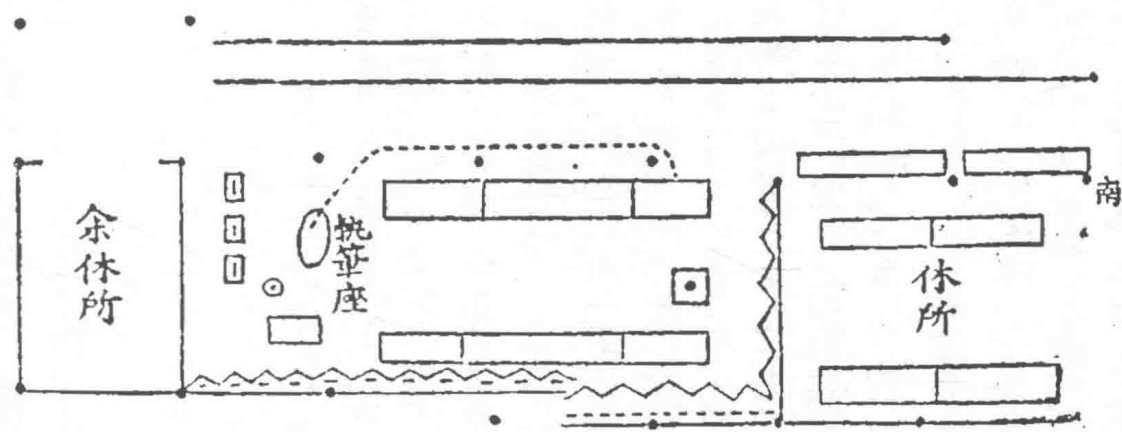
任少將、其所、參議光雅、成經可、奏誰人一哉之由、所
被_レ仰下_一也、申_二所有_一了、家實、即歸參、亥刻歸來、
可_レ任_二成經_一云々、光光綱仰_二召仰事_一、上廟新大納言、次余臨_二
除目座_一、_レ中、今度御出座也、而仰依_二慈_一、召_二親國_一仰云、人々
此方、親國趣_レ陣傳_レ召、權大納言賴實卿、左大將良
經卿、_レ不_レ着_レ陣、於_二休_一、別當通親卿、平中納言親宗卿、右兵
衛督兼光卿、新中納言通資卿、藤宰相中將公時卿、新
宰相中將公繼朝臣等來着_レ座、次左中辨親雅朝臣、右
中辨親經朝臣、左少辨定經朝臣等置_二宮文_一、次余問_二新
宰相中將在_レ座哉否_一、於_二賴實卿之後_一、召_レ之、即公繼朝
臣起經_二簀子_一、入_レ自_二北第一間_一、當時宜入_レ自_二圓座_一、
北_二正_一笏候、余示_二氣色_一、_レ也、公繼覽_二關官帳_一、其儀如
常、但先不_レ被_レ見_レ之、置替之後見_レ之、彼家說歟、道
理不_レ可_レ然、余見了返給、執筆復座、繆_二大間_一、任_二三
省_一、皆如_レ常、先任_二式民_一之後、申_二事由_一、召_二院宮申文_一、
定經朝臣始被_レ召_二、次任_二兵部史生_一、此間置_二火櫃_一、居_二衙
重_一、余陪膳親雅朝臣、雖_二進出_一、仰_二不可_一居之由、仍歸
入_レ了、_レ中、次頭中將成經朝臣、就_二簾下_一、勸盃、余招_二賴
實_一給_二盃_一、_レ指出也、賴實取_レ之歸座、巡流了、_レ即_二賴實_一、此間、
定經持_二參院宮御申文_一、公繼取_レ之指_二笏_一、就_二簾下_一、覽

之、余取_二御申文等_一、便賜_二可_一袖書_二（之）申文等_一、_レ取_二之_一、
公繼取_レ之復座、書_二袖書_一、此間、余院宮御申文、放_二禮
紙_一、_レ不_レ徹_二其_一一通之中、卷_二籠他申文等_一、指_二出自_一簾、公
繼指_二笏進寄_一、_レ於_二簾下_一、取_レ之復座、暫置_二硯與_一一宮之
間、_レ不_レ然也、先書_二袖書_一了召_レ辨、_レ參上、令_二下_一勘之、次
余申文、少々相加、折紙賜_レ之、執筆及而取_レ之、依_二余
命_一也、執筆先任_二內舍人_一、_レ是花園家、次任_二諸道舉_一、次任_二
院宮當年給_一、_レ是又相_二也、次余撰_二出顯官申文_一、召_二左大將_一
給_レ之、大將取_レ之歸座、撰_二出可_一任者申文、持來、余取
之、加_二置大束_一、此間、余撰_二出可_一任之者申文、給_二執
筆_一、_レ給_二申文於執筆事_一、有三說、一ハ、年大束給_レ之、爲_二執筆_一、第一
筆、之大事也、二ハ、撰_二出可_一任之申文、一度給_レ之、三ハ、兩三度
ニ、少々ッ、給_レ之、是致_二會釋_一（之）、時事也、次第可_レ任之者
今付而動_二此事_一、感心最深、仍於_二事施_一芳志也、
等任_レ之、此間無_二申文之任人等_一、令_二出_一進名簿、或執
筆召_二宗賴_一仰_レ之、或余又仰_レ之、此間、親雅持_二來下勘申
文等_一、即任_レ之、及_二翌日之卯刻_一、漸任了、皆悉任之後、
取_二笏示_一氣色、_レ先_二是_一、大間、奏_二大間_一、置_二硯上_一、又示_二氣
色_一、仰_レ可_レ有_二叙位_一之由、執筆召_二男共_一、藏人參、執筆
仰云、續紙、_レ須_二召_一五位藏人仰、頃之、五位藏人光綱、持_二
來續紙_一二卷、_レ也、仰_二六位_一無_二明_一、執筆取_二續紙_一、_レ光綱取_二御
入_二第三宮_一、一卷々返之、又摺_二墨候_一氣色、即書_二叙

人_{（遺上）}不_{（書之）}、只自_{（端坐）}之也、又行別了、次封_{（成柄）}、引_{（墨）}、次取_{（成殘申文等）}、元入_{（第三）}一通之中卷_{（體之）}、加_{（入）}第一宮、次取_{（大間）}、加_{（入）}之、置_{（替硯宮）}、候_{（氣色）}、指_{（笏押宮）}、就_{（簾下）}進_{（之）}、余取_{（之）}披見、右少史清書、師尙仍密々示_{（之）}、〔返_{（之）}〕給執筆、於_{（大間）}、不_{（入）}令_{（直）}之、執筆引_{（寄宮）}起座、不_{（復）}座、〔退出_{（了）}〕、_{（必可）}可_{（尋）}退出_{（了）}、次余示_{（氣色）}、通資卿_{（本自在）}來_{（簾下）}、余給_{（宮）}、留_{（成殘申文許）}也、通資取_{（宮）}、余仰_{（檢）}非違使兩人事_{（了）}、通資於_{（公卿休所）}、披_{（大間）}讀_{（上）}之、此間、辨官二人撤_{（宮）}、_{（親雅、親經等也、近代無此、仍余檢誦仰也）}已刻、內_{（覺清書）}、午刻、外記持_{（來）}大間成文、又收_{（關官帳）}了、覽_{（宮返）}給外記了、

未刻、家實來、下名之間事、奏_{（院）}了、其後於_{（直廡）}、有_{（五節定）}、宗賴執筆、其後、宗賴參_{（院）}了、今夕可_{（被）}行_{（下名）}之故也、今日、除目了之後、送_{（書札）}於前左大臣許、感_{（公繼執筆）}、返札_{（丁寧）}、殊有_{（感荷）}之趣、

廿七日、_{（戌）}辰刻議了、未刻、持_{（來）}大間成文、即退出、入_{（夜）}有_{（下名）}、東大寺工等、被_{（任）}諸國權守介〔諸國〕掾目等也、上卿左衛門督云々、



十一月

一日、辛〔天〕晴、今日、於直廬有新制議定事、着直衣、先參院、以棟範入見參、依召參御前、申新制之間事、即參內裏、先是、內府、堀川大納言、新大納言、平中納言等參入、候、宮御方、余參朝餉、次參宮御方、其後向直廬、宗賴持來意見新制等目六、見了返給、次余出居賓筵、次以宗賴招着人々、內大臣、直衣、大納言忠親、賴實、中納言通親、親宗、兼光等也、已上、次宗賴持來目六等、有懸紙、余取之、以代制符目六、授內大臣、次第見下、見之、至于兼光許、委披見了、取笏候、余仰云、先神事之條、可有沙汰、代々制符宣下、區分、其中可叶時議事、取要可被定申者、兼光卿、四五條申之、親宗已上、大略同之、少々有申加人々、神事條定了、宗賴書篇目、述文書之後、便候前實于數、應期藏人持來現續紙、殿上親也、抑爲藏人頭之者、若可候座末、故否、驗歷未決、粗案准例、保延八幡火事之時、有殿上定頭中將秋長、於小板敷番側、爲一伴事、則聞、又於私家、定文之時、於廣居實子、爲之、爲家司、役之故也、禁中之儀、細難可爲實首保延例、足准之上、余已在此、就家司之頭、願以勿論歟、願以此趣、合宗、次佛事、次他雜事等、此中、過差之制、殊有沙汰、條目事繁、不遑具記、委旨可在職事、側聞、新制目六沙汰之後、付意見目六、又有評定、各議定之後、暫

六百三十四

交語、少小時、人々退出、內府、忠親、兼光、暫留有事、次復辟之間事、示台人々、忠親、兼光等、可依寬治嘉應例之由示之、其理可然歟、此事、依天永例、不被下、准攝政宣旨、自明年春、叙位、可有御前之議之由、豫申定了、而却披舊記之處、爲房、永元元年十二月、京極北政所、重惱有危、元正之間、令喪葬者、叙位除目、可無便宜、仍以新議不被下、准攝政宣旨、年中主上覽吉書云々、以之思之、永久邂逅之儀、已有由緒、二代不易之例、何強改之、仍起此間、所答如此、重經奏聞也、〔欲隨聖斷耳〕、三日、丑〔天〕晴、大夫史廣房來、年中用途事、先日、被注仰之外事等、皆悉可注申之由仰之、親經申行幸之間事等、〔宗賴申條々事等〕、四日、寅〔天〕晴、午刻參院、依御湯之間、不參御前、謁右大臣、又以家實、奏新制之間事、條々被仰下、余又奏、賴朝卿可被授官之由、可然之由有仰、其儀可問人々、余申云、廣不可被問、右大臣、民部卿、宜歟者、今日、宗賴朝臣、突鼻一切不遇事也、不可參院之由、有仰云々、今夜、余宿內裏、今日、右大臣有示事、丹三品腹姬宮、可有院號之

由、母儀存知、而奏聞有憚、余可_レ發言云々、余_レ頗可有_レ其恐_レ歟、且是似_レ被_レ妨_レ后位之故也者、右大臣云、全不可_レ然、彼本意、只在_レ院號云々、以_レ御消息、內々可_レ觸_レ遺_レ歟云々、此事雖不可_レ然、爲_レ天下、頗穩便之沙汰也、世上之謳歌、有_レ大事、仍人々其心愚鈍、尤不便之處、忽有_レ此沙汰、誠天之助也、中宮之御運也、仍五日余依_レ右大臣風諫、以_レ消息粗示_レ遺之、相計可_レ披露之由有_レ命、爲_レ後日記_レ之、

五日、_卯〔天〕晴、候_レ內裏、申刻、下方有_レ火、院御所近邊云々、仍營參、太早速之由被_レ感仰、件火佐女牛西洞院也、_少小時消了、今日又觸_レ右大臣、賴朝若可_レ被_レ任_レ大將、更不可_レ惜之由示_レ之、親經持_レ來行幸用途分配減定注文、是內々事也、非_レ改_レ用途帳也、依_レ諸國究困、余以_レ今案、仰申也、

六日、_辰雨下、以_レ家實、宗賴事、示_レ女房三品、今日被_レ仰_レ出仕了、院參事未_レ定云々、其次、世上浮言等不可_レ信之由示_レ之、賴朝卿今日入洛、而依_レ道虛衰日、延引、明日云々、親國中_レ五節主殿司等、并宇佐使之間事、此日、右大辨親雅、持_レ來延曆寺戒狀、余依_レ風病、以_レ人傳_レ取之、伊勢守爲_レ季、申_レ別宮造營闕如之由、行

事辨設_レ給御教書了、

七日、_巳〔天〕晴、時々風吹、此日、源二位賴朝卿入洛、申刻、着_レ六波羅新造亭云々、騎馬帶_レ弓箭、不着_レ甲冑云々、院已下洛中諸人見物云々、余不見_レ之、日晝騎馬入洛有_レ存旨云々、入_レ夜爲_レ方違_レ向_レ雲林院、八日、_戌自_レ院爲_レ家實奉行、被_レ仰_レ賴朝賞之間事、申_レ所存了、尤可_レ被_レ任_レ大將_レ歟、而忽無_レ沙汰_レ歟、右大臣申_レ可_レ避之由云々、而又思返歟、此夜、小童向_レ左中辨親經許、始爲_レ後見_レ也、親經、衣冠、無經等參上、女房又參入、

九日、_己〔天〕晴、立_レ春日奉幣、陪膳以政朝臣、使爲_レ說陰陽師晴光、入_レ夜參內、今夜、賴朝卿初參、先參_レ院、其後參內、於_レ晝御座有_レ召、西簀子給_レ圓座一枚、余候_レ長押上、用_レ陪膳圓座、_少小時起座、於_レ鬼間、與_レ賴朝卿_レ謁談、此夜被_レ行_レ小除目、賴朝被_レ任_レ大納言也、雖_レ辭推而任_レ之云々、

〔九日〕、謁_レ賴朝卿、所_レ示之事等、依_レ八幡御詫宣、一向奉_レ歸_レ君事、可_レ守_レ百王云々、是指_レ帝王也、仍當今御事、無雙可_レ奉_レ仰_レ之、然者、當時法皇、執_レ天下政_レ給、仍先奉_レ歸_レ法皇也、天子ハ如_レ春宮也、法皇

御萬歲之後、又可奉歸主上、當時モ、全非疎略云云、又下官邊事、外相雖表疎遠之由、其實全無疎簡、深有存旨、依恐射山之聞、故示疎略之趣也、〔云々〕又天下途可直立、當今、幼年御尊下、又餘算猶遙、賴朝又有運〔者〕ハ、政何不反淳素哉、當時ハ、偏奉任法皇之間、萬事不可叶云々、〔而〕所示之旨、太甚深也、又云、義朝逆罪、是依恐王命也、依逆雖亡其身、彼忠又不空、仍賴朝已爲朝大將軍也云々、

十日、戊申〔天〕晴、午後陰、春日祭也、近衛使保家、辨右少辨家實、中宮使宗賴朝臣、平野祭、上卿平中納言、宣命上卿右兵衛督、辨闕如、催棟範云々、新大納言賴朝卿、示遣慶事了、

十一日、辛酉依梅宮祭、奉幣十列如例、陪膳光重朝臣、陰陽師廣光、此日、新大納言賴朝卿參詣八幡云々、入夜、依官奏參內、東吉書奏也、左中辨親經候之、及深更退出、

十二日、壬戌天晴、頭中將實明來申五節之間事、親國申字佐使神寶用途之間事、宗賴朝臣、去夜歸自春日、晚頭來臨、申五節宮御幸淵醉之間看物事、可用

元永例之由、仰之、

今日、左大將見最吉夢、

十四日、甲子大原野奉幣如例、中宮御方、同被發遣之、使侍所長勤之、陪膳亮宗賴朝臣也、依月御障、無御拜、御禊如例、依爲片祭、於社頭事者、付諸司一如例年、自明春可被祭也、是先例也、於奉幣者、不依春冬、所被立初度幣也、

十五日、乙丑〔天〕晴、此日、五節參入也、公卿、左大將、右宰相中將公繼、受領上總美作等也、參入儀、左大將一人御覽、左大將、并公繼等也、五節參入、來出立所一人、左衛門、定能、經房、進、出車一人、忠親、實家、五位藏、季經、經家、兼其、下仕車一人、實宗、定能、人光綱、兵衛佐、几帳角取人、賴高、國行、寄二舞姬車一人、定能、兼其、行補、伊賀、兼其、寄二下仕已下車一人、候殿〔卿〕寄〔傳〕童等車之人、忠親、伊賀、兼其、寄二下仕已下車一人、候殿上人、於出立所、有所御使等、八條院小將成家、給童裝束薰物等、親雅取祿、般富門院使長俊、以政取祿、般富門院給舞姬裝束也、

子刻參入、余出帳臺、右大臣、左大將、權大納言、別當、三位中將忠經等扈從、

十六日、丙寅此日、於中宮御方、有淵醉事、殿上有打出、實紅葉、殿上許也申終殿上淵醉了、殿上人廻五節所、後有

此儀、初獻、大進長男、瓶二獻、權亮忠孝、三獻、亮宗賴、瓶于祿中納言、令月四獻、右宰相中將公卿、人々被、隔、次亂舞、及公卿、次五獻、右衛門督、房、又亂舞、今度六位已上、置、櫛、近代例也、二人舞也、公卿猶一人舞之、殿上人白拍子、公卿白薄樣、隆房出之、事了、出、阿聲、起座了、申終、殿上淵醉了、殿上人、廻五節所、其後參入公卿、權大納言、新大納言、大夫、藤中納言、別當右衛門督、三位中將二人、公卿、右宰相中將公繼等參入、兩貫首、其外上薦一兩着座、其外在西渡殿、今日以南殿西庇、假爲宮殿上、以本殿上、用帳臺之故也、亥刻事了、

十七日、丁卯此日、童女御覽也、先有殿上淵醉、左大將、五節所獻召物、藤中納言、仍公卿着之、參御覽之人々也、隆忠、賴實、良經、通親、忠經等也、右大臣不着之、依寬治六年例也、仁平大臣着之、不足據用、不快之例也、三獻之後、朗詠〔此日、童女御覽也〕、亂聲、付童女一人、左中將兼宗（第一）中將、伊輔（第二）忠孝（第三）付前童、少將雅行（第四）付後童、付下仕人五位藏人親國、家實、少將定忠、中務大輔忠行〔等也、下仕二人別、一人付也〕、公繼童付人、成家、付成定、下仕人六位如例、今日、殿上召物、以下家司送之、隨

身勤役送、殿上五位、爲參議已上手長役送、六位爲殿上人役供也、肴物、折敷高坏也、菓子入土器、居折敷持來之、可居高坏上也、〔亮宗賴調進也〕、十八日、戊辰此日、豐明宴會也、內辨右大臣、外辨上左大將、小忌上卿親宗卿、宰相公繼朝臣、辨家實、少納言親家等也、節會以前、右大臣被訪、左大將五節所、勸盃酌、二獻、節會始以後諸卿訪如例、於左大將五節所、有三獻并催馬等、右大臣來訪事、殿上人五六人、指諸卿、余命也、其座設茵、又勸盃之時、余、大臣、左大將許也、余陪膳殿上四位、能季、左大臣、時盛朝臣、雖〔非〕家司、依童大將手長、長兼、殿上五位也、是依內、一獻、居菓子、止二獻了、大臣依余命一起座即歸了、〔節會始以後、諸卿訪如例、於左大將五節所、有三獻并催馬樂、子細在別〕

十九日、己巳此日、棚進所々、院殿宮、門院、內、中宮、八條院、七條院、已上、去夜、進之了、或又進櫛、今日雨降、今日平野、大原野行幸御祈奉幣也、及子刻發遣、依幣料錦懈怠也、亥刻、〔左中辨〕親經來申云、上卿申云、伊勢幣料之內、自藏人方可被渡錦、依尺寸不足、重尋之、已雖持參、沙汰出納、爲重服可憚歟、且

〔于〕今次第違亂、非無所恐、如何者、余云、重服諸司長官不被憚、尤可被准歟、但其物在其家者可憚、件條委可尋之、當時申在下人家之由云々、猶有其疑歟、尋搜聊有不審者、早可延引、一定置他所者、不可延引者、

廿日、庚晴、此日、行幸御讀經日時僧名定也、社行事辨親經爲內覽來、即見返給、今日、祭主來申、太神宮遷宮別當遲怠之間事、任申請、查給御教書了、〔又宗賴來申條々事〕

廿一日、辛未〔天〕晴、親經來申行幸之間事、諸國可付共法使之由、有院宣云、又家實來傳院宣云、賴朝卿申云、近國地頭不當之輩可停止云々、職事一人承仰、可被尋諸國并社寺、其所等領云々、即可奉行之由、仰家實了、只近國可限何國之由、尤可被問〔旨〕奏之、〔法印被來〕、今夜爲方違向雲林院、

廿二日、壬申與報鐘同時出雲林院、寅刻歸家、彼家有堂、有中垣門、又別也、仍雖不可有憚、猶奉幣當日、爲致謹慎、所念出也、此日、吉田奉幣也、入夜、民部卿經房、爲院御使來、賴朝可被任大將

之間事也、辭申云々、猶可被任之由申了、

廿三日、癸酉〔天〕晴、賀茂臨時祭也、使伊豫守季長朝臣、余給馬鞍舍人長貴、居伺、繼、隨身等、府生忠武、還立御神樂如例、中宮上御靈襦御裝束如常、打出二色、大

夫刷之、有三獻、上首內大臣、奏宣命、御親御座、西面、堀川院例也、還立公卿五人、今夜宿候、

廿四日、甲戌〔天〕晴、早旦向九條、奈良禪師上洛、爲

聞堅義所候也、申刻始之、圓長、精義、如法三問了、所作〔之〕優美、實驚耳、問答成敗、非幼年之所爲、偏大明神之加護也可歎美云々、入夜歸大炊

御門、此夜有除目、賴朝卿任右大將、先是、右大臣上大將辭狀也、

廿五日、乙亥自今日、神事也、但服魚味、平野社依不

忌魚類也、依明後日行幸、自今日精進也、早旦、光綱持來右大臣之解、右大將之狀、去夜依及深夜、不能持參九條殿、今朝所持來也云々、

廿六日、丙子行幸出立、無他事、親國來云、御後殿上人、猶一切無領狀人云々、

廿七日、丁丑〔天〕晴、此日、平野行幸也、余乘車供奉、車副揭冠、依寬治例者、可着布衣、但是又正儀也、入

夜還御、子細在別、

廿八日、戌〔天〕晴、早旦、向九條堂、自今夜依始

懺法也、是恒例也、奉爲故女院、所令修也、以御

忌日、宛結願也、今夜宿室、

廿九日、卯〔天晴〕、過懺法時、今日、法印被來、又〔懺

事等來申條々事〕

卅日、辰〔天〕晴、參法成寺御八講、大將相伴也、余

不立行香、大將已下立之、事訖歸家、改着直衣、

參內宿仕、

十一月〔小〕

一日、辛巳參御堂、依南京堅義也、衣冠也、堅者、興福

寺成恩、探題、雅緣法印、精義、東大寺貞敏律師、問者

五人、東大寺也、一問之間、余聊有口入之事、已身成

道同時歟否事也、歸參內裡、

此日、右大將賴朝、拜賀也、

二日、壬午參御堂、五箇日也、大將相伴、其外定能、定

長、忠經、季經等參入、依四位家司不參、殿上人能季

朝臣、傳下官袈裟、每事如例、歸參內裏、

三日、癸未參御堂、天台堅義也、探題證眞法橋、山、堅者

園城寺慶春、一問聖覺、公卿光雅、季經等參入、歸參

內裏、今日、右大將賴朝、着直衣、出仕云々、只參院、

不參內、日晝出仕、前駟六人云々、〔今日、女房退出〕

四日、甲申參御堂、結願也、於櫻座、有孟酌、資泰朝

臣持參盃、參入公卿、忠親、良經、經房、隆房、家房、

經家等參入、余立行香、不足一人、經家朝臣、此日歸

大炊亭、今夕、女房向九條堂、依明日結願也、

五日、乙酉右中辨棟範來云、來廿二日二宮可有御書始

事、左大將〔實房〕可參文人〔云々〕者、依保延三年

十二月廿五日、法皇親王之時、御書始例、可被行云

〔云〕、又云、保延例、背在良、爲大學頭、爲序者、今

度、在茂當仁、而日來爲御師讀、奉授數卷之書、而

忽弄置、被召光輔、法皇例、敦光爲御師讀之故也、忿怨此事、不

可勤仕、爲之如何云々、余云、保延三年、在良已歿之

後也、如何、棟範云、時登なりけり云々、不足言、棟

範云、可召長守歟、余云、猶可被仰子細於在茂、

盃參哉、依吉例、被召光輔、雖後日、尤可被召、

加之、凡在茂之樽陶、尤有謂事歟、又仰大內修造

之間事、棟範云、季御讀經事、所奉行也云々、此日、

九條堂懺法結願也、又故女院御忌日也、導師慶智、入

夜女房歸來、依三月障、在別屋、自今日、余神事殊密、仍小浴修祓、又於庭上遙拜、宗賴朝臣、今日始參院、被免奏事也、

六日、丙戌〔天〕晴、此日、當年不堪荒奏也、被付行所宛申文、位祿定等、右大臣參內〔奉〕行之、右大辨親雅、直、左中辨親經等候之、余着布袴持笏、奏以前、於宮殿上、謁右大臣、〔今夜退出、〕

七日、丁亥雨下、今日、猶可有官奏、仍參內、而臨期、親經、俄稱病不參、他人又不能催出、仍明日可被行之由仰了、是上野讚岐等後不堪也、今夜、地頭事尋家實、秦經卿奉〔行〕云々、仍可問子細之由仰了、今夜宿候、

八日、戊子〔天〕晴、此日、官奏也、上野讚岐等後不堪也、上野五通讚岐九通也、五通已上、依執政臣免所入也、先日、廣房所申請也、依有例許之、右少辨家實始候之、於辨官者、初度必シモ不候吉書奏也、作法中品、無可又無殊大失、〔深更退歸〕、今日、前大將乘半部車參院云々、此事如何、然者、大將辭退以前可乘歟、教訓人、有若亡歟、前大納言、前大將、乘半部車出仕、未會聞、是院宣也、勿論々々、

九日、己丑〔天〕晴、此日、內侍所御神樂也、入夜着直衣、相伴大將參內、宮密々昇給、於御殿南面、竊所令聽聞給也、主上不令參給、依寛治已來例也、余相交女房、密々臨其所、於戶外簾中見之、典侍掌侍等、入戶內、候寶前、他人不入也、本拍子顯家、末基宗也、

今年、大內行幸不可有之由仰了、當時不可事闕之故也、今日能保來、

十日、庚寅天晴、召祭主宮司寮頭大夫史等、以家實、仰寮末之間事、宮司大略無所遁歟、可召請文之由、下知了、〔又〕付家實、奏條々事、新制之間事也、前大將、郎從之中、成功之輩、注進交名云々、

十一日、辛卯〔天〕晴、此日、月次神今食也、夜半、史以業來、申神今食神服闕如之由、仍忽給絹綿等、仰納殿所給也、〔是以〕、可稱伊豫國所濟、自納殿下給〔之〕旨、不可稱之由仰也、件男爲國沙汰人之子、有便之故也、奉行辨等懈怠、言而有餘、今日、前大將參內、予謁之、前將軍示事等、天下政忽可直立之由、不見給、然而御申之所及不可懈陵云々、又世間事將來までも不可有不可口口祝言不可被信

用、巨細雖多不能具記也、

十二日、壬辰小雪、自院被仰、前大將勳功賞大功田之間事、余先日所申出也、申子細了、又公事用途、依闕如、成功之者廿五人、前大將進交名云々、以家實、申行幸賞之間事、又齋宮寮頭事、可計沙汰之由、有院宣、

十三日、癸巳自院以宗賴被仰、大功田百町可下宣旨之由、并勳功賞衛廳十人可被任之由、但今日日次不宜、明日可被行云々、即將軍明日下向也、仍早旦、大功田事可宣下之由仰之、又除目ハ行幸還御以後可被行之由仰了、又此旨奏了、

十四日、甲午〔天〕晴、此日、大原野行幸也、午一點出御、日沒着御社頭、子終還宮、子細在別、還御之後、被仰賞、上卿追可申請、參議辨其身叙之、外記史讓子、參議實教、上臈二人、臨時被叙之、今夜宿候、今日、前大將歸國了、

十五日、乙未此日、季御讀經初日也、辨棟範不内覽御前僧、余加勘發、無申旨、不足言也、今夜月蝕也、然而、依康和例、被行此御讀經、以之爲月蝕御祈、仍仰御願趣、月蝕事、并明年三合事等也、此外於

延曆寺、被修樂師經御讀經、此夜退出、十六日、丙申入夜參内、此夜有後不堪奏、讃岐九通、上野五通、右少辨家實候之、奏申光綱、

十七日、丁酉〔天〕晴、此日、御前論義也、結僧綱山階寺權別當範玄也、頭中將實明在座、此夜、余小童、六歲、生年於八條院、有看袴事、仍余參入、大將相伴、〔子細有別〕密儀也、此夜有官奏、家實候之、奏申長房、

十八日、戊戌天陰、此日、季御讀經結願也、余着座、右大臣已下公卿七八人、參入南殿、隆房以家實、自院被仰、前大將申狀二條事、群盜事、并新制事等也、此夜有不堪定和奏等、親經候之、奏申長房、

十九日、己亥〔天〕陰、〔早旦、業俊來云、去夜、白虹有貫月事云々〕、此日、被發遣宇佐使、前大膳大夫家綱也、又中宮被立鹿島使、權少進行方、子細在別、入夜參院、謁龍顏、歸參内裏、有官奏、上野讃岐等後不堪也、其後退出、家實候之、奏申長兼、入夜、風吹雪下、

廿日、庚子召司天之輩問〔曰〕、白虹變事、皆悉申白虹之由、資元一人申、非白虹之由、不可說々々、各被申狀付宗賴了、明日可奏之由仰之、又御祈之間

事、可_レ奏之由示_レ之〔雪少下〕、

廿一日、辛丑〔天〕晴、此日、三合御祈、廿二社奉幣也、上

卿內大臣、行事辨親經、宣命辭別、被_レ載_二白虹變事_一、及

晚、宗賴自_レ院歸來、仰_二御祈事等_一、又家實重奏了、家

實來、語_二前攝政息元服之間事_一、〔此夜、中宮御祈、被

〔始〕天地災變、并泰山府君等〕、

廿二日、壬寅此日、前攝政息、於_二法皇宮_一、六條有_二元服事_一、

花園大臣例云々、今夜、叙_二正五位下_一、先日以_二家實

被_二仰合、申_一不可_レ〔有〕難之由、又於_二禁中_一給_二御裝

束、改_レ着之、東北對妻、只一間云々、又召_二御前、召_一給

勅錄云々、公卿三人、殿上人十人扈從、加冠右大臣、

理髮頭中將實明云々、

〔此日〕三合、白虹等御祈、御修法二壇、被_レ始_二金輪_一無

寺法印
本房、北斗、後證本

廿三日、癸卯此日、內御佛名也、大將初度也、有_二宿申事_一、

雖_二國忌廢務_一、依_レ有_レ例被_レ行_レ之、又宿申事、嘉保、知

足院殿初度、雖_二國忌_一、有_二此事_一、追_二彼例_一也、余着座、

然而、早以退座、賴實已下、立_二行香_一、今夜宿候、此日、

又被_レ始_二御修法_一、不動、實慶〔也〕候_二禁中_一、

廿四日、甲辰此日、中宮御佛名也、余不_二出座_一、賴實已下、

公卿十人參入云々、侍長仰_二御導師_一、依_二六位進長等

不_レ候、六位簡衆勅_二指燭_一、使_二行事大進長房役_一被_レ綿

事、有_二打出_一白衣云々、

廿五日、乙巳隆憲法印來、談_二世上事_一、〔今日〕、自_レ院賜_二

御書、新大夫可_レ任_二少將_一之由、被_二仰下_一、可_レ在_二御定_一

之由申也、今日即被_レ任_二之、右少將云々、其名家實、右

少辨家實、忽被_レ召、其名改_二名資實_一云々、上卿藤中納

言云々、

廿六日、丙午此日、內并宮御方御櫛上云々、內裏依_二典侍

故障、他上臈女房上_レ之、宮內侍役_レ之云々、此日、二宮

於_二仙洞_一、有_二御書始事_一、左大將入_二文人_一、爲_二上首_一云

云、實宗雖_レ行_二本宮事_一、詩筵_二不_レ交云々、

〔建久別記〕

建久元年

○安樂云九條家古寫本不載、或曰非筆實所書、今從流布本以聞本玉澤補之、待覽者取捨、

十二月

廿六日、天晴、此日、高倉院第二親王御書始也、於_二

法皇六條殿_一有_二此事_一、依_レ催晚頭着_二束帶_一、時給_二銀、參

院、于_レ時公卿兩三參會、右中辨棟範朝臣來云、今日

御事、外題可_レ書之由有_レ仰云々、仍於_二便所_一本公卿座
垂_レ簾取_レ

置管絃具等、於相待之處、少時棟範持來仰書、相具本此所書之、相待之處、少時棟範持來仰書、并泥坏筆等、件御書、唯表紙、予書外題、御註孝經、即返授了、大宮大納言實宗被來此處、今日奉行之人也、仍其間事等言談、戊刻事具了云々、仍人々著殿上、南大盤上、次一獻、助解山次官清長居、孟於折敷持參、先例多殿居、上四位也、而今日無、大臣大納言上首、仍五位持參、瓶于中、空相中將公繼、次三獻、民部卿經房中務大輔忠行、瓶于可尋、次二獻、瓶于可尋、次三獻、納言、瓶于可尋、兼居了、實宗卿云、先例下著之由不見、日記、仍今日可略云々、少將棟範來云、今日題者、左中辨親經朝臣也、保延顯業可爲左中辨、兼文章博士、獻題之例也、而先例皆文章博士獻之、而親經不帶儒官、又今日兩文章博士之猶仕乍置、彼親經獻題如何、各可斗申之、此本日來無沙汰、無各以顯業後風、被仰親經了、而勅例下令中驚而侍、實宗卿示人々、而人其大懈怠、今日此沙汰出來、不便々々、實宗卿示人々、而人數刻閑口、亞相云、不可爲定儀、只斗談可置云々、仍經房卿申云、無先例、頗雖爲不審、已被仰了、有何事哉、所詮可在御定云々、棟範云、有例之由親經申之云々、可尋之由亞相被示、仍棟範尋之、親經申口、承平二年、朝綱民部少輔非文章博士獻題、其座文章博士參候云々、又同年竟宴有聲又非文章博士獻題云々、而此條大不

審、承平九條殿御記云、令大江朝臣民部大輔文章博士、令題云云、而申朝綱之由、是誰人說哉、以何可背九條殿御記哉、頗可謂奏事不實歟、何強執此役哉、仍予云、承平大江爲文章博士獻題、而令申狀如何、仍重被尋問之處、一定爲朝綱由申之、其上不能是非、又有聲事何強弄代代御書始例、可求竟宴例哉、大不得心次第也、今日、又荷前也、又尊勝寺灌頂云々、此口、公家被行天地災變御祭、其後又被行、玄宮北極御祭、祭文、兼光卿書之、今夕有玄宮北極御祭祭文御諱字、余參內、奉書入之、廿七日、未雨下、以消息、除目奉行人、并朝覲有無事、申院仰、被除目一事可計云々、又朝覲行幸、不可有云々、又家實兩職事、有沙汰、此日、家實申改名并辭書等事、宗賴申之、廿八日、申、天晴、今日參院、參御前、少小時退下、以泰經卿、并家實等、奏聞條々事、其後參八條院、又向九條堂、次參內、有東寺最勝寺等灌頂定、又此夜、有官奏、親經候之、又今日官考定也、歸家定修正雜事、長房被任五位藏人、仍長兼書定文、

廿九日、酉此日、家荷前也、使季長朝臣、國行、余着衣
冠二拜之、是非尋常之儀、然而、粗有例之故也、今夜
追儺之次、有二小除目、又衛府等、多被辭官、

玉葉卷第五十八終

玉葉 卷第五十九

自 建久二年正月
至 同 三 月

建久二年

正月

一日、庚晴、時々雨降、寅刻拜天地四方等（如例）、
午刻手水、陪膳季長朝臣、其後齒固、未刻、人々少々
來、先是差隨身一人、遣內大臣家、依可來拜禮
也、同刻內大臣來、須臾扣門外、人々降立之後、被
進中門下也、而無左右來人被徘徊中門廊邊、
即余示人々、令降立中門外、左大將已下四上北面臨時客
外拜禮之時、內大臣降自中門內、立中門、次余降自
南階西頭、當西柱砌下、步一丈許、南面而立、左中將伊
來查、隨身等
列居余四方、次內大臣練立庭中、左大將已下次第列立、
次殿上人頭大藏卿宗賴朝臣已下立、其後、伊豫守季長、
同在此列、
上官家司職事列其後、皆悉立、再拜了、余揖內府
一兩度之後、左廻昇階、伊豫取
着、着圓座、東、次內大臣
昇自南階東頭、經寶子、東行入自南面東第一間、
經座末後等、着茵座、左大將已下、直出中門了、須

臾內大臣起座、出自中門廊妻戶、即余降自南階、
伊豫取出自中門、內大臣被立北方、余
着、出而過、大臣被居地、於門外、乘車
發、參院、此間公卿等列立中門外、余下車經列
前、進中門下、次尋申次人於左大臣、答云、別當、余
目其人、通親卿進來氣色于余、昇自中門外、其息通
宗取其
查、進寢殿寶子、南階
東門、候氣色、右廻退歸、降自中門內
方、仰聞食之由、氣色、立中門外北方、通宗令
着、次余已
下列立南庭、參議已下立後列、納言已上一列猶依
進上、殿上人立參議後、依人多五位立後、皆悉立了、舞
踏如例、次余經列前退下、居其外、下膳等皆出中門了、
須出中門、去年如此、而雜人充
滿珠簾、猶仍忘禮、昇自中
門內方、人々次第退下、右內兩府來着公卿座、須臾余
參內、先是右大臣候殿上、余同着殿上、即參御
所、召忠季、信清等、令奉仕御裝束、此間余參宮
御方、欲供御樂之間也、左大將來告御裝束之由、
余參御前、即着殿上、告人々、自下膳起座、余於

弓場殿、着靴、進立中門下、付實明朝臣、奏事之由、奉仕御殿御裝束了歸出、仰他聞食了之由、余已下列立前庭、東上如何、依六位還參、頗經程、忽拜舞了、此間、主殿官人、參御前、右大臣已下着陣敷、以實明、立明在三列後、內辨於右大臣、余歸參宮御方、更參內御方、見外任奏了、少小時退出、其後女房節供、仲資奉仕之樂實朝臣陪膳、余節供、陪膳同人、以政朝臣奉仕之、此日來家拜禮人々、

內大臣、左大將、藤中納言、

左大辨、治部卿、前宮內卿、

六條三位、新三位中將兵部卿、

二日、亥天陰、午剋手水、陪膳光範朝臣、其後大外記師直持來叙位勘文、左中辨親經朝臣來申此旨、仰可召之由、即師直持來叙位勘文、入符如符如例、未見事也、余披禮紙於宮中、披見之、問不審事等、見了如元加禮

紙、置宮外、押出宮、師直進寄取之、懷中笏取宮退下了、伴師直於長押下一揖之後昇長押、頗不審也、次余歸入、其後師直以人陳加封爲失之由、又申云、除夜被解其官、衛府等之中、或有不入補任之者、又有辭退之人、仍未成宣旨、三々日以後、委相尋之後、可宣下云々、此日、光綱、藏人方、官方家申

吉書、傳奏、各見了返給、今日、大納言賴實卿來、余出客亭、直衣居、謁之、少小時退出了、余歸入之後、又他公卿等來、不謁之、入夜大理來、依勞風氣不謁、以人謝遣之、兩頁首申吉書、實明云、殿上并宮御方淵醉只今了、殿上人十餘人候云々、入夜又他公卿等來云々、各以不謁之、今夜、女房乘車出門外、向北戶上家、即歸、明日可方遠、而年始出行、依日次不快、今日出行也、

三日、壬天晴、午後雨降、午剋手水、陪膳光重朝臣、即見鏡、今日以欲出行、而自去夜風氣咳嗽氣共不快、雖相勞猶無減、仍不出行、大將參所々、八條院內裏、民部卿來、不謁之、入夜爲方遠向經家卿六條家、女房同車、密々事也、乍乘車待鐘鳴歸來、此日、公繼卿來、隔簾謁之、

四日、癸雨降、午後晴、自院被仰下云、叙位猶五日可行、式日事不可依日次云々、此事太無謂、五六日兩日共日次不快之時、依式日被用五日也、今年六日無程、五日凶會也、先例如此之時、必期被延行、今仰不審、勘先例雖言上子細、猶不可延引云々、未得其心計也、和議卿相痛七日之

出仕、申此旨、歟、近代之事只如此、何爲哉、後七日御修法事、長者三人皆辭、尤不便、猶被催覺成云云、今日、長房申吉書、藏人方、政所方、長房申云、家習先奉行神事、也而分配御齋會云々、爲之如何、仰云、全不可依家例、早可申沙汰、就中、御齋會年首最初之吉祥御願也、更不可憚者、仍領狀、入夜實明朝臣來仰叙位之間事、明旦相具目錄可來之由仰之、五日、寅天晴、此日、叙位儀也、因會日不執筆左大辨定長、有^功過定、與齋實家卿、見合中納言親宗、陪帳事。陪帳事一作設書定文口、宰相中將公繼兼行、公時俄稱改例也、余依咳病在篋中、次第如例、中宮御給權亮忠季叙正四位下、可悅々々、妻后御給多、加階也、任先例奏聞也、後七日御修法、事非長者勤仕例、網所注申兩度云々、

六日、卯早旦自院以北面下薦、賜御書、加叙三人事被^二仰下也、又泰經卿來、於直廡謁之、條々事奏聞了、明日叙位可被^二忿之由、以資實奏之、又以消息觸右大臣、辨云々、今日以五位藏人長房、後七日御修法阿闍梨事、被^二申仁和寺宮、只今參院直可申沙汰之由被^二申云々、後聞實任被^二催云々、濫行顯露

人也、如何々々、

七日、丙天晴、長房申云、散位人無例、仍改實任被^二催延果云々、隨又領狀云々、忽無補長者之儀、仕承保大治等例、雖非長者召奉仕云々、三人之長者同之辭退、尤無謂、就中、俊證、覺成共祇候院中、被^二對捍、被^二追希代不當之例、如何、早旦、自院給御書、加叙人事也、天晴、此日、白馬宴會也、豫奏院、又觸內辨、右大臣仰職事、催諸卿可忍行之由結構、而叙位奉行職事頭中將實明朝臣遲參之間、事頗懈怠、尤遺恨々々、未刻、右大臣、藤中納言參陣、申刻、參入、此後、實明朝臣自院歸、參內、加叙并被止位記之輩事等、注折紙持來、此間以頭亮宗賴朝臣仰內辨、相續以實明朝臣仰加叙等事、實明來折紙、與今日御書、仰有相迫、然而就御書、仰下了、余須着束帶也、而所勞不快之間、密着直衣、候中宮御方、仍外任奏之、等直可奏、不可持來之由仰職事了、申終、實明覽下名、書入加止位記之者、見了返給、可傳內侍之由仰之、小時、內辨進中門邊、即內侍持下名、臨東階上、內辨進寄取之、着中門北几子、召三省下之、二名承迎參經、半時、日已沈、四、外記懈怠、太不敵、內辨歸入仰職事、令引陣、左近次將連、參又移刻、次內辨

若三兒子、內侍出三東階、內辨謝座

直向乾闥、誰人名義、是下官也云々、家說也、但臨時

先向四揖、昇殿開門等之後、下於陣着、叙位定令

就三弓場、奏聞之故、昇殿、給三位記莖了、輔代列參之後、更召式部、給

式莖之後、更可召兵部也、而始召式省、參上、召舍人、少納給莖、退下之後、不召兵部、々々推參給如何、

言參上、召三刀欄、諸卿參列、上首內、大臣也、謝座酒禮了、昇殿

不着座、被催叙列叙人、列者召大理、給叙位宣

命、諸卿下殿兩段再拜、復座後、叙人給三位記、三位中將忠經

以下立叙列、經房冠雖參、內不立、如何、不當々々、拜舞退下、次親族拜舞、諸卿歸

昇、左大將獨留立三軒廊北邊、公卿參上之後、立三軒廊

西間、見三白馬奏、先左奏加署、次右奏不、加署、雖大將闕、進

弓場、奏聞之後復座、次內辨仰三太辨、令撤三版標等、

次白馬渡、此後、余歸參宮御方不見、此後事余密々

於三南殿簾、見之、主上最密也、相具中宮、渡御簾

中、御覽節會白馬渡、後返御也、節會終頭大將又參

宮御方、其後余退出、今日、內辨復座後舉燭、近年未

有、此例、尤可謂早速、但頭中將早參歟、外辨之列、

猶不及晚歟、職事懈怠、尤遺恨々々、不出御、御忌

月例也、

八日、巳天晴、此日、諸寺修正始也、又御齋會始也、余

依風病不快、不出仕、申刻、左大將參官廳、依御齋

會也、依三上臈遲參、且始事云々、其後賴實可參入

云々、自三官廳參院、而依三御寸白、御幸忽停止、仍

參三法性寺、咒師三手之後退出了云々、御齋會事、右少

辨資實奉行、藏人官事長房申沙汰云々、

九日、戊午朝小雪、風病猶不快、仍不參御堂、大將又

不參、

十日、己未天晴、宗賴朝臣來申三條々事、其內申三學問料

事、余仰云、可被行試之由、可三奏聞者、其闕已有

二段、一人雖優內舉、今一人仍可被行試也、實明

朝臣申藏人所望之輩事、余仰云、當時侍中四人皆非、

重代雲霄之陵遲、近年無三比類、皇化、自近及遠、禁

中之違犯、先可被三紕定也、而六位藏人無其人、之

間、近日隨時萬事陵替、於今度闕者、必可被撰

器量之由、宜可三奏達者、又申三齋宮寮頭之間事、仰

可三奏之由、光綱申三女叙位之間事、不知三子細事等

太多、仍粗示仰了、猶以不得其心歟、女叙位之職

事、第一之大事也、近代一切不存此旨、何爲哉々々、

此日、宮御方年始吉書也、頭宗賴朝臣申先覽余、次覽

大夫、定賴來此事、使次參內、啓中宮、件吉書事、建禮

門院之例、於三廳請印、亮已下着三廳云々、而永久之例、

無所見、又久安宇治槐門記、不漏巨細具錄之、而年始吉書事、事又以無所見、疑無其沙汰一歟、但大治皇宮門院后位之初、故殿定有御沙汰一歟、應保皇后宮立后、即故殿同御沙汰、此兩度、亮一人申吉書之由有所見、更無着廳之儀、仍以件兩度之例、只宗賴朝臣所申吉書也、無廳之請印者也、此夜、余猶風痺不快、仍不參御堂、大將又自明日連夜可參、卿依所勞事不參、兩夜父子不參、尤有恐怖、御堂之事、非有殊障者、必不可闕參入者也、今朝以使者訪中、法皇御惱無爲云々、仍明日可有修正、御幸者、神祇權少副大中臣親家來、仰付神官祈請事、付進神馬二疋內外宮各一疋、聊注旨趣給、明日可下向云々、

十一日、庚申陰晴不定、此日、女叙位也、又院先御幸白川押小路殿、今夜可幸法勝寺云々、余依所勞不參入、女叙位依爲有限、相勞所參內也、大將供奉御幸、自其參法成寺云々、余着直衣、晚頭參內、豫奉行職事光綱一人祇候、他職事未參、又執筆未參云々、兼日依可指合、御幸殊可被忍行之由申請云々、而遲參如何、直應裝束如叙位除目立屏風也、女叙位多、出居座事也、然而余依所勞不快、可在

簾中、叙位除目有簾中之儀、女叙位何其儀哉、乘燭、宗賴朝臣已下實明外於例所撰申文、不書目錄、只付硯宮蓋、不結之、以空勘文、被余先參內宮兩御方之後、退下方置之、袖書、不置也、應待執筆、亥刻、左大辨定長參候休所、先是、入眼上卿親定參入云々、依簾中、余着布袴中、召五位藏人光綱、仰左大辨可召之由、即參議左大辨定長卿參着公卿座末、只咳音余召之、許也、定長微唯揖、經簀子着圓座、少膝行、刷衣裳正笏、余咳之、定長召光綱、召其名、例也、光綱參候簀子、定長仰硯紙可進之由、即持參之、置執筆座前、御書盛筆硯紙二張等、執筆置笏引寄之、取笏候氣色、余咳之、執筆申返續紙、摺墨染筆取笏候、寫返續紙、未摺墨以前、可兩脫、女叙位之時必先可候也、其故ハ、候氣色一歟、男叙位之時在給申文勘文之後、摺墨有便之故也、余以申文空勘文等給執筆、自簾下、給出也、執筆取之復座、須進寄座而作座指笏空手進寄、申文勘文等座前橫置之、拔笏置此人作法先々如此、

右、引寄柳宮勘文硯與四座之間、橫置之也、先見申文短冊、並置硯左、與方也、勘文先取掌侍申文、解短冊置硯下、硯在、披讀申、展置硯左、先取笏申云、名字三ヶ所皆摺之、已爲難書、爲之如何、余云尤難書也、但已爲可被叙、叙人雖宜優之有何事哉、仍取續紙染

筆叙之、置筆讀申叙位姓名、次取藏人申文讀

申、領叙之其名俊子云々、余問云、仁和寺一宮院三條

名也、於齋宮齋院者憚之歟、於內親王者先例不

必避之、但件人頗有名人、又被尊崇歟、如此之人

雖有樣有用捨、但若又爲齋內親王哉、儘不覺悟

先例、憚哉否、可問外記者、定長置筆、召光綱

問外記、々々申云、國母之外、先例不憚者、余云、非

國母者雖后宮名不可避歟、勿論申狀也、只儘事、

其年其人分明可勘申也、抄物申云、俊子ハ樋口齋宮也、

余云、件齋宮ハ仙字歟、如何、定長云、一定俊字也、

云々、仍不憚齋內親王名之例ヲ所尋問也、光綱退下問云、

此間且叙御匣殿藏人、依余命也、次定長取笏申

云、院宮御申文、院宮之次無乃字也、余咳之、定長先召實明朝

臣不參、仍召男共、光綱參上、定長仰云、院宮御申

文、光綱退下、余云、以近衛次將可召也、定長云、傳

召有例云々、余重不言、竊案之、縱雖有例無其

謂事也、近衛次將者召御申文之使也、其品非卑、

何故以人可傳哉、以違先々例備證據、可謂不

足言、然而可爲執筆之失、強不可執筆論也、抑、

叙藏人御匣殿、藏人之後召院宮御申文者例也、先

叙掌侍一例未檢知、定有所有也春除目先任內暨、秋

先任式部、叙位先叙式部、女叙位先叙藏人、是古來

定準也、今夜始見此儀、可謂希代之例歟、掌侍如叙

位之時之王氏藏人等、置其所叙院宮給之後、追所舊

藏人上也、今作法未會聞、女叙位者雖事少、其習多

不存、故實之時、必有違失者也、但不可守一

偶、重可檢先例者、不經程持參院宮御申文、左

將定案帶劔執筆取之置前、同所也、押柳宮申文等於

座下、申文之取下方、二橫置之、挿笏取院宮御申文、進簾下、被置

文、褰簾進之、余取之、定長退拔笏候、余一々拔勘

〔封〕撤禮紙、不撤紙、一通之中弓三箇之、八條院、殿宮門院、

親王等突張御簾、定長挿笏進寄、褰簾取之復座、

座前橫置之、拔笏引寄柳宮申文等、如本置之、先

撤勘文一見之、欲叙院宮給之時、見勘文、不心得心、次叙院宮給、皆叙

了、凡申文等多叙了懸勾、置或東方、至于中宮御給之所、押

筆申云、則子與範子前齊院御、雖字異訓同如何、余

云於女名者、不憚同訓歟、中后安子者名人也、國

母也、然而高陽院泰子也、況於已下哉者、定長伏理

叙之、次未叙女官等申云、小輪轉勘文小字未聞事也、大輪

文中中之、加小余許之、定長召男共、光綱參入、定長

仰如初、次叙女官等須見合空勘文也、而一切不見勘文、如何々々、此間持參

輪轉勘文、執筆取之叙之、可中上歟、無音叙之如何、次叙加階、先叙皆悉叙了、書年號月日、放紙餘寫之、一兩度覆勘置硯左、爰余云、被尋外記事、未申上如何、定長取笏召光綱、尋之申云、不叙藏人之例、天永二年也、於齋宮齋后御名之例、未勘得者、初申多之由、令中不勘、次定長取院宮御申文一通、放裏得之、之由如何、紙、硯之儲紙搥結、成文空勘文同體加之、外題不引、撤硯筆續紙等、押遣座下、成文同撤之、以叙位、置柳宮、挿笏取之、進座下、重之、余取叙位、返給柳宮、定長取之復座調、更取成文、副笏進寄獻之、余取之、定長復座調、雜具、退下候座、未女叙位之時、不必復座、或直退下者也、但復座又非難、次召光綱、尋入眼上卿、光綱申候座之由、余目之、親宗卿自座前一參進、可經實余給叙位、副笏退下休所、抑、女叙位之時、執筆一人參候、大臣之外、他公卿候座之例、未召有、而親宗中間參上候座、尋不、可然、雖不能追立、令召光綱、尋之、爲表候座之條、無謂之由也、此日、資實來里亭、除目事可奏聞之由仰付了、此夜宿候、中宮御給內侍所、可叙也、

十二日、辛酉天晴、午刻許退出、此夜、女房爲見咒師參法成寺、余庇車出車三兩、殿上人前驅地下君達兩三人、諸大夫七八人許也、以上皆衣冠、大將乘半蒔車、冠也、扈從、在牛物定雅能季等在大將車後、余網代車未出來、仍乘大將網代車、先以參御堂、隨身騎上鷹冠、小童生年六歲、着布衣也、候與大將同車參御堂、爲見咒師也、今日給咒師猿樂裝束了、小々有未進之所々重加催了、且所給也、今夜咒師七手了、先女房歸、大將在共、其後余歸宅、十三日、壬戌雨降、此日、中宮女房爲見物預參御堂、而依雨留了、法印被來、親經來申父入道所勞危急、役夫工奉行難叶之由、仰可付職事之由了、十四日、癸亥陰晴不定、此日、內女房、中宮女房參御堂、內裏女房出車二兩、大將着束帶、參御齋會、竟行香了、參院供奉御幸、其後參法成寺云々、今日、御齋會內論義於南殿行之、依御物忌也、又右近嬬居左近陣、依天永二年儀也、右近陣爲中宮侍之上、太無便宜云々、先日余仰長房、奉行猶事也、令檢先例所行也、長久三年有此例、左近儲嬬、然而天永以來雖儲其座於左陣、嬬并役人皆右近沙汰也、依近

例、今度又同、天曙之後、女房等歸參、大將歸來、公家不動法實慶備正、今日結願、依阿闍梨辭退之、中宮御修法猶延引、又公家北斗法同延引、

十五日、甲子終日風烈、此日、女房密々參詣吉田賀茂祇園等、侍等在共、能季乘車在車後、晚頭歸來、戌刻

供節供、陪膳季長朝臣役被許若衣冠、其後參內、依爲三年始有前

駟等、諸大夫十人用大將半部車、依略儀也、出車一

兩、殿上人、半物車等也、大將乘網代車相從、隨身口不

中宮聊有御風氣、余依所勞不參入、明曉修如法

泰山府君御祭、依御惱也、以宗賴奏條々事、親經

申、役夫工辨辭退事、仰云、可仰他人、雙親重病、尤可被優々、三合御祈事、

仰云、月宛法事可爲相計沙汰、大領事猶不可然事歟、公卿勅使事、仰云、猶早速可有沙汰歟也云々、

學問料事今日不奏之、明日八幡御幸云々、余仰云、

公家御祈、屬屋御祭、以在宣可修之由、可仰光

綱者、

十六日、乙丑無舞樂踏歌、依御忌月也、恒例也、

十七日、丙寅參內宿候、

十八日、丁卯入夜自內裏參院、依連華王院修正也、

西面閑所被寄御車、未得其意、余褰御簾、御車

出西面門、余於南面門乘車、御車過了後乘之、北入面置候御後之後也、

御自連華王院南門、寄御車於御所南面、先々寄東面、若近年之、余經公卿侍臣前、昇東面階、參上、褰上、

御車簾、即入御妻戶了、余着公卿座、入座後、人々皆

着座、小時、右少辨宗實東、自南方參、先請奏、余

參御所簾前、奉仰退下、次法咒師有鎮法等一如例、

此間、藤中納言定能卿來告召之由、即參御所、仰云、

所勞之由、定痛寒風心云々、即御所火桶被生火、同注文等甚和緩也、初夜導師以後咒師五手

了、大導師實顯法所作了、公卿已下取布施、其面經、南西北等、引布

施於諸僧了、經次龍天、毗沙門鬼等如例、次檢校寶慶

正面御前復座也、僧正、取牛王奉授法皇、次還御、余褰御簾、于時

寅終也、余不參六條殿、直向九條、爲逢明日講

演也、

十九日、戊辰恒例舍利講也、講師貞覺法師、問者範源已

講、此夜留九條、依明日內府月忌也、

廿日、已故內府月忌如恒、今夜猶留九條、明日歸路

之次爲參院也、今日欲參、而院參給日吉、明日可

歸給云々、

廿一日、庚午入夜參院、仰云、今日物詣了、歸來之後、只

今始自行、有可奏事者、其後可謁、暫可候歟、又

無殊事者、後日可參入者、更無可申入事、奏

後日可參之由了、謁泰經卿、仰伺條々事了、參八條院、即參內宿候、

廿二日、辛未申刻退出、法印被來、以泰覺可爲平等

院執行并權上座之由、明後日可成合旨之由、仰

宗賴朝臣了、今明依日次不且也、

廿三日、壬申明日於禁裏可有畫咒師之由、豫以有

議、而今月爲御忌月、仍奏事之由、延引來月二日、

親國來申云、公卿勅使之間事來月廿五日云々、但驛家

事不叶歟、三月上旬又可問日次之由仰了、

廿六日、乙亥此夜、參內宿候、除目之間事、以宗賴一條々

奏院、歸來傳仰旨、傳奏泰經卿云々宗隆承役夫工事之後、始

來仰條々事了、今日參內以前、實明朝臣爲院御使

來云、明日可有御方違行幸云々、未聞食如何、此

仰未得其心、此行幸事催院邊云々、奏事之由、可

計之後下知了、未仰奇思不少、奏其旨了、

廿七日、丙子天晴、此日爲御方違臨幸法皇宮、其實無

之用、只心閑爲、龍顏法皇欲有余自閑路豫參會、覽御

行幸、仍余奏事之由、申行云々余自閑路豫參會、覽御

整扣東門、余降自殿上廊東妻、進參門下、左大將立

外西上南面、如恒昇、寄御與於門下之後、余正笏進

出、氣色于賴實卿、院司上賴實卿離列進出、相

揖入中門、進御所方、余少退歸出、余又示氣色復

列了、次余經列座、進中門下、次大將前行立中門

外南腋、次御與進中門外一昇廻、御與依不向昇居中

門、余候中門北腋間、脫着給次實教卿開

整戶、取御璽前行、次下御、御草鞋余奉扶持、次

公時卿取御劔從之、後余排笏取御裾、經中門並

透渡殿及寢殿東簀子等、入御自同東面北際妻戶、

內侍二人豫候此處、受御璽也、主上暫不脫御裝

束、小時法皇渡御、女房丹三品候御共余依召參候御

前、暫而退出、歸參內裏也、

廿八日、丑丁此日依歸忌日、無還幸、明曉可有還御

也、今日於院北面下薦等可奏雜藝云々、爲見余

有御結構云々、而自今旦頓病、都不能起居、御氣

未辨清、一切不動身體、此旨示女房許、又仰資實

了、返々遺恨不少、大將參入、然而不被召雜藝座、

云々、是余不參不快之故歟、此夜典樂頭賴基來問、

有樣、任申狀、加療治、

廿九日、寅寅刻還幸云々、余依疾寸步不退下、只平

臥直廬、加種々療治者也、

此夜、春除目也、執筆左大辨定長卿、余依疾坐籠中、

有三功過定、樞大納言實家編與書、平中納言親宗親見合、藤宰相展

刻、內覽申文、先宗賴朝臣光綱等覽申文、之後且撰

之、於休所數刻之後、他職事等參入、重以內覽、實明朝

國長房未刻、宗賴朝臣參院、未撰終申文、仍仰付光

綱、親國等云々、長房依有、參院及院歸參日沒新大納言賴實、藤

中納言定能等參入之由相觸、答早參神妙之由、相續

執筆定長卿參入、而未撰終申文、驚而尋子細

處、光綱早以退出、親國候內御方撰申文之所、只

六位兩三未及付短冊云々、召寄親國仰子細、

光綱致沙汰之間、白地爲尋陣頭事、參內御方也

云々、此間、長房歸參、取申文目錄、藏人範秀雖成

草、未會有云々、仍更取之歟、光綱雖遣召、猶以

不參、奇怪之條、無物取喻、秉燭之後、猶以不終

篇、仍且仰親國、仰召仰事、赴陣仰之、上卿賴實

卿、其後如形雖付短冊、目錄清書無期云々、仍只

以草案紙屋假加置之、即以長房召公卿、賴實卿、

良經卿、定能卿、親宗卿、公時卿、定長卿、公繼卿、着

座、以親國五位藏宗隆、家實、長房、五位藏等、任位次

取宮文置之、次召左大辨藤原朝臣、先問在座說

定長卿着圓座、覽闕官帳如例、次添大間任四所

任兩人、召院宮御申文、仰宗未任終四所之間、將

參御申文、定長推宮、藤就簾下覽之、余取之、即

給可袖書之申文等、藤定長取之復座、先任四

所了之後、先任當年內給、此後加袖書、召宗隆

下勘之、次任公卿當年給、及三通之時成束、次取

笏申今夜可任者任了之由、仰可寫大間之由、即

寫大間封之、北如恒、封成束加盛一宮、成段申文以

加之、就簾下進之、復座引置宮等退下、今日

執筆着圓座、即實家卿參入、早出、相續經房可參入、

任四所之間、居火桶衝重、有勘盃、實明朝臣、長余

在簾內受盃、招實家授之、先是余問云、受領文

也候不、實家召家實問之、申山城文候之由、仰

可定申之由、其後參議召藏人、召切燈臺硯等定

之、調庸揔返抄事、被尋官、遂以猶加庸字也、以

之爲善也、書定文了、實家卿取副笏就簾下一與

之、余之加置申文等、未議始以前、外記重闕官帳

下宮留之、並置申文之也、今日依四位家司不參、不

居余衝重、但縱雖家司參入、依命空歸不居之、今

日依家司不候、揔以不及欲居也、是又先例太多、

議始、覽之後、定賴朝臣自院歸來、仰條々事、但被

召留目錄、未_レ被_レ定_二任人_一云々、明日可_二參入_一、可_レ被_レ仰_二子細_一云々、但以御書有_二被_レ仰事等_一、已領_レ事始之時、光綱加_二勘發_一、更無_二披陳_一、方_二今日_一棟範朝臣雖_二參入_一、俄頓病更發、遂_レ退出_レ、仍少辨_二二人候_一宮文也、其不足五位藏人二人取_レ之任位、次親國取_二一宮_一、公卿自_レ陣來_二直廬_一之路、竊經_二南庭_一也、理不_レ可_レ然、廻_二大路_一可_レ入_二自_二西面門_一也、然而太以遼遠、又無_二便宜_一、仍隨_二宜經_一南庭、此直廬儀每度如此也、事訖竊給_二中文等於_二宗賴_一、令_レ調_レ之、藏人等所爲散々之故也、凡近代之侍中皆以卑賤、有若_レ亡之間、公事之時、每度泥々、爲_レ之如何、

卅日、已_レ此日、除_二自中日也_一、執筆同人、秉燭以前、定長參入、而一切無_二他卿_一、仍責_二出右兵衛督兼光_一之後、大將着陣召_レ之、即良經卿、兼光卿、定長卿、公繼卿來着座、次置_二宮文_一也、如_二去夜_一、次召_二定長_一、定長着_二圓座_一、余推_二出大間宮_一、定長取_レ之引迴復_二本座_一、未_レ置_二宮之前_一給_二公卿給等_一、今夜出來申文、並前官未給申文也、定長更揮_二笏進來取_一之、復座置_二宮、緣_二大間_一、先任_二今夜下給申文之中_一、公卿當年給_二此間_一、宗隆持_二參去夜下勘申文等_一、次第任_レ之、又有袖書下勘者、猶宗隆也、相替可召_二他人_一歟、又任_二內舍人文章生外

國、次執筆三勘文_{轉任、宿官、兼國等也、}定長覽_二兼國勘文_一、見了即返_二給之_一、定長復座任之、定長申云、所_レ載大間之闕任了、而權守今無_レ闕、爲_レ之如何、余竊給_二外記所_一注進_二之權守闕注文_一、是正國不足之故、內々讓_レ依_レ仰_二外記_一、令_レ注進其間也、定長取_レ之、不_レ推_二宮及而取_一、皆任了、任_二宿官_一皆悉任了、封_二大間成文等_一進_レ之、復座引_二宮等_一退下、此日無_二顯官舉_一、外記史共無_二所望申文_一、仍任_二入眼日有_一此舉之例、明日可_レ有_二舉之由_一、豫仰_レ之、今日良經爲_二上首_一、仍無_二勸盃_一也、依_二中間宗賴歸參_一、猶被_レ留_二目錄了_一、明日可_レ定事云々、條々有_二被_レ仰下事等_一、不_レ記_二子細_一、今夜余猶在_二簾中_一、依_二疾不快也_一、居_二火櫃衝重如_一例、公繼卿始終候_レ座、

建久二年

二月

一日、辰、陰晴、此日、除_二目入眼也_一、執筆同人、左大辨、定長也、奉行職事頭_{作頭}、亮宗賴朝臣、已刻參院、爲_レ申_二定任人事_一也、申終歸來、大概雖_二定仰_一、猶有_二未決事等_一、仍重以參入、亥刻歸來、其後書_二任人等於折紙_一、使_レ左大、將書_レ之、之後、召_二五位藏人長房_一、召_二諸卿_一、余在_二簾中_一、如_二夜前_一、上卿

右衛門督隆房卿云々、大將書_二任人折紙_一之後、着_二束帶_一之間、依_レ可_レ經_レ程、且召_レ之、中納言仰_二宮文_一、
於召仰者、中納言仰之例、尤遐邇也、於召仰者、其例不可勝計、先規多存之故也、不經幾程、公卿等來直廬、次第着座、先是、左大將着座、其外右衛門督隆房、右兵衛督光、藤原相中將公時、次置座、左大將定長等也、中納言親宗、追所參加也、五位藏人親國、左少辨宗隆、右次召_二右大辨_一、其朝如恒、官姓文、少辨家實、五位藏人長房等也、大召_二右大辨_一、朝臣也、先問在座、後召_二之如_レ例、定長卿着_二圓座_一、余賜_二大間當_一、定長押_二宮押_一、笏_レ座_レ之、定長進寄囊_レ籠、取_二宮復_一座、未_レ置_二直他宮等_一之前、賜_二申文_一一結、非_二大束_一、可_レ任_二之取申文_一、爲_レ出_二少々_一賜_レ之、又芳心之至也、定長又押_レ笏進寄、取_レ之復座、直置_二宮等_一、取_二出大間_一、終_レ之、次第任_レ之、爲_レ先_二內去_一、此次之作法如_レ例、左少辨宗隆去夜所_二下賜_一之京官未給等、勘上持_レ參之、又今夜所_二出來_一之申文等下_レ給之、定長不_レ書袖_二下_一、過半任了、申_二事之由_一、召_二宗賴朝臣_一、召_二名朝_一、召_二瀧口所衆勞帳_一、天詞云、藏人所_二議中間召_一、左大將於_二簾下_一、賜_二顯官申文_一、令_二舉_一申之、大將歸座、次第見_二下合_一舉_レ之、公時朝臣書_二舉冊_一、大將撰_二出申文_一、殘中文留_二宰相之許_一、而件撰弄之數多以被_レ任_レ之、仍密又先_レ持_二來簾下_一、余_レ以_レ取_レ之、撰_二出可_レ任申文等_一、賜_二執筆_一、議終頭召_二着公卿等於座_一、先_二是或待_一側休所_二、仰_レ可_レ

有_二受領舉_一之由、兼光早出、各起_レ座於_二休所_一、召_二外記_一〔近〕進_二舉冊_一、各取_二副笏_一、復_レ座之後、更自_二上臈_一、次第就_二簾下_一進_レ之、皆悉任人了、定長爲_二大間_一、今度不_レ書會開_二、失禮言_一、召_二長房_一、召_二續紙_一、書_二叙位符_一、成柄加_二盛一_一、大間叙位_二、進_レ簾下一覽_レ之、更歸取_二成殘申文_一、〔又〕就_二簾下_一進_レ之、自_二國中_一取_二出任_一、復_レ座引_二直宮等_一取_二寄物_一、並_二大間_一、禮紙不_レ懷中_二、件禮紙_一、直退出、次余見_二大間端_一許、召_二親宗卿_一、座_二乍_一宮賜_レ之、親宗押_レ笏取_二宮中_一、於_二休所_一披_レ之、人々相共見了、相共公時向陣、先是辨官五位藏人等撤_二宮文_一、今日依_レ轉蓋無_二便宜_一、無_二勘盃_一、三箇夜依_二四位故障_一不_レ居、余衝重但在_二簾中_一之時、雖有_二陪膳_一、不_レ居之也、但參上領居之時、依_レ目空歸去、是先例、而今度以_レ不_レ及_二領居之儀_一、家司不參之故也、又此例太多歟、執筆狼藉不_レ可_レ勝計、失禮散々、偏不_レ受_二口傳_一、只以_二書付_一爲_二事歟_一、其中猶有_レ失、重任延任等、乍_レ載_二大間_一、不_レ書_二尻付_一、是先代未聞之失也、翌日辰一點事了也、事訖召_二宗賴卿_一檢非違使別當、左武衛_二使宣旨_一、左衛門政光、并若狹計略等事〔於陣仰_二上卿_一〕

二日、辛巳天陰風吹、此日於內裏南殿北、有_二晝咒事師_一、法成寺咒師也、南殿御後懸_二翠簾_一、爲_二兩方御在所_一、以_二中間_一、
御、以_二西門_一、出_二例几帳_一、不爲_二中宮御座_一、數_二榻_一、立_二三尺几帳_一、
所、以_二西門_一、出_二女房衣_一、爲_二中宮御座_一、屏風、立_二三尺几帳_一、
置_二小火桶_一、其西間女房出_二袖_一、是非_二打出之儀_一、不出_二妻只女房_一、
生座、等居、はる、體也、是故實也、

中宮御方、東面六ヶ間同居出體也、南殿北庇御在所間
以東只懸簾、不出_二几帳_一、御座間以東簀子敷_二菅圓座_一四
五枚、爲_二近習公卿座_一、左大將、左衛門督通親、殿上人等候_二
東子午廊西簀子、同近習殿上人等也、但少々有_二推參之_一
以_二瀧口方_一爲_二咒師散樂等着_一裝束所、前庭敷_二長筵_一
五枚、爲_二咒師遠場_一、副_二北屏_一、件屏中間有_二妻只_一、以_二件月_一、
敷_二紫端疊三枚_一、爲_二唱人座_一也、未刻事始、亥刻走了、
惣十手也、終_二兩三手_一、依_二入_一夜主殿官人立_二明_一、咒師
散樂各給_二坑飯_一、先例賜_二酒肴_一、今度仰_二伊與守季長朝臣_一、令_二調之_一、
所賜_二隆房卿追參入_一、余召_二御前_一、雖_二非_一近習之人、又強
非_二殊遠_一之上、依_二無_一人所_二召也_一、且是優_二公卿_一也、余
着_二直衣_一、候_二簾中_一、公卿又直衣也、寂密々儀也、唱人
着_二蠻繪袍_一、或冠、或甲、於_二體者元裝束體也_一、是布衣之
者、依_二不_一可_二參_一御所之靈、先例如_二此也_一、但於_二散樂_一
者、不_二禁_一布衣、是先例也、

今日午刻清書之內覽、依_二候_一內裏、不_二加_一解封_二見了返給、未終外記

持_二來大間成文等_一、定長依_二申請給時遣之_一、其次仰_二重
任_一、延任_二無_一尻付之事、即返_二上件尻付了_一、加_二注了_一、
三日、壬午天晴、終日候_二內裏_一、入_二夜退_一、出_二大炊亭_一、先是
宗賴於_二禁裏_一、申_二條々事_一、仁和寺宮被_二注申_一、三合御祈
事、又申明後日下名之間事、

此日、丹三品於_二淨土寺邊堂_一、始行_二五十講_一、院渡御、公
卿藤中納言定能卿已下十人云々、
四日、癸未宗賴朝臣早旦參院、申_二下名任人之間事_一、入
夜歸來、被_二仰_一明日可_二被_一定之由云々、粗有_二被_一仰
事等、此日、奉幣十烈如_二例_一、文章博士光輔朝臣陪膳
也、中宮同御奉幣、權大進宗方奉行、使權大進長兼也、
入_二夜外記來申云_一、會參氏人一切不_二參云々_一、仰_二民部
大夫重永_一令_二催_一之、此日、祈年祭也、行事辨宗隆、
五日、甲申此日、春日祭也、近衛使知光、昨日遣_二舞人半臂下_一、
束_二共_一以_二藏事_一、
仲盛爲_二使_一、行事辨右少辨宗隆、中宮使權大進長兼等
也、今日、下名也、早旦、宗賴參院、申刻歸來、持_二來御
書_一、即任_二被_一仰下_二之趣_一、注_二任人於_一別紙_二進覽_一、又賜_二
御書御返事_一、及_二深更_一歸來、少々被_二加_一任人等、宗賴
即參陣、上卿源中納言通資卿云々、頭中將實明云々、
院宣云、藏人可_二仰_一、七條院一薦者可_二仰遣之由_一了、今

日、女房三位局密々參詣春日社、

六日、乙酉入夜女房自春日歸洛、參社之間無違亂、謁禪師云々、長房申云、明日咒師酒肴事、內藏頭猶以所澁云々、太奇恠々々、讚岐始申一具可調進之由、依重仰、皆領狀了云々、

七日、丙戌天晴、此日於禁裏有壹咒師事、仍未刻着直衣參入、隨身不騎移馬大將同車也、於南殿北壺有儀、始去二日、良經卿也、陪以四、迴參之間、東座無便立之故也、通親卿、隆房卿、實教卿、公時卿等參入、以上御階東座、殿上人實明朝臣、忠季朝臣、信清朝臣、五位藏人三人範光等候之、先日近習之殿上人等多以推參、不可然、仍今度豫仰奉行職事、不令參入荒涼人、是依御前座即爲御所壺也、屏戶西邊侍、散樂等六人候之、

俗三人、於唱人者着盤繪袍甲等、主于樂人者被免鳥帽體爲狂物也、是先例云々、宮御方女房居出事如先日也、入夜未事訖、余參院、七條殿、召參御前、數刻申雜事、又有勅定、良久退出大炊亭、於內裏親國中、公卿敕使之間事、大將始可着行政之日、間在宣注申兩三日、廿六日可宣之由仰親雅所申也、

八日、丁未天晴、法印被來、召宗賴朝臣仰條々事、內行事、三合御祈事、列見事、新制事、可仰合人、人求同樣定事、來十三日也、長房申條々事、光綱親國宗隆等同申之、泰覺來云、明日可拜堂平等院云々、

大內行幸日次、十七日之由、撰申之由、宗賴所申也、行幸行啓奉行共、長房可申沙汰云々、中宮恐御方御所事兼時奉之、

九日、戊子天晴、宗賴朝臣、大外記師直等參上、召具左右近、左右馬寮等、催吉上、令注申不仕之輩、左右衛右兵衛、先注進了、仰可注申、上人父祖等之由、返給

了、宗賴申他條々事、親國召具伊勢國司爲季參上、申公卿勅使驛家之間事、仰可奏聞之由、今日以兼時遣泰經卿之許、仰付條々之事等了、

法皇渡御丹三品淨土寺邊堂、逆修初七日云々、講師今日辨曉僧都、公卿大納言賴實卿已下十一人云々、可彈指々々々、今夜御宿仕云々、

十日、丑雨下、亡母還忌也、佛經布施取等催遣光明院堂了、依爲蘭韓神祭、爲神齋、此夜於九條堂始修懺法、每年例事也、以中宮少進兼時上參大內藤壺、御裝束事令加檢知、及晚歸來、申云、破損殊甚、

鋪設又不足多云々、可爲伊與國沙汰之由仰了、親國來申云、祈年穀奉幣、上卿右大臣領狀可爲當日定云々、尤不當々々、此大臣被好事也、光綱申云、越前國成功事、依重院宣仰遣之處、雖載子細大略領狀、可隨構得者、

十一日、庚寅天晴、此日院尊勝陀羅尼也、余依所勞不參入、左大將所參仕也、牛部車如例、入夜歸來云々、無殊事云々、上首實宗卿云々、召右中辨棟範朝臣、來十七日行幸以前、內裏修造不法之所々、儘可令催勤之由仰了、長房參上申行幸行啓之間事、第二行啓大治被用與、應保車云々、今度可追大治例之由仰了、又大內鋪設事、成功程存公平、申沙汰之由申之、又申云、和泉國舍人訴申國司新儀事、可賜御下文哉否、云々、不可給勝他方當家舍人殊譴責之由訴申如何、有可仰遣國司許之由仰之、宗賴朝臣申條々事、起家之輩不可別給料試、可爲方略試之由、儒中謳歌云々、仍此條雖不可然、若又爲先例、哉如何之由、可仰兼光卿光範朝臣等之由、先日仰之、而各申不可有各別試之由云々、已叶愚案尤神妙々々、又新制間事條々申之、今日向左

大臣亭云々、社寺領可注進之由、被宣下之中、可被載員數事也、被申云、只守保元符不可及其外云々、此事不可然歟、此外雖條々多、不能具錄者也、

十二日、辛卯宗賴朝臣來申新制之間事、此日、大原野祭也、中宮被祭之、去年冬依件祭無之沙汰、奉行家司權大進長兼、并少進兼時相共參社頭、上卿左大辨定長、辨右少辨資實云々、御禊事權大進宗方奉行也、余奉幣十列如恒、

十三日、壬辰雨下、棟範來申大內修造之間事、清涼殿飛香舍等、所課國之申狀不分明、早奏事之由、可共責之由仰之、件所課全非臨時事、永宣旨之國宛也、全不及蒙催促、雖少破可加修理也、儘可仰聞此子細之由仰之、

十四日、癸巳朝間小雨、午後天晴、此日、祈年穀奉幣也、上卿右大臣、行事右中辨棟範、職事親國等也、午刻四範持來日時定文、定長書之返給、未刻、大內記長守持來宣命草、見了返給、但三合之上、今年御重厄之由、人々加載之、清書內覽免也、光綱來申條々事、長房又申行幸行啓之事、

十五日、甲天晴、此日、女房密々詣廣隆寺行願寺六角堂等、右大辨親雅持來太宰府解、宋人楊榮、陳七太等、於宋朝致狼藉事也、留符解了、爲付職事了、十六日、乙天晴、文章博士業實進願文草、來廿日爲故內養丈六佛之願文也、此次注申云、去夜有夢想事、故內相府詠一首云

なけくなよすきにし夢のはるの花さめすはさとり
ひらかましやは

以此旨可申殿下之由、故內府被示仰業實朝臣云々、

聞此言悲泣歡喜、淚已數行、先年出離之由有靈夢之告、故女院、女房洞院局於八幡宮、今又如此、戀慕之腸經廣切不可盡、今信此等之夢想者、豈不悅哉、凡亡沒以來、遠近親疎貴賤上下、所見所告之夢、皆以生善趣積功德之趣也、凡平生之昔、慈仁稟性、忠孝存心、無禁戒之外犯、有發心之內催、沒後追福、又古今無比類、後其事又人別銘肝膽、事而無假名、是無佛法納受哉、善根純熟之告、彌起佛法之信心者也、

親國申公卿勅使之間事、

宗賴申新制之間事、付太宰府解了爲奏也、今日法印被來、泰覺來申平等院雜事等、

十七日、丙雨降、此日欲臨幸大內、中宮局而甚雨無便

宜之上、非指日事、又陰陽師等有申旨、仍今日延引、來廿日可有行幸、於中宮者同廿一日可令退

出里第給、其故何者於大內滿十五ケ日之一氣去

王相之忌、可留大內也、閑院已當罷、春末相方也、因夏始王方也、

茲於閑院難滿十五ケ日之宿、至于五月中分、

十五日一度可有御方違行啓、此條太有事煩、又貴女連日之御行、曾無先縱加之、於里亭有可修

御祈等之事、仍覽可有御退出也、臨時祭之期、可

有入內、其後不滿十五日以前、可有還幸閑院亭、

其後同可渡御閑院也、此等旨仰長房了、自今日於清涼殿並藤壺可修仁王講之由仰之、又可

行宅鎮祭之由同仰之、是大內魔緣亂入之由有夢

告之故也、然者於鎮宅祭者、臨行幸之期可行之

由仰之、於仁王講者七ケ日可修之、仍不止之、

但藤壺不可修之、又自明日實慶僧正可修不動法之由仰

之、依斯退奏事之由、催之所領狀也、

〔智證法橋於三井寺明日受灌頂、大阿闍梨行曉法師

大略下方沙汰也、今日法眼裝束一具、爲女房沙汰、所調送也、

十八日、丁天晴、乘燭相伴大將、同車、參內、此日、春季御讀經定也、上卿右大臣、依參議不參、行事辨家實有定文云々、參內之後定了、家實內覽、見了返給、先光綱覽法親王宣命、三井寺宮云々、主上御中宮御方、余參御前、小時參院、以定能卿入見參、依召參御前、奏御方遠行幸、并方忌之間事、其後於便宜所招秦經卿奏任大臣之間事、即退出、後日仰可來示御返事之由了、向九條堂、依明日遠忌也、先是女房示此堂廿日廿一日可修八講云、兩三日可經廻也、今日參內以前召季弘業俊晴光等、問御方違之間事、申旨同賀家之輩、申狀子細太多、不遑委記、但八卦御忌方留御一氣不可憚之由安家申之、賀家申可憚之由、此事追可一決也、又金神七殺方、代々用捨不定、保元不可有憚之由宣下、應保又可忌避之由宣下、當時無其沙汰如何之由、晴光申出、仍問官之處、宣下次第如晴光申、然而其後無此沙汰云々、猶可尋由仰了、自今日於大內始修不動法、寶慶僧正大內可爲皇居、而依夢想不論事、所令修也、

行幸來廿四日之由定、并行啓同前也、

十九日、戊天晴、此日、先公遠忌也、先午刻、懺法結願、自去十日始修也、其後忌日之佛事、導師權大僧都慶智、請僧十口、定之、加導師例時之後引布施、其後恒例舍利講論談如例、講師行舞僧部、問者圓能法橋、

宗賴朝臣來申云、太宰府解奏聞之、處、可被沙汰云云、余仰云、先可問例於官者、此事宗朝商人楊榮并七太等、於彼朝依致狼藉、宋朝下宣下、自今以後和朝來客可傳召之由下知云々、此事大事也、仍伴楊榮等可被處重科、達宋朝之聞之由、宰府進解狀也、此事已大事也、早可被召戒後、兩船頭也、而於楊榮者於我朝取生者也、仍科斷無疑、於陳七太者於宋朝所生云々、先例如此之者、自由不被科斷歟云々、此等之子細依不審、先可問例之由所仰也、隨彼狀被問人々、可有沙汰歟、又云、左近府舞面外記應天神御筆等可被進由、有法皇仰云々、仍各可下知之由仰了、

長房來申云、金神七殺方事、問在宣之處、申云、高倉院御時、以御教書、在保元宣下不可忌金神方之由被仰下了、其後無沙汰、即所副進賴業御教

書也、仰可奏之由了、又云、最勝會式日今日也、講師賢固有輕服事、可有憚哉否事、問例於綱所之處、注申延引例、昨日勅申也、余仰云、天曆并後三條院御記、諸僧尼無傍親服之由有所見、但不憚之例可勘申之由仰之、今日重服綱所奉行御願之例勘申之、仰可奏之由了、

廿日、己天晴、此日、故內府遠忌也、賴輔入道依夢想告、爲內府勸進一千人、造立周丈六阿彌陀如來像一體、余同與此善、今日當忌日、所奉供養也、今

明兩日八講如去年、願文仰文章博士業實朝臣令草進之、清書尾報權守信定生君達也、導師隆憲法印八講證誠也、其儀

本佛前立假佛壇、奉安置佛像、大座華寶皆略、又緣先撒依寸法、花机高座禮盤等一如例、廣庇立行香、雖無行不叶也、散華并經箱机等其外事如常、午刻、僧綱參集、

仰家司伊與守季長朝臣、令打鐘、其家之輩皆爲僧事、又爲家司、仍仰家司上、日之事也、須公卿參上之後觸當座上首打鐘也、而

公卿遲參、日已斜也、仍且始行之、依爲內々儀也、次僧侶參上着座、宿裝束也、次講讀師登高座、第二靜殿勸讀師也、

法用如常、說法太優美也、事訖着下座、本家余女房三人共修、師靜、即引布施、其後更始八講、今日四座也、第一座講師靜

者行舞、第二座講師行舞、問者靜殿、第三座講師貞覺、問者圓長、第四座講師圓長、問者貞覺也、事訖、僧侶退下、堂童子二人也、參入公卿

藤中納言定能、藤中右近衛督兼光、

二位中將忠經、六條三位經家、

已上取布施、各直衣也、殿上人已下衣冠、

今日、八講外無他忌日佛事、未事始以前月忌如何、入夜宗賴朝臣來云、左近府舞面、馬頭守直物也、并天神御筆

等持參院、被留御所了云々、申他事等、親國申、公卿勅使事等爲依出、依出堂中不見文書、只以詞令申也、

廿一日、庚子雨下、此日、八講結願也、四座如昨日、結座講師貞慶已講也、說法珍重、只恨其音少、云談云辯

說、未代之智德也、可感也、事訖引布施、各被物一重、布施一袋、水干裝束一具也、證誠來臨公卿、民部卿

經房、前宮內卿季經卿、三位中將兼良卿等也、法印被來、今日女房三位殿見吉夢、可有皇子降誕、則可踐祚之吉瑞也、可悅々々、可感々々、此夜猶在

堂、

廿二日、辛丑天晴、丈六佛奉渡法性寺堂、此日未刻歸大炊亭、大將女房他車也、宗隆來申役夫工之間事、親

國申公卿勅使之間事、伊勢守爲季申還任功之間事也入夜宗賴申副符之間事、

廿三日、壬寅雨降、南都僧等來、圓長律師貞慶已講等也、各謁之、又靜賢法印來、此日、春季仁王會也、大將參入、今日圓阿絕入、經一時、蘇生云々、遣侍訪之、光綱來申條々事、

廿四日、癸卯陰晴不定、入夜天晴、此日、主上中宮共渡御大內神泉苑、自閑院當西方、即主上御忌方也、也、仍於大內經廿五日、可被移御忌之故也、件日限可爲夏節、仍更以鳥羽爲御本所、可有御方違也、是則於王相大將軍方者、以本所移忌、於八卦御忌者不依本所、以一氣全宿之所移忌故也、於大內經夏節、御、神泉又當南方、可有憚、是以更可渡鳥羽也、

乘燭着束帶、相伴大將參內、主上中宮共聊有御不例氣、然而依殊事不御、猶所臨幸也、供奉公卿已下催分之、余乘御々與之後、出御次第如例自閑路參會大內、雖須歸參、依脚氣無術、於內裏奉待行啓也、大將歸參、依爲中宮大夫也亥刻、口中宮行啓、經上東朔平玄輝等門、寄御與於藤壺東面戶、藤壺造御與寄也余

及大將立屏風几帳等、下御之後退御與、次名謁、權亮忠季初臣聞之、公卿等稱籍退出、公卿列南上東面、副西屏列立也、今日行幸之節有言書、頭中將覽、余見了返給、依無辨官不下上卿云々、不敵也、又於閑院行幸召仰之後、有行啓召仰、兩事共大將所奉行也先例次々行啓無召仰云々、此事理不可然、於今度者立后以後初度行啓之後、最初行啓、即被用御與、尤可專禮法、後々無召仰者、是略儀也、仍余依此旨、須召仰六府也、然而依有例、只仰外記、爲省煩也、行啓行列式法只如初度、但無系毛金造車等、又出車五兩、兩列四人乘也共侍各二人也、初度十兩也以藏人女騎如例、御車之時無之云々兩方共有大殿祭宮司等、皆供奉行啓、奉行人神祇官、可引導之人事、不致沙汰云々、仍臨期無其人之間、以藏事宗雅令引導、不可爲例也、廿五日、甲辰天晴、此日、春季御讀經初日也、上卿右大臣、其外新大納言賴實參入、中納言參議一切不參云云、仍申終、上卿右大臣以行事辨資實、人數如此、爲之如何之由、被相觸、答云、一定有可參之人者、豈可被待歟、不然者、於今無其力、早可被始、先例粗所覺悟也者、即被始云々、

余雖候宮御方、依所勞無術、不出座、中宮猶不快御坐也、歎恐不_レ少、召醫師時成_レ御、唯有_二小針、又自_二今日_一於_二山上無動寺_一、令_二修延命法_一、阿闍梨法、印慈圖、是非_レ依_二御惱、依_二別願_一所_二始修_一也、先年爲_二御憤、又天變御祈也、御衰日之條、此宮御事立后御祈以下有_二其驗_一之上、本文尤可_レ修祈之故也、但依_二御惱_一修_二御祈_一之條、猶頗不審之上、今日忘却シテ供_二魚味_一云々、仍明曉修_二御祭等_一如_レ法、泰山府君御祭、時給_二御教書_一也、又土公鬼氣等御祭同修_レ之、土公在寅、鬼氣業俊、又有_二明後日_一十七於_二春日_一御祈七ヶ日、可_レ轉_二讀金剛般若經_一、示_二僧正許了、又三ヶ日奉幣同御祈也、

今日放免所口置_レ之、寺僧等爲_二三合攘災、并中宮御惱也、但條々召_二仰子細_一、可_レ令_二書進起請_一之由、仰_二親雅_一仰了、

今日、新大納言賴實卿一人、候_二南殿、右大臣一人候_一御前、事始之間、右衛門督隆房參會云々、中宮聊不豫御坐、仍卜筮之處、頗煩之由占申也、

廿六日、巳中宮猶不快御坐、仍今曉使_二主稅助晴光_一

修_二如法泰山府君祭_一、又自_二今日_一三ヶ夜修_二土公鬼氣祭_一、土公在寅、鬼氣業俊、今日依_二僧徒早出、引茶延引、明日可_レ引、

云々、有_レ例之故也、此日、左大將始申_二行晴政_一、子細在_二大將記_一、余候_二內裏之間_一、不_レ知_二當日事_一也

廿七日、丙午自_二今日_一於_二春日御社_一、以_二三口僧_一、七ヶ日

之間轉_二讀金剛般若經_一、又以御表着御小褂等、進_二春日御社_一、又於_二大原野吉田祇園等_一、令_二修_二仁王講_一、七ヶ日、又

於_二宮御方_一請_二三口僧_一、令_二修_二仁王講_一、欲_レ轉_二讀大般若經_一之處、修中可_レ當_二御燈之齋_一、勘_二先例_一之處、雖_二佛事猶被_レ憚也、仍所_レ行_二仁王講_一也、又以_二行曉律師_一

令_二修_二羅睺星供_一、使_二業俊修_二天曹地府祭_一、自_二今曉_一又

修_二泰山府君祭_一、自_二今夜_一三ヶ夜式部少輔範光宮御祈可_レ行_二泰山府君祭_一云々、今日有_二引茶_一、又御論議也、

範玄法印勸番云々、一番弁忠山、千慶寺、共已講也、

廿八日、丁未雨降、此日、季御讀經結願也、右大臣、左大

將、右兵衛門督兼光、前宮內卿季經、三位中將兼良等參入云々、參議不_レ候、仍兼光一人候_二南殿_一云々、行事

辨家寶并兼光等遲參之間、秉燭事始云々、自_二今日_一以_二覺成僧正_一、宮御祈令_二修_二不空絹索供_一、中宮今日聊宜御

坐、今曉御汗小出、之爲_二悅々々々_一、母儀今日欲_二參內_一、而

聊依_二有_二御減_一、又留、無_二便宜_一仍延引了、

今日以_二眞圓可_レ被_レ任_一給僧正之由有_二院宣_一、余乍_レ恐

申子細、仍今日僧事一切被停止了（云々）、仁王講如例、

廿九日、戊天晴、入夜退出、於直廡有臨時祭定、頭宗賴書之、中宮御訪公卿少々參入云々

三月

一日、酉陰晴不定、依風氣不出御燈、遣職事、陰陽師等於河原、令修由祓、又行旬祓、大舍人頭兼余着衣冠、降庭中、遙拜大神宮春日御社等、如例、依去夜召、右大辨親雅朝臣來、召儀前仰狹山庄之間事并和泉國春日神人等訴申事、及逐電惡僧事等、親雅又申他事等、少小時、五位藏人長房參入申云、圓宗寺寂勝會問日次之處、六七八九日等皆吉之由所申也者、余仰云、八日可宜、八尊中猶可用辰日之故也、又申他事等、親雅重申云、狹山庄事付國司陳狀、河內國寺家未申左右、件使今日可歸洛之由雖相存、只今在京三綱等申云、衆議之後定申子細歟、仍今一兩日必可遲引也、其間遮國司訴申云、上所聞食尤次第可違亂、仍且可被奏歟者、又申云、問注所事兼尤可被申定歟、先々寺家望申、氏院問注他

諸司諸國等又望申、官廳院廳等、今度又同前歟者、余仰云、件使者可遲々、且尤可奏聞也、但件別當僧正書狀頗有不得心之狀、仍件子細、親雅參院早可申披也、兼又問注所事、於今度者氏院尤宜歟、件趣同可奏聞者、即參院了、入夜歸來云、法皇昨日自仁和寺、日來日岸之間、依理趣三直幸丹三品逆修所、淨土寺、今日又直入御今熊野御精進屋給、未還御六條殿、仍行向泰經卿家、仰聞子細了、泰經明日明後日不可參院、然而於子細者、承了之由所申也云々、今日、季經卿（被）來、自淨土寺所參也云々、今日當四七日、聖覺導師日也、公卿十四人賴實卿已下云云、可彈指之世也、季御讀經初度、各公卿一兩人、業房舊妻佛事、公卿十四人、但是非臣之不忠、君之私曲也、莫言々々、

二日、戊宮自昨日御減、今朝御平愈、如例無御溫氣云々、爲悅不少、

三日、辛天晴、公家御燈如例、陪膳頭中將實明朝臣、役供五位藏人光綱云々、向北御拜、兩段再拜宮御方無御禊、嘉保元年御祭無御湯殿、仍無御祓、爲先例之由見舊記、仍無御禊也、宗賴勘申也、自今夜始

春季不動護摩、今朝所結願修法也、宗隆來、役夫工之間申條々事、今日平等院一切經會開旨、家司亮宗賴朝臣、家司長房、樂屋行事職事二人〔此次余示付法成寺支配之間事、是兼尤法皇可聞食置之故也、〕

四日、壬晴、入夜雨降、光綱來申院宣云、今明可有小除目云々、六七日吉日之由撰申云々、

五日、癸雨降、大將退出、日來候內裏、口口宗賴來申條々事、光綱來云、除目明日可候云々、何事哉、宗隆召具大夫史廣房參入、申役夫工支配之間事、

七日、乙卯此日、中宮御祈、使大舍人頭業俊朝臣、修星御祭、三ヶ日修之、使內藏權頭國行也、祭文手自草之、自昨雨降、而臨期天顏快晴、星躔分明、悅思不少、御撫物御鏡也、此夜、大將依召參內裏、

八日、丙辰此日召秦覺資泰朝臣等、改法成寺口支配、爲終不日之功也、家領併宛之、親國申、公卿勅使驛家雜事、長房申來廿五日寂勝會講師領狀之由、

九日、丁巳忠季朝臣來、任大臣之間事、粗示之、入夜歸來、忠親可殊恐悅之由令申云々、

十日、戊戌泰經來傳院仰云、內府可轉太相〔年齡未至雖不可必然、依御要推而令斯職之由、若

有後嘲歟、丞相云、猶直任之、輒似跡進退、非無事之憚、太相近代大略弃置之官也、內大臣身雖無奉公家、惟可貴拜任、不可有巨難者、忠親卿可任內大臣者、此事去二月付泰經卿、奏聞子細、令仰如契請、尤以可也、申御定可然之由了、此次余示付法成寺支配之間事、是兼尤法皇可聞食置之故也、

十一日、己未以宗賴朝臣覆奏任大臣之間事、其次明後日、十三日、可有兼宣旨之由奏之、即歸來、仰聞食之由、入夜忠親卿來、余依疾隔簾謁之、伴卿丞相之間〔之事、爲悅示所來也、大將外推舉殊珍重之由所驚恐也、此次新制之間事示合之、去夜、入道中納言長方入滅云々、末代之才士也、又詩人也、可惜可哀、仍宗隆重喪、以宗賴奏事之由、仰云、可仰棟範之即可不宣旨之由仰之、

〔十二日〕

十三日、辛酉天晴、此日、官列見也、上卿通親卿、兼光卿、參議雅長卿云々、又公卿勅使召仰也、申刻、右大臣參陣、令勘申日時了、秉燭、勅使實宗卿參入、舉行職事親國於殿上、召仰之、又任大臣兼宣旨也、亥刻、忠

親卿參陣、前驅六人、三位中將忠經卿扈從、其息三人兼宗、忠季、兼季、同連車云々、頭中宮亮宗賴朝臣仰可任給

內大臣、可撰申日時之由、即忠親卿退、出於華山院、有大饗定云々、又今夜女房參內、余庇車、車副布衣、前驅衣冠十人、左大將藤中納言等連車、殿上人兩三在其共、忠武着布衣、候車後、出車、殿上人車二兩、半物車、職事車也、御車尻出布衣有物具、從車不着打衣表着、只裳唐衣許也、是最略儀也、先是余參內所相待也、今夜宿候、雖所勞無術、中宮密密可御覽南殿花、余不候者、可無便宜、仍強所不參也、今日、忠親退出之後、宗賴朝臣向內大臣四條亭、仰太相國事、須先行向也、然而保安三年新任兼宣旨之後、仰太相國、加之、內大臣晚頭可來之由被示云々、彼家儀可尋注之、

十四日、壬戌拂曉、中宮女房等其堂中宮及母儀同相交、其體不異仁安也、竊向

南殿、上御殿未給、余及大將仰之歷覽、及申直誠、祕而不令知人、日出歸入給、櫻花之粧、實動思驚目者也、此樹天曆御時被植之、舊木燒失故也、其後堀河院御時又被損之、時範奉行植之、當時之樹即是也、余未見此花、希異珍事也、今日始觀之、感心千廻、忽散餘

執丁、爲悅々々、入夜月前又見花、今日、棟範申役夫工之間事、

十五日、亥自今日於春日社修唯識會、家司爲季領狀、而去夜經房卿送、使示頓病之由、仍忽補下總守親光、令下向丁、入夜退出爲勞病也、又爲唯識會所作也、此夜始唯識會所作、自今夜又修不空絹索護摩會之間修之、仍五ヶ日也、賴眞、國季勤仕、

十六日、甲天晴、親國申公卿勅使上卿闕如事、實家之外無可被催之人、可奏聞之由仰之、宗賴申一條條事、任大臣內辨可催忠良之由其仰云々、（今）又新制之間申一條々事、即被進目錄返給、可令見左右兩府并堀川大納言前左大臣等之由仰之、大將自內裏示送云、詩歌會明日之由、親宗卿令申之、件卿此事發起衆也、入夜右大辨親雅來申、別當僧正申東西金堂々衆騷動之間事、書長者宣案、賜親雅、加制止之事也、唯識會所作如初日、

十七日、丑天陰不雨、唯識所作同昨、今日於禁中大公卿侍臣不期而會、其實親宗卿被左大將命、告三人云々、欲構詩歌而依能保卿鬱憤、忽然而停止了云々、入夜大將所相語也、凡不能左右、可彈指也、

十八日、丙寅天晴、唯識會所作如昨日、

十九日、丁卯向九條、依今日例講、明日內府遠忌也、

入夜右大臣被來、言談移刻、及五更被歸、

廿日、戊辰講演如常、

廿一日、己巳刻彌歸大炊亭、今日、家尊勝陀羅尼也、

導師行曉法印、請僧慶智僧都已下十口也、公卿季經經

家等卿來、南簀子敷、堂爲座例也、奉行家司國行也、

廿二日、庚午陰晴不定、早旦着直衣、參內、此日、臨時

祭也、未刻、着束帶、參御所、上御堂彌御裝束大進長

房奉仕之、押昆明池障子、於荒海障子際額間以北、

四ヶ間爲中宮御方、北第一二三并三ヶ間母屋出袖

妻、御禮以後出之先例也、或又先出之、猶不可然歟、同第四間出織物儿帳、以後出

之、爲御在所、三方立廻屏風、敷經綢疊一枚、東京錦

茵等、御所之間并引廻壁代、四方皆引之、刻限昇給、御

共女房五人、大納官局持御飯、按察局持火取、兵衛督持御袋、大貳兵衛佐持几帳、已上着物具、同參上候、中宮

邊、余大將同候、次御襪、額間敷御拜座、南面、余褰額間御簾、奉

出之後着殿上、先是公卿多在座、御拜了之間、余又參上褰御

簾入御、余同候、簾中、此間左大將奏宣命、見了返

給、次出二間打出、宗親等季長房等出之、加檢知、此間

立障子、第三間階敷、庭座、次實明參上、余仰可告諸

卿之由、今日依御物忌不出御、雖出御、御禊座庭

座并舞之時不出御、先例也、仍此間改着御直衣、是

又例也、余雖外宿之者、於宮御方被召入之上口、通

親卿推參朝餉云々、甚奇怪々々、仍余近座也、然而

此御物忌難被破之間、猶表御物忌之儀也、次左大

將已下着壁下座、次、余居殿上々戶下、年中行事障子卿

也、次實明朝臣參年中行事障子邊、奉仰向瀧口召使

已下、可經庭座前、而經次、使已下着座、自瀧口方此間、

風病發動、仍經下戶參局方、謁女房、此間一二獻

向直廬改着直衣退出、經貞觀殿北東自宣陽

門退出也、于時戌一點歟、今日重坏、中將成定伊輔

等朝臣云々、今日、神事又精進也、使發遣以後服魚

味、無憚云々、此日、文章博士光輔來大炊亭、內々

仰宸筆宣命趣、先例必於直廬仰之、仍明後日於

內裏可仰之、今日參來之次、豫內々仰含子細也、

廿三日、辛未天晴、此日、中宮退出於大炊御門亭、余居

如去年立是於大內、全經十五日了、閑院自大內

當異方、即春末夏始王相方也、仍於塞方推滴一氣

之間、退出於此亭、宿十五日畢、移其忌、閑院忌可無

之後可參閑院、主上來月十五日之故也、主上者來十四

（自瀧口方）
打出、納
長櫃、昇
立之、藏
人取、出
置上、御
室、出、紫
打、出、紫
勻、紅、打
衣、紅、打
裏、款、冬
表、着、前
木、虎、白
雲、也、

日先行幸鳥羽、御本所、即可爲十五日可還御閑院、鳥羽依爲御本所、一宿其怠付故也、余依所勞不參入、於此亭御裝束事等致其沙汰也、修理掃除鋪設等事、大略沙汰調了、長房雖爲御裝束行事、行啓無人之上、出御之間、出車已下雜事爲令申沙汰、令參內裏了、大殿祭六位進行方引導之、子刻行啓、御與但無藏兩大夫之外、權中納言通資卿、前宮內卿季經卿、三位中將兼良卿等供奉、啓將雅行信清等朝臣也、諸衛供奉如例、出車五兩、毛車、車副四人乘、衛府若來寄立、屏風几帳大將奉仕之、下御之後名謁如例、依病不參、亮今夜行啓、宗賴奉行也、

廿四日、壬晴、着冠直衣、參中宮御方、入夜參內、今度公卿勅使參宮日數迫、仍明日如法拂曉可被發遣、仍今夜所參籠也、今日晚頭依潔齋也、於直庭召光輔、奉行職事親國、傳召也仰宸筆宣命趣退下之後持參草、是內々事也、今夜宿仕明曉可進之、先爲見子細、今夜密々令進也、一所置之、

廿五日、癸天晴、此日、公卿勅使發遣之日也、勅使權大納言實宗卿、上卿大納言實家卿、奉行職事藏人勘解由

次官親國也、未明浴之後、着束帶參御所、上未驚給、親國又未參、召出仰懈怠之由、無披陳之方、先可有御湯殿之由、示置女房等、退下直廬、召光輔朝臣、召宣命草、見了之後清書之、先是親國進書、檄紙、檄三枚、書之一反比技了弓之、切封紙封之、不加引、墨相具草、懷中之、參御所、忠季朝臣可禮紙、參御裝束而遲參、仍余與女房相共奉仕御裝束、御束帶之時、神寶御覽之時、召御直衣也、然而依事懈怠、直若御束帶者也、次御覽神寶、其儀東庇南第三間敷厚圓座、爲御座、同第一二間、在灰敷、北行敷之、其上取置神寶等、出御以前置之、余候、母屋南第二間、之座、所敷御座、可敷見、時記云々、是證事也、仍余仰令改置之、次宗賴朝臣參上、開御鏡并金銀幣宮等、備觀覽了退下、次親國已下殿上六位等撤神寶、次主上入御、次可御覽御馬、而依毛付持不參、遽以遲々、此間內覽宣命草、仰天變事可加載之由、其後又內覽同草、全不載天變事、問其由親國、歸來云、依可遲急、只所覽同草也、清書所載天變也云々、申狀、不足言歟、早可清書之由仰之、此間、忠季朝臣參上、即有御馬御覽事、其儀垂庇御簾、第三間敷大床子圓座、爲御座、石灰壇

第二間敷陪膳圓座爲余座、出御不改御之後、忠季朝

臣經上戶參上、候東簀子南第二間、向大自瀧口

方引、出御馬三正、近衛官人等引之、內宮二正、外宮二正也、三匣之後引出了、

忠季退下、次入御、次寫御座、撤圓座等、次主上出御

座、持御宸筆宣命、余候額間、以宗賴朝臣召勅使、々々參

上候、廣庇南第三間長押下、御座南間也、余示氣色、即挿笏

自同間昇長押上、參進御座邊、主上賜宸筆宣命、

仰云、能申進、又廿八日可參宮者、實宗退下長押

下、挿笏取副宣命退下、實宗猶有不承御氣色、仍余更仰聞之、次主上入

御、余白地向直廡、此間、親國持來宣命清書、見了

返給、聊有可直事、仰其旨了、不重可持來、少小時參

上御所、頃之申伊勢幣發遣之由、即渡御南殿、忠季取宣御座御前行、余取御經、清涼殿東廣庇草鞋、如例、御

經、宗賴額余下重、如例、并長押南殿北面戶及御帳後戶等、着御々拜座、

南殿與角間裝一件御座、立、極大宋御屏風、其中數、其、上、數、半帖、如例、與面裝之也、東妻切可立通

際子、馬不立之、雖、然、臨、期、可、懈、怠、仍、忽、不、令

立之、於御屏風下、召御笏、宗賴、御拜了、召

〔御〕草鞋還御、其後余於直廡改裝束退出、宗賴

參鳥羽了、余付恩札、昨日有被仰下事、申、件御

返事也、

廿六日、戊、甲宗賴持來御書、其狀云、權大納言忠良、權中

納言能保、參議光雅〔云、〕皆是善政也、能保當時之珍

也、不能左右、其外道理各至極事也、可悅可貴、天

下之謳歌可驚耳云々、仍昨日乍恐其上子細是三合

凶年可被慎、世謗人悲之由也、今仰隨喜感悅、千緒

萬端者也、

廿七日、乙、亥早旦書昨日御返事、以宗賴令進之間、

自院以北面下薦親盛無御使、賜御書、披見之處、

仰云、藏人頭有御要、仍可任大納言歟、

大納言、忠良、定能、中納言、能保、實教、

參議、光雅、實明、藏人頭、親能、正力、

如此可被行歟、爲宗賴者可叙平三位者、余乍

恐進報狀云、任御定、早可仰下、但昨日之仰、第

一之善政也、今朝所書之狀御返事之狀、不改、今日之儀、天

下必驚目歟、其故雅長實教雖不仕、被超越實教

之條、尤不便也、次宗賴叙三品之條、四位參議數人

可被超越、定有三人怨歟、於宗賴本望參議也、仍

彼是共無其益歟、次無指朝家之要、加任大納言

之條、定爲世之誹謗歟、當時五人職事之中、取文書

首兩人被補之、藏人方事偏以失歟、此條已爲天下之愁、又一身之歎也、上奏之趣、畏懼雖多、爲君可招後代之毀、爲世又非公平之政、仍愁以言上、恐戰不知所謝者、已上御返事之趣也此上逆鱗存內事也、然而更爲身不言上、只爲君也、件御返事給親盛、其上宗賴所參入也、即宗賴歸來傳御書、其趣殊無逆鱗、雖非快狀、又令伏理給歟、如昨日仰可致沙汰云々者、此條可叶天意神慮之由言上了、除目任人之間事委注付、重令參宗賴了、入夜歸來、又傳御書、其趣似快然、悅思不少、除目事御定皆分明也、廣元可任五位尉云々、未曾有歟、又光長卿能州知行、不造熊野新宮、不當之由有仰、即尋遣光長之許了、爲奏御返事也、明日申子細、仍即進退了、

廿八日、丙午上午雨降、此日、大臣召也、

太政大臣藤原兼房、

無才漢、無勞積、只以先公之舊勞、下官所推舉也、爲上古之政者、猶可謂非據者歟、

內大臣同忠親、

無才漢、又非英華、然而年來營禮儀作法之道、當

時頗有其衰、雖無相承之可恐、又有嗜學之可優、且又奉公年久、勞効差積、仍余從左大將良經、強以舉之、豈非擬災之計哉、

權大納言同忠良、

當時第一之中納言中攝政之息、前攝政猶子大納言範、傍若無人也、而通親可申可超之由云々、自本狂亂之人也、

權中納言同能保、

三議第二檢非違使別當任日勞効尤深、才漢奉公共範、然而東將之緣者、爲當時之珍、他人強不可成、愁歟、雅長卿有嗜才之聞、又位爲二品、任日之第一也、旁雖可有哀憐、愁超越、此兩三年都以不出仕、法皇惡之不被任歟、凡無兼官之參議、年限多積之後、欲登用者也、近則宗通卿雖被超數輩、不愁不痛、奉公積年、今雅長何強及籠居哉、太奇恠之由、有院宣也、此條又一旦非無其謂歟、

參議同光雅、

元散三位也、此卿先年無罪坐事、僅免霜科、雖昇月卿、所經歷大辨藏人頭也、已如失前途、

法皇知食此理、忽授此任、善政之至、莫過於斯〔也〕

未刻、余着直衣參內、自御湯殿交方參朝餉、先是公卿少々參入云々、及晚頭忠親卿參內、宗、忠親卿等初臣、後季祇候殿上端座、內辨中納言忠良未參、再三遣使之由宗賴所申也、亥刻、忠良卿參着仗座、宗賴仰內辨云、余向南殿東簀子邊、重見仗下之作法、于時內辨移外座之間也、其後仰官人令置軾、此大直查、次頭大藏卿宗賴朝臣入宣仁門、着膝突、經柱仰宣命趣歟、授折內辨召大內記仰之、此間余爲勞病歸參御所方、休息於戶邊、小時、女房持來宣命草、雜事宗賴所見了返給、先例太政大臣、事之所、當時執政命草、是攝錄未給此錄之時例也、今已經太相、斯退先了、更不可有、此狀、大內記指示之時答、此旨了、但忠親公任太政大臣、之時、入道關白雖經太政大臣、仰可消書之由返給之、上直進、此狀云々、恐失錯歟、仰可消書之由返給之、上之故也、將又被略、內覽歟、頃之奏、清書、見了返給、余更相仲女房等、向南殿、主上密々雖渡、御裝束儀如相撲召合、是定例也、余伺見陣方、公卿等起座向、外辨之間也、其後內辨出宣仁門外了着靴歟、此間可引陣、而職事等無音、仍余仰令催之、暫以遲遲、頻加催促、又不舉庭燎、再三下知之後立明、其

後左右近將陣階前左右一如例、次內辨着靴入、自宣仁門、自宣陽殿西壇南行、更降小庭、入暢門、余折東入、自軒廊東第二間、西進立同第一間北邊、內記捧書杖相從、內辨取之副笏立、余所存、自宣陽西若官人、後、南進入、自軒廊東、西進可立西一間也、經機門之例可尋之、次內侍加賀、出自東面北際、東行、經東底下南長押居東階上、須臾歸入了、經本路、五位經次內辨進寄東階南外、揖昇階經簀子、着南庇兀子、第二間西柱東頭次被催開門、開司等、先仰開門、開之後、可被催開司、歟、又其音至而徵也、應頭雖不開、及推登仰開門、歟、開門了、良久余咳嗽、次召舍人、其音而及短、未聞如此、依摩頭丸、告大舍人稱唯、次良、久少納言親宗進着版位、內辨宣刀禰召、此盤一切不可開、堂下仍少納言數刻不准如例、頭丸雖告召成之由、猶不信受歟、依再三宣實、僅以稱唯、少納言唯出承明門了、小時權中納言泰通卿、平中納言親宗卿、右衛門督隆房卿、左大辨定長卿、新宰相中將成經等、入承明門東間、各立壇下列立了、上首咳嗽、內辨不得其心、仍余示氣色了、手時內辨召宣命使、其詞不以扇鳴笏、定長卿進昇自東階、立內辨後簀子、向內辨賜宣命、定長取之退立軒廊東第一間、西面有說內辨降東階北頭、向階揖、至東第二間、向宣命使揖、出自同間、自櫻樹東

程練始斜行、經中納言列之後、立泰通上、次宣命使經公卿列前、并尋常版位東等、就宣命使版、兩段群臣再拜、忠良獨不拜、依爲昇進也、是例也、次宣命使經公卿列上、四後等如本列、頭泰通已下經本路退下、次忠良卿進、大納言壇、依爲勅授、不辭也、了退出、次新任內大臣起、殿上座、立弓場殿、宣命使第二間也、以其息左中將兼宗朝臣、奏事之由一拜舞、此間、子息并少納言親宗乘、松明、列居、定長等在此所、次付藏人右衛門權佐長房、奏饗祿事、其間、上達部已下、饗祿給ハ、歸下仰聞食之由、此次仰昇殿、內大臣又拜舞了、入無名門、立小板敷下、揖着殿上小臺盤下、頃之退出經弓場殿、柱外、階下軒廊東二間、東也、宣陽殿西壇上宣仁布政宣陽建春等門退出了、事散了、余又退出、今日大饗、忠良爲尊者云々、後聞、經房兼光經家等卿向饗所云々、經房卿日來勤仕內辨、又可爲尊者、上臈皆不出仕之故也、而余再三奏事之由、所責出忠良也、經房爲納言、淺位年齡未聞人、非其人、又無識者之名譽、旁可招客嘲、仍爲只公事之陵夷、強所奏請也、

五獻、并少納言祿事、忠季朝臣、師經、

御遊、拍子隆房卿、笙經家卿、筆葉盛能朝臣、笛忠季朝臣、箏兼宗朝臣、和琴隆雅朝臣、琵琶堂上無其人、仍陪

從之中彈之、

打出萌木匂云々、中宮女房等少々借訪、一作詣、訪之誤、云、此日早旦、織部正和氣時成參上中宮、奉指點稱女房之由、不顯其事也、候、小佐頭了、廿九日、□□忠季朝臣來、大臣之并悅未休之由所語也、歸家先拜入道相國云々、次右馬權頭兼親賀去夜威儀珍重并雨有惜之慶、有畏悅之返報、今日公卿勅使參宮之翌日也、依例不神齋、今日、中宮密々令灸給、光雅卿來、今度之事、余多加唇吻之故也、余不謁以人示慶之由、

玉葉卷第五十九終

玉葉 卷第六十

自建久二年四月
至同年五月

建久二年
四月〔大〕

一日、寅雨下、中宮御方、依御更衣、改御裝束、奉行宮司六位進行方也、而遂以不參云々、尤奇恠、仕所、并播部寮進御座已下疊等、應進御帳帷、御几帳等、如例、女官、并宮侍、冠衣勤雜役、母屋不懸簾代、夏季不懸之例也、此日、平座、并除目也、爲被任大納言參議兼官、并山城介等、所被行上卿權中納言泰通卿、參議左大辨定長卿、參勤兩事、除目無殊事、因幡前司中原廣元、大博士廣元男也、賴朝卿、任明法博士、賴任無先、并左衛門大尉、上古任大尉、腹心也、近代賴希、爲義任、大即蒙使宣旨、此事如何、家已文筆之士也、所期大外記明經博士也、而今之所任驚天下之耳目、此事通親卿爲追從加諷諫云々、人縱加教訓、身自不可用歟、或云、遂可轉賴負佐、是允亮等例也云々、凡非言語之所及、恐賴朝卿運命欲盡歟、誠是師子中蟲如喰師子一歟、可悲々々、已刻、宗賴朝臣參來

書折紙、法皇御遺發、以前申定丁、參陣了、及夜半、外記爲內覽持來也、此夜、山階寺別當僧正覺憲來、依旬日之神事、自去々年冬、每月朔修禊、遙拜大神宮、春日、不謁之、以人々傳示條々事、不遑具錄、
二日、巳午後天晴、今日、公卿勅使歸參云々、入夜親國來云、勅使大納言申云、路間無爲、無事參宮、自朝雖雨下、刻限天晴、神威揭焉之由、神官等所申也云々、兼又外宮正殿葺葺、爲鳥多以被昨拔事、及大破尤可有忿沙汰云々、早可仰遣祭主許之由仰了、今朝、能保卿、送使申云、近江國佐々木庄者、延曆寺千僧供庄也、而稱有未進、自寺家、遣宮仕法師數十人、誡責佐々木太郎定綱住宅、件定綱在京、其子在國抽使、賴朝卿殊所、苛酷過法、遂以放火、近邊人屋多以召仕之武士云々、燒失了、然問、定綱郎從等、多以出來、凌轢宮仕法師等了、依此意趣、可燒失定綱京住所之由風聞、事及大事歟、何樣可有沙汰哉者、余答云、早以此狀、可

尋座主、又大理直可、被觸遣、歟、入京之條、定爲虛說、歟、又定綱雖、此後、猶慎而不、可致狼藉之由、能可、被誠仰、歟、於事之成敗者、法皇還向之後、左右也、當時之濫行、兩方能可有禁止、歟者、即召遣宗賴朝臣了、不經幾程、參入座主顯真之許、先可止狼藉之由、可加制止之旨仰遣了、

三日、庚辰〔天〕晴、午刻許、宗賴來申云、仰遣顯真許之處、請文云、此事、及山門之騷動、歟、凡近日山上飢饉之間、近江國中、無道沙汰充滿云々、仍頻雖加禁制、敢不承引、遂及此大事了、但且可相待法皇還御、又被觸遣關東之間、暨可停止狼藉之由、賜御教書、欲加制止者、余仰云、以此狀、可仰遣能保卿許、兼又任申請、可書賜御教書者、申刻參內、依御物忌、不參朝餉、於二間、謁女房、向飛香舍、見藤花、僅雖綻始、未及盛粧、情思舊跡、定動感腸、而已光綱持來三萬六千神、宣應朝臣奉仕之天地災變、兼後朝臣奉仕之等祭文章、共光範朝臣所草進也、余見了返給、此祭文無御諱字云々、於玄宮、北極、并泰山府君等者在之云々、各自今夜可參籠云々、棟範朝臣依瘡病、辭申役夫工辨、昨日發了、明日爲加

持所辭申也云々、早可祈之由仰之、

四日、辛巳〔天〕晴、早日、宗賴朝臣來云、今日可參詣

日吉社、日野牧之間事、有可仰座主之旨者、可承仰者、仰子細了、今日、殿上人五六輩參入、於南庭懸蹴鞠、忠季朝臣已下五六人、其外又常祇候男

共兩三所召加也、今日、廣瀬、龍田祭、廢務日也、然而依爲內〔々〕事、不憚之、

五日、壬午〔天〕晴、右大辨親雅、持來太宰府解、香椎宮

修造事、可被勘下日時事也、爲付職事留之、

件事先日爲資實奉行、自院賜宗賴朝臣、而余申云、

如此事、先都督付官、々付大辨、々々申執政臣付

職事、奏聞之後、給上卿所宣下也、直院奏之條、

先例未聞、爲別御定者、非此限、不然者、奏事之

由、返給宰府、可付官歟者、宗賴以此旨觸資實、

可然之由有仰云々、仍今日所進也、本爲宗賴奉

行、仍爲付彼人、所留置也、親國來申條々事等、

佐々木定綱狼藉事、山門衆徒、差三綱等、或進熊野

道、或遣關東云々、待彼成敗之間、墮落居云々、近

日出仕辨官、只棟範一人也、而依瘡病不出仕、今

月諸社祭、無人于奉行、欲少納言之處、一人重服、

二人輕服、仍檢例之處、康平之比、右大辨定親、奉行諸社祭之例、所勘申也、仍催親雅之處、三社松尾、梅宮、平野、祭所領狀也、實希代之例也、或人云、賴朝卿女子來十月可入內云々、如此之大事、只大神宮八幡春日御討也、非人意之成敗者歟、今日已剋聞此事、六日、未、癸天陰、微雨下、此日、殿上人等參宮御方、有蹴鞠會、及晚雨脚頻降、仍分散了、午刻、延曆寺所司三綱、日吉社宮司等參來、家司右衛門權佐長房謁之、三綱申云、大衆云、近江國佐々木庄者、當時千僧供庄也、而依若干之未濟、遣宮仕法師等、頗以譴責、然間、自放火於宅、宮仕等打滅之、猶付之、遂以燒失了、宮仕等欲退歸之處、引三方橋、不得人通、一方有路、僅逃去、于時數十騎軍兵出來、及傷殺害、蒙疵之者太多、終命之者兩三、事之奇異、先代未聞、依山門之訴、及朝家之大事、其例雖多、未嘗有如此之例、只引破神人之黃衣、若伐社領之樹木等之類、猶以罪及月卿、未宥霜刑、至于今度之事、已絕常篇、仍賜定綱并子息等於衆徒之中、於七社之寶前、可問子細、此旨、先達尊下之御續、(續一本作讀)而可驚天聽、即差三綱一人、可進南

山也、兼又差所司一人、可達關東云々、抑、來十九日日吉祭也、然而依此事、可延引其祭之由、同大衆所(申)也者、山下所司三此上副奏狀一通、余披見之後、余答云、如聞者、貞綱濫行、不能左右、達天聽者、定有科斷歟、法皇還御以前、私不能成敗、南山關東之使者、尤可然、隨又還幸在近、可相待成敗歟、抑、日吉祭延引之條、專不可然、如此事、爲重訴訟、彼事於大事、抑、神事待裁報、是例也、今之沙汰、全不可及此儀、終未達徵聞、訴訟之許否、成敗之遲速、忽非可存知、早勤行恒例神事、可相待還御也、或云、神事默止之狀、更不可叶神慮者、即三綱已下退出了云々、然間、余委披見奏狀之處、頗有可用心之詞、所謂神鏡打擲之疵云々、此詞尤可忌避歟、今稱神鏡者、所懸帳之御正體鏡也、而指而名神鏡、太無便宜、世之所稱以賢所謂神鏡也、而打擲之疵、尤有禁忌、仍可直之由仰之、自路召返、執堂(堂一本作奉)之三綱教者也、即返給奏狀、伏理持歸了、明日可返上云々、今日、宗賴參上申一條々事、又光綱親國、長房等、各申一條々事等、不具記、宗賴申云、棟範病平愈了云々、仍今月諸社祭、明日松尾、平野、可奉

行之由、可催棟範之旨仰了、

元右大辨親雅領狀、大辨奉行番代也、乃所仰也。

七日、甲〔天〕晴、此日、松尾平野等祭也、日來、棟範依

癘病、右大辨親雅朝臣所領狀也、而棟範病愈了、仍

諸社祭、皆可奉行、之由仰了、隨又領狀云々、平野祭

上卿通資卿、宣命上卿、擬階奏等、兼行云々、中宮被

立平野使、南庭立御禊案、西、并敷使、宮主等座、

寢殿御帳前、撤平敷御座、敷御拜座、立廻屏風、如

例、陪膳亮宗賴朝臣、役宮司等、或服暇、或所勞、無

其人、權大進宗方參入、而使俄闕如之間、六位進可勤仕、而榮家對捍之

間、雖約名、欲罷、以宗方爲使、仍職事國行、勤役

送也、女房大納言殿陪膳、酉刻發遣、即宗賴參內、有

御禊事云々、陪膳與明朝臣、役供親國、使侍從有道云々、乘燭以前程、余參內、

直衣也、仍御禊、於鬼間、召查御座御硯、乞淨筆於女房、用之、書天

地災變御祭、榮後朝臣奉行之、札二枚、御諱字、各書三祭文狀也、件札、長一寸許、弘六寸許、厚三分

許、內寸法、云々、書了、如本以紙裝之、置柳篋返給

光綱、御所奉行明曉可、有御祭云々、其後參御前、小

時退出、向九條、依違夏節也、女房先是自大炊

亭、直向九條了、

八日、乙天陰、上方小雨降云々、今日雷鳴、此日、梅宮祭

也、未刻、於九條亭、發遣神馬十列、陪膳光輔朝臣、

役康宗、依使俄闕如、奉行康宗取幣、使右近將監時

綱也、而癘病忽發、遂電退出、仍以行事職事、令取

幣、是例也、其後晚頭歸大炊亭、與女房同車、有

前驅、并共殿上人隨身等、車懸下簾也、余於門外

下車、引入車、女房下自閑所車寄也、西面、宜今日、

梅宮祭、上卿民部卿經房卿、今日、能保卿送使云、山

大衆蜂起、閑定綱、以能保可取質之由議定云々、

此事難堪爲之如何、余云、此事、一切不被信受、

爲損人凶害者、所申出敷、更不可被驚存、一

切不可有別事也、及沙汰評定者、還惡事也、努

力々々、不可聞入之由仰了、此事于計座主顯真、

爲損人爲亂事、所構出之事敷、入夜法印被告

示云、先日、大衆使御返事、殊大衆等甘心夜譽云々、

是理之所致、仰旨有其謂、就中、神鏡訛謬、御准不

當之由、歸伏旨承之、爲悅々々、是存外事也、又云、

去夜大衆殊上拍子了云々、已拂澄雲了、

九日、丙〔天〕晴、入夜雨降、親國來、申祭主能隆朝臣

申、外宮正殿葺葺破損、行假殿遷宮、可被修造之

由、仰可問例之由了、又申賀茂祭無用途之由、

仰可尋付成功之由了、宗賴朝臣申、制符之內、放

免裝束、余分可_レ停_二止風流_一之由、誤而書下了、可_レ停_二金銀錦繡風流_一之由、仰_二可_レ改直_一之由、其外申_二條々事等_一、泰覺申、平等院供僧事、山寺共有_レ閣、各仰_レ可_レ來十行_二轉任_一次第等了、來十二日密々可_レ御_二覽童舞_一、而件日可_レ立_二大神祭使_一、仍十三日可_レ覽之由、仰_二長房了_一、樂屋帳、并樂器等、可_レ借儲_一之由仰了、又樂人舞人少々可_レ召之由同仰_レ之、興福寺三綱二人來、爲_二寺僧之使_一云々、先日長者宣不_レ申返事、殆稱_二不當之由_一事、別當僧正參洛之時、粗仰_二聞子細了_一、披_二陳件事_一也、次第頗不當、仍不_レ示_二分明返事_一、

十日、亥、丁午上甚雨、及_レ晚天晴、親國持_二來御書於宮御方_一、薄樣立文也、御返事、薄樣結_レ文、其上又以_二一重_一裘_レ之、手取_レ之給_二御使_一、是定例也、或恐_二硯蓋_一給_レ之、連日之事、不_レ必置_二物蓋_一也、宗賴朝臣申、座主顯具、日野敬檢注之間、大衆齋申事、明日召_二具使所司_一、可_レ參之由、仰_二宗賴了_一、件檢注使貞光、今日所_二歸洛也_一、如_レ存遂_二實檢了云々_一、衆徒申狀、太以不當也、有安持_二來方磬樂_一、少々令_レ打_レ之、

十二日、丑、己此日、大神祭使立日也、中宮依_二月御障_一、無_二御禊_一、自_二中門邊_一發_二遣之_一、今日及_レ晚雷雨、

十三日、寅、庚〔天〕晴、此日、於_二中宮_一、御座大有_二童舞事_一、風調雨正勝、南庭傍_二樂屋_一、立_二五大燈_一、其中數_二紫端疊十枚_一、爲_二舞童舞也_一、人樂人座、上東西北三方、各當_二樂屋中央_一、立_二大鼓_一、(小大鼓有_二火燈_一、日形等)其東立_二紅鼓_一、大鼓左右立_二左右梓各四_一、(東左、西右)四方立_二柏梓各四_一、前庭當_二樂屋南柱_一、東西行引_二幔_一、又自_二西幔西妻_一北折、南北行同引_二幔_一、其北妻、當_二西子午廊第三間_一、彩殿東南兩面垂_二簾_一、出_二几帳_一如_レ常、南面七箇間、除_二階間_一之外、女房有_二押出事_一、非_二打出_一、只所_二着_一用_二之薄綿衣等出_一袖、西子午廊北際三ヶ間、不出_二裏_一、是_二定例也_一、是_二宮女房休所也_一、同出_二之_一、是余女房見物之所也、寢殿與_二西廊_一之間小廊二間、懸_二覆簾_一、不出_二几帳_一、爲_二余居所也_一、寢殿南簀子、敷_二菅圓座_一、階四一枚、東五枚、爲_二上達部座_一、殿上人別無_二座_一、只候_二已刻_一、飭_二樂屋了_一、樂人舞人等參集、午刻、童舞參入、入_二自_一東四足、樂人等迎謁、有_二參入音聲_一、不_レ具_二打物_一、京略之儀、雖_二不_レ通_一所_二申_一、此間、公卿着_二座簀子座_一、左大將_二其儀_一、中有_二其與_一、參行也、將_二兼良_一、宰相中_二次舞_一、不_レ振_二左_一、賀殿、蘇合、太平樂、三臺、馬將_二公卿_一等也、頭、龍王、右、地久、古鳥蘇、柏梓、皇仁、新摩訶、納蘇利等也、申終事了、召_二童舞於西盡_一、給_二〔扇〕_一、各_二二又扇廿許_一、給_二樂人等之中_一、其後於_二東透渡殿_一、有_二御遊_一、余依_二人勸_一、在_二簾中央_一、語_二唱律樂歌_一、尤有_二興_一、拍子公繼卿、笙樂利秋、笛奏通卿、忠季朝臣、樂人宗方、篳篥樂人季道、琵琶隆房卿、方磬有安等也、子刻了人々退出、今日

舞之間、忠季朝臣向樂屋吹笛、依余命也、公繼卿於堂上彈琵琶、尤有興也、又有安依別仰、打大鼓、尤優也、

十四日、卯前左大臣許示、公繼來臨、琵琶歌、共優美

之由、有恐悅之報、今夜依御方達、有行幸於鳥羽、仍成刻參內、寅刻還御、於路天曙、辰刻歸宅也、

十五日、辰春日社解到來云、十三日羽蟻出來者、可

行御占之由、仰長房了、

十六日、巳天晴、宗賴以消息申云、座主申云、日吉

祭事、任被仰下之旨、早可遂行之由、三塔大衆

一同所申也者、即着飛脚、以件請文、令進院了、

熊野御遠向一入夜、泰覺申平等院供米支配之間事、昨

日御占形到來、長房金上、可行御占、而以消息

卯酉己亥年公卿等、可慎病事者、可告廻氏公卿

之由仰了、占形太重、

十七日、午親國申條々事、祭之間、藏人方功、猶不足

云々、近代職事好巨多成功、太以不當々々、

十八日、未天陰、微雨下、宗賴朝臣來、申條々事、新制

追可被仰下之間事、并諸寺諸山佛寺注文等事

也、先日、日吉祭延引之間事申院、右大臣返事、今日

到來、殊可仰含之由也、

十九日、申雨降、此日、日吉祭也、賀茂祭使、少將

半臂、下重、以職事定綱送遣之、刑部卿宗雅朝臣、

今日進發、大將自筆書金泥經等付之、加小布施

也、今日堅固物忌、春日社怪異、余病事重云々、去十

六日所進院之左大臣并泰經卿等返事到來、此

日、法皇還御、日來雖神事、明日殊潔齋、是例事

也、

廿日、酉天晴、此日、賀茂祭也、午刻、親國來云、警固

上卿右衛門督云々、未始、宮女房、并家女房等、密々

向棧敷見物、大將相伴之、余同竊雖欲見物、昨今

春日惟異物忌也、仍不向之、二位軍密々見之、棧

敷、光長卿儲之、先宮御方、出車三兩、左少將定國、同少將

車也、車副敷、布衣次同半物車、侍一人、次此方女房出車

二兩、前兵部大輔能季、此車、二位乘之、然而、依表、出車之體、出

此、次車前大膳大夫定家、北政所、密々御見物如此云々、騎射時又如

也、各又殿上人、各侍一人、次半物車、又侍一人、次大將

車、侍一兩相具之、次共人々車三四兩、其後、兩方難仕

車二兩、但不遣出晴方、自棧敷之後方竊入云々、

事了、秉燭之後歸來、無殊事云々、申刻、中宮使權亮

二枚、其上敷高麗半帖一枚、立、通五尺屏、風二帖、東而敷之、御拜之時、向、長給也、着給打衣、表着裳、以大腰、唐衣等、又差、釵子、給、陪膳堀川殿、元大納言殿、假結之、役供中膳一人、皆着、物具、差、釵子、次陪膳亮宗賴朝臣、持御贖物一袋、米、參上、就階間簾下、役女房取之、授陪膳、役送奉行少進兼時、又持御贖物、形人解參上、宗賴取之、又授女房供之、次宗賴於中門內緣南妻、取大麻、宮主進如、初簾下進之、宮撫給返給、宗賴取之、返授宮主、々々經案南、着圓座、次使忠季朝臣、飛越若、源、打下重、同經案南、着使圓座、件案、當階間東間南北妻、立之、倚立御幣等、其西敷、宮主圓座、主乾敷、使座也、次宮主御禊、此間、宮解、々々撫、人形給、御禊了、宮主經本路退下、次宗賴朝臣參上、兼時、相從、撤御贖物、次使起座、跪案下、插、笏、其、更起進案南端、懸手於幣帛、立、取、二、棒、可、立、也、懸、手、之、條、不、可、然、次御拜、向、乾給、兩、段、再拜了、次使跪拔笏、經本路退下、次小使等、取幣進西方、更可渡御前之故也、次渡南庭、御覽、先仕丁二人、時、粧相並、次、騎馬召使二人、各從一人、次小使二人相並、次傍馬、上手將曹下毛野厚助、下手府生中臣武友、已上候院置也、次馬副十人、次手振十二人、麴塵褐、二藍下襲也、次引馬懸蘇芳末

濃、緞、餘府生兩人、下毛野忠武、秦兼次等也、忠武揭返紅打、付應飼具、兼次標上下、紅打付結文、次練童六人結髮、而又付物忌、着毛沓、薄物蘇芳上下、濃打衣、白單衣、余調給之、夜前遣之、次雜色十二人、朽葉上下、萌木柏、如例、已上、物、皆取物如例、付杜若丸並蝶等也、飭馬舍人二藍敷冬柏、引馬舍人萌木敷冬柏、各有居飼、皆渡了、更渡御東車寄方、車爲渡門前也、皆渡了、忠季懸裾、步過門前也、即向列見、先是、命婦藏人向列見、六位進業家出立之、所、保、先、令、婦、部、丁、タ、タ、駕大夫車、有從車、六位進車、藏人、タ、タ、駕權大夫車、有從車、六位進車、條大宮邊家、爲其所、各宮侍、文、上、各二人、着衣冠、副之、法皇有御見物云々、廿一日、戌、天晴、早旦、宗賴朝臣參院、申條々事、歸來云、隆職官申事、少々可口入、如行幸、可奉行一者、余申云、行幸奉行者、作巡隨、未役、所被仰也、今年諸社行幸、尤可被仰、其外口入之條、以何事、可被相分哉、又只勘例下、宣旨事、彼是相運、可奉行歟、然者、兩人共可開、開、文殿之由、可被仰歟、是又緯新儀也、且有評定、各被召仰其身、其上可

被觸遣開東一歟者、彼卿先日有申旨之故也、
廿二日、己以宗賴、自院被仰下云、官中執權、可
仰隆職者、余申云、此條其理可然、殆可謂善政、
但賴朝卿在京之時、隆職雖還着本官、於官務者、
廣房不可相違之由令申了、謂其根源又起自彼
奏請、旁不被觸仰關東之條如何、若可有思慮
歟者、歸參了、

廿三日、庚子天晴、此日、吉田祭也、中宮被立使、陪膳
亮宗賴朝臣、役送權大進宗方、御禊儀如例、余向藏
人所屋南庭、敷拜座、十列等在南門外、只神馬、御幣
許、在門內、陪膳季長朝臣、職事泰家爲奉行、陰陽師
晴光、申始發遣了、先是、女房於西廊西面妻戶、有
祓事、職事泰家取幣、陪膳季長朝臣、余神馬使左近將
監時綱、今日吉田祭、上卿新宰相光雅卿、行事右少辨
資實云々、今日、宗賴來云、廣房有糸惜、其子公尙
可加五位史者、此事又尤可然、仍申所存、事
條了、資實來臨、呼前、五位史之間事、子細可奏
聞之由仰之、隆職官務、事理雖可然、依前大將
有申旨、一旦可被觸仰歟之由、雖言上、不可然
之由有、其仰、其上不及異儀、公尙被補大夫史

事、專不可然、先例被加五位外記史事、皆有由
緒事也、或身生其家、奉公久積、年齡差闕、後策難
期之者、只以繼朱敏爲極望之策間、有此例、所
謂政孝、孝忠等之類是也、或長者頗不堪其器、局中
有違亂之時、爲補其闕、有被加事、所謂、永業
被副師經、并大外記師安被加信俊等是也、今於
公尙者、年僅廿四、雖爲奉公之器量、忽難被授
極官、何況廣房盛年之忠公也、其身不可飽奉公、公
家又猶必可被召仕者也、而其子居此職者、會
難相並、是第一之公損也、兼又隆職官務之故實、局中
之練習、更誰比肩哉、今被副任幼稚之公尙之條、
世以不可許、云彼云是、其理不可然、只近日可
被收公之國、兩三者有其聞、廣房更不嫌其國、
早被任受領、隆職一人可掌行局務也、若又隆職
望申受領者、早可被任廣房如本、朝家有何
損哉、此兩箇之間可被行歟、被仰定之事、以申
破、返々雖有恐、於近臣寵臣等之事、專不能是非、
官外記、及諸道之輩事、猶不違衆望、不乖道理、
可被行歟、是偏爲天下也、此旨、細々可達天
聽之由、具以相含了、資實服膺、退出了、此次法曹事類

可申請之由、仰付了、今朝、宗賴歸參院、然而不得便宜、不能申達云々、然問、資實參入、仍重仰含子細者也、今夜歸參、可申入云々、

丑、辛

〔天〕晴、申刻、着直衣參院、胡旋翻袖云

云、仍不申入逐電、參內、入夜退出、此日、太相國拜賀也、依被乞前駈四人、催送之、亥刻、被參中宮、以亮宗賴朝臣啓事由、再拜、依召參殿上、女房局、襄儀、相國入簾中、殿上々々、

按察

同上々々、

置其前、相國取之、指出簾外、其身又退居殿上、

召三位中將兼良與之、中將取之、授殿上人歟、此間、以其殿上人隆雅朝臣、觸示余方云、可參何方哉者、答云、此亭無便宜之間、難致其禮、太有

恐、仍不被渡此方、於殿上邊、可遂見參者、即余出居殿上、給謁示此子細、即歸入、相國又起座、存退出之由之間、降立中門、頗進下砌外、聊向西

再拜、是禮之厚也、彼大二條關白、任太政大臣、詣宇縣、被奉拜兄前太相國、于時、宇治殿、年關病後、盤居平

舊模不忘、相叶今禮、可爲美談歟、其身共雖不及祖跡、其禮已可類往事、是皆我家之餘慶、抑又

先閑之遺德而已、仍劇以宗賴朝臣、遣門下、欲乘車之所、

謝遣此恐了、此仰還又有恐之由、被報答云々、今日、資實於院申云、五位史事、昨日仰旨未達得、今日、澄憲與弟子、御室御弟子、高松院御腹、澄憲令生之子也、雖密事、人皆知之、於仁和寺受戒灌頂、依訪其事、行向、歸參之處、胡旋盡曲、今夕明旦之間、可申入云々、

廿五日、

壬寅

或人談云、一日、前小攝政始參院、

共人忠孝朝臣一人、件

殿上人、高松院御子、先是、前大攝政參候簾中、小攝政候簾外、能被見物云々

廿六日、

卯

朝夕天晴、自巳至未雨降、卯刻、法印送書告云、山門衆徒、只今下洛之由、所聞及也者、乍

驚遣人令見、已有其實、集會京極寺云々、倒衣

〔裳〕參內裏、無人、只能保卿、宗賴朝臣等候、余仰大理、催官人、并武士等、可令候陣口之由、下知

之、而官人一切不候、志府生僅兩三人也、其外皆候院云々、仍能保差使、觸院近臣、武士、前將軍之侍三

人、時定、高綱、之中、相井不及五六十騎、又遠江守義定

去比下、成綱、郎從十騎許、令召候、事體頗庭弱云々、以宗

賴欲令進院之處、大衆已參陣之由、有其聞、仍暨

相待他職事、即光綱參入、以件人申院云、衆徒下山、無日來之風聞、事已倉卒、迷是非了、召座主

已下門徒、僧綱、并公卿等於院、可被議定歟、依內裏不審一所候也、衆又檢非違使一切不候、少々可被差進歟者、即光綱歸來云、驚思食無限、官人等、早可召進、衆徒若參者、不出事可被相防者、定議事無左大夫尉廣房參入、依召參院了云々、大衆於京極寺、待整其勢云々、此間、余又進宗賴朝臣於院、武士無人數、官人又不候、大衆入陣中者、何様可仰哉、豫欲承存、雖未聞詔狀、大概不過日來之風聞歟、衆又猶可有議定歟者、宗賴駭參了、此間、衆徒忽參陣、自二條西行、到町辻也、云々、官人兩三人、并義定郎從等、堅候件辻云々、能保云、時定只今不候、雖尋求、不見來云々、余仰云、於高綱者、定綱〔之〕弟也、一番對大衆者、定有不慮之事歟、候二條堀川邊、可存不慮之儲歟、能保稱善、然間、大衆過町、陣中及半云々、仍以史以業、候陣外、可奏所存、狼亂入陣中、理不可然、訴訟之裁斷者、不可依陣中陣外、儘可罷退之由仰之、此間、守護武士、頗及圖諍、相互有、小刃傷云々、然而、深加制止、不及殊大事歟、良久、以業歸來云、全不可參入院中、只以訴訟成敗、可爲望、其趣、具

載奏狀言上先了、今所申請死罪也、重衡卿依滅亡南都、身雖公卿、不遁斬刑、定綱欲滅亡叡山、其品不及重衡、早可被行死罪云々者、此間、猶打破官軍、殺害之由有、其告、仍以大夫史隆職、重仰云、訴訟狀、早經院奏了、隨御定可仰下、先可止狼藉也、若不憚朝威、致此濫行者、衆徒已可爲違勅之者、訴訟豈及裁報哉、武士之防禦、未及任法、衆徒之所行、先以自由、太無其謂、猶不能退者、定有後悔歟者、此間、自左衛門陣、雜人數千逃入、殆充滿南庭、緯太以濫吹、然而、無人于制止、余仰職事藏人等、令突其頭、又仰能保卿、頻以追却衆徒、未反西洞院辻、雜人、檢非違使從者等、剩逃入宮中、實王化之衰微、眼前見現可悲々々、仍作色勵聲、悉從退却了、良久、隆職歸參、全不存狼藉、下僧等之中有此事、或又見物之輩之中、若有定綱之黨類、以飛礮、打衆徒并武士、尤可被制止云々、即仰能保卿、制止之、此間、宗賴歸來、僉議尤可候、但於禁中可有之、又仰云、無狼藉、而可被制止、又聞食訴訟之趣、可被仰云々、早可召可然之人云々、又以親國、被仰同旨、先是、宗賴歸參之間、

又以光綱奏大衆申狀了、仰頭中將召左內兩府、實家、實宗卿等、他人多候院、仍付光綱、悉可參之由仰之、又自院可被仰下之由申之、申刻、人參入、左衛門督通親卿、民部卿經房卿、平中納言親宗卿、左大辨定長卿等也、左內兩府已下、殊所遣召之人々、皆以不參、此內、實家卿追參入、又光雅卿同參入、人々各在鬼間、須於殿上有議定也、然而、先例如、此急速事、必可然、或各別被問、或又隨便宜、內々被尋之、加之、人數太不足、還可輕々、仍只乍在鬼間、以宗賴問之、先是、座主已下、山門僧綱等十餘人、邊且又議定之趣、有、其趣、衆徒申狀如此、于細見、其、上、座主申云、早可召、賜其身、不、然者、必定可及、大事、歟、縱雖被仰此旨、其身已逐電、今日、衆徒入洛之間、忽不及召賜、又此事可觸關東、然者、待其左右之間、早可罷退之由、可被仰下歟、此旨申院、可然之由、所被仰下也者、座主申旨如此、此上何樣可被仰下哉、日已及斜陽、議定之間、定向夜漏、狼藉彌陪增、殆可及大事歟、各能開腹心、可令言上者、于時、實家、光雅、未參之問也、一同申云、可召賜之由、被仰之條、不可然、當時雖似無爲、向後如何、只先

被誠衆徒、所行一々不當、并當時裁斷、定綱配流、下、更非輕科之子細、可被仰聞者、此中、左衛門督申云、貞綱令逐電、須付主人被召也、主人、即前幕下也、加之、召、賜其身之條、不、被仰合彼人者、輒不及成敗、仍旁可開食彼處分、仍當時雖有強威之訴訟、已不可有其詮之由、可被仰歟者、此間、余一兩座問答、人申狀、所詮如此也、余先仰座主云、流罪〔若〕不足者、禁獄如何、公家之法莫過之法、至于召賜之條者、無例無理、以此事、可爲參洛之詮之由、衆徒存知、太不可然、禁獄不請申者、殆爲大事歟、如何者、座主云、禁獄之條、更不可叶、衆能議定畢、是已其內也、猶雖無始終、可被仰可召給其身之由也者、余折中仰下云、再三不經奏聞、無音參洛、剩亂入陣中、驚聖聽、及傷官軍、不奈詔旨條々之科、衆徒爭逃申哉、加之、今所申之旨、太無所據、死罪之條、我朝不行之法也、准申重衡等之例、已以勿論、召賜其身之條、又無比類、我朝之法、莫過遠流之刑、更不可論罪輕〔重〕何況其身已逃脫、付主人、前右大將、召取其身之上沙汰也、慙奉具神輿、歸本山、可期定綱出來之時歟、裁斷之有無、更不

可_レ依_二狼戾_一者、座主以_二三綱_一仰_二衆徒_一、此問、實家、光雅、參入、他類皆、良久申云、被_レ各仰下_一之條々、似_レ過非_レ過、流刑已宣下_一之由、依奉_レ及_レ若被_レ行_二其科_一了者、申_二改朝務_一之條、彌可_レ爲_二難治_一之次第、仍未_レ被_レ行以前、爲_レ達_二愁緒_一、所_レ馳下_一也、先々衆徒參洛、全兼無_二奏聞_一之例、至于裁斷之條者、所_レ犯已希代、科斷徒不可_レ類常、仍可_レ申_二賜其身_一之由、所_レ言上也、此條不可_レ及_レ被_レ仰_二關東_一、若被_レ行_二所當之罪_一、將軍豈問然哉、但相_レ待其身出來_一之間、豈可_レ歸_二本山_一之由、被_レ仰下_一、爭乖_二勅命_一哉、然而、不承_二分明之勅裁_一、歸山之條、所_レ不_レ存也、仍於_二神與_一者、不可_レ奉_二相具_一、於_二衆徒_一者、爭違_二勅命_一哉者、重仰云、定綱其身逐電、因_レ之彌招_二重科_一、敢不可_レ緩_二刑法_一、今隨_二勅定_一、申_二可_レ歸山_一之由者、又爭不_レ奉_二具_一神與_一哉、棄_二神與_一歸山者、已是違勅也、縱雖_レ可_レ召_二賜其身_一、當時逃脫之上如何、待_二歸來_一者、以_レ何爲_二期_一、可_レ候_二陣頭_一哉、所_レ申不當、猶早神與相共歸_二本山_一者、不_レ待_二此申狀_一、且以_二大衆申狀_一奏_二院_一、宗賴馳參了、衆徒重申狀、座主以_二親國_一申_レ之、其狀云、經_二數月_一猶可_レ候_二陣頭_一、早可_レ召_二賜其身_一者、所_レ申太奇恠、即以_二親國_一、重奏_二此旨_一了、

亥刻、宗賴歸來、傳_二院宣_一云、重々被_レ仰_二衆徒_一之旨、一々叶_二敬慮_一、尤神妙思食、大衆申狀、又聞食了、先衆徒不當條々、被_レ仰下_一、子細、不_レ過_二先度_一召仰之趣、仍_レ略_二之_一了、至于訴訟之條者、定綱、其身若候者、可_レ召_二給_一之處、已以逃脫了、被_レ召出、可有_二御沙汰_一也、被_レ仰_二關東_一、召_二出其身_一之間、豈可_レ歸山_一之由、可_レ被_レ仰下_一者、此旨、大概不_レ過_二先度_一之能_レ是_二於_一禁獄之條者、不可_レ被_レ仰_一、此事、今計之上、左衛門右衛門之中、可_レ滿_二徒年_一之由、可_レ被_レ仰_一、彼不_レ進申_一之上、又不可_レ過_二遠流_一之故也、兼又衆徒不_レ承諾_一、猶棄_二神與_一者、座主儘可_レ奉_二送本社_一之由、可_レ被_レ召_二仰者_一、以_二御定之趣_一、仰_二座主_一了、頃_レ之、座主申云、衆徒猶雖_レ愁、無_二勅許_一、所詮、件定綱、仰_二京畿諸國_一、可_レ召_二進其身_一之由、被_レ下_一宣旨_一、稱_二今取_一宜者、以_レ之可_レ爲_二一分之裁許_一云々、以此趣、又欲_二奏聞_一之處、藏人基保來申云、衆徒棄_二神與_一逐電了、只宮仕神人、少々在_二神與_一之邊云々、仰_二座主_一召_二留_一之、遣_二大夫史隆職_一、仰_二今度申狀裁許_一之由、此條更非_二難事_一、已理之所_レ致也、仍奏聞之後、仰_二之者_一、國司_一、憐念_二之故_一、與_二人々_一相議先_レ仰_一之、而衆徒變_二詞_一、此條更非_二裁許_一、座主爲_二奉_一具_二神與_一、於_二大衆_一所_レ計出_一之奇謀歟、太不可_レ然之由、殆及_二放言_一、悉退散了云云、次第不足_レ言、於_レ今者、奉_二送_一神與_一事、仰_二座主_一、

座主申云、先例、自官觸祇園、以彼社神人、即整所奉安、置祇園也云々、問隆職之處、申無先例之由、然而、依座主申狀、觸遣了、是不可有、其難之故也云々、此上、座主內々致沙汰、隨夜中可奉渡之由、再三仰含了、此後、可被行之事等、與人々相議、今日子細、具可觸遣關東、又此後、被仰合座主、禁獄若請申者、可滿徒年之由、并流罪、又不可被召返之由、可被仰敷云々、即差宗賴朝臣、奏衆徒申狀、并退散之次第、神與事、人々定申旨等了、此後、人々退出、實家、通親、親宗等、先是退出了、深更、宗賴歸來、院仰云、衆徒次第不當也、神與事、早可被沙汰、於今者、明日人々猶相議、可被定行、今夜已及曉天了、不可及次第之沙汰云々、余此夜宿候、及曉天、神與猶坐途中、一有生無人、仍仰陣吉上、守護武士等、遙奉懸目、若如盜人、不可近與邊之由、誠仰之、爲不虞之誠、今夜猶可守護內裏之由、仰大理也、能保卿退出了、今日定始、暫以宗賴朝臣、問答後、余開鬼間北障子西扉、與人々直議定也、凡古來、台嶽之衆徒、致訴訟詣闕之例、已及數度了、未聞如今度、訴狀不存理、問答有依違、大略不

辨前後之小院違等、恣企惡行之間、忘理致歟、先例、於訴訟之根元者、雖無道非據、至于奏狀〔之〕旨、并言上之詞者、實帶一旦之道理、以火如爲水、而今度之爲體、一切不辨東西歟、可彈指可彈指、就中、最後申狀、太無所詮、遂以變其詞、棄置神與、遂電、可謂奇異之珍事歟、抑、武士之庭弱、今日顯現、爲朝頗恤弱歟、今日欲行復任除目、并詔書覆奏、而神與猶不歸坐、事太無便、仍不能被行他事、忽以延引了、廿七日、辰、甲今日、祇候內裏、早旦以宗賴奏院云、神與猶在途中、祇園神人雖奉渡、衆徒少々隱居近邊小屋、凌轢神人等、仍不能寄神與邊云々、再三雖仰座主、敢力不及云々、早仰使廳、可被追却散在之衆徒歟、兼又此後之成敗、召座主已下、可被仰合歟、昨日、終日奔營之間、所勞能發、今日相扶欲參入者、宗賴歸來、仰云、座主被召遣了、召公卿、及他僧綱等於禁中、可議申者、神與事、返々聞食飫、早仰使廳、可搦召件惡徒等、兼又寄宿之家主、同可注進之由、可仰下者、余又申云、僉議之條、猶於院可候也、相扶所勞、可參入候、在京之

惡僧事、早可下知、即可仰大理之旨、仰宗賴了、
 申刻歸來云、座主已參入、且被仰合之處、座主計申
 云、一者、猶可召賜其身之由可被仰、不然者、必
 是又可下洛、一者、誠賜御教書、引率山門僧綱
 等、企登山、可加制止、其趣、具以可被書下也、
 所詮、遠流永不可被召返、禁獄又可滿徒年之
 由、可被裁也、又參洛之張本、可有御沙汰之旨、
 同可被裁者、此兩方之間、賜御教書之儀、尤
 歟、不可及異議、早可書給、於今者、他僧綱不可
 參、又不可有公卿會議者、即參院人々皆退出、一
 切無人、以女房申入了、數刻之後、新少將忠行近日寵愛之人
 也、有召、即參御前、余申云、賜御教書之儀、尤上計
 也、然者、貞綱可被召出之宣旨、早可被下歟、即
 件狀、裁彼御教書、尤可宜者、可然之由、有天氣、
 今夜、內大臣拜賀云々、依及夜漏、早以退出、丹三品出來、仍不
 以謂之、無歸參內裏、御教書之趣、仰宗賴了、宗賴不
 門徒僧綱等、今夜中可登山之事、書誠御教書數十通、參院、
 井神與座主、仰大理井座主、致其沙汰之故也、又神與事
 問之、申云、猶恐狼藉、不可叶之由申之、仍座主
 可被差副官使、檢非違使等之由令申、仍仰大理
 理了、早可差進之由申之、又仰隆職宿禰、令差

進官使云々、必今夜之中、可率渡之由、返々召仰
 了、御教書、明旦、書其案、可進之由申之、余仰云、
 可遲々歟、今夜可馳筆也者、宗賴云、座主明日可
 登山、仍明日可給之由申之、事又大事也、卒爾書給
 者、自有違亂者、可爲朝大事、猶明日可書進者、
 所申可然、仍明日可書進之由、仰了、余今夜猶雖
 可祇候、爲勞病退出了、禁中守護事、各召仰了武
 士、檢非違使等、令分候四方也、子刻、宗賴申云、已
 率渡神輿、兼又僧綱等、返事少々進之、各申可登
 山之由云々、或云、明曉、大衆例可下京云々、
 廿八日、乙〔天〕晴、寅初、宗賴進札、相副座主申狀、
 其狀云、日吉神輿四ヶ所、昨日、先奉下三所、今四
 振上中堂了、當時爲會議、奉振之由、雖令申、
 如先度、自有卒爾參洛事、歟、仍所馳申也云々、余
 仰云、早可奏聞、兼又彼下洛已前、早速可登山、若又
 今之間、遮以參洛者、如初、座主可參上之由、可仰
 遣之、余以書札申院、御返事到來、尤驚思食、能可
 致沙汰者、又余送使於大理之許、仰此旨、兼又早
 可參內之由仰之、大理云、枉可有臨幸院御所、不
 然者、更不可出仕、後答決定可懸能保之身、仍不

可致沙汰者、余答云、此事、理不可然、行幸院御所之條、實爲人無煩、爲沙汰、可得便宜、然而、事甚以輕々也、安元、俄駕腰輿、有臨幸、人々爲朝之瑣瑣、其例又太以不快、旁以不可然之上、院仰不可然云々、昨日、能保參院申之、不許了、一人之臨幸、全不可容易、況恐衆徒、被避窟居之條、更不可有事也、依此事、忽塾居、又不可致此沙汰之條、如何、若非常大事出來、此條又不可爲御過失、歟如何、尤可被按量事歟、爲逆不定答、歟、招一定之誹、頗可被思慮歟、如此問答及再三、愁申參內之由、頗不足言歟、辰刻着直衣、先馳參院、先是、宗賴令見御教書直之所、仰其旨返遣了、即參院、案、大概尤宜、一所有可參院之由仰了、以家實、奏一條々事、衆徒若參洛者、相防之間事如何、行幸事、能保申旨如此、此事專不可然事歟、而其辭殊深、仍奏聞、又若臨期有可被議之事、早可被召人々者、仰云、早可召、又行幸實不可然、檢非違使等、不候內裏、尤不便、殊所被仰下也者、此間謁右大臣、又宗賴朝臣參來、持參御教書案、直了、即奏聞、其狀叶叙慮之由、有御感云々、先是、即遣座主許了云々、余先可持之、而不見其狀、依急事、先遣了、尤越度歟、然而、其狀強無相違、於今何爲哉、又可召進定綱之

由、賜宣旨了、候院之間、法印被送書云、大衆不可下京之由承之云々、又座主早以登山了云々、於今者、不可及議定之由、有院仰、人々少々雖參入、不及其沙汰、未刻、余參內、入夜退出、依明日物忌也、今日、僧綱等皆悉登山了云々、丑刻、波印示送云、大衆可從院宣、流罪可宜議定了云々、山上之大慶、天下之所慶也、即奏院了、今夜、內大臣拜賀、參院給御馬、參中宮、給送物、筵、是不可必然、優其內大臣子息等奉公、所給也、又觸余方無便宜、不可來之由答之、又於殿上竊謁之、廿九日、兩〔天〕晴、物忌也、宗賴申云、日吉神興、乘途中、已經一兩日了、事尤可被謝申三社、歟之由、問例之處、外記勘申之云々、尤可然之由仰之、又可奏旨仰之、即參院奏之、可然之由有仰、今日早旦、座主又申衆議一同之子細、定綱、并子三人配流、下手人蔡獻云、同奏其旨、殊院聞食之旨有仰云々、又來月一日、可有件奉幣、又明日、可被行配流事、雖凶會、如此之急事、先例強不撰日、於今日者、復日可有憚之由、言上了、座主又申云、神與明日之內、可奉迎山上、依五月會也云々、又座主進流人注文、

定綱可被流湯王島之由申之云々、此事又以不可然歟、仰云、只可遣薩摩云々、此夜、新大納言忠良拜賀、參中宮、又觸余方云々、又右大將賴實拜賀、不參中宮如何、太奇怪、々々々、

卅日、未〔天〕晴、宗賴來云、院仰云、流入、國司官可被沙汰云々、即仰官、令注進之、付其狀可宣下之山仰了、上卿已參陣、宗賴參入了、及晚、宗賴又來云、今日、依今日吉祭御幸、及晚還御、仍奏條々事等云々、復任除目之次、不可有他任官云々、定綱配所事、如余計申、不可遣其島、只可被配薩摩國也云々、又云、廣房、其身早可任受領、公尙五位史事、不可被行云々、光綱申孔雀經御修法之間事、來月二日不可叶由、仁和寺宮被申云々、長房又申條々事、多是齋宮寮事狀也、今日、以豐原泰元、補日野牧下司了、依重代相傳也、能州事、尋遣院近臣等之許了、

五月

一日、戊申〔天〕晴、此日、被發遣三社奉幣使、日吉、祇園、北野等也、神輿奉_レ葉_二置途中_一、經一日二之夜、先規已稀、尤依

有其恐、可被謝申也、使用世間役諸大夫等也、上卿內大臣、行事右中辨棟範也、申刻、棟範內覽日時定文、見了返給、相次持來、宣命草同見了返給、免清書內覽了、

今朝、座主示送宗賴朝臣許云、三社神輿、今日爲奉迎本社、去夜、社司少々參洛、而其殘輩欲參之間、惡徒追散了、凡先日僉議之場、亂事之徒、黨人皆所知也、東塔西谷、并無動寺大衆等也、無此御沙汰者、始終不可叶加之、今日、社家有式日之神事、神輿不歸座者、神事違例歟云々、可仰遣智海、源實、已上、西塔、谷事仰并無動寺法印等之許、兼又總大衆、已服騰院宣、一兩凶徒、縱雖欲亂事、更無煩于禁遏歟、依少事勅念者、爲山門有後悔歟、非當恒例神事之違例、欲抑留臨時辭謝之奉幣、裁許過分之上、剩致此濫行、太不當之由、仰遣座主許了、即下知山上之由、有座主之返報、良久及未刻、座主申云、神輿奉迎之由所承也、奉幣不可延引者、法皇今日爲御方違臨幸天王寺畢、仍忽不能奏達、遂違亂出來者、太不可宜、仍殊仰遣子細之處、神輿移本社、奉幣無爲被行了、尤爲悅々々、傳聞、去比

自山門遣鎌倉之使者已歸來、可召賜定綱於大衆之中、之由、分明(之)裁斷、加之、發應使等、已過法、歸敬當社、鄭重甚深云々、惡徒聞此趣、彌得其力、遠流之裁許、更以爲不足言云々、誠是天魔之所爲也、不能左右云々、齋宮院事、猶仰本功者、可令修造之由、可宣下之旨、仰親國丁、隆職有申旨之故也、以兵衛尉豐原康基、可爲法成寺領近江國日野本牧下司之由、成賜下文了、依爲重代也、大外記師直來申云、詔書覆奏、去廿六日依神與事忽延引、問日次之處、今月二三日可宜之由所申也、而大納言、各稱隙、爲之如何、明後日、三日、左大將可參行之由仰之、今年、左近馬場騎射、大將可見物、然而衆徒事、餘氣未散、仍今年不見物之由仰了、今日、資實來、能州事、可傳女房品之三之由、先日仰之、爲示件返事也、安危未分明云々、猶可執奏之由、所答也、炎早之愁、漸遍滿天下云々、仍今日可有祈雨奉幣之由仰了、而卒爾之間、今日不行歟、

二日、己天陰、午後雨降、終日不止、民間之大慶也、此日、腹任除目也、親經、宗隆雖中陰中、依有例行

之、可有加任者哉否、一昨日奏院、不可然之由有仰、然而廣房宿禰、可有分憂思之由、有御定、今日必可被拜任之由、懇切令申、仍宗賴朝臣、爲奏其事、雖參院、依無傳奏之人、不能奏達、空以退出云々、早旦、貞慶已講、爲別當僧正(覺)覺四日憲使來、申條々事、狹山莊訴事、東寺末寺川原寺燒之記事補失事、寺家行國民之罪科之、以兼親申之、一々仰子細了、不違具注、座主顯真、以經圓已講恐申、日野牧檢注之間事、付兼親申之、經圓明日可參之由仰之、爲仰聞旨趣也、今夕、中宮御祈、始修樂師法、法印件僧以二棟廊殿也、東庇、日來定爲塗壇之所、以此大將居所、今日渡爲法印宿所、宮御精進、逢時給、依爲關白也、即於其所、有御加持、又自今夜、以智詮法橋、禱御物氣、物付即修不助護摩、以寢殿西面、爲其所、先禪始御物氣之後、令逢藥師法時給也、光綱申孔雀經法事、仁和寺弟子宮可被修云々、元所定仰今日也、而被申可有延引之由、是伴僧之中、有故障事、又以覺成僧正、可令修護摩壇、同依所勞、申可被延引之由、仍所申延引也、及今月下旬云々、余仰云、今月十九日之外無其日、被

過六月神令食、太可_レ懈怠、必十九日可_レ被_二始修_一之由、早可_レ告申_一者、抑覺成其身爲_二東寺_一長者權僧正、而若少人、爲_二大法之阿闍梨_一、勤_二仕件護摩壇_一之條、君臣之禮、誠雖_レ異他、僧中之法、強不_レ然歟、今之次第、頗可_レ謂不足_レ言歟、左中辨親經、今月始出仕、申_二吉書_一、此日、隆職宿禰、官務如_レ本之由、被_レ仰_レ之、是裝束司事、如_レ本可_レ奉行_一之由、被_レ仰_下也、宣下左大臣、_{宣_二云々_一}職事宗賴也、此事、賴朝卿卿有_二申旨_一、仍可_レ被_レ觸仰_一之由、再三雖_レ言上、一切無_レ勅許、定有_二後悔事_一歟、

三日、_{庚_二天_一}晴、午刻、着_二直衣_一參院、以_二定長卿_一、_{依_二天_一}氣不快、不_レ參_二御前_一、被_レ仰云、今夜欲_レ入_二精進屋_一之間、近有_二恩免_一云々、有_二取亂事等_一、但殊有_二可_レ申事_一者、欲_レ謁者、即以_二件人_一、申_二條々事_一、_{役夫工懈怠事、與福寺事、河內國狹山、此內、狹山莊事爲_二大事_一、可_レ有_二忿裁斷_一、子細等具以奏聞、仰云、役夫工事、先院分國、并御領等事、可_レ有_二御沙汰_一、諸國、并貴所御領等事、如_二○如一_一計申、可_レ致_二其沙汰_一者、_{省_二少分_一}指_二期可_レ被_レ任_一、_{○任一}作_二仰_一之由也、天山杣訴事、遣_二使加_一實檢、以_二件申狀_一可_レ下_二記錄所_一、狹山莊事、返々聞食、慙不_レ少、以此旨問_二國司_一、可_レ被_レ仰者、余重奏曰、此事、寺家}

帶道理_一之條、更無_二不審_一、被_レ問_二國司_一者、猶定不_レ願_二己之非據_一、述_二愁緒_一歟、於_二此事_一者、雖_二片時_一、早速可_レ被_レ裁斷_一也、寺家拓_二山門訴訟過分裁許_一、忽欲_レ申_二大事_一之由、結構云々、_{可_レ被_レ流_二國司_一者先、_{速_二之由可_レ申云々_一}、奏狀到來以後者、事太可_レ有_二煩_一、爲_二後日之恐_一、乍_レ憚重所_二言上_一也者、仰云、可_レ問_二國司_一之由被_レ仰者、非_二理非之沙汰_一、只於_二此事_一者、可_レ避_二申彼寺_一之由可_レ仰也、其後可_レ賜_二證文_一者、其後、泰經出來、今日、聊有_二觸_一逆鱗之事、仍今一兩日奏事不可_レ叶云々、其後余退出、余候_二院之間_一、右大將賴實、着_二直衣_一始出仕、_{生機物、三重表着_二今着_一文機物指貫、帶劍、指_二笏_一、主就共有_二切、}暫居_二上達部座_一、小時參_二御所方_一、即退出、參內云々、歸家之後、宗賴朝臣申_二條々事_一、宗賴着_二直衣_一、參_二宮御方_一、聞_二廣房分憂事_一、明旦參_二院_一、可_レ申御不_レ例之由、參入云々、驚_二之由仰_一之、長房又申_二條々事等_一、入_二夜經圓闍梨參入_一、仰_二昨日所_一申之座主返事_一了、_{仰_二之_一}、此次、山門事等、風聞之旨、必定及_二大事_一歟、能可_レ相計_二之由內々仰_一之、祈兩奉幣、明後日可_レ行之由、余仰_レ之、而辨、明後日有_二陰云々_一、仍只明日可_レ行之由仰_レ之、四日、_{辛_二天_一}晴、中宮御方、六府進_二菖蒲與_一昇_二立階隱間庭_一、如_二例_一、晚頭、着_二直衣_一參內、於_二直廬_一有_二寂勝講}

次余向九條、依三方違也、今夜宿堂、入夜宗賴爲院御使來云、賴朝卿申狀如此、可計申者、之定綱卿科、之問事也、申狀分明、已當時所被行之趣、自然符合了、尤神妙之由奏了、兼又山僧不當等、可被誠事、被仰下、召谷々學頭、於私家若陣邊、可仰含子細云々、申承了之由、其次可被仰含之趣、粗言上了、

八日、乙卯天晴、拂曉、向大將宅、今日、宇治離宮祭、神事〔之〕故也、爲付忌於堂、依爲自、領也、故宿堂、依爲神事、當日愈所渡他所也、棟範來申、役夫工之間事、宗賴又申條々事、召季長、仰大將〔之〕宅修理之間事、申刻、歸大炊亭、女房列車也、入夜、法印之許、童部四人來、令彈琴琵琶、又打方磬、曉天分散、宗賴申云、學頭等、一切不可參之由申云々、重可仰座主許之趣、仰遣了、

九日、丙辰〔天〕晴、興福寺三綱、爲別當僧正使來、狹山庄裁許、大衆喜悅之由也、又他事等有申事等、長房申祈雨御讀經事、清瀧先三ヶ日也、今二ヶ日可延引之由仰之、又明日可有祈雨奉幣之由仰、今度以藏人可爲使者、親經朝臣申神泉御讀經用途之間事、雖重服、依非神事、所奉行也、又申云、障之間

候御讀○讀下恐、脫經字事如何、仰云、全無憚、早撰日次、可候者、親國申如說仁王會之間事、來十九日難叶云々、座主申云、學頭等、猶不可參歟、於院可被仰下、歟云々、以宗賴申院、御定不分明云々、明日重可參奏之由仰之、今日、民部卿經房來、於宮御方謁談雜事等、數刻之後歸了、定經館居之間事、委細示之、召造寺行事侍重永、仰條々子細、書副消息、遣大僧正之許了、

十日、丁巳〔天〕晴、親國來申來十九日仁王會不可叶之由、猶可橋行之由、可仰官旨仰之、光綱、神宮上卿、猶人々辭退之由申之、仰可奏聞之由、內大臣、大納言實家、實宗、此三人之間、重可被仰之由仰之、宗賴朝臣申御方違行幸之事、在陰陽師等申狀、猶依有不審、可召遣在宣之由仰之、又可向內府許之由申之、仍今年可遂賀茂詣哉否事、可示合之由仰之、檢先例、初度皆四月也、而宇治殿攝政之最初、爲御堂御共御參、是四月也、其後、獨初度之御參詣八月也、最以之可准哉、然者、今年八月欲遂之、若又猶任常例、可期明年四月、歟、可被計示者、長房申祈雨御祈并最勝講之間事、今日祈雨奉幣、藏

人爲使、又被進黑毛馬於三社、又有旱魃御卜、兩
 事上卿左衛門督云々、內記內覽宣命草、又長房內覽
 占形、巽乾東等神祟之由占之、巽神、官寮其卜之、役
 夫工事已欲闕、占卜之所示、可謂指掌歟、仰可
 院奏之由了、又五龍祭可_レ行之由仰之、問日次
 之所、來十三日云々、上文之由仰之以下流布本載在于七日條入夜、右少辨
 資實來、申仁王會不可_レ叶之由、猶可_レ構行之由仰
 之、召前條々可奏之由仰付之、役夫工欲闕事、炎旱
 御祈等終可_レ被行、而用途不可_レ叶事、神宮上卿不_レ置其
 人、經數月、尤可_レ被定仰事、廣房分憂分思事、山門
 衆徒沙汰、猶於院可有御沙汰之由事、已上五條也各有
 子細等、不_レ遑具注、此次法印之邊輩與凶徒之由、
 有天氣之間、語示之、疑座主曉奏歟、此次、資實密
 語云、忠良卿拜任大納言、拜賀之日、參院、依召
 參御前、法皇御寢之間、自日沒之程、及子刻、禮候
 御前廣庇、法皇驚給、御覽簾外之處、着束帶之人、
 嚴然而候、忠良拜賀之由御忘却、太驚奇思食、頃之思
 食出、被仰早可_レ退出之由、其時、始起座退出云々、
 尾籠之至、言而有餘、如此之人、顯先祖之耻、可_レ悲
 可_レ悲、

十一日、戊晴、午後少雨、長房申祈雨之間事、五龍
 祭、明後日十三日、可_レ被行、而無用途云々、筑前國
 御祈油之中、雖切渡對捍云々猶可_レ置之由仰之、又昨
 日御卜趣奏聞、任例可_レ致沙汰之由、有院宣云
 云、先可_レ注方角之神社等之由仰之、又可_レ問奉幣
 日次之由仰之、即注申云、來十三四日共吉云々、十
 四日可_レ被始神泉御讀經、伊勢當日、尤可有憚歟、
 仍十三日可有奉幣之由仰之、申刻、宗賴朝臣
 〔着〕直衣參上、申條々事、一昨日向內大臣第、太宰府
 申、綱首罪科仗議事仰之、最勝講初日可_レ參之由被
 申云々、其次、余問賀茂詣事、猶明年四月可_レ宜之由
 被申云々、又祇園御靈會〔日〕、中宮同可_レ避給哉否事
 問之、同可_レ避給之由被申云々、宗賴勘例之處、上
 皇、并東宮御所、共渡門前、更不被憚云々、中宮又
 無憚陣中〔之〕禮、仍雖可_レ准彼等例、應德、白川院御宇、中宮
 也、帝妃共避給、仍今度同可有行啓之由仰之、又
 公家御方違、來廿二日可_レ幸鳥羽之由仰之、又余同
 日可向南都、可_レ付忌於佐保殿之故也、件御出事、
 可_レ申沙汰之由、仰長房、今日召在宣朝臣、問公
 家、并私方違之間事、今日、忠季朝臣來、召前談雜

事、其次申云、來十四日內大臣着直衣、可出仕云、向內裡、可被免直衣之由、內々申云々、丞相直衣、更不可及異議之由答之、

十二日、己未〔天〕晴、泰覺參上、申條々事、離宮祭日圓諍

出來事、并東北院懺法衆等事、法成寺便補保事伊與國成、給願

了等也、長房申、南京下向之間事、又申祈雨御祈之

間事、師尙師直、勅中例、余仰云、神泉千度解除事、季長、〇一作季、以可奉仕之、諸

社御讀經事、外、今加五社、諸寺御讀經事、城、仁和、醍醐、圓宗、六勝、

尤可被行、奏事由二可宣下者、諸社御讀經用、諸寺御讀經用、

又奉幣事、只可被申、廿二社也、上卿、

左大將可勤仕之、定明日可被行也者、辨棟範領

狀之由、長房申之、親國申、仁王會十九日不可叶、

廿七日於官廳、可被行、可被行之由、宗賴來申云、山大衆事、

暨不可有沙汰之由、有院宣者、又云、孔雀經法

事、仁和寺宮、所被辭申也、覺成僧正、二禁所勞危

急、修中若有事者、爲法遣恨歟、枉可被延引者、

可被延歟、將以他人可被修歟、可計申者、申

刻、余着直衣參院、以棟範入見參、有可奏事

者、以人可奏聞、眼前難申被歟云々、以泰經卿、

奏條々事、役夫工事、祈雨事、孔雀經法事、禁中落書

事等也、歸來仰御返事、少小時以棟範有召、參御前、頃之退下、猶以泰經申條々事、退出、參內、仰宗賴召延杲、在壇、仰落書之間事、件法師在壇所云々、即擲之、大理之許、召遣官人、可給之由仰之、件落書範高持向、可仰子細之由仰置、余退出

了、

件事根元者、今朝、采女但馬、依爲御物忌、可參

籠之由蒙催、未明參入、爲參籠、其路、經女房

壺禰町上緣、伊豫內侍局前、有落書、取之披見、

與藏人範高、其狀、群盜入內裏、可搜壺禰之趣

也、件消息、送延杲弟子少納言君所從、身說、許云々、

判署事、行俊云々、仍問延杲之處、杲以在壇所、

即所奏捕也、末代之作法、王化之衰微、言而有

餘、可悲々々、

覺成僧正、煩二禁、尤有煩云々、仍遣內藏權頭國

行一訪之、其次、仁和寺宮之許、示遣早魁御祈之間

事、歸來云、仁和寺〔宮〕被示云、祈雨事、只可修法神

泉之由、可有御願歟云々、覺成僧正、五百餘壯灸

了、其後未見可否云々、大略以外大事云々、

十三日、庚申〔天〕晴、早旦、能保卿之許遣使者、問去夜

所召賜之犯人申狀、而返事之趣、勿論事也、不能左右、此事、一切不_レ信受、不_レ致沙汰之體也、長房來申_二祈雨之間事_一、其次來十七日可_レ被_レ行_二祈雨之法_一、可_レ參勤之旨、可_レ仰_二遣勝賢僧正之許_一之由仰_レ之、諸雨經可_レ宜敷、但又雖_二孔雀經_一、可_レ隨_二計申_一之由仰_レ之、宗賴來申云、山門張本事、豈不可_レ有沙汰之由、有御氣色者、今日、祈雨廿一社奉幣定也、又諸社諸寺御讀經、并神泉御讀經定等也、又同於_二神泉苑_一、被_レ行_二五龍祭_一、陰陽頭立又欲_レ行_二千度祓_一、而依_二用途闕乏_一、俄延引、明日可_レ被_レ行云々、未刻、着_二直衣_一、參內、先是、左大將參陣了、依_レ爲_二奉幣上卿_一也、余參內之、即棟範覽_二日時定文_一、新宰相光雅執筆云々、見了返給、小時覽_二神祇官請奏_一、見了返給、不入酉刻、源中納言通資參陣、定_二申神泉御讀經_一、奉行辨資實、覽_二日時定文_一、見了返給、小時、又覽_二諸社諸寺御讀經日時_一、紙也、僧名定文等、諸社祓僧修寺院、不_レ載也、見了返給、抑日來、神泉御讀經事、左中辨親經申沙汰、而今朝出來神泉事、若_レ可有_レ憚哉疑申、此事尤可_レ然、仍問_二官外記_一、所_レ申無_レ所_レ據、仍問_二大阿闍梨延呆_一、專可_レ有_レ憚之由所_レ申也、仍改_二家實_一了、亥刻、持_二五龍祭々文_一、陰陽師書之、預紙墨字也、若_レ以_レ朱可_レ書敷、可_レ尋_レ之、余

以_二畫御坐御硯_一、先洗并清淨墨筆等、書_二御諱字_一了、所返_二給長房_一、奉_レ行_二職、即以_二奉行藏人範高_一、遣_二神泉苑_一了、此後、余白地向_二九條_一、深更歸_二參內裏_一、宿仕、自_二明日_一三ヶ日、可_レ爲_二神事_一、而宮御所、在_二修法壇_一、又被_レ渡_二御物氣_一、仍余所_レ候_二內裏_一也、內大臣、今日着_二直衣_一、可_レ出仕、而被_レ免_二直衣_一、欲_二參內_一之由、先日以_二忠孝朝臣_一被_レ示_レ之、大臣被_レ免_二直衣_一事、頗事新敷、然而、仰_二宗賴_一、遣_二御教書_一了、此旨又奏聞了、今夜、勝賢僧正返事到來、雖_レ傳_二其法_一、依_レ不_レ肖_二不堪_一勤仕云々、是故實也、仍重可_レ催之由仰_レ之、又神泉苑、死骸充滿、糞屎汚穢、不可_レ勝計云々、仍慥明日明後日之內、可_レ洒掃之由仰_二別當能保卿_一、以_レ藏人基保爲_レ使、又可_レ被_レ造_二假屋_一事等、以_二資實_一奏_二院了_一、今日不_レ承_二左右_一、十四日、辛酉〔天〕晴、此日、神泉御讀經始也、東寺第四長者延呆、率_二伴侶廿口_一所勤行也、又掃部頭季弘、於_二神泉苑_一修_二千度御祓_一、限以_二三ヶ日_一、午刻、宗賴朝臣、爲_二院御使_一來云、賴朝卿申狀如_レ此、何樣可_レ有_二沙汰_一哉者、其狀云、山門衆徒奇恠之由也、又近江國守護事等申_レ之、余申云、衆徒事、以此狀賜_二座主_一、可_レ披_二露

山上歟、近江守護事、有御計、可被仰御返事歟者、愚案、御願朝廻、以直正之相次長房來云、神泉洒掃事、武士可令守護事歟無左右仰、假屋事、可待成功者、每事不分明歟、敢力不及、但勝賢申云、神泉苑荒廢年久、爲之如何云々、但參上可申上云々、延果弟子尊鏡法師爲實犯之由、延果進證文、是昨夕事也、今朝經奏聞、遣大理之許了、次第不可思議事也、戊刻、長房自院來直廬、申云、勝賢僧正參入、申云、請雨經法、尤可勤仕之處、如當時者、旁難被修歟、永久五年、勝覺僧正以後、八十餘年之間、絕而不行此法、粗雖傳其法、恐無見其法之者、何況神泉苑近年荒廢、縱雖被洒掃汚穢死骸等、無四壁者、不可叶閉四門禁不淨、就中、於東門者、堅閉之、而外垣皆無實門戶無形、狼藉不淨、爭得禁止、其所已不法、其勤又有闕歟、內外不相應、豈得法驗哉、仍都不可叶也、於孔雀經法者、雖可然、是又多仁和寺之人所勤修也、當時人雖傳習、猶邂逅事歟、但猶於此條者、仁和寺宮、有其許者、可隨重仰歟、抑只被仰醍醐之一寺者、以衆力之惡念、必可有其驗也、何必及大法哉者、以此旨、經奏聞之處、所申非無

其謂歟、下官可相計者、余奏云、請雨經法事、勝賢申狀、尤有其謂、靈池荒蕪、龍神若無影向者、法驗又憑少歟、修造神泉苑之後、專可被行此法歟、不可叶當時之要、孔雀經法事、所申未得其心、件法以仁和寺爲本、當寺爲邂逅例之由、尤不審也、先聖寶僧正者、彼寺之始祖、大聖之權化也、延喜聖代、炎旱沙旬、仍奉勅、先修請雨經法、七ヶ日空過、敢以無驗、可延今二ヶ日之由雖有綸言、僧正不承諸、申可改修孔雀經之由、於東寺修之、果以有驗、是則末世之門徒、請雨之法驗遲及者、以之爲例、令悟後昆也、權化之示現、末代之美談也、謂其濫觴、法驗如此、近則、定賢法務者、醍醐寺之人也、奉修祈雨法兩座歟、共修孔雀經法、每度有効、何況勝賢之祖師、定海大僧正、乍承請雨經法、堅以辭之、於本寺勤行孔雀經法、七ヶ日之中、効驗炳焉、甘雨普潤、上古近古其例如此、今之申狀、迷是非了、若依此奏請、不行其法者、當寺之人、於此法貽瑕瑾歟、爲宗爲寺、願可謂遺憾歟、但宗之長者、定有深心歟、見證之愚臣、不能成敗、雖然、炎旱之體、已超過先代、朝家第一之大事也、大

師儲請雨孔雀之二法、消_レ炎氣旱魃之一災、其法未_レ絕、其人繼_レ道、而此時不_レ被_レ修者、祕法之傳習何要哉、至于本寺懇祈者、貫首承_レ大法者、彌可_レ勸_レ最負之心歟、所_レ申旁以無_レ理致、猶可_レ修_レ孔雀經法之由、可_レ被_レ仰下_レ歟者、此旨仰_レ付資實了云々、今夜不_レ能_レ奏聞、明曉御進發以前、可_レ申入_レ之由、資實令_レ申之云々者、今日、神泉御讀經開白也、丑刻、下方有_レ火、院御所近邊云々、仍倒衣裳參、法皇爲_レ見物御坐_レ火下云々、余候_レ公卿座、火消之後返御、以_レ棟範入_レ見參、退出、于_レ時天已曙了件火、五條南油小路西小屋ヨリ、火出來云々、南及_レ六條坊門、東亘_レ油小路、未及_レ西洞院消了云々、

十五日、戊〔天〕晴、炎暑逐日盛、天下之歎、只在_レ此事、此日、祈雨廿二社奉幣也、上卿左大將、行事右中辨光雅、依_レ五位使不足、多上卿前駈四人、俄以點_レ定次官云々、是上卿命也云々、上卿已刻參陣、先開_レト串、次奏_レ宣命草、余在_レ直廬、仍以_レ大內記長守_レ內_レ覽之、見了返給、其後、余着_レ直衣_レ參_レ御前、即上卿就_レ弓場_レ奏_レ宣命、清書長房持來、余見了、主上又御覽、雖不可_レ必_レ然、余_レ經_レ御使_レ也、了返_レ給長房、申_レ使王御馬申之由、余仰_レ使_レ作覽也、

聞食之由、即上卿出自_レ右衛門陣、參_レ神祇官、頃之、棟範自_レ神祇官_レ送_レ使申云、伊勢使爲_レ定、親廣兩人參入、親廣給_レ幣退出、以_レ子息_レ爲_レ代官、可_レ令_レ下向_レ件_レ六、爲_レ定已載_レ宣命、而爲_レ役夫工沙汰、暫在_レ京爲_レ要須、爲_レ之如何、仰云、爲_レ定已載_レ宣命了、又親廣以_レ六位_レ爲_レ代官_レ之條、太不_レ可_レ然、爲_レ定猶可_レ發見_レ者、小時、職事申_レ事由、仍主上着_レ御々裝束、御東帶_レ於_レ御殿坤角、御座供_レ有_レ御拜、五位藏人長房獻_レ御笏、_レ類依_レ爲_レ外、今日御物忌也、余依_レ着_レ直衣、隱_レ候閑所、御拜之間下_レ直廬、忠季朝臣奉_レ仕御裝束也、大將自_レ神祇官_レ參_レ宮御所云々、大炊_レ殿也、孔雀經法用途事、已及_レ闕如云々、只今奉行職事等申上、懈怠不覺、敢不可_レ者、不_レ可_レ說、々々、法皇、今晚爲_レ御方違、御_レ幸天王寺、來廿三日可_レ有_レ御歸京云々、

十六日、亥〔天〕晴、申刻以後天陰、自_レ今日、神祇官人、參_レ籠本官、限_レ三ヶ日_レ祈_レ請甘雨、權少司大中_レ〔臣〕親廣云々、勝賢僧正、猶辭_レ申孔雀經法、重仰_レ遣子細了、又以_レ五位藏人長房、祈雨法勝賢辭退之間事、申_レ合仁和寺宮、入_レ夜歸來云、仁和寺宮被_レ申云、勝賢辭申之由、此法、醍醐寺殊不_レ行之由令_レ申之條、勿論也、兩門共行之、更

始不_レ及_レ申、只末代作法、法驗極難_レ有_レ歟、而大法無
驗者、爲_レ宗可_レ爲_レ遺恨、仍辭申歟、猶堅辭申者、又不
及_レ苛責、於_レ延杲_二者、一切不_レ可_レ候、當時如_レ長者、
然者可_レ修歟など思食事もや、候らんと存て、不_レ可_レ
然之由、雖_レ欲_二言上、無_二仰合事、進而言上之條、偏
似_二遏絶、仍猶豫之間、有_二此仰、悅而所_レ申_二子細_一也、
一切不_レ可_レ叶、勝賢猶辭申者、只不_レ可_レ被_レ修_二大法_一
也、任_二勝賢申請、被_レ懸_二醍醐寺、豈可_二御覽_一歟、若猶
自_二公家可_レ被_レ行者、止_二延杲之御讀經、可_レ被_レ改_二
勝賢_一也、此條爲_二延杲_一雖_二不便_一申_二眞實事_一也、又可_レ
被_レ修_二水天供_一廿壇歟、廿壇歟、
可_レ在_二時讀_一戊刻、余退出、其後長房
持_二來勝賢返事、今度領狀、自_二明日_一十七可_レ勤修_一云
云、但於_二本寺可_レ修之由、所_レ申也、用途事、光綱沙汰
也、不_レ可_レ懈怠、明日先可_レ持_二來此亭、可_レ加_二檢知_一之
由仰_レ之、又供米事、筑前國重任之功也、油井石之
内云々、殊
〔不_レ可_レ〕有_二不法、丁寧可_レ致_二沙汰_一之由、以_二奉行職
事_一仰下之處以_二別使_一仰遣也、右大辨親雅
沙汰也、
十七日、甲陰晴不定、已刻小雨、仍今日御修法可_レ被_二
延引_一歟、豈可_レ試_二御讀經_一明日可_レ
被_レ結願、驗_一歟之由、思慮之
間、即時天晴、雨止雲散、青天如_二日來_一、猶今夜可_レ始_二

御修法之由、有其沙汰、申刻、持來名香淨衣以下雜具等、各見了送遣之、今日餐、越前國所役、送遣了云云、又以藏人基保爲勅使、向本寺仰御願之趣、棟範來申役夫工之間事、貴所御領等、隨預所之許、可付神部之由被仰下了、泰經卿奉行云々、宗賴來、昨日差日、告、宸勝講中宮御方、上御壺禰几帳事問之、今日下向、建禮門院出織物几帳、又女房出綵袖云々、此事不心得、織物者、出御所間、打出者、爲女房候所兼行之條、尤不審、仍故女院皇后宮御時之例等、可尋問之由、仰長房了、爲奉行之故也、

定綱赴配所之間、率數多甲兵、又子息三人同船自海路、可向之由申之、領送使等、其力不及之由所申上也、仍仰遣大理之許、取進定綱陳狀、仍今朝召隆職問之、重又召進領送使申狀、以官掌爲使、重仰遣別當之許了、可尋之由所申也、資實參申云、延杲申云、已有兩氣、今二ヶ日欲被延引者、此事須奏聞之處、行程不可叶、已被始法了、於今者、數日相並之條、彼是似無其詮、歟如何、以此旨可計答者、入夜、有安來、座主顯真、昨朝入大原了、一昨日依相招罷向、故可披露御所邊之由、有申旨、

傳有安、與被顯其甚深、天台座主、被下檢封宣事、必非一箱料、只爲開慈覺大師經藏、修治文書、所申下也、我人知シテ候ケル也、而今度披見一箱之處、爲披一箱可申下件宣旨事ニテ候也、此事尤可有御存知也云々、又一箱ニハ、自座主之初至于覺座主、皆開此宮之由事、自筆記納之、而明快座主以後、無件例記明快、眞眞、仁源、忠孝、快修等也、此事、極以不審、仍顯眞乍恐追舊例書之納了、此事又可知食事也、如此事、荒涼不可披露、仍密々所申入也云々、又云、顯眞先年見夢件狀、只請、今度披一宮、果符合所見之物等、如夢想、在件宮之中、實感淚數行、着冠之俗一人、相共沙汰此事、夢ニ見レハ、即澄實之所役ニ天有、俗ト見ル、尤不審也云々、又云、座主辭退之志、尤懇切也云々、即昨日朝入ニ大原了云々已上有要語、或人云、法親王、可被引移云々、若少々座主、先例如何、又件親王、世間出世、共人之所不請也云々、入夜雨下、及晚殊下、是御讀經之驗歟、

事一

祈雨法之間事、諸宗御教書事、

御祈用途事、內裏盜人結構法師事、

定綱下向之間事、

昨日申、天王寺御返事到來、水天供、覽可相待法驗云々、

十九日、寅丙〔天〕晴、未刻參內、依御物忌、不參御前、忠季朝臣候、呼前、內々有示合內府事、中宮御方、上御靈禰之間事也、即參九條堂、依例講也、此夜宿之、女房同爲方違所來會也、

廿日、丁巳刻、講演了、歸大炊亭、廿一日、戌辰依明日可下向南都、今夜向九條亭、廿二日、己未刻以後雨降、入夜殊甚、寅刻、着冠直衣、下向南京、此車、不懸下簾、團身上廣冠、駕移馬下、露布右中將忠季朝臣、利部卿宗雅朝臣、前兵部大輔能季朝臣等也、諸大夫十人、皆衣冠、公卿二人、新宰相光雅卿、前宮內卿季經卿等也、但光雅遇參、下向之後、辰刻、着宇治、以船渡河、不逗留、直經三時、下向、辰刻、着宇治、以船渡河、不逗留、直下向於八幡伏拜、下自車、未一刻、着佐保殿〔上下〕箱、餽、申刻、先參興福寺、先南圓堂、修通經、大施一、裏、經、誦經導師貞慶已講、表白甚優、別當僧物布二百段、誦經導師貞慶已講、表白甚優、別當僧正獨參候北床、次向金堂、見作事、次詣講堂、又

傳有安、與被顯其甚深、天台座主、被下檢封宣事、必非一箱料、只爲開慈覺大師經藏、修治文書、所申下也、我人知シテ候ケル也、而今度披見一箱之處、爲披一箱可申下件宣旨事ニテ候也、此事尤可有御存知也云々、又一箱ニハ、自座主之初至于覺座主、皆開此宮之由事、自筆記納之、而明快座主以後、無件例記明快、眞眞、仁源、忠孝、快修等也、此事、極以不審、仍顯眞乍恐追舊例書之納了、此事又可知食事也、如此事、荒涼不可披露、仍密々所申入也云々、又云、顯眞先年見夢件狀、只請、今度披一宮、果符合所見之物等、如夢想、在件宮之中、實感淚數行、着冠之俗一人、相共沙汰此事、夢ニ見レハ、即澄實之所役ニ天有、俗ト見ル、尤不審也云々、又云、座主辭退之志、尤懇切也云々、即昨日朝入ニ大原了云々已上有要語、或人云、法親王、可被引移云々、若少々座主、先例如何、又件親王、世間出世、共人之所不請也云々、入夜雨下、及晚殊下、是御讀經之驗歟、

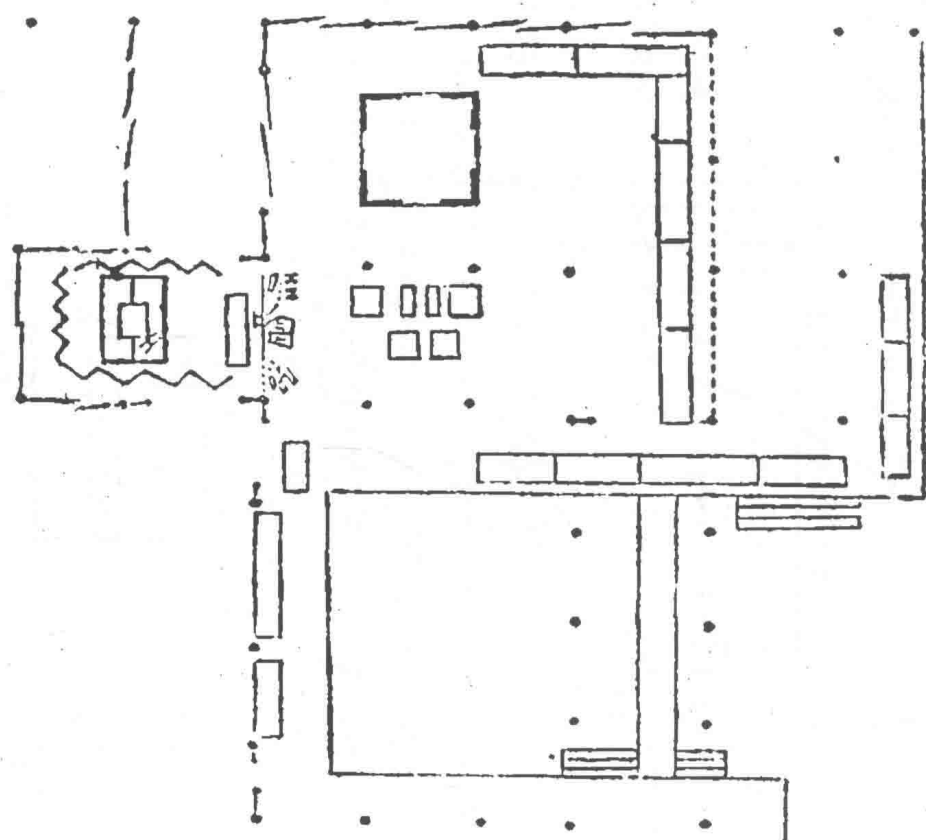
昨日申、天王寺御返事到來、水天供、覽可相待法驗云々、

法用途、僧名等事、仰可奏聞之由了、未刻、長房來云、孔雀經事、今日參院奏聞、仰云、勘賞事、可問勝賢者、仍以御教書馳遣之處、申云、清流社可寄阿闍梨五口、永保信覺僧正、保元寬遍僧正等、各依祈雨大法、勘賞有兩事、准彼等例、雖可申請兩事、忽不及兩事、只所申請五口也云々、即奏聞之處、余可計奏者、余申云、員數雖過分、近代如此事、皆過舊例、隨又祈雨大法、保元以後絕久、今適有此事、隨又効驗揭焉、任申請、有恩許、有何事哉、兼又昨雨雖顯法驗、若此後旱魃者、爲國土猶可不便、仍仰門弟等、連々降甘雨、國々可停炎旱之愁之旨、殊可祈請之由、可被仰下歟、又當時修此法事、寬治定賢以後、始及百年、云佛法云王法、已屬澆季、忽有此靈効之條、爲宗爲法、爲世爲君、可謂珍重、殊感思食之由、尤可被仰下之由、同奏了、資實來申仁王會之間事、猶於官廳可被行之由、同仰了、

廿五日、壬〔天〕晴、宸勝講々師信憲已講、興福寺、俄依所勞辭退之由、長房來申、可催他人之由、仰、入夜申覺親已講、園城寺、領狀之由、宗賴參院、奏條々事、來

仰御返事、棟範申役夫工之間事、入夜、澄憲法印來、勝賢僧正、大法之間、談有奇瑞等之由、佛法之驗、尤可信仰歟、

廿六日、酉〔天〕晴、此日、宸勝講初日也、未刻着束帶、相伴大將參內、召長房、問事具否、僧二口未參云云、重可催之由仰之、少カ小時、申皆參之由、此間、主上召御裝束、忠季朝臣、奉仕之御引直衣也、白生單衣、御單重、紅御引陪支、紅御袴、御直衣等也、余着殿上、即證誠參入、余召宗賴問事具否、申具之由、即奏事之由、仰聞食之由、余尋辨候否、申不候之由、仍使仰鐘、即槌鐘、次出居成定朝臣、忠季朝臣、隆保朝臣、雅行朝臣、忠行等參上、次余已下着御前座、數兩面、坐一枚、權大納言忠良卿、良經卿、權中納言通親卿、泰通卿、隆房卿等也、次余仰出居催僧侶、次從僧等置草座、香爐宮等、次證誠覺憲僧正已下、衆僧着座、次講讀師先着禮盤、次總禮、綱所稱之次登高座、次打磬、次公卿置笏、次堂童子着座、次唄、次分花宮、次散花、次表白、此間、藏人頭中宮亮宗賴朝臣、入南第一間、就講師座右、次仰御願之趣、三合、天聖、炎、早事等也、余兼不仰之、當座思出、先召宗賴朝臣於座下仰之、退歸、修表白之



仕等、着_二生綾重_一也、女房或可_レ着_二生綾重_一、然而、猶毛車_於之禮、可_レ着_二張單重_一、是正法也、仍今度如_レ、此後仍不可_二必然、可_レ隨_レ宜也、

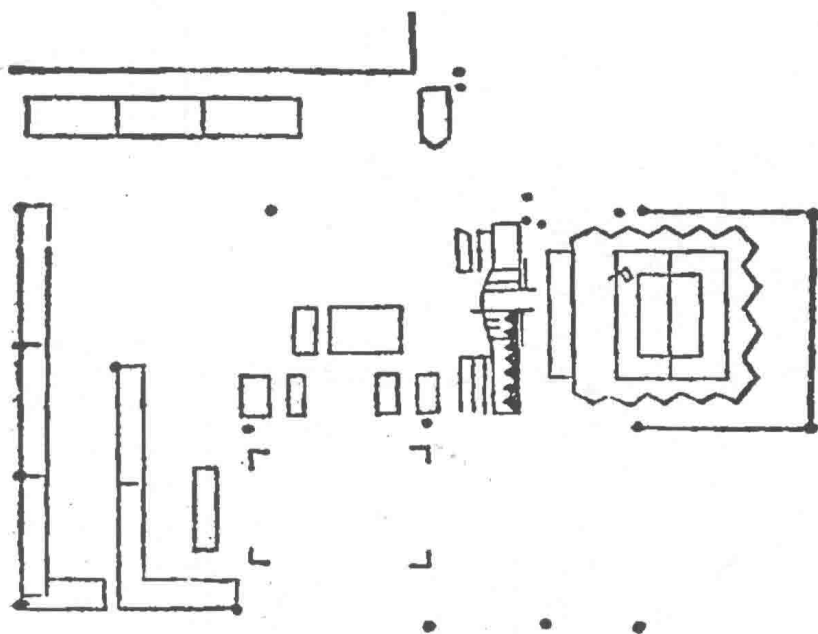
中宮、去正月御退出、依三方忌也、其後渡御邪氣、今
曉追御物氣、今夕御入內也、今日追物之次第、大夫
取御衣給僧御單衣也、其上、又御衣一具相具、持遣僧
宿房、又物付給衣三領、護摩、今日同結願也、餘三七
日三ヶ日也、

廿七日、甲戌天陰、寂勝講第二日也、余着直衣一候、簾中、未刻、僧侶參集、中宮昇給、先是、大進長房奉仕、上御壺禰御裝束、其儀見指圖、

以_二夜御殿西一間_一爲_二上御壺欄_一、依_二其間狹假_一促_一北院于_二今一同押_一北一同_二放舍也_一、_二放舍_一、_二恐誤_一、東西北三方、立_二廻五尺屏風_一、其內、東西行、

敷_二縹綢端_一二枚、其上敷_二東京錦茵_一一枚、南_二西方_一、_{（次）}
ヘテ、立_二三尺几帳一基_一、_{（領）}青_二二重襦物_一、_{（袴）}時繪手、副_二南_一簾立_二四
尺几帳_一、_{（六幅）}面白、大文薄物中重、白生絹、真早衣、薄物以_{（組）}綠青_一、
{（蓋）}風凰竹桐蝶小鳥等、黑紐大文薄物染糊之、以{（組）}胡_一野_一、
_{（蓋）}三野_一、_{（蓋）}小鳥等、出_二彩袖_一二具、紅薄襦、重、白生單衣、紅引

陪支、青朽葉、表着二藍唐衣、白腰裳等也、中宮昇給
卽出之、大將出之、先是、中宮女房持三參之、無三自
外藏人宮司等役之儀、刻限昇給、女房五人着三物具、
祇候如常、余及大將同候之、女房三位殿不着三物
具、只着三裳唐衣許、密々參入御在所御匣殿、三位殿
祇候、自餘女房、宣旨、按察、大貳、兵衛佐等也、候三西中妻戶外二間、常



二四
也。次事始、朝座講師行舞、問者玄俊、夕座講師公雅、問者信弘、堂童子一人不足、六位勸_レ仕之、今日、公卿上首實宗卿、此日、於_二官廳_一、被_レ行_二如說仁王會_一、三

玉葉卷六十 延久二年五月

合御祈也、總講師覺憲、宸勝講以後被_レ行_レ之、檢按櫃中納言泰通卿云々、

廿八日、乙〔天〕陰、宸勝講第三日也、余猶着_二直衣_一候_二簾中_一、今日、公卿左大將已下也、中宮昇給如_レ常、朝座講師顯忠律師、問者_{東大寺}惠敏、夕座講師圓長、問者顯尊、事了、宮歸給、更女房參入、引_二入打出_一、但不_レ撤之、_{昨日又}如_レ此、早旦、長房參院、尋_二僧事有無_一、不可_レ被_レ行之由有_レ仰云々、宗賴、光綱中_二條々事_一、

廿九日、丙_子天陰、已刻參院、以_二泰經卿_一入_二見參_一、只今依_二供花之間_一、不_レ謁、暫可_レ待歟云々、仍_二暫祇候之間_一、泰經卿出來云、定經_二數刻_一歟、加之、今日、未_レ供朝饌、以前、令_レ出_二御供花座_一、縱雖_二其事供饌以前_一、御對面無_レ心歟云々、見_二氣色_一、今日有_レ不可_レ召_二御前_一之天氣_上歟、仍_二逐電退下_一、歸_二參內裏_一、未_レ刻事始、左大將爲_二上首_一、余候_二簾中_一如_レ例、朝座講師成實律師、問者隆圓、夕座辨忠已講、問者賴惠、中宮昇給如_二昨日_一、今不_レ着_二給表打衣_一、張袴等、只御唐衣、生御袴等也、每日不_レ着_二物具_一、是先例也、大將出_二打出_一、昨今又同前、事訖余下_二直廬_一、興福寺別當僧正來_二宿所_一、余謁_レ之、僧正語云、室生舍利事、近日寺僧之沙汰彌以強盛、召_二室生五

七百五

師二人、并神主等、問「此事之由所承也云々、今日、每月七瀬御被云々、棟範來申「役夫工之間事、依「去廿二日洪水、牽「出「御杣御材木七十餘支本カ云々、猶待「河水泛溢、可「出「御材木云々、而無「食物云々、今日、公文從儀師相慶、免「勘事了、

卅日、丑雨降、天下之慶也、此日、寂勝講結願、并賑給定也、上卿左大將、參議光雅、事了、朝座始了、說法之間着陣、夕座始了、即歸「着御前座、余着「束帶、然而、大將之外、參入公卿皆下臈也、依「輕々、不「着座、候「簾中、講師朝座範圍已講、問者兼尊、夕座覺親已講、問者經雅、證誠遲參之間、申刻始、戌刻事了、

中宮昇給如「例、今日着「給物具也、夕座了、余改「着直衣「退出、於「宮殿上、謁「別當僧正、衆徒爵「申室生舍利之間事也、今日、棟範申「役夫工之間事等、

玉葉卷第六十終

玉葉

卷第六十一

自延久二年六月
至同九月

六月〔小〕

一日、〔天〕晴、旬祓如例、〔陰陽頭〕大夫史隆職來、今日可有記錄所評定云々、太神宮御領等事云々、自今日內辨中宮供御贖物如例、今日、山科寺別當僧正覺憲爲院御使、持來院宣、泰經卿御教書也、室生舍利事、寺僧自由狼藉之沙汰可停止之由也、親雅參會、卽戊刻長者宣可給寺家之由仰了、覺憲今朝參院、有召參御前、寺僧申旨具以言上、然而全無思食留之氣色、大略不足言、是又權者之故歟、然而先日余示泰經卿、又覺憲同不聞之由、泰經自家書御教書、申懸院、有三天許、仍賜覺憲、泰經雖須參啓同事也、汝早可參啓殿下一之由令申、仍持參之由、覺憲所申也、余依神事不謁之、以人傳示之、余成給長者宣之上、以詞可仰合寺僧之趣、具以仰聞覺憲付正了、僧正有服膺之氣云々、卽今日下向云々、自今日依御體御卜、神祇官人可參籠、而

依無其人、〔當番爲平朝臣、加灸、膽汁出、仍被免、〕大祐大中臣知雅被責取進奉了云々、
二日、〔天〕晴、已刻許參內、主上聊有御風氣、一昨日、奉見置退出、依不審、今日所參也、全別事不御云々、悅思不少、此日以使者大將迎婦之儀、猶不可然、隨又無其家、力不及之由、示遣能保卿之許了、返報云、去夜自關東此間事、偏可隨殿下御定之由申送候、仍於今者、可奉迎大將一也、進娘之儀不可候云々、〔日來、賴朝卿可進娘、不可奉迎之由依而、近例皆不快、加之、當時本體賴朝卿、仍廣元下向之次、示之、然遺子細於賴朝卿之許、仍聞按子細、誠能保一歟、最神妙也、而其家猶不作、此直廬能保、賴院四町構小、甚狹少、此外無其所、如何々々、余示云、一條家、能保、本住所也、而去年其妻有所忘之由、何事有哉、又陣中家不可有難者、雖狹少、不可煩歟、陣中之條、猶不担任事歟、仍一條家可宜之由仰之、深更退出、今日參內以前、棟範來云、役夫工事等、今日奏院之間、〔傳奏、奏經、〕以外逆鱗、行事辨、并

殿下大以突鼻、自今以後一切不可申上之由、被仰下了云々、余遣宮出力致沙汰、而去年內宮之時、今年外宮之沙汰、兩度勘責之御詞過法、實催退心之因緣也、可悲々々、然而、不能披陳、只沉罪所過也、所詮奉任冥鑒而已、宗賴云、院宣云、今明可被行、除目、早可尋日次之由、秦經申送云々、余云、今日九坎、明日減日、四日可宜之由、且可奏者、

三日、庚辰〔天〕晴、棟範又來、申造宮之間事、

四日、辛巳〔天〕陰、未刻、宗賴來、自院下給折紙、被載

任人、皆以珍事也、不能左右々々々々、日吉神主成仲、任大舍人頭、村上判官代經業、任中務權大輔

等、且以獲麟事也、能州被召了、隆房給之、以長門

爲院分云々、又仲遠給石州、廣房不被任、受領

七條院猶無沙汰、此兩事尤可被行事、歟、勿論勿

論、親雅來申條々事、大將可渡大理許之間事、可

注申日時〔等〕之由仰之、入夜、外記持來除目、

上卿兼光卿、參議光雅卿云々、見了如本封之返給、

今夜、爲十五日方違、女房向九條、余依神事不向

居、同居之故也、大將可渡之間事、依申請、任先例、

遣能保之許了、

五日、壬子〔天〕晴、午刻、宗賴朝臣來云、去夜除目有被

任漏之者、發河守藤原朝賴朝推舉云々、少監物以行、元內

密々可書入召名之由、有院宣奉行者、早可

仰上卿兼光之由仰了、親國來申云、離宮三ヶ院修造

〔之〕事、本功之者、雖申領狀、但爲季獨合期之勤不可

叶、仍宮司任例可立假屋之由、被宣下之處、一

切不可叶之由申云々、齋宮御參宮、已今明也、沙汰

太懈怠、重愼不可事闕之由、早可下知、又內々仰

合官、可言上之由仰了、申刻、多武峰檢校法橋靜胤

參來、依神事立門外云々、依召所參也、仰宗賴

朝臣、下知三ヶ條事、

一衆徒、拂別當成圓、儘可注申其張本事、

一峰大衆、自今以後、可停止自由狼藉事、

一御幕守人數、可限百八十人事、

已上、各在子細等、不注具註、

靜胤在門外、宗賴難問答、仍相具退出、委仰舍、明

日可言上之由、仰了、今朝、信宗僧都參門外、與

大神社司宗賢樂工留、有論申事、信宗依有理事、給

御教書了、

六日、癸未〔天〕晴、大佛上人在桑來、依神事、招入北宅、

問舍利之間事、依密事、使大將問之、申云、空諦狂惑也、舍利可返置之由、令申衆徒事者、是實事也、但論其實、件舍利可返置之方略、更不候、又空諦狂謀之條、更不存事也、然而、先爲休慰衆徒之體、陶、以方便之言、強稱此旨、先日事之子細、具以達、叙聞了、然者、舍利返納、并空諦之科斷、更以不可被行、然者、公家無裁報者、衆徒爭強申哉、當時於春乘之身、已欲宛亂割、加之、造東大寺之間、多以與福寺之力成其功、若與彼寺違背者、大厦不可成、仍一旦爲散大衆之體、言而已、兼又先日所進之經文、疏記等申請、欲經奏聞者、即返給了、切紙四通上在之人云、依法皇勅喚、所參洛也、而御遊無際之間、未能達天聽、事際可召問之由、有御定、所相待也云々、宗賴參上、多武峰之間事、靜胤申旨條々申之、一々仰子細了、光綱申植木庄、并但馬堂之間事、各在子細不隆職申離宮院修造之間事、宮司并本功之者、相共不可闕神事之由、能記錄殊可仰遣之由仰之、有其實屋、本功之者、能可修造、於無實之所者、宮司可造假屋之由也、又殊可仰祭主能隆朝臣近日上洛云々之由同仰之、此事、奉行職事親國懈怠不覺之間、于今無沙汰、期日僅七八日、大途難相

叶事歟、親國即參候、以此旨、加勘發、更無披陳之方、親雅申云、室生舍利事、別當僧正有申旨云々、即刻副進消息、衆徒止自由之沙汰、可待上御成敗之由也、兼又於舍利者、必可被返置之由申之、余返給親雅、相副先日寺家問注室生五師法師記、仰可奏院之由了、今日、記錄所評定也、仍明日可參奏之由、親雅所申也、棟範申役夫工之間事、召具祭主、明後日可參之由仰之、自院米二百石給造宮所云々、尤神妙之由奏聞了、七日、申〔天〕晴、此日、祇園御輿迎也、仍刻限以前精進、入夜服魚類也、申刻、相伴大將參內、大將爲方違、向九條了、余祇候禁中、入夜及子夜退出、儀我庄下司下文、遣法印許了、依彼人被示、所補也、氏院領也、大理執器之儀、可追先規之由、今日申切了、日來之間、轉變數十度、事甚奇異、依或者之教訓、自昨日頗和顏、今日事切了、其間子細不遑記錄、末代之珍事、只在此事、可憐云々、八日、乙陰晴不定、午後雨、小雷鳴如形、猶又有炎旱之愁、仍祈雨之事、可申沙汰之由仰光綱、長房依所勞也、今日、棟範朝臣召具祭主能隆參上、役

夫工之間條々事、召仰之、又親國申云、離宮院假屋事、能隆并本功之輩、各領狀了云々、尤神妙、宗賴朝臣申條々事、朱雀大路墓所耕作事、早奏事由、皆悉可停止之由仰之、又申尊敬法事、今日有記錄所評定云々、隆職、廣房等參上、各有申事等、隆職、離宮院之間事、廣房齋宮寮米之間事也、又宗賴申院號之間事、來廿七日姬宮可有院號、宗賴可奉行之由、先日仰了之故也、本宮事、資實奉行、上沙汰右大臣云々、

十日、亥〔天〕晴、祭主能隆參上、長房參會、齋宮寮事令尋問、此間、南方有火、下人云、院御所云々、仍余周章參上、火即滅了、但萱御所炎上了、於本體御所者免餘焰了云々、人々多參上、右大臣自御所方出來、直衣、烏帽、上袴、足有所勞、然而、寶藏已燒失之間、御本尊寶物等爲令取出、相扶參入云々、暨談雜事、退出了、女院御座此御所歟之由、相存之處、如例飛幸仁和寺了云々、人口不安、蓋如此之故歟、余參入了、即以光綱進今熊野參入之由言上、歸亭之後、光綱歸來傳仰旨、殊有丁寧之仰、如例〔々々〕、十一日、戌〔天〕晴、此日、月次祭、神今食等也、月次祭

上卿權大納言忠良、神今食上卿源中納言通資、辨右中辨棟範、兼行南方云々、少納言平信清、稱遠忌之由、先例依不忌神事、仰可參之由、猶法家申不可然之由云々、仰可勘進本文之由、而不注申、依先例、仰可參入之由、參議各稱障不參、合了之輩、自由對捍云々、午刻、大僧正送書被示云、大佛勸進春乘上人、十日朝逐電了、凡無申限云々、是依空諦佛舍利之事歟、仍仰衆徒、永可停止此沙汰之由、可下知旨仰下了、又以宗賴奏事由、全無驚思食之氣云々、法皇已權者云々、實爲其議歟、可恐々々、光綱申祈雨奉幣之間事、二社十列、明日可被立〔之〕也、是治曆元年例云々、佛事御祈、猶可懸勝賢一人之由、有其沙汰、被仰遣了、水天供十壇可被行、而懸醍醐一寺可被修、可注申阿闍梨之由仰勝賢了、

十二日、己天陰、此日、被發遣祈雨二社奉幣使、藏人爲使、被奉十列也、又上卿權中納言云々、辨棟範內覽日時、內記內覽宣命、免清書內覽了、此日、有仗議、太宰府言上、綱首揚策罪科之間事也、上卿內大臣、公卿十餘人參入云々、余今夕、參內宿候、依明日行幸一所宿

也、今日、謁定長卿、仰聞室生舍利之間事了、可被仰下之趣也、

十三日、庚寅、夜雨降、入夜殊太、民悅何事如之哉、昨日、被奉三社十列、今日雨降、實神騰揚焉者歟、又勝賢承殊仰、即降雨、自本年祈雨被仰勝賢了、法驗猶感思之由仰遣了、此夜、依明日避神輿之路、有行幸大內、蓋近例也、余供奉、車如例先親國覽日時、不測內侍所日時、有召仰、上卿親宗卿、右大將、始可仍仰之、令檢中、仍覽被相待、依遲々不待之、出御後、親國云、依人數多之由承及、不參之由、付又催之使、被申云々、次第太不當、近衛大將供奉行幸者、事不聊爾、必待大將所出御也、近代不然、是非禮也、何況初度供奉、尤可被待也、然而、幼主不可及深夜之故、且出御者也、而初任大將進奉不參之條如何、若猶被相待者、夏夜殆可曙者歟、伴卿自元以來證謂證爲身能、法皇第一之花族、有識之由、深信思食云々、仍公庭拜趨、院中奉公、只可任意之由、殊蒙仰云々、世稱之、任意之恩未聞事也、仍現此不當歟、不能左右云々、身無一能、又不學我朝書記、只如通親之商人賤客之翔、頗相惜云

云、然而、指無朝要人、以白氣爲業云々、奇怪奇怪、此夜、宿內裏、今夜、中宮不行啓、是一條院御時、皇后宮例也、凡院、春宮、后宮、皆避正門、仍無禁忌也、今日、行幸以前、親雅申云、別當僧正申云、大佛上人、經廻淀邊、全不隱遁云々、朝家之慶也、然而、依余申、猶被書下院宣、定長奉仍即可下知之由仰了、其上、又可成副長者宣之由仰之、其案、必可覽之由仰之、今日、行幸以前、勘受宮上棟日時、八月十二日、諸日廿七日云々、但注別紙不載勅文也、此日、又有記錄所評定云々、自今日、公家三合御祈、夏季御修法、山法印被修、即被參御加持也、於大內直廬謁之、今日、座主進辭狀、宗賴申之、仰可奏之由了、

十四日、卯、天陰、猶雨降、早旦、親雅書進長者宣、案少少直付遣了、今日、祇候內裏也、職事殿上人一切不宿候、不可思議事也、雖召遣奉行職事、不在其家云々、疑見物歟、此日、還御閑院第、入夜、若東帶、參御所、先是、召奉行親國、問召仰事、申不存之由、仰云、經兩三日、爲旅所之儀者營固也、雖一夜、今度已渡殿上陣座、仍侍臣不營固、然者、無召仰者、以之可帶弓箭哉、仍必可有之歟、申云、

經房卿申不可有之由云々、猶由可_レ有之仰、
去表又有仍忽令書日時之間頗經程、又依爲三々日
之云々之內、無_二反問_一、是爲_二故實_一之由、陰陽家所_レ申也、戌刻
出御、無反問、仍先無立御候、西向給之儀、其外如例、余候_二御後_一、昇_二出御輿_一之
間、右大將參入、之後、今日初_レ度_レ參也、閑院之儀又如
例、名謁了、入_二御本殿_一、內侍所入御之間、覽御_二朝餉_一
壹、數疊、即昇御、解_二御裝束_一、余同_レ之、參_二宮御方_一、向_二
直廡_一、解脫就_レ寢、行幸以前、興福寺進_二奏狀_一、空誦上
人、取_二室生舍利_一之間事也、即付_二宗賴朝臣_一了、明日
今日吉日、小五月仍不可_レ叶、明後日可_レ奏之由令
申、余仰_二含子細_一了、

十五日、壬辰午上天晴、申刻雨降、小雷、此日、祇園臨時
 祭也、上卿源中納言、依_二御物忌_一、陪膳宗賴朝臣、役供
 光綱等祇候、使侍從能資云々、未刻、余退出、爲_レ發_二遣
 神馬十列_一也、申刻小浴、著_二束帶_一、依_二雨中門儲座_一、陪
 膳光重朝臣、奉行仲盛、使有賴、陰陽師晴光等也、
 十六日、癸巳陰晴不定、時々雨降、覺乘法眼來、語_二舍利
 之間事_一、勝賢僧正來、示_二合室生舍利之間事_一、有_二申旨
 等_一、不_レ盡_二紙上_一、又法印被_レ來、宗賴來云、座主辭狀奏
 聞、仰云、可_レ返給、辭申旨不可_レ收給者、又云、興福

寺衆徒奏狀、室生舍利事、仰_二合人々_一、可_レ令_二計沙汰_一者、
 十七日、甲午天_レ晴_レ陰、細雨降、申刻參院、依_二召參_一御
 前、室生舍利之間事、有_二評定_一、召_二勝賢僧正_一、并內府
 等、先是仰旨不足_レ言々々々、余已下不能_二覆奏_一、退
 下、大旨、此事不可_レ切、是非未_レ斷、而可_レ涉_二旬日_一之
 趣也、其後參內、深更退出、可_レ召_二春乘上人_一、并空誦
 等之由、有_二院宣_一、內府仰_二定長卿_一了、

十八日、乙未雨降、靜賢法印來、

十九日、丙申雨降、女房相共向_二九條_一、依_二例講_一、并明日
 爲_二故內府_一可_レ書_二一日經_一也、舍利講如_レ例、出御以
 前、室生舍利流布上人_{空誦房}來、問_二子細_一、即歸了、

廿日、丁酉雨降、寅刻、沐浴之後、女房等始_二懺法_一、卯刻、
 書_二始寫經_一、余并御堂御前以下、新昵之貴賤男女、并兩
 法印、同門弟少々、相并卅人也、余書_二方便品_一、午刻寫
 功了、未刻供養、導師佛殿上人、聖心、件人、最後出家之戒師也、今
趣也、先々出離吾人之由、遠近見_二告之_一、而今有此夢、最奇、其中著_二
夢之衣、即有_二懺法_一云々、此夢多不_レ語_二上人_一之處、說法之中、以_二
由釋之事之相應、證利有_二憑者_一也、以_二月忌參勤僧三口_一、律師
也、爲_二題名僧_一事了、引_二布施_一、其後有_二月忌舍利講_一、
 備_二四種供具_一、三具人別引_レ之、今日、於_二嵯峨_一橋_レ湯着
 (饌)、又給_レ帷、又寺邊聊有_二小販給事_一、皆爲_二內相府

也、悲歎更摧肝、及晚、大佛上人來、今日、依召參院、空諦相共參御前、召佛舍利卅粒了、金色一粒、又同召了、又女房丹三品一粒、右大臣一粒各取了、法皇深以御信仰、證賢僧正讀經文并未來記、法皇聞之、有信解之御氣色、於今者、常不可參之由、被召仰空諦了云々、相續左大辨定長、爲御使來仰云、召上人等尋子細了、事體敢非詐僞、仍舍利少々召留了、於今者、有御信仰之由、可仰興福寺衆徒者、申云、此事、日來迷是非、今承分明之仰、不及異儀、早可下知此旨、仰、先日於御前有議定、一向難信之由、勝賢僧正所申也、其趣尤可然之由、恩臣同所存申也、然而、於此事者、法皇令入未來記給、今偏御歸敬、定知此事有其實歟、仍此上、再難申返子細、自本於此事之成敗者、只以聖斷之一決、可知知事之眞僞之由、中心思刻了、而有此仰、不能申是非者、卽定長卿以院宣之趣、可仰親雅當時召具綱、可參候也、明旦爲令、與福寺三綱、被三綱仰此旨也、之由、仰定長、々々仰親雅了、親雅又仰三綱了、一言不加私詞耳、仰、此事猶事體太理不盡也、縱雖有御信仰、聊以其證據、可被仰下歟、衆徒定不信伏歟、又天下之諸人、猶抱難

信之思歟、爲之如何、但此事、余始自聞子細、以凡夫之愚智、可是非之由、全不存、只仰冥告、又任勅定之處、忽有此院、宣縱雖狂誕、縱雖眞實、只任我君之勅斷、法皇之御果報、政務行儀作法、一向非普通之式、疑權化之所現歟、於雅正者不知之、於奇特者無此類之故也、入夜參八條院、深更歸大炊亭、自官人告云、自昨日聊有御不例事者、乍驚尋申子細了、非殊御事云々、廿一日、戊戌自夜甚雨、早旦、進消息於宮、奉尋御有樣了、廿二日、己亥天陰、大雨降、酉刻參內、依中宮御不豫不審也、殊事不御、主上又自今朝、御心地不快御云云、然而依御物忌、不參御前、今夜宿候、今日、大將參內、卽向大炊亭、日來在九條亭、廿三日、庚子天陰小雨、時々天晴、此日、止雨奉幣也、上卿民部卿、只二社許也、仍神齋如例、入夜退出、依主上、中宮共無別御事也、廿四日、辛丑雨降、入夜殊甚、民又歎水損、仍余致信、祈申佛天、神祇官人參本官、可祈申之由仰之、又可行御卜之由同仰之、光綱奉行也、明日可行御

ト云々、

廿五日、壬寅陰晴不定、晚頭雨降、入夜、或降或止、此

日、左大將渡別當能保卿、一條室申刻、藤中納言定能

卿來、呼三籙前二謁之、晚頭、民部卿經房卿來、小時向

大理亭了、戌刻、右兵衛督兼光卿來、暫而參三姬宮行

啓了、依明日院號、今夜被渡三六條院云々、其後、定能卿歸了、各爲訪三今

夜事所來也、晚頭遣三消息於彼家、書無、滿紅滿樣二重、如薄樣一重、裏之、如滿物裏之也、同樣細ナ細ク切天、(細ク)帖之結、頭、片起結之、不引、墨也、只書三和歌一首、無三他詞、

和歌云、

ちよふへさちきりをむすふうれしさをこよひのそ
てにかさぬへさかな

召三使於曹司、出三居籙前、自賜三消息、使勾當源國時、

男也、賜之、向三一條亭、依先例、雖地下六位、若三戌刻歸男也、指三三、有制如此、戌刻歸

〔來〕〔獻〕御返事、無三滿紅滿樣也、其體同、

返歌云、〇歌、本國、

内々、遣三使於彼亭、問三事具否、申三自是可告之由、

云々、小時、告三事具之由、仍仰三右大辨親雅朝臣、問三

吉時於陰陽師、主稅助晴光、爲三御身堅、兼召儲、使、問之、申三亥時已至之由、次有身堅

事、次出行、先是、着三裝束、布袴、不着三半臂、是故實也、布袴(之)時、不着三半臂也、表衣、

下裳、如例、龜甲浮文織物指貫、白張單、白張下袴等也、白檜扇、帖紙

付、鏡、無文玉帶、藤袴、野御帶、之、余渡三六角亭之時、所帶之海浦之鯛

也、持三京極、前所兼親朝臣獻、即懸三据於

劔、於三門外一乘車、於車中、前所以政朝臣襄、籙云々、

此夜之儀、殿上人三不三扈從、仍前所上薦勤三此役等

也、經三太炊御門、高倉、一條等大路、到三御所門前、其

後事不三能三記錄、但如三傳聞三者、無三殊違亂云々、

指燭二人、頭中將實明朝臣、左少將公經朝臣、

查收、左馬頭高龍朝臣、

襄籙、三位中將公衡卿、

陪膳、左中將基宗朝臣、

示、前所可三着座三之山事、讀收守監保朝臣、

〔一〕所々有三盤祿云々、

今夜御出事、

檳榔毛車、新調物具、檳榔等、皆悉新調也、

車副二人、(料材)平禮、

黃牛、牛童藥師丸、給三裝束、

仕丁、持三雨皮張筵等、給三裝束、

前所十人、藤平、大納言御時、前所、

四位二人、前所、津守橋以政朝臣、右馬橋守源兼親朝臣、

五位六人、內藏權頭源國行、
散位高階仲資、(御殿別當)、

散位源兼資、

筑前寺藤親房、

中宮少進源兼時、

左馬權助國基、

殿下勾當文草生高階泰敏、

大將殿勾當源國時、(御書使)、

六位二人、

此中、兼資、兼時、依爲物吉人、勤然付脂

燭之役、

已上、各撰清盥也、

隨身六人、番長深狩袴也、騎移馬、(如例、舍人、居側、前

下臈五人、襖袴垂之、已上、皆齋胡錄也、隨身

等、不給裝束也、

雜色十二人、

衛府長二人、余、左府生下毛野忠武、(余方長)

已上兩人、白襖上下、濃引陪支、指帶、平禮、

走長二人、友弘、(餘方長、今夜許御共也、)

列八人、
武久、(渡大將殿方、)

今夜、參入侍男共等、各着布衣云々、

五位四人、民部大夫宗季、大和權守廣永、

有官、
下野權守康家、民部大夫賴重、

宮內丞藤孝行、所司、

彈正少忠紀久佐、

修理少進中原爲言、

左衛門少尉中原信弘、

右衛門少尉平貞時、

藤重經、

左兵衛尉豐原泰基、御衣使、

藤康基、

右馬允源康長、

無官、

藤原親康、忠弘男、中宮

紀久時、久佐男、

中原弘綱、信弘男、

已上十六人、元永例也、各撰其人、

後聞、今日祿、前駈給白張單重云々、蘇芳宜歟、如

何々々、

廿六日、卯天(晴)陰、小雨時々降、此日、法皇宸第三姬

宮親子內親王、有院號事、母法皇愛妃准后之人直院號、

八條院、七條院例也、非母后之人蒙院號、二條院、

九條院是也、雖准后擬母儀、雖非母儀、又后宮

也、非后位、非母儀、蒙院號之例、今度始也、然而、

時儀之所推不及是非者歟、午刻、宗賴申公卿散

狀、資實爲二院御使來云、院號之條、人々所申如此、
注折可計申者、人々多申宣余申云、群議已一同、宣陽
 門不可及異議一歟、然而、被用中門之號、未有三
 先例、安嘉、宜秋等之門如何、又被取御所之號、不可
 有其難歟、但衆之所成、不可變、宣陽、一同之定、
 又難被棄置一歟、左右可在勅定者、宗賴、資實、相
 具參院了、陣頭、議定以前、自院內々被申一點、余着東帶
 參內、于時公卿少々參入、丞相相違未參云々、余
 參宮御方、於閑所解脫休息、申終、左〔右〕大臣已下
 參入云々、即宗賴朝臣出、仗座、仰云、觀子內親王可
 有院號事、何樣可申哉、可被定申者、左大臣
 已下議定了、招宗賴奏之、大略、一同宣陽門也、
 少々雖有相加之人等、余仰云、以觀子內親王、可爲宣
 陽門院之由、可仰下者、先是、宗賴自院歸參仰云、中門之
 仍可、宗賴向陣頭仰之、但不仰判官代、主典代
 事云々、是於院左金吾通親、院近臣、經宮後見、今日并資
 實等、不可仰院司事之由、示宗賴、々々觸余、々
 只可隨本所命之由仰了、其故、此事本家雖不可
 被知之事、近代之事、萬事不可自專之上、於此事
 者、非后位之人、院號之時、於陣仰院司、頗無其

謂之由、古人官人所相傾也、八條院例、於陣仰之時、人難之、
 仍通親等之言、非無其理、加之、是又勅定之由、相存
 之故、不加愚臣之詞而已、其後、公卿等起座、召留
 兼光卿、宣下母儀榮子、品也、可叙從二位之由云
 云、余即參院、候公卿座、今日爲經宮殿上座、未數相次、
 右大將賴實參入、此間、招資實、入見參、歸來、院號
 宣下、尤神妙云々、小時、三丞相參入、左內兩府、常稱其後數
 刻、晚頭、新女院別當左中將通宗朝臣、依召傳之、
 參御前、寢殿南庭東面裏賜院司折紙一授、余頗居向
 座末方、置笏取折紙、見之即返授、仰可仰下之
 由、通宗退下、次右大臣、右大將、左衛門督、右宰相中
 將、已上、公卿院司四人也、此外不補公卿院司起座、降立中
 門外、四位五位院司、建春門女院始也、付右中辨棟範朝臣、別當奏事由、
 御所、如初而步過南面、歸出、仰聞食之由、各拜了、昇堂
 上、即余退出、日來所勞不快、依追從之心切、相扶參
 入、於座更發熱、然而、相構祇候、事了退出了、但今
 夜、女房參中宮、仍余參會、依所勞無術、不退出
 宿候、院司殿上人等、追可注入之、
 廿七日、辰〔天〕晴、但時々雨降、余候直廬、今日、大理
 參內、於直廬謁之、隔簾、依嫁娶之禮、如思遂了之

由、頻有喜悅之色、自本好敬禮、太不當、今又悅豫、如何々々、

廿八日、^乙陰晴不定、兩度大雨、又兩度天快晴、事體頗奇、仍猶明日可有祈雨之由仰了、親雅申寺家申狀等、其中有室生舍利事、先日、以院宣仰三綱、而猶可被書下長者宣、以其狀、可披露直會之由、別當僧正申上也、余仰云、早以此旨、觸定長卿、可被書下院宣也、其上可成副長者宣者、今日、終日平臥宿庭、前後不覺、仍明日可退出之由仰了、一條、今日、女房改裝束、又撤頭私筵已下云々、廿九日、^丙陰晴不定、所勞聊有減、仍着直衣參御前、未刻退出、爲療養所勞也、此夜、六月祓如例、於寢殿南面有此事、陪膳光重朝臣、陰陽師宣平、奉行信光、女房於簾中傳取贖物、居余前如例、撫大麻了之後、進菅貫事了返給、女房候內裏、於西面車寄方有此事、^{陪膳等長}宮御方節折事如例、少進兼時奉行云々、一條六月祓又如恒云々、陪膳以政朝臣、奉行國基云々、今日雖凶會日、大將神事祈早了、加之、式日事、須不撰日之上、於六月祓者、必可修之事也、先年、故泰親朝臣云、夏者火也、秋者金

也、火能尅金、仍夏秋氣節、相改之時、天氣相亂、人氣相反、人成病、世招災、因茲、金火相尅之時、故修解謝之法云々、是故、人之傳無辨知之人之由、所談說也、以之思之、萬人必可修歟、女房方、神事祈未始云々、然而存此理之故、夫婦之間、各別之儀、不可然之上、女者有三從之禮、陰德從陽、更不可停止之由、示大將之許了、何況、夫婦同居、更無各別之儀、彌勿諸事歟、後聞、大理成不審、大將答此旨云々、此日、依醫家吉日、灸治一所、明日以後、久無吉日、病責侵之故也、

七月大

一日、^丁陰晴不定、時々雨降、依旬日、雖修祓、依昨日小灸、不遙拜、爲三ヶ日內之故也、後可補此拜也、親雅朝臣來云、先日、覺憲僧正、以三綱所言上之舍利之間事、經院奏之處、定長卿所書給之御教書如此、^{只有御信仰之上、不可者、余召親雅於前、成三佛妨之由也、}條々可奏聞之趣、具仰聞了、明日、明後日、鳥羽御忌日、并法勝寺御幸之間奏事、不可叶、且可仰聞定長之由仰了、言上之旨、不遑記錄、偏依思佛法王

法之事、不願恐忌憚、所存言上了、定不叶時議、
歟、爲之如何、

二日、戊申時々〔雷〕雨、自去月十三日、至今日、一日不
空、每日降雨、事體尤奇、仍猶可、行御占之由仰
之、入夜行之云々、光綱持來卜形、上卿泰通卿
〔云々〕察申理運之由、官申理運之上、巽乾神祟之
由、仰可奏聞之由、又依雨體、猶可有止雨奉幣
之由仰之、

今日、宗賴來申條々事等、

三日、己酉雨降、此日、御幸法勝寺、余依所勞灸治、不
供奉、法印被來、又靜賢法印來、入夜定長卿來、依
相招也、余召籙前、尋室生舍利之間事、御信仰之
趣、大略無深御意趣、歟、只爲休上人愁〔心〕所被
仰歟云々、可謂不足言々々、此事、邪正難辨之
處、法皇一向御信伏云々、即令入未來記給、已是
唯佛與佛境界、歟之由存之由、今又如無思食旨云
云、然而、一向信受之仰、尤可有御用心事歟、然而、
不能申是非、只以御定可下知也、此外多談難
事、今熊野巫女、并日吉二宮巫女等、稱神託、今月可
有御慎之由云々、又御持佛堂預慶憲法師煩邪氣、

行慶僧正令付惱云々、同稱此趣云々、此間事、余
有申旨哉之由、有院宣云々、余云、此事未承及、
如此之時、尤可有御用意歟之由答了、又云、今日
向左大臣亭、是去院號日、陣座散々狼藉之事等、可
仰官之由、蒙一上命、仍以六位史仰隆職之處、
非官所知、可爲外記沙汰之由令申、爲申上件
事、今日所罷向也、左大臣大體云、京極大殿一上御
時、依此事、大夫史孝信及怠狀、有沙汰、不知先
祖事歟、官爭不知哉、已爲裝束司、鋪設之損破、豈
不致沙汰哉、勿論申狀也、凡隆職於事等閑、專奇
恠也、還着當職之時、不申慶於一上、太奇異事也、
此外於事如此、退可申訴訟云々、大臣之辭、如
此之由、定長所語也、一上事尤可然歟、良久退下
了、

自今夜、女房三位局祈、法印始修樂師小行法、依所
惱不快也、依有夢告、始此祈、尤可憑者也、
四日、戊戌雨降、此日、止雨奉幣也、又廣瀨龍田祭廢務
也、然而、依有例被行奉幣、上卿右兵衛督兼光卿、
辨資實也、入夜爲方違向九條、宗賴來申條々事、
此夜、依神事不宿堂、宿女房三品家、且又爲訪

病也、鐘鳴之後、相俱向堂、

五日、辛亥天晴、昨日止雨奉幣、今日天晴、尤神驗也、可

悅々々、遇彌勒講之後、入夜歸大炊亭、在堂之

間、宗賴朝臣來、仰條々、院宣學問料事、可被行試、

但若道理顯然之輩者、一人なとは可計仰歟、可相

計云々、

當時、所望輩之中、抽而可給之人、殊不見歟、兩闕共

被行試、尤宜歟、兼又、此中、仲章起家、教範卑賤、知

範本給、此等、兼申方略、若得試及第者、此輩之中、

一人ハ可方略歟、可隨御定者、

六日、壬子天晴、未刻、俄雨下、即止、宗賴來云、院宣云、

學問料事、課試不吉例也、仍不可被行、兩闕共相

計、專一人可被仰者、此事、兼光卿自本不受試

云々、一定可申止之由、自稱之由風聞、果以如此、

太以奇怪、仍申云、給料試不吉之由、誰人言上哉、永久

承安可爲不吉歟、勿論候、若被納此監奏者、又

給料專一人事、可被問其人歟、又御定也、恐案難

及候云々、

七日、癸丑天晴、有法勝寺御幸云々、仁和寺宮、以靜

海阿闍梨房領、役夫工之間事、被示送、子細太多、

粗返答了、召經師等、拂書籍蟲、如例、女房伺、

候内裏、然而、節供於此亭、行如在之禮也、陪膳季

長朝臣、余節供、乞巧奠等、如例、

八日、甲寅天晴、申時、俄小雨降、此日、左大將渡新所、

之後行始也、檳榔毛車本所、牛案女院御、直衣、薄色浮文

織指貫文唐、白生單衣、松重織物三重表着、縫重タリ、中

白下袴等也、前驅八人、五位六人、六位二人、隨身上臈冠、二藍上下、

若引陪支、下臈五人、萌木一色也、已上、上臈下、共殿上人、左

少將保家一人、束、衛府長泰兼次、不若引陪支、雜色十

人許也、移馬舍人、蘇芳表、形、居飼、仕丁、牛飼黃香、等、皆

給當色、申刻、先來此亭、着酒饌、陪膳、其後參内、及

晚退出云々、院依御今熊野不參云々、大理、今日

隨身給馬云々、棟範申役夫工之間事、條々巨、光綱、親

國等同申之、光綱申明日行幸公卿一切不候之由可

奏之、由仰之、宗賴來、學問料試、并參河國濟物等

事、委仰之、可奏聞之趣也、兼光卿強抑留試事、

爲不吉例之由奏聞、未得其心、蜂腰同病之相

論、頗不得其理之故歟、可彈指云々、

十日、丙辰天晴、入夜、持病更發、親雅、并職事等、雖

申條々事、不能成敗、依明日奉幣、前齋如恒、

十一日、丁天晴、針博士和氣定親故典藥頭定成季子、來、於前令合合三麝香丸、以今案、加三麝香丸、今一分也、即令進中宮了、今日所勞猶無術、今日、祈年穀奉幣、上廟內大臣、辨機範朝臣、當日有定、執筆光雅、內覽日時宣命草等、如例、宣命清書、免之、

十二日、戊天晴、爲訪余病、大將來、頃之參內了、右大辨親雅卿申三條々事、

十三日、己天晴、此夕、宣陽門院初度御幸、自六條殿、日來與三法皇同居、自渡三正親町亭給也、公卿、右大將已下廿人云々、唐車、出車五兩、毛車、女房二人乘之云々、左大將、

當日申刻始蒙催、然而、依三卒爾不參、此日、法印被來、今夜、女房自內裏退出、密々儀也、能季在共、

十四日、庚天晴、送三盆供於三堂、故殿、先此、女院等也、余依病不能正衣帶、在簾中、如形拜之、公家御盆、猶依日次不宜、無其沙汰、先被問例也、

十五日、辛天晴、早旦、扶病小念誦、今日、右中辨棟範申役夫工之間事、仁和寺宮領事、奏院之處、可勤仕之由有仰、參上可申云々、圓勝寺領、阿波國勝浦庄等也、同領他庄之事、仰三子細了、

十六日、壬天晴、宗賴朝臣申三條々事、其中、隆職、廣房讀申宣旨、奉行事、奏聞之處、無分明勅答云々、

棟範申役夫工、并記錄所評定之間事、光綱申三條々事、親雅又申三氏院條々事、今日、記錄所評定云々、廣房申記錄所沙汰之事等、廣房可宣下之由、此日、大將參院、綱代車、番長依所思、依召參御前云云、先來此享、自是參院、次參內、晚頭歸宅云々、

十七日、癸天晴、已刻、自院二品丹後送札云、落書遣之、此事雖無御信用、自他所聞及者、自成奇歎、又似量心、仍內々所遣之人心、又々奇恠、不能左右者、

披落書之處、光長卿、賴輔法師等、怨一所家領不被付長者事、奉咒咀法皇、是依院宣被抑留之故也、加之、光長集武士欲企謀反、賴輔法師、又以使者、仙洞之不可、朝暮通關東云々、又通親、定長、基親等卿非常者也云々、余付御使、返進落書申云、先日被仰下一之旨、殊畏申、無御信用之由被仰下、實事體不足言、又有謬事等、以可被察他事、今仰雖可然、如此事、猶可被糾定真偽歟、而已無顯露、奏請之人、就何可被尋決、實以難治也、可召進所指申之僧侶武士等、有文、如何、抑懸生承如此之事、實宿逆之盡也、以詞不可

言、以筆不可述、太神宮、八幡、春日大明神、可驚、此真偽給歟、此口余有所推思、果以不可達歟、人心末代行法皆如此、不可驚事歟、即示遺此事於光長卿、圓阿等之許、各有驚歎之神狀、

十八日、甲子天晴、以右馬權頭兼親朝臣爲使、有副消息、重示送子細於女房之許、其狀太委、不能具注、所詮就落書、有數々條顯然之不實、若以之可有御推察事等也、仍其上其子細、又可沙汰之趣等也、今夜不得便、不謁女房云々、此夕、能保卿來、依訪余所勞、隔障子談雜事、聊示此事、太驚奇歟、前周公之邊、卑賤之輩、結構ハ云々、

十九日、丑天晴、早旦、以與向九條、依今朝講演也、午刻許、女房向來、例講論義了、今日、兼親早參院、謁女房、達子細了、女房返事太快歟、且悅思不少、今日、依御推事無口、今夕明旦之間、可申奏此子細、但此事、一切無御信用、於其條者、更不可不審云々、此外有巨細之趣等、入夜右大臣來、終夜言談此事、太以歎息、但事體不足言、內宴加也云々、丙寅天晴、此日、故內府月忌也、例講如常、又故女院御匣殿遠忌也、而依圓阿勸進、余并女房已下勸一

卷經、具小捧物、忌日之次、所供養也、導師三井寺顯圓已講、故宗延法眼眞弟子也、說法甚優美也、入夜歸大炊亭、女房同之、

廿一日、丁卯天晴、自今日始祈等、聖天供三壇、晴還阿

經圓、親又始不動護摩二壇、一壇、此事祈、法印於山無動寺、始之二壇、四季夏秋之分、恒例

經也、成圓閣梨又始愛染王供一壇、宗殿、宗賴朝臣、棟

範、從夫、光綱等、申條々事、此日、服始靈藥、安息、今

日、秋季仁王會定也、上卿隆忠卿、執筆定長卿也、

廿二日、戊辰天晴、未刻小雨、大將送馬一疋牛一頭、今日、大理於彼亭、結構造泉之間、所立之牛馬也、而

大將志與余也、留之了、

廿五日、辛未天晴、此日、大將亭始饗應賓客云々、藤

中納言定能、民部卿經房、別當能保、左大辨〔定長〕三

位中將兼良、殿上人忠季朝臣、宗國朝臣等來云々〔三

獻有朗詠、藤中納言出之、令其後、大將女房行始、來此

亭、半部車、前驅十人、四位二人、五位七人、六位一人、雜色〔兼〕長、兼仁

在共、大理、并保家朝臣等連車云々、大將駕網代

車、兼以來、小時、女房歸、余與贈物、手本付銀枝、宗

國朝臣取之、保家受取之、

廿七日、癸酉大將來、布衣今日、召園基上手二人、催其

興、舞人好方、越前公實(通)等也、好方得、此日、召資實、奏、一定先、續其、算二了、懸物、隔十二本、

賀舍庄被籠、野口牧之間事、

廿八日、戊、天晴、早旦向九條堂、爲受戒也、請源空上人受之、

廿九日、乙、天晴、小雨(降)、今旦、又請印西上人受戒、及晚歸大炊亭、

卅日、丙、雨降、終日不止、日來頗有炎旱之愁、而今日雨、天下民間之悅、何事如之哉、入夜殊甚、若涉旬日、殆愁霖歟、宗賴來申條々事、以圓阿、光長等誓狀爲使、兼親遣丹三品之許、爲奏覽也、而不取佛、返送其趣、非快歟、返札之體又不快、不能左右事也、

八月大

一日、丁、天晴、昨日大雨、若及數日者、天下又可愁、洪水之處、今日雨止、定叶民望歟、此日釋奠也、上卿右衛門督、參議光雅卿云々、大將初度作文事、仰長房令奉行云々、問日次之處、來十二三日吉云々、今日、長房申淨妙寺損色文、仰可勘勘功程之由、又先例、寺家沙汰事、仰可觸長吏入道關白、息禪師、之

由了、旬祝如例、依灸治膿汁出、不遙拜、

二日、戊、天晴、女房三位、參籠日野寺、依所勞也、父入道圓阿、相具參籠云々、

宗賴申條々事、天山切山之問事、院仰未得其心、

申子細了、今日、靜賢法印來、談世間不當違亂事等、歎息奇極也、

三日、己、天晴、棟範來申役夫工之問事、上棟事、強不可闕如歟、遣宮使申上事體、殊不驚申云々、今日、內女房卿局來、太政大臣被來、又覺成僧正來、各謁之、入夜、逢不動護摩時、明曉可結願也、今旦、

召佛殿上人、令見空誦所進佛舍利、申真舍利歟之由、然而依不審、召延令磨之、舍利漸減、爰知

僞物歟、又令見抄出祕經等、大略詐僞物歟云々、

僞作經論、先蹤有之云々、就中、三卷大日經、未聞名字、所載之事等、醍醐寺邊、知法稱雄之人々、所持之抄物也、更無不審、一々事、詐僞事歟云々、實勿論事歟、空誦之罪業、當無間之中劫歟、可悲々々、但猶可尋真僞事歟、

四日、庚、天晴、此日、北野祭也、依灸治膿汁未止、自

河原立幣、

十二日、戊子天晴、欲參院之間、依御方違、已幸鳥羽云々、仍乘燭參內宿候、日來、依所勞灸治、龍居、今日始所出仕也、此夜、七條院、密々入內、即被退出了云々、

十三日、丑天晴、已刻、自內裏參院、以資實入見參、仰云、只今欲幸嵯峨之間、物具等取亂、不能謁云々、即退出之間、資實又進來云、日來久不令申、今日尤可見參之處、不謁、尤遺憾也、兼又先年所下賜之早子、抄早々可令書進、暑熱之比、雖無心、得猶可被相構者、過此間、可進之由申了、即歸宅、

十四日、寅天晴、已刻、宗賴朝臣來申云、八幡別當成清、只今進奏狀、折紙也、是近代作法、云、宮寺四ヶ條訴訟、今日之內無裁斷者、可抑留放生會者、件事等、日來下官抑留之由、殊成難事等也、今寄事於放生會、令議奏、歟、奇怪之至、無物于取、早參嵯峨、可奏聞之由仰了、即馳參了、入夜歸來云、仰云、於會者必可遂、四ヶ條之中、於明舜事者、可裁許、自餘事等、追可有尋沙汰了之由、可仰者、即資實直召取宮寺使、所司仰聞了云々、任御定、可下知之由仰了、資

實密語云、此事等、成清申狀、有理之由、思食歟云々、勿論々々、成清見近日之山氣色、現非常歟、可悲、

十五日、卯此日、放生會也、上卿民部卿經房、辨定經、余獻幣帛、使基清、藏人五位非職也、十列如例、陪膳季長朝臣、

十九日、乙未天晴、早旦、女房相具、向九條堂、女房自今日、始如法讀誦之加行、之故也、今日、例講論義如例、自今日、至來廿九日、所經廻、余自廿一日、可始恒例每年念佛之故也、入夜、女房始加行懺法、行宗阿闍梨、并余、同讀此懺法、余且存念佛之加行由也、今日讀三時也、

廿日、丙申天晴、內府月忌如例、懺法三時如昨、

廿一日、丁酉懺法三時了之後、請法然房源空上人、受戒了、入夜、又讀懺法、即余始念佛、女房始讀誦也、其法如如法經行儀也、又女房一人爲同行、師房、

廿二日、戊戌此日、待賢門院御忌日如例云々、

廿三日、己亥天晴、此日、官考定也、上卿內大臣、大臣上卿希代事也、中納言親宗、隆房、參議定長、公繼等云々、每事嚴重殊

勝云々、裝束用損亡之古物、上卿被咎云々、

廿四日、庚子早旦、中宮女房告送云、宮自去夜聊不例

御坐、即送_二占形、殊不審歟、依_二日次宜、即今日始_二祈等、鬼氣、土公等祭、晴光、自去(○)一咒咀祭、業弘、同、月曜祭、

晴光、限七ケ日、仁王講、僧三口、入_レ夜、左大辨定長來、召_二前廣庇、

奏_二八幡祈之間事、今日、還_二御自_二嵯峨_一也、

廿五日、辛丑中宮、今日猶六借御坐者、今日、修_二焚惑星祭、晴光、

又始_二不空羅索供、覺成僧正、三位殿參宮了、入_レ夜告送云、

今夜、御汗快出、御溫氣散了云々、以今日御増之時、問_二

加持之吉凶、申_二最吉之由、自_二明日_一只誦經、心閑可

奉_二護身_一之由仰_レ之、今日、召_二陰陽師七人_一、行_二招魂御祭_一也、

廿六日、壬寅天晴、中宮御不例、猶六借御坐云々、凡無_二

思量、今日始_二種々御祈_一、

宗嚴律師、燭天、無動寺法印、不動護摩、當時住山、智詮

法橋、同修法、日來護摩、自_二今_一賴興、愛染、王供、月曜祭、業弘、天曹

地府祭、元、明日修_二七座泰山府君御祭_一、

廿七日、卯天晴、此日、有_二靈所御祝_一也、七所、陰陽師七人、

使地下職事簡衆等也、此夜、修_二七座泰山府君御祭_一、

自_二今日_一聊有_二御減、溫氣大略散了云々、今日、智詮出

力奉_二護身_一云々、佛神之加護歟、此夜、女房先以參

內、讀誦之行、今日滿_二七(ケ)日_一之故也、余明日可_レ給也、

廿八日、辰天晴、今日、念佛結願酉刻也、其後、自_二山

法師許、成圓阿闍梨爲_レ使來、可_レ始_二大法_一之間事也、

來月一日、替賢延命法、又藤中納言定能卿來、於_レ堂謁_レ之、但猶有_二未定事等_一、

其後參內、奉_レ見之處、大略如_二平減_一、今夜宿候、

廿九日、巳天晴、自_二今日_一於_二春日御社_一、以_二十口僧_一、轉_二

如說大般若經、限以_二七ケ日_一、去年供養之御經也、又太

神宮獻_二神馬二疋_一、又春日立_二神馬幣帛使_一、基清、藏人五位非職也、

余早日退出立_レ之、手自書_二告文_一、祈_二一ケ條事_一、中宮御消除、必可_レ被_レ待_一、國母之號事、院中落書結構之人、必顯_二其失_一、加無_レ過之身、早得_二其得_一、神若有_二靈者_一、不可_レ棄_二忠士之事等也、

封給使、於_二寶前_一可_レ燒之由仰_レ之、入_レ夜歸_二參內裏_一、

宮不例、大略平減、仍大法可_レ延引、卒爾之間、有_二不法之

疑_レ之故也、此由示_二遣法印許了_一、今日、中宮欲_レ被_二退

出、依_二減氣_一留了、來月、心閑可_レ有_二退出_一也、

卅日、丙午遣_二書札於院女房二品之許_一、返事到來、甚快

然、遂成_二奇人疑_一云々、東報有_二不信_一落書之趣歟、

因_レ此更和顏歟云々、然而、奏事趣、猶以不快、爲_レ之如

何、此日白地退出、聊有_二可_レ見事_一故也、靜賢法印來

談_二世上事_一、如_二余案_一、今日、於_二內裏謁_一大理、有_二示事

等、右大辨親雅來云、切山事、定長奏聞之處、召成清於殿下、可被召問子細者、余申云、不被副御使者、私問答、一切不可叶、兼又先可止當時之狼藉之由、可被仰下旨、可奏聞者、寺家使三綱、且仰此旨了、

九月小

一日、丁未天晴、不出御燈、遣職事仲盛、修由被如例、旬祓遙拜、又如常、

二日、戊申天晴、忠季朝臣來、入夜參內宿候、親雅朝臣申條々事、

三日、己酉雨降、公家御燈御禊也、陪膳宗賴朝臣、余依有勞事不參、事了參上、宗賴朝臣申條々事、

六日、壬子大將、依聊不例、自今夜、以智詮阿闍梨渡物氣、此日、中宮不豫之後、今日始有御湯、未刻、定長卿申送云、傳親雅朝臣只今召具成清法印、可參之

由、有御氣色者、例幣前散齋之間、僧尼參入陣中、非無所憚、私齋雖可同、已自院召給、加之、事急速大事也、仍余俄以退出、相具宗賴朝臣、爲召問成清也、晚頭、定長卿、親雅朝臣、成清法印等參來、先

以宗賴朝臣、申五ヶ條口口訴訟、余一々仰子細、余偏依阿黨、不成敗宮寺之訴之由、成清譏奏、因茲天氣不快、仍以條々子細、先勘問、此事一塵無披陳之方、皆以伏理了、先理不盡之裁許之條、全不好申、尤可被盡次第之沙汰也、但問注可宜者、是遣神人、振梓神、押領相論之兩津之事、宮寺全不_右下知、直人自由之狼藉欺、太以恐申、早可召取彼神人等者、是二已上、天山切山相論事、是柘榴山屋形山事、早可被遣御使、是三、與補葉殘二ヶ條、自元殊非訴申事、只事次所言上也云々、已上條々、日來數十度、雖被仰下、全不承諾、只以讒言爲事、仍余枉可召賜成清之由奏聞、爲證人所申、副定長卿也、件卿面聞此子細、明日具以可奏聞之由所申也、深更、女房同退出、

七日、癸丑天晴、晚頭參院、一府生不祇候、仍以預法師、申女房云々、又自般富門院御方、内々申入了、被仰儘可候之由、前攝政、近衛同時參入、被候御廐廣庇云々、余先依召、參御前一如例、樂忠、付共殿上北面下、巷說嗽々之後、今日始謁龍顏、天氣快然、中心成喜悅、然間、女房二品從二位是也、出來、法皇相代入御

爲謁前周公也、其後、與女房談語、陳善懷了、貴妃有伏理之色、鄙生頓無過之驗歟、亥終參內、上付寢、參中宮御方、小時退出了、

八日、寅送札、謝去夜之畏於女房、有可奏聞之儀、親雅朝臣來云、與福寺兩別當、今日、春日八講結願了、即終夜可參上、爲訴切山狼藉也云々、余以一日昨次第、可仰遣之由下知了、定長卿相副成清文書進院宣、餘仰此即書、具宗賴朝臣奉書、其上親雅朝臣、戊刻長者宣、以參入之三綱、此兩三日、爲寺家使所參候也、仰遣子細了、南大門金剛力士、以佛師康慶、可令造立之由、寺家懸望、先院實云々、奏聞之處、可問院尊、院實父、之由有仰云々、早可問之由仰之、

自此日、於無動寺、余所始不勸護摩、法印修之、九日、卯天晴、陰、入夜甚雨、宗賴爲奏、開條々事、得參院、依明日天王寺御幸、恐々不承、勸答宣退出、了云々、親國來申云、伊勢奉幣上卿左大臣故障、右大臣參天王寺、內大臣穢氣、藤大納言實家領狀、辨棟範朝臣云々、

十日、丙天晴、今日、法皇參詣天王寺、十々日可有經廻云々、是念佛御當番云々、親國可被載辭別、

事等、注申之、又仰子細了、

十一日、丁天晴、此日例幣也、上卿藤大納言實家、辨右中辨棟範、申刻內覽宣命、少內記以業持來、見了返給、辨別、三々條、三合、天無辭別之時、無草奏也、免清書內覽了、小時、藏人次官親國奉行來申云、中臣使、祭主能隆卿參勤之處、依服假、神祇官以大祐永兼載差文、而上臈爲季清定等訴申云、例幣月次祭等使、祭主有故障之時、上臈可勤仕、其例又如此、而乍置在京上臈二人、催下臈無謂云々、但爲季有所勢、不能勤仕、清定尤可下向者、仍問伯仲資王之處、本官在京次、差申了、難被改歟云々、兩人已參入、理須依上臈歟、永兼、內々申入、蒙御定之由、所申也者、仰云、宜、一作依上臈、發遣清定者、其後、永兼來訴、伯又有申旨、然而仰同旨了、十二日、戊天晴、檢非違使章廣、爲大理使來、申尊鏡法師之間事、子細委召仰了、使廳之沙汰、太以不當也、章廣阿容歟、

十三日、己天晴、參內、并八條院、深更歸家、此夜天陰、失清明之名、尤遺憾、

十五日、辛天晴、此日於春日御社、供養自筆般若心

經五卷、一卷金泥、四卷墨字、各經十二卷、此中、過密々事也、

以覺乘法眼爲導師、此事年來每月朔、手自書心經

一卷、歲末以十二卷、複一卷、供養之、而此四五ヶ

年、自然懈怠、而去春、覺乘參籠御社之時、夢想云、

大明神仰云、彼心經、如何云々、覺乘即不語、伴夢、去

比始申也、此時、余始聞驚、懈怠不信之責、已餘身、

仍文治三四五六、并四ヶ年分、書其闕分、所奉供

養也、於金泥一卷、爲謝此恐、所副供養也、兼又

或人夢云、爲余轉讀百萬卷心經、可奉法樂春日

大明神、但早速可果之由也、仍今日、一日之中、勸進

百萬卷、其數已及百六十餘萬卷也、此事、即供養心

經之次、啓白御社了、余自無言轉讀千卷、今日、食事召一度、爲信心發起利生有憑者歟、

諸僧也、入夜、女房相伴、向九條堂、自今夜、始恒例懺法

也、逢初夜時、今夜宿此堂、

十六日、壬戌拂曉睡覺、案出今日可爲神事之由、

處、以渡角家、即催具僕從、歸大炊亭、依明日春

日若宮祭、今日爲奉幣也、午刻發幣帛、陪膳兼親朝

臣、陰陽師內匠頭業弘、先例、此祭幣、只自政所立

之、無御禊之儀、然而爲致仰信、沐浴修禊、取幣

遙拜、但使只小使下家司許也、不相具神馬十列也、

未刻參內、今日、中宮依被浴樂湯也、云々入

夜始之、此間事、依不審、暫可宿候禁裏也、

十七日、亥陰晴不定、此日、春日若宮祭也、神齋如

例、中宮、自應被付幣於社、同神事也、去年又如

此、今日、以書札、送右大臣許、候天依禁省櫻樹

華、可有臨時奉幣之事示之、爲達叡聞也、此

事、延喜、天曆聖代有例、其後殊不聞、天德二年秋、

發梅桃之花、同三年、中宮安子降誕皇子、是也、彼度

被發諸社幣帛、爲追彼例、可有奉幣也、七社、

十八日、壬戌刻、經家卿、候天告送云、今日辰刻、念佛

三昧院、并念佛堂、皆燒失了、仍不及寺中云々、伴

念佛堂、在西門外南腋也、近日、災惡示變、諸社

怪異御占、多申火災之由、今果而有此災、尤可恐

愼歟、忽召宗賴朝臣、明曉爲御使、可參寺門之

由仰之、余雖可馳參、還御明後日也、加之、人々不

可豫參之由、遮有院宣之由、長定所告送也、仍

不參之由奏聞、即內裏御使也、

十九日、乙丑天晴、宮聊溫氣御坐、仍今日止御湯、已四

點、依例講向九條懺法講等了歸參、權右中辨定經

來九條、申役夫工、行幸之間事、入夜雨降、

廿日、丙寅降、及深更、宗賴朝臣歸來、傳法皇御報、

火起自二品局云々、餘燭不及寺中、猶珍重事歟、

明日奉幣事、依先日師尙勘文、有其沙汰、而猶不審

之間、尋見宣命等之處、延喜、天慶等、無宣命、天德

二年九月十三日、有宣命、依天變、石清水已下五社、

可調進神寶之由、有御願、其後無爲、仍爲報賽、

被發遣、更不載狂花事、但延喜十五年、依乘木秋

花、有六社石清水等也奉幣之由、見外記日記、然者、依

彼例、被發遣、更不可有其難之上、奉幣已明日

也、兼不能停止、仍於發見之條者、偏任延喜例、

事無異儀、重加愚案之處、不被申伊勢之條如

何、中古以來、臨時諸社幣、多被申伊勢以下一歟、或

依御占之方角、或謝其社之怪異之類、非此限、只

祈年災、申變異之時、有除伊勢臨時奉幣例、哉

否、重問外記及師尙等了、

廿一日、丁卯天陰、入夜雨降、此日、依三合、天變、及櫻

樹秋華等事、被立石清水已下七社奉幣使、蓋依延

喜十五年九月七日、天德二年九月十三日十七日等例、

所被行也、上卿內大臣、行事權辨定經、奉行職事光

元宗願也、而殿參天王寺、等也、當日有日時勘文使定、

宣命草奏等事、近代例、兼日不行使定、甚無謂、然

而、上卿人別好略儀、爲省出仕之煩、歟、可謂奇

恠云々、申刻、使以下參集、相次上卿內大臣參入、先

內覽日時定文等、依參議不登、行事辨定經書之、定經持來直廬、見了

返給、小時光綱持來宣命草、見了返給、但不載天變

事、仍可加載之由仰之、但更又不可及內覽、直

可清書旨同仰之、余候中宮御方之間、直奏清

書、使等發遣了云々、主上有御湯殿、無御拜、只依

余申給、着御々引直衣、有御祈念事也、今日可

爲御精進、以石清水爲社上首之時例也、而奉行

職事兼申之間、今日服魚味給云々、然而、兼不知

食、不可及不信懈怠之恐、御湯殿了之後、更可爲

御精進、且又此旨、可有御祈念之由申了、先是、光

綱來申云、今日、使季經、基親等、卿申未着陣、仰

合上卿之處、私難進止、可依御定之由申之云

云、余云、散三位着陣、更無別事、不及吉書申文、然

而、今日依仰、早着陣シテ、可被賜宣命、如神祇官

奉幣懸膝、給宣命之儀、未曾有事歟、可被計定

之由答了、各着陣、給宣命了云々、抑、今日奉幣之間

事、去夜各尋問、今日、師尙勘申云、延喜廿年祈雨、并保安三年依御樂平愈之事、被立五社奉幣等、皆石清水已下、不被申伊勢也、此外無所見、師直又多勘申其例、仍今日、石清水已下被發遣七社之奉幣使也、且是延喜十五年依此花事、被立石清水已下之故也、師直重注申先祖十市有象勘草、天曆狂花之喜例、件勘文、延喜十五年奉幣、勘申延喜花之由、有所見、仍令進款、仍今日奉幣不延引、如本議所被進發也、今晚、宮母儀有取吉夢、宮御惱平滅之趣也、泰覺法橋又同來申取吉夢、先日、一昨日也、余及宮所御覽之凶夢、早見直了、爲悅不少者也、

廿二日、戊辰雨降、午後天晴、上皇昨日御歸洛、仍已刻參院、以棟範朝臣、入見參、依供花之間取亂事、不謁之由被仰出、余申天王寺念佛堂事等、有服膺之天氣云々、少小時、向九條堂、依懺法結願也、公卿季經卿一人也、事歸參內裏、宮御不例有增氣、歎思不少、昨日始祈等了、又猶祈等致其沙汰、明日行啓事、先日仰宗賴了、自明日、即可渡物氣也、此夜女房參內、日來在堂也、此日有軒廊御卜、上卿藤大納言、□□□大將參入、

廿三日、已天晴、此日、中宮依不例、退出里亭、重日雖可憐、事火急之故也、加之、故殿強不忌重日、給今日御心地聊宜、仍行啓之間無爲、悅思不少、今日駕給系毛御車、給也、事卒爾之間、出車三兩、毛車也、四人乘之、大夫已下、公卿六七十人許供奉、亥刻出內裏、即渡御大炊亭、即此夜始修不動法、智證權法橋、又渡邪氣也、病體邪氣無其疑之故也、物惟渡云、今夜又以行曉法印、三井寺知法人也、始修北斗法、命之祈、不如此等、又以晴光修如法泰山府君祭、又奉神馬幣帛於春日、余行啓以云者、使者賴有、即歸參也、又於八幡始行仁王八講也、告文自作之、廿四日、庚午此日、於日吉、始修大般若御讀經、今日御有樣、只同前也、

廿五日、辛未祭主能隆、今日下向、賜宮御衣、御表者小掛等也、能可祈念申之由仰也、

廿六日、壬申始熒惑星供、珍賀修之、於住吉社、始大般若轉讀、是舊願也、

廿七日、癸酉天晴、此日、中宮御祈、始修普賢延命大法、大阿闍梨法印大和尚位慈圓、護摩壇阿闍梨晴通也、御懺祈、須修七佛藥師法也、且是皇嘉門院后位之時重懺給、行立座主、于時法印大僧都也、修三件法、有功效驗、旁可修

彼法之處、余年來、中宮御祈、可修普賢延命之由、中心祈願、而問、去比或僧法印房人也、夢想、法印、中宮御祈念、修此大法、壇中有大瓶、納不老不死藥之由見之、仍彌起信力、可忍行_二之由、致其沙汰之間、有此御惱事、已火急、若有不慮外之恐、必有、不修此法之後悔、歟、加之、病祈者、即爲保命也、夢想之告、定有深心、歟、令修延命之秘法、殆可謂相應、仍殊所始行也、以寢殿南面爲堂場、畫御座、暨渡北面、御帳暫撤之、於寢殿被行、如此事之時定例也、以西子午廊、爲法印宿所、其外點近邊人家等、爲伴僧等宿所、修法難事、僧房裝束事等、皆悉沙汰具了、每物盡美、事爲大事之上、此法久絕、爲法爲病、無事可致丁寧之故也、本尊曼陀羅、秘本并四天王等像、新圖也、佛師法橋即今夜供養之、然而、殊無賜布施之儀、又佛布施猶無之、皆是先例故實云云、子刻許始行、初夜時、中宮於中妻戶簾中也、令逢時給、母餅二品、并余等候御傍、奉扶持、余信心猛起、測知必有靈効者歟、先是、請澄憲法印、奉供養畫像樂師佛、在十二并樂師經十二卷、其後修大法也、凡堂莊嚴之弊、實嚴重殊勝也、雖末

世、爭無効驗乎、伴僧廿口、小壇七、總摩壇、聖天、十二天、四天王、各一壇也、此日又始修祈等、春日御社唯識十講、賀茂社三夜奉幣、羅睺星供、經圖廣隆寺樂師經御讀經泰山府君祭七座、

宜應朝臣、宇能朝臣、宣平朝臣、廣元朝臣、安元朝臣、晴光朝臣、樂弘朝臣、焰魔天供三壇、宗嚴律師、觀、屬星祭、晴光〇一

又此外、於春日社賣前、大明神本地一鋪、五體、不空羅漢、十一面、二體、同經六卷等、以大僧正奉供養之、此日、奉加少灸、余奉指檢、醫師等不能參入、又簾下不能出御之故也、大椎、身柱、巨穴、三ヶ所也、

廿八日、戊、甲早旦、圓阿注送云、去夜夢想云、此大法必可有法驗、大阿闍梨法印壇上、畫圖佛像云々、此事不可說也、此法祕事、壇上畫作本尊云々、仰而可

信者歟、今日、大土公祭樂弘、泰山府君祭宣平、春日御神樂、續大德宗方吉田社百座仁王講、大原野社大般若御讀經、御惱同前、地體溫氣不醒之上、午後殊有更發之氣歟、

廿九日、乙今日、於梅宮、轉讀百部仁王講、於法成寺、修寂勝講、金堂又於同五大堂、有念誦事、僧三於總社修仁王講、泰覺有夢想事云々、御惱必可

平減一歟、件夢去廿一二日之間事云々、此日、請法然
房上人源空、中宮有御受戒事、先例如此上人、強不
參貴所之由、有願輩云々、是不知案內也、受
戒者、是事不聊爾、以傳受人可爲師、而近代、名
僧等、一切不知戒律事、禪仁、忠尋等之時までは、名
僧等、皆好授戒、自其以後都無此事、近代上人皆
學此道、又有効驗、仍不願傍難、所請用也、司天
等云、災惑已入軒轅中、猶女主星云々、彌驚恐不
少、昨今、地體御溫氣聊薄、令成給也、是灸驗歟、

玉葉卷第六十一終

玉葉

卷第六十二

自建久二年十月
至同四年十二月

建久二年冬

十月(大)

一日、丙晴、入夜雨降、中宮御方御更衣御裝束如例、
但書御座爲大法壇所、只北面敷改御座少々也、殿
上臺盤所如例、此夜以晴退阿闍梨、令修冥道供、
在茂朝臣草進祭文、依雨於侍廊行之、又修火星
供七壇、宸寬、法眼、練性、蒙源、於祇園始大般若讀經、
此日平座也、

二日、丁今日始修祈等、羅睺星祭、三ヶ夜、宣平朝臣、
使權、少辨業家、天曹地府祭、樂弘、又始星供等、日曜、金
曜、計都、樂師護摩、尊忠法、愛染王護摩、和真阿、
四日、己賀茂御神樂、少進兼時參行之、以覺成僧正、
始修不空羅索供、又修如法鬼氣祭、宣平、
五日、戊今日、始修法二壇、佛眼法宗嚴律師、本尊新圖、
六字法晴退阿闍梨、貴布禰社供養御正體并法華經
一部、

六日、辛已於多武峯供三經、法花經、唯摩經、今日又有
受戒事、法然房、

七日、壬自今日、奈良大僧正、引率門第六口來、住
近邊宿所、以件六口僧徒、始不空羅索讀經、僧正又每
日來、被講讀心經廣釋、此夜、以大僧正爲導師、
奉供養白檀一尺六寸不空羅索像一體、此五六ヶ日之
所新造也、同經六卷、同金泥自筆經一弓、宮御衣一具、其經
取之、銀造劍一腰、權大夫取之、此後始御讀經也、貞慶爲發
願導師、今夜始水曜供、

九日、甲此日、始法華經御讀經、
十一日、丙臨時春日奉幣使基清、有香獻薛繪細劔一
腰也、今日俄思立、供養金泥心經一卷、自筆書之、并
墨字金剛般若十卷、元所調、(以)貞慶已講爲講師、
余粗示聞子細、貞慶演說旨趣、大僧正、余相共拭
感淚、實雖神明三寶、爭不伏此理、給上哉、殆可謂
神歟、可尊々々、此感應必不可空者也、

十二日、丁此日獻神馬一疋、

十三日、戊夢祭晴光、三

十四日、丑晴、此日、千度祓也、陰陽頭宣憲朝臣已下陰陽師十人、於西面堂、有此事、簀子敷紫端坐、爲陰陽師座、各前立八足、殿上人亮宗賴朝臣以下七八人、爲陪膳、一度二人相替勤役也、役家司職事簡衆等也、二時許結願了、各給（○給下恐有脫字）一疋也、

十五日、寅晴、此日、於大原野、一日讀大般若經、導師信憲已講、天曹地府祭、權通刻博士菅野季長、此日、不空羅索御讀

經結願也、又仰智詮、終日加持、然之間、今日不發給、余深奉信仰、春日大明神、及南圓堂不空羅索觀音、去十一日夜、法夜也、或人見不可說夢、先日大僧正

供養之尊像、放光照中宮御身、守護給之由所見也、而今當結願、有此平驗、大明神之加護、觀音利生、雖經廣劫多生、不可謝盡者歟、又今日、法印入病者臥內、護身之間、老嫗一人、竊出御寢所、逐電了之由見之、果以御驗、實不可思議也、南北二京、佛法之棟梁、共以施其驗德、可憐々々、可尊々々、智詮又今日摧肝膽、遂以不更發、總而謂顯密行之三ヶ事、皆顯其驗、實雖末世、信力之前、効驗更不可空者

也、余不堪情感乎、自取御衣、表着被大僧正、又牽出牛一頭、讀經僧達、元本施小袖等之外、今日之纏頭、各給生御衣一領了、又智詮給生御衣二領、物付、同一領給之、

十六日、卯今晚、於此亭南庭、以晴光修如法泰山府君祭、余着衣冠、出祭庭拜之、今日、自宮被發遣諸社奉幣、

十一月（小）

一日、丙時、宮御方供忌火御飯、自晝御座方供之、如旬御膳、早旦供也、中古以來、今月入月之後、爲神事、依五節也、然而、散齋非重、加之、日來御邪氣除殘、非無不審、仍且勘先例、今月猶暫可渡御物氣、隨又御修法壇等、不出宮外、但當諸社祭日、猶止御加持等、修法之時、微音竊行之、余同祇候宮中、散齋之間、強不可憚之故也、但今日依爲旬日、爲致遙拜、自立后之時、每月有此事、自夜半、出居北隣宅、辰刻、解除遙拜、去月、御病危急之間、所皆爲僧房壇所、仍補其兩度拜之、之後、歸參、又今晚、御加持等止之、依忌火御飯以前也、晝并初夜等時、奉仕之、實明朝臣來、申臨時祭定之間事、

來九日可親國申_二尊勝寺灌頂事_一、先仰_レ可_レ催_二實慶_一之由、并皆有_レ際云々、可_レ催_二少納言_一之由仰_レ之、長房申_二八十島雜事_一、攝州庄々、以_二官使_一可_レ謹資_二之由_一、國司申_二請之_一、奏聞之處、有_二勅許_一云々、可_レ然之人々、先可_レ相觸_二之由仰_レ之、大將參_レ院云々、以_二定長卿_一入_二見參_一云々、大將語云、大理以_二其息馬頭高能朝臣_一、_{四位}可_レ任_二中將_一之由奏聞、院宣云、然者以_二他人_一可_レ任_二馬頭_一云々、仍思_二留中將_一之由、能保卿所_レ談也云云、深夜向_二北隣_一、依_二明日春日奉幣_一也、春日神主、故際之時、或神祇官_{中臣}申_レ祝、或權神主申_レ之、其例共存、尋檢之處、權神主不_レ在_レ任之時、神祇官下向云々、當時、權神主無_レ際、仍勿論云々、

二日、丁_未〔天〕晴、此日、春日十列如例、於_二北隣_一立_レ之、陪膳式部大輔光輔朝臣、使職事散位業清藤氏、奉行同清忠、陰陽師主稅助清光等也、其儀如例、未刻、余先發遣、其後、女房_{今旦又來}幣又發遣、役人同_前、依_レ無_二幣取_一、六位行事清忠取_レ之、其後歸_二參宮御所_一、女房同_レ之、入_レ夜、宮御方幣、自_二河原_一發遣、行事大進長房、使權大進宗方也、依_二御不例之餘氣_一、御禊儀不_レ可_レ叶之上、御修法在_二宮中_一、仍旁自_二河原_一所_レ發遣也、宗賴

參上、申_二除目之間事_一、明日可_レ奏聞_二之由仰_レ之、此次余仰_レ可_レ勘_二先例_一、寬治復辟以後、年內被_レ行_二京官除目_一、_{准攝政宣下之後}、嘉應秋除目以後、有_二復辟_一、今度尤可_レ追_二寬治例_一、歟、此旨可_レ奏聞_二之由仰_レ了、但此事非_二強望_一、若除書忿思食者、只可_レ被_レ行事也、天永、大治、久安、皆御元服次年御前儀也、仍勿論、寬治、嘉應似_二今度儀_一〔也〕、親雅申云、春日祭開_二神殿之役_一、權預、次預、以_レ何可_レ役哉事、問_二神主正預等_一之處、申狀不_二一同_一、_{參院}猶難_二一決_一、仍俄占_レ之、親雅不_二參上_一、仍仰_二長房_一占_レ之、_{忽他人不能召出}、一、_{座次上席}、二、_{座次下席}、以_レ何可_レ開_二神殿寶藏_一、哉之由問_レ之、一、_叶神慮_一之由、分明占申、仍其定仰下了、

長房、又申_二八十嶋之間事_一、以_二職事清忠_一、遣_二舞人_一、半臂、下重、於近衛使之許、辨右少辨資實、明曉下向云云、今夕來、召_レ前仰_二權官_一、可_レ從_二祭事之間事_一仰_レ之、三日、_戊天晴、此日、春日祭也、神齋如例、昨今停_二止_一、御加持所之時、微音行之、今日、平野御禊云々、及_レ晚長房〔來〕、申_二八十島雜事_一及_二闕如_一之由、今日雖_レ參_レ院、不_レ能_二奏聞_一、御所中間之故也、入_レ夜宗賴朝臣來、同每事不_レ能_二奏達_一、明日又可_レ參云々、

四日、己〔天〕晴、未刻、宗賴來云、今日參院、除目事延引可、宜、先例之條、所申可、然、若如、成功、必有、可任之者、臨時可、被、行、小除書、歟、其條者、下官可、相計云々、申刻、長房申、八十島之間事、庄々猶對捍云々、同刻向、北陽、立、梅宮奉幣十列等、陪膳光輔朝臣、陰陽師主計頭資元、使闕如、仍奉行職事、泰家勤之、但不、向、社頭、先例云々、入、夜參內、相、具小樂器、大鼓、鉦鼓、參入、頻有、許容、其後向、直廬、有、五節臨時祭等定、頭中將實明朝臣書之、定同、左大將、盛、加兩例文等於柳宮、持來、撤、祝盛、例文許、覽之、余留、文返、給柳宮、實明取之、復座、但不、數座、是例也、余披、見例文了、實明先書五節定文、余與、次書、臨時祭定文二通、與、皆書了、自、懷中、取出、今所、書之定文、入、國中、又盛、柳宮、持來、今度〔乍〕柳宮、留之、實明退候、本座、余各見了、加、卷例文等、如、本盛、柳宮、返給、實明進來、挿、笏取、宮、加、盛祝等、取之退下、今朝、宗賴朝臣、便可有、行幸舞人定之由申之、余許之、仍宗賴儲候、而余案之、行幸日時、先日所、勘者、去廿八日也、其日已過、未、改、勘延引日時、仍不、勘、日時、以前、定、舞人、於理有、妨、是以、不定、仰此由於宗賴了、即歸、參御

前、樂器許容、無、他事、少小時退出了、五日、庚〔天〕今日、欲、被、行、京官除目、而余可、被、追、寬治例之由、依、令、奏聞、來十二月可、被、行之由、被、仰下了、今日成功之輩許、少少々可、被、任之由、有、院宣云々、戌刻、自、院賜、御書、御使、北面、下、云、兵衛佐教成、丹二位子、可、任、少將、其所武衛可、任、範能子有能、丹二位、前攝政息家實可、叙、正四位下、陪、實保、基範、高能之間、可、任、中將、可、計申云々、少將、武衛越階等事承候了、中將事只在、勅定、一度三人過分歟之由、令、申了、院御書云、高能四位之後、中將難事歟、頻、惡望、如何云々、余申云、實雖、爲、邂逅事、能保當時頗爲、珍物、歟、人還不可、爲、例歟、好、花族之輩、爲、學、執政子息、不可、似、求此例、歟之由、令、申了、基範、中將殊不可、然歟、重仰云、高能可、任者、只可、被、任、一人、歟、又右大臣申、加階云々、宗賴持、其大、傳奏定最云、順逆、殿下御返事到來之後、今度御、給つ、成功も何も、不可、任之由、仰云々、此事未、得其心、余申云、高能事、只依、被、仰合、申、一端之子細了、凡ハ中將數人、強無、其人者、不可、被、登用、歟、右大臣加級事、左大臣官位、其上薦超越之條、未、曾聞、歟、太政大臣又不、居、左右大臣之下者也、若被、許、右大臣

加級者、太相、左相同可、被叙歟、事爲大事、世又可傾、仍乍恐言上子細者、深夜又御書到來獨宗賴朝臣持來也云、中將早可任高能、能保懸望之故也云々、右大臣加級事、被仰辭事也、舉申其子家經也云々、勿論勿論、雜任等、宗賴注折紙持來、於院申定了云々、余又注賜載御書之輩了、但高能、本左馬頭也、兼帶無例、若收公歟、將又可申任他人歟、此條仰不分明、仍重以書札以侍員時爲使、尋此等子細、待此勅報、可始除目、且參陣、可催具上卿已下之由、仰宗賴了、曉鐘之後、貞時歸來、御返事遲々云々、仰云、然者今度總不可任中將、追可有沙汰云々、又能保內々示送云、雖任中將、可避馬頭歟、一切非所望、縱追可補馬頭之由、雖被仰下、同時不被任者、猶可有不容、仍今夜、中將事、不可有其沙汰歟之由、所相觸也、御定又符合、仍此旨、馳仰遣宗賴之許候了、先是、行除目了、上卿退出之間、使者到來、更削除高能了云々、待勅定可行之由仰之、而且行除目、尤不當之由仰遣之處、只兼宗之一事、可待御定之由、恐存知了、尤不覺、但高能拜任事、上卿參議外記之外、未及聞書、他人不

知、仍無其苦云々、次第重々狂亂歟、不能左右、叙位除目、每度摧心肝、實生涯無其要事也、雖自今以後、以不過之事、果懸其殃歟、可恐可慎、今度、中將事覆奏、頗所自讚也、只任御定、拜任於馬頭事者、追可有沙汰事也、而察微慮計、時儀再三覆奏、已叶天氣人望等了、如此之用心、爭無越度哉、無權之執政、孤隨之攝錄、薄氷欲破、虎尾可踏、半死々々、又聞、通親卿如例、致種種謔奏、是八十島祭、典侍共料、藏人所衆、被付使之間、其中一人在通親之許、因之、罵置放言、奉行職之事、長房譏奏之詞、視者聞人皆驚耳目云々、然而、法皇無勅答云々、一之冥加也、抑長恨歌繪相具天、有一紙之反古、披見之處、通憲法師自筆也、文章可褒、義理悉顯、感歎之餘、寫留之、其狀云、

唐玄宗皇帝者、近世之賢主也、然而、慎其始、弃其終、雖有泰岳之封禪、不免蜀都之覆座、今引數家之唐書、及唐曆、唐紀、楊妃內傳、勘其行事、彰於畫圖、伏望、後代聖帝明王、披此圖、慎政教之得失、又有厭離穢土之志、必見此繪、福貴不常、榮樂如

夢、以之可知歟、以此圖、永施入寶蓮華院了、
于時平治元年十一月十五日、彌陀利生之日也、

沙彌在列

此圖爲悟君心、豫察信賴之亂、所畫彰也、當時
之規模、後代之美談者也、末代之才士、誰比信西
哉、可褒可感而已、

六日、亥、辛〔天〕晴、宗賴來、申公家御祈之間事、所存仰
聞了、長房參院、陳申通親之訴訟云々、大略件訴狀
似無許容歟、定經來申役夫工、并行幸事等、

七日、壬〔天〕晴、親雅申云、別當僧正覺憲申云、天山切

山境論事問注之條、日來不承諾、而以重仰、催集
會、仰含之處、早隨御定可遂之由言上了、但宮寺不

進陳狀、太自由、早可被召下之由言上云々、爲

奏此事、召遣定長卿了、入夜請文云、參籠今熊
野御共者、仍召宗賴、仰子細、付定長可奏聞

之由仰了、件卿素所申汰沙也、又明後日可追物驗
者賞法眼、同可奏聞之由仰了、

八日、癸〔天〕晴、申刻、宗賴自今熊野歸來云、天山切

山等事、太誼諱也、而寺僧等承申問注之條、尤神妙
聞食、於今者、早仰子細於宮寺、早速可被遂問

注也、不進陳狀之條、太不當、早可被資召、但於
今者、又陳狀之條、強不及寺家訴、只以遂問注、可
爲詮之、事歟者、中宮御驗者賞事尤可然、但今整
猶不可被遂物氣歟、又件智詮、朝夕祇候者云々、
強不可貪一旦之賞歟云々、余重奏云、賞事只守
先例、所言上也、強不能進申、如此之事、自上且
感佛法之威驗、且爲施本宮之面目、進而所被仰
下者、於懇望者、太非本意、左右只可在御定
者、仰云、爲本宮之望者、早可仰下法眼者、傳奏
云、智詮頗不受者也、仍一旦被濫仰歟、然而優本
宮有此賞云々、尤可畏悅者也、

九日、甲〔天〕晴、此日、八十島祭發遣日也、御乳母大

納言三位能保姫、未嫁之人也、下向、申請院廂御車云々、勅使藏

人仲章、奉禮陰陽助濟憲朝臣、今日當遣思、然而依非祭

供奉路頭、先以下向云々、今一人助學弘朝臣可日、自院有遣賞、雖然、不

下向、而依候、今熊野御共、被資遣思之人、自中宮被副

使、蓋先例也、少屬左少辨三善仲親爲使、所被副

御衣也、禁中宮中、下官皆爲神齋、而余忘却、有淨事、忽行水解除、又中宮御方、同諸人忘却、今晚追

邪氣、仍同以御衣解除之、寅刻、驗者智詮法橋參

上、追物之儀如例、今度他王爲主領云々、仍於追物之所、忽浴水云々、天曙之程、

事了賜祿、自_二廉中_一、竊取四、而妻戶、押_二出之_一、權亮忠季朝臣取

之被_二智詮_一、紅紫衣五、智詮肩_レ祿退下之間、藏人頭中

宮亮宗賴朝臣仰云、依_二中宮御惱平愈之驗德_一、可_レ上_二

賜法眼和尚位、而爲_二神嘗祭散齋_一、仍過_二神事_一、可_レ被_二

宣下、且內々所_レ被_二告仰_一也者、以_二兼時_一、_二余命_一、內々所_レ告仰_一也、又

於_二中門外_一、余賜_二牛一頭_一、左府生忠武、着_二布衣_一、物付賜

祿、薄色生衣二領、少進兼時取_レ之、其外賜_二長絹三疋、綿三十兩_一、以_レ侍

賜_二宿所_一、此外烝飯二具、又湯帷、他雜事等有_レ之云々、

智詮下_二宿所_一之後、以_二兼時_一、重盛、修_二修驗子細_一、即

賜_二鈍色裝束一具_一、智詮涕泣之外無_レ他云々、定佛法之

德、可_レ感可_レ貴者也、今日賞_レ之_二事_一、以_二宗賴_一奏_二畏悅

申之由於法皇、依_レ御_二坐八十島棧敷_一、及_レ晚參_二今熊

野、依_二御入堂之間_一、申_二置資實_一退出了云々、後聞、今

日八十島、公卿八人扈從、殿上人十七人、其外藏人五

位等、又十餘人云々、隨兵相模守源惟義、世號_二大內_一、是源氏

之末流也云々、

十日、乙〔天〕晴、天文博士廣基、持_二來密奏_一、去四日發

惑犯_二太微_一、上將星之變也、右大辨親雅來申_二條々事_一、

其中、春日正預遠忠沙汰之分御供、依_二其身重喪_一、以_二

代官_一可_レ勤仕_二歟_一、可_レ被_二付_二神主_一歟、尋_二先例_一之處、

有政故障之時、泰隆備進了、以_二代官_一勤仕之例、無_レ所

見之由、社家言上、仍先日付_二遠忠可_レ勤仕_一之由仰下

了、而勘_二故殿御記_一之處、保安二年閏五月廿九日御記

云、左少辨實光來云、春日預實俊訴申云、神主伊房輕

服之間、執_二行彼役_一之所、知_レ欲_二備_一進御供、先例、神

主未_レ補之間、執_二行此役_一云々、爰召_二問神主伊房_一之

處、勘_二申先例_一云、神主有_レ障之時、以_二代官_一令_レ備_二進

御供、預專無_レ執_二行之_一、近則、伊房妹死去之時、以_二代

官_一令_レ勤_二仕御供養_一者、以_二伊房申旨_一、召_二問他司等_一

之處、申云、所_レ訴申不當也、近則、實俊御供、當番故

障出來之時、以_二代官_一令_レ勤_二仕此_一、蓋神主無_レ勤_二其

代、以_レ之推_レ之、神主有_レ憚之時、何以預令_レ勤_二其代_一

哉者、實俊訴申旨、不當之由、仰下了云々者、有政故障

之時、泰隆奉行、專非例歟、是前攝政之時事云々、先

日尋_二本社_一之處、不_レ注_二申保安例_一、尤不足_レ言也、仍

改_二先日下知_一、以_二遠忠代官_一、以_二備預_一、_二爲_二代官_一云々、可_レ令_レ備_二進

御供之由、可_レ仰下_二旨_一、仰_二親雅_一畢、入_二夜參內_一、於_二

御前_一見_二畫圖_一、自_二院被_一、其後參_二八條院_一、子刻歸宅、

十一日、丙〔天〕晴、宗賴朝臣、申_二伊勢造營御材木之

事_一、第三役師流死了、件役可_レ被_二用哉否事_一、人々申狀、

左大臣、右大臣申云、可被行御卜、隨彼狀可被用捨、內大臣申云、不可被用、只可被卜、何崇哉之由云々、仰可奏聞之由了、造宮使申云、來十九日、可付御殿榜、而此事遲怠者、彼日以前不可出材木、仍今明可有急沙汰云々、仍明日可行御卜之由仰之、實明朝臣來申、五節之間殿上人出衣可用唐物哉否事、可隨新制、又可奏之由仰之、

十二日、丁巳〔天〕晴、法皇、今旦自今熊野令出給云云、親雅申金堂佛之間事、定經申役夫工、并行幸之間事等、又條々仰含了、

十三日、戊申晴、今夜、丹後淨土寺家渡云々、法皇相具渡給、自今夜三ヶ日、可逗留給云々、是被准移徙、三ヶ夜夫婦不離之義歟、今日、改勘松尾北野行幸日時、

上卿右大將、行事〔辨〕權右中辨定經、持日時并行幸奉幣定文、今夜、同定奉幣、使光雅可執筆、見了返給、又被行軒廊御占、上卿同人也、神宮上卿藤大納言、所勞不參〔之〕替也、件御卜、去比自御杣出篋四鼻、其中、第三篋之師、入河水溺死、其篋雖不穢、篋在上、人流下、仍篋不穢也、所乘之人已沒亡、以彼篋材木、被用正殿之條、依

有事實疑、被勘先例、寬治以後、度々有如此事、且依先例、被用捨之處、不可被用之由、官察占申之、又被卜其祟之處、公家御傾、又所傾之由占申之、深更自宗賴之許、內々所進也、早奈事之由、任御卜趣、不可用第三篋材木之由、可宣下之旨仰了、此夜大理歸京云々、五ヶ日之間、無爲無事云云、是已爲世爲君爲吉瑞云々、今日、奈良禪師、慈恩會堅義所作日也、

十四日、未巳雨下、早旦、以人日來風雨之難、今日降雨、珍重之由、賀送能保卿許、畏悅之由有報狀、又送住吉和歌、一見了返送了、長房來申條々事、行幸當色可支配之由仰了、伊與、參河、鹿田、方上等許也、他家領、皆充法成寺修理、免如此之臨時難役之故也、及晚大將來、今夜歸一條亭云々、申刻、大僧正自南都示送云、禪師堅義、凡不能左右、感淚難禁、實非只人一歎云々、其後寺僧等、多賀此事、實悅思無限、偏是春日大明神冥助也、生年十三歲、兼不伺算、勤大業、南北二京、古今未曾有例也、一間別當僧正云々、是故大僧正覺信、承保之例云々、每事珍重、所作美麗、萬人感歎、敢無比類云々、

十五日、中〔天〕晴、此日、吉田祭也、社頭事、家司爲季
 奉行、每事泥々、鋪設不具云々、返々奇怪、其旨仰了、
 余并女房、向_二北隣_一發遣幣帛、行事親輔、依_二社頭行
 事職事_一俄闕如、令_二差進_一、爲祝忽稱大座、仍所差進親輔也、陪膳又皆
 悉稱_レ障、仍以_二左少將定家_一、依_二參合_一也、女房陪膳同
 前、神馬使左近將監時綱也、仰可_レ參_二社頭_一之由了、
 入_レ夜、長房來申云、齋宮寮言上云、依_レ觸_二卅日穢_一、今
 月次第神事等、或延引了、或又欲_二延引_一、穢次第雖
 爲_二各別_一、宿館報_レ穢始已經_二七ケ日_一了、有子細等、仍自然
 之往反混合、如_レ無疑、但猶分明可_レ被_二仰下_一、若新嘗
 祭延引者、新米自_二何日_一可_レ供哉、同可_レ被_二裁下_一云
 云、余仰云、早下_二官外記_一可_レ勘例、又書_二別紙_一、下_二明
 法博士_一、可_レ令_二勘_一穢否者、又申云、八十嶋祭、攝津
 國驛家雜事闕如事、奏聞之處、可_レ計沙汰云々、余
 申云、先例勘_二是座_一、隔_二一兩日_一、俄免除之間、庭弱之
 國司、無力可_レ奔營之條、頗似_レ有_二其謂_一歟、然而、不
 置_二雜掌_一了、在廳官人等、皆悉隱遁、領狀之庄々雜事
 等、猶無_二催役之人_一云々、此條尤准_二其科_一歟、尤爲_二
 向後_一、可有_二炳誠_一歟者、雖_二多他事等_一、不_レ違_二具錄_一、
 此次、今月下旬、來月上旬、兩度上表事、可_レ申沙汰之

由云々、永久以來、攝政三讓之外、只復辟一度也、而寬
 仁、寬治、三讓之外、復辟之表二ケ度、始有_二勅答_一、第二
 度被下_二關白詔_一也、今般可_レ追_二彼兩例_一之由仰了、寬
 仁、寬治共十月也、而今度依_二中宮御惱_一、十月過了、如
 之復辟兩度之條、日來不_レ致_二沙汰_一、自然所_二延怠_一
 也、今宗賴朝臣勘_二申先例_一、仍所_レ仰_二下今月表事_一也、
 宗賴朝臣申_二代々表作者、并寬仁、寬治、第四度表事
 等、又申_二他事等_一、實明朝臣申_二五節公卿殿上人散狀_一、
 又云、殿上人出衣事、唐綾、和綾共可_レ用云々、余仰
 云、主上始可_レ出_二御帳臺_一、大臣一人不參、尤不便、重
 可_レ相催_一者、親雅朝臣來、申_二別當僧正申條々事_一、又
 申_二春日旬御供事_一、件事、先日任_二保安例_一、仰_二子細_一
 了、而重申_二此由_一、未_レ得_二其心_一、仍重仰含了、遠忠代官
 可_レ勤仕_一之由也、

十六日、辛酉天晴、長房來申_二上表之間事_一、作者兼光卿、
 清書伊經、使忠季、宗國等朝臣可_レ催之由仰了、復辟初
 度_{攝政}、政第四度也、今月廿六日、第二度_{被下關白詔之度也}、攝
 月十六日、豫所_レ定之日次如此、公卿七八人許、可_レ相
 觸之由、同召仰了、申刻參院、以_二泰經卿_一入_二見參_一、依
 召參_二御前_一、中宮不豫之間事有_二御尋_一、言_二上子細_一、又

新制不被施行一事奏聞、頗有驚給之天氣、但始終不可叶事歟、乘燭參內、於直廡、頭宗賴定申行幸舞人、以平野大原野行幸定文、爲例文也、若雖先帝、以同社一行幸定文、可用例文歟、尋問之處、先例若如此云々、其儀如常、書了覽之、見了、相加例文返給、先是、右少辨資實、覽行幸御祈詣社十社、諸寺御讀經日時、并諸社御讀經僧名等、諸寺御讀經、永久例不爲定文、其外猶有例、定文之由、上見給返給、又頭中將實明、覽御帳臺指圖、御所申上也、其後歸參御所方、覽祗候、退出之、次、宗賴申云、中宮淵醉、公卿等少々領狀、右大將、藤中納言、右衛門督云々、此外未見散狀云々、又條々事、今日奏聞、皆有仰詞云々、不具記、其後退出、今夜、前攝政中將家實拜賀云々、又丹二品息少將致成拜賀、參中宮、來余方、拜了呼前、爲追從也、十七日、壬戌、天晴、大將來、文書等、散々大略取概目錄了、長房來申上表之間事、大將追却厚直子、召兼次養子故兼重子、生年十三云々、云々、造宮使知雅來云、齋宮穢及神宮了、仍廿五日檢付不可叶云々、役夫工之間、頻有如此之事、尤其恐多事歟、十八日、癸亥、天晴、長房申云、明日大原野祭、上卿闕如云々、可奏聞之由仰之、入々大略固辭云々、明日事

可闕如歟、仍以國行、遣民部卿許云、神事也、大事也、又氏社事也、縱雖所勞、不及殊事者、猶可被相構歟、近代大事、偏如私營、尤不便者、申云、雖有所勞、日來實不出云々、此仰上、不及申是非、相扶可參勤者、及晚、長房參上、申云、實教卿參入云々、可告經房之由仰了、又兼光卿明日可參之由、可仰遣旨仰之、即仰遣、及晚可參之由、有請文、宗賴朝臣來申條々事、公家御祈事、行幸間事、宮中殿中事等、大原野祭、宮司可參之由仰之、宗方爲奉行之、其外不參云々、仍儘可參之由、仰長房、愁領狀、近代、初年之外、只一人參入云々、余有所思、每年可皆參之由、縱雖非皆悉、兩三人必可參旨、豫仰之、而各對捍不當、仍殊所召仰也、親雅又申條々事、長房、齋宮寮穢事、申法家、勘狀子細不分明、猶可問明基之由仰之、又官外記未勘申云々、猶可問師尙、廣房等之由仰之、宗賴申宮御方淵醉公卿散狀、八人參入云々、右大將已下也、十九日、甲子、天晴、此日、大原野祭也、宮御方幣、午刻、自河原發遣、奉行兼時、御惱以後、未復尋常之上、當時有月障、仍自河原所立也、余并女房如

例、於北隣欲立之處、聊有不審事、仍自河原立之、行事爲說、使左近將監時綱、陰陽師天文博士廣基云々、余着衣冠、降庭祈念、大原野社頭事、中宮御沙汰也、宮司長房、宗方等、參社頭、申刻、定經來申、行幸之間事、又申役夫工事、宗賴申條々事、同刻、頭中將實明朝臣、爲院御使來云、役夫工事、已闕如之由、造宮司知雅所申也、何様事哉、若無御沙汰、歟、又行事辨不致御沙汰、歟、委可尋、又五節不出仕之殿上人、儘可催、其中申灸治之輩、不申暇、奇怪、早可被尋、又宗方申昇殿事、暫不可被免申、殿上人太多、總以不可被免者、即以兼時、先仰院宣趣於定經、有陳申旨等、卽下知之狀、推陳之趣、頭中將面所聞也、以其旨可奏之由仰了、余卽謁實明、所存子細申了、宗方事、不可忝退、可申殿上人事仰之、可然早任一々御定、可沙汰之由、使仰實明了、役夫工事、所詮歲內無所濟者、一切必不可叶、指期日被責過、過彼期日、可被上拍子也、其外更不可有異議之由、可奏之由仰之、卽頭中將歸參了、晚頭、右兵衛督兼光來、余以宗賴仰云、來廿六日可上復辟表、可令草進、其趣如寬

治、攝錄漸積年序、主上已加冠冕、及二十一年之頃、視萬機給也、加之、今年當凶年、彌雖非可歸正之秋也、早罷過分之職、可叶民望之趣也、兼光申云、承候了、抑寬治被載、天變事、件條如何、仰云、彼此變異之趣、可被勘見、歟、當時災惑入太微、已爲重變、寬治被載者、追彼例、有何事哉者、卽余出逢之、但隔簾談雜事、此間、式部大夫基業顯業子後經弟也、儒士也、參上、以宗賴問造曆之間事、今年十二月有閏、而件基業可置明年二月之由所申也、仍奏事之由、可尋唐曆之由、被仰都督了、其上基業注進子細、仍參上可申上之由、依召仰所參上也、基業申云、任百注經之說、明年二月可有閏之由所申也、加之、今年三合之災年也、凶年之習、以有閏爲重、而幸閏在明春、尤可被改置、歟、凡漢家之法、六十年一度有差分之法、我朝不知之、仍有如此之違亂、造曆有十二條之說、信四之說也云々、而我朝博士只知其十一、未知第十二之祕說、所謂改作更注之說也、依不知此說、有過云々、雖多子細、不能記錄、余仰云、付他道申、此事尤可感、且是可謂存忠、歟、但以此等申狀、被問曆道、可有沙汰之由仰了、卽奏

事之由、可問曆道之由、仰宗賴了、

廿日、乙雨降、五節參入雨降、頗遲返事歟、公卿藤宰相

中將公時、參入御覽、左大辨定長、有參入、殿上出雲守云

云、無參入、共被免、安房守云々、共被免、亥刻、着直衣、不出相

伴大將參內、主上御寢、奉驚之、召忠季、信清等朝

臣、令奉仕御發御裝束等、五節晚參之所々、皆參了

云々、實明朝臣云、左大辨、五節存參入之儀、已參陣

頭、而雨降頻下、如此之時、略陣中之儀式、密々參

入五節所、已存先例、將如何、余云、任例早可參入

者、余即着殿上、御侍下、先是、大將着殿上了、素左大臣、右大將、左

衛門督等候殿上、少時、實明朝臣來、觸五節皆參之

由、即余參御所、御裝束皆了、余告出御之由於實明

朝臣、以忠季告之、即公卿左大臣已下、進清涼殿西面、次主

上出、自北鳥居障子、於同西面北一間長押上、准額

着御履、實明朝臣奉之、御指貫、踏入御沓給也、深沓、淺沓、

雖有兩說、今夜召淺履也、近代多如此、其程遠之

時、召深沓云々、余同奉扶持、即經二棟廊前緣、南

殿御後、宮御方、晝御座前簀子等、入同西一間、件間、

時、宮殿上、妻戸内、女房達三人所也、而今夜被、入御大師壺欄、

出、件間内、北間爲御路、依帳臺之側立也、東面妻戸先於戸下、脫御沓、實明取件間、須懸御

簾、而不懸之、失也、又御在所與舞床之間、卷御

簾、不可然、仍先使實明下件簾之後、着御々座、

數高麗燭臺二枚、其上數同燭中結、立大宋御屏風三帖、其外可、餘座、或四面疊、或管四座也、而今夜無座、太難堪也、又他公卿

座、雖不可、必隨之、先例或同、無數、余候御座西邊、左大

臣、右大將、左大將、候北御屏風外、左衛門督、依無

所、候東戶外、次舞姬等、入自南戸、參入列居舞

床之南、次大歌發聲、其後經數刻、舞姬昇居舞床

上舞也、北面、先例以御所方爲上、是非難知之、舞了、如本居此間、殿上

人亂舞了、舞姬等次第退下、次公卿等、出東戸、列立

放出、主上於戸下、着御々沓、實明奉此間、左大臣

已下列居、主上經本路還御、余以下扈從、如出御、

其後余退出、于時丑刻也、

今日、主上御裝束、

小葵綾御直衣、同文白御衣二領、同單衣、紅打御衣、

出給濃紫蔽地窠文御指貫、浮文織物也、非二重織也、組垂腹白如例也、紅御下

袴、白拾扇、淺御沓等也、

余、綾指貫、不出衣、

左大臣同前、右大將、薄色指貫、不出衣、

左大將、堅文織物薄色指貫、出蒲萄染打出衣、左衛門

督同、右大將、今夜不持晝御座御劔、是定例也、凡

主上出御之儀、只混合殿上人、竊窺之儀也、今夜、御路不敷筵道者、故實也、而南殿御後以西敷之、然而、已渡御之時見之、仍忽不能撤云々、

明日淵醉、可忍行之由、仰實明朝臣、依可有中宮淵醉也、

廿一日、丙寅〔天〕晴、此日、中宮淵醉也、里享儀、母后之時、多後常祇候禁裏、適雖在里享、不可然、竊檢先例、上東門院立后以後、每年御座禁中、而寬弘六年、依例孕、御座里第、彼時、公卿參入、有淵醉、見行成配、其外、後一條院中宮、後朱雀院、于中宮、常有此事、仍今日淵醉所申行也、殿上裝束如

例、但母屋際障子、頗破裂、仍副障子立四尺屏風、不懸、爲略儀之上、思殿上上妻戶有打出、單、紅打紅、事、事不可懸之故也、梅表着、滿額店、衣、白覆蓋也、寢殿東面四ヶ間、水間、定、有押出、非、如法、只女房着川之衣、居、はれたる之由也、出、此、自餘事、不替尋常之時、御簾雖非新調、撰尋

常簾懸之、几帳帷同前也、今度几帳皆新調也、余稱障不出居、於簾中、寢殿東面、交居女房、見物也、晚頃、殿上人來集殿上、淵醉了、即所來也、兩貫首同來、今日事、

長房奉行也、去年同奉行、今年長兼重服、其外無殿上官司之故也、秉燭以後、上達部等來、大夫權中納言泰通、右衛門督隆房、藤宰相中將

公時、三位中將公衡等也、皆直衣、大將之外不出衣、大將出紅梅、人々來集之後、先居着物、其式如去年、猶可檢物厚衣、追皇嘉門院御時

例、去年〇〇待賢門院例也、然而如此事、專可用簡衆等役之、家例、而今年忘却、無日不仰此旨、矣所、課也、居了一獻、大夫取、瓶子、初大將次第巡流、次居菓子、次

二獻、頭中將實明朝臣、次朗詠、右衛門督發音、今月、是隆、次三獻、藤宰相中將公時、瓶件卿於勸盃之所、袒裼、依大將

命也、人々從之、公時卿兩度領之、指劔復座、復座、更用、此間、今樣、泰通、出之、公卿、公時未復座之前、發聲也、其後出萬歲樂、亂舞、自下、舞、於打出前、舞、發、自第二、及公卿、其後白拍子二人舞、即置、櫛、公卿同二人舞也、大將依無對揚、獨舞之、事、人々退出、

今朝、神宮奏狀到來、依齋宮寮穢觸來、不供朝夕饌、次第神事延引云々、依件穢、新嘗祭可延引哉否、內々問官外記之處、依神宮穢、公家停止新嘗祭之例、無所見之上、此祭、并奉幣、專不可被停止云々、隨又去夜已五節參入、仍不仰可止祭之由也、

廿二日、卯〔天〕晴、此日、童女御覽也、出、一、申刻、相、伴大將、參內、餘共忠孝朝臣、高通朝臣、大將共定家朝臣、賴房、但余、其後兩方共殿上人、三位、進、車也、于時殿上淵醉之間也、小時亂舞了、廻五節所了、

其路渡御前、如例年、殿上人、今日不出衣也、余伺見御殿之處、殿上南格子、

玉葉 卷第六十二

一八七

不撤。四季御屏風、并厨子等、仍仰藏人、令裝束、余參御前、此(問)、實明以女房、伊與、申可付、童之殿上人事、只仰可計下知之由、去年依此、頗略事出來、太無要、仍不可口入也、次余着殿上與座、御倚子、先是、右大將、左大將、左衛門督等候、余召頭中將、問童裝束了哉否、已着了云云、仍參御前、入自御座北間簾、即主上出御簾中、立几帳、太見苦事也、仍仰女房撤之、次召頭中將、令直廣庇堂燈、廻御簾所立也、次仰人々可召之由、次右大將賴實、左大將良經、左衛門督通親等、參着廣庇圓座、次童參上、高通一人、藏人、甚保、付之、置扇、御覽、殿上人藏人、各取、之後、童進北、大輪步歸、退下如常、下仕同退下了、次公卿自下前起座退下、今日、公卿着座之、即兩大將隨身、列居前庭、又雜人數人、各主人加制止、右大將隨身、退中門方了、左大將隨身、凡不聞下知、歟、仍召實明朝臣、庭中雜人、隨身已下、可進退之由仰之、即各立去了、次余退出、大將暨留候、今度、新嘗祭上卿兼光卿、參議光雅卿云々、明日、內辨右大臣可參云々、今日、余不出衣、但着淺黃織物指貫也、大將出裏欺冬厚衣浮文、今日參內以前、大外記師直來申云、依

神宮穢、新嘗祭延否事、兩方共不勘得先例、於祈年、月次例幣等者、有其例、若可准歟、神今食又無奉幣、可准神嘗祭歟云々者、余仰云、今日祭、旁不可延引歟、先至于祈年等祭例者、已被發遣奉幣使、新嘗無此事、專不足爲例、神今食事、尤可比歟、然而、彼者月次祭同日事也、祭已延引、神今食雖無幣、思諸神相嘗之儀、神祇令、聊非無可恐、仍承曆三年有議被行、御占、依不快、兩事同延引了也、於新嘗祭者、曾無延引例之上、五節已參入、至今不及延引停止之儀、何況於奉幣哉、至于承曆例者、不可似今日之儀、猶剩之恐條者、聊有可相比事、天永二年六月十一日、院御領有死穢、件穢及院御所、并內裏了、然而未及廣、仍神今食可慎行之由、被仰下之由、見外記日記、彼非忽諸神事、式日有限、嚴重之祭禮、臨期停止、爲神事違亂、仍穢氣未逼之間、隨宜可行之由、被仰下歟、今度以同前也、彼者內裏穢也、是者本宮穢也、彼無他事之煩、是者已五節參入了、其後、更祭停止之例、未曾聞也、乃輕重不齊、仍隨宜之沙汰、專可叶時議、不可乖神慮歟、孰中、件穢、齋宮女房、不知

此事、參神宮云々、太神宮之習、殊不奉幣云々、然者、只整參候前庭之女房、即退出者、不可有座座飲食、不可必爲穢歟、仍件條、重被尋道了、大略未斷觸穢歟、但於此事者、神宮自稱觸穢、其上強不可及疑殆歟、縱雖有穢、公家之祭、專不可止之由所存也、此上如何、師直服膺退出云々、神事猶有恐、仍以恐案之趣、載消息、問遣內大臣之許、返事云々、神宮有穢、新嘗祭可延引哉否事、

被仰下旨、一々叶恐案候者也、此事、無奉幣之上、五節已參入、忽違亂、未曾有之候事歟、抑又春日社有穢之時、不止大原野、吉田祭事、抑可相準候哉、旁不可延引之由、存思給候者也、恐惶謹言、

廿三日、戊辰雨降、此日、節會也、聊依有勞事、不參內、其旨觸遣奉行職事頭中將許了、國行奉符、內辨右大臣云々、左大辨定長、以其息清長、進櫛棚等於中宮御方、櫛風流、小炭櫃、櫛風流、蓬萊、櫛風流、十荷也、并送余許、櫛風流、十荷、入曉更、殿上人等、參宮御方、與櫛於女房等云々、廿四日、巳時々雨降、此日、本命日、泰山府君祭也、長房來申、明後日上表之間事、定經申、行幸神寶用途不

可闕如之由、并役夫工之間事、感仰行幸用途合期沙汰出事、此夜無動寺法印被來、大乘房供養事、明年五月、下官登山、可遂供養之由示了、又被示法成寺平等院執(筆)印、堅以辭退之由、余答子細了、召典樂頭賴基、仰合宮御灸治之間事、

廿五日、庚午、此日依吉日、中宮奉指驗、今日依血忌、明日可奉灸也、余指之、不召醫師也、

廿六日、辛未、(天)晴、此日、復辟初度表也、是攝政第、四度表也、永久以來、復辟表、只一度也、而永祚、寬仁、寬治、皆主上御元

服之後、兩度被獻也、第二度被下關白詔也、億事理、宜如此歟、仍今度依寬治已往例、所上第四度表也、寬仁、寬治、共十月有此表、今度、中宮御不豫之同、忘他事、自然延而、及于今月也、作者權中納言兼光卿、又公卿之後、忠輔、輔正、匡房等例也、近例、永範、俊經、匡房卿作之、或人云、雖公卿居、官者作之、兼光居其職、不可然云々、此事證難也、二條殿、關白第三表、匡房中納言之後作之、知足院殿、辭內舍人之表、同人作之、當時式部大輔文章博士皆非改歟、清書前宮內少輔伊經等也、未刻、人々來集、先奉行家司藏人右衛門權佐長房、仰陰陽師主稅助安倍晴光、令勘申日時、即以人傳覽之、入、實、先例三讀之表、初度勘日時、第二三度不勘之、而承保關之、自第三度、依論、年、勘日時之由、見日記、今度、攝政第三度以後、已隔數年、仍勘之、但寬治無所見、見了返給、次余着若記詳之不委歟、將又無其沙汰歟、冠直衣、出資筵、以四子午、爲其所、例公、船座、依爲中宮殿上也、先是、左大將

已下、公卿在座、余出自中簾、大將燈余目、作者兼光卿、件卿着即起座、經座後末并簀子等、并余前一授表、香檀紙三枚、余取之、披置前、以文下使兼光卿讀之、讀了、兼光復座、余如本局之、與左大將、其後次第見之、但定能卿不見也、大經房、次降房、次光雅、于時余仰云、只橫置其前、一度可被見也、依時刻推移、加之、又是先降而已、仍各見了、取上之、降房爲與座上首、仍余便歟、取之置前、召長房、仰清查之由、給之、其後經數刻、仍召長房、令進表宮檀紙等、細帖紙同良久之後、長房持來表清查、余見了、先開硯蓋、染筆加署、掩視卷之、先加裏紙一枚、件表、檀三枚、香之、次乍重二枚、加禮紙、其上又一枚卷之、入宮掩蓋、以檀紙四枚、裝之、左大將相共奏之、次細帖紙結中、師錄取合上下置前、寬治、少將大將位、以長房召使、即左近權少將宗國朝臣、上、持笏、余引廻宮、推遣之、宗國持笏取之、持持退下參內了、次召清書伊經、於前簀子賜祿、白大掛、次人入起座、次下官歸入、其後申請、中宮殿上、西廂無便宜之故也、垂廂簾、廣庇敷弘筵、副簾立亘四尺屏風三帖、有增減、中央間、立倚子、在地鋪如恒、其前舉二燈、此間、大內記持來勅答草、見了返給、仰可持來清查

之由、獻表未見、勅答之前、不可有內覽事也、然而、代々例皆如此、暫而、中使左近權少近雅行朝臣、進立東中門下、左大將着東帶、改着、降自中門內方、跪取持來指入簾中、向中門廊之南面裏戶也、餘在其中也、次仰長房、召勅使、々々昇自中門外方、參上、着倚子、次左大將如初降中門廊內方、進出前庭、子也、而透渡殿拜之、頗無拜之、舞踏、是先例也、先便宜、然而、此外無他計也、是、雅行起座退了、即歸昇、次諸大夫等、改御裝束、撤屏風、不撤筵、徹倚子、其次儲勅使家主等、之座、勅使座在、上、次以長房與柱立一燈、次左大將代余着東座、次以長房召勅使、經透渡殿寢殿東簀子等着座、次長房取祿、大掛、持來左大將座下、大將持笏取之、更起進來勅使前、與之、拔笏復座、次勅使肩祿出砌外、再拜退出、先是、大將起座、次余於西廊座、見吉書、官方權右中辨定經朝臣、藏人方頭中宮亮宗賴朝臣、政所右衛門權佐長房等也、宮藏人給、供之、政所不給、供之、如例、今夜參內、於內裏直廬、可見吉書、歟、而寬治例無所見、仍不參內、凡上表夜參內、其例不同之故也、今日、表清查之間、與人々談話多、是公事陵遲之間事也、廿八日、癸酉天晴、此日、賀茂臨時祭也、申刻、着東

帶參內、使以下舞人等、一人未參內、懈怠尤甚、仰長房令催之、參御前、御湯殿之間也、每年泥々、尤不便、即催促女房等、召忠季、信清等朝臣、召御髮御裝束等、此間、頻以催促、舞人、公卿等、皆參入、使猶以不參、數度遣使者了云々、此間、余仰長房、令改御幣并使宮主等座於西面、是堀川院東對例也、元儲東面也、

日入之程、使參入、即御禊如例、舞人引御馬之間有論、仍還運々依平數御座不

召御草鞋、入御之後、敷庭座、此間、頭中將實明朝臣、例也、宣命、上卿左大將也、見了返給、次改御袍、也、出御倚子、

今度、召御草鞋、余經御前簀子、向鬼問方、次仰實明、告

出御之由於公卿、次左大將已下、着壁下座、次實明進候年中行事障子下、隨余曰、經前庭召使已下、

經座之後、此人作法也、定有存旨、經本路歸入、次使以下參着、于時乘燭以後

也、次一獻、內藏頭定、左大將着垣下、次立螺盃、銅

蓋、并挿頭花臺等、次三獻、庭中納言定能、不若垣下、次重坏、左近少

將雅親朝臣、宗國朝臣等也、陪從座、藏人右衛門權佐長

房、歸路之次、進寄長橋下、次左大將已下、次第賜挿頭

花、各復殿上座、六位藏(舞イ)人挿頭花、公卿取之也、次入御、不脫御草鞋、即可出御之

前座、次殿上人着座、仰宗賴、召使已下、次參上、求子、駿河舞如例、禮舞也、次入御、余塞簾、公卿平伏、次於北陣、御覽使已下、如例、使雜色白張薄色衣也、余此夜宿候、丑刻、使已下歸參、有出御、御引直衣、若御打衣、召御草鞋也、參入公卿、余、權大納言、左衛門督、右兵衛督等也、

廿九日、甲戌還立御神樂、中間入御、余塞御簾、即下宿

所、直向九條、爲逢懺法也、入夜着束帶、自九條、直參法成寺、權大納言、左大將、左大辨定長、中宮

權大夫等參入、行香了退出、

十二月

一日、乙亥陰晴不定、午後、雨降雷鳴、此日、法成寺御入講、南京堅義也、戌刻、着衣冠、一、駕毛車、前近東帶、隨身、如例、

參御堂、朝夕兩座、朝問者圓能法橋、夕問者聖覺已講、訖、預等撤散花行

香机等、當正面間底、立高机一脚、次探題山階寺權別當範玄法印參入、昇自正面階、入自同南間、着

第一僧綱座西端、即預法師、置竿宮於机上、次問者五

人、興福寺信憲已講、勤三問、參上着座、次注記興福寺良印、着其後

座西端、陳座前、立切燈、次堅者、東大寺、花嚴宗、尊玄、入自東庇南

面戶、堅者用此路、定例也、先進_二机下_一、三度禮佛之後、讀_二上

竿、登_二高座_一、右方高座也、次預法師取_二竿、先覽_二探題、次賦_二

問者、次一問信憲已講、論義_二一條、一者花嚴說時、二者因明、不知其事、五

重之後、探題又_二三重難_一之、其後欲_二判_二得略_一之時、余

聊問_二不審、探題粗陳_一之、第二問之時、可有_二此成敗_一

云々、而夜已及_二曉天_一、仍退出、先是、左大將衣冠、參

上、一問中間退出了、

自_二今日_一、神今食散齋如_二例、宮御方又同、但依_二例不

禪_二御堂參_一也、

二日、丙天晴、此日、法成寺御入講五卷日也、長房自_二

御堂告送云、事具了云々、戌終、着_二束帶_一參入、不帶_二束帶_一、

先着_二擬座_一、先是、兼光卿、季經卿、兼忠朝臣等參入、

余直着_二佛前座_一、先問_二具否_一、朝座之間、左大將參入、夕座

持_二捧物_一、行道三匝如_二例、事了退出、

三日、丁甚雨、此日、天台堅義也、欲_二參堂_一之處、咳病

不快、行幸在近、若增氣者、折節太無骨、仍今日不參、

尤遺憾、新探題貞覺云々、定經參上、申_二明後日奉幣々

物闕如之由、又申_二神寶用途之間事_一、

四日、戊〔天〕晴、御堂御入講結願也、依_二明日行幸奉

幣_一、有伊勢幣、前齋不_二參入_一、於_二神今食前齋_一者、先例不_二禪

之、至于臨時奉幣者、所_二相憚_一也、先々有_二其沙汰_一事也、今日、右大臣、內大臣參入云々、家忠之子孫、丞相兩人相並、尤珍重々々、是即本願後葉之繁榮也、入夜宗賴參上、申_二條々事_一、此日、權漏刻博士菅野季長、持_二來明年易筮勘文_一、寂吉年也云々、此日、法皇加_二少灸治_一云々、御腹痛云々、

五日、己〔天〕晴、此日、松尾、北野、行幸御祈奉幣也、社

如_二上卿右大將賴實卿、松尾行幸來八日也、而今日奉

幣、伊勢使七日可_二參着_一行程之所、推雖_二如此_一、近代

之作法、奉幣及_二晚陰_一者、今夜不可_二宿_一勢多、仍今日

奉幣、殊所_二被_一忿行也、豫官外記上卿、誠仰了、早旦

問_二遣奉行職事許_一、申_二沙汰具之由_一、午刻、大內記長守

參入、覽_二宣命草_一、少々有_二改直事_一、不可_二持_一來清書

之由仰_二之_一、今日、依_二有所思_一、小浴解除、宣平朝臣、衣冠執

笏、降_二庭奉_一拜_二太神宮、松尾、北野等社_一、又奉_二拜_一春

日之後歸昇、

今日、九條懺法結願也、女房早旦行向了、女房依_二月

障不_二合眼_一、入_二夜定賴申_一條々事、天文博士廣基持_二

來密奏、召_二前問_一五ヶ變事、申_二不知之由_一、此次申云、

辰星早沒、夜初長、云詩、辰星、角宿_二星_一也、東方第

一星也、是祕事也、故泰親朝臣謂、心大星太、嗚呼不傳口傳之所致也云々、

六日、辰〔天〕晴、此日、改勘行幸日時、又勘諸社御讀經日時、松尾點地大祓等云々、上卿右大將、又此日、有御馬御覽云々、松尾社有神馬一哉否事、昨今引檢舊記等、寛治時範記之外、無所見、大略不可有、神馬乎、定賴申行幸供奉諸司散狀、大將來、令見、行幸可騎用之馬等、大略撰定了、余移馬同所點大將馬也、余厩馬、併獻諸社之故也、

七日、辛巳〔天〕晴、早旦、宗賴注進行幸供奉人等、又御後殿上人、猶無領狀之人、之由令申、早奏聞可責催之由仰之今日、余洗頭、爲潔齋也、舍人、居飼、車副、今度布衣、依寬治永久例也、牛童、同、仕丁等裝束、分給了、隨身狩袴之外、臨時給打衣、單褐等了、及晚宗賴朝臣來云、參院奏聞御後殿上人散狀、可責隆雅之由有御定云々、又〔云〕、東豎表衣、五位、初負佐、六位、藏人給之、定例也、而左佐朝經、稱無表被對捍、仍仰遣之處、可賜夏袍云々、申狀勿論、仍仰右佐了云々、然間、長房參入、申賜了之由、凡拜任以後、三ケ度給了、左佐未給云々、宗賴又申云、女房出車、殿上

人併對捍、已及闕如了、如此之雜事、一向六位之沙汰也、而近代、侍中皆有若亡之間、上臈職事、粗口入、今度遣御教書數ケ度、一切不引身、爲之如何云云、仰云、不進出車、已無事歟、然者、自今以後、乘車シテ令出仕之輩、可破却其車之由、儘可仰遣、隨今度請文、付吉上、儘可破其車之由、可下知者、又申云、上卿揮頭花、永久例、乍置行事家政、他參議實隆也、上卿大納言宗道卿、今度被追永久例、公時、公繼之間、可取之歟、行事光雅也、余仰云、大納言上卿之時、中納言取之、正禮也、或記所書如此、江記、及中右記、加之、先例多是中納言也、何況、近衛大將異他、今度、尤納言〔卿〕可役也、早可催兼光卿、先例、中納言下藤勤之歟、若納言不候、只猶奉行宰相可取歟、永久師遠記、雖可爲證據、疑臨時若行事不參會歟、猶非普通之儀、行事參議取之、已爲流例、近則承安如此、猶可隨常儀歟、永久例、聊由緒不審之故也者、猶可隨常儀歟、〔戊刻參內〕依神寶御覽也、次向直廬、着表衣、衣冠、正衣也、參上、即出御、即引直衣、着打衣、御移給也、余候母屋圓座、先是運置神寶等、次藏人頭宗賴朝臣參上、覽金銀御幣并御鏡等、寶殿二所云々、而一所二ハ金銀幣二、御鏡一也、一所二ハ只金銀幣一具、無御鏡、是男體之故無

御親云々、又女體之方ニハ、御叙不_レ付_二平緒_一細叙無_二平緒_一、御覽了、尤不實、然而此社例云々、男體方ニハ、如_レ例付_二平緒_一云々、五位六位撤_二神寶_一、次入御、余下_二直廬_一、明日、每事不_レ可_二懈怠_一之由、誠_二仰宗頼了_一、出車時通領狀、御後保盛朝臣領狀、隆雅服假云々、

隆房卿、實教卿、同服也、成親禮息伯死云々然而、依有例除服、可供奉路頭之由仰之、隆房領狀、實教固辭云云、

八日、壬辰對、依有吉例、陰晴不定、時々微雪、此日、松尾

行幸也、余自_二去夜_一宿候、未明御湯殿了云々、至_三于巳

刻、一切無_二參入之人_一、仍召_二遣大外記師直、其家

即參上、仰三懈怠之由、公卿已下、分遣使部、各處

相催也、諸司過半參入、逢見參、僧徒誼貴者、又舞人

學可公催出之由、仰宗頤、余小答之後、着束帶參

等可三忍作出之由 仙三宗刺一令ノ治之役 著三芽莖三

御前二紺地平一 卽少將信清朝臣奉三仕御裝束一外

是、左大將參入、左衛門督少カ同參入、其外、公卿一切不

參、上卿之許遣人了、小時、上卿右大將參入、余着二殿

上、召宗賴一問事具否、只今召仰了、
上、彌右大將、便仰留
 守上卿源中納言、辨

舞人僅二人參入云々、于時午終也、猶可責伏一之

由叩了、參、御前、已卸裝束了、余叩云、且只可、催神

實、催人等、路頭參會歟、法皇已渡_二御御棧敷_一云々者、

宗賴申云、舞人已五人參入、如仰且以進發了者、卽以

出_二御南殿_一、子時未二點也、其儀如_レ例、反問宣、〔左〕右將渡之後、

各隨身相從、是大內例也、公卿列立、左右大將外、通親、能

果、廉長、公遜并也、自餘如列、自完即效效、可丁

出、正七、齊行室、共至之二十、只出自完即發收

出與近什曉行幸 世奉之上下 只出自三院御杖鼎

左入_レ自_二同右_一、仍於_二彼邊兩三町之外_一、見物之強ハ

只僅見^三十分之一云々、人々不忠、以^レ之可^レ知^三王化

之衰陵、可_レ悲々々、次寄_二御輿_一、三位中將兼良役_二劔

照、無警蹕、鈴奏、出御東陣、經二條、東洞院、三條、

已上經三々院御接敷、大宮、二條、木土等、以_レ西之路不知其

犯過及三時云、大宮二條、乃這等一名仍不取○一作
紀）
變佳川、有浮橋、又有船等一即百光市望、於三御授敷

之、江三、木川、一、余渡之時同發樂、、由、從三宿院吉屋、一、前如例扣

無陪膳女房、又無近習公卿、仍左大將勅陪膳、此外密々供小饌、是正シク備其要之膳也、余供之、次供御手水、大將同陪膳、此間、昇立神寶机等、副北敷宮主使等座、次出御々拜座、經西面、北面供之、敷二枝上敷半帖也、次頭中將寶明朝臣、獻御笏、出入北面西第一間四端、次供御贖物、陪膳人親國、從五位下、次宮主獻大麻、寶明於葎屋乾角、取之參入、主上一撫一吻了、返給、宮主取之、着圓座、次使上卿右大將賴實卿、入自東幔門、着座、使座在宮主面、順向、次舞人三人、引御馬、入東中門也、大宮主御禊、此間、主上御給人訖退出、次撤御贖物、引出御馬、次使進寄幣下、跪捧笏、取幣一捧立、主上御拜、兩段再拜也、御拜了、余咳嗽、使如常倚立幣、跪扱笏復座、此際、去留凡無掛、次寶明撤御笏、次行事參議光雅、取挿頭花、入自東幔門、隨使北方、挿冠退下、次使退下、出東幔門之間、余召宗賴朝臣、仰社司實事、宗賴於幔外、仰上卿了、此間、撤神寶、又殿上人給舞人陪從挿頭、次使爲先、神寶參入社頭、次主上脱御裝束、次余相具大將、向休幕、在內島居外南版行事處所遣之、雜事余家沙汰也、依無供奉之公卿、無勸食之儀、但居、只密々差小饌了、即歸參、先以隨身、令見社頭事、漸及終頭、

云々、於葎屋、又仰長房、令見社頭事、舞令二曲云々、小時、樂聲止、仍召御裝束、左大將信清等候之、此間、使歸參、付長房、申御願平安果了之由、仰聞食了之由、次撤東幔門、欲敷公卿座、主之間、賴實卿奏見參挿杖、宗賴奏之、余取之、覽了返給、次賴實卿以宗賴申云、久安度、依廻廊出來、無便宜、不可敷座之由、故殿有仰、何樣可候哉、余依不傳家記、不知此事、問承安例於光雅、隆職等、各彼時奉行人也、仍問之、各申不詳之由、仍仰不可敷之由、光賴記、不記久安事之由、宗賴所申也、次如形御馬了、次給公卿祿了、次公卿列立、御與長等、正電之間、還電、左大將經右大將北立東、依所便也、余候簾中、次簾御與、寶明朝臣、參自後陣、卷簾取御筥、先是、主上立經、簾前給、安輩中、次乘御、御筥、內侍取、御筥、候左右也、、安輩中、次乘御、御筥、如初、、次安御、次公卿大將前行、次御與進給、余暫徘徊、近侍等騎馬了、如初於外島居外、乘車供奉之、後陣、今度不枉道、直自一條東行、御與入御東陣、余入自西陣參會、內侍遲々、仍加催、即參候、次寄御與下御、有鈴奏名謁等、次入御、余即退出了、今日還御之後、不脱御裝束、有每日御拜、

上卿挿頭花事、

此事、不可有定法、只隨便宜歟、然而、古記之所載、一向不可辨置、大納言上卿之時、納言可取之、然而、於例者、行事宰相取之、不可勝計、非納言、非行事、取之例、永久實隆師遠記之外、未檢得之、仍今度、點兼光之處、稱產穢卅日之内、公家七々日外、不忌之、而當社堅ク忌卅日、兼光穢之由、本社已知之、被破彼例、不宜之由所申也、雖不當、又臨期不能奏聞、自由又有憚、仍所點光雅也、是任常例者也、又事理尤有便宜歟、求他宰相之條、未知所據者也、

社司賞事、

永久記云、所申請九人、然而、依例被仰七人云々、承安、當日無沙汰、追可被仰之由、被仰之、次年依本社強訴、被仰十人云々、仍今度又被仰十人了、其中一人辭退、讓前神主助依云々、件助依依可被超越子孫之故云々、諸社司讓例、又不可勝計云々、
馳御馬之時、公卿座事、

余依不傳家記、不知久安例、以故殿仰、被教訓上卿、爲耻々々、但此事猶不審、可尋勘也、

神馬事、

舊記云、舞人立神馬於御前云々、爰知、只以十列馬稱神馬也、寛治時範、以此記、只諸社皆知有神馬之由、所書歟、將又寛治之失誤歟、凡賀茂、八幡之外無被獻神馬之例、八幡猶承保以來之例也、白川院御時、件兩社、始被獻之、其外更不見、永久、嘉應無之、仍今度又無神馬也、不知案内之人、定就時範記、加謬難歟、仍爲後記了、

九日、癸〔天〕晴、定經來云、北野行幸御休幕、先例所用、右近弓場殿屋也、而件屋顛倒無實、新造不可叶之由、職所申也、欲壞渡松尾屋、如何者、仰云、專不可有休幕、平野無之、何況北野哉、近代事、不可過省煩者、光綱申條々事、

十日、甲〔天〕晴、親雅來、申條々事、資實、月次祭永宣旨召物、諸國一切不濟、可付吉上之由存之、如何、且經奏聞了云々、仰隨御定、早可付之由了、

召前問法皇御寸白事、無爲云々、入夜宗賴朝臣、申行幸賞之間事、明日早可奏聞之由仰之、召爲季、來十六日仰、可_レ行多武峰法會一事之由、仰狀了、祭主能隆朝臣參入、仰一條々事、先伊勢造宮事勸否如何、申云、諸國無所濟之上、造宮使又不存忠之由、粗有其聞、見濟與所用、可_レ被勘合歟云々、又仰給捧田之間事、申云、各付自領所募申也、祭主勞過分之由、傍輩言上、被尋注、不可_レ有其隱事也、凡給捧田充滿國內之間、齋宮寮米切定已盡了、實難治之沙汰也云々、仰云、只祭主勞已下、四姓給捧田、皆悉切寮米、如何、其故ハ、各多年知行之地、忽收公可_レ爲人愁、因之欲優之、又寮中闕乏、仍件所領等、於他雜事、如年來、可_レ爲不輸、於寮米之一事ハ、國之大事也、半減例濟之天、被切宛、強不可_レ有人之愁、又神事不闕如之計歟、如何、申云、此條第一之上計也、早此定可_レ被仰下、如仰相傳之領、被割召之條、可_レ爲人訴、寮用如無、又朝家之大事也、折中之沙汰、定叶神慮歟、於能隆者、一切不可_レ愁、殆可_レ進申之由、所存知也云々、此日、御體御卜奏也、上卿定能卿、

十一日、乙未午後小雪、入夜頻降、此日、月次祭、神今食等也、申刻、資實來云、月次祭永宣旨召物、諸國對捍事、奏聞之處、慥任法可_レ被譴責之由、有御定、早可_レ責之由仰了、但當日事、於今者勿論歟、又傳院宣云、一日松尾行幸、公卿等多不參還御云々、於北野行幸者、慥可_レ供奉還御、若不參之輩ハ、委可_レ令注申者、即資實書御教書、可_レ遣宗賴許之由仰了、今日、不慮下僧少々入來、又忘却之天、有見佛事之文書、仍召陰陽師、解除遙拜、衣冠、明後日、北野行幸也、仍自今日可_レ神齋、而依神今食、全無不淨穢氣事等也、但止魚味一事ハ、當日許也、十二日、丙戌自夜雪降、及四五寸、仍宮御方有雪山事、申刻、親國申弓場始事、主上御裝束、御直衣歟、御束帶歟云々、寬治四年、御元服若御麴鹿袍之由、有所見、仍可_レ爲御束帶之由仰之、射手等、先可_レ催定公卿之由仰之、右射手七人、合點了、入夜宗賴朝臣來云、自今朝候院、只今承勸賞事、所參入也云々、以御筆、被注下明日可_レ給注文之由仰了、此外條々有申事等、明日行幸、可有留守公卿哉否、余仰云、京中行幸、無留守上卿、北野可_レ准京中

之由、永承有其沙汰、是供奉公卿無人數之間、以留守人、爲令供奉行幸也、而寬弘、寬治、永久、皆有留守上卿、仍早可催之由仰之、申云、豫仰定長卿、可祇候之由、所申也云々、又申云、晝御膳、於社頭可供歟、先例不同云々、還御之後可供之由仰之、又申云、幸路可經二條、東洞院、一條等、而宣陽門院、御坐正親町東洞院亭、可被避哉否、內々問隆職、廣房等、各申不可憚之由、且奏聞之處、任例不可憚之由、被申下云々、此事素不可及豫儀事歟、又申云、越前國氣比宮燒失云々、奏聞之處、可計汰汰之由、有仰云々、余云、先可問例、宗賴申云、內々官外記申狀、仰彼近邊國造營云々、然而、是內々尋之、早下宣下一可問之、且以官外記申狀、可奏聞之由仰之、此日、四條坊門町有燒亡、即滅亡了、六角堂雖近々、免其災了、爲悅々々、今日早旦、大將來爲雪山也、

十三日、丁〔天〕晴風靜、此日、北野行幸也、午刻、着東帶、相具大將參內、卿有勞事、遲參、且可覺神寶之由、去夜仰宗賴了、先是、上卿已下公卿少々參入、女房云、未覺神寶云々、事太懈怠、宗賴不待下官參可覺神寶之由申女房

云々、而依無直衣、御裝束不覺之由、女房所密語也、勿論々々、然者、豫可申其旨歟、余參入之後、更攪御餐、召御裝束、少將信清朝臣候之、此間、上卿奏宣命草、余見了返給、次御裝束了、御覺神寶、其儀如常、殿上五位六位撤之、神寶舞人、可忿先行之由仰之、次出御南殿、次第皆如例、左宰相中將實收、役紐置、經二條、東洞院、一條等、着御社頭、法皇於一條室町御棲敷有御經、南鳥居西幔門等、昇御輿於都屋前、見物、經仲一人懸候、余經同路自北妻入簾中、須自都屋之後方可參也、而未嘗此社以指圖、候內侍傍、次頭中將實明朝臣參上、先卷都屋西面中間簾、經都屋間、即昇、開、盤戶、取御璽、付內侍、次下御、余居御輿之間也、仍主上立給經帷前、次奉扶持、依無其程、不召御草鞋、主上立給經帷前、次取御劔、授內侍、垂簾間、盤戶退出、自後陣方、所持退御輿、公卿起退了、左右大將居南北、左在南也、他次昇立御幣神寶等、此間、主上供小饌、御破子、余陪膳、又供腋御膳、陪膳左大將也、供了、供御手水、便余供之、次着御々拜座、經北〔面〕間、四面裝之、然而、引、眞半帖、本居、就向也、正爲、向社頭也、次實明獻御笏、又供御贖物、役供五位、人親國也、次宮主於都〔屋〕北面妻、獻御麻、頭中將持參之、撫了返給、於初所返宮主、令取之着座、次上卿右大將、進自

南方、着_二使座_一、使座在_二宮主座_一也、次牽_二立御馬_一、此間、攝人形、給_二前庭狹、北上_一、次宮主御杖了退下、次撤_二御贖物_一、引_二出御馬_一、次使取_二幣立_一、跪_二儀_一、取_二一本_一、主上向_二乾兩段再拜_一、了、余咳嗽、使置_二幣小退_一、跪_二拔_一、着_二圓座_一、着_二右_一、次權中納言兼光、督_二也_一、取_二副插頭花於弓_一、自_二北方_一進來、插_二使冠_一退下、次使起座、直出_二西幔門_一、余召_二宗賴_一、仰_二別當賞_一、任_二律師_一、別當、追_二次上卿參_一社頭、入_二南門_一、此間、主上解脫給、余不_レ儲_二休蘇_一、依_二度々例_一、或有_二儲_一、休然而還_二於_一、蒔屋良角、爲_二休所_一、於_二件所_一着_二儀_一、先例也、而今日一切無_二其儀_一、如何、職事之未練歟、行事所之不覺歟、然而、余不_レ尋_二之_一、戊剋、社頭事了、先是遣_二使歸參_一、於_二西幔門下_一、付_二宗賴朝臣_一、申_二御願平見也_一、使歸參、於_二西幔門下_一、付_二宗賴朝臣_一、申_二御願平安了之由_一、仰_二聞食了之由_一、先是、着_二御御裝束_一、左大將、并_二信清朝臣等候_一、之、舞_二二曲了_一、未_レ終_二今二曲_一、次撤_二公卿座_一、并撤_二西幔等_一、次召_二宗賴_一、召_二公卿_一、然間、上卿被_二奏_一見參、長房奏_二、簾中內侍取_二之_一、余見了、覽_二主上_一、返_二給內侍_一、取_二副杖與_一文、返給、長房取_二之退下_一、次公卿着座、次舞人上_二御馬_一、南_二次更北_一馳、其實一切不_レ馳、次公卿起座、次如_二本立_一幔、其後、良久、公卿不_レ列立、此間、內侍取_二御贖物_一、居_二輕幔_一、仍召_二宗賴_一、問_二之_一、申云、列_二立御前_一之後、可_レ給_二祿之由_一、上卿霍執

云々、余云、何年例哉、縱臨_二期雖_一有_二違亂_一之例、全不可_レ被_二追用_一、或說候_二馳_一御馬之座之時、給_二諸卿祿_一云々、未_レ聞_二列_一立前庭之時給_二祿_一、持_二祿列立者例也_一、列之後給_二祿事_一、未會有歟者、仍於_二南_一幔邊給_二祿_一、余祿、頭中將實明持來、即持歸、給_二隨身_一、次公卿列立、次寄_二御與_一乘御、明役_二劍座_一、實_二次還宮_一、有_二鈴奏_一、名對面等事、入_二御本殿_一之後、余書_二行事官賞_一給、宗賴退出了、于_二時亥刻也_一、

今日、供奉公卿、

右大將賴實、

左大將良經、

藤中納言定能、

左衛門督通親、

權中納言泰通、

右衛門督隆房、路頭許、

右兵衛督兼光、

別當能保、

左宰相中將實教、

社賞、

別當丞信、奏經卿子也、任_二格律師_一、

權別當覺什僧都、追可_二申請_一、

行事官賞、

正三位高階泰經、

藤原光雅、參議、

從四位上藤原公房、曾祖父太政大臣、保安二年春日、行幸行事、左大臣息中將也、

藤原定經、行事辨、

從四位下藤原資賴、右大將、

正五位上小槻隆職、史、

中原師直、外記、

十四日、戊子小雪、及晚晴、光綱來申、條々事、此日、法

印被來、入夜大夫史隆職來、申慶賀、泰覺來申、條

條事、此日、左大辨定長爲院御使來、令宮元服之

間事條々、被仰合也、

一御袍色事、

定長云、舊記云、黃袍云々、又云、淺黃云々、謂淺

黃、薄き黃色也、非綠色、隨又或文にも、染淺黃之

處に、刈屋頂を出せり、爰知、謂淺黃薄黃也、代々

〔記〕稱黃衣、已以符合、而保延、法皇者給綠色、

見親隆記、又院自慥著綠色之由有仰、又寛治、

輔仁親王元服之時、大殿依令申給、爲綠色云

云、保延任彼例、故殿令申之由有所見、然者於

道理者黃衣顯然、於近例者綠色也、今度可

就正說歟、可依近例哉、可令〔計〕申者、

余申云、恩意所存、正說即淺黃也、是綠色也、其故者、長

玉葉卷六十二 建久二年十二月

七百五十七

和二年權大納言記云、着黃衣、其淺黃也、世稱之黃衣、如此文

者、無疑以綠稱淺黃也、其故、只爲黃色、何

故可有此注哉、爲不令迷後代之人、聊錄

子細、實故賢之用心、尤足歎美、若只爲黃色者、

子細之注錄、無所據、殆有重言之難歟、彼此之

人、更不書無益之一筆、況於如行成哉、上古之

證、以之爲足、至于式文者、即淺黃也、聊可

有黃氣、近代、偏薄標色、已是誤也、然者、淺黃之

染草、出刈糟、全非疑殆也、何況、寛治元年故京

極太閤記、慥注綠色之由、是又中古之證據也、永

久、花蘭左大臣、元服袍爲綠之由、見中御門右大

臣記、保延之例、可謂規模、然則、縱雖無他例、

縱雖爲失誤、被追保延之日、爭不可違其例、

況於有他例哉、況於行成錄子細哉、上古、中

古、近代、皆以有其證、今度、不可及異議、可被

用淺黃也、綠色也、者也者、

一同文裏、并闕腋縫腋事、

定長云、保延親隆記云、文雲鶴闕腋云々、不注裏

有無、永久爲隆記云、無位袍、單無裏云々、今度如

何者、

余申云、於_レ文者、保延分明者、只一向可_レ被_レ追_二其例_一、或記、字治左大臣記也、然而不顯其記也、注_二葵之由_一、然親隆奉行云云、專可_レ被_レ用_二其說_一歟、但闕腋之條、頗不審、於_二童服_一者、闕腋也、元服以後、用_二闕腋_一之條、其理如何、隨_二代々記_一、不見_二此事_一、猶可_レ被_レ尋歟、裏事、保延一定、其裏平絹之由、有_二所見_一、可_レ依_二彼例_一歟、一加冠祿事、

定長云、代々例、賜_二御衣_一、今度御出家以後、不能_レ給_二法衣_一、永久、花崗之時、總無_二祿_一、只被_レ引_二御馬_一、今度如何、

余申云、保延例、專不足_レ被_二追用_一、於_二大掛_一者、必可_レ給、其上可_レ被_レ加_二織物細長_一歟、又女裝束歟、私家元服之時、給_二女裝束_一、可_レ被_レ准歟、但法皇之宮、已無_二妻后_一、仍此儀不_二相叶_一歟、猶可_レ給_二女裝束_一者、女院同居、若可_レ被_レ寄_二事於彼御方_一歟、愚案、猶織物細長被_二相加_一、雖_二新儀_一、不可_レ有_二巨難_一歟、只例祿ばかりにては、拜之間、頗似_二無差別_一歟、事了給_二諸卿祿_一之時、大掛也、略議雖_二無祿拜_一、保延例也、正禮須_二有祿拜_一也、而加冠祿、混_二合此祿_一、頗_二及_一凡庶歟、仍以_二新儀_一可_レ被_レ加_二織物_一之由、所_レ存也、

女裝束織物之間事、可_レ在_二時議_一、一理髮祿事、

定長云、先例、皆加_二給御柏_一、今度不可_レ給_二御衣_一、只掛許歟、如何、

余申云、猶大掛外可_レ加給_二歟_一、於_二理髮_一者、猶賜_二御柏_一宜歟、即給_二親王服_一之條、無_二其妨_一歟、曾雖無_二例_一、今度之儀、又新儀也、事不可_レ有_二巨難_一之故也、於_二加冠_一者、已丞相也、給_二親王之舊衣_一、無_二禮_一、於_二理髮_一者、不可_レ有_二此憚_一之故也、

一勅使祿事、

定長云、保延給_二女裝束_一、今度大掛歟如何、

余申云、大掛可_レ宜也、其故ハ、加冠祿、雖可_レ賜_二女裝束_一、依_二法皇之儀_一、又無_二女后之故_一、被_レ止_二女裝束_一者、至_二于勅使_一、又同前也、若又猶依_二女院御在所之儀_一、加冠可_レ賜_二女裝束_一者、勅使祿、同前之條、又似無_二用心_一、仍旁大掛宜歟、被_レ加_二袴之條_一、可_レ隨_二體_一、若可_レ依_二四位五位_一歟、但如此之勅使、殊不見_二給祿之例_一、然而、又可_レ依_二事歟_一、且可_レ被_レ勘_二先例_一、一總角人、并祿_二之_一事、

定長云、保延忠能朝臣、四位、給_二祿_一、掛袴、今度經

家卿歟、〔可被〕持四位歟、如何、

余申云、被追保延例者、四位侍臣勤仕、任例給祿宜歟、袴之條、可依位也、爲四位者、可給也、

一三宮元服事、

定長云、雖可爲同夜、先例不快也、仍明年可有之、而正月御忌月、二月冷泉院例如何、

余申云、一度兩人、尤得便宜、然而、可被避例者、又可在時儀、明年二月、冷泉院已吉例也、專不可被忌避〔歟〕、凡又雖何月、更以不可及其難事歟、只可隨時之宜也、

已上、被尋問一事如此、

余仰定長云、法興院領備前、勅使棟範知行、前周公勘責之間、此所知、又收公、不被勤寺用、寺家觸申之處、不可有沙汰云々、此事如何、法興院之佛聖此時始停止歟、氏寺事、不可依棟範之、奇怪事歟、

又宇治臣倉供僧良豪、不被切供田、是爲不用長者任符也云々、仍已欲離寺、爲之如何、件兩事、早可傳前攝政、不肖之者、長者之時、氏寺

煙滅、付冥顯、尤不便、又可爲罪業歟者、定長申、早可達之由、今日、候八條院之小童來、即歸參了、

十五日、己〔天〕晴、親雅、宗賴、光綱等各來、申條々〔之〕事、

十六日、寅〔天〕晴、此日、東山南殿世謂之法住寺殿御渡也、酉刻爲吉時云々、又資實、秉燭之節可出御之由示

送、仍酉刻、着束帶、參六條殿、先是、右大將賴實、新大納言忠良等、在上達部座、余入自座末妻

戶、着端座、若端座之人、須經西實子也、然而、且隨便經庭中也、即以經仲申入

之、大將云、事皆具了、被待御參云々、其後良久、此間、左大將參入、着與座末、猶依移刻、招經仲示

云、吉時酉亥云々、戌不宜之由承之、猶經程者、定及戌刻歟、此間日入申、仍秉燭之後、猶爲酉刻也、可付便宜者、經仲

參御所方了、小時、經仲來、告御裝束成之由、仍三卿起座、即定輔朝臣、告出御旨、元自取松、在御車之邊、今自庭來告之、余

參入、問御反閑了哉否、申訖之由、仍寄御車、召定輔、經仲等、令懸打板、此間、公卿列居前庭、其實、只粗

實一人也、他人皆立先行乘馬云々、大將欲進之間、已乘御、仍進行了、余先擡御簾、法皇出御、次又擡御車簾、法皇乘御了、余出自中門廊南妻戶、

着沓懸待之、公卿皆乘馬了、御車遣_{中門外}出中門之間、余降_{居庭上}、_{中門外}御車出了、於門外乘車、候武者所下北面輩等之後、經六條河原等、到南殿西面門、御車遣入南面門、余入自北門、_{西面北門也}、參會、御車到南階前之次、余自簀子參上、塞御簾下御、_{先院司懸打}入御、_{又極}之後、余依有所勞、直退出、_{俄路邊之}出北門之間、二品參入、余乘車之間、下人狼藉殊甚、然而不及殊闊諍過了、兼問此由者、過彼參、可退出之處、於門下一相逢之間、更不能歸入、頗無便宜者也、即歸宅、依頓病、不候殿上襲座、早出也、今日、丞相不參、如何、三人皆現出仕人也、就中、右大臣不參、尤奇怪、且又大臣不候、獨候殿上、頗無便宜歟、後聞、自余處從雜人之中、松一二把、投懸彼共人之中云々、此事驚奇、其庭兼光卿相交、仍以使遣件卿許、問子細、_{彼卿二品也}、雖不及此問、且面彼卿、見此事、爲證人也、_歟、凡近代之事、無是非、仍爲後所仰遺也、但以此事、不爲要、明日上表、并扈從之間事、爲宗所仰遺也、其次、爲見事形氣也、勿論無爲之由、有返報、尤神妙歟、今日無擬云々、此夜、大風頻扇、

十七日、_卯〔天〕陰、雪降、入夜雲散月明、此日、辭攝政第五度表、_{復辟第二度也、依寬治例行之}、作者右兵衛督兼光卿、_{寬治、四度長例也、清書伊經〔朝臣〕、使左少辨宗國朝臣、_{寬治、四五兩度、右例也、}勅答使左少將成家朝臣等也、未刻、公卿少々來、作者卿同以來、仍余着冠直衣、出賓筵、_{先度、東依爲宮御方、以四郎爲公卿座、然問、勅使來臨之時、依無便宜、更以宮殿上前廣庇、爲勅使來臨之處、兩方相交事、無便宜、仍今度、一向懸以宮殿上方、}左大將、_{衣、右兵衛督兼光、同、大宮權大夫光雅、_東等許也、_{經房兼忠、元領狀、長兼良等過參、余目兼光卿、經廣庇、入自余座當間、仍只三人也、}授表於余、_{無禮紙}、余披置、使兼光卿讀之、即經本路復座、次余賜表於大將、指寄光雅、同時見之、見了返上、余召長房給表、仰可愈清書之由、此間與人々言談、余仰長房、令進函檄紙等、長房云、漸欲書終表者、余云、內大臣許可、遣人不待丞相來臨、早議畢之條、預似失來臨之詮之故也、又勅答上卿已參陣哉否、可問遣之由仰之、此間、兼光卿退出改服、爲歸參也、日已欲入之間、內大臣來臨、着端座、先是、余召見表清書、長房持來筆、余書入署名、返給筆了、次以表授內大臣、內大臣見了、欲授左大將、然而、余乞取加裏紙禮紙等、_{井四枚、如例、}}}

納函、又以檀紙四枚、裝之、指寄左大將、自座中、進方居也、依內府在座也、相共裝之、結中如例、大將、復座、以長房召使宗國朝臣、持笏、參上、余授表函、宗國捧笏取之、參內了、次召清書於前、給祿、大將一領、諸大夫取之、散位爲云々、此後、與內府交語、余問云、今日出仕、可用代劔哉、常所帶只蒔繪劔也、而今出仕非拜賀、被下關白詔之後、始出仕、參內之路、用敷政門、公卿有慰從、大略如拜賀、家習頗刷之時、雖非拜賀、用螺鈿例也、於先例者、無所見、於恩案者、螺鈿可宜、賢慮又如何、答云、如仰被用螺鈿、不可有三事難者、其後談他事等、秉燭之後、被歸了、余又歸入、此間定長來云々、其後兼良來、又兼光歸參、此間大內記長守持來、勅答詔書等草、見了返給、只內々以人仰下傳覽也、清書不可持來之由、其後、良久及戌終、勅答之使、右少將成家朝臣來、余先是着束帶、螺鈿、右文帶、居地平結等也、向中門廊之妻戶儀中、長房來申、勅使參來之由、余即出自件戶、大將、降自中門內方、徒跣、到勅使前、跪捧笏取函、右迴歸昇、入妻戶內了、出東底座、件所、宮殿上廊東底也、立后之時、用四位侍從、座之、呼兼光卿、他起座了、不可、令讀勅答、蓋寬治之佳例、匡房讀

之例也、即召長房、給函、納、勅、此勅答、即載關白萬機之由也、次以長房召勅使、勅使昇自中門廊、經同西緣、着椅子、即余出自同戶、降自初所、前、隨身持松明、進參、出砌外、頗北進、當椅子程、拜舞、左中將兼宗朝臣、獻香也、先、勅使訖歸昇、入初戶了、余昇降之間、大將降、居中門、下也、殿上人等、在中門外、次長房仰諸大夫等、改御裝束、數座如例、西座、次一、次以長房、召中使、々々經透渡殿、着西座、次余出自初戶、着東座、次三位中將兼良卿、持來祿樹、白掛、余乍居捧笏取之、更起到勅使座前、跪與祿、拔笏復座、提如、次勅使取祿降自中門內方、出砌外、再拜、勅使降堂之間、余起座歸入、不受拜例也、次又諸大夫、改御裝束、兩座弘筵等、皆悉撤之、格勅者、撤也、卷公卿座端簾、如本舉掌燈、次余出座、大將已下着座、次有吉書事、先官方權右中辨定經朝臣、攝慶國年、勅解由次官親國、寬治、次藏人方、時範例也、臨時公用、已上每度、長房先申其人候之由、次政所、長房、美濃、次人々起座、列立中門外、大將、并兼良卿、余降自中門內方、兼宗、獻香、出中門、兼光、光雅、定長、三卿、於門外乘車、三位中將、兼良卿、四院、東山、以定長卿入見參、依御遊之間、無御前召、後日必可令參云々、即參內、入自左衛門陣、

院參々內之間、經床子座前、上宮在座、各居地、對上首、
忠季取履、經床子座前、隆職、師直平伏、對上首、
〔小〕揖而過、從、國身相即經陣座前、中門外、弓場殿代
〔等〕昇自小板敷、有着殿上御椅子下、即起座、
參朝餉、寬治例也、或、少、小時、下直應、殿上人等、皆可取、
取之、各不存、宗賴來云、叙位除目雜事、准攝政儀一行
之、餘於、宗余早仰可宣下之由、宗賴向陣宣下、
上卿、余歸入、宗賴歸參之後、又出座、有吉書事、先官
方定經朝臣、議校國、藏人方宗賴朝臣、臨時公、各長房先
申事之由、左大將在座、於直應、無政所吉書、先例
也、次長房持來官外記宣旨書、先外記方、各入官、余留文、
同、隆職、師直等、各申、不、知之由、仍准他事、留、之、次左大將起座、赴陣下吉書三
通、藏人方一通也、余歸入、寬治二年後二條殿爲內大臣
被下之例也、余今夜宿候、是又先例也、入夜有立
願事、
今日、勅答詔書等、上卿大納言實家卿也、抑近例、只奉
覽官宣旨、不持參外記宣旨、師直豫成不審、而
寬仁、行成卿、兩宣旨奉覽之由、有所見、又憶事理
宜然歟、仍豫仰此由了、
准攝政、上卿、元點定能卿之處、依候院御遊座不
參、忽所仰兼光卿也、

今日、扈從公卿、
左大將、前近六、
新宰相光雅卿、
三位中將兼良卿、
殿上人、
左中將兼宗朝臣、
左少將定家朝臣、
前驅十二人、寬治例也、
四位二人、以政朝臣、
五位十人、兼親朝臣、
隨身謁室如例、
此夜、余參內以前、攝津守行房、爲七條院御使來、
問來廿六日可還幸本所、少將信清七、之間事、可用
移徙之儀歟、將又常行幸、但可、有、體歟、如何、余申云、
非新造、不可被用、移徙禮、有何事哉、又仰云、
可借進車者、申可進此車之由了、即下知之、
十八日、辰、午刻許、參御前、實教卿祇候、有御笛事、
明年朝親行幸、必可有御笛之由、余申之、實教云、
常有御沙汰者、蓋相叶哉云々、凡御骨法之得、天然
實可然事也、及晚退出、

十九日、巳〔天〕晴、爲逢講演、向九條堂、舍利講如例、講師範源、問者圓能、此夜夜宿、爲逢明日月忌也、又明日、院御行始、近々之間可參入之故也、

廿日、甲午午後天晴、自晚頭雨下、入夜甚雨大風、此

日、法皇御渡以後、初度御幸也、便渡御宸勝光院南萱

御所、即被用御渡也、未刻、余着直衣、此車、隨身、上、禰冠也、參

院、祇候西公卿座、以定長卿、入見參、仰云、今日發

事也、其方、定風早からん、此方可參云々、即相伴

大將、參御所、定長云、可祇候長講堂内云々、仍余

入堂中、居佛前、定能卿來、談雜事、其後經數刻、

御所未成、仍遲々云々、再三被遣人丁之由、忠行來

告、件御所、通親卿以、加賀國、力、發之、日沒以後臨幸、御車寄、常御所西面

意中、余寄御簾、出御西面北門、到萱御所東面門下

車、先是、御車、鑾、殿南面、東、西、被、待、余也、參入、昇自中門廊、裏御簾

入御之後、余即退出、大將同退出、今日、大將着織物

指貫、着半靴、帶劔笏、他人一切不然、白川院以後、

以盡御幸爲第一晴、今度已御行始也、人々尤可刷

歎、而如野皇、上下不知案内也、又去十六日、并今

日、大臣一切不供奉、如何、就中、右大臣不被供奉

如何々々、余直歸大炊亭了、

廿一日、乙未〔天〕晴、此日、爲方違、向賴輸入道雲林院、爲本所移忌法成寺、自大炊亭、當禁忌方之故也、

廿二日、丙申天陰、午刻歸大炊亭、

廿五日、己亥天陰、小雪、申刻着直衣參院、以泰經卿

入見參、此間、定長卿來談云、法皇御不食、自去廿

日有御增氣、又御脚腫給、痛御灸治、御心地六借御

云々、然間、泰經卿來云、依灸治、苦痛無術不謁云

云、又女房二位殿云、御不食有小増、御腫相加、御看

病之間、無其隙、雖存可見參之由、不得便宜

者、余申云、猶召醫師等、可有評定候哉、又天變頻

呈、今年三合、間月在、前、旁可被修殊祈歎、如此

事、不驚御不快事也、尤可被申行者、此間、右

大臣來、談雜事、泰經歸來云、此御有様、〔實〕歎思不

少、御祈事、即以此旨奏聞了云々、其後與右大

臣言談、乘燭以後退出、參内、亥刻、左大辨、并定經朝

臣等參陣之由、長房申、仰早可見文書之由、今

日、復辟以後、初度吉書奏也、是寬仁例也、寬治、年内

無官奏、今度、不堪奏未被行、仍任寬仁例所行

也、余下直廬、改着束帶、此間見文書了之由、長房

申、即奏者辨來云々、仍余出_二賓筵_一、裝束如常長房申_二事之由_一、即令_レ敷_レ座、舉_レ燈、長房又參上、余示_二氣色_一、大權右中辨定經朝臣、捧_二香杖_一參上、作法如_レ常、爲_レ給_二文書_一、參上之時退立_二天_一、更_レ膝行參上、異_二棟範等作法_一、是余之所存也、雖_レ無_二殊失_一、屈行、膝行等作法、不知_二口傳_一歟、太見苦也、駿川、石見、紀伊等題文也、事_レ了、余招_二定長_一、示_二付大僧正兩職辭退事_一了、此次、御惱無_二別事_一、可_二奏聞_一之條々示付了、又八幡宮寺進_二切山陳狀_一、年未盡執、適以逆上、即付_二定長_一了、此上下_二興福寺_一、即可_レ遂_二問注_一之由、可_二下知_一也、其旨可_レ奏之由仰了、及_二深更_一退出、

廿六日、庚子〔天〕晴、此日、二宮御元服也、守良親王、世於今宮法皇六條宮、有此禮、加冠左大臣、理髮頭中將實明朝臣云々、余不參、一向被_レ追_二保延例_一、法皇御元服也彼度、加冠左大臣有仁、故殿者不_二參給_一、仍不_二參_一給也、未刻、大將先來_二此亭_一、即參入了、依_レ召進_二袍笏等_一、使藏人右衛門權佐長房也、大文表衣、打裏、帖襖、用正儀置_二蔭繪衣宮蓋_一、以_二打裏_一、新道之、也、以_二檀紙二枚_一、也、加_二納宮內_一、納_二長櫃_一、赤衣仕丁、持之、相_二副下家司_一、保延以_二中將憲俊朝臣_一爲_二御使_一、今度催_二伊輔、忠季等_一之處、各或服

暇、或故障、不_レ來、仍所用_二長房_一也、是內々事也、全以不_レ備_二禮儀_一、只隨_レ便而已、

後聞、御袍、綠色縫腋云々、加冠左大臣、拜之間、有_二去留之揖_一云々、此事不審、定有_レ例歟、然而、道理不可_レ然也、實宗、親信等卿、扶_二持親王_一云々、

廿七日、辛丑雪降、宮御方有_二雪山_一、依_二院御惱不審_一參入、殊事不_レ御云々、以_二泰經卿_一、被_レ仰_二除目之間事_一、條條又言上、大略、今度除書、冷然歟、尤爲_レ悅々々、世上之風聞、皆珍事也、怒氣之處、已無爲無事也、凡御惱之間、一切不可_レ知食、只可_二計沙汰_一云々、但前攝政息、可_レ被_二拜_一三品、如何云々、申_二可_一然之由了、太早速歟、不_レ能_二抑留_一、

廿八日、壬寅〔天〕晴、此日、京官除目也、准攝政宣旨以後、依_レ爲_二初度議_一、大間不_レ載_二復任_一、又不任、重服、觸穢輩、并故者御給、名替、國替等、已是先例云々、執筆左大辨定長卿、清書上卿源中納言通資、參議光雅等也、召_二仰上卿右大將賴實_一也、已刻、着_二直衣_一參內、即內_二覽申文_一、不覽、殿方申文、職事三人、爲_二家司_一、其外不_レ召_二加他家司_一之故也申刻、書_二調雜任等_一、以_二宗賴朝臣_一進_二院了_一、良久不_レ歸來、次有_二叙位_一、事了退下、召_二清書上卿_一、可_レ給_二大間叙位成文_一、加

次召宗賴、可仰上卿之條々仰之、今日被補檢非違使別當（兼光）

戊刻、南方有火、七條坊門油小路云々、坤風頻扇、法

皇宮（六條西洞院也）有危、仍促、忽營參、風忽變、焰赴東御

所、無恐、但以實明入見參、雖有恐、無爲悅思食

云々、即以泰經、又被仰同旨、今日、依長講堂供

養（尊師公顯僧正、說衆八口、公卿內大臣已下濟々焉云々）御東山、乘燭還御、燒亡周

章之間、宗賴未奏任人事、只今泰經伺御所之間

也云々、

余示泰經云、若有可承之事、可候、不然者、

欲歸參如何、示可候之由、仍祇候執筆定長在風

下、仍遣隨身下薦一人、歸來云、雖有恐、風直了、只

今所參入也云々、即以參入云、先日、大僧正事、令

申之、次、勅定云、僧正轉任事、思煩了、難治第一之

事也云々、此間、定能卿來語云、大貳辭退、密々出

所望了云々、余內心恐案、在親信卿、辭納言、可

被任都督、可爲上計歟、但件卿期亞相云々、

可悲之世也、良久、泰經歸來、條々有仰旨等、然而、

遂以無珍事、即歸參了、即書任人折紙、着束帶之間、且仰召仰事、（上卿右大將）次出居賓筵、（現實盛中、又置三十年勞、各）

（置座左方、余引、道右方、依無偏宜也）召五位藏人親國、召人々、右大將

賴實、參議光雅、公時、定長等來、着座、（十人、中納言一人不參、未嘗有々々々）

次權右中辨定經朝臣、右少辨資實、藏人右衛門權佐長

房等、置宮文、（定經以親宮、置座東傍、仍余指示、令置座前也、又忘却、不按、（旁）逸失非一、）

如、次召執筆、々々着圓座、次第如例、院宮御申文、

并下勘未給事、共召定經朝臣也、進院宮御申文、

之次、給可袖書之申文、執筆復座、加袖書之間、

余又被見御申文了、即又執筆袖書了、下勘之後、余

又給御申文、（和副他申文、并任人折紙等）事甚有便宜、課試及第勘

文載記傳三人、而先可被任上薦二人之由、外記

令申、仍以親俊有兼、任諸司助、而定長申、驚親綱

事、尋外記之處、無同時三人拜任之例、仍可被

任二人也云々、重仰云、猶可勘申其年例者、其後

良久、分明不令申、然之間、卷大問了、仍下名之

時、可有沙汰之由仰了、次有叙位、事了退下、召清書

上卿可給大間叙位成文、（加納）次召宗賴、可仰上

卿之條々仰之、今日被補檢非違使別當（兼光）

今度除目、院宮給、皆衛府也、尤奇怪事歟、雖奏此

旨、無御承引、八條院、般富門院等御給之上、進成

功、各任衛府、尻付只注御給、不載功之由、執筆

問余、々仰可_レ在意之由、猶問、仍答子細了、瀧口任_二初負尉之時_一、近例、範國如此也、注_二功之由_一、是瀧口任_二左右衛門尉、曾無例之故、爲_レ願_二募成功之由_一也、是猶有_二世毀、況諸院宮給、有此例_一、太不可_レ然、何況其功僅濟半分云々、太見苦事也、但於_二尻付者_一、院宮給、任_二兵衛尉_一、已有例、仍不_レ注_二付成功之由_一也、

又神祇官進_二連奏_一、而權大祐已下無闕、皆刺任也、仍只任_二大祐一人_一、不_レ任_二殘也_一、權大祐清定、先日任_二權大祐_一、而大間任_二大祐_一謬也、仍今日仰_二清書上卿_一、加_二權字_一了、

又以_二院內官未給_一、被_レ申_二內舍人_一、此事如何、仍申_二子細_一、可_レ隨_二仰之由_一、仰_二宗賴了_一、御給_二三分也_一、內舍人_二二分也_一、仍以_二外國二分代_一、被_レ申_二例也_一、未_レ聞_二以_二內官未給_一、任_二內舍人_一例、公家雖_レ不_レ及_二抑留_一、爲_二本所懦弱_一也、仍一旦可_レ奏_二子細_一之由仰了、下名之時、隨_二御定_一、可_レ有_二沙汰_一歟、若可_レ任_二只以_二臨時內給_一、可_レ被_レ任也、右大臣不_レ知_二除目_一之故、有_二此失_一歟、余免_二清書內覽了_一、逐電退出、

廿九日、卯、癸〔天〕晴、澄憲法印來、又無勅寺法印來、各謁談移刻、及_レ晚宗賴來云、右大將以_二消息_一被_レ言、任_二

諸宮〔任〕御給、不_レ任_二院御給內舍人_一如何、非_二善政_一歟、若依_二傳仰人_一、有_二用捨_一歟云々、即以_二去夜御定趣_一、且答申了云々者、次第勿論、以_二此次第_一、今夜可_レ奏之由仰_レ之、此外條々仰了、然間、右大臣送_二使於宗賴云_一、此事尾籠也、不_レ可_レ披露云々、身帶_二丞相_一、又執仙洞之雜務、兼_二御厩別當_一、知_二行數_一所領、剩給_二熟國_一、只爲_レ先_二欲心_一、敢不_レ知_二公事_一歟、自現_二不覺_一、放_二言人_一、今又祕藏、是賢人歟、佞人歟、未_レ辨_二是非_一而已、寄_二事於院御威〔風〕_一勘責之儀、太恐懼之由、儘可_レ答之旨仰了、可_レ彈指_二之世也_一、今夜召_二夜居僧_一、四降弟卅日、甲辰陰晴不定、此日下名也、

閏十二月

一日、乙巳去夜下名、又有_二上階_一、定輔三品、未曾有事歟、兼忠一身漏、實以不便、凡今年除目叙位、每度非據、實非直之事歟、

二日、丙午〔天〕晴、此日、法皇三七日御逆修初日也、仍午刻參院、國身上就冠座車於_二長講堂_一有_二此事_一、余依_レ召_二祇候_一簾中、御導師公顯僧正、說法之間、聊有_二涉_一禁忌之〔間〕事歟、請僧十二口、公顯其外護廢師也、右大臣、內大

臣已下公卿濟々焉、皆直衣也、說法了退出、人々猶祇候、爲逢懺法例時等也、

三日、未今日御逆修、每日講澄憲法印、昨日御佛事、只一度許云々、今日說法、萬人拭淚、法皇萬歲之後、天下之人有様、人民之愁歎等、悉演說云々、

四日、戊此日、小除目也、被任內藏頭也、未刻許、自

院有御書、被仰合（內）藏頭任人事也、申所存了、入夜向九條之間、於途中、宗賴朝臣來逢、於車中披御書、只注給任人也、仰聞宗賴、即向九條、依明日一品經事也、今日除目、上卿源中納言云々、

法成寺、平等院執印慈圓法印、被辭申、仍可返付覺尊之由、（必）內々以觀明法橋、仰遣了、（此事于細端多、不能記、付法印辭退、其志甚深、可々々々）

五日、己天晴、此日、奉爲故女院、奉供養一品經、

又副供養佛像一鋪、（釋迦、彌勒、地藏、件經、入道關白已下、一族之輩、并男女舊臣、皆悉勸之、余分勸發品、有所思、手自書之、破前院手書、漉料紙、其色濃標也、（紺紙移手又易破、仍選今案、所令漉川也、尤佳々々）以金泥書之、表紙同色、其繪如常、金泥經、水精軸、十八品、開結經、心經、阿彌陀經、轉女成佛經、）八名經、都盧卅四軸、各副

捧物也、依指合院御講、秉燭以後、澄憲法印來、即始、上卿等着座、（藤中納言定能、大宮權大夫光雅、左大辨珍重、太自常、實是當時之逸物、緇素之才藝、未如此師之說法、先世之感報也、不能左右々々々々、但今日所存之意趣、兩條略了、尤遺恨、老侵事繁、令忘却一歎、）

抑今日佛事、有深意趣等、不遑具記、委見願文、余惣已之後、十二月、爲神今食之齋、仍彼御忌日、不逢佛事、爲恨之處、今年十二月有閏、雖非正忌、又不准他月、仍空難過、今日惣所修微善也、即始自今日、一千日之間、仰十口侶、（給小衣、可滿三千部轉讀也、此等其大概而已、子刻歸大炊亭、覺尊法印返事、觀明來示、歡喜悅豫、無物于取、喻云、）

六日、戊雨降、依官奏、秉燭之後、着直衣、參內、暨候御前、下直廬、改着束帶、出座、（或荒奏布袴也、隨宜耳、）權右中辨定經朝臣、御奏如例、屈行膝行太見苦、又進文之時、如著座之時、居天進之、未聞之事也、又膝行、更不突右膝、只蹲居天步也、又起座之揖忘却了、每事不足言、今日、參內以前、親雅、光綱、長房等、申條

條事、左大臣以_二大外記師直_一示送云、公卿分配事、隨_二先日御定_一、余預仰_二于細也_一、欲_二申行_一、先例不_レ入_二分配_一之公事如_レ之、注折_二紙_一、此中、兵部省手番、爲_二藏人方沙汰_一、外記不_レ知_レ之、又射遣臨時處分也、除_二此兩事_一之外、皆悉可_レ入_二敷_一、又放生會可_レ入_二篇目_一、例禁春日祭、只入_二篇目_一、不入_二其人_一、如何、余云、兵部手結、射遣之外、皆可_レ被_レ入_二其故_一、釋奠者、禮須_二卒參_一之公事也、然而、入_二分配_一、以_レ之准_レ之、御曆奏被_レ入_レ之、有何難_一哉者、此日、荷前擬侍從位祿定、所宛申文、不堪申文等被_レ行也、事了退出也、

十一日、丙辰奈良禪師來、有_二堅義事_一、自_二院資實爲_一御使來、御惱事、并役夫工事等被_レ仰也、御祈事等、條々存旨言上了、禪師所作太珍重、幼年之者、可_レ感々々、是皆大明神之冥助也、將來有_レ之者歟、

十二日、丙辰午刻參院、以_二泰經卿_一入_二見參_一、即以_二親能朝臣_一有_レ召、講演已始、其路又無_二便宜_一、仍自_二御所內_一參上、候_二簾內_一、天王寺別當僧正、并正護院宮等被_レ候、又女房二品出來、謁_レ之、問_二御有樣_一、御不食之上、御痢病相_二加之_一、大略憑少之牒令_レ存_二敷_一、講了、今日覺也、異樣_二即退候_一、便宜所_二廢殿_一、召_二間賴基_一、時成等、所_二申_一

又難治歟、右大臣同在此座、祈療之間事、存旨示聞了、以_二資實_一申_二醫師申旨_一、并愚趣了、即退出了、向_二九條_一、此夜宿_二此堂_一、明日爲_二節分_一、可_レ來宿、而依_レ當_二太白方_一、自_二今夜_一所_レ宿也、依_二昨日院宣_一、役夫工行事、辨定經可_レ持_二參庄公濟否注文_一之由、雖_二仰遣_一、申_二未_一注出_二之由_一、猶不日可_レ進之旨、重仰遣了、

十三日、巳丁天晴、此日召_二禪師於_レ堂_一、行_二小講演_一、問答成敗不_レ異_二成人_一、猶々可_レ感、入_レ夜定經持_二來役夫工濟否注文_一、有_二可_レ直事等_一、仰_二子細_一、明日可_レ持_二參院_一之由仰了、此夜、宿_二賴輔入道北家_一、爲_レ達_二東方_一也、

十四日、戊午未刻參院、以_二資實_一入_二見參_一、此間、右大臣出來、平禮_二直衣_一云自_二明日_一與圓可_レ修_二尊星王法_一云々、七佛樂師法、依_二度々不快_一、建春門院_二高倉院_一、仍不_レ可_レ被_レ行云々、此事奇異々々、又云、勝賢同自_二明日_一可_レ修_二佛眼法_一云云、一昨日、右大臣云、勝賢可_レ修_二如意寶珠法_一之由、令_二申云々_一、余云、未_レ聞_二其言_一、院法之外、顯露稱_二其名_一、被_レ行_二此法_一、例、但定有_二所存_一、_二敷者_一、而今日聞_二此旨_一、叶_二愚案_一了、猶其實雖_二爲_一、_二件秘法_一、僞稱_二他法_一之由云云、先日、右大臣說、尤不審、勝賢思返歟、右大臣說言

歟、即依召參、聽聞之所、今日第四七日、被供養、養熾
魔王、導師祐範律師、說法中品歟、事了退出、以泰經
尋動靜於女房、今日、頗御病病有、疏之由所示也、崇
德院、并安德天皇等、崩御之所、建一堂、可資彼御
菩提、并亡命之士卒滅罪之勝因、事、可申沙汰之由、
仰泰經了、即退出了、此夜、又召禪師於宮御方閑
院、有問答事、其所作陪於昨日、實非直也事歟、不
堪感荷、召其師匠圓長律師、被直垂一領、又信家、
故家通定玄、定能、有番論義、實優美者等也、

十五日、己未天晴、以經圓、平等院等事、仰遣覺尊法
印之許了、及晚示返事、今日、宗賴光綱等、申難
事、又兼親申季長申狀等、親雅申、氏院難色罵言、藏
人頭之罪無實之由、禪師今日歸南都了、

十六日、庚申天晴、法皇聊六借御云々、午刻參院、以
資質入見參、依召參、聽聞所、宮達被坐、今日導師
聖覺、今日始聽之、其骨得天然、足感歎、召醫師等、
問御惱之安否、御腹張痛、始如當月妊者、又御腰股
腫無減之上、御腰猶腫給、昨日又御面小腫給、御病度
數雖有減、其脉太不得心、不覺而洩云々、是不快
之相也、御不食猶未減、乍帶件四腫病氣、力不衰

微、起居輕利、行法轉經如日來、死相一切不現給云
云、又隨服藥、御惱陪增、偏邪氣所爲云々、
以右大臣被仰下云、崇德、安德、兩怨靈鎮謝之間
事、且而問例且尋人、可令計奏者、此事余先日退
出之間、次參內、

十七日、辛酉雪降風烈、未明、人傳、法皇有事、余不信
此事、果以浮言云々、未刻參院、以定長申入、此次可
被行赦令之由奏聞、明日可直歟、仰云可、然早
可申沙汰者、詔書之趣如何、御逆修之由、若可被
載哉、仰云、可依先例者、依召參例所、宮達祗候
如日來、今日五七日也、導師證憲法印、被供養、養木
像千手觀音、并廿八部衆形像也、中尊一尺六寸歟、每
七日御佛、皆如此、說
法珍重、不能左右退下了、次謁右大臣、今日頗宜
御坐云々、去夜、病病度數僅兩三度、今朝又同、中將親
能云、去夜聊有御膳專云々、人氣色頗安堵之體也、
與右大臣、暫言談、退出了、去夜、入道左大臣薨逝、日
來之病也、中宮御匣殿、今日退出、
十八日、壬戌雪降、此日、院御逆修御法事也、導師前大僧
正公顯、詣衆入口、此中、僧綱二口、被供養金泥兩界種子曼陀
羅也、未終、相伴大將參院、余及大將、共引移馬、大將日
來依所勞、不出仕、今日所

也。先是事始、仍直著堂中座、先是、太政大臣已下、公卿卅餘人在座、余日來依仰、於簾中聽聞、今日依爲儀式日、出座者也、于時導師登禮盤、總禮之間也、其後法事如例、說法優美、更不惹、生年八十云々、事了被引布施、太相國已下取之、太相國、左丞相、右大臣、內導師被物十重、其外物十餘種、敷衆只一重、一疊也、不似兼日風聞、頗以冷然歎、今日無別御願文、併被裁、初日御願文之故也、從僧撤布施、僧徒起座之後、公卿退下、余同退下、謁右大臣、問御動靜、今日又宜御云々、悅思不少、此日、公家奉爲法皇御惱除愈、被行非常赦令、近例必被拘、強竊二盜、然而、今度事、可異、常篇、仍皆悉可被赦除之、且是先日、右大臣申、此旨、內々御氣色也、但觸大神宮、八幡宮訴之輩、可被拘歟、且是爲流例之上、今度御惱、爲尊神崇之由、有御占云々、兼又佐々木貞綱山門黨類事、如何、其內、遠綱事、未定云々、爲神宮神人之由、有本宮訴、仍斷罪猶豫、被禁此一人、又如何、條々以宗賴付、定長奏聞、御講中間奏聞云々、余歸出問之、仰云、如計奏可被行、但宗廟訴可拘之、貞綱緣者同之、但遠綱可免之云々、仰早可下知之由、

了、又御佛事之由、可被加裁哉否事、取御氣色之處、只可相計云々、爲宗御惱事、可加裁御逆修由、旨仰了、即余參內、相次赦令上卿大理兼光卿參陣、暨而、內覽詔書草、只載御惱之由、不載除愈之狀、但有延余難之、上卿伏理、入件句直、可清書之由仰之、小時、覽清查、余於鬼問、以查御座御硯、入御查日、十八日、三字也、返給、即退出了、抑、關白詔之時、主上有御查、於今者、可爲宸筆哉否、未勘先例、臨期有疑、理之所致、於件詔書者、依難治有此儀、准攝政宣下以後、理須關白書也、高倉院御時之例、雖問兼光卿、不詳云々、但憶事理、可如余案之由、所申也、仍余書之、今日赦、檢非違使多以不參、以院力者被釣之、十四人、即時參入云云、近代之事、皆如此、十九日、亥、風雪甚烈、爲逢例舍利講、申刻向九條、先是、山階寺別當僧正覺憲來、余謁之、明年於金堂可行常樂會、而彼會以前、先可移行吉祥御願、光明皇后、被始此事、其後、可行常樂會之由所存也、云々、尤可然之由仰了云々、禪師所作、未曾有之由、感歎無極、小時退下了、於九條講演之後、宿此

堂、

廿日、甲陰晴不定、逢故內府月忌、女房今日來、及
也、晚余參院、乘燭以一定長入見參、又奏爲崇德院、安
 德天皇等、可被建一堂於讚岐、長門等兩州一事、并
 崇德院可被預官幣、相副官外記、并裁事、左內府申狀等、只且能可
 令計奏、隨其趣、可有沙汰、且又可問人々云
 云、御惱之有樣同前、於痢病者御平愈、他事無減
 云々、即參內、此日、施米不堪等定、并和奏等也、先
 是、左大臣參陣云々、小時、定長卿參入、經數刻有
 奏、余着布袴、野飯、右中辨棟範候奏、其作法又不
 思義也、結申詞、又不審多、申上ト云詞ヲハ、々天マツ
 ルト結申、又一年同國、兩度申不堪之由、結申之、不
 足言也、又着圓座之後、下逃片足結文、是若辨
 官作法歟、可尋之、長押下膝行只一度、甚略也、未
 得其心、奏了余退出、今日、長谷寺訴事、尋內藏頭
 經仲、件男、本奉行也、件寺別當賴繼申狀、具以奏聞
 了、聞食披云々、
 無動寺法印、自今日、於彼寺修法皇御修法不動
 法云々、今日參院、即被登山了、先參中宮、奉護
 身云々、

廿一日、丑雪及尺、可謂瑞、此日、公家御佛名也、乘
 燭之後、着直衣參內、於直廬、定御導師、頭宗賴
 書之、如例、長房先是覽日時、披見之處注時、已
 忘故實歟、佛名延引之時、雖勘日、不注時者也、
 仰其由返給了、余雖相具束帶、大納言已上、不參
 不出座、乍直衣候、簾中、主上着御御引直衣也、
 公卿着座、僧侶參上之後、余退出了、
 今日、神宮役夫工等上卿（申以）事、并崇德、安德等
 事、以消息仰道定長卿許、入夜示送云、神宮上卿
 事、先可仰左內兩府、兩主事、明日議定、有何事哉
 云々、役夫工上卿事、不仰左右、尤不審也、仍尋遣
 了、
 明日議定事、仰宗賴了、兼日各不相催、只臨期參
 入之人々中、三相府之外召留、少々可有評定之由
 也、此日、仰下法成寺、平等院執印別當事、平等院事、
成寺事、仰親雅、先明日爲吉日、仍可書下之由仰了、
例、大辨書下之故也、問月可有憚哉否事、先日示合法印、今日以泰覺、
 不可憚之由所示送也、
 今日於內裏、定能卿語云、法皇猶不快御座、今日御
 膳又不通了、御腰并御腹張滿、凡無減、殆於御腰、

者、有増氣云々、

廿二日、丙寅陰晴不定、此日、院御逆修結願也、未刻、

着直衣、伴大將、各隨身、上高冠、參院、先是、左大臣、內

大臣候殿上、殿上處、爲御修法壇所、仍以尋常、余加着之、

大將同之、招資寶、欲入見參之間、告事具之由、

仍人々相共參御堂方、余今日候、少簾中、左大臣已下、

着佛前座、小時、法皇渡御、被仰可始之由、聖覺已

講爲導師、說法優美、事了被引布施、大臣不、次例

時、同聲了、重被引布施、今度、大臣已下取之、口別被物二重

之外、自餘布施、參詣已下取之、三口又口別被引牛一頭、

余歸着殿上、三丞相同前、大將退召宗賴、召着人

人、左衛門督通親、民部卿經房、別當兼光、大宮權大夫又召文

書、見下書、仰定長、令讀官外記勘文、次第定申

之、取、條圖、可被、鎮、崇德院、各定申了、仰左大辨、直令

奏、而依御寢、不能申入云々、仍人々退出了、

定趣、

一崇德院御陵邊、國、立一堂、可被置佛事、

一同尤申可然之由、民部卿申云、讚岐國、本置佛

寺、寄田園事在之云々、委可被尋歟云々、伴沙

汰、可爲院沙汰哉、又可爲公家沙汰哉事、人

人申狀不一同、但多分可被下宣旨云々、余同之、

一國忌山陵事、

兼光卿申云、此事、已上或不可然、或又同之、余

出不審云々已建廟基、擬神明、今更被置國忌

山陵、如何、人々尤稱可然之由、但可爲例之由、

仰宗賴了、

一崇德院成勝寺事、

民部卿經房、申出此事、已上人々同之、

一官幣事、

大略申可被立之由、但余重出不審云々、於被

列四度祭、并廿二社之條者、忽不可然、退委

被尋之後、可有左右、先依院御惱、臨時可被

奉幣歟、而三ヶ條可有議也、

一八任、寬和三年圓融院院或以後、被奉幣北野之例、

只自院被奉東遊走馬等、退可有公家奉幣之沙

汰歟、二八、只自公家、任永延三年北野宮初度奉

幣例、臨時可被發遣歟、三八、縱雖不例、四度祭、

廿二社等、每年二季歟、一季歟、定式日、可被立

官幣歟、此三ヶ條之間、一同可被申者、左大臣、

左衛門督、別當、左大辨等、自公家臨時可被奉幣、此內、〔左〕大臣自兩方可被奉云々、右大臣、民部卿、大宮權大夫、今度只自院被奉遣、退委有沙汰、可及官幣者、余當時、臨時之幣、公家院之間事、偏可依勅定、於此條者、殊可隨欲慮之趣也者、

右大臣申云、若有官幣者、廟號無謂、尤可有別號、川原宮可宜云々、人々有服膺之氣、別當云、廟號又不可有難云々、余云、元曆、自院被獻幣、彼時有沙汰歟、可被尋告文之趣歟、

一安德天皇御事、

長門一堂事、一同可然、國忌山陵事同前、但可依

崇德院例、

依不擬神社、無奉幣之沙汰也、

可問例之由、仰下事等、

一雖無遺詔、不置國忌山陵例事、

一不列四度祭、廿二社之社、別預官幣例事、

一被獻幣帛於廟基、若宮寺之宣命文事、

一奉祝神明之後、被置國忌山陵例事、

可被尋讚岐國事、

崇德院御陵、有堂舍、哉事、
被置何佛事、哉事、

寺領田園子細事、

余退出了、此夜、中宮欲入內、而依指合此定、明日可有入內、

廿三日、〔天〕晴、此夜、中宮御惱平復之後、始入內

給也、亥刻入御、被用絲毛御車、余着衣冠、乘毛

車、參會內裏、出御之後、白、出車三兩、皆毛車、禮須有五兩、參會也、一員如例、無女藏人女騎、供奉公卿、大夫、權大

夫、藤中納言、權中納言、右衛門督、別當前宮內卿、啓

佐成家朝臣、定忠等也、母儀二品、同車參內、余并女

房、同宿仕也、今兩三日可祇候、

廿四日、戊辰此日、以宗賴奏崇德院奉幣之間事、仰

云、自公家可被立云々、就之仰云、幣帛前數如

何、可被〔召〕加宇治左大臣歟、將不可然歟、又使

參議歟、四位歟、又兼可有山陵使哉、元〔天〕曆、自院被獻之時、被中

三陵、然者、安樂壽院一所歟、將任元曆例、可被加

成菩提院、白川院、理法金剛院、雖理可然、非成菩提院、不可然、法金剛院、院公卿使如何、歟等事、可

問人々之由仰了、今朝、長谷寺別當賴繼得業來

云、寺僧成慶、追却之時、及關靜、已死去了云々、事太

非常、驚奇不少、仰子細了、

廿五日、己〔天〕陰、此日、中宮御佛名也、大夫已下、公卿十一人、殿上人又廿餘人、依六位進不參、侍所長分行香輪、其外以內藏人範高補簡衆、令勸雜役也、行事權大進宗方、余不出座、今日、余本命日、泰山府君祭也、仍精進、此日、有上野後不堪奏、棟範候之、奏事光綱、

廿六日、庚申刻參院、以資實入見參、御惱自若云

〔云〕參八條院、入亥刻退出、此夜、女房同退出、

廿七日、未依官奏參內、上野後不堪也、右少辨資實

候奏、奏申兼祐朝臣、其後向九條宿堂、

廿八日、壬申雨降、入夜甚、戌刻、歸大炊亭、今日以

宗賴被仰條々事等、役夫工之間事、深恐思食、雖

有御免之庄々、無其理、可召返、注子細、可

言上云々、又釋尊寺事、可被避申神宮、可被放

法華堂領也云々、又崇徳院讃岐國御影堂領、可給

官符、又長門國可建一堂之由、可宣下者、皆任

御定、可宣下之由、仰了、役夫工之外事等、余奏請事

等也、今日被發遣山陵使、崇徳院廟、可立官幣

之由、被告申安樂壽院也、上卿藤中納言定能卿、使

大宮權大夫光雅卿、余免告文內覽了、

廿九日、癸酉午後雨止、入夜天晴、此日、崇徳院奉幣也、

上卿權大納言隆忠卿、使宰相中將公時卿、申刻、大內

記長守持來宣命草、見了返給、被奉幣故左大臣

廟之由、被載辭別也、無別使并別宣命也、兼被

問人々也、以宗賴申昨日被仰下一御返事等、入

夜歸來、兩宣下事、讃州長門、早可仰下、長門堂事、宣旨口

宣奏覽了、今夜、追催之次、除書有無事、不可有云

云、大炊寮事、今夜必可有沙汰之由言上、然而、猶

無分明仰、又明日拜禮如何可有云々〔於〕內御方、

殿上淵醉事、同可有之云々、追催上卿右衛門督、參

議大宮權大夫、辨資實云々、今日有修正定、余依所

勞不出座、長房書定文、經御覽、見了返給、湯濱行

事入宣房、明日、公家四方拜事、以左大將持次第

令申子細、長房奉行也、同以大將仰聞了、

玉葉卷第六十二終

玉葉

卷第六十三

自建久三年正月
至同年十二月

建久三年

正月

一日、戊申晴、自昨日夕、有風氣、及深更、殊歡樂、仍曙天之後、有四方拜事、未刻、人々來、陪膳遲參之間、手水懈怠、依日景傾、着束帶、出客亭、以長房召大外記師直、即入自車寄裏戶、候中門廊西緣、隨自稱唯了、更揖、是上官作法也、經透廊、跪余前、笏子、昇長押上、進宮、余置笏引寄宮、師直退候、長押下、余披禮紙於宮中、見勘文、如本卷之、少々同、置宮傍、押出宮、師直懷中笏進昇、取宮退下、次余取勘文、歸入簾中、次左大將已下、列立中門外、使長房申事由、長房來打出問、實子申之、歸出、次左大將已下、列立南庭、大將已下、大將已下、次殿上人、伊輔朝臣已下、兩實首、連參、列其後、次四位家司兼親朝臣、大夫史隆職、大外記師直、六位上官一人、又列其後、各再拜了、上官、殿上人、公卿、下、前兼光已下、直出中門了、經房已上猶列、大將已下、

次第經列前、出中門、大將退出之間、定能經房深、敬居、如鏡居、參通小敬居、但大將、及三位中將兼良等、留中門北方、次余出簾外、降自南階、在中將親能朝、臣持來應、出中門、大將、并兼良卿等、居、中門北、小向、定能卿、小掛、於中門外、乘車、兼良、參院御所、六條、余到門外之間、公卿等降立、右大臣已下列立中門外、余降自車、右中將伊輔、朝臣獻香、經、列前、立右大臣上、他公卿等追參之輩、皆加列、左衛門督通親卿、歸出自御所方、同加列、右大臣云、件卿可動、申方了、今歸來、已、依右大臣氣色、進來余前、相掛、昇自中門外、參寢殿簾前、候、略、東、同、右廻歸出、降、自中門內方、降、自實子、仰、聞食之由、其詞不、余目之、通親獨立中門外北方、其息通宗、余氣色于、右大臣進出溜外、三尺許、練始、當南階東開柱、更向北練步、頗斜練、去、階、隱間溜、四五丈許、北面而立、掛、次右大臣已下、次第列、依、納言人數多、余一間許立進西、參議已下立後列、次殿上人保盛朝臣已下列其後、四位殿

上人、下臈數輩、不列之、依無其所也、次五位殿上人、又列四位後、納言已上、參議已下、四位、五位、并四位也、皆悉列立、六位不了、余已下拜舞如常、公卿經房已下、及殿上人等、皆直出中門了、通親已下猶列、余揖離列、大輪右廻テ、練廻テ經列前、左大將、藤中納言等、小退、於寢殿東妻程、深練留於中門外、昇自同外簀子、人北腋戶、不入庫寄戶、是故買也、暫居公卿座、招寄定長卿、問御惱安否、昨日今日頗宜御云々、此間、右內兩府同着座、余即起座參內、于時、日未沈西山、比近例頗以早速歟、入自左衛門陣、着殿上、即起座參御前、申行御餐御裝束事等、左大將、并少將信清朝臣等候了也、次余歸出殿上、先是、右內兩府已下、公卿四五人在座、其外人七八人候、鬼間并中宮御方、以職事相告了、余示御裝束了之由於人、自下臈起座、於弓場殿着靴、列立中門外、兩丞相同前、內大臣、出自西一間、大臣出自西一間、余同降自小板敷、於弓場着靴、進立列上、付頭中將實明朝臣、奏事之由、實明不、只如本懸、余已下、列立前庭、歸來、仰聞食之由、實明不、只如本懸、余已下、列立前庭、歸來、仰聞食上、如例年、公卿一列、四五位、六位、一列、拜舞了、右廻シテ練旋、出中門昇殿、此間入御、余云、大臣着了者、可仰內

辨之由、示付實明朝臣、參宮御方、數刻之後、歸參內御方、內辨未着元子、余暫候御前、退出、于時內辨召舍人之間也、內辨右大臣、外辨實宗已下、及深夜、有手水、齒固、節供等事、女房節供如例、陪膳皆以政朝臣也、二日、乙晴、午刻、手水如恒、陪膳業實朝臣、其後齒固、今日不出行、上官列參、進見參公卿少來、三日、丙陰、及晚小雨、入夜甚雨、申刻、着束帶、銀、有參院、大將、及三位、中將相伴也、以內藏頭經仲、入見參、依召參御前、法皇御浴之間云々、女房二品謁之、紅梅湯衣、九領、今一重、但御前、無御前、問御惱安否、答云、窮冬兩三日、天氣快然、無別苦痛、起居禮拜等之間、又非無苦痛云々、醫師殊恐申云々、又來十二日、可被發遣公卿勅使云云、件間、殊可被祈申之趣、具示女房了、恐身於仙洞疎遠無雙、殆被處謀反之首、然而、中心之襟、上天定照歟、仍偏存忠、不殘所存、可達御聞之由、示付了、秉燭之後、參八條院、謁女房、次參內、先參朝餉、次參中宮御方、宗賴朝臣、申役夫工上卿降房卿辭退事、并叙位人々申狀等、明日可來大炊亭之由仰之、退出了、

四日、^丑午刻雨下、及晚天晴、此日、阿彌陀堂修正也、仍亥刻參_二御堂、季經卿外他人不參、然而任例者湯濱、壇供燈明已下、每事不法、僧數不足條々、勘_二發執行_一了、此日叙位之間事、以_二宗賴朝臣_一、條々奏聞、而今日可有_二御灸治_一、哉否議定、醫人相論之間、無_二他事_一、不能_二申入_一、空歸來、但付_二文書等於泰經卿_一了云々、五日、^戌晴、依_二吉日_一、始念誦、此日叙位也、已刻、着_二直衣_一、參內、即於_二直廬_一、內覽申文、如_二常_一、定賴、光綱、親連、長房爲_二余使_一、參院、未_二歸參_一也、其後、宗賴參院、條々奏聞了、戌刻、歸來傳_二仰旨_一、亥刻議始、余俄風病發動、仍在_二簾中_一、召_二仰親國_一、召_二長房_一、執筆定長卿、宮文棟範、定經等朝臣、資實、入眼上卿別當兼光卿、依_二參議不_一候、辨資實書_二之_一、召_二仰上卿實宗卿_一、執筆作法如_二例_一、有_二源氏爵未_一給申文、定長加_二袖書_一、下_二勘之_一、余所傳、於_二叙位_一者、不_二加_一袖書、所_二下勘_一也、余誤以_二不可_一叙之者、入_二折紙_一、執筆載_二叙位_一了、余披見之處、驚以摺除了、執筆依_二復_一本座、更召着之條、依_二無_一便宜也、又範保朝臣、依_二外記役勞_一、被_二叙_一四位從上了、尤雖_二可_一有_二尻付_一、依_二爲_一新儀、猶爲_二有_一豫議、今夜不_二加_一尻付、且又先日議定之時、於_二五位_一者、可_二賜_一一階、至于_二四位_一者、難_二爲_一永代例_一之由、有_二令

議、仍旁不_二加_一尻付、然而、爲_二使人知_一此由、可_二仰_一外記_一之由、仰_二入眼上卿_一了、中宮御給、賜_二少進兼時_一、依_二奉公無雙_一也、今度叙位、殊不_二驚_一耳目、歟、神妙妙、

今日、定長卿、事未_二始以前_一、傳_二院宣_一云、來十二日可有_二公卿勅使事_一、可_二被_一載_二宣命_一事等、可_二計奏_一、且可_二被_一載之由、思食事等、

一〔外宮〕役夫工懈怠事、

申云、聊被_二謝申_一、有_二何事_一哉、

一可_二行_一臨時祭事、

此事、直可_二被_一行歟、又將不_二可_一然者、被_二載有_一何事哉、但非_二殊大事_一歟、

一禰宜七人、可_二加_一一階事、祭主能臣計中云々、

祭主計申旨、定叶_二神慮_一歟、但先可_二被_一尋_二先例_一、公家公卿勅使之時、若有_二此例_一歟、

一可有_二御參詣_一之由、可_二被_一載歟事、

此事、輒難_二計申_一、猶被_二載_一告文_一之條、可_二有_一思慮歟、只仰_二勅使并祭主等_一、可_二有_一宣告、可_二被_一祈請歟、

一天下太平事、

此條、勿論早可被載〔之〕、

已上、就被仰下、言上之趣如此、

此外、余黨言事等、兩條、

一者、今度勅使、被申御除^{御イ}癘延齡也、而實保萬年之算事、雖爲人間之極望、生者必滅之習、雖願不叶、何況觀念之底、更無在世之怨、不如速期運臺之託生云々、此事、道理尤可然歟、爰聊有可被思慮事、其故何者、當今御成人、漸以在近、以後時爲期、可爲乞命之源歟、天子幼稚之間、法皇有大故者、無人于委謝、天下忽暗然歟、近則白川法皇保七十七之寶算給、是已近例也、縱不及彼算、經今五六廻之星霜、被待孫帝之成長、何強爲難哉、具被載此旨之廟意、定令蕩歟、是一二者、國家之理亂者、喻病知也、雖有急病、即時平全、則更無餘殘、漸病積年、不覺而衰微、則祈療更不及、治天下又復如此、寇賊入境、暴惡雖滿國、追罰刷、則一時退散、復舊如本、當世之貴賤、所目見耳聞也、平家九郎之反逆、義仲行家之禍亂、皆以如此、賴朝之勇無爭鋒、至于今、屬太平了、而漸々國衰、面々人奸、萬民爲之窮困、四

海依其滅亡、年中臨時神事、佛事陵夷、日々陪增、諸國庄園、五畿七道荒廢、年々相累、微臣總已以後、六七年來、公事之廢絕、諸國之衰陵、昨如天今如地、國家之滅亡、忽然而欲至、大廟之靈意、歎息在之、淳朴之風、雖慕不可覃、隨時之政、負錄何爲維哉、非我君之仁德者、不可與欲亡之天下、非吾后聖運者、不可潤欲乾之海內、諸延五六廻之算、可補百千分之一歟、以此等趣、可被計載也、御惱已危急、祈禱更不可怠、情思因果之道、理非真實者難謝之、非肝心者不可報者歟、聖襟深思量、以可被成敗微諫之可否歟、是二、

上件兩條、依爲至極之事、粗開腹心了、恐戰之至、取喻無物、相計可奏聞之由、示付定長了、

定長語云、昨日、諸醫相論之間、無御灸、今日、卒爾有御灸云々、余問云、昨日最上吉日也、雖爲血忌日、於灸點者不可憚、仍昨日指喻、于今日令灸給、宜歟、凡人之所用也、人君御事、今一重用、心、然而、事已急事也、隨又去年最初御灸如此云々、然者於此條者、不可有巨難也、而空過

吉日、今日寅最惡日、招、驗即令灸給之條、未得、其意、寅日者非、雷入吉日、已出禁忌之日、加之、戊寅者四絕日、於針灸者、其忌惟深、今日御灸、太爲奇、但於急事者、血忌人、神所在之外、不避之云々、爲其議者勿論也、若然者、彌又昨日可被指灸點也、前後相違、首尾錯亂、次第最不審、定長云、昨日依血忌日灸點、猶有憚之由、知康法師覆執、他醫殊無申、默止了云々、此事未曾聞也、血忌人、神所在者、全非日之吉凶也、是各別事也、諸道之人、滅亡我道、如師子之中蟲喻、末代之事可悲々々、雖無益事、存旨粗含、定長、定長服膺歟、

明日節會、可被急行之由、可相催旨、仰實明朝臣了、內辨右大臣可被勤仕云々、

六日、己卯雨降、資能叙四品、範保叙從上之間、法皇有逆鱗、事次第不足言披、陳子細了、具旨不能記盡、

七日、庚晴、此日、白馬節會也、內辨右大臣有加叙、兼忠叙四品從上、依雅範保也、業又諸司、外衛各一人、被止三位記、今日下名有改直事、新四位等、皆入四位

篇、此事未曾有、下名之習ハ、不分別正從、只四位、五位、六位ト書シテ、叙正下從上、正下從上之四字也者ヲハ、入其位篇、新叙之者ヲハ、入本位、是古來之常例、始而不及異議也、而今度、入眼上卿兼光卿、依金講不參、以有少夜及曉テ、藏人不來覽、直納日記御厨子、余又不及尋見、今日、內辨直下名令進之時、余所見答也、內辨已及宜陽殿邊、仍仰入眼上卿兼光卿、令直之、不着陣、於殿上邊、與其子資實、相共切續之云々、若可着陣歟、直了、宗賴持參、與內侍了、次內侍取三名出東檻、內辨給之、着宜陽殿代元子給、二省如常歸入、次引陣、次內侍出、次內辨謝座、昇殿着座、初揖拜之後、揖皆向乾次開門、次園司着、次被奏叙位宣命、弓揚殿、於軒廊召見宣命之間、內記自前進次賜位記筥、上次召舍人、少納言就版召刀禰、次外辨右大將已下列立、仰敷尹、謝座謝酒、昇殿着座、次被催叙列、仰定次叙人參列、宣命宣制以後下、下殿列立、北上面、左胡床之宣制、兩段再拜了、復座、次又親族拜、如叙人、拜舞次還昇、兩大將留軒廊

見_二白馬奏_一、右大將立_二西_一、依_二位階上_一、_二儀也、然而見_一奏 右大將

指_二旁於左前腋_一、左大將指_二旁於_一腰、又左大將先進_二

弓場、付_二職事之間_一、右大將並立、付_二同職事_一、左大將

先歸昇_二殿_一、右大將直退出了、件奏留_二御所_一、叙位宣命、及件奏、共長房

傳奏次內辨令_二取_一版標等、次白馬渡如_二常_一、次居_二粉

熱_二下_一箸、次居_二飯汁_一下、箸如_二例_一、次一獻、國栖奏、

仰定長被_二儀可_一止、一節了復座、次二獻御酒勅使、_二定長

留之由、殊被_二仰之_一、三獻、內辨爲_二見_一宣命見參等、向_二陣敷_一、此間余退_二下

直庭了、不_二見_一其後事、無_二殊事_一之由、大將所_二語

也、今日、主上中宮相_二仲女房等_一、密々渡_二御南殿_一、御_二覽節

會之禮儀、今日、參入公卿、

右大臣、大納言、和實、中納言、定能、經房、貞經、

參議、光雅、公時、定長、三位、忠經、

八日、辛巳、晴、酉刻、着_二直衣_一、參院、一府生不_二見_一、雖_二尋

求東西、敢以無人、仍遣_二共殿上人於臺所邊_一、以_二女房

申_二入之_一、良久、少將忠行來、傳_二三品消息之御有樣_一、只

御同事也、今日御參、殊悅思給云々、忠行云、來十二

日、公卿勅使一定也、自_二十日_一可_二被_一始_二孔雀經法_一云

云、余云、公卿勅使以前於_二寢殿_一、被_二始_一大法之條、如

何、實雖_二爲_一法體、至于_二被_一發_二遣公卿之使_一者、爭

無_二神齋之儀_一、_二哉_一、猶十二日以後、可_二被_一始修_二敷_一、將又

猶可_二被_一忿始_二者_一、於_二長講堂_一可_二被_一略也、若於_二寢

殿_一被_二始_一行大法者、於_二何處_一可_二御_一覽神寶、金銀幣

等_一、_二哉_一、又賜_二告文於勅使_一、可_二被_一發_二遣幣帛_一、_二哉_一、門內

已被_二立_一神事札、其中豈無_二齋屋_一、_二哉_一、於_二玉體_一者、更

神宮不_二可_一被_二奉_一、_二忌_一、於_二他佛事_一者、專可_二被_一禁忌

也、凡神事之間、古來就_二重禁_一也、其身重喪之人、猶

有神齋之法、_二忌_一服者僧尼、況於_二神宮事_一、_二哉_一、兼又日

吉神事、不_二忌_一山僧、_二忌_一他僧、春日神事、不_二忌_一奈良

法師、_二忌_一自餘僧尼、是專雖_二無_一其理、用來如此、況

於_二法皇御身_一者、更非_二禁忌之限_一、以_二他佛事_一、更不_二可

被_二給_一勅使、神寶等_一者也、此事雖_二和議_一、偏爲_二后而

言上者、忠行歸來、傳_二仰云_一、所_二申_一、專合_二理_一、專可_二延

引大法也、又示_二合仁和寺宮等_一、追可_二一定者_一、女房

又示云、叙位之間事、定有_二中心之爵_一、_二敷_一、而今日參入、

又言_二上如_一此之事、殊悅申不_二少云々_一、天氣又快_二敷云

云、余竊案_二之_一、此程不足_二言之事_一、何及_二爵陶_一、_二哉_一、實

狂人走之喻_二敷_一、勿論々々、

亥刻退出、參法成寺、咒師一手之後、即退出、法皇不豫之間、須止咒師、猿樂也、然而還依有禁忌、法勝寺已下皆有之、當時獨不能停止、愁雖備佛事、強不足賞瓶者也、

自今夜、中宮御祈始百座招魂祭、十箇夜、每度十度也、又夢祭三箇夜、是皆依夢想也、行事少進兼時、

九日、壬晴、此夜不參修正、入夜、定能卿來、參法成寺云々、相語云、法皇今日又增御、凡非申限云云、又云、去叙位之間事、偏依實教之追從之詞、此逆鱗出來云々、不能左右々々、申刻、能保卿來、日來、依入道左大臣事、龍居、今日始出仕云々、余隔簾謁之、

十日、癸晴、及晚、右大辨親雅朝臣、自南都歸洛、申條々事、吉祥御願、御本尊、早速出來給、寺僧大感云云、即七日夜奉迎別當住房、八日晚奉渡食堂、即始御願了云々、金堂猶依半作、不能移行之、年來無本尊修此御願、今爲中宮御沙汰、被奉造立、尤珍重也、此事濫觴、光明皇后御願也、我氏繁花之、起以彼皇后爲始、今當中宮后位之時、再造立靈

像、實機感時至者歟、南圓堂不空絹索、余又造之、藤家之中興、法相之紹隆、竊在此時者歟、常樂會事、今年旁不可叶云々、依法皇御不豫、舞裝束已下奉加事等、皆不可叶、加之、因幡國所課、都以不可叶、左金吾爲勅使、可參向伊勢、彌以無人于催促云云、且又院御惱、如只今無御減、今過兩旬者、經營還無便歟、仍今年此儀可停止之由、欲下知、但大僧正被示此旨也、

今日、於院去七日下午名改直之間事、人々多以沙汰評定云々、

十一日、甲晴、未刻參內、申刻參院、謁右大臣、以定長卿、條々有被仰合事、明日公卿勅使之間事也、申所存了、

一院中有堂舍、有壇所、仍自御棧敷、可被發遣之、而渡御之間有煩、爲之如何、

申云、長講堂爲別方、門又別也、在殿上廊之壇所、暫移他所、於寢殿被發遣、可宜歟、

一御法服不可叶、鈍色裝束如何、

申云、猶可召表衣也、鈍色無便歟、

一爲宿裝束者、御拜如何、又堂上御拜如何、

申云、有何事哉、堂上又有何事哉、一宸筆告文、有可被加事哉如何、余見之、殊雖不見及、仍申其旨了、

抑、件告文趣、先日、即以定長卿、被仰合之時、申兩條事、了一者、暫保仙算、可被奉待付當今御成長事、二者、國土之已弊、朝務之衰沒、可被直立一事等也、而被載始一事、不被載後條、神鑒如何、可悲々々、

右大臣、以定長奏云、宸筆定難叶歟、誰人可書哉、准公家例者、關白可書歟如何、仰云、不可然、如右大臣可書云々、余被置御心之故歟、此事不所望、何況今度勅使違亂多端、壽永不快之例、近在眼前、法皇之勅使、理不可然事也、隨又例已最不吉也、而今度強發遣、難知神慮、不交此事、一之冥加也、今日謁右大臣、粗述思緒了、右大臣、有伏理之色、及子刻、向九條、依方違也、宿入道北家、棟範來九條、申御齋會用途事、

十二日、乙晴、早旦歸堂、未刻參內、及晚歸大炊御門、此日、法皇被發遣伊勢公卿勅使之日也、勅使左

衛門督通親卿、奉行別當定長卿、判官代清長等也、驛家雜○事不論先例勤否、兩國之庄園、併被宛催、平等院領、未會勤如此之役、然而今度依爲別事、不及子細、殊加下知、所令勤仕也、翌日問送右大臣許、返禮如此、

不垂母屋御簾、庇御簾東南垂也、寢殿異角兼置神寶、臨期定長卿、下知清長、開金銀幣宮蓋、其後出御、神寶北、南面設御座、御覽了遷御日隱間、此間、開東鳥居障子、次卷東面妻戶御簾、五位殿上人等、撤神寶了、次定長奉仰召勅使、即通親卿參進、賜告文退下、雖可爲宸筆、我奉御兼雅清書、中、日來公卿候所也而爲、委帶垂御簾、其事了、賜神祇官、相、諸中門外、其間、入件所書之、有宸筆御諱、件告文有懸紙、令有封字、御法服之間、無其煩、俄改堂上座、於庭中、可有御拜之由、被仰出、仍當南階、聊副西儲御座、寬治、天永、各雖無所忌部、卜部、持參御幣、見、依仰立屏風了、如常、有御拜、兩段、訖撤之、依召中臣參上、奉仰退歸、其趣不承及、御出入之間、兼雅寢御簾、御拜之間、從跪踞居地上、神寶御覽之間、尤可引神馬、而如天永者、儲中門、無云甲斐忘却、不敢候、

傳聞、勅使不出衣、殿上人七八人送之云々、十三日、丙晴、仁和寺宮、以仁隆僧部、有被示事、去十日被修孔雀經護摩了、而猶可爲法之由、有其沙汰、此事不可然之由等也、

十四日、亥晴、申刻、左大將來參、御齋會竟云々、小時參官廳了、戌刻、着直衣參院、以泰經入見參、御有樣只同前、御足腫、聊雖有減、御腹脹滿、上方有增云々、此次泰經云、孔雀經護摩、猶有傾申人等、仍自明日、欲被始法、而勅使參宮以前、猶有其憚歟、加之、仁和寺頗有被澁之氣、是則以大師御本尊、御經等、於御在所傍、有豫議、被始修護摩了、而今不滿一句、忽被改大法之條雖可隨御定、頗似無其益、法驗之條、全不可依、伴僧之有無、何況只身執法、強申行護摩之由、有譏奏人云云、此事難堪云、佛經之自身、護摩之間、大事出來、不可有恨、不可有耻歟、此事未存得之由、殊難陶云々、且可申合之由、有其沙汰者、余答云、勅使參宮以前、公家有御拜、院中雖無其儀、於寢殿被始修大法之條、聊可有思慮歟、何況仁和寺宮有所存、申定護摩了、然而經一句、猶無其驗者、

依御定、被始大法之條者、理可然、依傍人之難、七々日之中、忽被改修之條、先於彼宮御心、定有其意歟、如此之事、依人依事可有斟酌歟、奉爲法皇、誰人過彼宮、可被安哉、在俗之謬難、專不足據用歟、於起自敬慮者、非此限者也、但猶十七日以後宜歟者、亥刻參法成寺、先是、左大將、中宮權大夫等參候、余於正面間見物、招居兩人於同所、咒師三手了、龍天已下事如例、大導師良幸等法師授牛王、大將同之、先是、余歸宅、于時鐘鳴以後也、此夜、經房、光雅、季經等卿、參御堂、大導師祿、兼親朝臣取之、余依着正面座、無湯漬之儀也、大將語云、御齋會上卿左大將、御論義、於御前有此事、勝賢參加持香水、其後退出了云々、此日無僧事、十五日、戊雨降、此日、女房密々參詣賀茂、吉田、祇園等、行輔朝臣乘車在共、侍男共在車後、召人車也、入夜節供如常、陪膳、兩方、兼親朝臣兼勤之、家司隆職勤仕之、女房良業勤之、十七日、庚參院、以泰經入見參、御惱同前、謁右大臣、自今日、被始孔雀經、仁和寺、日來有無量之沙汰評定、遂恐人口被始修云々、勅使參宮日如何、猶

可異日歟、但壽永例、參着日被修佛事云々、以後爲吉例、勿論々々、今日、余先參法成寺佛所、奉禮佛、少々仰可奉改直事等、自御堂參院也、其後向九條堂、聊依產間有不審事也、亥刻、男于平產遂了、後物暫雖經程、又無爲成了、爲悅、此夜宿堂、依此不審也、今日、年始政始也、上卿通資卿、同欲有吉書奏、余依宿九條延引、仰明後日之由云々、

十八日、卯巳刻、自九條參內、未刻退出、光綱申云、仁壽殿觀音供事、俊證僧正申云、先例、後七日御修法勤仕之人勤之、恒例也、而勝賢俄以遁避、尤不便云云、以此狀、問勝賢之處、先例全不相兼事也、加之、依院宣、即參仕、御所令不可勤仕、俊證申狀不當云々、奏事由、可催延果之由仰了、長房申云、勅使驛家雜事上道事、不被仰下、不存知之處、定長昨日申此事、雖無日于下知、猶試可仰歟、如何、仰云、早可下知、先日泰覺申、此事可用意之由仰了、且可尋遣者、又召泰覺仰條々事、

十九日、壬辰、御寺三綱圓盛、爲大衆使參洛、親雅相具、參上常樂會、猶必於金堂可行也、於作事

者、如形不可闕如之由、工所申也、隨御定欲一定之由、衆徒言上云々、余仰今年不可移行之由了、其次非一條々委細、不遑具錄、

一御堂半作事、

一會不可奉安置御佛事、

先是、只陰陽師等、同此事中不可然之由也、

一院御惱之間、京都沙汰無便宜事、

一公家御沙汰、於不法、未作堂舍、佛像之前、移行大會事、私不可相違、必可有謗難事、

一御佛猶難合期事、

已上、以此等之故、委細仰遣了、

例講如常、雖欲向九條、依有風病氣、俄於此亭行之、外記持參諸司修正見參、而如立文委之、槎上下、此事未曾有、仍問之、依人數訓之由諫之也、不足言也、

廿日、巳晴、午時、左大辨定長、

直爲院御使來、傳勅

定云、木幡淨妙寺別當職、可補正護院宮、覺忠僧正讓與之、而木曾亂之時、入道關白稱之、與覺尊、理不可然者、申云々、左右可在御定、但彼寺、藤氏一安置其骨、法成寺入道相國、殊有起請之狀、仍寺務之仁、又大旨爲一族之人歟、粗他人雖相交、皆是

長者之最也、今法親王御知行、道理不_レ相應、事又無_レ便宜、抑又將來違亂之基歟、此等子細付_二言上_一、雖有_レ恐、推_二靈魂之所_一思、粗以上聞者、定長歸參了、余參_二法成寺、大將相伴、又奉_レ禮佛、猶不快、重仰_二子細_一了、其後參院、大將同以_二定長_一重被_二仰下_一、猶早可_レ補_二彼宮者_一、申_二承之由_一、退出了、密々指示_二子細於定長_一、然而凡不可_レ及_二奏聞_一之由示_レ之、不_レ及_二向_一九條、故內府月忌也、入_レ夜參內、有_二吉書奏_一、權辨定經、作法不思議、如_レ例、又無_二退下之揖_一、此事度度定有_レ所_レ習者、又結申之時、有司字、是一說也、奏_二申光綱_一、勅使通親今日歸參、神宮付_レ彼、申_二無量事_一云々、

廿一日、甲晴、以_二宗賴朝臣_一進_二淨沙寺別當_一、今日於_レ院可_レ付_二定長卿_一之由仰_レ之、而件卿不_二祝候_一、仍付_二資實_一奏聞了云々、仰云、尤神妙思食、但猶可_レ依_二覺忠僧正讓_一之由、可_レ書進證文者、仍令_二書進_一了、宗賴、長房等、條々有_二申事_一、今日聊有_二病氣_一、不_レ能_二成敗_一、明日可_レ申之由仰_レ之、女房參_二內裏_一、密々用_二人事_一、余亥刻參內、有_二官奏事_一、資實候_レ之、奏申光綱、廿二日、乙未今日、又有_二官奏_一、資實候_レ之、

廿三日、丙申參院、以_二定長_一入_二見參_一、御有樣同前云々、右大臣出來、談_二雜事_一之間、有_二召參_一御所、謁_二女房_一、陳_二謝世上浮言之恐_一、報旨快然、小時退下、猶謁_二右相府_一、明日孔雀經法結願、賞有無有_二沙汰_一、院可_レ行之由、被_レ仰_二宮_一、不_レ被_二受申_一、尤可_レ然歟、泰經出來、申云、除目傳奏不可_レ叶、御祈奉行之間、指合故云々、余云、早申_二定他人_一、可_レ交替者、泰經云、凡不_二申達得_一、爲_レ之如何云々、余召_二出親能朝臣_一、奏_二泰經申旨_一、仰云、今度除目、曾不可_レ達_二御聞_一、仍不可_レ有_二傳奏之人_一者、重奏云、此事以外大事候、然者不可_レ被_レ行_二除目_一歟、爭不_二知食_一、可_レ被_レ行_二除目_一哉、於_二雜任_一者、勿論不可_レ奏、又不_レ可_レ任_二新叙_一〔位〕之受領、大內記、大炊頭、如此之事等、不可_レ默止、而不_二聞食_一、不可_レ任、爲_レ朝大事歟、猶奉_二其人_一、欲_二申上_一、如何、仰云、所_レ申可_レ然、早以_二泰經卿_一可_レ奏者、即泰經眼前仰_二此旨_一了、即退出了、歸_二參內裏_一、又有_二官奏_一、資實奏申兼親朝臣、即退_二出大炊亭_一、廿四日、丁酉晴、早旦、請_二佛殿上人_一、受_二吉祥天印真言_一等、已刻參內、即有_二申文內覽_一、宗賴、光綱、親、長房等也晚頃撰_二申文_一、宗賴參院、歸來云、勅定云、少々可_レ申上、即依_二泰經

命、注折紙、付彼人丁、明日可奏之由云々、

此日、除目始也、戊終事始、執筆定長卿、議中間有定、大內記事也、人々申狀在別、事了、辨官撤宮文、余歸入了、

參內公卿、

內大臣、

左大將、

中納言、

定能、長房、泰通、親宗、隆房、兼光、

參議、

光雅、公時、定長、

取宮文一人、

右中辨棟範、

權辨定經、

五位藏人親國、

右少

辨資實等也、

廿五日、

戊晴、此日、依國忌

院、

除目中絕、豫尋先

例、當國忌之日、不行之、仍明日明後日可被行

也、右大辨親雅爲檢使、參法成寺佛所、入夜歸參、

申子細、相好未奉、直云々、申可直之由、仰之、宗

賴申除目所望輩事、入夜雨下、

廿六日、己晴、除目中日也、戊終事始、執筆定長、次第

如例、今夜、余在簾中、有風氣上、大將之外、無可

然之人、又無人、輕々之故也、有顯官舉、定長申云、

諸道年舉之間、竿、明法、學館院等、隔年也、而上舉

狀如何、可問外記云々、此事未知、諸院舉、總以

隔年也、而中古以來、每年任之、今申狀尤不齊、而執

筆以辨棟範、問外記、々々申、每年之由、仍任之、

有顯官舉、余相加袖書、申文下之、之狀也、民部卿舉丞而事

了、宗賴云、人々傾云、袖書申文相加被下之、仍不

撰上云々、此事可尋余所存者、不可論短冊、袖

書、所上之申文、皆悉下之、可有議定也、若任舊

例、就舉被任者、袖書申文也、甚難堪事歟、人々

雖未知可否、若於袖書者、不可受舉之由、慥

有先賢之說歟、可尋知事也、子刻事了、人々退

出、

參入公卿、

左大將、權中納言泰通、別當兼光、新宰相光雅、左大

辨定長、

宮文、

棟範、定經、資實、長房、

此日、宗賴爲承除目事、參院、然而依巫女遊戲、不

能奏事、空以退出了、件事稱之陽劔云々、仙洞之

禮已廢、可悲々々、但先々常有此事云々、今度巫女

裝束公卿已下、營之無他云々、此事又不吉之徵驗

歟、

廿七日^庚晴、入眼也、已刻、宗賴參院、未刻歸來云、泰經被召^{御前}、仰云、今度除目、一事已上、不可^知、食、只可^{計沙汰}云々、即先日所^付泰經之折紙、被^{返下}了云々、泰經密々云、有^{限事等}、注^{任人}可^被進^之、其次可^被申^{定大事等}、歟云々、仍余注^{立必可}有^{沙汰}事、其與又注^{付可}在^{聖斷}事等、宗賴逐電參入了、秉燭之比、歸來云、泰經又參^{御所}、具以奏聞、仰云、如^{注申}可^被行、其外大事等、皆以無^{分明}仰、只藏人可^任出^羽之由許、所^被仰出也云々、大內記事、偏可^在下官之最云々、泰經內々云、可^被持^{下名}歟云々、戊刻、人々參入、余書^{儲任人折紙}使大將待之、待^{右大將參入}依可爲功過上卿也、彼人參入之後、亥一點議始、召^{五位藏人親國}、余依^{風氣}不出座、次第如^例、執筆終^{大間}之間、余仰^{右大將}云、受領文可^被尋者、即召^{右中辨棟範}問^官、申^{攝津上野兩國文書候之由}、上卿申^{上之}、余仰^可被^{定申}之由、即被^仰文書可^{進之由}、藏人立^切燈臺、辨官進^{文書}、見合雅長卿、定文公時卿、讀帳光雅卿、如、此之由、被與尋也、依^{任人}甚少、功過定未^終之間、除目已任了、然而受領舉之後、可^卷大間、密

仰^之、仍執筆空^{手候}座、上野勘文造^{五代帳}、長和以^{是例也}、多三代帳也、未^有此例云々、而上卿云、雖^爲新儀、御定無^{左右}云々、余驚^{此言}、相尋云、御定之由如何、近日定無^{院宣}歟、又微臣全不^{定仰}、此事令^{風聞}、太謬事也、如^{此事於}有^{難者}、更不可^被優、公事陵夷、職而在^斯、早尋^官、可^被究^決是非也者、上卿以^{辨問}官、々申云、此條未曾有例也、然而、所司勘上、非^{御定}者、不^能返、愁所^{進覽}也、長和宣下之後、四代猶不^詳、況五代哉者、上卿申^{上此旨}、余云、凡吏途之事、曾不^辨是非、只上卿仰^{合官}、可^被定行也、但有^{長和宣旨}者、豫官須^請天裁^{事歟}、乍^存、無音進^{文書}、在^{尋問}之時、申^{此旨}、如何、此條頗似無^{思慮}、抑、彼宣下之意趣如何、依^{彼趣}、可^被左右^歟、爰兼光卿在^座即知行彼國之人也、申云、爲^{省煩}所^被下歟、如^{今上野國中}間交^{他人}、更還任之例、已未曾有、仍今度造^{五代帳}、何必依^{彼宣旨}哉者、上卿云、可^在御定云々、余云、若只爲^{省煩}被^{宣下}者、今勘^{五代}不可^爲過歟、不着座了、公卿可^着行列、見^{官外記政}之由、雖有^{康治之宣下}、其後有^{着座}、公卿以^{之不}處^違

勅、尤足爲例歟、上卿云、尤可也云々、余重云、此事、猶可被問官也、官若不_レ甘_二心此事_一者、何可_レ依_二所司之失錯_一哉、早返_二給文書_一、追可_レ有_二沙汰_一、但官存趣未_レ得_二其意_一、所以何者、若如_レ此之國司、不可_レ勘_二五代者_一、中間之宰吏、可_二棄置_一歟、此條又未_二曾聞_一也、無_二宣下_一ハ、爭棄_二一任_一哉、若不_レ可_レ棄者、又造_二五代之帳_一外如何、此條、分明可_二辨申_一者、上卿以_二此狀_一問官、々申云、被_レ棄_二一任_一之條、專不可_レ然者、五代帳之條、何有_二其難_一哉、只申_二上無_一例之由_二計也_一云々、此申狀太無_レ所_レ據、素存_二此由_一者、初問之時、可_レ申_二此旨也_一、始處_二所司之失_一、今又歸_二道理_一、可_レ謂_二前後相違_一、然而、所詮無_二國司之過_一、早可_二言上_一之由仰_レ之、即上卿披_二覽定文_一、少々有_二改直事_一、須臾書改、就_二簾下_一奉_レ之、余取_レ之、即仰_二受領舉之由_一、即諸卿起座、於_二休所_一召_二舉冊_一外記據書儲之近例也、右大將已下、一々復座、更起座、就_二簾下_一奉_レ之、余取_レ之、次第置_二硯宮_一了、大間封成束等、盛_二成殘申文_一獻_レ之、定長復座、諸卿又起座了、此間、宗賴參上、申云、清書上卿親宗卿也、而遲參、當時大理卿可_レ仰歟、許_レ之、即大理着座、余招_二簾下_一給_二大間宮_一加_二盛成文_一、留_二成殘申文_一、以_二宗賴仰_一、有_二兼叙爵權

守等事、即兼光卿息也、須_レ載_二大間_一也、而直叙爵、即可_レ任_二權守_一之處、叙人一人、頗冷然也、又六位不可_レ任_二尋常國權守_一、仍清書之次所_二加任_一也、今日、參入公卿、

右大將、左大將、通親、經房、泰通、兼光、雅長、光雅、公時、定長等卿也、

曉天、外記進_二大間成文_一、召名等、召名返給、留_二大間成文等_一、此夜宿候、

廿八日_丑晴、今日退出、候_二內裏之間_一、召_二宗賴_一、仰_二明

日下名之間、可_二奏聞_一事等、大內記事、宗業稱_二下官抑留之由_一云々、定長竊申_二請大間成文_一、太不當也、然而

借遣了、

廿九日_寅晴、今日、隆聖所_レ修之愛染王護摩結願、御卷

數進_二中宮_一、自_二今夜_一、又更始_二同護摩_一、余祈也、覺成僧

正修_二公家御祈_一、四季金輪法、余沙汰也、今日依_レ爲_二歸忌日_一、不留_二家也_一、去夜有_二宿_一他所_二之故_一也、

定長進_二大間_一、改_二親綱尻付_一須_二注_一〔文〕方略也、而注_二文章_一生_二未_一曾有_二失也_一、今改正了、

又忠良仰_二年給申文_一不_レ載_二一合_一之由望_二據_一、而不_二下勘_一、任_レ據了、又無_二一合尻付_一、而申_二請大間_一、返上之時、

不改直、仍余注_二付此由於別紙_一問遣了、爲_二續_一公事、

之命也、

卅日卯晴、入夜雨降、此日、御方遠行幸也、幸白川押小路殿未

刻、定長卿爲院御使來、於直廬謁之、傳勅云、今

度御惱御祈、日吉社可被獻十列東遊等、寬和、圓融

院、北野社被獻東遊例也、但今度有殊御願、以殿

上人可被然、使已下公卿使又如何、可令計申、又

舞人裝束、可被召諸國、歟、將可爲院中之沙汰、

歟、又於社頭、可有如法之御神樂、將東遊許歟、又

賜插頭花之間儀如何、條々可計奏者

申云、使四位殿上人可宜歟、公卿使、代始例也、不

可必被許容歟、舞人裝束事、用途諸國之勤、不可

及異議、但事爲御祈、院沙汰叶時議歟、但摺袴、

任例可被充公卿歟、院司公卿也社頭東遊宜歟、賜插

頭花之間事、只於中門邊、諸社臨幸之時、如社頭之

儀、可被行歟、條々、此旨可奏聞者、

愚案、此事專不可然、不可叶神慮歟、此次、定長

語云、近日、偏以巫女之說、被指南之間、不便事等

風聞、八條院三位殿、奉咒咀法皇之由有其說、太

聞惡事也云々、大間訛謬事、無云甲斐、不見咎、失也

云々、此外申事等太多、不能具記、又定長謁兼時、

云々、

云、近日、殿中上下諸人、以口可如鼻、人口有恐、

能々可被用心云々、定長云、自可向左內兩相之

許、此臨時祭之間事、可尋問云々、

戊刻、着東帶參御所、此間、長房覽日時、見了返

給、上臈不參之間、兼光卿勤仕召仰云々、兩大將稱

病、亥刻行幸、次第如恒、余自閑路、參會押小路御

所、小時臨幸、下御之後、余退出大炊亭、所勞無術之

故也、

二月

一日甲辰晴、申刻、着直衣參院、依聞御惱小増之由、

也、以資實入見參、御有樣只同前云々、定長卿來、

語日吉臨時祭之間事、左內兩府申狀、同下官案、公

卿使、四位舞人、不可然、以四位爲使、五位可

勤舞人云々、而御定云、公卿爲使、可有四位舞

四人云々、使三位中將忠經、四位舞人兼宗、親能、通宗、教成等華

族與近臣被組交云々、又云、舞人馬、舍人、居伺

裝束、自院可調賜云々、於御所可有片舞、但不

之儀、摺袴可被宛院司公卿、舞人陪從祿、歸參之

後、於院可給歟、左大臣中將於社頭可給歟、內府

此

如何、余云、社頭可_レ宜_レ歟、右大臣疑云、可有_レ定哉否、余云、不可_レ有_レ定歟、公家之法、於_二御前_一有_二此事_一、當時其儀不_二相應_一、此事又以_レ定不_レ爲_レ專公事也、殿上定又以不_レ可_レ必然_二歟者_一、余以_二資實_一、召_二醫師_一時成、問_二御惱子細_一、如_二申狀_一者、一處無_二其憑_一、日來御減之由風聞、未_レ得_二其心_一、屬_二暖氣_一、可_レ決_二勝負_一云云、定長云、御惱御祕藏非_二只事_一云々、候_二院之間_一、宗賴朝臣覽_二神宮奏狀_一、奏聞之後、可_レ問_レ例之由仰_レ之、鳥居注、齊藤野又申_二離宮三ヶ院顛倒事_一、仰_二遣_二官使_一可_レ令_レ取_二損色_一之由了、即參_二內主上_一、御宮御方、小時退出、中宮御方遂行啓事、仰_二宗賴了_一、

二日_乙晴、長房申_二佛舍利事_一、行事辨親經領狀云々、三日_丙陰、入_レ夜雨下、宗賴朝臣來申云、八幡別當法印成清、以_二所_一帶別當職、讓_二補弟子道清法眼_一、成清可_レ轉_二檢校_一之由言上、早依_レ請可_レ宣下_一之由、有_二院宣云々_一、右大臣早可_レ宣下_一之由仰_レ之、又大理申_二使廳條々事_一、賜_二御教書_一、可_レ張行之由申_レ之、余仰云、事大奏聞之後、可_レ下知、於_二御教書_一、始終不可_レ叶之上、人口彌有_レ恐歟者、又申、廣房注_二申神宮御領子細事_一、爲_レ見_二披子細_一、留_二文書了_一、又云、祈年穀奉幣上卿右

大臣云々、兼親參入、示_二僧正返事等_一、興福寺金堂、大略於_二作事者欲修_一、而因幡一切無_二沙汰之間_一、被引彼テ未作事等、有_二少々_一云々、○大略以下文意不明誤有訛脫親經除服之後、今日申_二吉書_一、

四日_丁未_レ午上雨降、降時以後天晴、余以_二書札_一、問_二法皇動靜於二品_一、返報云、此五六日、夜々御辛苦、事外有_二御增_一云々、又以_二書狀_一、示_二送右大臣許_一、曰、御腦少增之由風聞、於_レ今者、尤可有_二行幸也_一、而近日事、如此之進退、於_レ事有_レ恐、相計可_レ付_二天氣_一歟者、即報狀到來云々、即奏聞之處、尤可_レ然、但院中、五壇法已下充滿、就_二中_一、寢殿有_二件法_一、爲_レ之如何、可_レ相計云々、長房申云、明後日可有_二佛舍利定_一、上卿右大將辭退、可_レ催_二實宗卿_一歟、早可_レ催之由仰了、此日、春日祭奉幣也、陪膳光輔朝臣、使清忠、奉行業清、申終發_二遣之_一〔也〕

中宮使發遣、少進源兼時也、近衛使參內者、左中將伊輔朝臣云々、行事辨權右中辨定經、已上、皆明旦可_レ下向云々此日、祈年祭事、右少辨資實、日來領狀、而俄病腦、仍右中辨棟範行之、五日_戊晴、春日祭也、神祇如_レ恒、凡八月之後爲_二散齋_一、

新年祭、三ヶ日齋、并春日祭、三ヶ日齋、皆如例、
六日酉小雨入夜降、申刻、參院以資實入見參、御有
樣同前云々、資實語云、松尾驗者三人參入、一人ハ、
此兩三日奉祈、全其無驗、一人ハ、去夜始參、一切不
出聲、只嘿然而社頭候、人成奇、疑是構外法者
歟、申云、以弟子可奉祈、於自身者罷歸、可奉
祈念本尊云々、彌以有奇事歟、凡如此之事等、專
見苦事也、法皇、佛法薰修、已超過當世、練行之輩、法
華轉讀及七百部、只以此功用、一向被奉責、十羅
羽女、効驗立可顯歟、而不思食此事、召無量之狂
惑等之條、太懦弱事歟、如右大臣、不申行、太愚也、
太愚也、自院向九條、見行啓御所、即歸參內裏、
自今夜始祈等、

公家、一字金輪、佛眼、愛染王、
覺成僧正、中宮、隆聖、院、無動寺法印、

下官、宗殿、不空、宗家、大將、知詮、

件五尊、有存旨、所相配也、

今日、於內裏、光綱申云、佛舍利發遣日次、來廿六日
己巳之由、所勘申也云々、余云、重日尤有憚、可改
勘者、廿七日庚午云々、件日於家不用來、但公家
事、可勘例之由仰之、辛未日之例勘申、件兩日共仍
不用也

玉葉卷六十三 建久三年二月

可用廿七日庚午之由仰了、今日被定佛舍利日
時也、上卿大宮大納言實宗卿、辨左中辨親經朝臣、
七日戌陰晴不定、此日、爲御方違、中宮行啓九條
亭、二位殿母儀家也、家體不足言、然而年來
余止住所也、依無他所、慈所渡御也、即以件家、爲御
本所、大將軍方忌、本在大炊亭、仍自彼亭入內、
閑院爲四方、仍難滿一氣、每州五日方違、太可有
事煩、仍取本所於彼家、爲移方忌於其所也、戌刻
出御、行啓次第存例、余着衣冠、乘毛車、自閑路
參會、出車不下引、立門外、依家狹無所之故也、
他女房密々先行儲候也、曉鐘之後還御、于時、大雨深
泥、仍密々招乘大將於余車後、雖不當、依有病氣
也、今夜、於九條、招引權大夫、北面方、大將相共、
勘盃酌并茗粥等、他人皆取近邊宿所、一身禮候、殿
上依爲不便也、還御以後、余退出大炊亭、
今日行啓、被用御車、寄糸毛、
出車檳榔毛三兩、
供奉公卿、
左大將、大夫、藤中納言定能、平中納言親宗、三位中
將家房、權大夫、藤三位雅隆、前宮內卿季經、六條三
位經家、

七百九十一

啓將、

右中將成定朝臣、渡左、實保朝臣、

反開、陰陽師宣憲朝臣、

今日、行啓以前、覺成僧正參上、奉護身、其次余謁、候公家御祈子細了、

八日^{辛亥}陰、入夜雨下、貞慶已講來、件人可籠居云

云、仍爲尋其事、所相招也、申旨條々、仰旨種々、大略依冥告、所思立一歟、意趣尤可貴、其上猶余有仰旨等、大略重可祈請大明神之由也、末代難有之顯賢也、可叶物用之人、縋索皆如此、是則佛法滅相也、可悲々々、

九日^{壬子}晴、右大臣送消息云、來十八日拂曉可有行幸之由、被仰下云々、其旨仰宗賴之許了、實明朝臣可奉行、仍仰遣了之由、有返報、外記持來春日祭見參、見了返給、未刻、宗賴朝臣來、申條々事、院御祈千僧御讀經日次、并用途等事、月內無日次、爲之如何、仰云、來十八日可行之、用途猶可尋付之^{少々}云、上卿仰可催右大將之由了、辨又棟範之由同仰了、又申云、祈年穀奉幣、廿七日法皇御衰日如何、是辭則可被裁後、御惱事之故也、余云、全不可有

其憚、院御祈、被立奉幣之時、尤可被避之、恒例祈年穀奉幣、何可避法皇御衰日哉、就辭別撰日次一事、未曾有也者、光長卿妻、^{中宮}昨日男子平產事、女房遣使賀之、大原野祭、分配長房依所勞、不能出仕之由申也、^{於鋪設者可}仍宗方、兼時可參向於御禊事之以後、藏人、五位殿上人、可令役送者、

十日^{癸丑}今日、母遠忌也、又園韓神祭也、仍不從佛事、又不出仕、神齋如例、上卿藤中納言云々、入夜密有他行事、

十二日^{卯乙}已刻歸大炊亭、明日、日吉臨時祭、自仙洞發遣、人々可豫參云々、仍欲參入之處、於西面御鞠壘、可有此事、外人不能參入云々、仍示合右大臣許之處、可取御氣色云々、專不可然、只不參入之由示了、

十三日^{丙辰}晴、此日、法皇爲除愈御惱、被奉遣十列東遊於日吉社之日也、天延二年、圓融上皇、被獻十列東遊於北野之例云々、彼者報賽也、是者祈禱也、彼者略儀也、是嚴重也、彼者觀念御願也、是者巫女狂言也、由緒旨趣、皆以雖異、自射山發遣之條、只假

其名於彼例許也、

使三位中將忠經卿、厚賜、誠直爲國、有執物云々、

舞人、

左中將兼宗朝臣、左中將親能朝臣、

右中將通宗朝臣、左少將教成朝臣、王、兵衛兼房子也、稱之爲金毗羅、

已上四位、此中、金毗羅、少將教成、有執物、又有

鑾、左近將監近武云々、可悲々々、

侍從公定、左少將忠行、侍從雅親、左少將師經、

藏人左近將監藤忠綱、院藏人□□□其名不覺悟、

陪從

四位四人、

左京大夫顯家朝臣殿上人、殘三人不覺悟、

告文可尋注也、

今日之儀、人驚耳目、敬神之禮、雖不及左右、頗不

叶、物儀、神慮如何々々、御惱已危急、如此事、先

先多被立、御願効驗已顯、以後爲神賽、被行之例

也、凡近日之事、萬事只以目耳、於院無庭座之儀、

只於便宜所、給掃頭花之後、有片舞、其後發遣云

云、明日歸參之時、於御所可給祿云々、

十四日丁陰、雨降、申刻參內、即參院、依無一府生、

招出女院女房、院傳申之、小時、中將親能朝臣來、

以件人問御有樣於女房、只同御事云々、但女院女

房云、去夜聊靜有御寢云々、親能云、昨日乘燭參着

社頭云々、御神樂殆及曉天云々、今日午刻、使已下

歸參、於西面藏戶中門方給祿云々、自院向九條

室、自今夜至來廿三日、可經廻也、

十五日戊午小雨、此日、院御祈、公家於延曆寺、可被

行千僧御讀經之日時定也、上卿右大將、辨右中辨

棟範也、入夜件人持來日時、余雖免內覽、依爲

大事、所持來也云々、又申袋米布施等、諸國散狀大

略催滿了、近日事、每度強之、今度不召成功、以諸

國力沙汰寄了、尤感恩之由仰之、

十六日己未於角家、沙汰大神宮文書等、望依有棟範申

云、千僧總講師澄憲法印、依院御惱片時不、且、難

登山之由申也、仍可催智海之由、仰座主了、

入夜、棟範申云、智海老耄、可召靜賢、歎云々、猶可

請智海、不參者、可召靜嚴之由仰也、深更又院

邊物念云々、聊雖有御惱亂、不及絕入給云々、

十七日庚申晴、及晚參院、去夜、事外辛苦給云々、其後

雖落居、猶不快云々、謁右大臣、密語御處分之事、

十八日辛酉雨下、終日不止、未明、行幸於法皇宮、六條西洞、院蓋被_レ訪_二御惱_一也、依_二上皇、母后等病_一臨幸例、頗以邂逅、

寬德元年十月十六日甲辰、爲訪上東門院病一行幸、無賞、於中門下御、還御、御輿寄寢殿南階、有鈴奏、御輿鳳輦、有囊無祿、

延久五年四月七日庚辰、爲訪_二上皇疾_一、行幸也、今曉、五壇法、渡_二高房朝臣宅_一、依_二上皇可_二渡御_一、先以渡_レ之、無_レ賞、

此外無_二所見、島羽院御惱之時、稱_二不快例、無_二行幸、

遂以有事、安元建春門院御事、又無行幸、大事出來、仍余案之、有行幸、有吉例、有不吉、無行幸、近例兩度皆不吉也、仍就寬治、永承等吉例、申行此行幸、法皇太悅給云々、寅刻、寄御興、余自閑路、參會六條殿、入自北門、先參御所、見御裝束諸司、御裝束依有無便宜之事等、仰定經朝臣、少々改直之、寢殿只垂御簾、敷母屋御座、其外無別儀、中門北廊北三ヶ間、奉仕諸司御裝束也、是尋常上座也、以寢殿北面、爲御在所、殿宮門院御座、二棟北面如本、同南面爲行幸之御路、仍不出几帳也、小時臨幸、于時、夜漸欲曙程也余自門內北版、進寄御興邊、侍降、昇立、內左于時、院司左衛門督通親卿、即供奉行將門內指立、幸人也、進出中門下、余進立御興前、示氣色、通親入中門內、即歸出復命、余先進中門下、次御興奉昇入、大將先將相副奉昇居御興、於中門下、東爲前、下御、成經取御余指笏取御裾、宗賴取余裾一如常、入御自御休所南面妻戶、余褰御簾、件殿中、內侍二人、候受取御簾也、頭中將取御拖鞋、即渡御寢殿、御所翼劔同之、奉置余以實明朝臣、申行幸之由於院、御報云、念誦以後、可申案內云々、于時天曙了、余休所、殿上東妻母屋底二ヶ間

也、辰刻、下直廳、改着直衣、不蓋參上、午刻、以左中將親能朝臣、直衣、帶弓、爲御使、申可有行幸之由、先是、主上着御々引直衣、待御使給之間也、仍即以渡御、余左金吾等候御共也、外女房兩三人同以候也、主上着給綾二御衣、有裏、生下袴、御直衣等也、不著御打御衣、數刻御對面、有小御遊、主上御出、女房安撫等、法皇、并親能、教成等、今樣、院御音如例、申刻、還御之後、丹二品、爲法皇御使參上、有被申事等、余依三院御氣色、候御前、故承三詔旨、依女房示、白川御堂等、蓮華王院、法華堂、鳥羽法住寺等、皆可爲公家御沙汰、自餘散在所領等、宮達有分給事等、隨聞食及、面々可有御沙汰云々、此外、今日吉、今後院領、神崎、豐原、會賀、福地等、皆可爲公家御沙汰、但金剛院一所、可爲三股宮門院領云々、此御處分之體、誠穩便也、鳥羽上皇者、普通之君也、而於處分者、尤遺恨、併被委謝美福門院、法皇崩後、女院被分獻公家、今法皇御字也、也、後鑒之所、覃、法皇之御耻也、而今法皇於遺詔者、已勝保元之先跡、百萬里、人之賢愚得失、誠無定法、事歟、入夜、余改着束帶、又參入、重又渡御院御方、無程還御、今度被申置人々事、宣陽親能、教成等事也、敢亥刻還御、不捨兩皮、寄御與於中、依三甚無他人事云々、門掩之、大將擁立庭中、國身取雨、無鈴奏、於中門邊奏之、大將擁立庭中、國身取改或入御、時寄御與於南階、蓋寬德先蹤也、以三此旨、

奏院、有可付、殊イ、車駕還御、余自、此直歸九條、依明日遠忌、并廿日、廿一日、八講等、可宿九條之故也、十九日、壬戌晴、故殿御忌日、導師慶智僧都、又恒例舍利講如常、有百種供養、如例、廿日、癸亥晴、此日、故內府忌日、於嵯峨、如形供養佛經、於此堂修八講也、證義者法印澄憲講師、僧少僧經、行舜、權律師公雅、則良、法橋圓能、已講增覺、信憲、覺親等也、午刻事始、公卿經房、季經等卿來、奉行兼親朝臣、堂童子二人、衣冠、每事如例、今日依當忌日、供養經一部、關白次供養之、靜嚴着下座、即給一重一裘、經房卿、親能、朝臣等取之、秉燭以前四度了、三方誦經如例、若季長朝臣加署、宗賴、長房、依爲三職事官司也、廿一日、甲子八講結願、午刻事始、中納言定能、親宗、兼光、參議定長、散三位忠經、季經、經家等來、左大將、又講演之中間着其座、煩也、入來聽聞之所四度了、引布施、公卿七人皆取被物也、捧物、水干裝束、各一具也、廿四日、卯早旦參院、今日無爲御云々、未刻歸來、此夜小堂修二月也、兼光卿、經家卿等參來、僧十口、僧綱二口、無事如例、入夜事始、亥刻事了也、四位已下、諸大夫等取布施、公卿不取之也、

廿六日、己未、本日、泰山府君祭也、依奉幣爲祈事、

廿七日、庚申、此日、祈年穀奉幣也、上卿內大臣、申刻、

定經朝臣持來日時定文、見了返給、同終、大內記宗

業持來宣命草、見了返給、仰不可持來清書之

由了、諸社辭別、被申法皇御事、殊雖無先例事、

無實儀之故載之、延久有別諸社奉幣、依彼例不

快、不被立別奉幣使、今有恒例幣、仍被載辭別

也、又大神宮有他恠異等、同載之、今日、召忠季朝

臣、內々若不慮大事出來者、天下可爲亮闇哉事、

仰合內大臣也、

廿八日、辛酉、雨降、自此日、法皇御祈、被始焰魔天供

十五壇、爲恐公用之御祈云々、忠季朝臣歸來、傳

內大臣報云、亮闇之條、兩方共無難、猶內々可被

取法皇御氣色、歟、雖不可然事、又殊有思食旨

歟云々、所詮、大治例、宜之由被存歟、此夜、定經朝

臣、廣房等被召院、役夫工事懈怠之由、有議勘發

云々、即兩人共來、先日所進、七道濟否勘文等副目

錄、仰子細、各問不能申子細、賜此注文、開引勘

可申上云々、然而、今夜不賜注文、追可賜之由仰

之、

廿九日、壬午、午後天晴、此日參院、以資實入見參、此
間無爲云々、次參內、亥刻歸家、

三月

一日、癸卯、不出御燈、遣職事仲盛於河原、修由

祓、旬祓、又如例、於南庭遙拜、今日由祓以後不

齋、又食魚類、

二日、甲辰、陰晴不定、今日念誦、書奉心經、召權右

中辨定經、役夫工行返給諸國濟否文書、又別紙注仰詞

副之、又條々有申旨等、入夜、宗賴朝臣、長房等來、

申條々事、賀茂祭奉行、職事光綱、依重惱、仰親國

臨時祭事、仰頭中將辭退、猶可返仰親國、々々本

奉行御更衣事、可仰長房、此旨仰宗賴了、又祭使

本府申散狀、合點下給了、長房申佛舍利事、來四日

受戒、十日發遣云々、又申大將座之間事、

三日、乙未、午刻、着直衣參內、依御物忌、不參御

前、參宮御方、小時參院、頭中將實明朝臣來觸之、藏

人宗清叙爵、有勅許、其替業家、位進、可被仰下之

由、有御定云々、早可下知之由仰之、即以件人一

入見參、定長卿來仰云、只今念誦之間也云々、此次相

語云、此七八日無御増、御手願減了、御足願減、無御辛苦、夜快有御寢、御膳ハ、來廿三日之後、猶以不快云々、只今御馬御覽云々、大略付減給歟、如此之時、殊可有御祈之由事、次可披露之由、示付了、爲示神宮并宇佐之間事、雖招泰經卿、依遲來退出了、向九條、近邊有圓靜事、既伺口男致害智詮法橋下法師云々、件法師密通彼妻女之故云々、事發、雖非無其謂、當時所行尤不敵、仍兵衛尉重綱擄留之、而御院舍人等來、奪取了云々、事次第不穩、欲相尋之間、長房依開封、宮司下向宇治、仍尋遣光長卿許、大略事有其實歟、仍件犯人、并奪取張本男女人、召給檢非違使資兼了、於唐橋以北給之六條、歟、不可入使使使之由、自故殿御時、被沙汰置也、元ハ八條以南、高倉以東、爲此領內、而余案之、口(座方)轉之沙汰、向後爲遠亂之基、加之、當時使廳不知之間、如夜行、不合期、旁失、公平、仍唐橋以北、放給使廳了、入夜歸大炊亭、此日、御燈御被、公家、中宮、如例云々、

四日、丙陰晴不定、此日、仁王會定、并佛舍利發遣日時改勘之、又同事、度緣請印也、仁王會、上卿內大臣、奉行、辨左中辨親經、檢校親宗、定長等也、佛舍利上卿實宗卿、兩事共職事、長房奉行也、外記內覽度緣、親

經內覽仁王會日時定文、檢校文等、長房申條々事、女房向堂、爲訪灸治也、

六日、戊戌唯識會行事、盛經領狀云々、公家御方違、十三日依爲太白方、鳥羽自開院當南來十日可有云々、

七日、己卯晴、長房申條々事、親國申加茂祭使事、院仰云、只下官相計可令催、於對捍人二者、可辭所

職之由可仰云々、余就上臈、先可催三人之由、仰之、光盛、公國、公清等也此日、奉書寫金泥般若心經一卷、并

墨字最勝王經、正論品等了、隆職來申官廳破壞事、直先可催功國之由仰之、

八日、庚辰晴、終日奉書不空絹索經、明後日於御社爲奉供養也、長房取進盛實朝臣名簿、

九日、辛巳晴、宗賴來申條々事、親國申明日行幸事、余仰云、明日夜行日也、雖有例、猶他日可宜、明後日

御衰日、全不可被憚者、又申云、祭使事、公經朝臣、頗未斷申狀也、承彼狀可奏云々、頭中將寶明、

又申臨時祭之事等、

十日、壬午晴、已刻、着直衣參內、依被發遣佛舍利於諸社也、即主上着御々直衣、先是有御浴殿、少將信清、女房相共候也、御引直衣如恒、白御衣、二單衣、紅此間、豫五位

房相共候也、御引直衣如恒、白御衣、二單衣、紅此間、豫五位

殿上人等、運置神寶等、主上先於二間、有每日御拜、今日未無御拜、仍先令拜給也、次出御登御座、余經御帳後、着母屋圓座、此間置神寶了、

被獻佛舍利所、總五十ヶ社也、

宇佐、八幡、

已上、各被加御裝束一具、其法服也、御念誦

水一連、入圓宮、御轍宮、四方居宮也、各置朱

漆辛櫃蓋、

賀茂已下、舍利許也、

各一粒、入銀小宮、其上裝紙、納小塔中、四寸許、以神木作之、

加緑色、叙覽之時、辛櫃蓋一三五基ヲ置也、

皆悉取置了、召長房、開御念誦宮、備叙覽、又塔一

基、取出銀宮、同覽之、此役藏人頭可奉仕也、而共服藥、仍召奉行職事令役也、次五

位、六位、次第撤之、次入御、先日官府請印了、仍今日

無內文、仍上卿不參也、今日、終日公家及余神事

也、但不忌僧尼、佛事、姪者、月水、服者等忌之、又

終日御精進也、承曆以後如此、事了參院、以經仲

入見參、自昨日又聊御增氣云々、招出定長、問子

細、去夜頗有御振、今日猶不快、御膳如無云々、小時

歸參內裏、申刻退出、今日、於春日社、供養經五卷、前大僧正參仕、自被供養也、

十二日、甲晴、午刻參院、以經仲入見參、御惱只同

前云々、資實委語御有様、御足汁出之所、有熱氣、其

口喝云々、去夕、大略御絶入云々、今朝又不快御、但相

者本覺、申猶更不可有怖畏之由云々、右府出來、

談雜事、御惱雖重、非急事、歎云々、未刻許退出、

參內、即歸宅、

十三日、乙晴、此日寅刻、太上法皇、崩御于六條西

洞院宮、御年六十六、鳥羽院第四皇子、御母待賢門院、一條高

倉兩院父、六條先帝、當今三帝祖、保元以來卅餘年治

天下、寬仁稟性、慈悲役世、歸依佛教之德、殆甚於

梁武帝、只恨忘延喜天曆之古風、自去年初冬、御惱

始萌、漸々御増、遂以歸泉、天下皆愁之、况朝暮狎

德之類哉、海內悉傷、况名利飽恩之輩哉、未明、右大

臣、及資實、告事一定之由、即着直衣冠、營參、以泰

經卿、申入兩女院、以資實觸二品、小時、右大臣出

來、語御臨終之間事、善知識上人滿敬、本成仁和寺宮

勝賢僧正候之、十念具足、臨終正念、面向西方、手結

定印、決定往生、更不疑云々、後聞、不向給四方、向翼方云々、又頗微笑、疑生天之相

云、右大臣云、昨日謁、便宜奏諒闇及議之由、〔雖〕無殊勅答、天氣似宜云々、暫而左大將參入、又左大臣參入、余内々示合亮間之間事、有服膺之氣、召宗賴朝臣、仰非父子之間、有亮間之例、可問之由、即又仰可參内裏之由了、先是、職事等參入、皆令參内裏了、已刻、余退出、參内、大將相伴、大外記、兩大夫史等參入、各仰勘文事、宗賴、於弓場殿邊仰之、余參朝餉、少小時退直廬、披亮開記、抄出當惡事等、大將相共抄之、此間、左内兩府參入、直衣、左大臣、於院御所、可被參内之由、面觸也、内大臣命其子忠季朝臣、令告之、其使達路頭云々、兩府共坐御殿南廣庇云々、

未刻、余參御所、宗賴朝臣持來師尙朝臣、師直、廣房等勘例、見了返給、余出鬼間、招兩府、仰藏人召四座三枚、卒爾令數之宗賴持參勘文三通、余如形見之、與左大臣、左大臣每見一通、且與內大臣、各一見了、返與余、々々示合可有亮聞哉否矣、左大臣云、承和例符合之上、大治上皇着御一年之服、若爲帝王者、亮聞無疑、祖孫之間、其例如此、況當今傳國之間、法皇之恩難被謝、以此等之儀思之、尤可有亮聞歟、內大臣大略同之、百千事無益、只以登極之次第、必可

有_二此儀_一歟、大治之例、雖_レ可_レ比、猶就_レ重可_レ被_レ仰_二諒闇之由_一歟、余云、大治之例、不可_レ比、彼者曾孫也、是_レ祖孫也、彼者上皇現存之時也、是_レ先帝晏駕之後也、彼者無_二傳國恩_一、是_レ有_二發極之詔_一、三ヶ之條之差異如此、何況、大治無_二亮闇_一者、爲_レ帝不快也、承和有_二亮闇_一者、爲_レ君最吉也、承平半年之心喪者、只以_レ謂_二祖孫、依_二厚禮_一也、今度者、服紀不齊之上、有_二讓國之子細_一云、彼云是、尤可_レ有_二諒闇_一歟、兩丞相共諾、余召_二宗賴、返_二給勘文等_一、仰云、任_二承和例_一、可_二天下亮闇_一、可_レ勘_二申代々例_一之由、可_レ仰_二外記_一者、此後、暫與_二人言談_一、各以退出了、余退_レ廬、披_二舊記_一、檢_二先例_一之處、猶今日奏_二遺詔_一、可_レ被_レ行_二固關等_一歟、其故、先例、多葬送日、先被_レ奏_二遺詔_一、而保元依_二御遺言_一、當日有_二葬禮_一、彼日依_二關白衰日_一、及五暮等之難、不_レ被_レ奏_二遺詔_一、依_二遺詔_一、本家之葬禮、雖_レ不_レ撰_二日_一、奉_二開詔_一、公家事、又可_レ撰_二日_一、仍被_レ選_二彼日_一也、後日奏_レ之、葬送夜、遣_二勅使_一之條、不_二分明_一、安元葬送之夜、爲_二吉曜_一、本所存、可_レ奏_二遺令_一之由、而公家彼日可_レ奏_二之由、仰留、是御陪廬之日、必可_レ奏_二遺令_一之由、奉行職事致_二謬案_一、執柄又不_レ被_レ仰_二子細_一之間、有_二此失_一、仍葬禮夜、雖_二遺令以前、依_レ難_一默止、被_レ獻_二御使_一了、件兩度之

外、曾無此例、遙尋舊例之處、天曆八年、太后崩御、葬送以前、奏遺令、正曆二年、圓融院御時、崩御當日、被申之、葬禮以前、及今度御葬送、明後日重日也、遺詔之七八日也、第三日、仍後日可奏之由、本院有存知歟、此條不可、然之故、今日被奏遺詔、宜歟、先例如此之由、以三長房、內々觸本所奉行人等、右大臣、及二人共有不存之義、有不當之色云々、爰長房云、此事自公家、非可被霍執、今日被奏遺詔之條、有例有理之上、葬禮之夜、勅使之條、又以不叶物儀、仍改安元之遺失、復往代之正禮、如何之由、一旦被聞達許也、此上之左右、只在本院之最而已、于時、兩人服膺、忽被催遺詔使了云々、仍仰宗賴、固關、警固事等、令催促之、但遺詔雖爲後日、猶今日令行、件等事之由、雖依存之、是依延久例也、又道理事可被急行、上卿別當兼光領狀云々、秉燭之後、遺詔使前丹後守仲經朝臣參陣、付大外記師直奏之、外記申上卿在陣、上卿付藏人頭宗賴奏之、宗賴以女房告余、於鬼間邊問之、宗賴申云、太上法皇遺詔使申云、可停止素服舉哀者、余云、葬官可停事、不被申歟、如何、宗賴云、依不審、尋上卿之處、外記不申云々、余云、先例有如此之事、只使之失、此旨可

令聞上卿也、御事、仰返聞食之由、先例也、又依遺詔、可止素服舉哀、兼又一關之間、可停止宴飲、作樂之由、可仰上卿者、宗賴向陣仰之、次行固關付國警固等之事云々、入夜、左衛門督通親卿、爲右大臣使參內、以女房卿局、有示事、蓮華王院寶藏所納之寶物等散失事云々、右大臣可被計沙汰之由答之、而本院之沙汰不可叶、猶可給出納一人之由、右大臣令申云々、仍差遣出納一人、事猶依不審、仰遺其趣、未聞返事、左金吾師範之後、必可有沙汰之由、右大臣申旨以爲總示送女房之許、今夜宿候、宗賴朝臣、今日召宣憲朝臣、問次第日次等申也、十四日丙戌晴、早旦退出之間、宗賴申出納歸參申狀、并右大臣返等事、大臣返札報云、此事、微臣報申之由、尤有其恐、迷是非了、又件寶藏宿納御佛事用途云云、出納云、院御使相共付封了、依右大臣命也云云、余退出之後、以使者兼親、示送右大臣許云、通親卿稱御使來、觸寶物散失之由、可爲本所成敗之由、再三答之、而件條都不可叶、可給出納一人之由、自本院被申旨、委細示之、仍獻出納之處、無左右被付封了、加之、如御報者、不知之

趣也、又宿納御佛事用途之由、又不承及、旁足驚奇、早遣出納、可令解封、此事、天下之聞太不便、若爲金吾之虛誕者、何無左右、被仰、可加封之由於、出納哉、縱又雖被付封、尤被出彼用途之後、可有沙汰事歟、如今沙汰者、依宿納寶藏、自公家似被抑留彼用途、事太非常、不慮之違亂也、返々驚歎無限、早々獻出納、可令解其封也者、大臣返答云、件事、全非兼雅發言、只金吾兩御倉、七條殿、藤原王院寶藏等也、納物悉散失、各欲付封、如何之由被申候しかば、尤可然とばかり令答了、始終本末、全不知、但於今者、被解封、還又輕々也、如仰只可取、出宿納之物也、明日御葬送了、明日可取出也云々、此事未得其意、金吾虛言歟、大臣所答、又以不被陳、縱雖不日發言、依金吾之語、答同心之趣、已是不異發意、又撤宿納之物之後、可有沙汰之由、尤可被示歟、今被問子細之時、有此答、未弁是非、即召宗賴、御葬禮以後、早可遣出納、可被取出彼宿納之物之由仰了、倚廬之間事、仰親國了云々、其所可依高倉院例之由仰也、東子午廊女房局、井御厨子所屋也、昨日、於舊院々司公卿參集、被定院

號、後白河院云々、

十五日、亥陰、不雨、此日、後白河院御葬送也、雖爲重日、依遣詔所被行也、第三日可行之由、被仰置云々、其儀、待

賢門院、建春門院等例云々、廂御車、車副、炬火六人、北

面下臈、大夫尉公卿、定儀、遣酒正尙家、前大和守親盛、國檢、檢非違使草清、俊兼、燒香四人、同北面

下臈、左衛門尉藤能兼、同實重、平基保、同資康、皆左衛門尉也、素服之人、右大臣已下、

步行于御車後、他人不供奉、仁和寺宮已下、一町

許、從其後、前陣被參、自閑路云々、是爲停路頭狼藉也、已御遣言云々、御車牛等、賜導師、咒

願云々、昇入御棺於御車役人、中將親能、基範、少將敦成、忠行、資明法師、範

綱法師、能盛法師、藥忠、範清等云々、今日、余參內宿候、亥一點、被獻勅

使、頭中將實明朝臣、無別、御詞、只御不密之由也、及深更、又被獻、藏人左衛門、各歸參、無爲奉納之由令申云々、

十六日、戊子、早旦退出、依爲歸忌日、先向北家、其後

來此亭、入夜又宿北屋也、

十七日、己丑、今夜爲方違、欲向九條、而中宮聊不例御

坐之由、女房告送、仍劇以參內、忠季朝臣在共、頗六借御坐、

然而依御衰日、復日不及御占、只明曉可修土公、

鬼氣、咒咀等御祭之由仰之、入夜爲方違、向九條、

先是、以忠季朝臣、條々事問、送內大臣許、其中主

上內藏寮御衣色事、問遺之、先々多黑色也、而保元內府記、注鈍色之由、若有兩說者、今度尤可從輕也、保元例槌爲鈍色、凡御束帶、皆雖爲黑色、於御柏、大口者鈍色也、御衣又可同歟、如何者、余向九條之後、忠季來傳返報云、保元度、依衰日不出仕、然而、彼時委細尋問、所注置也、定無謬事歟、如仰鈍色尤可宜歟云々、仍即此旨仰宗賴朝臣了、今日、爲示御誦經使院北面輩可被催渡事、宗賴向右大臣亭、其次大臣云、御處分帳、來十九日可進也、以定長可爲使、保元度、忠能卿爲美福門院御使、持參廳御下文、非御處分狀、彼院諸事、被賜祿、獻公家之由、屬下文云々、賜祿云々、此事不審也、今度追彼例、欲定長、且又何樣可候哉云々、余云、保元例、更不似今度、彼之美福門院、掌行表事、忠能爲彼御使、又彼者廳下文也、是御處分狀也、輕重不齊之上、今度、兩女院雖御坐、更非畏事、掌行之御跡、偏右大臣之沙汰也、定長爲大臣之使、令參之條、理不可然、須大臣自被持參也、延久一條大關白、被持參舊院御書目錄、此例、宗賴所勘出也、遂爲、尤足准據者歟、但推而示此旨、頗非無所憚、內々下官命、如此之由可相語之旨仰了、宗賴同

來九條、明旦可行向之由所申也、此夜宿堂、十八日、庚晴、早旦、歸參內裏、午刻、宗賴朝臣參上、今朝、向右大臣亭、所歸參也、申云、右大臣申云、自身持參之條、尤可然、抑開御封之間、無證人、可有後日之恐、宗賴參上、相共可披歟、將又殿下有御參六條殿、於御前可開歟云々、宗賴私中云、此條共何機にかはら、余云、此條共不可然、只舊院近臣、如秦經、定長、相共可被開歟、又可承刻限之由、可仰遣之、召仰置宗賴、白地退出、念誦如例、今日、宮別事不御、悅恐不少、自今日、使覺成僧正令修愛染王護摩、宮御所也、申刻、宗賴示送云、右大臣、秉燭之程可參之由被申云々、余戊刻參內、先是、右大臣參上、於鬼間敷、敷面、謁之、大臣召資實、被仰御手箱可持參之由、即資實持參手箱一合、大臣取之、被置余前、余召宗賴、令解封、須於御前解封也、然而與右府相爲令明、先以披之、一々見之、丞相又相見文書三通、御手箱之外一通、御御目錄一通、余砂金散用一通、御佛事用通注文、余留御劔、目錄返與殘二通了、砂金事、直可被示合左武衛之由示了、資實參進、申大臣云、御劔櫃十三合、所持參也、大臣云、女院御身、不可罷入、仍併可持參之由、二品所申也、但此中十三腰申請、可

給龍僧者、余云、當時被取置內裏之條、專不可然、早如本可被持歸也、可給僧之御劔等、早可斷絕也、目錄留內裏了、是內事也、其中貴重物等、尤可被置寶藏、歟、若御要之時、以目錄被申、有何煩哉者、大臣歸參了、左武衛雖遣召、不參、次以宗賴返御手箱於御所了、余參御前、經御覽了、加納御劔目錄、付余封預女房了、今夜宿候、依明日可御倚廬也、

今日延果申云、俊證僧正所修之延命法、所申付延果也、可續行歟云々、又覺成申云、延命法者、東寺御持僧必所修也、仍覺成可修之、如意輪法、他人可承也云々、余可問綱所之由、仰宗賴了、又申云、寺務事、不待勅定、先例所致沙汰也云々、同可問之由仰了、

十九日、丑晴、此日、主上避正殿、御于倚廬也、余未明相尋之處、陰陽師未參云々、又職事未見、仍早召具宣憲朝臣、可忍參之由、仰宗賴朝臣、在陣少、小時、宗賴持來日時勘文、是內覽也云々、見了、不加禮紙、凶事勘文如此云、給返、只遣侍、日時也、不覺御調度、即余着直衣、參御、給返日時、延久、保元、安元等例云々、、所、宗賴付內侍、奏日時、或指杖云々、、留御所、先例歟、

即工等參入下板敷云々、余仰下素服人々、公卿、

大納言實宗卿、左衛門督通親卿、左兵衛督能保卿、左宰相中相實教卿、藤宰相中將公時卿、

殿上人

實明朝臣、宗賴朝臣、通宗朝臣、

信清朝臣、高通朝臣、但不參、忠季朝臣、

光綱、親國、

長房、範光、

藏人、非藏人等、

御厨子所預、

紀久信、

出納、

女房、

帥典侍、伊與掌侍、弁掌侍、

次更下宿所休息、秉燭、着吉服直衣、參御前、召親國、問倚廬御裝束具否、申云、皆悉沙汰了、但御裝束未持參、所相待也云々、此間、於御所、招能保卿、令見昨日右大臣所持參之御處分帳了、能

保云、今日於謁右大臣、每事申談、又承了云々、如
本付余封置了、及亥終、持參御裝束云々、仍仰親
國令問時、申已至之由、此間、主上着御裝束、
吉服御引直衣、綾二御衣、忠季朝臣、信清等候之、內侍二
人伊與、參上、取三劔璽、監御座御劔、內侍進テ直取之、候三前後、主上經
御殿御帳北、并束中障子等、御東面北妻戸下、內侍候
頭宗賴朝臣、取三脂燭前行、頭寶明朝臣取三御草鞋、
余襄御座、即寶明取璽御宮前行、忠季朝臣取三御劔、
候三御後、余、次忠季、次第此定也、其路經三臺盤所廊南緣、
東行、入御自三倚應御所西面北戸、宗賴留戸外、寶明朝臣
進御帳前、其路頗不得心、須自帳北、自寶明、入三其中、直
參進也、而經三帳後南等、不存三先規、余參進、寢幌即參入、
忠季朝臣相次參入、主上經帳與三三尺几帳之間、御
東前敷座、余經三路御座北間、無此間、寶明、忠季
等、置三劔璽於御帳中御枕方、也、忠季經帳與三母屋柱
之間、寶明經三柱外、不知三故各退下、次寶明朝臣取三
御冠、先是、倚應東面、出納入自三倚應東面南戸、件戸、先例
今日懸帳、經三女房候所、經三母屋西際御帳、并御座北
等、置三御前、件御冠、繩細燕尾切上緒、土高杯、置御宮、其上置三
依疊廣、御座外無所、次宗賴朝臣持三參御裝束、布黑染國旗御
仍只置三御座上、也、

一筋也、同下襲、同布軍裝御袴、平絹純色御袴、柑子色御前、大口、置柳宮、居土高坏、相加繩御帶、并御扇等也。置御前、
 御冠、次實明朝臣、持參內藏寮御衣、純色綿御衣一領、御腰、裏白平、置衣宮。置御座南傍、次召忠季朝臣、
 撤胡簾、只帶經同路參上、先解吉御直衣、置御帳北
 邊、依余一命也、次着御裝束、向吉方、忠季一人奉仕之、半臂緒只一筋也、長一丈、自中二倍、引まはして、奉結、左方、無垂緒也、御帶索也、
 如例、自左引まはして、片匙奉結之、御裝束了居御、其後撤本御冠、
 留置吉御裝束上、御冠指同撤之、奉加服御冠、此間、召御櫛、髮挽、
 藏人範高置柳宮、持參之、經前々路也、忠季取之、如形
 奉理髮了、即返給藏人了、主上着御了、東面御座、
 忠季朝臣追出了、余竊奏云、向舊院御在所方、異角也、爲
 報酬、着錫紵之由、聊可思食叙念之中、之由奏了、
 依有所思也、主上隨申狀、暫有御祈念、次召忠
 季、撤御裝束給之、如平置柳宮、取之退下、於戶
 下、召藏人給之、御冠留御所、令置御帳中御枕
 上方、忠季先置之、其後取、御裝束退下也、次女房等參入、經御帳後、候
 女房候所、少々又候御前、雖不預素服之人參
 入也、安元如、此云々、次實宗卿已下公卿并殿上人、
 於此陣外、西洞院面、北着、素服了、脱之歸着陣、其

後、女房帥典侍已下、於同所着之、脫之歸參、男女皆吉服上着之也、是先例、次供御膳、女御裝束、自東面侍役送着紫服女房等也、黑漆面、面供之也、陪膳帥典押、紫布也、六前、白飯上盛黑飯也、居了之後、立御箸、即撤之了、次余退下直廬、今日、被立初日御誦經使、酉刻、上卿實宗即參入、參議光雅書也、今日依當吉日、被立也、

廿日、壬辰於直廬、書寫御處分帳等了、如本付封、返上女房、余及晚退出、

廿六日、戊晴此日、二七日御誦經也、三七日同、今日定之、上卿實宗如例、同人始終奉行也、申刻、外記爲內覽來、見了返給也、今日、雖爲余衰日、不憚之、初度擇吉日、後々不可然之故也、勘先例、問人々、左內、公家御衰日之外、不避之、今日、每七日、不當御衰日、於他憚者、不相避之、宗賴來、申條々事、此中有座主中受戒事、自倚廬還御之後、可奏下戒狀之由仰了、親國申亮間御裝束之間事、

四月

一日、壬寅晴、依法臺中陰、無平座儀、
二日、卯雨降、此日、倚廬還御日也、又有解陣、開關等

事、被下黑橡宣旨、有御齋會定等、已上公卿實宗、宗賴云々、余今夕着亮間服、鈍色直衣、指貫無文、冠、戊刻參內、車如常、但無無相違、卷如常、衣平相白也、文育革也、此外疊如例、未還御云々、仍先參倚廬御所、此間、陣事了、公卿已下、於此陣外脫素服云々、仍女房等同脫之、次頭中將持參錫紵御裝束、去月十九日所召之御裝束也、御冠、先是進五房、次召忠季朝臣、奉仕御裝束、依安元例、只着御大口、御柏、表衣等、自余略了、着御了、暫居御、即脫之、忠季取之退下、留絹類、御柏、大口等也、自余加索御帶給宮主、殘人、次歸參、着御亮間御衣、先進去黑御直衣、鈍色二御衣、柑子色御袴等也、御冠相具進之、元御冠無差別、然而、本御冠爲同物、仍不被改之、御裝束了、忠季退下、次余仰宗賴、令撤掌燈、殘人役又以藏人、取前敷御座一帖、敷南間、又、藏人、取前敷御座一帖、敷南間、藏人役乾、即移御、次實明朝臣、自同間供御贖物、觀國也、次獻大麻、次宮主奉仕御襖、其後也、此間撫人形給如常、御襖了、宮主退下、次實明撤御贖物、次主上如本着御前敷、御座如本敷、忽藏人不候、仍見掌燈如本舉之、次實明、忠季取璽劍、次主上還御本殿、其路如渡御、余衰、宗賴獻御草鞋、即取脂燭前行、入御所、又余衰御簾也、內侍於簾

中、取_二堪_一、御銀、直置、次余退出、此日、自_二今朝_一、奉_二仕亮_一、御裝束、御殿、朝餉皆_二廣_一、又鈍色綠御疊也、御調度、黑染屏風、几帳鈍色也、委旨見_二奉行人_一注文、

八日、已遣宗賴於_二勝賢僧正住房_一、清淨、光院、奉_二迎_一如意寶珠、安_二置_一禁中、余參會也、此間事有_二子細_一、不能_二具記_一、

只錄_二大概_一也、先弘法大師渡唐歸朝之時、有_二嫡々_一相承之珠、即被_二載_一御遺告、被_二埋_一室生精進峯、是又大

師自所_二造珠_一、被_二奉_一、件珠、自大師相傳、至于法勝寺圓堂本佛愛染王御身_一、範俊僧正、々々進百川院、今一有_二寶珠_一、其出所未詳、同範

俊所_二進云々_一、而鳥羽院御時、預_二給家成卿_一、沒後召_二返_一之、安_二置_一勝光明院寶藏、而此法皇御時、去_二壽永_一之比、

九郎義經欲_二奉_一取、法皇之時、勝賢僧正奏_二事由_一、申_二出彼珠_一、修_二件法_一、果以無爲、其後依_二院宣_一、修_二長日

御祈、去年祈雨之時、即以_二此珠_一安_二壇上_一、果以有_二効驗_一、今度御惱之時、同修之、頗雖無_二始終之靈驗_一、早速

結願、仍御終焉之時、不_二修也_一、然而依_二有_一七日御祈、猶不_二返納_一、大略如_二私物_一也、不_二返上_一、遂以崩御、余側

聞_二此事_一、今日遣_二宗賴_一、即付_二御所進之也_一、今日、余愛染王行法結願日也、又最上吉日也、事表示、尤爲_二吉祥_一、

歟、御遂籠立_二白木床子_一、新、奉安之、件珠安_二置_一厨子

張、有_二錦覆_一、本納_二入角_一〔赤〕辛櫃云々、而件櫃在_二醍醐_一、於_二珠者_一、先以召寄了隨身云々、聊有_二疑歟_一今夜余宿候、

五月

一日、壬雨降、依_二旬日_一、若_二吉服_一修_二祓_一、但依_二亮間_一不_二遙拜_一、依_二不知_一先例、召_二神祇大副兼貞照_一之、申_二先

例不_二詳之由_一也、前齋院可_二被_一渡_二此亭_一、依法皇云云、仍以_二兼親爲使_一、觸_二遣右大臣并經房仰_一、件卿、爲云

云、入_二夜歸來_一云、右大臣云、公家御沙汰、法住寺萱御所、若_二西八條泉御所等_一、齋院暫_二御座_一、尤可_二然_一、但彼宮

事不_二能_一進退、可_二被_一觸_二仰戶部_一云々、經房云、日來可_二申_一事由、旨、頻有_二仰_一、然而、依_二無_一心不_二申出_一、

〔云々〕今有_二此仰_一、早申_二彼宮_一、可_二申_一御返事、若〔可_二渡御者_一、五月有_二忌_一、六月可_二渡給_一云々、今日、賴

朝卿修_二佛事_一、施物之躰、尤可_二然之由_一、人感心云々、宗賴、進_二囚人勘文_一、依_二明日免物_一也、余仰_二大理可_一持參

之由_二返給_一了、

二日、癸晴、又時々降雨、別當兼光卿來、宗賴參會、申_二今日免物之間事_一、條々問答卅余人、合_二爪點_一給了、近

代及百人、尤不便事也、此日、法皇冊九日御法事、雖
當復日、依陽明門院例、不被_レ憚、公家不遣_二度者_一
御誦經使、依復日也、是又先例也、余不參_二法會之_一
庭、依風病猶不快也、入夜、大夫尉廣元參入、左衛
門督、依仰可參之由也云々、余全不召也、然而可
仰遣關東事等、以武衛可傳仰、依有所爲使
下向之由仰之、明日可首途云々、密々申云、今度
一向不可入如此事中、之由將軍誠也、上洛之後、
又以書札、重以有嚴密之命等、爲身不爲告被_二
仰遣事等、依此事、若有不快事者、太可不便云
云、勿論事歟計也、廣元被思_二飽將軍歟、是依廷尉
事也、可然々々、今日御法事、七僧六十僧云々、
三日、甲晴、能保卿之許遣人、廣元申狀如此、然者、
以他人、可被_二冠候歟、將又只以_二力者_一可遣歟、
可相計之由、仰遣之處、親能今兩三日之間、可下
向歟、然而不讀_二漢字_一之人也、隨仰可遣_二力者_一
歟、且是往還可早速之故也云々、仰可然之由了、
頭中將實明朝臣、申殿上番事、此次仰可令注_二殿
上人上日之由_一去今兩
年也、

六月

一日、辛雨降、此日雖可有_二旬祓_一、昨日加_二灸治_一、依
爲_二三ヶ日內神齋_一、可有_二憚_一、十一日可補_二此闕之_一
由、神祇大副兼貞所申也、仍無_二此祓_一、於_二遙拜_一者、亮
聞之間總止之、史持_二來季御讀經立文_一、一昨日有宗來、十
六日可被_レ行云

內裏、并中宮御方、供_二御贖物_一如例、供進之時、中宮
及陪膳女房等、用_二吉服_一、

二日、壬雨降、泰經卿進_二二字_一、仲實、定長卿相_二具其息_一
勘解由次官清長_一來、定長、先年初參了、清
長、今日始所參也、左少辨宗隆來

今日付宗
賴、獻二字、此日、職事等、多申_二數ヶ條事_一、今日、記錄所
評定、

三日、卯晴、及_レ晚微雨、左衛門權佐朝經初參、昨日遣
弟朝基、昨日遣、依爲_二幻稚_一、今日不參、追可參云々、
大夫史隆職來申云、仁王會殺生禁斷、先卅ヶ日可
下_二知諸國_一而、官使懈怠、于_二今未_一下向云々、期過
了、於_二今者_一、不可_二下遣_一歟、將猶可_二遣歟_一、仰云、雖_二
期過_一、爭空不下_二知官符_一哉、早可_二下遣_一、但於_二本官
使_一、重可_二加誠_一、差_二替他人_一、可_二下知_一者、

四日、辰時、此日物忌也、右大辨親雅來門外云、興福寺三綱爲寺家使參入云々、明日午後、相具可參之由仰了、

五日、乙物忌也、但依爲_二乙日_一、午後職事等來、又興福寺三綱二人參入、先日進奏狀事等令_レ申、親雅同參入、其外又有條々事等、余又仰_二條々事_一、
六日、丙大雨、典樂頭賴基參入、持_二來溫白丸_一、然而、今日依爲_二長病日_一不服也、

八日、戊晴、法勝寺執行章言初參、又持_二來法勝寺庄々注文_一、以_二忠季朝臣_一、內府之許有_二示遺事_一、

八月

七日、己參內也、入_レ夜向_二九條堂_一、自_二明日_一爲_レ修恒例念佛也、

八日、庚早旦洗髮、午刻、請_二源空上人_一受戒、即始念佛、

十日、辛未明向_二東家_一、小浴之後、着_二吉服_一、衣冠、見_二石清水神輿_一、中宮所_レ被_二關厭_一也、蓋先規也、去年自然無_二沙汰_一、今年雖爲_二亮間年_一、思_二准據例_一、不可有憚、仍所_レ被_二厭也_一、奉行宮內大進長兼着_二吉服_一、相具參

內、先_二是_一亮宗賴朝臣覽_二日時_一、次余出_二居上達部座_一、先_二是數淨筵_一、取_二置御裝束少々_一、長房長兼時、宗方等、皆着吉服、役也、余見了、次第運出、其後出_二南簀子_一、禮_二御輿_一、立座中、久禮床之上立大床于_一、見了歸_二本座_一、次宗賴朝臣覽_二御輿目其上居_一、御輿也、見了返給、次召_二寄駕與了裝束_一、紙書之亮宗賴朝臣覽_一、御輿也、見了返給、次召_二寄駕與了裝束_一、具覽_一之、件數束、總廿四具也、次御輿發遣了、後余歸_二堂_一、于_二時日未出_一、即始念佛了、

十一日、未刻、長兼歸參、御輿、無爲奉送之由、所_レ申也、進宮寺、_二又產穢日數之間事_一、委仰_二遣之_一、成清已下、伏_二理無_一申事云々、

十五日、寅刻向_二東家小浴之後_一、着_二吉衣冠_一、遣_二職事一人_一、陰陽師等於_二川原_一修_二由祓_一、依放生會也、其後、余降_二庭上_一、向_二石清水方_一祈念、今日、猶依_二可_一修念佛也、凡彼官寺之習、不_レ忌_二佛事_一、然而爲_二謹慎_一也、又今日放生會、無_二風雨之難_一、無爲事可_レ被_二遣之由_一、疑_二丹精_一所_レ祈念申也、是則產穢日數事、任_二式文并太治四年例_一、公家之法、可_レ忌_二七ヶ日_一之由仰下了、豫左內兩府申_二難_一一決之由、然而、余以_二道理_一定仰了、而若有_二例事_一者、成清如_二例成_一阿黨、稱_二不_一叶_二神慮_一之

由歟、仍殊致祈願之處、無爲無事被遂了、悅思不
少、日未出以前歸來、始念佛了、

十六日、入夜歸大炊亭、先是、參八條院、并內
裏、

十九日、早旦、女房同車、向九條、東家也、此日、大將女

子依行始也、吉方無可然之家、九條不當凶方、

仍所行向也、中宮御行、始雖不當指吉方、又不

當凶方、仍故女院御所、爲追彼嘉例也、未刻、女

子來、大將半部車、車副一人、車後出衣、女郎花、櫻、紅引、

衣、前驅十六人、衣冠、此中數房一人、俄依、所勢不參、仍定十五人、四位二人、五位十

二人、六位二人、余左府生忠武、着布衣、在車後、

出車、兩三兩、伊輔朝臣、忠孝朝臣、高直朝臣、無半物車、先例也、其後、

殿上人三人、兼宗朝臣、宗國朝臣、高能朝臣等也、已上東家、

寢殿南面寄車、左兵衛督能保卿、着直衣一來會、寄

車也、其後余暫謁武衛、少小時小兒歸、先女房指出贈

物、兼宗朝臣受之、次寄車、次余女房相共向堂、亥、

刻歸大炊御門亭、

廿日、此日、中宮出給大炊亭、依明後日可有御

灸治也、出車五兩、但依高直、不出衣、用糸毛、公卿九人、此外

兩大夫、諸衛一員皆參、每事如例、

廿四日、雨下、此日、最勝禪初日也、依物忌不參、

證誠天台座主顯真、

廿六日、雨下、余參最勝講、朝座中間也、內大臣已

下、候御前、余不着之、即親國同參內刻、只朝座了、仰且可始之由也

歸着殿上、以實明朝臣、奏事由、尋辨之間遲來、仍

便仰鐘、頭中將仰藏人、令槌鐘、出居着座之後、余

已下着座、事了、參御前、退出、

廿八日、雨止、余參內、朝座行道之間也、證忠已下在

座、余加着之、朝座了退下、余不歸着殿上、以宗

賴仰事可始之由、少小時槌鐘、公卿着座、余在簾

中、事了、參御前、者有小弓沙汰、暫起候、退出了、

大將同參、又退出了、今日寅刻、雨猶不止、水損無疑、

仍余忽着衣服、出戶外、向天祈也、即北風忽吹、信

心爰發、一時許祈念、先是、祈雨事等、仰遣宗賴之

許了、即付寢、少小時眠覺、天顏快晴、朝日照臨、感淚數

行、仍止祈雨事等了、法成寺水入之由有告、仍卒爾

行向檢知、無殊恐、歸來之後參內也、鳥羽邊洪水殊

大云々、然而不及巨害、佛天之助也、

九月

一日、晴、旬祓如例、又遣職事一人於河原、有御燈由祓事、

二日、晴、長房申大將姬君五十日之間事、仰子細了、以宗賴朝臣、仰合城興寺事於左大臣、又記錄所進御社諸寺諸國等文書、下左大臣、於彼所、爲令注申也、又仰合僧正轉任之間事、能保卿來、談雜事、

三日、晴、以忠季朝臣、仰神宮上卿之間事於內大臣、仰也、又仰合城興寺事、

四日、季弘申云、去夜熒惑犯天江了、三ヶ日以後、雖可進奏、且所申也、即勘進先例、多以無爲、又粗有咎徵、御祈事可申沙汰之由、仰宗賴朝臣、忠季朝臣來、示內大臣返事、神宮上卿事領狀、但過今月、可承云々、猶廿日比可被受取之由仰之、又城興寺事、所望之人々、皆以無所據、只可爲後院領也、不可爲異議云々、宗賴朝臣申左大臣返事、城興寺事、三人所被申、皆有謂、又無據、所詮可在御定、但法皇御知行未處分、而崩御、公家御沙汰宜歟

云々、兩府申狀、已以符合、道理可然事歟、問狀二、若可爲後院領哉否之條、一切不仰也、

十月

一日、庚子陰雨間瀟、平座、上卿源中納言、參議左宰相中將實教、辨少納言等、各稱障、可譴責之由、仰長房了、入夜宗賴朝臣、申條々事、去夜有仗議、石清水修造之間、可奉遷御躰、所申并彌勒寺清祓、同寺宇佐御躰、御在所等之間事也、此次錢貨停否事、有僉議、但此條不書定文、群卿一同申可停止之由、內府獨申云、直法事使廳不遵行、最不可然、先件條、任宣下旨、可施行之由、可被仰下歟、其條不拘制法、若停止、又同歟云々、左大臣被申可被停之由、但若沽價事、無宣下者、始終者、不可限錢貨、雖他物商人違犯無紕行之、最不便歟云々、親國申孔雀經法、僧前諸國散狀、此日、宮御方御更衣儀如例、行事宮司權大進長兼也、依御物忌、几帳、疊等、自去夜、籠候、行事同候、又旬御膳采女等、同以籠候、法成寺寶殿事、今日猶不終功、明日可沙汰終云々、自今日、宮御祈、始修佛眼護摩、變成、又修大威德供、山法

印依^少、余旬被如^例、

二日、^辛今日、猶天陰^少小雨、右中辨棟範朝臣來、申^新御堂之間事、元儀、鳥羽勝光明院之內、有^可被^立之儀、即事始礎了云々、而去月洪水之間、鳥羽爲^{水底}、縱雖^有防河之沙汰、始終非^無恐、此難、他堂雖^可同、於^新造之條者、彌又似^無用意、加之、故院雖^有造佛之沙汰、未^被定^{佛閣}之地、豫^可被^占鳥羽之由、雖^有其御意趣、白川院證金剛院、鳥羽院勝光明院、各究^{華麗}、盡^{莊嚴}、而結構不^及彼跡^者、頗^可無^{本意}之由、有^{御猶豫}云々、而今所^被建之御堂、頗存^{儉約}、仍以^{鳥羽}、被^占佛地^{之條}、還^可乖^彼叙念^歟、何況諸堂築垣已下、併損壞、其中勝光明院殊太云々、而供養以前、須^被修復、而當^{公家}御忌方、非^無事憚^者、若不^{修治}者、又法會可^換儀式、云^彼云^是、改^{鳥羽}之儀、逆華王院法華堂等近邊^可宜之由、忽以有^{其儀}、^{此事去比、余示^{右大臣}、々々々々、}而若^{逆華王院內}、可^被建立^者、子午歟、卯酉歟、又御佛安置之舁如何、隨^有無便宜事等、仍法花堂傍有^{空地}、可^被立^{彼所}歟、而其地頗有^{高下}、平等被^{曳成}、非^無事煩、此等之間事、可^蒙處分、

之由、舊院司等所^申也、兼又鳥羽已礎了、今被^改之條、涉^{禁忌}歟之由、通親卿所^申也、同可^承御定^者、

十一月

廿日、^己晴、此日、左大將女子百日也、秉燭、着^{吉服}、直衣、冠、密々渡^{大將亭}、^{北小路東洞院、即座所也、夜々、}代車、前驅衣冠、隨身布衣、不^引移馬、^{上、隨身等、不}余^以生^{彼亭}之由也、自^{北小路面門}、遣^入轎車、^{子午廊北妻、大將出來、襄^車簾、余下^車向^{寢殿}、能保}先^是、公卿大略來臨云々、即女房等、^{男八人、女列}居南面簾中、其後余出^自寢殿南面西第一間妻戶、^{經^座上、直着^座、^{是例也}、藤大納言已下、公卿着座、}次供^{養姬君御前物}、陪膳左近中將兼宗朝臣、^{持^御、}取^{打敷}參上、四位家司兼親朝臣已下、花族諸大夫等役送、皆悉供了、陪膳退下之後、余起座、經^{本路}歸入、先^是、姬君、^{乳母長房妻、}在^{母屋御座}、余仰^{陪膳女}房、摘^{切市餅}、^{凡百、}入^{銀器}一口、次余入^{丹井煎}、^{一口之、以^{摺木}、^{銀柳有^二、}座^{之、以^箸、^{同有^二、}三度}合^之、此間、五位諸大夫等、取^{折檻物}、^{籠物等}、置^南}

簀子敷、依時刻推移、余命于一人、置了、余歸出復座、次四位家司以政朝臣、居孟於折敷、持來、余取之、以政取

擬藤大納言、巡行如常、夫、取、瓶于、次二獻、右中將伊

輔朝臣、瓶于時大夫、伊輔取、瓶于、次最末參議兼忠卿申

上之、瓶于時大夫、伊輔取、瓶于、次最末參議兼忠卿申

汁、如何、今夜、余前汁有三盃、豫居之條失錯歟、

次三獻、頭中將實明朝臣、取、瓶于、次又居汁了、申

上又下箸、次四獻、兼光卿、取、瓶于、次命泰通

卿朗詠、之由、屋房出、周公旦之句、二反、次五獻、權中

納言泰通也、件卿一人、若、終束、不取、次居菓子、次居薯

蕷粥、不待居、次牽出馬一疋、余隨身忠武、藤大納言前

駟、於中門受取也、件前近可、候西中門、而自、次余歸

入、人々退出、余參內、中宮昇給上御壺禰之後退出、

于時子刻歟、今日、公卿座饗饌、本所辨備歟、而親宗

卿不應請、推參之間、令一前不足、兼忠卿不預饗、

然而召着座、余仰長房、歸入之次、追令居件饌也、

行事須豫隨見參居加之、尤不覺也、每獻傳其盃、

於殿上人座、無別勸盃也、殿上人座、次五位役之

如例、菓子、殿上人座素居也、薯蕷粥追居之也、余役

送、國行、仲資、相替勤之、納言手長大中納言兼行、

保行動、此事不可然也、諸大夫之中、頗撰可然人、

兩大納言手長可兼勤也、以他人、可用中納言

已下手長也、先々、七夜、并五、大納言兩人、人別有手

長、是又不可然、未見例也、是等行事不覺也、但不

替手長事者、恒例也、大將可異他、仍大納言手長

可各別之由、所存也、大納言兩人、人別相替事、又

不、然也、

今日、來臨公卿、

前大納言實家、藤中納言定能、

權中納言泰通、平中納言親宗、

右衛門督隆房、二位宰相雅長、

中宮權大夫家房、三位中將兼良、

源宰相兼忠、

殿上人、着座人也、

頭中將實明朝臣、左中將兼宗朝臣、

左中將成定朝臣、右中將伊輔朝臣、

右中將忠季朝臣、

依座狹、此外不着也、

廿一日、庚晴、頭中將實明朝臣來云、明日新嘗祭行事、

辨左少辨宗隆卜食也、而稱病、仍可催親經之由仰之、件宗隆、春日祭非巡勤之、大原野祭、依巡勤之、兩々重役、其程近々也、不可譴責也、神祇權大副卜部兼貞來、申訴訟之間事、證文等之中、頗有不審事、仍遂問注、可被下勘記錄所之由仰也、傳聞、前大僧正公顯、爲前大將堂供養導師、去比向關東、而不遂前途、於路頭頓滅云々、生年八十四、赴遠路、於途中頓滅、可悲々々、後監所覃、偏是似追從貪欲之微、門弟等不加制止之條、至恐至恐、但實否未聞、

廿二日、卯陰晴不定、入夜、左中辨親經朝臣來、新嘗祭神服神饌等闕如事、各可譴責之由仰也、右中辨棟範朝臣、申條々事、

廿三日、辰天晴、稻荷社神人有濫行事、以檢非違使明基、仰遣大理之許、親經參來、申去夜新嘗祭之間難事、藏人方、每事無沙汰、依內侍不參、及曉天云云、又諸國不濟神饌、然而、內膳司如形勤仕之云々、又申記錄所、并粟田宮等之間事、親國申雜事等、

廿四日、巳晴、法印下洛被來、即今日自山直所來也

云々及晚、勝賢僧正來、依招引也、大佛上人有申事、住吉神人被殺害之間事也、件事可請上人之由、早以仰聞了、入夜、女房先參內、暫可祀候云々、相續余參內、此日和奏也、左大臣、左大辨、左少辨宗隆等候之、余着布袴、但不帶劔、依無亮閤野劔也、尋常之時、猶有此例也、宗隆結文之間事、似在故實、自余作法太異樣、如何々々、父卿、官奏能知之由、有其聞之者也、此夜宿候、

廿五日、子日出以前退出、洗頭、始唯識會所作、奉行家司爲季下向、自今夜以阿闍梨賴真始修不空羅索護摩、五是又例事也、

廿六日、乙所作如昨、入夜、向雲林院圓阿家、爲方違也、件所雖有堂、門各別也、又中構檜垣、仍散齋之時、所不憚也、何況唯識會神事者、不忌佛事勿論也、

廿七日、丙早旦、自雲林院、向九條堂、奉爲故女院、自今夜始修懺法、是又例事也、爲逢彼發願所向也、長房申云、明日尊勝寺灌頂、上卿左衛門督、不尋逢云々、可催通資卿之由仰之、入夜申云、通親卿尋逢、領狀云々、

廿八日、丁酉此日、尊勝寺灌頂也、午刻、先日遣關東返札到來、天台座主事也、狀云、如_レ此事、下_ニ知子細、只左右可_レ在_ニ御定云々、去々年、顯眞補_ニ座主之時、被_レ問_ニ人々、各申_ニ法印當仁之由、其上雖_レ不_レ及_ニ異儀、猶親昵之間、爲_レ免_ニ自尊之咎、仰_ニ宗賴朝臣、于_レ時親候、仍直仰_ニ合丁_ニ、問_ニ三相府、仰_ニ明旦可_レ向之由、其次若可_レ補者、可_レ任_ニ僧正之間事、先問_ニ先例、相_ニ具件例、可_レ向之故也、

玉葉卷第六十三終

玉葉 卷第六十四

自建久四年正月
至同年十二月

建久四年 此卷九條本逸今以玉澤補之

正月

一日、巳午上天晴、晚頭小雨、此日依爲本命日、未明修泰山府君祭、在宣朝臣、當正朔、祭其道、可拂、內、雞鳴、之災、之由、殊可祈禱、之由仰之、拜天地四方、是吉服、雖、祭、年、猶有此拜、其後更就寢、依陪膳、樂實、遲參、及午刻、有手水事、即見鏡、已、兩事共著、亮、先例也、女房居、亮、見之、依、吉服、也、尋常用、亮、色、依、亮、也、然而、家中強不用之、仍元正就、吉也、余依、亮、色、不居、亮、此間、僕從等漸來集、仍着束帶、亮、招寄、亮、朝臣、亮、其心、云々、仍爲相試也、欲出之間、大外記中原師直持來叙位勘文、依嘉承例、見、余不出、客亭、以長房令傳獻之、長房指、持、亮、其後、大將來臨、相伴參內、入自左衛門陣代、昇小板敷、出上戶、亮、仍直參、亮、參、亮、朝餉、上御、中宮御方、云々、仍進參、小時、上還御、聊有御歡樂事也、然而、故不出、口外、于時職事未參、尋召之間、女房等語云、今朝、公卿濟々參入、皆以退出云々、然間、頭中將參入、召

御前、令尋沙汰、公卿兩三人祇候、上、但官外紀未參云々、早可召道之由仰之、參入時、可申案內、大將可着行、亮、官外記參、不告大將、不足言職事等、亮、不知、亮、官外記參、不告大將、不足言也、仍大將乍候、亮、禁裏、不行、今日事、雖似不忠、無其過、事欺、及晚、相伴大將、參殷富門院、亮、小路、亮、女房、退出歸宅、今日、余前駈十四人、亮、共殿上人、伊輔朝臣、忠季朝臣、能季朝臣、忠行等也、大將、并三位中將兼良等相供、亮、今日、余召府生番長等、假隨身、依兼次、賴武所勞也、但不召將曹已下一員、是例也、大將又同、家裝束如例年、裝寢殿、但不敷地鋪茵等、亮、庭上、亮、例、亮、人所、亮、侍所、亮、如例年、御簾疊几帳、皆尋常、隨身狩袴鈍色、皆自納

殿給之、須染色、而聊有遷々事、不給之、違例也、又其色不
 料、因給之、此條、旁以不當事也、官人依無給會、不束帶、件機密
 不可然事歟、壹九緒如例、前庭皆亮闇、豐前守有資一人、
 字佐通、宮御方御藥陪膳、女房宣旨局也、禁裏改疊、不
 替簾、女房局簾等破損殊太、獻調又不可然、仍
 渡、查御所御簾等云々、御藥之時、橡御袍上着御生
 氣御衣、是先例也、宮御方御裝束等、御簾、疊、几帳、壁代引、
 如尋常、不異例年也、御服平絹純色、淺黃等也、理雖不可然、
 房等、內宮兩方共被許綾、其色純色、淺黃等也、理雖不可然、
 保元以後代々例云々、仍強不制止、殷富門、宣陽門、
 兩女院、可居所々變之由、御後見等骨帳、余加制止、
 止了、依爲未曾有違例也、嘉承、父院裏、大治、鳥羽、
 院、安元、故院裏、建治承、高倉院、等、皆以不居、而保
 元美福門院不居、變之由、有豫議、止居之由無、仍可
 居之由、道親卿張行、隆房卿、追後非據歟、然而、余
 仰子細停止了、此事、余雖不可知事、自後院應
 被催送事也、仍尋沙汰也、余家無宿申、亮闇先例云
 云、此事猶可尋事也、後聞、政所、猶稱先例、有尋
 由云々、女房節供、陪膳兼親朝臣、疎同人、余節供棟
 範朝臣勤仕、陪膳兼親也、內御藥陪膳女房等、皆用亮
 闇服也、

二日、庚陰晴不定、早旦手水、陪膳兼、即具鏡了、主上
 自昨日聊有御樂事、今日殊以煩給云々、余密々欲
 參歟、然而、事似周章、猶豫之間、女房示送不可
 然之由、仍不參、明日可參也、且御祈等、明日可始
 修之由、仰宗賴了、今日、公卿少々來、其中謁隆忠
 卿、
 三日、辛晴、已刻參內、奉見御有樣、御歡樂之勢、更
 以驚目、凡神心迷惑、仍不願三々日之中、御祈等
 事、致其沙汰、成功庭弱、諸國不合期、事又卒爾也、
 仍余自今夜、仰覺成僧正、修不空羅索法、此例、有其本、
 也、又掃部頭季弘朝臣、修天曹地府祭、是皆余沙汰
 也、又仰功國、行泰山府君御祭七座、又明日可有
 十二社奉幣之由、加下知了、伊勢已下也、又七僧樂師法可
 被行之由、致其沙汰事、來六八日之間也、其外御祈
 等事、注目錄、給宗賴朝臣了、今日、終日奔波無
 他、深更退出、自今日、其物已出現給也、三々日之
 間、有宿申、又藏人所居、詰、
 四日、壬晴、已刻參內、今日直衣也、能保卿祇候、御祈事等、
 致其沙汰、大法事、被卿沙汰也、但新造等身樂師如來
 七鉢事、被仰可然人々七人、被下行其用途、納

殿無物之故也、座主之許、遣請書、并仰可候二間夜居之由、御持僧是也此條、舊年可被仰、而拜堂延引之間、明春可被仰之由、有其沙汰、令依大法事、一重辭退、其故、先師全玄僧正、中陰之間、登山拜堂延引云々、令參御祈之條、若可有事憚哉云々、然而、有議不被憚之、不着服、不遭喪之故也、抑件法、初後奏妓樂云々、而亮間中、禁中音樂有憚、然而於中堂可被修之所、拜堂前也、進退惟谷、內々仰合內府之處、只非大法、可被勸修之由被申、然之間、座主申云、仁源座主修此法之時、略妓樂了、其例又吉也、仍今度、亮間之間、用此例、最可叶物議之由被申也、仍其定被議定了、

此日、被立十二社奉幣使、上卿實家卿、伊勢、石清水、賀吉、祇園、春日、大原野、日吉、祇園、北野、貴布禰、辨右中辨棟範朝臣、八幡已下四社、公卿使知例、稻荷、春日、大原野、已上殿五位、日吉、祇園、北野、已上殿五位、貴布禰、依殊御祈、用殿上人使也、自去夜、俄此沙汰出來、仍每事遲怠、伊勢幣料、卒余所難叶、仍仰後院儲之、其中、兩面、自餘、倉町沙汰流云々諸社幣、大藏省々下云々、正月七々日之中奉幣、頗雖希代例、御祈有限、又非可憚事、加之、檢先例、承平年中、

正月三日有奉幣、准彼例所行也、宣命趣、疱瘡并天變事等也、今年爲厄年、其由同載之、未刻、上卿參上、當日有定、雅長卿書之、申刻、大內記宗業內覽宣命草、其狀云、祈神道佛界之由載之、余難云、於伊勢幣者、不載三寶字、依他事、自然有件字、猶先例削除之、何況、正々稱佛界哉、若有先例歟、如何、陳云、他社宣命無憚、於伊勢者、素不改之由所存也云々、重仰云、此申狀太無謂、我朝之習、以伊勢事爲本、爭以可載他社之狀載草奏哉、太以不當、雖須召過狀、年始最初之御祈也、有人愁不可宜、仍有之、仰子細、敢無披陳之方歟、清書見之、伊勢宣命、件所摺改之、爰知、本載佛界字歟、宗業雖有苦學問、家非重代、身隔庭訓、故有此失歟、依此宣命沙汰、秉燭之後發遣也、御修法數擅、今夜雖可始、致齋有憚、明曉可始之由仰之、但覺尊法印申云、息災法、多初夜可始之云々、仰依請被申旨雖可、然、先例急事之時、雖息災猶曉始之、非無其例也、然而、今日頗落居給、仍依請之由仰也、此夜、余宿候、今日、召權漏刻博士菅野季長、問公家周易御勘文間事、以左中辨親經朝臣問之、條々

由、子細粗有符合事等、仍感仰其旨、又御祈等之中、可召加之由、仰宗賴朝臣、

五日、晴、此日、粟田宮有奉幣、上卿左衛門督通親

卿、辨左中辨親經朝臣、使左近權中將成定朝臣、今日、

御有樣宜御、仍七佛藥師法、來八日可被始行之由、

下知了、有條々之故也、一者、明日六日復日也、御樂

之御祈等、多被始了、於今者、雖不可及日次之

沙汰、大法猶可撰日、而依御惱、被修大法、復月

猶可忌避、二者、八日同々雖不入之、吉齋日也、緣

日也、吉曜也、六日ハ火曜、八日ハ木曜、三者、我朝被興興言教、以

降、爲三年首吉祥御願、被置顯密之齋會、顯密御齋會、密者役七日法也、

而令依御惱事、能宗大法、彼法以前被始行之條、

聊可有思慮歟、於爲急事者、非此限、御樂聊安

堵之課也、又日次、八日爲勝、旁理在延引、仍仰下

此旨也、宗賴申云、保元法皇御時、於禁裏被行尊

勝陀羅尼供養事、被問人々、殊有其沙汰云々、余

云、今度、同可問之相府云々、

六日、甲戌、御惱同前、尊勝陀羅尼事、可被行之由、人申

也、但其儀頗不實、

七日、乙亥、無節會、亮關例也、外記來、申、御弓奏可付、

內侍所之由、仰聞食之由了、是又亮關例也、舊例、或上卿參陣奏事由、付內侍所云々、然而、中古以來、多以如今日儀也、

八日、丙子、御齋會始、大宮大納言已下、公卿濟々云

云、女王祿、二位宰相雅長卿參行、辨親經朝臣云々、此

日、於禁裏、二樓處四面母屋底、及四寶子、被行七佛藥師

法、座主權僧正、先日、宗賴朝臣遣請書、又仰御持僧

事、可候二間御加持、今夜着法服、相具前駈并延曆寺

所司等參內、先於二間、候御加持、有作法云々、

已下物、余渴之、次向宿所、暫以三記錄所、改着淨衣、參上、

堂莊嚴事訖、始初夜時、余奉代主上達時、佛後遣

戶懸掩簾、件間、頗上大幕、件廿口之內、備綱五口、權大僧都實圓、

爲第一行三體、去年孔雀經法導場、同此所也、而護摩壇在

左、是依所便宜也、今度、護摩壇在右、是山門

之流、曾無護摩壇、准左例云々、等身藥師如來

像七軀、新造之、佛師院尊、影刻之、僅一兩日之內、終其功也、件用途仰可憐之人々七人、今下三行佛

師之許、本願藥師經卅九卷摺寫之、其外金泥二卷藥師

經、納御經箱云々、輪燈幡已下、佛具太多、併能保卿

所調進也、初夜時了、參二間、有御加持、但不用

十二神將咒、只以樂師大咒、念誦加持也、青蓮院座

主、康治之比、修三件法、主上有御溫氣、依有便疑、
被用念誦加持云々、高倉院御時、都被止御加持、
然而、今度已燕寢了、傍傍壇場一行祕法、加持停止之
條、前後相違、仍依大阿闍梨執申、所被用康治例、
也、或人云、後七日法、加持香水以前、無御加持云々、
此條、當時無覺悟之人、但此條未知本說、又無其
理、仍問入道博陸、并內大臣等之處、共被申不可
憚之由、仍所被行御加持也、後日、左大臣勘申
先例、余又勘出了、凡以勿論事也、此夜、不參御堂修
正、令參隆忠良經等卿令行也、依大法指令也、
九日、丁巳、刻、賴輔入道入滅了、卅年奉公之舊
老、忽以遷化、最足哀慟、仍今日雖欲參御堂、停
止出仕了、臨終正念、往生無疑云々、此事、悅恐不
少、自玄冬煩不食、遂以如此、此、余頻勸進臨終之
行議、果以十念成就、實是先世之宿緣也、
十日、戊辰、外記政始、上卿左衛門督通親卿、御齋會中有
例、爲請印、與指度緣、所被急行也、此日、於御
殿、被行六十口御讀經、新佛新經仁王等也、庚辰三十九日、上卿權中納言
泰通卿、當日定日時僧名、今日不出行、
十一日、己卯、主上御抱瘡令膿給之間、無御溫氣、

又不辛苦給、醫師等、謂不忠義、偏是御祈等驗也、
十二日、庚辰、御殿御讀經結願、
十三日、辛巳、千僧御讀經日時定、上卿別當兼光卿、辨資
實來、申十五日於延曆寺可被行抱瘡祈也、此
日有度緣請印、二位宰相雅長、少納言信清等行之、
十四日、壬午、雨降、御齋會竟、右大將已下參入、內論議之
時、大將早出、無上卿之間、召出通親卿、正以被
行之云々、依亮間、於南殿被行御讀義一例也、
最勝光院御八講始、今年、依相當高倉院十三年御
忌、舊臣等供養一品經云々、余圓阿入滅之後、今日始
出行、先參法勝寺、故院崩御之後、御願寺等事、忽可
陵遲、余傷此事、強所參入也、上卿實宗之外、一切
無參入之公卿、余、定能卿、兼良卿等、所相伴也、行
事辨資實也、終頭參法成寺、事訖參內宿候、
十五日、癸未、此日、延曆寺千僧御讀經也、行事辨資實、戊辰
日、七佛樂師法結願、午刻被行、日中時、淨衣、主上令
達時給、御惱平減之故也、時了、更退出宿所、着法
服、率伴僧參入、出御之後御殿垂母屋御簾、撤晝御
座、副北障子、敷大阿闍梨座、副西長押、至于南第
一間、更東折、敷伴僧座、座主已下各以參着、主上

御母屋御帳北間簾中、發願之後、御加持、猶念誦也、依御浴以前一也、次頭中將、仰度者并勳賞、以禮大僧部實因叙、頭亮宗賴朝臣取祿、次座主退下、伴僧先以退下、於弓場殿給祿、僧綱祿、五位六位藏人取之、凡僧祿、出納取之、即退出了、今日、有免物、依千僧并大法結願一也、

十八日、丙蓮華王院修正也、

十九日、丁向堂、依恒例舍利講一也、此夜、宿南家、依方違一也、

廿日、戊未明歸堂、依內府月忌、件講演了、歸大炊亭、今日、始有御湯殿云々、

廿二日、庚公家被始、除目御修法、東寺法務覺成勤仕之、私同修不動法、權大僧都印性修也、此日於禁裏、欲被供養尊勝陀羅尼、而余猶迴思慮、於法勝寺被行、可宜之由存也、仰含左內兩府、左大臣如愚案、內大臣共不可有難、但猶保元例、內裏宜歟云々、今度有、不似彼例一事等、仍來月七日於法勝寺、可被行之由定仰了、

廿五日、癸轉輪院御國忌、宗賴奉行也、此夜、余參內宿候、除目、乘燭以前、可被始行之由、豫仰執筆已下、

廿六日、甲晴、此日、當今御元服以後、始御吉書、并於御前、始被行除目一也、余自去夜一祇候直廬、今日除目、乘燭以前、可始御前議之由、豫仰執筆大臣已下、及官外記等、古昔白晝被行之、中古以來雖及夜漏、仍粗有日中之例、當今無事、似被與行舊禮、仍仰此旨一也、御覽吉書之後、奏申申文、其後可撰申文、仍日出之程、可有吉書之儀之由、衆以下知之、余卯刻、着直衣參御所、催行雜事、辰刻、宗賴朝臣、長兼等參入、親經未參、重遣召了、辰四點、親經參入、仍余向直廬、有吉書內覽事、直廬裝束如尋常、不置、腦息視等、在大炊亭不渡之、先長房、取進來申云、親經朝臣、指書於枝、先跪眼路揖、候氣色、余目之、親經稱唯、進來覽文、其儀如余取文、置前、親經復座揖、退居、長押下、如余見文如常、卷之指出置之、親經又膝行進、取文退下結申、余目之、親經揖退下、次長房又參、申宗賴吉書候之由、余目之、宗賴參上、奉覽之儀、如親經、但無揖、藏人余直仰可有申文內覽之由、是御裝束、未持參之由、女房示之、依事可懈怠一容易儀也、而宗賴申云、皆具了云々、仍余改着衣冠、是寬治以來例也、參御所、女房云、御

裝束未持參、驚問藏人、々々申云、仰遣御服之處、今日不可叶云々、仍仰天之間、女房云、有舊御衣、無單衣、余仰不可有苦之由、即着御御引直衣、忠孝朝臣、母屋几帳內、如吉書、余召人、宗奉仕也、賴朝臣參上、仰早可有吉書之由、宗賴退下、次左中辨親經朝臣、捧書狀、當御眼路、深揖跪候、四面、黃也、主上令目給、親經稱唯參進、跪御座南間寶子、膝行三度、自同間昇長押上、又膝行兩三度、指寄杖、平伏候、主上以左右御手取文置御前、疊上面上外親經取空杖、退候寶子、深揖、主上御覽文、其儀以左右手披文、以右手披禮紙、以同手引張禮紙、右上下、先上、以同手、文禮紙ノ右端へ押遣、以同手指文、以左手禮紙ノ左端ヲ引張、先上、余作法、先高倉院初度官奏、左端、同先引張上給、件作法、奉習故院給歟、仍追彼例也、御見了奏之、文端、引、懸御手上、如常、以左手置禮紙左端、頗寄右手、卷始テ、其後不寄右手、以左手押付テ、漸卷之、半過卷了、更取上テ、以左手禮紙端ヲ頗引懸左手上テ卷了、置御座前給、疊上、齒外、自疊端二三寸許指出テ置給也、親經置杖參進、取文引廻テ進下、結申、上目給、親經稱唯、卷文取副、以文爲、深揖退杖上也、

下、次宗賴朝臣參奏、其儀同前、但無揖、又跪時、先突左膝、如何、可突御所方膝也、又退下之時、以杖置文上、是恒作法也、官方吉書、近江國年料解文也、寬仁例如此、寬治同前、永久雖可用彼例、爲國司之間、奏美作解文云、寬仁雖爲國司、猶奏近江解文也、兩度例也云々、今度非國司、仍就兩度例、用近江也、先例上臈辨候也、或右中辨候也、是則、左中辨爲藏人頭之時例也、仍今度、就上臈、用左中辨也、藏人方平野祭請奏、代々先例如此、雖下臈頭、取文書人取之歟、代皆取文書也、下臈頭候也、仍宗賴朝臣候也、文枝事、寬治、天永、用官文枝、是非除目當日、兼日有吉書、除目申文之時、用藏人所文指也、寬仁如今度、當日覽吉書、然而、文枝事無所見、今度如何之由、豫宗賴朝臣示之、余云、任吉例、於吉書者、用官文枝、有何事哉、而申文之時、又用官文枝之由、無所見、日內事、用兩方杖之條、理不可

然、於今度一者、兼日用意、藏人方杖用兩方、最可然、是元永記忘却、不造杖之由記之、存之者、仍用藏人所杖也、

宗賴退下之後、入御、余退下直廡、雖着直衣、有申文內覽事、如例年、職事四人覽之、光綱雖出仕、中風不可吐云々、家司方長房覽之、不結中退下、實光雖改、所申文、猶結之云々、次余參御所、御坐朝飼西間、北面也、簾中、先實明朝臣內覽之、簾指入杖、主上取之、置御前一給、取杖退下、依文數少、解結緒兩三通、御覽、如本結之、押張御簾給、實明進取之、結申三通、退下、次宗賴朝臣、依爲奉多、是定、主上拔取文三通、御覽、如本指之返給、結申如初、此間、余思出四人奏聞有憚之由、以女房、光綱雖中風、如形可候之由仰之、申承之由、此間、親經、長房等、奏聞了、次光綱同奏聞、皆了退下、於石灰壇、撰申文如例、申文奏聞之時、先候御眼路、隨中、有御咳聲、頗依社給、餘依目參進、又別如此、依爲簾咳之、不可爲例事也、次余退下、任人事等致沙汰、撰申文之間、宗賴朝臣以能季申云、右大臣被上、任符返上轉任申文、可入何束哉、余云、職事存例、可致沙汰、但恐意所存、付任符返上、短冊卷、籠任符、可積加御硯宮申文也者、此事爲他

人者、不可示、依爲宗賴奉行、所仰子細也、申刻、撰申文了、盛御硯箱蓋云々、余着束帶、亮闇參御所、左大臣未參云々、酉刻、大臣參入、主上着御引直衣、出御簾中御座、中宮、密昇給、以御所四同爲竊昇給也、立退屏風、御簾立几帳、雖非中宮御所、立几帳、定例也、御座間同立之、余着殿上、仰宗賴朝臣、仰召仰事、云々、同宗賴也、次以頭中將實明朝臣、召公卿、始於御前被行之時、初夜、頭召臣已下列立弓場、大臣北上東面、納官四上北面、參議四面、是副北屏立、余以先例、雖執掌之時、此內裏之儀如此、左大臣經宗也、尤可被追其跡、而垂彼例、追惡身之跡、是依相叶堀川左府作法、于時秉燭、次大臣着殿上座、右大臣、內大臣同着、內大臣着長臺盤、小臺盤太短、兩人着了、無其所之故也、余氣色左大臣、揖起座、出上月、經年中行事障子東、着御前座、兩面端疊也、次三大臣各以着座、兩面帖、余、左大臣、二人着之、右內實宗、隆忠、賴實、良經等、取宮文、置同座前、次第着座、實宗一人、乍向乾立、殘三人、向乾拔笏頰向、良經也、且經作法優也、參議良久不着、仍余揚聲催之、適以一人着座、余取笏候氣色、主上引寄御簾給、是召余也、余微唯揖起座、渡御前、自御座西間昇長押、左足以右手、竊摩表衣前、先跪圓座西、以同手、小引寄圓座、兩度膝行、逃右足着座、深揖居直、引寄下襲裾、正笏候、又主上引寄御

座給、余召云、右ノ大イマウチキミ、字未明右大臣着座、
是ハ、又副座外、膝行如法也、深揖候、又座定之後、余取、
兩大臣作法、彼是可相准、歟、上引、寄御簾給、余召云、内ノ大イマウチキミ、
内大臣參上、作法如、右大臣、三大臣座定後、執筆左大
臣正、笏候、主上引、寄御簾給、大臣小揖、稱唯之氣色也、以下効之、
置、笏、以一宮文書、移、入第三宮、以左手入之、
留、置正櫛闕官帳二卷、先小披見之、如何、但他文書、皆入之、
文、以無、以、左手、取、上闕官宮、以、右手、披、遣硯宮
於其跡、以、闕官宮、置、前、此作法又相違、愚案、此内裏作法、
押、遣硯宮、闕官宮ヲ置、前之時、副、左手、取、上闕官宮、以、左手、
置、之也、今作法等、未見不知事也、又引見、指、笏拂、硯
已下於東、座下、以、左右手、取、闕官宮、宮ノ左右ノ中、
色于余、隨、余目、膝行、就、簾下一、置、宮、或、不、置、有、引
廻、二、廻、之、如何云々、以、左手、褰、御簾、以、右手、指、入
簾中、小退、拔、笏、更猶退、敬居シテ候、正、不、着、座、面
此法違、愚案、正シク可、復座之後、小退、拔、笏、之、後復座也、正シ
ク不可、復座之度者、退、ヘキ程、二、退、ハテ、一、座、二、可、拔、笏、也、事
太有煩、不、目、安之作法也、主上御覽了、兩卷共、兩本入、宮、突、張御
簾給、大臣急指、笏、小退、拔、笏、之、儀ナラハ、又小進
テ、可、拔、笏、前後相違、又如何、進寄、
以、左手、褰、御簾、以、右手、取、宮、置、板敷、テ引廻、
又逆也、退復座、以、宮置、前、拔、笏置、右、座與、板、以、右
手、取、上闕官宮、以、左手、引、寄硯宮、是作法ハ、如、存
也、家説也、今度

ハ、如此引、以、笏、摩、他宮等、右大臣以、笏、押、寄、正、笏候、
寄硯宮、也、上引、寄御簾給、大臣小揖置、笏、如初取、大間、置、
硯榜、禮紙ヲ卷取テ、更自、奧卷、之、押平、メテ入、
硯宮、小板下取、大間、更置、座上方、逃、右足、繆、置、
之、南北要、但、頗、押、良、要、也、其間作法、不、其程頗久繆了、取、四
之、可、記、盡、大、遠、家、説、長、二、尺、許、歟、所籍、移、置、闕官宮、任、之、時、可、返、入、歟、今作法中問也、取
笏候、主上引、寄御簾給、大臣小揖置、笏、入、水摺
墨、大間ニ久ク摺、間、一兩度見、切口、次染、筋二管返
置、本方之筆、墨置也、余家説、筆ノ柄ヲハ不、更取、笏奏曰、四所
置、無、筆、蓋、上方許、懸、筆、置、也、小相違歟、無、指、勅許、此作法、經宗議也、次取、内、豎、勢帳、向、座下、
披、之、押、合、更、向、御所、小披讀申也、許、內、豎、所、以、位、姓、尸、名
也、押、合、候、氣色、無、指、勅許、如、本卷之、置、硯上、染
筆、以、左手、大間ノ書ク所ヲ、小取上テ任、之、先示
先例多任、伊勢様也、然而、欲、伊勢様、置、筆讀申之、只、位、姓
如何云々、余云、只、可、在、御意、之、由、答、之、度、如、此、太無得心事也、
也、須、讀、其、國、様、也、而、每、更、取、筆、成、文、懸、勾、置、筆、任
タル枚ヲ、外サマヘ押折テ、如、本卷之置、之、取、出、闕
官寄物ヲ、突、點、上方ニ、頗、小、如、本卷合テ、入、硯宮、又
取、勢帳、披、次枚讀申、今度、不、押、合、於、置、之、任、之、其
次如初、次又任、之、同前、次取、笏奏云、院宮の御申
文、引、寄、御、簾、給、也、抑、家、説、任、三、人、召、之、他人、皆即問、在座之
任、三、人、召、之、而今如此、被、尋、習、誰、人、説、

參議於右大臣、召_二雅長卿_一、其詞、參議、雅長進候_二執筆

後、執筆仰云、院宮御申文、雅長退下、此間、置_レ笏任_二

內豎、殘一兩人之間、雅長持_二參院宮御申文_一、執筆取_レ

之、置_二前橫_一、先任_二內豎殘了_一、指_レ笏押_レ宮、取_二集申

文_一、就_二簾下_一奏_レ之、小退_レ拔_レ笏候、主上御覽了、不_レ撤_二紙、一通之中、登_二押_一張御簾_一給、大臣指_レ笏、進寄賜_レ之、

復座、座前橫置_レ之、拔_レ笏引_二寄宮等_一、此間、余撰_二出內

給已下、院宮公卿給等_一、給_二執筆_一、任_二四所了之後、可_レ給_二執筆_一、

給_レ之、是又常例也、執筆取_レ之、置_二座前_一、院宮御申文_一、之大

了、先任_二內給_一、先中云、開_二寄物_一、被_レ示云、所望國不

闕、爲_レ之如何、仰_二相計可_レ被_レ任之由_一、皆悉任了、注_二

袖書了、召_二定長卿_一、令_レ下_二勘之_一、此間、任_二當年給

等_一、小時、定長持_二參下勘文等_一、次第被_レ任_レ之、皆悉任

了、觸_レ余被_レ奏_二大間_一、引直_二被_レ之_一、即加_二禮紙_一封_レ之、置_二

硯上、次向_二座下_一、

封_二成束_一、數刻、先_二是、成文及_二三通之時、被_レ諸紙圖_一、入_二第

一宮_一、右大同中、成氣色、余進_二簾下_一奏聞、復座、引_二寄

宮等_一、卷_二寄物_一、如_レ本入_二硯宮_一、先_二是、公卿并大

隱_二昆明池障子西方_一了、即參_二簾中_一、次參議撤_二宮文_一、

依_二人不足_一、最末之人取_二重之_一、余指示也、今日、參入公

卿、

余、左大臣、右大臣、內大臣、

大納言、實宗、隆業、中納言、

參議、不_レ覺悟_一、

廿七日、未_二晴_一、申刻、執筆大臣參_レ陣、而依_二上官遲參_一、

敵刻推遷、余着_二束帶_一、參_二殿上_一、仰_二頭中將_一、召_二諸卿_一、

六位藏人忠其後、猶依_二外記遲參_一、暫以遲々、日沒之後、

適以參入、公卿列_二立弓場殿_一、小時、大臣二人、內大臣

着_二殿上_一、余氣_二色于左大臣_一、起座着_二御前座_一、相次兩大

臣參着、次隆忠、良經、定能、通親等卿、取_二宮文_一、置_レ之

着座、通親卿臨時、先_二左座_一、々行之于_レ時未_二秉燭_一、次殿上

五位藏人等、執筆座邊舉_レ燈、次參議着座之後、主上

引_二寄御簾_一、給、余着_二圓座_一、召_二着大臣等_一、此間、內大臣

如_二去夜_一、次執筆正_レ笏候、主上以_二大間宮_一、押_二張御簾_一

給、執筆正_レ笏進寄、於_二簾下_一、指_レ笏賜_レ宮、引、復座、

置_二替宮_一、正_レ笏候、主上引_二寄御簾_一、給、執筆取_二出大

間、置_二硯上_一、以_二小刀_一切_二結緒_一、切_二結緒上_一也、引_二拔、

二陪_二折テ_一、入_二硯宮_一、小板下_二縫置_一、如_二去夜_一、不_レ違_二折

次正_レ笏候、又被_レ引_二寄御簾_一、次執筆、被_レ觸_二可_レ召_二兼

人參上、被仰宗賴可參之由、此間、余撰_レ給女御臨
 時被_レ申諸國介之申文、并右大臣任府返上申文等、
 件申文、去夜承失了、大臣取_レ之、先被_レ任_レ之、符返上、
 狀皆被_レ讀、次觸_レ余云、女御給、明日可_レ被_レ任者也云々、
 余云、在_レ御意、但又今夜無_レ其難、歟、大臣即被_レ任
 之、余按_レ之、院宮、大臣、臨時申請外任、中ノ夜可
 任者等、皆悉任了、終頭任_レ之也、而明日之由被_レ執、如
 何、又即時最前被_レ任_レ之、如何、兩方其不可_レ然、余可
 試_レ人之由不_レ存、而頗似不_レ被_レ存、如何々々、宗賴
 參上、大臣仰云、兼國勘文、宗賴退下、其後、良久持_レ參
 兼國勘文之間、數刻空手、太似不_レ得其心、文章生
 內舍人等、外國不_レ被_レ任、極以不_レ審也、全鬱陶之心出
 色歟、大臣且可_レ任_レ他物、之由被_レ觸示、尤可_レ然之由
 答_レ之、仍取_レ文章生勞帳、讀申、欲_レ任之間、被_レ問、可
 除之者有無、可_レ被_レ問、外記_レ之由答_レ之、仍召_レ宗賴
 問_レ之、此間被_レ任_レ內舍人外國、大臣云、雖次第不同、隨便
 可_レ任文章生、次宗賴持_レ參兼國勘文、此次申_レ文章生可
 外記_レ、可_レ任歟云々、彼意必先在此
 被_レ除之輩事、大臣取_レ兼國勘文、被_レ授_レ余、余披_レ
 讀禮紙、於_レ前見_レ勘文、至與終持、如_レ本卷_レ之、加_レ禮紙、
 不_レ返_レ執事、此間、執事任_レ文章生外國、歟、大臣取_レ

兼國勘文、撤_レ禮紙、入_レ第四宮、可_レ入第三宮歟、次第任_レ之、隨
 任合點、任了返_レ與下官、々々取_レ之、加_レ置御硯、申
 文了、次被_レ任_レ諸道諸院舉等、先示_レ余云、隔年可
 任歟、每年歟、余云、近代每年歟、皆任了、件舉等文、入_レ第四宮歟、
 此間、余撰_レ出院宮內官未給、并公卿子息二合申文等、
 給_レ執筆、々々取_レ之、未給加_レ袖書、召_レ公繼卿_レ給_レ之、
 仰、明日可_レ勘進_レ之由、大臣云、公卿子息二人、今夜可
 任歟、余云、京官竟夜宜歟、大臣入_レ第一宮了、公卿
 二合、有_レ下勘之說、仍爲
 見_レ執筆作法、給_レ之也、次封_レ大間成文等、奏聞之儀如_レ去
 夜、成文封樣、依_レ被_レ向_レ座下、不_レ見_レ及之、次公卿退
 下、次執筆退下、次余起座、次參議撤_レ宮文、
 廿八日、丙雨降、此日、春除目入限也、任人清書、遲々
 之間、亥終議始、執筆同人也、先余着_レ殿上、藏人業弘、
 召_レ公卿、大臣等列_レ立弓場、次着_レ殿上、次余已下着_レ
 御前座、次隆忠、賴實、良經、通親等、置_レ宮文、着座、
 參議着座之後、召_レ余、余着_レ圓座、召_レ三丞相、皆如_レ夜
 夜、大臣正_レ笏候、主上押_レ張御簾、給_レ、大臣數刻不_レ進、
 余示_レ氣色、大臣云、先可_レ有_レ叙位_レ歟、余云、賜_レ大間
 宮_レ之後可_レ有也、大臣乍_レ座指_レ笏、去夜、進_レ御簾下、指
 如此、如何、異說歟、將又叙位之次
 遠_レ于兼日之案、之間、頗周章歟、空手進寄、賜_レ宮復座、置_レ

替宮等、次余仰可有叙位之由、大臣云、可召叙位勘文、歟、余云、在申文之中、次大臣召男共五位、藏人親國參上、大臣仰宗賴朝臣可召之由、此事如何、可被召、宗賴之仰、持參續紙、如何、尤尾籠歟、大臣取之、置前、無被示事、又如何、以頭可召續紙之由、被存歟、尤可被驚示其旨、歟、不然者、又似不被召、續紙、尤不審々々、大臣取續紙置前、取笏候、勅許之後、見合取一通、入第四宮、取一卷、向座上、終置、更卷返之、置前、先被同、加、取笏候、勅許之後、召三省奏、以男共、召、宗、即摺墨染筆、先書從五位下、良久持參三省奏、適持參之、大臣取之、置座前、披三省奏、讀申之後、示云、式部丞、卜部氏也、可叙外階歟、如何、余云、可被問例、召宗賴問之、此間、且被叙民部、依余命也、次余又仰藏人名、取、令叙之、此間、外記申云、叙外階云々、然而、式部外階之例、猶不詳、件元忠、臨時之爵歟云々、仍今夜不叙式部也、此間、余撰出外記史申文、加叙位勘文、授執筆、叙人折紙、執筆取之、以勘文置前、先叙外記史、成文入、次叙勘文、逆上如、皆悉叙了、勘文

返與余、余取之加置申文了、大臣書叙位了、書年號月日、放紙餘、入第四宮、卷叙位、暫入大間宮、次取笏候、勅許之後、取出大間、切結緒、撤紙、終置如去夜、次取笏候、勅許之後、觸余云、可召轉任勘文歟、余諾、此事又如何、及終頭、大臣召宗賴仰云、轉任宿官勘文者、宗賴退下、此間、先任內舍人歟、次持參兩勘文、外記更無申旨、先例雖被召勘文、進轉任、不進宿官、申子細、保元進之、世爲失、其外雖被召不進、雖不進被任之、而安元不進、又不任下名、被任宿官、希代之珍事也、今度外記不申子細、無音進勘文、頗恨事歟、大臣欲與兩勘文、余稱直可被任之由、大臣以轉任勘文、暫入大間宮、披宿官勘文任之、讀申如、次任可任者等、其次第委不覺悟、又中間召瀧口所衆勞帳、即持參也、取、可任之輩、大途任了、先是、余取出顯官申文、賜執筆、大臣次第取、次內大臣、召當座第一、大納言、座、賜申文、仰可舉申之由、余云、今夜任舉可被任、能可舉申者、近例、只假名之舉、也、仍仰此旨也、舉了返上執筆、々々授余、余取之奏聞、留舉返給申文、余取之授執筆、々々取之、次第任之、皆悉任了、取

出大間禮紙、書受領案、此間有定、民部巡、第一第二論申、又關國少、新叙多、檢非違使舊吏、以何可被登用、哉事等也、民部巡、以第一盛光、任大隅、廷尉、舊吏之事、人々申舊吏有理之由、然而、余任檢非違使了、是舊吏、去年去々年相續任了、又檢非違使範保、奉公拔群、仍任伊勢了、藏人任佐渡了、執筆皆任了之由申之、余仰可有受領舉一由、此間、竊卷大間、暫置可待舉之處、早以奏聞、大失也、復座之後進舉、先是、內大臣退出、隆忠就右大臣座下、進舉、大臣被示可進執筆之由、然而、隆忠卿猶與右大臣、々々取之與執筆、取集一度可與歟、而每度傳之、如何、執筆欲與余、余示早可、被奏之由、仍更進被奏聞、何所復座之後、引置宮、以成文、加入大間宮、取宮退下、如何、次余起座、此間、於殿上見大間、歟、其後、參議撤宮文、如先々夜、參入公卿、不覺悟、

廿九日、丁巳刻議了、清書定能卿、余清書之次、良業可轉助教事、并公經可任中將事等、加仰之、依忘却也、及晚退出、

二月

一日、戊辰此日、下名也、有加任事等、奉行長房、上卿泰通卿、參議光雅卿、

二日、己亥宇治殿御忌日、催送布施取等、

四日、辛丑祈年祭上卿右大將、

五日、壬寅此日、故院御法事定云々、

六日、癸卯大原野祭、上卿左宰相中將、中宮使小進兼時、

七日、甲辰於法勝寺有尊勝陀羅尼供養事、於金堂被行也、年來於院被行也、今年爲公家御沙汰、於此寺所被行也、任保元例、於內裡可被行之由雖有議、余廻愚案、寺家之儀可宜、仍可行也、此日、親經補氏院別當之後、申吉書、宗忠朝臣來、申拜賀、

八日、乙巳祇園御八講始、雖爲式日、於公家御沙汰始被行之、仍勘日時也、又有僧名定、上卿泰通卿、宗賴朝臣申吉書、余所勞之間、不出客亭、於內裡申吉書之時、有出御云々、

十日、丁未春日祭使立、近衛使四位少將宗忠朝臣、遣舞人半臂下襲、行事并左少辨宗隆、中宮使權亮忠季朝臣、此日、光明院忌日、送佛經、布施取等、如例年、

自此夜、於九條堂始修懺法、恒例事也、

十一日、戊申春日祭也、早旦行、由祓、職事向川原、此日

召賀茂社司等、問祝補任之間事、申旨委細也、仰云、

以權祝家光、轉正、以氏人廣平、任權祝者、

十六日、癸丑此日、東大寺別當僧正、并左大辨定長等參

來、申東大寺柱引、并戒壇院之間事、

十七日、寅卯宮女房告送云、聊有御不例事云々、疑抱

疳歟、入夜參內、奉見御有様、無疑此病也、今夜宿

候、依日次宜、行御占、又始行御祈云々、

十八日、乙卯終日祇候、及晚六借御座、猶御祈、不動法、

山座、不容翳索法、
法務、東寺

十九日、丙辰曉更、女房參內、余又退、依遠忌、向九條

堂也、懺法結願、又修遠忌、佛事如例、慶智爲導師、

其後、恒例舍利講、夜除歸參、今日、抱疳少々出給

云々、

廿日、丁巳早旦、奉見之處、不出添給、穠奇隨分致祈

念、午刻重奉見、少出添給、又御心地頗尋常、仍乍悅

向堂、始入講、今年新調佛具、但無證義者、隆憲

依爲故院寵僧也、其外無可然人也、此日七條

之南、高倉萬里小路之邊、有燒亡、已向九條之間、

見付也、依近隣、參八條院、免餘儀了、仍退出、九

條雖程遠、爲風下、非無怖畏、然而遂打消了云

云、深更歸參內裏、今夜殊宜御座、

廿一日、戊午朝間無爲御座、多出添給、已刻又向堂、依

八講竟也、入夜歸參內裡、小終聊有損御心地、給

事、雖不及殊大事、頗以物忿、所々修諷誦、太神

宮、春日等、引厩馬、無程復例給了、卜筮之處、有

神祟、入和氣相加云々、修々祈等、多以始之、不遑

記錄、

廿二日、己未御有様無殊事、宮可有御退出哉否、有

沙汰、陰陽輩、并醫師等、申不可然哉、御惱之間、不

能出行、或御所有方忌之故也、仰合衆光卿、申

不可然之由、仍留了、

廿三日、庚申早旦、着吉服、追出大炊亭、此日、依春日

新幣帛、錦一段、神馬一疋等也、仰親經朝臣、令草

告文、仰散位藤原業家、自河原發遣也、但余先修

祓、發遣後、降庭上遙拜、衣冠、四方拜着吉服

拜之、准彼例遙拜、依懇志深也、其後歸參、此夜、

始大般若御讀經、請僧七口、卒爾之間、南京僧等遲

參、且以二口始也、上卿泰通卿、行事官司長兼、

廿五日、壬戌、早旦、東大寺柱事、背不可申所之由、仰定長、余一向可沙汰之由、相存之後也、此日、後白川院周關御齋會也、導師山階寺權別當範玄、咒願醍醐僧正勝賢也、通親卿已下、公卿已下、公卿十人參入云々、大納言不參、不敵事也、

廿六日、癸亥、東大寺柱、余一向可沙汰之由、仰遣定長許、今日、熊野立使、中宮御祈也、仍精進、依進發也、此日、有記錄所評定、錢貨停否之間事云々、

廿七日、甲午、實明朝臣、申祈年穀奉幣上卿隆忠卿領狀之由、大臣等長房申吉御裝束之間事、親國申平野佐異御占形、仰任御占趣、可宣下之由、今日、爲故圓阿、余密供養佛經、

廿八日、乙丑、晴、宮自去夜、又聊六借御、歎思事不少、今日、圓阿卅九日也、實明朝臣申祈年穀奉幣定、明日可被行之由、凶會如何、可仰例之由仰也、

廿九日、丙寅、此日、有記錄所評定、錢貨停止事也、又藏人忠綱與六位外記清光、兼業等、於陣中、有闕爭事、外記逢藏人、聊有無禮、仍藏人仰吉上、破外記車、入西洞院川云々、宗賴朝臣、申上兩方申狀、重召問彼是之處、共有重科、但藏人所行過法、仍

除借、○借、恐籍外記二人、殊加守護、可令作候、頭之由仰也、先奏誤事由、下知之、其後向九條、依三方違也、

卅日、丁卯、辰刻歸參、宮女房等云、藏人忠綱事、內御方女房等、依讒奏、主上頗有不快御氣色云々、仍披陳子細、又外記不候陣之由風聞、仍相尋之處、事實也、仍慥付吉上、不可免裝束漏脫之由、重加下知了、主上聞食子細了云々、爲悅、件忠綱頗被召仕之者也、今日、中宮御方、大般若結願也、公卿泰通卿、親宗卿等候也、有堂童子二人、貞綱、結願導師、第二圓長律師、第一僧寬僧部也、然者發願日、件人不參、圓了殿上人宮職事等、非殿上人相交、取布施、各裝物一、不自上薦、置之、各僧綱自取布施、起座、是禁中例也、次公卿退下、

三月

一日、戊辰、雨降、今日、依旬祓、着吉服、午後、退下大炊亭、先是、職事一人遣河原、有御灯之由祓事、奉行職事、其後行水、着衣冠、有解除事、祈念之後、改着直衣、歸參內裡、今日、親經朝臣持參記錄所注進狀、去十九日、先經御覽、重有仰旨、即件日、重加詳定、同卅日入內覽、猶仰子細、仍改直所持來也、大概神妙、

少々有取捨事、却注付、追加清書、取寄人判、可進之由申也、經仲申、今熊野鷄合事、依右大臣并實慶僧正等申狀、可停止之由仰也、

四月

一日、酉陰、時々日景見、此日、賀茂詣定也、秉燭令來、余着直衣、出賓筵、左大將、民部卿、別當藤宰相等、

同着座、三位中將兼、其、進着座、余召人、宗賴朝臣參上、余仰日時可、

勘申之由、宗賴退下、少小時持參日時、不指杖、不、入、

攝政之時、杖、關白之時、則、是例也、宗賴內々示合經房、兼光等、之、可、立之由、兩人共稱之云々、然而、余猶不可、用杖之由仰之、

是非、內覺之奏書之外、用杖事、余一見了、置前、仰、視續

紙可持參之由、宗賴退下、次諸大夫、東置圓座、立、切

灯臺、又持參硯、瓦硯、匣、置圓座前、次宗賴朝臣、正笏

參上、着圓座、猶置笏卷、返續紙、先可候、候氣色、余

目之、即和墨染筆、付氣色、余自懷中取出例文、

宗賴所書進、天承平例文也、是故、與、奪之、宗賴先書、大間、殿初度定文也、有榮朝臣書也云々、

書、依、余、次余命令、入行事、皆書了卷之、撤硯、盛折

敷、指笏持來、余乍折敷引寄、宗賴復座之後、加一見、

卷、龍日時禮紙、授、左大將、々々見了、次第見下、更取、

上、大將持來、依、其程進、更、余取之、置折敷、少小指出、

宗賴參進、指笏取之退下、加盛硯、自取之退下、其

後、暫與人々言談、經房、兼光等云、兼仲依人長、被

入舞人、雖可然、容身有三人定驚耳目歟、一同狀歟、

因之可失其威儀、可被改入國方云々、件兼仲、先、

聞、然而、故院府而被補人長、又春日詣之時、被入舞人、仍今度又、

入之、而其後、清賢過法、飢寒共不可堪、頗有中風之氣、當時之容、

貌、殆非人類之由、仍兼仲暫不可催之由、仰宗賴

了、少小時、人々退出、余歸入了、

今日、來臨公卿、

左大將、民部卿經房、別當兼光、藤宰相雅長、三位中

將兼良、已上直、衣人、

妊者夫、可入行事、哉否議定、人々云、公家一切不憚、

仍不及其沙汰歟、余云、理可然、但檢年々賀茂

詣記、於祭齋者、妊婦之夫、不可入社頭之由、每度

所見也、而行事專可入社頭行事之條、可斟酌

歟者、人々云、此條尤可然、但此故障人々連々事也、

若依此故障、除行事者、恐將來、殆行事非其人、事

出來歟、於入定文者、都不可有憚、仍先只加行

事之列、退可有左右歟、且是公卿勅使已下、嚴重神

事、一切無此憚之故也、今度、若被除件故障者、

後代以之可爲例、猶尤可入定文也云々、其

所謂、仍入之、神寶行事棟範朝臣、神馬行事國行等也、又先例、神寶行事、多

四位五位二人入也、與承保、長治、天承、各初度也、皆四位

一人入、定文、今度又追彼例也、但仲資雖不入、定

文相加可被沙汰之由仰之、又親經最可入行事、

歟、勤御前之辨、先例不入行事、理又可然、仍不

入之、又宗隆雖爲家司、當時有觸穢之事、聊非

無憚、仍不入云々、且又官(人)五人、皆悉載定文、

條、還似無念歟、仍隨宜少々除也、

今夜事次、石清水臨時祭事、與人々相議、今年不可

被行之様、令申歟、左大臣被申可被行之由、左

大臣、內大臣、被申不可被行之由、是亮間中、不

被行事、無延引之例、皆以所被停止也、於此

事、追被延行事、不叶道理之由、人々相存歟、非

無其謂、

二日、戊雨下、已刻參內、宮聊令煩難熱給之由、依

聞及也、醫師等參上奉見、全不可有別事之由

所申也、參內御方、少小時退出、

三日、己猶雨不霽、實明朝臣、申瀧口名小傳、奏聞、

可下之由仰之了、

四日、庚天晴、廣瀬、龍田祭神事也、此日、鳥羽後院院

御馬十餘疋、自能保卿許引送之、於南面一見也、余

及大將隨身等騎之、大將在、前緣、又季經卿居東方

緣、殿上人候中門廊內方緣、諸大夫在中門邊、又朝

方卿送馬二疋、同見也、勞飼臨期可進之由、仰返遣

了、

五日、辛晴、藏人次官親國、召具陰陽師等來、公家御

方違之間事也、大內御一宿了、仍其忌付大內了、閑

院亭自大內當巽方、依十五ヶ日不可宿閑院、

御、每一氣可有御方違、先來八日可幸押小路

殿、如此兩度可有行幸、第三度可宿大內、其後

罷神泉修造、待秋節可修補、是自大內當王相

方之故也云々、行衛持參來十六日月蝕不可正現、

之勘文、件蝕現否事、問在宣、宣平等、各申不定之

由、但可有蝕之由、載曆了云々、

六日、壬陰晴不定、午刻、着直衣參內、八幡臨時祭

停否事、人々申狀不同、仍可行御卜之由存之、

實明朝臣召具官寮、可參入之由、仰遣了、即頭中

將參入、官寮未又大外記良業參入、余猶問准據例等、

又左中辨親經朝臣參候、件人申云、正月賭弓射禮、被

移三月、若可准據歟云々、此事尤可然、仍問良

業

業

業、申云、天曆八年正月四日、穆子太后崩、同年十二月、公卿上論奏、正月公事等之中、於節會者、不可及、停止、於射禮賭弓者、三月可被延行之由也、仍依請被宣下了、同九年三月、所被延行之件等事也者、此事符合了、件臨時祭事、人々申云、三月有隙之時、被延四月一例、不可勝計、然而、彼者臨時之穢氣、若他際等也、仍延引有謂、於今度者、亮闇中、素被停廢公事也、仍專無可被延引之理、於今年者勿論、自明年有議、可被定其月也云々、此條、一旦其理雖可然、一井之終當三月、先例延引之月、又四月也、仍被延四月一之條等、似有便宜加之、兩年相續シテ不行件祭之例、曾無所見、仍猶可被果行一歟之由、又以有豫議、然而、亮闇停止之公事、追被遂行之事、指而無例之間、是非難決、欲及占卜之處、天曆賭弓例、指掌符合、仍不可及御卜、早間日次、可被遂行之由、仰實明朝臣了、又此旨奏聞早了、及晚退出、向九條、故內府後家、有所惱、爲相訪也、入夜參八條院、亥刻、上方有炎上、內裡近邊云々、仍馳參之處、於途中、五條坊門、西洞院之由、健聞之、仍廻軒歸大炊亭了、

此日可催舞人等之由仰也、七日、卯晴、頭中將實明朝臣、持來大外記良業勘申天曆射禮賭弓被延三月一例、如昨日申狀者、前年內、有公卿論奏之由令申、而如勘進例者、公卿議奏、天曆九年十二月也、仍彌符合今度之次第、亮闇中停止公事、專不可有延引之由、右內兩府已下、多以令申、而件兩ヶ公事、共正月可被延行之公事、依當一井之終御忌日、不及異議延引、而及三月一被遂行了、論奏、後年御忌月事也、於非年終者、無左右被延引也、遊興之禮、猶如此、況於敬神之儀哉、仍今日被遂行之條、彌以勿論歟、此等子細、雖欲仰合內大臣等、於今者、不可及議定、仍早可催使已下之由、召仰了、申刻、宗賴朝臣持來賴朝卿返札、播磨備前兩國、猶可被付東大興福兩寺之由也、召寄上人等、可仰含云々、仍東大寺上人、早可召之由、仰宗賴了、定長卿、自熊野還向云々、仍同可參、又勝賢僧正、同可參之由下知了、文覺上人、已非普通之人、爲大凶人、仍直不能召取、可仰前中納言一歟、此日、可被行擬階奏、而本局依不書儲奏文延引、未曾有、大外記師直欲召怠狀之處、正夕下僚下了、而史生懈怠云々、師

直無所過、仍件史生可處罪科之由、召仰、今日、民部卿經房來、余謁之、粗述懷世上人口等、戶部伏理歟、

八日、辰此日、公家被行灌佛、依不當神事也、午刻着直衣參內、上臈等不可有出仕云々、仍余又不可出座也、先是、獻布施於內裡、中宮、八條院等、他所依無催不獻也、以美紙裹之、付白木、署所樣、左方頗低書之、關白兩字也、以下臈隨身獻之、內中宮兩女房布施、各盡善、但依新制、不用金銀錦綉等、其中一兩有綉并二重織物、止之不出、未終、事具之由、親國奉行、令申、仰可始之由、少小時、出居着座、次公卿各取自布施着座、先置長押際机如例、通親獨就机南、上首通親卿也、次實明朝臣置布施、即着出居座、次宗賴朝臣、次兼宗朝臣、次光綱、親國、已上二人、五位藏人、長房卿通候、次六位藏人二人置之、次藏人等、途道不參之人布施、一度取兩三置之也、抑、公卿布施置了後、親國取余布施置之、是例也、凡机二置餘布施等、置板敷、是亦例也、次御導師慈辨法橋、相具從僧二人、自中門、唯大內者、可入自四條門、准經南庭、昇自南階、直着佛前半帖、從僧二人、若誦口也、

玉葉卷六十四 建久四年四月

廣庭座、件座、四一同、西長押頭、三禮之後打磬、公卿置笏、南北行、數所司一校也、次弟子僧也、唱唄、同僧進散花、机下取花筥立佛前、長押、唱散花、已上事等、舊記者、御導師自起座、取花筥一次、下、導師啓白了、起就鉢机東頭、讚嘆之後、取御掛酌也、黃酌、三度灑之、先斟小鉢四口、水中央鉢、其左衛門督已下、次第灌佛、其作法皆相違、通親、雅長、已上入額間、出山形間、欲不礙觀、於柱、相同大內九條殿說、人愚案如此、泰通、入山形間、出額間、故似礙觀、親宗、隆房、實教、光雅、定輔、以上出入額間、此於柱如何、大內、小野宮、共出入山形間也、也、未知參退共用額間、

又泰通、隆房等、用四鷄黑漆酌自、余其東酌、是非如何、

次實明朝臣居座、灌佛、此後、任位次可灌佛一與、雅行朝臣忿進之間、其上臈宗賴朝臣已下不灌也、最無用心也、次親國、次六位行事藏人等也、次成經卿取祿、依僧綱、公卿取之、又大々此間、導師教化廻向、取祿退出、如舊記、大取布施咒願、次公卿退下、次出居退下、次六位藏人垂御簾、次女房灌也、依密々灑之、次渡山形於宮御方、有灌佛、其儀如恒、未事訖以前、依窮屈忿退出、今夕可有御方違行幸、而余依襪所勞不參、大將、又依所勞不出仕也、今日、山座主、

八百三十三

自山直參內裡、余謁之、去朔日開一宮、於納物之
委細者、祕而不被示、其中有不審事云々、始自
安惠和尚、慈覺大師上足弟子、至于覺慶座主、皆目錄加署、但非共檢封宣旨被下之既、彼四人仍運署也、其後至快修、敝人雖開之、無加署事、而願其始知之、其理可然、但件目錄二通也、不審今一通、尤足爲奇、於今度、具一載此等子細、二通共署云々、

自拜堂之初、一々事、皆相應夢想之告、非一、每事、只冥感所致也云々、又山門之趣、一向歸伏之條、更無不審歟、誠是山王大師之冥助、又是可謂天祐歟、歸來可憑々々、座主又被示檢封宣旨ハ、開一宮之人、可申下事歟、最雲、明雲、二代申下之了、最不審云々、

九日、巳陰、棟範朝臣、隆職等參入、宗賴朝臣同來、就大神宮間難記條々、有相尋事等、太神宮禰宜等參入、列立門內中門外、付隆職申參入之由、仰聞食了由、殊無可申事、只參洛之次、所入見參也云々、今日、東札到來、播磨備前國等、可付上人_{備前國能保}之由、先日令申、而今日狀ハ、可改任國司、備前國能保、但兩寺造了すにハ、各不可災國務、上人可沙汰云々、大旨雖同、聊相違、是非迷惑了、然而、就今度申狀、可致沙汰歟、被任國司、猶國司行吏務ハ、所出可

注造寺之用途歟、然間、左右只不能自尊耳、今日、經房卿送馬一疋、又賀茂神主重久、進馬二疋、各見了返遣了、賀茂詣料也、

十日、丙午陰、朝間小雨、此日、召東大寺大佛上人、春樂源、今ハ就南無阿彌陀佛也、并彼寺長官左大辨定長等、備前國可被付東大寺之由仰之、但件國可給能保卿、遂可知行一人也、仍可申任國司云々、然而、大佛殿造營之間、能保卿一切不可口入、上人一向可沙汰云云、上人申云、トあひさたハ、凡不可叶事候、一向被仰付、盡成不日之功哉云々、重仰云、自元如被仰、只名代國司也、依可被改任國司、遣先使事ハかりハ、定納言致沙汰歟、於自餘國務者、一切不可知、上人一向可被沙汰也者、上人申云、然其試可相觸大慶之功歟、不可煩庄園并濟物、皆可被免之由、於永宣旨公物者、可濟之由也、各一承諾、退出了、其後、余以使者、此次第仰遣能保之許之處、答云、上人申云、每事萬石ヲ、能保可沙汰給、其外事不可知云々、而今仰相違如何、即上人之欲退出ヲ、召留テ、尋問候之處、於殿下テハ、可成濟物之由、依有召、辭申國務之由、所申候也云

云、次第勿論、上人虛言歟、能保卿之妄言歟、只依三賴朝申狀、致三沙汰許也、其上事不可知、知之由答了、不足言々々々、此夜、公卿侍臣塙三絲竹之輩、參三中宮御方、有三催絃之興云々、女房兩人在三簾中、彈三等比巴等、有其興云々、

十一日、丁未甚雨、內大臣、神宮問注之間條々事、被レ申者、就レ狀又仰三條々事、宗賴朝臣所申上也、夜半、內女房告云、主上有三御霍亂氣云々、仍進三高良薑ヲ、又醫師參入、天曙落居給、余自三今夕、面有三腫物之跡、不レ輕、仍付三大黃、明日可レ被レ見醫師、仍今夜不三參內也、

十二日、戊申平明、淡答來、先參三內裡云々、御霍亂無疑云々、申三御治方等了、於今者、無爲云々、女房示三送此由、余令見三面腫、未刻、文覺上人來、宗賴朝臣先レ是參入、仰三播州事、申三領狀、其跡太入口云々、可三彈指々々々、永宣旨公物事、猶不可三濟云々、又可三宛余於庄園云々、仰云、邂逅便宜也、勤無煩ハ、盡勤仕哉、連々莫太之事歟、如レ定不可三叶、先是、勝賢僧正入來、依三余召也、申三國々間事、又泰經卿來、仰三播州之間事、此日、親經召三陰陽師、問三御占、春

日恠異也、

十三日、己酉陰晴不定、棟範朝臣申云、今日、有_太神宮文事評定、仍只今所_能向也云々、明日可有_止雨奉幣之由、仰三宗賴、與_泰光綱云々、

十四日、庚戌陰晴不定、自晚雨下、入_夜殊甚、此日、直物之次、有_官奏、上卿左大臣、執筆左大辨定長、忠季朝臣來、清水寺事、城興寺事、委可_示合事等、相含了、

十五日、辛亥雨猶下、仍可_行御卜之由、仰三長房與之間、及_晚天晴、不_行之云々、朝方卿、進_牛二頭、見了返遣、又中宮權大夫、被_送馬二疋、同見了返遣也、

十六日、壬子晴、此日、吉田祭也、申刻、發_遣神馬十列、陪膳光輔朝臣、陰陽師晴光、行事爲說、其事、女房又奉幣、陪膳同前、爲說取_幣、貞綱衣冠、大將前驅也役送、先是、已刻、能保卿相_具馬十疋來、又寮御馬、私厩馬、人引_送馬卅余疋、見_之撰定、大將、并能保卿、召_前簀子、各數座又季經卿同候、無座殿上人宗雅朝臣、親能朝臣、能季朝臣等、候_{中門廊內緣}、宗雅候四座緣余大將隨身、皆悉參入、厩司國行々之、候_{中門}、他諸大夫、兩

三同候、終頭能保退出了、近忠季朝臣參上、此日、東大寺上人參入、申_二備前國事、國司遣_二前使_一、不可_二國務_一歟、又申云、能保卿、自可_二國務_一之由被_レ稱、仍合沙汰不可_レ叶候也云々、以此等旨、仰_二合能保卿_一、以_二宗朝臣_一也、一切不可_レ沙汰之由申_レ之、仍仰_二此之旨於前使_一事歟、強不可_レ申之由仰也、仍上人承伏、申_二可_レ給_一證文_二之由_一、仰_二合能保卿_一、仰_二宗賴_一、遣_二御教書於長官_一、定長卿之許了、其旨仰_二上人_一了、今日依_二神事_一、上人在_二門外_一也、

十七日、丑、癸晴、忠季朝臣來、令_レ書_二出賀茂詣次第_一、未及半、依_レ爲_二深更_一退出了、今日、內裡有_二御鞠_一也、

十八日、寅、晴、入_レ夜、宗賴朝臣參、申_二賀茂詣條事進_一次第、每事仰_二合子細_一了、權大納言、右大將、中宮權大夫、三位中將、皆被_レ取_二前驅_一、或四五人、或一兩人、已及_二廿人_一、經仲來、申_二今日吉祭并小五月等事_一、此日洗髮、修_レ祓潔齋、又神馬、舞人馬、乘尻馬、齋籠、

十九日、卯、乙晴、入_レ夜、雨氣殊太、明日之雨無_レ疑歟、初度之事違亂、最可_二遺恨_一、然而、只奉_レ任_二大明神_一而已、今日、當色等、皆悉分給了、入_レ夜、招_二光季朝臣_一、着_二束帶_一、引_二物下_一、如_二先例_一、伴人依_二堪能_一也、即拔出也、明日依_二可_一

遲々、今夜所_レ着也、又亥刻乘_二始新車_一、今日、又修祓遙拜、如_二昨日_一、

廿日、丙、陰晴不定、此日、攝錄之後、初度賀茂詣也、年來之間、連々相障、于_レ今未_レ遂_二參詣_一、今年適無_二殊事_一、仍所_二參詣_一也、去朔日定_二雜事_一、始_二神寶_一、同十五日、始_二家裝束_一、今日早旦、下家司二人、藏人所司二人、參_二下上社_一、行_二裝束事_一、直講中原師重、大講進國重等、參_二下社_一、東市正小槻公尙、文章生盛尙等、參_二上社_一、卯刻沐浴、密々外除、雖_二非_一先例、爲_二禊祓_一也、同刻覽_二神寶_一、其儀、二棟廊、尋常公卿座也、南面上_レ簾撤_レ疊、先神寶行事

仲資、取_二菅圓座一枚_一、敷_二西第一枚_一、余着_二冠直衣_一、着_二件圓座_一、東面、次家司職事、運_二置長櫃蓋_一二於莚上、次次第置_二神寶_一、下社並_二四藝_一、皆置了、家司藏人頭右大辨宗賴朝臣參上、開_二幣宮蓋_一覽_レ之、次開_二鏡宮蓋_一覽_レ之、先_二下社_一、次退候_二前廣庇_一、次家司職事、次第撤、今度乍入_二神寶_一、昇_二長櫃蓋_一撤也、小莚最末撤也、一人取重也、依_二余命_一也、次余歸入、即居_二寢殿公卿座末方_一、大將來、居_二殿上人座_一、先是、中門廊北三ヶ間張_二綱_一、懸_二舞人陪從裝束_一、依_二所狹_一、門北妻戸西折テ引_二綱所_一懸也、次召_二舞人陪從_一於切欄之所、中門廊西面、舞子也、次第給_二裝束_一、家司職事役也、遲參舞人、分_二給廳頭_一、又給_二陪從裝束_一、同前、

運參人、舞人陪從布衣冠也、其中、好方、憲親、着五位
袍衣冠、帶銀作劍也、次余歸入、先是、木工權頭持盛
朝臣參上、出打出、其色、昌蒲餅五領、紅棗單衣、紅打棗梨衣、
答、織物二處唐衣、白腰帶等也、寢殿西第一
二同、并東面戶一、已刻、公卿已下漸參集、大將着束帶
同、同妻出也、此等也、帶銀作劍、
來、自去夜、
云、午刻、余着束帶、
今度、錢中臂文如、例、半臂機也、失也、紅打引陪機、同折、端也、其外、
紅張單、汗取等、如、例、浮文織物浮線機表移、紅張大口、
銀機、紫機平結、
千鳥、其文機平結也、
公卿、次第相分着、與端座、權大納言隆忠、右大將賴
實、左大將良經、左衛門督通親、權中納言親信、民部卿
經房、權中納言泰通、右衛門督隆房、別當兼光、源中納
言通資、藤宰相雅長、左宰相中將實致、大宮權大夫光
雅、左大辨定長、新宰相中將成經、右宰相中將公繼、花
山院三位中將忠經、新三位中將兼良、源宰相兼忠、成
經已下、依座狹、不着座也、隱居二棟廊簾中、次殿
上人着座、其人、追可尋、
記、儘不見也、
南簀子、余仰、舞人陪從可、召之由、即退出、於中門廊
西端、召也、即復座、次舞人、陪從、良久不參、仍宗賴更
起座催也、上薦等頗遲參、隨見參、且以着座、即上薦追
參着、陪從又着座、其座在中門廊南第一二三間與端、

敷紫端坐、其中居、饗、舞人自庭末、着東座、陪從
昇西簀子南妻、着西座、次可、殘前攝津守以政朝
臣居、孟於折敷持來、職事兼資取瓶子、余取孟、以政、
擬、隆忠卿、次第巡流如、例、孟傳、殿上人座、
人陪從座國行、東、仲資、四、勸之、
著、汁物居、次陪從物音、次家司職事、
挿之、
座退下、次諸大夫、敷管圓座於寢殿南簀子、
欲敷、余制今、次公卿自下薦一起座、透廊邊徘徊、次余起
座、着簀子圓座、
初不着座、人々此時皆着座、透渡殿、二行敷管圓座、
依人多也、次舞人、先上薦渡南庭、
絕、不可必然、事歟、次御幣已下自西渡東、其
行列在別、舞人渡了、人々起座、降立中門外、不待
乘尻、如何、其後、乘尻二人渡南庭也、次余起座、降
自南階、左大將取、
裾、次余出中門對、第一人小揖、
言、外記、史、官掌、召使等、在中門外、隨余進前行、
先出門騎馬、次余乘車、大將襄、季長朝臣立、榻、
次公卿一々連車、於大炊御門東洞院辻、合立、行

列也、

路頭行列在別、

路頭逗留經二一時、是前驅無招、故扣馬不促、駕之所致云々、未會有々々々、其路、自大炊御門西行、至于東洞院北行、至于土御門西行、至于西洞院北行、至于一條東行、至于京極北行、至于河原、到三社堤內、道入車、件路、當外島、居南柱程也、日記云、島居舍南邊云々同、去、余頗西引入、東面立車、當時島居南無舍、顯倒云、其南此場舍、自件舍、北三解立也、外轍放牛、立一榻置頸木、少納言、外記、史分、不經幾程、隆忠車立、余車南、其後、良久車不見、以人雖令見、川原一切不見云々、如法及二一時、已及申斜、可謂未曾有、申四點、右大將車立、樞大納言南、其間太遠、如何、次左大將於余車北邊、欲下車、而余暫仰也、次々車等、如此中絕者、殆可移刻之故也、其後、車少々列、右大將南、又民部卿、右衛門督車、於堤邊欲下車、而見大將未降、各暫持疑、太以無謂、其後、別當來、即下車見之、兩卿降、可謂嗚呼、其後、大將下車、各來車邊、其後、猶雖可律公卿、日已欲入、仍示合大將、且又欲下車、以隨身、觸列立車等、人々下車之後、余下車、

前驅季長朝臣、取榻立踏板下、大將取沓、余出轎外、懸裾於劔、兼親、朝臣、懸之、此間、上官平伏、隨余進前行、公卿等皆來集、陪從發歌笛、從其後、殿上人在其後、徐進行、陪從等打拍子、哥求子、經馬場、北斜東行、其路、列芝、被殿轎北轎門外、御前分居平伏、余垂裾過、其中、入自東北面轎門、如御前等、隨轎四轎門外、余指示、令候北轎南也、經三轎北、入自東南北一門、外、無揖、着座、東面、已次公卿、自轎後、並着座、先是、河西岸右倉西、敷陰陽師座、也、石倉北、昇立神寶長櫃、東西、河東岸、引立神馬、舞人馬、乘尻馬、神馬在北、大舞、次乘尻、北、上東面、以中爲上、乘尻二人立北、承安、乘尻相分、余案之、社在北、方、須北、上、以中爲上、未知所、想、先例共存、就、道理、如此、次供御手水、陪膳以政朝臣、役送三人、國行、仲資、兼時、手水了撤之、自北、供之、次幣取四人、五位二人、本社六位二人、進、列立右倉南、北、上、東面、次御贖物、陪膳兼親朝臣、白、南、供、送、親、次居諸卿祓物、諸大夫、役也、次陰陽頭賀茂宣憲朝臣、次修禊、微音不聞、然而、解繩撫人形、如常、祓了、兼親持來大麻、余撫之、即引諸卿、歸來撤祓物、役人、如初、次諸大夫、撤諸卿祓物、次松尾、川合幣、并乘尻等參、本社乘尻、於其所騎馬、是例也、次幣已下前行、余起座着沓、懸裾於劔、諸卿同之、徐步行之間、神

寶長櫃不見、余驚而尋也、猶在帷前、仰宗賴、召下
家司、令昇之、又舞人等、并馬、先入社頭、更召返、
令立中之路西頭、女房車立之、立、榻也、從車三兩、并
中宮女房車五兩、同立、連其南也、公卿從余後、陪從
在其後、哥求子、如例、殿上人在其後、渡瓦橋、北
行、入內鳥居、斜進入南門、御幣神馬、先以入門、
立舞殿前庭、其路、可經舞殿東、歟、經西失也、神寶長櫃入鳥居、直
廻西、立諸大夫屋東、神馬留南門外、御前
平伏門外左右、余垂裾、經其中、入門、經坤屋東
北、昇自北面東第一間、不徹、着座、面、解、劍、取
笏、此間、諸大夫等、運神寶、置高机上、件机、本社機、(東西連)、神寶次、
機退下、出機門、次余解劍、置座邊、次掛起座、着
沓、無、踏、庭道、先是、白、坤屋、至于舞殿南、地上脫、沓、不、
次宗賴朝臣、取余銀幣、各二串、出幔門、經庭中、入
舞殿北第二間、進余前左頂進之、余指笏取幣、宗賴、按笏退下、降、長押、有、起兩段再拜、兩段之間、乍、居、祈請所、
品心澄信起、誠是神明之玄應也、可悅可仰、了目神
詞等、出中、禰宜、且祝自東西、各昇第二間、來余左

右、先余取左手、取金銀各一串、給禰宜、正禰宜、資派、宜、平、次右手取金銀一串、給祝、拔笏坐、各取之、
入中門內了、於寶前、申祝歎、不聞、次祝歸、出
自中門、於砌上、申還祝、其音、太高、次社司持來葵桂、
指白木、自余座、右方持來、余取之、葵懸巾子、桂ヲ
指綿覆也、次賜祝師等祿、五位諸大夫役之、入自
幔門、經廊內、於中門外、給、先禰宜、次祝、佗社司
祿、滿坤屋之後、可給、然而、依初度例、給之、長
治、天永例也、皆悉給了、余掛起座、太廻降南階、着
沓、經本道、着坤舍、帶劍、忠季朝臣來、扶持之、即
取沓去了、次公卿昇自南面、着座、奧端、分着座、着、上對座、此間及、乘燭、隨身立、明、次廻、御馬、神馬十
列、次三廻了、舞殿也、此間、陪從發言、留廻御馬
了、有東遊、舞人等着舞殿、可入、東西間、而入、中門、舞
人、先駿河舞、次求子、如恒、了各退下、次勸神酒、權
禰宜季平勸之、祝取瓶子、昇座末、昇、降、白、北、面、西、間、經座
中、就余座右方、勸之、左右有酒、小桶也、下有樣
器、尻居、並折敷也、先入酒、祝定了、乍折敷勸之、
如本置折敷、季平取之、經余座前、進北長押端、
渡哥酒殘、更取勸也、如此三度了、更入酒、勸權大

納言以下、第三度渡酒殘、也人別如此勸之、次甘汁粉熱計去、素居也、仍余已下下箸更食之、其味太此問、敷神樂座、次可始神樂、而人長改裝束之間遲遲、此間、社司以葵桂與諸卿、其路同神酒、人別懸巾子如恒、良久、人長參入、各着座、神宴如常、居衝重、次有勸盃、此間徒然、神宴了、舞人已下、起座了、次余已下、拔箸起座、取食少々亂入、追出了、無殊狼藉、不似先々云々、忠季獻之、同人令懸裾、余出南門、御前平伏門外左右、余不垂裾、經其中、向馬場舍、公卿相從、隔雜人、余仰隨身追散、近令候共、公卿如例、余已下下懸裾、昇階着長押上圓座、余脫袴、不以北爲上、各懸尻也、次舞人自北上南、次自南馳北、次兩大納言、引出物、馬各隨身引之、松明如恒、次人々起座、次余於西面、偷着查、降南階、御前々行、於鳥居外乘車、經行幸大路、到上社、進外鳥居立車、大將遲來、以候合殿上人獻查、於轅外懸裾、御前々行、此間、公卿少々來、不待總上社例也、入自鳥居、經殿帳東北、入西面北第一間、着經幄座北幔外、御前分居、垂裾、經中如恒、自後着之、左大將追參

着、於路車轅折、仍遲々云々、豫石倉南、昇立神寶長櫃、須置北也、而度々例如此同來、敷陰陽師座、神馬十列、立石倉西、北上西面、次供手水、自北進之陪膳以政朝臣、役供人、在大將前駢、仍只同行一人、也其外、親光、泰家等役之、次供贖物、如三下社、次幣取五人進立、次陰陽師着座、次被獻大麻、兼親朝臣、如下社引諸卿、撥被物等了、幣各參本社了、幣一人前行、神馬、神寶、舞人如恒、余懸裾入內鳥居、直着舞殿階下、御前分居、直垂裾、經其中、昇自南階、地上脫袴、實子也、又左着、其座如下社、不、外殿北面此間、神馬、神寶不見、東西相尋、直入三社內了云々、僅尋出、昇立東北岸邊、神馬引立舞殿北庭西方、次諸大天運置神寶、爲先、錦皆置了、御幣寄立机、件机、案立之次宗賴朝臣取金銀幣、各一巾昇自舞殿北面、余前也、獻之余指笏取之、宗賴按、兩段再拜、如下社、祈禱又同次神主一人出來、余給二串、神主取之參入、親國、良久歸出、神主申還祝、次白木指葵桂持來也、余取之、懸冠管社、次結祝師祿、次給三社司祿、次余着坤舍、無進昇東面階、經簀子、入自南面西第一間、着座、西、東忠季朝臣取查、次公卿着座、昇南階、着之也、次廻御馬、廻公卿屋、水屋也、次

東遊、次敷神主座、次神宴、此間、神司與葵桂於諸卿、次勸神酒、神主勸也、祝言蘇、余并、左大將、每度渡酒殘了、他人三度了後沃之、次三獻、每度以政朝臣持來盃、轉盃無渡、然而、依准據例、直不擬左大將、以持盃盃之、○之下悉有說字傳之、二獻下、箸神宴之間、可居湯漬菓子、而遲々、神宴已了、仍略之起座、向馬場屋西面、以北爲上、上北馳南、如下社、愛隆稱落馬、責仰令騎也、然而不馳、尤尾籠也、次起座歸家、經紫野路也、於門外下車、御前行忠季獻杏、大將已下公卿、光雅、定長等來從入中門、昇自同廊南妻、著南面座、公卿同前、次召御前辨少納言給祿、四位二人次給史祿、外記不參官掌、召使祿、於中門、所司下家司給之、隨身腰指同前、余歸入了、廿一日、巳陰、人々多賀賀茂詣雨止之間事、廿五日、辛賀茂祭也、近衛使右近中將實保朝臣、中宮使大進長房、祿人左衛門權佐小使右助國基等也、余不見物、召中宮使、渡南庭見之、廿六日、壬戌雨降之刻、參內、興福寺三綱二人來直廬、吉野盥行之間事、條々仰子細、以宗賴朝臣仰之、親經依穢氣也、其後退出九條堂、入夜歸大炊亭、

女房自今日始春日精進、沐浴解除、陰陽師宣平、陪膳能季朝臣、

廿八日、甲午上天晴、其後天陰、入夜雨降、此日、石清水臨時祭也、去月依法皇御忌月延引、今月可被行哉否、有豫議、被問右大臣已下人々、申狀盡着、勘先例之處、三月臨期有隙之時、四月被行之、已爲流例、仍可被行之由、多以申之而、內大臣申云、可被行之時、臨期有故延引尤可、然、於今度者、依亮闇停止了、已是自元不可被行之事也、何有延引之儀哉云々、此條依有其理、大略被付此說、而猶依不審、依亮闇停止之事、以他月被行之例、相尋之處、天曆例、射禮賭弓等、正月公事也、而被延引三月了、遊興事猶然、況於神事哉、仍今月所被遂行也、余已刻、着直衣參內、依使遲參、申斜有御禊、其儀如例、庭座之間、余須候殿上、例年如此、而今度、候御殿南廣庇北面妻戶內、尋常渡殿也依有便宜也、三獻之後、依寸白更發、觸置女房、又以隨身觸職事等、退出了、今年、七條院被候、其御方打出、在西第一間御座際間也、頗似無便宜歟、須如此之時、強不可被伺候、美福門院

時、全以不然、鳥羽院除以致謙讓、此女院常以伺候、被施威光、古今事異、已此謂歟、且爲保身運、尤可被卑下人、如仰々々、然而、已爲帝母、有恐于口外、努力々々、中宮打出如例、

蘇芳織物几帳、有下繪、出御所同、

紅薄樣褂五領、白單衣、已以練之、結薄例、打出、裏一尺二寸、紅打衣、青朽葉生織物表着、二藍生織物唐衣、白腰裳也、出几帳、

七條院、

依爲一間、出例几帳、有打出、昌蒲五領、朽葉表着、二藍唐衣、其厚如例、打出不、知案內也、同間哉、引入了、儲女院座、但依月障不、被昇、彌打出無益歟、如何、

此日、女房參詣春日御社、卯刻出行、先是沐浴、次解除、陰陽師宣平、陪隨能季、庇車、車後出衣、藤朝臣五領、但薄衣也、有持具、車副六人、白強、不、前駟十一人、駟上人二人、諸大夫八人、元所定駟上人四人、諸大夫十人也、而三人俄有障、皆布衣也、出車二兩、不、電、物具、只雲許也、每車、衛府二人、御車後、衛府長忠武供奉、出車後、三位中將兼良供奉、細代車、牛童遣也、布衣前駟二人、其後御衣櫃二合、侍四人付之、今夕參御社、明曉可參東大寺南圓堂也、

多年宿願之上、中宮御惱之時、可急參之由、重立申之、而連相障テ令遲々、去月依重病病人延引、今日破石所參詣也、每事略議也、

廿九日、乙丑今日念誦、此日、招氏公卿已下少々、清水寺事有議定、經房、隆房、兼光、雅長、光雅、定長等卿也、多申可被下勘記錄所之由、余覆問、兼光、光雅等伏理、不可被下勘之由、殘猶申、可被下勘之由、兼光申云、故院御時、被仰下子細、并當別當補任之間事、委可被尋云々、又住吉社修造、賀茂八幡等領支配、天永宣旨分明、猶可被宛歟事、問人々、所載宣旨之庄云々、殊他庄、彼時未爲社領歟、將又雖爲神領、被除歟之條、猶可被問之由、人々申也、其後人々分散了、

亥刻、女房自春日還向、上下向之間、無爲無事云々、昨日申刻、着禪定院、戌刻參社、前駟、吹、竹衣冠、也不具、出車、白地參啓、不具、出車、例也、於着到殿邊、昇放車床、昇入南門內、昇居中門外祓之際云々、前駟之中、撰藤原氏人、令取幣、正預遣忠申祝、給祿褂云々、其後參若宮、次歸禪定院、今日、參南圓堂、金堂等、次參東大寺、次歸路之次、過宇治、巡禮諸堂、用、與、南都、巡禮、與也、即歸

來也、去廿六日、南都僧夢云、着_二黃衣_一神人、數人作道_テ、これは、北政所御參詣之料、可_レ造_レ道之由、依_二仰下_一、所作也云々、珍重事也、可_レ悅々々、

五月

三日、_辰左近荒手結也、

四日、_巳右近荒手結也、

五日、_庚左近真手結也、

六日、_辛右近真手結也、雅行、忠行等朝臣、着行云々、

八日、_癸晴、此夜、御方違行幸也、右大將已下、公家七

八人供奉、還御僅兩人也、余同供奉、主上聊雖_レ有_二御

膳違例事、殊事不_レ御、所大内也、天晴有_二還御_一、仍無_二

名謁、少納言能資勸_二仕鈴奏_一、不_レ趨如何、御方違所事、

雖_レ有_二種々沙汰_一、依_レ難_レ治、幸_二大内_一、今日以後可_二停

止、神泉猶出之由仰了、

九日、_甲覺乘來_二直廬_一、内々賜_二清水寺所_一進證文等、可_レ

觸_二大僧正并別當僧正等_一、子細仰含了、

十日、_乙定長卿參入、去五日下午_二向南都_一、檢_二知東大寺

勅封倉、并綱索院等、破_二雨露_一更不_レ留云々、又云、大

柱卅餘本不日引着了、余_也、_{沙汰}上人、殊悅申云々、余

於_二直廬_一謁_レ之、多談_二雜事_一、

十二日、_丁晴、興福寺所司、爲_二集會便參洛_一、申_二清水寺

事、左中辨親經朝臣、相具參上、但件人依_二觸穢_一不

昇_二堂上_一、余召_二寄檻下_一、仰_レ之、清水寺進_二嵯峨天皇

勅書、并本願延鎮上人起請、先日伺_二覺乘法眼_一下向_二

了、就_二彼狀_一、尤可_レ申_二子細_一之由仰_レ之、件事未_二聞

及_二云々_一、去九日覺乘南下向也、八日有_二集會_一、仍未_二

承及_二云々_一、其外條々、別當僧正有_二申旨_一也、此日、最

勝講定也、實明朝臣於_二御前_一書_レ之云々、

十三日、_戊晴、女房向_二九條_一、_{能季朝臣}入_レ夜歸來、史基

直持_二來月奏_一、去三月々奏也、問_二遲怠之由_一、申云、史兼

光稱_二被_レ注漏上日_一之由、取_二籠月奏_一、空過_二去月_一、其

三日責出評定、件上日事、皆爲_二虛定_一、仍一日不_レ入

之、一昨日返_二給月奏_一、昨廻_二辨官_一、今日所_二内覽_一也

云々、仰云、縱雖_二有_二上日漏之愁_一、觸_二長者可_レ待_一成敗、

以_二六位下薦之身_一、取_二籠月奏_一之條、理不可_レ然、又誰

人與_レ之哉、此等子細、可_レ傳_二仰隆宿禰_一者、其上直申

云、件月奏覽_二左少辨宗隆_一之間、重光依_二爲_二後下課_一、

於_二路取留_一、不_二返與_一云々、次第重々尤不審事歟、

入道闕白、被_レ乞_二尋常馬_一、明日可_レ獻之由答_レ之、即仰_二

長房了、此日、廣房來申云、諸國依新制、付請文之國卅餘ヶ國、所殘未付之云々、又進文書之國不候、仍內々觸縁尋取也、註文卅餘ヶ國也云々、此次常供田之間事、問子細、于時、神祇少副爲季參會、同申子細、禰宜等謀計、更被取喻無物云々、不能具注、神宮評定注文、返遣上卿許了、仰可被計申之由也、爲季語云、祭主殺人者也、此事爲人依爲生涯之大事、日來否外、而刑部、丞經俊、可科祓之由、被宣下之間、件之間事、即爲能隆之所猶仍可行申之由承之、仍所申也、即被殺之者、爲季下人也云々、此事不被進_{進忍}用事、若實者、驚奇不少者也、神慮定有御計也、爲指人、輒出構大事、歟、將又爲實猶歟、遂不可然心事歟、猶々可驚云々、八條院御返事、_{天王兩宮所奉}付仲資、仰可獻彼宮僧正之由了、今日、能綱卿進金峯山惡僧靜春申狀、先日仰件卿、欲令召進之間、今日進而申子細不過之由云々、猶可被召之由仰也、即遣親經御教書了、

十四日、已入夜、覺乘法眼來、示前大僧正御返事、猶又示子細了、

十五日、_庚雨下、入夜、余及女房、參宿內裏、神祇少副爲定來、內々向常供田方畢、

十七日、_{壬午}自內裏退出、宗賴朝臣來申條々事、定長卿召具東大寺上人來臨、先日、諸國柱引人夫事、有申旨、仍可書進消息之由仰之、件狀所持來也、其狀不甘心、仍仰子細了、

十八日、_{癸未}晴、早旦、興福寺三綱難實、爲別當僧正使來、并別當親經朝臣、其所來也、已大衆蜂起了、昨日十七日朝所罷起也云々、是清水寺事云々、仰子細了、縱雖可有裁許之事、於衆徒蜂起歟、一切不可有裁報之由也、

十九日、_{甲申}晴、舍利講如例、講師因能法橋、問者慶智僧都也、親經朝臣申云、大衆已欲發向云々、春日社司內所申也云々、余書長者宣案、四爲土代、副文章、可仰遣之由、仰遣了、入夜持參長者宣案、尤神也、然之間、又春日社申云、今夜已欲奉遷御體於遷殿、而寅刻之外、不奉勅云々、仍所被問例也、內令告申云々、其儘不可奉勅御體之由、仰遣了、長者宣、即下遣了、其趣、先日仰三綱之趣也、夜間小雨降、

廿日、晴、午刻、前大僧正被_レ送_レ札云、大衆已和平、以_レ仰越_一具仰聞了、去夜亥刻、別當僧正面_一向大衆、能仰聞了、使_レ理_一止蜂起_一了云々、悅心不_レ休、向_レ南讀_一心經_一、奉_レ法_一樂春日大明神、感淚難_レ禁者也、

十月

一日、平座也

十一日、_{辰自}去夜_一有_一雨氣、曉鐘報、彼蒼翳忽散、天顏快晴、此日、當今初度日吉行幸也、近代々始行幸、一宿之由、人々存也、然而、勘_レ例全不_レ然、幼主御時、有_一宿之儀、成人之禮、即日還宮、所謂延、久三年十月廿九日、承保四年二月廿六日、寛治五年三月日、_{雖御元服以後、猶有_一准攝政詔_一、}應保三年二月廿三日等例也、仍今度又無_一永宿之儀_一、去八月可_レ有_一行幸_一之由、雖_レ有_一其沙汰_一、日次之間、有_一依違事等_一延引、一昨日九日、上卿隆忠卿參_レ陣、行_一宣命草_一、并召仰事等、昨夕御_一覽神寶_一、余自_一夜前_一所_一參_一直應_一也、丑刻小浴、_{三々日精進、昨日洗頭、自不_一參_一社頭_一、又無_一奉幣_一、經不_一如_一然依_一程_一也、頃之、大外記良業、_{本行}參入、催_一行雜事_一、寅刻着_一束帶_一、參_一御前_一、未_一供_一御膳_一、又內侍未_一上後_一、豫經_一示_一並女房等_一、猶以懈止、每事催促、御膳之後、御餐、御裝束}

能保廟、實教卿等候云々、之間、天漸欲_レ曙、于_レ時、公卿兩三、并諸司諸衛大略參集、只舞人、近衛次將一人未_レ參、數度雖遣_一人_一、猶以不_レ參、及_一卯刻_一、舞人兩三、近將一兩參入、即以出御、_{宗親朝臣連參、其儀如_一例_一、左右大_一左宰相中將_一實教卿、奉_一仕劍璽役_一、余於_一東對_一也、_{將登會_一南階_一着_一沓懸_一尻_一、此間、女房與_一御扇_一、招_一基宗朝臣_一、密々獻_一御輿中_一、御輿御_一出左衛門陣之後、余於_一三條坊門西洞院邊_一、乘_一車候_一後陣_一、御路、經_一西洞院_一、三條河原、栗田口等_一御也、入道相國家有_一憚_一之由、行事官等令_一中_一、仍以_一相坂_一可_レ爲_一御路_一也、之由、方_一沙汰_一而件家、其門不_レ向_一大道_一、其家非_一顯_一、尊可_レ有_一憚_一之由、雖經_一沙汰_一、草_一創後_一別業_一時之、有_一議等_一、皆相_一定無_一憚_一之由云々、加之、按_一准攝例_一之處、經實廟覽去之後、只退_一門不_一進_一都外_一即中陰內也、仍以不_レ進_一於_一相坂_一有_一餉云々、於_一唐崎_一鷺首_一此路_一給_一也、副_一斜岸_一、相_一從御輿_一、奏_一音樂_一、湖上漫々、冬日映_一浪_一、眺臨之處、遠望催_一與_一、未刻着_一社頭_一、於_一聖眞寺鳥居邊_一、隨身駕_一晴移馬_一、當色車副等遣_一之_一、於_一左衛門陣頭程_一下_一車_一、入_一東暢門_一、_{與昇居_一御輿寄_一公卿列_一前庭_一、南上西面_一、昇_一自_一御在所東妻_一、有_一沓_一、經_一簀子_一、候_一階東間_一、即實教卿昇_一後陣方_一上_一、先卷_一御簾_一、_{候_一御輿左右_一也、}次開_一々々戶_一、取_一御聖宮_一、授_一右內侍_一、次獻_一御草鞋_一、次下御、即撤_一御草鞋_一、授_一東堅_一、次取_一御劍_一、授_一左內侍_一、垂_一御簾_一、退下、次退下、次退_一御輿_一、余入_一御所_一、次上卿奏_一}}}

寶印、宗賴於在所北面東第一間奏之、內侍取之、次昇立
神寶、神祇官還參之、大御手水、大將供、次出御々拜座、二間
乾、次昇御笏、宗賴獻之、以北、次供御贖物、次宮主獻
面、大庭、宗賴取之、撫給之後返給、宮主着座、次上卿隆
忠卿、入自東幔門、引立神寶、東方北面、次宮主御
禊了退下、次撤御贖物、先是、將、次引出御馬、次
上卿就案下、取幣立、次御拜、再拜、次上卿並幣、次
着座、次行事參議公時卿、取挿頭花、入北幔門、指
上卿則退下、次上卿參社頭、出北幔門、此間、余召宗賴
朝臣、仰勸賞、宗賴云、先例當社賞、於社頭、職事行
向仰上卿云々、他社不如然、可隨仰云々、當社
事、爲先嚴重、有此儀、人早可隨先例、歟、余又仰
云、今夜還御大內、明曉直還御、不可宜、光綱之許、
可仰遣、又供奉所司等、可仰此旨也、即余退下休
幕、着膳、宗賴來、申行事賞事、公時可叙正三位、
其外追可申請之由仰也、宗隆、申四位少辨之
奏、事由、於內裏可仰之由仰也、小時、余歸參、大將
暫猶休息、晚頭、社事了、座主引亭、別當付權別當實
全等參上、入北幔門、佇立、仰宗賴朝臣召也、經前
庭、昇自東妻、被參御前、須臾退出、次撤幔等、

敷公卿座、次以宗賴召公卿、隆忠卿已下着座、次
舞人上御馬、次馳御馬、次公卿退下、次如本立幔、
次奏見參、宗賴奏之、今度、於、次宗賴持來余祿、
持還了、令隨身、次公卿給祿、次公卿肩祿列立、次
寄御輿、實教役、御輿、乘御、始稱警故、次出御、余於
鳥居外乘車、候後陣、大將於聖真寺鳥居、密々乘
余車後、還御、被略、馱餉了云々、子時、還宮下御、名
謁、鈴奏了、入御如例、次撤御裝束、着御引直衣、密
密渡御淑景舍、宿藤室、先是、仰行事賞、余就寢、
公時卿來直、翌日寅一點、還御閑院、下御、鈴奏名謁已
後退出、于時天未明、
今日、以大宮後閑所、爲御在所、有階隱間、板敷太
高、如普通人家也、御在所、良角去數十造、余休幕卯酉
妻也、御在所東立公卿也、御社當御在所乾方也、
衆徒夾路、然而不及南都、歟、今日奉念日吉大明
神、信心發起、如有感應、人可悅々々、
廿三日、此夜、爲方遠、向二條堀川大將宿所、先召
進能保卿寄進狀、依可爲本所也、
廿五日、寅一點、出九條、於宇治、天始曙、已四點、佐
保殿、未刻參堂、先講堂、次南圓堂、已上有次金堂、評

定作事之間事、酉刻歸佐保殿、

廿六日、辰刻、參東大寺、立柱二本、余已下取綱、爲結緣也、次見廻上人建立堂舍、及絹索堂等、子刻出寺門、申刻到宇治、此夜甚雨、

廿七日、巳刻參經藏、終日禮佛像等、

廿八日、巳刻乘船、頗指上、即詣日野、供養經、其次禮宣旨堂、并賀長入道堂、及願蓮房見之、即歸京、酉刻向九條、待車、即歸大炊御門亭、

十一月

一日、甲中宮御方、供急火御飯、此日、御前儀、初度官奏也、去月廿九日、於藏人所、勘日時、下左大臣、余着座、直衣參內、奉教、御作法、大辨已下參結政、見文、是寬治例也、無政也、寬治例、有政之由、職事稱、余成疑、問政、歟、尤謂也、永久、一渡於床、秉燭以後、左大臣已下公卿參候陣頭、依石清水御躰仗議也、或云、吉書奏日、不可有仗議云々、此事太無所據、仍不據、用此說、戌刻、於直廡有內覽事、不立切燈臺、不敷圓座、仍進催役人也、此後事不被記也、
七日、庚陰、入夜雨降、此日、八條院逆修曼陀羅供也、

導師座主權僧正慈圓、讚衆十二口、此內法、印四口、未刻、着衣冠、參彼院、雖爲新當會散齋、勘准據例、參入、女院以今度御作善、一期等事之由、有御存知之故也、天治二年春日祭散齋之間、故殿參尊勝陀羅尼給、所准彼例也、先是、被始行法會、左大臣已下、候簀子座、余着階隱以東座、散花之間、有堂童子、說法了、行法之間、有讚等、晚頭事了、左大臣已下取布施、導師卅許云々、讚衆布施、一兩口置之間、左大臣退出、其後余參內、此日、官奏、不堪荒奏也、余參內之後、左大臣參陣、子刻有奏、六度揖、彼家說也、副文有五通、而只結三通、但第二三度、共取二通、結一通、取加歟、置之、此外、無殊事、結聲太嚴歟、主上御作法、神妙也、先於直廡有內覽、直辨左中辨親經、不敷座、不立燈臺、是定例也、申次長房、
八日、辛未、此日、酉刻、九條殿上、女房母儀、中宮外祖母、入滅于東山光明院堂、生年七十、女房在九條、大將同也、但閉眼以前歸一條了、
九日、壬申、此日、不堪和奏也、左大臣候也、直辨親經朝臣、作法同荒奏、

十二月

一日、甲晴、御堂御八講第二日、南京堅議也、申刻着衣

冠、毛車如參御堂、先是、平中納言親宗卿、兵部卿基親

卿參入、余直着佛前座、召長房、仰可始事之由、

即撞鐘、諸僧着座、次講讀師登高座、次第如例、朝座

了、召長房、仰夕座可始之由、即諸僧起座、槌鐘、

諸僧起座、次第如例、朝座同者圓長律師、夕座同者權圓法師、次預法師等、撤

散花行香机等、更立机一脚於正面底、次探題法印雅

綠臺上、昇自正面、如例、盤頭等、集于臺、次問者五

人、二問範圍、着座、次堅者東太寺顯範大法師、宗、入自

東庇南面戶、經公卿座前、到佛前机下、先三度禮也、

讀算、預法師、以詣燭、次登高座、次領平、次範圍問云

云、五重、次探題難之、次判得略、次藏信大法師問

之、此間余退出、

今日、參入公卿、

平中納言親宗、左宰相實教、治部卿顯信、

兵部卿基親、新三位中將家實、

二日、乙晴此日、御堂御八講五卷日也、午刻許、宮女房

告送云、祈痛御腹底給云々、依不審、先以參內、即落

今夜可修御祭等之由仰之、雖御衰日、急事不憚
之上、祈者不憚衰日之由、有所見之故也、又召
醫師等問之、頗依有霍亂疑、暫以不供御飯、但
事非重、及晚不可有憚之由問申也、當時無爲御
座、仍、申初參法成寺、先着饗座、召長房卿問
事具否、申具了之由、即着佛前、須於南座有盃、然
經家許也、仍不
及其儀也、槌鐘後事始、同者圓能
法師也、朝座了、召長房、仰
可始夕座之由、衆僧起座、今日夕座有庭列、先例
也、長房申云、先例、凡僧路用正面、承安以後廻座
末、僧綱用正面云々者、余云、僧綱、凡僧、各別之路無
謂、猶可尋問者、歸參申云、先度申誤言也、如御
定、僧綱乍下廻座末也、其仰云、事理可然、仍初日
余成此疑、然而衆僧着座了、仍不及沙汰、於今
日者、可廻座末、歟、次衆僧參上、三綱二人在此諸師
前、講讀師經正面北間、
若北座、衆僧經座末并四着座、次事始、先散花、行道、一廻以
後、散花師立佛前出讚、即經簀子、于時、余已下
從僧後、自余座南間、
直出實于也、於南庇東第三間、家司兼親朝
臣、取袈裟與已下、諸大夫等與公卿、三面了着
座、殿上人已下、置袈裟於佛前、余袈裟兼親取之、置
之、自餘諸大夫置之、次法用如恒、同者顯
國已歸、事了退出、

憲忠朝臣、問答御心地、入夜以御書被仰云、無爲云々、今日、於內裏申條々事、若猶不快御者、爲召僧、仰宗賴令勘文例、頗不祥人可檢見也、今日、參入公卿、

權大納言隆忠、右大辨定長、六條三位經家、

三日、晴、申始參御堂、朝夕兩座了、未及日沒、探題參入、暨義事始、其儀如例、及昏黑舉燈、一二間、得略判了退出、探題澄眞法眼、暨者山春範、一問園城寺千慶已講、

今日、參入公卿、

新宰相光雅卿、右京大夫季能、前宮內卿季經卿、大藏卿親雅卿、

今日、朝座問者仁快、夕座明禪、

四日、晴、申刻、着裝束、參御堂、先着鑾座、右大將遲參、仍且可始之由、即着座、中座朝座如例、夕座之時、有庭列一如常、廻座下一如五卷日、問者長範、次給講師布施退出、次行香、余已下公卿八人、次例時、次給衆僧布施、次退出、參內、亥刻退出、

五日、晴、此日、九條堂懺法結願也、又故女院御忌日也、今年當三十三年、仍聊可修小善、此事非尋常之

儀、兒女子等之所云也、然而事功德也、又爲一經之說云々、仍余已下、御傍親、及舊臣等、各營一卷、供養八軸、導師公雅律師、余依神今食散齋、不行向、最遺恨也、宗賴申條々事、七日爲內御物忌云々、可覆推之由仰之彼日依可被始除目也、

六日、晴、明日欲被行除目、而公家御物忌、被覆推之處、無答云々、然間、左大臣所勞云々、仍延引、來十五日可被行、申日其例多之故也、今日、召實教卿、成經卿等、仰可被停中將之間事、實教避參議中將兩職、申可任衛府督之由、成經其子任兵衛佐、其身叙正三位、可避兩職之由申之、又信清辭少將、望右馬頭、而翌日讓其子、我身即可任中將之由、成支度之由、有風聞、仍此條專自由也、勅許難及、不然者、被任有何事哉之由、奏聞、即被問信清、全後日不可望中將之由申之、經房卿來云、宮御元服之間事、仰子細了、

七日、晴、猶明日可被行除目之由、仰宗賴、雖爲余衰日、依有例也、有所思、所忿行也、申刻、下方有火、依內裏不審、周章參內、於路頭見之、南風頻扇、上方有花、內裏無事、當時二條北東洞院西

燒亡之間也、仍翻轅歸大炊亭、小時火消了、乘燭參
 內宿候、依明日除目也、昨今、公家御物忌、然而、覆
 推之處、無名云々、加之、乙日夕也、仍可有三除目、然
 而朝間外宿、猶可憚歟、仍所參入也、

八日、辛丑陰、此日、京官除目初日也、戊刻着束帶參
 御所、中宮密々昇給、主上着御引直衣、出御查御座、
 余着殿上、宗賴來云、外記師直申云、定能卿復任事、
 中陰之內有例、但御前儀、京官初度也、仍可隨仰
 者、仰云、御前議憚禁忌事、謂最前也、於京官、
 雖爲初度、於御前第二度也、諸禁忌一切不被憚、
 限此一事、不可及議歟、但凡中陰之者、復任之條、
 縱雖有例、外記之所存、不必然事歟、次又散齋之
 間、復任之條如何、可申此兩條者、申云、外記所
 存、中陰之復任待御定也、又江記之中、宇佐使發遣
 之期、近々之間、猶被憚之由、有所見云々、然者、勿
 論不可載大間、素不申此等事、申無由事、尤尾
 籠也、小時、藏人資經召諸卿、左大臣已下列弓場殿、
 大臣東面如去春、次大臣着殿上、次余及大臣着御
 前座、次通親、經房、親宗等取宮文、次參議光雅着座、
 次余依召着、罷下圓座、次主上引寄御簾給、余召

左大臣、而不待余召、隨御簾動一稱唯、然而、余猶召
 之、大臣着圓坐、奏闕官帳如例、但實引廻之時、以左手取宮上方、左サマニ引廻也、而奏大間宮之時、宮上サマニ引廻不一同、如何、次終大間、其作法、要去春被上サマニ引廻、如何、用雨殿、是只知也、此間、余仰實宗、先若座、云、受領文ヤ候、實宗召辨
 資實問之、申四ヶ國候之由、攝津、遠江、丹後、隱岐、仰被定申
 之由、大臣任式民二省史生之後、召院宮御申文、光雅
 此間、賜御硯宮申文、余置笏取之置前、撰分可
 袖書申文等、不經幾程、光雅卿持參院宮御申文、
 大臣被奏之、返給復座、余差遣可袖書之申文等、
 大臣取之、先注袖書、參議三人、當從功過定役、
 可召誰人哉之由被示、余云、公時卿祇候云々、召
 着座、可賜彼人歟、大臣仰實宗、々々仰藏人、大臣直可
 給申文等、次大臣正笏候、余仰可任當年給之
 由、大臣頗不被存歟、近代、京官除目、二ヶ夜被行
 之時、初日被任院宮當年給事、曾無例、是奏任人
 於上皇之間、入眼日被定任人、仍不被任也、今度
 任正禮仰之、大臣有不被存之色、遺憾也、皆悉
 任了、猶可任京官之由、大臣被申、余云、有例哉、
 大臣云、諸司二三分、多以被任云々、仍余給諸司奏

諸道舉等、少々任之、其中内膳司、舉典膳之申文、依余命、任之、舉三分之條、近代雖有制、件可依無所望之人、如素關、仍隨宜被任也、而大臣任之後、披申文之與云々、只有奉膳署無長官署、爲之如何、余云、早可被消也、無長官之署之文、不上奏、故實也者、即塗墨了、其外諸司二分等任之、此間、公時持參下勘申文等、大臣次第任之、皆任了、此間、功過兩國、遠江、丹後、今夜任位次被定也、先例不同云々、定了、持來定文、實宗付執筆、々々與余披見了、奏聞了、留御所、次大臣奏大間封之成文、如例、數刻封之、加入一宮奏聞、復座、引直宮等退出、余返上御座、申文一起座、次定長、兼忠等、撤宮文、功過定上卿實宗卿、光雅見合、定長讀帳、兼忠書定文、

今日、參入公卿、

余、左大臣、大納言實宗、

中納言經房、親宗、隆房、

參議光雅、公時、定長、兼忠、

今日、有勘盃、實明朝臣、親國取瓶子、

九日、王晴、京官除目入眼也、戌刻、左大臣參入、諸卿

未參、任人之間事、聊有被尋問其人事、自然及余、余任人折紙、竊使左大將書之、大將候之後、未着陣、仍着直衣、密々招入直廬也、參御前、大概奏聞了、着殿上、先是、宗賴下辭書、又仰解官等輩、次藏人資經召諸卿、次左大臣已下列立弓場、次大臣着殿上、次余及大臣、着御前座、次置宮文、其人如例、次參議光雅着座、暫遲々、仍大臣催之、次依召、余着簾下圓座、次余承仰召左大臣、今度待余召被稱唯、次大臣參着圓座、次賜大間宮、參進、指笏賜宮、復座正笏候、御簾動、大臣取出大間、繆置之、此間賜御硯宮申文、余置笏、以左手褰御簾、以右手取御硯宮置前、撰出顯官申文、并明法博士申文等、置硯外、此次求出院宮未給申文一通、大臣繆大間了、正笏候、御簾動、大臣尋任人、余先賜明法博士申文三通、使諸卿定文、大臣召實宗給之、次余先差遣院宮御未給申文一通、大臣注袖書、召公繼卿、令下勘之、次撰出諸申文等、相加折紙、傳大臣、大臣取之置前、先任内舍人、是花園說也、去春如此、凡大臣作法、今度併欲改去春作法、而最前任内舍人事、春秋惟同、此條不被知、有異說之由歟、次々

隨當被任之、全無次第、又無申文之沙汰、只如書消息任之、一度申文懸勾、早速之條、爲人第一也、然而、不正作法之條、於公事似存略儀、爲之如何、人々中、有六位權守、被尋例、注進近例等、仍不叙五位、又陰陽大允晴光、辭職讓子息、而被任少允、仍可有三連奏之由、大臣被示、余云、尤可、然、但不獻辭書者、本寮等暗知獻連奏哉、以自解任之、問任人於外記、被行轉任之例、粗有之歟、如何、大臣稱善、即以自解被任之、問少允交名於外記、被轉任了、任人之中、今夜解官之人、誤入注文、是余尾隨也、仍止了、是兵部丞中行、依不仕被解官、而依爲兵部一、不覺悟其名、任式部丞、太奇恠々々、毫味隨日陪增、速可遂山林之素懷歟、可耻々々、皆悉任了、奏大間、此間、功過定未終、暫相待、進定文之時、加入大間宮、不入成束、奏聞、返給、被加入定文、仍大臣與余取之、復座、不披笏直揖、取宮退下、余返上御硯宮申文起座、入眼上卿源中納言、參議公繼卿云々、勸盃如昨、今日、大臣繆大間之間、余仰實宗、令定申受領功過、攝津國、光雅讀帳、神妙、但頗似三經聖一、定長見合、公繼書定

文、隱岐、定長欲讀帳、而猶稱故障、仍公繼讀之、定文又兼行、光雅見合、定長空手如何々々、又明法博士定申了、返上申文之次、賜顯官申文、少小時撰上申文、不也余奏聞、返給、授執筆了、明法博士事、余、經房云、章廣、章親之間、可在勅定、親宗申云、章親爲重代、存故實歟、可被抽任、左大臣已下、人皆章廣也、仍被任章廣了、此中、通親卿申云、經康申文之中、載來世之字、隆賴申文、載此狀、有沙汰、返給、准彼例、可返給申文歟云々、今日、參入公卿、

余、左大臣、大納言、實守、中納言、通親、經房、親宗、通資、參議光雅、定長、公繼、

余於直廡改着直衣退出、于時丑刻也、十日、癸此日、御躰御卜也、而隆房分配、去夜轉左、仍申障、余遣使、今日若陣シテ即可行御卜奏之由仰之、領狀尤神妙、

十一日、辰時、此日、月次神今食也、余去一日旬、有所思、不遙拜、仍今日重修祓、遙拜太神宮春日兩社、午刻、左大將來、自是可向九條、資實申今日神今

食神服神座闕如事、諸國可付使之由仰之、隆職召具住吉神主參入、宗賴朝臣參入之後、條々事、召聞長盛隆職同之、於藏人所問之、長盛候長押、長盛一事無披陳、陳方大略不足言事者、住吉造營之間事、大略請申了、余初以同前也、

今日、月次祭事、資實奉行、神今食宗隆奉行也、來十八日千僧事、經申沙汰、今日、閣佛事、可行神今食之由仰也、月次上卿右大將、神今食左衛門督隆房、

十二日、乙光綱申云、明日宣命辭別、可承存云々、仰、天變事、明年公家御慎事、并依大宮司事遷宮延引事等、可載之由了、又申云、使頗難早參、明日雖給幣、明後日可首途云々、

十三日、丙晴、此日、宇佐使發遣、左馬權頭範實季能卿息也、余午刻着直衣綱代、參內、於直廬行水、參宮御方、即退下、改着束帶、直神寶御覽之時着衣冠、着直衣、御視之時可着束帶也、然而、依有事煩、直着束帶、光綱云、皆見了、但使未參、重遣人了云々、未刻參御所、只今御梳櫛之間也、仍余參宮御方、數刻候御前、及申斜、女房告御裝束持參、忠季朝臣奉仕之、御引直衣也、此間、殿上五位六位、運置神寶於御

殿西庇第一二間、先出御、余經御帳後、候母屋圓座、召光綱開御幣御鏡等宮、備覽了、殿上五位六位撤之、次入御、改御裝束、次主上猶御引直衣也、出御南簾中、神馬遲引之間、暫經程、適以將來、此間、右中將忠季朝臣、候簀子、次府官人二人引御馬、三逆之後引出、忠季退下、次入御、供御膳御裝束、如例藏人二人、昇立案、次改着御裝束、其後猶使不參、此人、次餘不見及也、間、隆房卿參入、奏宣命草、御覽了返給、次上卿奏宣命、始內覽之由奏聞歟、候御前、退披見之由仰了、仰可清查之由、次奏官符返給了、次奏清查、此間、御裝束了、御覽返給、使猶未參、數度蒙催、日已欲入之間參入、即出御、光綱獻御笏、勤陪膳、次獻御麻忠季傳獻返給了、宮主着座、御視了、宮主退下、次使退下、次撤御贖物、次御拜向西南兩段再拜了、光綱給御笏、次入御、使行事藏人業廣等相共撤神寶、須昇棚也、而昇並神寶之辛櫃蓋許、不知案內也、行方仍余仰也、業廣撤之、次藏人上西面御格子、次出御查御座、次召光綱、召勅使云々、參上、近召寄長押下、仰云、御在位可長久之由、可祈申者、範實退下、余召光綱、仰參着日、及路頭俱賴可存略之由

等、參宮、正月七日也、二三日之間、可參二著一而使七日之由申レ之、仍仰二此旨一也、次余於直廡改二着直衣一、參宮御方、暫候、主上渡御、小時余退出了、此日、余精進潔齋、

使發遣以後、參着以前、主上御精進、又雖不憚二佛事一、被レ忌他禁忌等、已散齋之儀也、執政臣不可レ爲二神事一之由、見故殿御記、仍所存二其旨一也、此日下名也、比加任事、

十四日、丁晴、明日御神樂拍子基宗朝臣、稱障不參、須鈎出也、然而、能保卿、內以披府結云々、仍不能鈎出、基宗是雖不當事、彼卿如嬰兒、還不足言、仍如覺病基宗也、

十五日、戊晴、此日、內侍所御神樂也、主○上字始令參二內侍所一給、余未刻、着直衣參內、被取出蓮花王院寶藏琵琶等、御遊具一具、可被進宣陽門院之由、余所申行也、○以上九條本缺脫

玉葉卷第六十四終

玉葉 卷第六十五

自建久五年正月
至同年九月(但五六月欠)

建久五年

正月

一日、亥時、卯刻、拜天地四方、時刻推移、曙天之後也、隨身着、綈袴候如常、行事勾當源助、已刻手水、陪膳文章博士業實朝臣、歸入見鏡如例、女房於別屋着白褂見之、雖重服人無憚之由、見保安二年故殿御記、午刻、着束帶防即、相地不特、待人々、兼光卿、兼良卿之外他人未來、長房遲參、度々遣人、未刻、大將來、他人々多來、暫相待右大將、及未四點、右大將來臨、豫仰諸卿降立、左大將同之、右大將進立中門下之間、余出自寢殿西第二間、年來打出間也、今年女房依憚、不問、出袖只出例几帳、降自南階西邊、中宮權亮忠季、初臣持來香、當西開柱去溜一丈許南面立、次右大將已下列立南庭、右大將練步、當南階東面立、依公卿人數多、余示右大將、西方令進立、公卿立了、殿上人宗賴朝臣已下列立、依庭狹未少々不立終、其後家司職事列立、隱岐前司師尚朝臣已下也、大外記大夫史在此列、內藏權頭國行、大舍人頭仲資、宮内少輔盛經等、余仰令立、

此列近代上官之外、家司職事不立、皆悉立了、余以下再拜了、依無其訓令立也、六位列其次、上官殿上人先出、余暫留立、余示右大將云、令忿忿出之時、不歸昇直出、是例、今日節會可被忿行、斜日已傾、直欲罷出者、即余揖東進、大將同揖、先立出中門外、左大將相從余、余出中門、頗向右大將少揖、大將深答揖、過公卿列前、至四足、經房偏已下、皆居地、乘車、左大將襄簾、大將歸列須出、右大將々々固辭云々、余參內、於二條町下車、入自右衛門陣着殿上、即參御所、欲供御樂之間也、依後取遲參、懈怠云云、此間余參中宮御方、小時歸參、御樂供了、着御々裝束、黃櫨如例、忠季朝臣、信清朝臣等奉仕之、于時光綱云、御靴裝束、不新潔、行事祿人失錯也、欲用古御靴之間、寸法不叶、爲之如何、余云、切替、召御靴、有御試、神妙云々、此間余撤數、試可着御靴、召御靴、有御試、神妙云々、此間余着殿上、右大將以下五六人在座、余告御裝束已了之由、各於弓場邊着靴、次余召宗賴朝臣、仰云、近代職之外殿上人、不列無謂、早可令列立、即降自小板敷、於弓場着靴、先是左大臣參入、立東中門外砌

內、招頭辨、宗賴奏事由、先藏人等立殿上御倚子、次出御、宗賴裏御簾、獻御笏、次良久不歸出、仍余類以咳嗽示、宗賴、自中門外方、今度取、出來、仰聞食之由、次余氣色于左大臣、進立前庭、練步當南、踏西頭、次左大臣以下、次第經三列後、上、次殿上人宗賴朝臣以下列立、伊賴、忠季、通宗、等朝臣列立、是非藏也、次六位範高一人立、其後、皆立了、余已下拜、舞、余須先突、右膝也、而依御氣、年來只突、左膝、是知足院殿御作法如此、被陳此趣云々、了、揖右廻、練退、當有於主上眼路、仍早以練止、出中門、身自小板敷、公卿皆退了、仍余參上、召宗賴朝臣、令撤御靴、余寢御簾、即以入御、余仰可仰內辨之由、宗賴申云、爲一上如何、余諾、思失仰之、愚昧之甚也、次余參宮御方、主上不撤御裝束、即渡御、少方、小時還御、余候御共、于時光綱奏外任奏、諸司奏事同、被奏云々、御覽了返給、次諸卿出外辨、外辨上下、恐有脫字、云々、余相具內侍、暫令候南殿簾子、此間仰陣可引之由、光綱驚下知加催促、數刻不引、頻加催之後、僅以參入、今日次將人數甚多、未見此例、次內辨着宜陽殿兀子、次內侍出居東階上、余引導、五位藏人、親國扶持、也、須臾返入、內辨敬折稱唯、揖進軒廊、藏官人刷、更出自東間、渡對前假橋、練步、到左近陣南頭、次將、中將、成定朝臣、一人依家禮退、餘人不動、二三寸進、出西、于退立之間、與左近陣

胡床一相齊被立也、向_レ西一揖、向_レ乾再拜_{先突}、一揖_{拜了、類被劇表文、不可然事也}、大輪ニ右廻_{シテ}練步、自ニ練始之所_ハ事外ニ西ニ寄テ、早速ニ練止也、于_レ時日已雖_レ沈_{西山、燎未_レ舉_ニ于前庭之間也、今日御藥早了、召_ニ外}辨、猶爲_ニ白晝_一歟、職事之懈怠、後取之遲、最遺憾也、_{内辨着_ニ堂上_一元子、仰_ニ開門_一園司等_{也、願_ニ座下_一、不知_ニ故實_一、願_ニ座上_一、其故_ハ件等雜事在_ニ胡床_一之大時之故也、次召_ニ舍人_一、_{ト于兩字甚短、利字未_レ無_レ勾、}次少納言良久不_ニ參_一内、辨數度被_レ催、其後少納言親家就_ニ版位_一、内辨仰云、大夫君達召_レ戈、_{戈字突上テ仰_レ之、近代例也、}次外辨列立、實家卿已下也、立了、内辨仰云、シキキ_{先々井字不_レ聞、今日有_ニ其字_一、但不_レ用_ニ井字_一、用_ニイ_一、次諸卿着座、仰_ニ定長_一、被_レ催_ニ粉筌_一、下臈寶明在_ニ奥座_一、余參_ニ宮御方_一、伺候退出、參_ニ般富門院_一、白川押小路殿也、謁_ニ女房_一、退下、歸_ニ大炊亭_一、余出行之間、通親卿來云々、宿申如_レ例、}}}

二日、_{甲子}陰晴不定、午刻手水、陪膳、以政朝臣、今日大外記依_レ可_レ持_ニ來叙位勘文_一、暫相待、先例手水之次有_ニ便宜_一故也、然而依_ニ遲々_一且始也、其後見_レ鏡又如_レ例、親信卿來、未刻、大外記中原師直持_ニ來叙位勘文_一、余着_ニ直衣_一、出_ニ居上達部座_一、_{皆圓座、南面、}召_ニ親經朝臣_一、_{是房、}遲參、仰_ニ

師直可召之由、親經退下、小時師直入、自車寄戶同
 廊西緣一跪候、持勅文、余遙目之、師直稱唯參上、跪
 長押下、膝行昇、長押、指寄宮、余引寄宮、師直取
 笏、本不指腰、退、候、前簀子、余披禮紙於宮中、二陪二
 被、入、袖中、出、勘文、見之、右手、持、持本卷之、加禮紙、置
 宮外、指、出宮、尺許、師直參進懷中笏、取宮、退居、長
 押下、余目之、稱唯揖退下、出自本戶了、親國申、
 今日後取闕如之由、消長申不及之由云々、儘可釣
 出之由仰之、長兼雖去年勤仕、有別仰者可、勤云
 云、先可釣消長之由仰之、申刻、大宮大納言實宗
 卿來、余着直衣出逢、小時退出了、公房中將來、召
 簾前、謁之、依思父相府所聞也、
 三日、乙、晴、時々陰、已刻手水、陪膳如昨日、即見鏡、
 今日余欲出行、然而聊有勞事、不_二出行、晚頭、新大
 納言忠良卿來、余謁、其聲如女人、
 四日、寅、晴、召親經朝臣、仰靜春事、宗賴召具陰陽師
 等參入、問公家御方違事、五辻之外一切無其所云
 云、件所本主春日局於彼堂卒去云々、然而年序多隔
 了、又其屋各別云々、問左大臣內大臣等、各被申不
 可有憚之由、仍其旨仰下了、此夜、法成寺阿彌陀堂

修正也、已欲參之處、今日依吉日浴湯之後、風痺發
 動、仍俄以不參、大將又依病不參之由所示送也、尤
 有恐之中心謝之、宗賴申云、大外記良業勘申御衰
 日叙位例、五日御衰日、六日行幸也、云々、余云、猶不_二甘心、六日爲
 凶會、爲煩之時、依輕被用御衰日、歟、於行幸同
 日之條、八、七日猶有_二行幸、況叙位哉、全不可有
 憚、猶六日可有叙位議也者、

五日、丁、晴、晚頭小雨、入夜止、依爲公家御衰日、不
 被行叙位議、明日可被行也、此日、中宮有御方
 違行啓、去年十二月十九日御入內自大炊亭、閑院
 當大將軍方、仍四十五日全難被宿今日滿日也、除、
 日定冊、五日也、而可有行啓之所々、皆以有禁忌、有方忌、
 八條院御所之外無其所、仍所行啓彼院也、舊年內
 內申女房、一昨日以宗賴朝臣爲使被申了、戊
 刻、余着裝束、時拾劍、隨身靈袴、是事供奉之時先例如此、
 內、亥刻、行啓出車五兩、車副女房四人乘之、衣冠衛府各二人副之、半物雜仕
 車依不_二行列、不被具公卿十人許、兩大夫候之、
 予自閑路先以參會、於女院御所階隱間、被寄御
 與、兩大夫候御與寄、余候簾中、寢殿被用宮御方

之故也、女房二三人豫參會、其外又出車之內一兩、近習女房等下車、候御所也、先以御寢殿北面、次於東面、有御對面、以恩恩小童被_{件童也}告仰_{衣也}、中宮即以渡御、此後余白地向九條、院中雖被_{儲休幕}、其所讓_{兩大夫}、余退出也、鐘鳴之後歸參、寅刻還御、先有御送物、土御門中納言通親取_{御手}本_{付銀}源中納言通資取_{御琵琶}、各於寢殿西廣庇、大夫權大夫受_{取之}、賜大進權大進也、次寄御輿、還御儀如例、余即_{候內裏}依叙位也、

六日、_{或陰晴不定}、此日、叙位儀也、依可有_{行幸}、被_忿行之、已刻、內覽申文、_{宗賴親國許也、光綱不登頭中將未出也、長房雖參無申文、}次於朝餉、奏聞如恒、次於石灰壇、撰申文、未刻撰了、申終、左大臣參陣、余即參上着殿上、藏人召諸卿、大臣以下列立弓場、次大臣着殿上、余參御所、大臣同之、次左大將良經、平中納言親宗、_{不接得國、二位宰相雅長等取宮文、大將作法、神妙也、}次召余着_{儀下}、次余承仰召_{大臣}、大臣着圓座、次奏十年勞、_{引題巡、}次召續紙_{長房進}、置前候_{氣色}、卷返之後、無氣色之儀、大臣被_稱無省奏之由、余授式部申文、先是執筆卷返續紙之間、下給御宮視蓋申文、余取

之、先披目錄、次撰分申文、無勘文、仍召宗賴尋之、申只今進入之由、仍申驚、即以下給、取之加置申文、解封開禮紙、_{封入現當蓋禮紙卷之、寫置現寫下方、其後加申文等之中了、}叙二省了、奏事由召院宮御申文、_{左大辨、}叙王氏、_{此間持參御申文、}次被奏御申文返給、光欲叙外記史、余撰出史申文二通、給執筆之諸卿、令定申、爭申上日之故也、此間叙氏爵等、_{藤氏、余以詞仰之、行忠右大臣被觸也、}次叙院宮給、次余授申文勘文折紙等、次第叙之、此間、實宗返上史申文、公卿皆悉申可依上日之由、其中大宮權大夫申云、仲親申文之由載行幸奉行之由、可被尋歟云々、仍余問之、仍大臣召宗賴、被問官、是大夫史與奪云々、仍勿論叙尙友_第一統、次叙勘文了、被召入內一加階勘文、頗懈怠之由被自稱、數刻不進之間、空手被待、度々被催之後進之、無入內勘文云々、叙了奏叙位之間、通具叙正下日仰之_其申祖父內大臣朝現行幸建春門院御給云々、書入月日、奏聞返給、置替宮之後、取叙位副、笏揖退下、抑、叙位端多被置之間、端一枚竊被切留之、頗無用心歟、入眼親宗卿、忠經卿等云々、余退下披歷名之處、通具上簡濟々、其中左大臣內大臣等息在之、憊而仰入

眼上卿、除_二通具_一了、是入眼以前進退取_二捨先例_一太多之故也、又左大臣之許告_二遣此旨_一了、通親卿定含恨歟、是余失也、非_二其人_一居_二其官_一、天譴難_レ遁歟、不_レ覺_二悟位次_一、有_二此過_一、尤難_レ謝者也、子一刻行幸、夜行自_二亥刻_一可_レ被_レ避之由、晴光申_レ之故也、但宣憲申_二不可_一然之由、此評定之間、自然及_二子一刻_一也、余改_二着劍_一、隨身同葉脛巾、狩胡錄也、大將又申出同改_二裝束等_一參內也、余自_二閑路_一參_二會五辻齋院御所_一、中門廊構_二御與寄_一、其外無_二便宜_一之故云々、經房豫_二冠_一候彼宮、御後見也、余粗歷覽_二實宮殿樓閣_一也、卽以行幸、公繼卿役_二劍璫_一、內侍二人宗賴獻_二御草鞋_一、先々次將候_二此役_一、今頗有_二其程_一、仍隨_レ便用_二貫首_一也、依_二無_一所便_二無_一鈴奏、余仰_二此由_一也、入御之後、小時余退出、歸_二大炊亭_一、改_二着直衣_一、向_二泰覺家_一、引_二入車於門內_一、待_二曉鐘_一直歸、參_二內裏_一、依_二節會_一也、

七日、巳晴、此日、白馬宴會也、宗賴不_レ告_二左大臣_一之間、愁_二超越_一仰_二子細_一了、被_レ申_二超越無_一愁之由、尤神妙也、申刻、左大臣參陣、無_二次第存_一例、謝座之間日未_レ入、親族拜之間、大臣退出、白馬奏了、兩大將退出、左大將先進奏、仍士御門大納言通親行_二內辦事_一、上臈等退卽退出了、

出、不審之間、堂上持_レ疑、內豎申_二皆退出之由_一、余自_二簾中_一直仰_二通親卿_一也、右大將退出、尤不當也、又今日大進次將一人不參、尤奇怪々々、可_二尋沙汰_一之由仰_二親國_一了、又右大將早出事、先內々尋_二左大臣_一、隨返事可_レ問之由仰了、節會以前親宗卿參入、賀_二申_一二品事也、

八日、庚晴、巳刻退_二出大炊亭_一、此日、女叙位式日也、雖_二隨被_一行_レ之、延引例太多、十一日宜之由勘申、仍彼日可_レ行之由仰_レ之、今日雖_二無_一日次之障、五日以後連日出仕、上下有_二煩_一之故也、戌刻、着_二直衣_一、鹿車、御身上參_二法成寺_一、經_二富小路正親町等_一降_二自_一西面北四足_一如_二例_一、雅長、光雅、基親等卿豫參入、降_二居廻廊邊_一、予入_二自_一正面、着_二長者座_一、南障子屏風等、寺家新_二公卿各入_一、自_二座後障子_一着座、奉行家司未_二參_一上、仰_二職事定綱_一令_レ催、每事遲之由、次法咒師、次初夜導師、次見咒師三手、次大導師、行家_二家力_一初夜導師以後居_二湯漬_一、公卿座僧座同前、余陪膳依_二家司不參_一、殿上人成定朝臣勤_レ之、又隆房、經房、季經等卿參入、事了余退出、

九日、辛晴、棟範申_二尊勝寺問事_一、宗隆申_二御齋會事_一、親國申_二左大臣返事_一、一日節會觸_二右大將_一、退出之由也、

以此趣可問右大將之由仰之、長房中神宮禰宜事、仰合人々、可行御卜之由仰之、

十一日、陰雨降、此日、女叙位也、申刻、着直衣、參內、先是御次第、執申御作法御不審等、晚頭、左大臣

參會、余於直廬着束帶參上、主上着御御引直衣、出御、余着廣庇圓座召人、宗賴朝臣參上、先長房參入、仰之

參着圓座、正笏候、主上御目大臣、召男共、長房參入、大臣仰云、硯紙、無續字如何、家忠執筆之時如此、故殿被離之、長房即持參

之、硯井續紙二卷、盛柳實也、大臣取之置前、又正笏、次主上御目大臣、見合續紙、取勝向座上、經宗并此大臣定作法也、繆置之

卷返、被問叙人々數、余答之兩三人歟、即書從五位下、余取集空勘文申文等、叙時中、指遣之、大臣取

之置前、御宮下置空勘文、其南置申文等、叙位、空勘文東置也、進恩案了、先叙藏人、御匣殿叙了、奏事由、仰院宮御申文、忠孝朝臣、次叙內教

坊、未讀中、以前持空御申文、其作法如叙位除目然而猶叙了後被奏如何、次奏院宮御申文、奏叙位除目

之習、未返給奏書之間、不止本座、是依無其程也、官奏ハ文書御覽太、仍歸着本座、而令叙位與官奏混合作法不甘心、花園

云、御覽了、其儀取御申文、置御前、大臣復座之後、一々披符、隨徽被入、撤禮紙、御前右方、御覽申文、御前右方、

次第並置御前、皆撤了、一通之中卷龍數通、暫置御前、先卷禮紙、先取一枚卷之、次第入御々硯宮了、更取御申文、指置御座端給、大臣揖更起參上於長押

下、指笏昇長押、參進取御申文、退下復座、次第叙了、奏事由、召小輪轉勘文、被加小字如何、召宗賴朝

文事被問余、余云、近代不進歟、然而召哉否可在御意、宗賴退大臣先小輪轉勘文事被仰了、更被問件兩勘文有無、

下、其間叙女官等、小時、宗賴持參小輪轉勘文、申兩勘文不候之由、大臣不被見件勘文於余、如何、

即叙之、次余授加階申文三通、即叙之、皆叙了取笏候、氣色、有御目、又被氣色余、余目之、即書

年號月日、放與一枚卷之、置硯西、余云、可有男叙位、藤原範宗般富門院御給也、以放殘一枚被書

之、置一通於柳宮、徹他物置柳宮、兩方硯瓶下、紙輪引切テ撤了、現下ヲ枕ハ不徹之、如初起座奏聞復座、御覽了、又參上賜之、復座如

本置硯以下、取副叙位三通於笏、退下、召續紙、未持參之間、主上小押出御硯宮申文、余膝行參上、

副御座間西柱ヲ、昇長押指笏、進寄取御硯宮蓋、在宮上、逆退降長押、退復座、置硯蓋、披笏、先見空勘文、次撰出申文等、

十三日、乙晴、戌刻、着直衣、相伴左大將、參法勝寺、

上卿寶宗卿奉神宮事、仍以親信卿爲假上卿、而今
夜稱隙不參、最奇怪也、召資寶仰事可始之由、先
打鐘、次初夜導師登、咒師二手以後參法成寺、廻東
北入自西面四足一也、先例或參自南門、而池橋破
損之間、其路遙可廻池畔、仍用西面門一也、咒師三
手、此中愛王丸宮一丸弟子、走大唐文殊手、此道之祕曲也、大導師了、
余退出、于時子終也、此日、參法勝寺、公卿隆房、經
家等仰了、參法成寺、公卿季經、親雅等也、今日出行
以前、東大寺別當前權僧正勝賢、長官左大辨定長等
來、申供養之間事、雖出雜事、可申定之由仰定
長了、

十四日、丙晴、依物忌不_レ參_二御堂、大將參入云々、先
參_二御齋會云々、

十九日、辛巳講了、歸大炊亭、大相國二位之後、拜賀有參拜、引出物馬、

廿日、壬午於太神宮、供養金泥心經六卷、以隆聖阿闍梨爲導師、中宮王子誕生御祈也、又春日神社同經一卷供養之、前大僧正爲導師、各副布施物、余今日轉讀心經千卷、法樂太神宮、讀百卷、法樂春日、皆王子誕生御祈也、

廿一日、癸未吉書奏也、左大臣候_レ之、左大辨候_レ之、直辨
資實、余於_二殿上_一内覽、辨長押昇降之間不_二降行_一、更起
テ昇又降、可_レ尋_レ之、

大臣今度五度揖也、先々候_二天氣_一、御目之後稱唯、其後又有_レ揖、卷_レ文之時無_二稱唯_一如何、又退下之時、以_レ文被_レ置_二杖上_一也、此夜宿仕、

廿三日、四向九條、小兒服眞菜也、陪膳刑部卿宗雅朝臣、役送藏人五位六人、皆布衣、密儀也、於堂西廊、有此事、余含之、今夜留堂、送關東返札、

廿八日、戊寅晴此日、春日除目初日也、辰刻、頭中將兼宗朝臣來、相次頭辨宗賴朝臣來、余着冠直衣、出賓筵、上仲資告出御之由、次頭辨宗賴內覽申文、先次頭中將兼宗同內覽、次親國、次長房、光緒不參、兼宗長房帶劍笏、如

皆悉御覽了、其儀皆如例、仍委不記、其後召宗
賴問左大臣申狀、公房三品事被仰下一之旨、最可
然、暫可相待云々、又與右大將相論故左府遺財
事、被相分_二之條最可_レ然云々、兩條被_レ伏理歟、最神
妙、次職事等參內了、余相調除目文書等、申刻參內
進_二御次第_一、去年雖_二造進_一、依_レ爲_二亮闌儀_一、聊有_二相違
事_一、仍書改_{使大將}之、所奏覽也、酉刻撰_二申文_一了、依_二六

位無其人、長房書目錄、日沒之程、左大臣參入、他卿不參、各遣催之、宗賴所申也、余着東帶參御所、公卿四人參入_{寫文}、之後、藏人基兼出陣召公卿_{余仰宗賴令召}也、即余着殿上御倚子下、此間秉燭、次左大臣以下列立弓場殿、次大臣着殿上、次余着御前座、次大臣着御前座、次右大將_{作法神妙}、土御門中納言、左衛門督別當等取宮文_{置之}、參議遲參、仍余催之、次雅長着座、次御簾動、次余着簾下圓座、次依天氣召大臣、々々着圓座、正笏候、御簾動、次大臣奏闕官帳、_{移一篇文書於次宮之間、未小退拔笏更退圓座、懸片}尻候、御簾了押帳御簾給、大臣指笏參進、賜宮復座末、置替宮之前、被引寄末之宮如何、次繆大間、其作法如去年春、次摺墨、次取笏申云四所、是經宗大臣、作次任內豎二人_{作法如常、但讀中勢顯之後、見寄物}之後、奏事之由、召新宰相中將忠經仰之、院宮御申文、_{召詞、左宰相中將云々、可}次任四所殘、此間居火櫃衝重等、又頭中將勸盃、次忠經卿參御申文、大臣奏聞、暫退候、御覽了返給、復座如例、此間賜御硯宮御申文、余先見目錄、次撰分內給_{在袖書中}、并可袖書之申文等、此間大臣任四所了、余指遣所撰置之申文、大臣

取之置前、橫、先任內給、次注袖書、_{此大可被見公二合者爲下勘也、而不見之間、追被下勘、似無用意、職事可儲三合來、不熱失也、然而短冊之中無三合束者、爲用意、尤可見當年}召左大辨定長令下勘_{被仰可急}、次任院宮當年給、大略被申二分代不申撰、仍皆入一宮了、只般富門院中宮女御三所許也、此中女院雖任據、猶申內舍人、仍御申文之上引墨_{上方引}、被加成文也、女御給稱無朝臣、被折下方了、中宮一所不申內舍人也、次任公卿當年給之間、有二合申文等、此中望據之申文、右狀不載三合字、大臣難之、折下方入第二宮、余二合申文不被下勘、依候座歟、自申文被下勘之、_{但定長持參下勘申文等、次被下勘也}、自餘皆任了、取笏候、余示可被催下勘申文等之由、召男共被尋之、即定長卿持參、_{此大賜自御申文也}、次第任之、余國替申文舉、法成寺咒師愛王丸望播磨據、先是任內給了、仍余召可任伊豫據之由、伴國又先任余當年給了、然而余塗墨仰可被任國替之由、仍隨命被任了、余當年給改任美作據了、次定長據大臣二合又以任了、皆悉任了、氣色余卷大間_{引直卷}、如禮紙封之、置硯上方、次逃左足、向座下、封成文、_{經數刻}次置替宮、入大間成文成殘等於一宮、指

笏押宮奏聞復座、余又返上御硯宮申文、大臣引直宮退下、余退參宮御方宿仕、今日參入公卿、

余、左大臣、大納言、實宗、中納言、通親、陸房、

參議、雅長、忠經、光雅、公時、

廿九日、卯朝問天晴、午後天陰、入夜雨降、此日、除目中日也、申終左大臣參陣、他卿僅兩人參候、仍重可相催之由仰之、余着束帶參御所、此間、公卿四人參入云々、仍仰藏人召之、主上着御引直衣、余着殿上、次大臣已下列立弓場、大臣着殿上、余參御前、大臣同參着、次土御門中納言通親、別當兼光、左大辨定長、新宰相實明等取宮文、次依召余着簾下圓座、次依仰召左大臣、々々着圓座、賜大間宮復座、置替宮之間、賜御硯宮申文、余取之置前、撰分申文等、大臣繆大間、如去夜也、但願扶人、次大臣云、無可任之者、可召兼國勘文、欺、余云、在御意、即召宗賴、仰兼國轉任宿官勘文可召之由、其後數刻空手禮候、此事太不得其心、先可任內舍人文章生諸道、院々舉之後、可召件等勘文也、然而彼家之習如此欺、數刻不持參之間、大臣案云、然者且任文章生外國

如何、余稱善、大臣先任文章生外國、三人上稱皆候所、第七以下三人外國、次任內舍人外國、此間持參三勘文、大臣留轉任宿官等與兼國、有禮、余披見之、禮紙密、如本卷之、加禮紙返與、不奏聞也、大臣取之次第任之、細被示合也、任了與勘文余、余加置、次任宿官、次任院々舉、三院、皆任、次任諸道舉、任北堂明經等、不任明法算、大臣云、去年皆任了、仍今年不可任也、於明法算者、隔年可任故也云々、先是任宿官了、即披見上召使申文、在、欲任之間不入、且云々、仍稱難書、返入不、被任、但不折之也、次余外任少、并院宮內官未給、公卿子息二合申文等、與執筆大臣、書袖書、暫置之、依願官舉未訖也、件舉事任內舍人外國之間、余賜申文等大臣、々々召實宗、令舉定長書舉冊、白紙、下藏實明雖候、臨時內給介、并七條院臨時被申諸國權守也、件權守六位也、在、禮後、次舉了、實宗持參目錄申文等、大臣披見目錄了、相加申文與余、余又見目錄一卷、籠申文等於其中、進簾中了、留御、次大臣召實明朝臣、依四位召、下勘院宮內官未給御申文、此中申文、本所不知之由、大、臣傾奇、仍不下勘也、又公卿子息二合下勘哉否有兩說、大臣云、於未給者下勘云、於當年給不可勘

〔之〕云々、此事如何、然而余不稱此由也、但雅長卿二合注、當年給云

云、余云、參議二合不聞事也、於子息者、依朝恩雖有天許、申文不可載其年歟、大臣諸被返申文、余取之相加袖書束了、大臣京官少々可任之由被示、仍而諸司奏諸道舉、但不諸道舉、仍明日可任歟之由、余示之故也、諸司奏三四人許任之、次氣色、余卷大間封之、次封成束、如例、經數刻一切件紙、縫之餘之時、先引墨之後切其餘、余家說也、大臣作法不然、先切餘之後被引墨也、次奏大間、復座引直宮、掛退下、余返上御硯宮申文、大臣退下以前也、同退下、今日火櫃衝重勸盃如昨、頭中特對之、長房取瓶子、大臣奏大間之間、被取內舍人闕三人、即忘却不取之故也、實宗卿賜盃、復座之時掛也、無謂取空盃之時〔者〕有掛說也、轉盃之時入酒傳者也、尊不可掛歟、今日、參入公卿、

余、左大臣、大納言、實宗、中納言、通親、親宗、隆房、兼光、

參議、忠經、光雅、定長、實明、

卅日、壬辰、陰晴不定、此日入眼也、申刻、執筆左大臣參入、他公卿等少々參會、舊任人折紙之間、時刻推移、又分發之間事、重々有沙汰、自關東又有申旨、如

此之間、戌刻議始、余着殿上、大臣參上、次第如一夜、右大將賴實、土御門中納言通親、平中納言親宗、二位宰相雅長等取宮文、大臣賜大間宮復座、此間賜御硯宮申文、余取之先委見目錄、撰分申文等、可任之輩相交タル束了、皆取出テ、置硯宮蓋與方也、大臣之有二分代御申文等、承可任者欲任者、彼花圖說、先任內舍人也、余與拆紙申文等於大臣、々々取之、先相分置之、先可任者座前橫置之、次可沙汰之文、置硯與一宮之間、不可有沙汰、又〔次〕第一宮下方橫置之、叙位申文暫入一宮、次任內舍人等、此中有後白河院二分代名替、寬治之比有此例云々、右大臣爲試執筆、被書出歟、次任文章生散位、者、次々只隨便任之、全無次第、先觸余召宗賴朝臣、召泚口所衆勞帳、即持參、大臣與余、余見了返給、不奏例也、終頭大臣觸余、仰受領舉之由、右大將以下起座向殿上邊、陣歟、此間、大臣被出此間禮紙書受領案、大臣云、重任不可載、大間延任可載云々、如何、大略移付大間了、此中、周防國去年可得替國也、而自然過了、如何之由仰含官、官申云、計歷之後重延任、雖無理有例、准彼者可兩年延任之由、

可被仰下一歟者、余云、然者於件國者、不可載大間、大臣諾、次公卿等一々持參舉卅、先復座如恒、執筆次第被_レ置、皆悉進丁之後被_レ與余、余示可被_レ奏之由、大臣申文等次第被_レ退、或入第二宮、又入第一宮、又作宮下方置之、指_レ笏押宮、參進奏聞了、小退拔_レ笏復座、件文留御所也、次任大納言定能卿也、件人復任載大間、大臣云、可消歟、余云、可依先例、大臣云、其例候公實卿、復任右衛門督移_レ左、其替家賢拜任、消公實任家賢、但彼者任其替、是ハ不然如何、余云、復任者載召名下二省也、而消大間了者、已如無復任、此條雖無理、寬治之例炳然也、今何不_レ准哉、早可消歟、仍大臣消_レ之、但殘中納言戶字許是皆消_レ、恐可似無復任之故也云々、次奏大間、先是入、暫置硯上、有叙位事、召五位藏人、長房、召續紙、即持來、大臣不候、氣色直卷返續紙、有叙位如何、非逆上、總書之、次入大間叙位於一宮、奏聞、返給封成文、數刻、加入大間宮、取_レ之退下、余先是返上御硯宮申文退下、火櫃、衝重、勘盃、兼宗朝臣、瓶于親國、如夜々、參入公卿、

余、左大臣、大納言、親實、中納言、通親、親宗、

參議、光雅、公時、定長、公繼、兼忠、實明、今日、大臣着柳張下襲、兩夜不_レ然、打下襲也、大臣一切不知申文、偏任折紙、任了之後、更申文懸勾、一被指成束、依_レ爲容易說、頗無念歟、已如無除目之故實等歟、又讀大間之時、不_レ讀其官、只讀位已下也、最奇、清書上卿平中納言、參議兼忠、實明云々、余今夜退出、仍免清書內覽了、

二月

一日、巳、旬祓遙拜如常、
二日、甲、此日、下名也、少々有加任、宗賴朝臣來、申人々所望事、注任人賜_レ之、仰可奏聞之由、
三日、乙、申刻、發遣春日祭神馬十列等、陰陽師時光朝臣、陪膳兼親朝臣、使業清、役送爲說、近衛使高通朝臣、行事辨宗隆、此日、內大臣被_レ來、今日、除服之後着陣云々、余謁_レ之、
四日、丙、此日、新年祭、春日祭也、神齋如恒、經房卿來、隔簾謁_レ之、數刻談話、宗賴朝臣申條々事、自內裏侍從通光可昇殿之由被_レ仰下、仰宗賴了、

五日、酉陰小雨、此日、釋奠也、親經朝臣來申、造寺之間事、大將來、日來依風病不出仕云々、

六日、戌晴、余向九條、爲見作事也、女房參內裏、退出以後當七ヶ日、然而依爲公所、不憚也、又宇治殿御時、此條無本說、不可憚之由沙汰切云々、又出自一所之人宿兩所、世俗憚之、然而於公、余宿九條、此日、以宗賴朝臣、重返給座主辭書、又仰子細了、

七日、己晴、今日終日見作事、職事等申條々事、左大辨定長持來東大寺供養雜事注文、余謁之、粗示子細了、又來十日召具勝賢僧正、及上人等、可參之由仰之、亥刻參八條院、小童元服於八條院、不可有之云々、但余申請彼御所之體云々、今日、宗賴示座主返事、猶被返上辭狀也、

八日、庚雨降、子刻、作事終功、女房相共經渡殿北廂、渡居新造廊、不用移徙儀、大將相從、先差膳、不及五少時大將歸了、其後就寢、女房今夜不着鈍色、只着白褂、又御膳不用黑也、女房等不着物具、只裳許也、報鐘之後、女房渡堂方、明日余神事故也、

九日、辛晴、余寢覺之後、辰刻許渡商家、用、今日依蘭韓神祭齋也、女房聞鐘、即渡堂方、是重喪事重之

故也、余須其即雖可渡他家、此堂無呈額、只如持佛堂也、新造廊又頗相去事及數間、付寢之間、自然移刻、強不可重歟、仍以驚爲期所渡他家也、宗賴申中宮行啓之間條々事、來月廿七日之由、先日仰之而件次猶有三月事疑云々、仍十六日可被果遂也、期日僅卅餘日、出立又莫大也、十之八九、難叶事歟、然而申之、所及可奔營也、

十日、壬依遠忌、送佛經布施取等於光明院、如例年、自此夜始懺法九條堂、如例、此夜宿他所、依明日神事也、今日渡堂、入夜向他所也、

十一日、癸晴、卯刻向大炊亭、申刻發遣大原野神馬十列等、陪膳兼雅朝臣、陰陽師在宣、行事業家、忠季朝臣來、余謁之、一日比謁左大臣、可行啓供奉之由所存也云々、

十二日、甲雨降、此日、余家尊勝陀羅尼供養也、御導師法印、待曉題名僧十口於寢殿南面、有此事、公卿少少在資子座、疊也、親宗、季經、經儲僧前如常、親宗取導師被物、他卿等取題名僧絹袋、其外殿上人地下君達等取布施、依人多不及諸大夫、入夜參內、即歸九條、

十三日、乙晴、座主被_レ來、東大寺上人來申天王寺領住吉社造宮役可_レ被_レ免之由、即相_レ具彼寺執行僧辨俊所_レ來也、余條々仰_レ子細、上人伏_レ理、辨俊又向_レ關東祈_レ朝議非常法咒、以此次余加_レ勘資、無_レ披陳方、須_レ處_レ其科也、然而上人相具來臨、平依_レ申請_レ免給也、及_レ晚左大辨定長、右中辨棟範并陰陽師三人、宣慈、季弘、在宣參入、爲_レ沙汰東大寺供養日次事也、注_レ申十月廿五日壬午、狐藉此外無_レ日次、十一日乙酉雖_レ爲_レ草創、供養支干當_レ大禍、又下_レ吉也、前日行幸又惡日也、仍注_レ申廿五日之由、云々、其後人々退出、

入_レ夜宗賴朝臣來申云、今日先伺_レ左大臣亭、仰_レ兩條事、東大寺上卿事、大原野行事、皆屬從事、共領狀云々次向_レ內大臣亭、仰_レ兩條事、可_レ被_レ仰之由事、同御告事依_レ病不_レ調、應從事不_レ可_レ叶、又官奏事後日可_レ承云々、此事不_レ得其心者也、又申_レ行啓諸國所課、并舞人陪從出車等散狀、

十四日、丙晴此日、中宮大原野行啓定也、於_レ大炊亭_レ有_レ此事、寬弘如此、承曆於_レ宮殿上有_レ定、今度一向追_レ寬弘例、仍於_レ家所_レ定也、晚頭自_レ九條一向_レ此亭、相續公卿等來集、余書_レ定文章、與_レ宗賴、豫令_レ書儲、依_レ時刻可_レ推移也、戌刻、余出_レ居客亭、先_レ是、公卿等在_レ座、余召_レ宗賴朝臣、仰_レ日時可_レ勘申_レ之由、少カ

時入_レ日時於覽宮、持參、取_レ日時、置_レ前、返_レ給覽宮、宗賴取_レ之退居_レ廣庇、余見_レ日時、丁置_レ前、仰_レ可有_レ定之由、宗賴退下、藏人五位等立_レ切燈臺、敷_レ圓座、藏人頭、次宗賴朝臣正、笏參着、次諸大夫持_レ硯置_レ其作法也、前、是又藏人頭作法也、宗賴候_レ氣色、余目_レ之、宗賴摺_レ墨之後、又被_レ副_レ續紙於_レ笏、候_レ氣色、余目_レ之、宗賴染_レ筆、余披_レ承曆例文、與_レ奪之、余隱、中、也先讀云、中宮大原野行啓難事、無_レ定字、承宗賴書_レ之、又讀云、一御幣神寶、又書_レ之、此後只可_レ書之由仰_レ之、宗賴書_レ之、須取_レ出土代、置_レ傍書、一兩枚、書_レ了撤_レ硯盛_レ定文、持來、余取_レ之置_レ前、取、而晴進之、頗無_レ折、書_レ了取、宗賴復座之後見_レ之、卷_レ加日時禮紙之中、差_レ遣左大將、々々々以下次第見了、更取_レ上之、余置_レ折敷、返給、宗賴取_レ之退下、其後與_レ人々言談、稻荷祇園行幸可_レ延引之由、人々所_レ申也、余云、何依_レ行啓有_レ延引哉、只尋_レ初度日例、就_レ吉例可_レ被_レ進退、歟、人々稱_レ善、頃之、人々退下、余參內、及_レ子刻、歸_レ九條、

此日、來會人々、
左大將、直衣、民部卿左衛門督別當、中宮權大夫、新宰相、大宮權大夫、已上東日時、

擇申中宮大原野行啓日時、

三月十六日丁丑、時辰、

建久五年二月十四日

主稅頭 賀茂 在宣、

陰陽頭 賀茂 宣憲、

余案之、如承曆例者、定文內作如此、然而於日時者、可被行啓大原野社日時書之、今度就定文書之歟、依非殊誤、不直之、

定文書樣、

中宮大原野行啓雜事、

一御幣神寶、

行事宗賴、長兼、

一御裝束、

行事宗方、

一神馬十列、

行事長房、

一東遊、

舞人、

家經朝臣、

公定、

公房朝臣、

師經、

實宣、

通具、

成廣、

陪從、

顯家朝臣、

兼定、

兼資、

行事顯家朝臣、

一裝束、

舞人青摺十領、加赤紐

下襲十領、加赤紐

地摺袴十腰、加赤紐

陪從青摺十三領、可有人長料、加赤紐、季長朝臣、

下襲十三領、柳、人長料白

表袴十三腰、

大口袴十三腰、

行事長兼、

一音樂、

行事忠季朝臣、

一社頭裝束、

宗方、

行事親經朝臣、

清長、

一女房飭物、

女藏人六人、

各絹四疋、

同采女六人、

各絹三疋、

女官十人、

掃部二人、
主殿二人、
御厨人二人、

長女二人、

各絹二疋、

乘車女房四十人、

各絹五疋、

行事兼親朝臣、

仲資、

一祿、

上達部、

大褂各一重、

侍從諸衛將佐加左右馬
助外記史

袈各一帖、

殿上人、

大褂各一領、

氏諸大夫、

六衛府將監已下、加左右馬
寮允已下、

主殿掃部內匠等屬各一人、加外記史生
官掌各一人、

已上正絹、

理髮二人、

各褂一領袴一腰、

陰陽師、

神殿預、

舞人陪從、

已上各單重一領、

人長、

氏神主、

樂人、

已上各正絹、

六衛府番長已下舍人等、

外記官使部各三人、

主殿寮史生已下、

大舍人駕輿丁、

已上各布、隨見參給之(也)

行事長房、

一襲、

上達部、

內藏寮、

殿上人、

同、

侍從上下、

官厨、

諸衛將佐并諸大夫、

大膳職、

六衛府馬寮六位已下、

各付本府、

供奉諸司、

各任本司、

已上可三奏下、

侍所、

女房衝重四十前、

女官衝重廿前、

本宮官人已下廿前、

舞人陪從廿三前、

樂人卅前、

所々長倉廿具、

行事長兼、

一出車、

糸毛、

金造、

檜櫓毛十兩、

網代車二兩、

一女官料馬十疋、

左右馬寮各五疋、

女藏人采女各六人、料馬十二疋殿上人、

已上行事兼時、

一御誦經、

一近邊社奉幣、

一賑給料米、

已上行事知家、

廿前殿、
廿前別納、

別納所、

廳、

穀倉院、

侍從厨、

十具盛長倉、
十具荒長倉、

一造路浮橋等、

京職、

山城國、

行事兼時、

建久五年二月十四日

件定文、以承曆定文爲土代、加取捨所書也、寬

弘定文雖尋求、不得之、承曆定文不審甚多、大概雖

撰其牀、隨便宜少々所改也、

十六日、戊雨下、此日、仁王會定、并御忌月仗議也、左

大臣以下公卿十人云々、

十七日、己晴、宗賴朝臣來申去夜仗議事、其趣還分云

云、

十九日、亥晴、午刻、懺法結願、親宗卿已下公卿四五輩

來臨、次有遠忌佛事、故、導師慶智僧都、次恒例舍利

講、有旨種、宗賴進定文、見了返道、可仰左大臣之

子細注進了、

廿日、壬晴、未刻、八講證義者隆憲法印、講問八口、互爲

如三例年、公卿四五輩來臨、先以隆憲供養法華經

一部、是又例事也、奈良僧都來聽聞、

廿一日、癸晴、八講結願也、經房卿已下公卿六七人來、

座主來聽聞、亥刻歸大炊亭、女房同事也、

廿二日、甲寅寶佛已下延曆寺諸司等群來、重申座主還任事、仰子細云々、

廿四日、晴、依祈年穀奉幣、前齋神事也、此日、女房向堂、依修二月也、明後日可歸也、忠季朝臣來賜行啓日記等、仰可抄書之由、大相國被來、隔簾謁之、兼宗朝臣宣命辭別宣下之趣、持來令見之、無殊失、返給了、

廿五日、丁晴、此日、祈年穀奉幣也、上卿大宮大納言寶宗卿、辨權右中辨定經朝臣、職事頭中將兼宗朝臣也、未到、定經持來日時定文、見了返給、仰可奏之由、同刺、大內記宗業持參宣命草、見了返給、可消書之由、同內覽免了、宗賴、親經、長房等各中一條々事等、此日恐息小童等十歲、三歲兩人也、弟小兒今年始參也、參春日社、入夜歸京、昨日所下向一也、

廿六日、戊晴、今日猶齋也、宗賴申行啓供奉人并所課等散狀、仰子細了、長房申明日樂所始事等、仰含次第了、資實申法勝寺御念佛之間事、女房一昨日向九條堂、今夜所歸來也、猶依爲齋不謁也、廿七日、己未此日、當今御時始、所被置樂所也、

別當、藏人頭左近中將藤原兼宗朝臣、

藏人右衛門尉橘成廣、

預、筑前守中原有安、

先例爲侍者不被補、又五位無例之由、舞人樂人傾申之由有其聞、仍先日召好方問子細、申非爵之由、此事元自無所據事也、近衛召人等殆劣於侍也、何故可嫌侍品者哉、如此事只可依器量也、有安於管絃道入力習樂、當世無比肩之人歟、余當初粗學胡曲、奉習故女院（皇嘉門院）究竟仍安爲師、所傳習也、仍彌足拙實者歟、一上手御座也、其外樂等多分以石

寄人、

殿上人、

親能朝臣、左中將、

忠季朝臣、右中將、

公經朝臣、右中將、

隆雅朝臣、右衛門佐、

忠行右少將、

地下、

經尹、高通延喜、

已上藏人五位、

昔諸大夫學此道之者、多爲陪從、近代不然、件兩人頗爲堪能、就中於高通者、重代堪能、旁兼備者也、先例如此之輩、殊無應清選、且于時無其人、之

故也、今撰能召之、

信綱、有賴、仲俊、俊基、

己上陪從、

舞人、

左六人、

右六人、

樂人、

笛、

笙、

篳篥、

晚頭着直衣參內、仰長房令進日時、即奏聞了返給、以長房仰可爲別當之由於頭中將兼宗朝臣、其後余召兼宗朝臣、仰六位別當預寄人等事、於此同仰、是國次余參宮御方、樂所事終、已參殿上口之由來告、仍主上還御、先是渡御宮御方也、余候御共、先自樂所經陣座、更參殿上口、一節以長房召之、即入自中門、於南庭婆娑、則近、好方等也、各束帶、自餘舞人樂人衣冠、是例也、參入音聲萬歲樂也、此間、主上御清涼殿南面簾中、余候廣庇西方御簾際、列居也、無座大將同候東方、一曲了、經南庭參中宮御方、余大將

相共參宮御方、余候殿上、大將在透渡殿邊、於透渡殿南庭、又以打鼓婆娑、萬歲樂二返之後、經本路退歸退出、音聲慶雲樂也、各歸樂所云々、

事了召長房樂所事、申云、母屋座兼宗朝臣已下殿上人召人皆參着座、廣庇座陪從寄人四人信綱已下、樂人舞人一物等着之、依座狹他人不着其後、有三獻、

一獻六位別當成廣、二獻陪從仲俊、三獻陪從信綱、振子皆所來云々、次樂人等起座、立暢內吹調子、平次舞二由、萬歲樂、地久、各六人立舞之、依此狹二列立也、

次更吹出萬歲樂、別當已下皆相從參殿上口云々、各無進名簿之儀云々、年々記無所見、只承曆記、

忠節非陪從之寄人、進名簿之由申之由注之、其外無所見、永安度不進云々、次余參宮御方、次退出、于時時刻也、今日、小童參詣春日社、宗賴朝臣所相具也、

此夜可有臨時祭定云々、兼宗朝臣執筆云々、信綱子可入陪從之由申之、余許之、

廿八日、廣庇、座主被來、親經朝臣申條々事、其中與福寺御佛寸法相違事、召具院尊已下、可參之由仰之、宗賴進御忌月人々申狀、通親申狀最珍事也、不能左右云々、

廿九日、辛酉以左中將親能、自內裏給御馬三疋、先日下給之外也、於南庭見了、即返上之、親經朝臣召具院算已下參入、有申旨等、可問明圓并寺家之由仰之、

三月

一日、壬戌晴、旬祓遙拜如例、不出職事一人於河原、修由祓如常、召厩馬見之、疲極殊甚、仍長房勘發無披陳之方歟、隨身等依不仕、加勘責、召龍內殿、自關東送先日返札、座主辭退、專不可然之由也、朝綱法師事、聊有申旨、親宗朝臣來云、御忌月不可被置之由依令申奉、爲故不忠之由、宣陽門院中男女致罵言、又爲遂中宮行啓、余結構之由云云、不能左右々々、

二日、癸亥雨降、此夜、中宮自內裏退出給、依大原野行啓也、公卿七八人許供奉、兩大夫寄御車、宗賴依物忌不參、忠季朝臣供奉、又問名謁下御之後、余暫候其後、召兼光光雅卿等、仰御忌月不可被置之間子細、兼光卿深以伏理、光雅卿自本不可有忌月之禮之由、議奏之人也、此次談雜事等、

今日、自內裏賜馬一疋、見了返上之、日來所書寫之經信卿記、今日終功者也、

三日、甲子中宮依月御障、無御燈御拜、以宗賴朝臣返遣座主辭書、密々見遣賴朝卿書狀、其上條々仰遣子細、入夜宗賴歸來云、總被留辭書了云々、尤神妙也、衆徒重申狀同所遣也、余節供、陪膳光輔朝臣、

四日、乙丑晴、良業持來御忌月勘文、內々所尋問也、入夜兼光卿來、先日所示之御忌月之間事請二品云々、爲示其返事也、此夜、大將家有作文云々、五日、丙寅陰不雨、親能忠季朝臣等已下、殿上地下之輩七八許輩參入、有蹴毬事、

七日、戊辰晴、辰刻歸大炊亭、此日、大原野行啓調樂也、爲近邊人宿所爲樂所、戌刻、權亮忠季朝臣樂行申事具之由、又進舞人陪從、見參女房傳啓、余見之不書入六位舞人、若爲故實歟、相尋之處爲失錯、仍書加進之、御覽了返給、次於樂所、先有舞樂、次東遊、事了參入、經東面北門、舞人爲先下薦、其後陪從相從進中門邊、予大比禮退下、參入之間、東子午廊東放立蔀、女房等密々見之、余同之、今余參入、舞人五

人、公定、兼季、實、自餘稱病不參、顯家朝臣爲陪從行事云々、舞人樂人不參、只東遊許也、此夜、行啓御祈御修法被始行之、不動法、覺成僧正行之、

八日、已晴、此日、行啓御祈十社奉幣也、上卿大夫左大將良經卿、已刻參入、大內記宗業同參入、先着殿上、內覽告文章、宗朝朝臣余見了返給、聊有改直事、次付

女房啓之、御覽了返給、仰令清查、即又內覽、其後啓之返置上卿前、次宮出御南面御座、次供御贖物、

陪膳權亮忠季朝臣、役送大進長房、次獻大麻、返給宮主着座、次使々十人着圓座、公卿使四位、此間發、次宮着之、次御禊、此間發、

例、次宮主退出、次撤贖物、役人、次宮着之、次使等取御幣立、次御拜、次置幣退出、小使等取幣出中門、次大夫賜

告文於公卿等、次召他使等、一々給之、各參本社了、早旦御湯殿、又豫立案十脚於南庭、倚立御幣

也、事了撤也、寬弘八社、承曆九社、今度十社、

九日、庚陰晴不定、今日終日沙汰明日試樂雜事、午

刻着束帶參內、依臨時祭也、來廿七日依國忌廢務、上午日被行之、先例也、使舞人公卿一人未參、召奉行職事親國、令催沙汰、未刻、使并舞人少々參入、先有御禊、陪膳宗賴朝臣、使內藏頭經仲朝臣、次入

御、改着御袍御下襲等、青也、梅也、次出御、先是左大將奏

宣命、次宗賴承仰召使舞人、次第如例、二獻之後余退出、明日試樂之間、依有可沙汰事等也、今日、

公卿八人參入云々、重盃花族殿上人面々固辭、信清保家等朝臣勤之云々、七條院有上御壺禰打出款冬句也、今日依後白河院御忌月、臨時祭可移他月之由、

雖令申之趣、依無其理不改之、凡奉爲皇祖置忌月例、我朝無蹤跡、非視帝行過、密々禮只承和一代也、彼度已不置御忌月、可何及異議哉、加之臨時祭式月也、依無列事、進退神事、專不可然事也、

十日、辛天晴風靜、此日、大原野行啓試樂也、未一點事始、余先着南階以西簀子、次以亮宗賴朝臣、藏人頭右大將、

召諸卿、次太政大臣已下着南階以西座、次奏參入音樂了、參入左近將監貊式親、右近將監多好方、

各左右、共打壹鼓入中門、婆娑、樂行事權亮忠季朝臣

右近中將、縫殿右近中將、率樂人舞人等相從、直伺樂屋式親、

好方曲折了、入樂屋、行事立大鼓後、次余以隨身在樂屋四邊、召行事忠季朝臣、出自大鼓東、斜經前庭、進立余座砌下、余仰云、亂聲、此大仰云、任承曆例、左右一度可振棒、

又仰云、樂所預有安、候樂屋者、可奉仕大鼓、忠季經本路歸樂屋、次發亂聲、次式親、好方出自東、西、各取第二棒也、進前庭、同時振之如例、次舞、先左萬歲樂六人、拍子、此間、左大臣參上着座、次右地久六人、此間余召人、宗賴朝臣參上、依無其路、令候人仰傳余云、大納言藤原朝臣比、左近中將藤原朝臣等、可彈絃者、職事仲資、少進兼時取、絃置各前、比巴御前等丸丸、據申內裏、日來取、出自寶藏、暫被置御所邊云々、先是、余示合任承曆例、可有堂上絃哉否、時人々各申可然之由、地久入了之間、以隨身召樂屋行事、仰云、蘇合可有四帖、又高通候樂屋可彈比巴、此事同示合人々、件高倫、仍有者、又中宮女房宰相局、故信賴卿女、母於籠中彈琴、此事雖未聞、先從重代堪能之者、如此之時不備、次蘇合、此間其事者、如人々、蓋可無其金、仍令彈之、居銜重、余陪膳刑部卿宗雅朝臣、役送諸大夫、宮職、兩丞相、陪膳四位諸大夫、役送、次一獻、亮宗賴朝臣、藏人、弘居余座下方、陪問也、依領宜、勸之、取續酌、太相國自座前受余盃、復座之後、宗賴起座退了、諸大夫取續酌、次二獻、左衛門督隆房卿、作法同前、次林哥、次青海波、依庭狹、隨身等不立垣代、猶可立也、行事豫不下知、歟、式親、光重舞之、青海波唱哥笙笛付

所如仁平御賀、豫利秋有訴申旨、余不許之、所用正說也、此事先年法皇御賀之時、論訴喧嘩之事也、次拍棒、次探桑老、好方、次新摩訶、次太平樂、次王仁、次龍王、光、次納蘇利、好節、次奏退出音聲、長慶、本路退出、行事爲先、今度、次召權亮、今度自堂上、仰遊目之、召東遊哥、忠季退下、降中門內方、出中門召之、今度無良久、願家朝臣已下先參入、立櫻樹南邊、所候人、兵庫頭信綱取拍子、笛、和琴、良久舞人入、自中門進立前庭、右近中將家經朝臣、櫻樹下、切實、右中將通宗朝臣、花秋冬下、(裏青)蘇芳表、切實、例下重不、待從經通、實宣、時通、右少將、兼季、右公定、着打衣、兵衛佐公氏、右衛門尉橘業廣、檢非違、使藏人、左兵衛尉藤康成、非藏、等也、已上銜、舞了歸入、次哥了、陪從退下、于時日未、沈西山、公卿退下、余暫着宮殿上、謁太相國右大將等、左大臣先以退出、次余參御前、人々皆退出、今日、打出廿具、除南階一間、其外皆出之、但殿上不、出之、依爲樂所也、打出色紅勾、紅梅單衣、萌黃裏、表、萌木勾、紅單衣裏、表、裏、等衣每間並出之、今日事一事無違亂、希代之事、以果遂可爲悅、而每事超過先例、左大臣退出之後、以能季朝臣送

馬一疋、

十三日、此夜、女房渡北家、依自明日爲御精進也、十四日、自今日被始御精進、立札、余早旦洗頭修祓、今日、中宮御方有千度御祓、行啓御祈也、

十五日、此日、賜舞人陪從裝束、以寢殿東面爲御所、妻月北間敷高座二枚、其上敷平敷御座面、立過屏風、行一事長、御座而無沙汰、臨期余仰女房、令奉仕之、出几帳帷、出袖、余在殿上端座、大夫權大夫共候前廣庇、無座、先是、中門廊北三ヶ間張綱、如恒、懸裝束、陪從裝束、仍不懸之、依通々、一次舞人等家經朝臣已下且給舞人裝束、于時未及乘烟、次第舞上、自取之退下、不參之人不亂位次、諸大夫可取之、而見參之人取之後、役人取之、失也、陪從并不參、舞人之分、行事各分遣了云々、次入御、余已下起座、先是於余方上達部座、見神寶、依無先例、

八幡神與代々殿上覽之、此神寶何不見哉、仍以今案見之、諸大夫役之神寶太多、仍悉不見之、大略許也、神寶不美、頗以荒也、是近代例也、見了返納、明曉寅刻可持參之由仰之、

十六日、丑晴、此日、中宮行啓大原野社、蓋依寬弘之佳例、所被行也、卯刻、女房等駕出車、三方寄之、殿上就近邊小屋爲其所、今度無可懸之家之上、家又寢殿東中太有、御立、先例於行啓之日、者、驅車無憚故也、

面戸間一間女房出袖、紫勾寄單衣、花紋、冬、表者、萌木唐衣、不、出、他間、是例也、辰刻、人々漸參集、余着束帶、赤色唐絨袍、神祇表裏、有文帶、袴、袴、細水、先出居公卿座、太相國已下公卿、仰宗賴、文、細、細、地、平、緒、五、六、人、在、座、

催舞人等、小時歸入了、此間、舞人五六人參入、御扇使返參、再三遣使、此間、內大臣參入、左大臣候近邊、出、立、舞人之由示之、數度遣使之後、藏人勘解由次官親國爲勅使、持御扇、立中門、權亮忠季朝臣、不、重、降、逢、自、中、門、外、歸、昇、就、出、袖、之、間、申、事、之、由、只、氣、色、退歸降中門

內方、召勅使、先是使諸大夫數圓座、於邊渡殿四間南庭邊、次勅使親國持御扇、御現宮蓋敷、御機、昇、中、門、內、方、就、出、袖、之、間、進、其、上、區、置、御、扇、

之、女房自打出袖口、乍持參御前、北方打出即引入、此、事、理、須、如、此、女、房、暫、參、入、其、衣、留、置、無、謂、敷、先是中宮御帳前御座、松、重、十、重、紅、表、衣、赤、色、小、褂、次打出如本推出之、不、則、只、事、體、許、也、次三位中將兼良取祿一領、給之、親國取之降自中門內方、出砌

外、再拜退歸、次諸大夫撤圓座、余召宗賴、神寶舞人早可進之由仰之、次御反問、陰陽頭宣憲奉仕之、此間御御大床子間、女房垂其間御簾、余竊向大炊

御門西門內、見舞人等、見、參、七、人、次余歸參、先是公卿列立、太相國內、寄御輿、太相國大夫兩人、立、屏、風、几、帳、等、余并女房三品相共

奉乘、女房御匣殿乘御後輿、未、毛、令、駕、代、官、母、儀、一、位、依、重、典、不、參、之、故、也、此間、

公卿等前行騎馬、兩丞相出中門、列立北方、次御輿出御、余向中門廳方、入々騎馬之間經數刻、余遣下萬隨身、仰前陣可進之由、御輿出門之後、猶經時刻、仍兩丞相暫休息、息中門廳外緣、其後猶良久、仍又遣隨身於御輿邊、催啓陣、宮司等騎馬、御輿漸進出之後、大臣等如本列立、余降自中門內方右中將伊輔朝臣殿、御前、辨少納言外記史在中門外、漸前行、余垂据正、旁出中門、東進向太相國少相國居地、內府深整所、出門外、乘車唐車也、伊輔朝臣殿、前陣猶不進之間、大炊御門宮小路辻、數刻扣車、余前陣等行列大濫吹、依召行事、仰之、又遣下萬隨身、於行列使許、大炊御門早仰、令進之由、仰此間、出車十四兩糸毛金造、網代二兩、列立大炊御門南邊四上、北西、先陣漸進、出車等前行、其後余御幣神馬等行列如圖、經大炊御門東洞院三條大宮四條朱雀七條等大路、至于桂川、在浮橋、余不參、歇餉之所、於所々進行自出車、未刻着御社頭、余於鳥居外下車、車邊無殿上人、右馬頭信清殿、參御所、先是下御、退御輿、未備神寶之間也、余入自南暢門、昇、自着到殿西面北妻、所也、切開、降自南面西妻、仰親經、令昇立神寶、四面、行幸例座不同、或北、此間供御手水、着御御

拜座、次供御贖物、陪膳禮亮忠、役送長兼、次宮主獻、大藏、忠季於北妻、取之獻女房、返給之宮主、々々着座、次大夫左近大將良經卿着座、舞人引立御馬、家經稱病不引、第三第五第九引、次中臣祝言、此間攝三人形、散來一如恒、次宮主退出、次撤御贖物、引立御馬、次使就案下、跪、指、笏取幣二本、又立中宮御拜了、余以咳聲、幣示使、又跪置幣拔、笏復座、次權大夫家房卿取指、插頭花、入自南暢門、指使以列、數刻不指得、然而遂指之、次使起座、退下、出自南暢門、神祇官人昇出神寶等、使爲先、神寶舞人、率陪從等、參社頭、四島居、舞人等暫不引、御馬、余高聲催之、其後引之、未練之所、致也、又行事不催仰也、社頭事計其程、余自御在所直着祓戶帳、御在所、段、余四面立之、入、御幣神馬引立、北面上、政朝臣、次、供御贖物、次陰陽師着座、次御禊了、陪膳取大麻、持來、撫了返給、撤贖物、此間以隨身、見遣社頭、未廻御馬了、云々、重遣之廻了、起座爲先、御幣神馬、參社頭、四島居、上、於直殿邊、撤御幣、着座、中座、提如、恒、次親經朝臣持來白妙幣、金銀幣、余取之、兩段再拜、神主出來取之參入了、余此間祈請所思、大禮、所願決定、於中門內、申之、仍不、次給祝可成就也、次神主還祝了、知之、尋親經知之、次給祝

司祿^{諸大夫}取之、次余起座初所帶^劔、直着^三休幕、此間廻

乘尻馬云々、次太政大臣左大臣已下着^三休幕、次余出

居座、次差^三養有^三三獻、差^三署預粥、次引出物、^{大臣各二}

一疋、先是、^{三獻}、勅使頭中將兼宗朝臣參上之由長房申

之、召來仰社司實事、仰^三啓事^三之由、可^三仰^三上卿

之由仰^三之、即余參^三御所、次使歸參、申^三願平安之

由、^{宗朝朝臣}、次有^三片舞、先兩大臣已下着^三庭中座、^{先數}

進立、次舞人進舞、^{公卿四人}、了退下、哥了陪從退下、次

撤^三榜上^三御馬、次馳^三之、次上^三乘尻馬、次馳^三之、次

公卿退下、次寄^三御輿^三還御、余御共參^三內裏、下^三御名

謁^三、^{給亮同}次余退出、

今日無^三風雨難、每事嚴重、如^三思遂^三之、神威之至也、

可^三悅々々、

四月

十七日、^戊雨降、此日、賀茂詣也、朝間雖^有雨氣、已

午刻雨止、日景間見、乃遂^三參詣^三之間、自^三路頭^三雨降、

參社之間彌密、每事無^三威儀、最爲^三遺恨、但非^三無^三先

規^三歟、去三月卅日定^三雜事始神寶、^{定文筆}去十四日

始^三裝束、^{家裝束、奉行職事所司行之}、又御祈勤仕之僧侶、

及本社司等、殊仰^三可^三祈申^三之由、又於^三賀茂下上社

三ヶ日修^三仁王講、仰^三法成寺平等院、又令^三祈念^三也、

一昨日始^三精進、^{洗髮修}昨日猶修^三祓、兩日着^三衣冠^三遙

拜、

今日辰刻覽^三神寶、其儀尋常、上達部座撤^三疊卷^三簾、先

敷^三菅圓座^三一枚、^{神寶行事職事}余出居、^{冠直}奉行家司左中

辨親經朝臣、着^三衣冠^三參^三候前廣庇、^{元長房奉行也、而依}

光朝去十二日^三仍^三次家司職事等連^三置神寶^三非^三常、^數

茲^三改^三仰^三件朝臣也、^茲次親經進參開^三幣宮鏡宮等蓋^三覽

之、次始役人等撤^三之、此度乍^三蓋昇出也、^{此神寶無神}

次撤^三小筵、次余歸入了、次舞人等漸參集、而行事家司

經仲朝臣遲參、再三雖^三遣^三人、稱^三只令^三參之由、猶以

不見來、仍勘^三先例、奉行家司賦^三插頭花、事已度々

也、保延天養之間、知信、光房等常勤^三之、仰^三親經朝

臣^三令^三賦^三之、先余出^三居上達部座、^也親經候^三中門廊

西簀子、藏人所々司散位盛長、着^三衣冠^三執^三插頭花、

入^三中門^三進^三砌下^三與^三之、家司取^三之、次家司職事執^三

裝束、次第賜^三之、於^三切欄之椽上^三給^三之也、^{先是、中門}

如^三去年^三之、依無^三神宴、不給^三人長裝束、又每^三給^三裝束、

人別賦_三插頭花_一也、琴持給、皆悉賜了、琴持一人遲參、

其分自_外給_三廳頭、次余歸入、次小童令_着裝束、以二棟

廊東底北二ヶ間、爲_三其所、木_次總角、左京大夫源家朝臣候之、又季

工權頭時盛朝臣奉_三仕之、經綱着直衣、同候、爲此道先

進也、也、少々事等扶持、此間、余着三束帶、奉仕之裝束色目如、仲盛

即願家朝臣師進了、也、赤色下裳也、但着三紅引陪禮、此間、公卿已下參集、又舞

人皆參、小童僕從等聊遲參、來集之後、余先出_座、小童

南面_{寶子}、次公卿着座、大宮大納言實、次殿上人兩人着座、候

四方_一、次余召三親經朝臣、仰三舞人可渡之由、次舞人

臣也、次余召三親經朝臣、仰三舞人可渡之由、次舞人

渡_三前庭、自三東渡四爲先上高也、

左近將監中臣近武、乘尻不渡三騎馬之時渡也、

左近府生下毛野忠武、右近將曹下毛野武安、

右近府生中臣武友、左近府生泰兼仲、

左近府生泰兼景、左近府生佐伯國方、

右近府生泰兼隆、左近府生泰兼直、

次可_數圓座、爲_三遲々、仍召_三親經_一仰_之、此間前掃_三

神寶等_渡前庭、諸大夫敷_三圓座、余座在_三次自_三下膳_一

起座、余降_三居圓座、人々同着_座、次舞人十人爲_先

上膳、渡_三前庭、不_三具_三舍人_一居_三先例也、次引_三分乘尻二人、右衛門尉源

手_渡、渡_三南庭、上膳爲_三先、下_三行_三左兵

馬_{氣丸中_三家御馬也、}金地鞍小總鞍、(置色々桑略)

泥澤_{(置_三金鋼伏輪打交送繩、}有_三總_一)打

殿居同懸、二二人左番長奏賴氏、余國身也、赤色上下押、散手和

也、左_三比禮等也、左近衛奏小男、未_三付_三名_一、兼平于男、兼次子

折同_三單衣、風流又黃、張口次童二人、一人左衛門大夫爲成子、一人

物具也、兩人共出衣、張口次童二人、其息兵衛尉成國等也、萌木

文_三持衣_一、以_三糸置_三小童_一、文機國_三東文_一也、濃衣、次雜色四

芳_三單衣、以_三紙澤_一、酒井洲濱文_三海波_一、東也、出衣、押_三小童_一、

人_三近武_一、以_三紙澤_一、酒井洲濱文_三海波_一、東也、出衣、押_三小童_一、

東也、舍人一人_三雲_一、居_三伺_一一人如_三常_一、渡_三南庭_一、留_三中

門邊、次公卿起_座、降_三立中門外、大將、次土用丸於_三中

門廊西_三寶子_一、切_三國_一、騎_三馬_一、國行抱_三乘_一之、例_三東_一、次出_三中

門并四足門外_一扣_三馬_一、御前々々、大將降_三中門_一、來_三南階

邊、次陪從發_三哥笛_一、次余降_三自_三南階_一、三位中將_三發_一、

國中_也、四位前_三近_一、余出_三中門_一、北向_三實家卿_一、小揖、出

門乘車、大將奏_三舞_一、四位前_三近_一、路頭暫以逗留、然而不_三似_一

去年_三于_三時_一午刻也、未始着_三下社_一、於_三余車經_一近衛東

洞院之間、雨降漸密、下_三於河原_一、甚降、仍小童令_三乘_一

余車、寬治元年依_三雨有_一、小童僕從等在_三余車後_一、當_三鳥居南

東面_一立_三車_一、垂_三簾_一、於_三頭木_一、如_三例_一、此間雨猶不止、被_三戶_一、

不留_三云々_一、仍移_三座_一於_三馬場屋_一、寬治三年於_三上社_一、甚雨之間、

也、社頭御東行事師靈動中、此例_三歸_一、家被_三雨_一、果_三以_三此_一、最可_三歡美_一、此間、公卿車來集、人於_三陪

如_三例_一也、余卷_三箔_一、以_三政立_一、榻於_三踏板前_一、雜色_三授_一、兼良卿獻

查、兼取_三次_一、余下_三車_一於_三帳外_一、雖_三可_一懸_三裾_一、馬場屋在_三

之_三如_一先、

咫尺、仍不懸之、實宗以下懸之無謂、公卿殿上人

在余後、小童同之、為時儀者、不可來、設禮、今依、陪從

發、哥笛、如例、御前々行、余經馬場、北昇東南階、

引、仍南階前平伏也、余經其前、依、雨不垂、獨也、未

東向、其南數連公卿座、有指席、余座後併北立、次大納言等昇

自南階、着座、中納言二人昇、自後着座、次御幣神

馬神寶列立、北上、舞人馬列、立其前、同前、次供、手水、

陪膳以政朝臣、役送三人、次供、贖物、陪膳兼親朝臣、役送親

夫居諸卿祓物、次陰陽師着座修禊、座遠不聞、仍

計程解々繩、撫人形也、次陰陽師祓了、願面陪膳

兼親懸裾、取大麻、昇自南階、參上、余撫之、次

引諸卿歸來、取余祓物、撒之、親光取次諸大夫撒

諸卿祓物、此間小童併、個余座屏風、次引分乘尻并兩社幣、

各參本社了、次公卿起座、今度、大納言已下降、自

後方、次公卿座降南階、兼其獻、余示云、早相、且小童可

即、於階隱間、余取、據懸、劍、殿上人參行、參社頭、已下

前行如例、御前又前行、余笠前駐、賴高指之、公卿在後、

陪從在其後、發哥笛、中宮女房車三兩立路北、見

物、殿上人參、宮侍中、府各二人、若、布衣、為、前

馬、殿上人參、宮侍中、府各二人、若、布衣、為、前

此間先令、置神寶、先是、御幣神馬、立、舞殿前也、先例或余着舞殿之

後置之、式文如此、今依長承二年例、先令置也、諸

大夫取之、經中門廻廊、次第置之、先、御前、次白妙幣倚

立机了、次余取、笏移着舞殿座、伊輔朝臣、參、件、否、不

云、先、御前、查脫溜下地上不撒之、國、身、以

之、余着半帖、北面、掛引、次行專家司左中辨親經朝臣

取金銀幣、下、家司、親、昇自舞殿西面北第一間、進余

座前左方、獻幣、余指笏取之、親、經、技、笏、余兩段再拜、

所、拜中間隨身追前例也、次禰宜祝等自左右、余左

手取金銀各一捧、先授禰宜、次右手取金銀各一捧、

授祝、各取之、參社內了、余拔笏候、次社司出來、祝

取白妙幣、次撒梓弓、次昇案各入社內了、良久還

出申還祝、中門外、向上、次即持來葵桂、自、東、進、來、余置

笏、左、依、解、先取葵入巾子、次取桂指冠後、結、腰、次

賜禰宜祝祿、於中門取之、此次賜他社司等祿、

依余命也、是、又、前、次余拊起左廻着、伊、今、度、參

帶劍、伊、輔、朝、臣、余公卿等着座、余、拜、之、間、人、々、不、着、次召親

經仰云、即可廻御馬、其間可獻葵、又廻御馬

了、即可有東遊、其間可勸神酒、各同時可有其

儀、是事為早終也、次廻御馬、雨之間甚無便宜、同

時社司等持來諸卿葵桂、各自座後、次廻御馬了、引中東遊、此間勸神酒、神宜資兼持、橫手居折敷、昇座、未經座中、祝秀輔乍土瓶相從、資兼進寄余前、取橫手如花、入酒祝言、其詞不聞、訖勸余、余左手取花坑、右手取橫手右柄、飲之返授、資兼取之、更起臨北砌、乍立渡澆湯、立板敷上也、歸居本所、又入酒、資兼取橫手、祝入酒也、又勸之、余飲之返給渡弁、殘又咸勸之、余飲了返給、資兼又渡澆湯、三度了、次勸寶宗、同每度渡之、此事不可然、主人猶有三度之後渡之例、況已次哉、今度於初所、勸次忠良卿、此座末渡之、次勸良經卿、次勸親信卿、已上皆每座、次勸親宗卿、每度渡澆湯之間、時刻太久、仍余可用略儀之由仰之、仍此卿以後一二度渡之也、皆勸了退下、先是、東遊了、次公時申上粉熟、其汁煮居之、余已下起箸更漬食之、次拔箸自下膳起座、余着沓、按其歸參取沓、召兼親令懸裾、出南門、經本路、辨少納言候、外記、陪從相從、着馬場屋、不垂裾、不脫沓、居陪長押懸尻如例、次舞人上御馬、自北上西、次馳之、自南馳北、次寶宗卿引引出物馬、忠良卿可來上社云々、仍不引之、次人々降立、余降陪乘車、

于時未變松明、兩三町參、上社行列不調、鳥居下立車、退出之後、始乘燭也、仍隨候合、以雅行朝臣、令取沓、先着馬場屋、同昇自西階、外記定參、會此所、着座、北面上、忠良、良經、兼良着座、他人不着之、次手水、以政陪陪次、供贖物、兼親陪陪、先是幣以下列立、次祝了、撫御麻、諸卿皆如下社、次四社幣分參了、次大社幣已下前行、公卿起座、余於西階下着沓、兼良獻、懸裾參社頭、直着舞殿座、不撤沓、次置神寶、倚立白妙幣、次親經朝臣持來金銀幣、余取之兩段再拜、上社不解、神主來授幣、金銀各一串也、次權禰宜幸平參上、先取捨、余仰云、先可撤白妙幣、其後可取神寶也、幸平以親經申云、當社習、祝取白妙之幣也、重仰云、於社司役者全不可知、取神寶之次、先例如元取白妙幣者也、幸平取白妙幣了、次取梓、次取弓、其次々第撤神寶了之後、昇入棚了、神次梓退出申還祝了、去年重久申還祝之所、持來葵桂、余取之懸冠如了、頗有相違、可尋之、上社、或又如此、今日依長承二年之例者、下社、或上社歸座、或又如此、今日依長承二年之例者、忽中心、神恩給祈請成就、次賜社司祿、神主祿、加之、他社皆同、次余揖起座、左廻着饗座、昇自東西階、經北簀子、着東一間座、西、次公卿着座、先是居內

藏寮發、

社又居、交齊物、次獻諸卿葵、此間廻御馬、廻也、同時

勸神酒、資保作法太以相違、一者乍居折敷、勸之、

二者返給橫手於祝、祝自入酒、更傳神主、主人之

外、每度渡澆湯之條、同下社、仍忠良以下、余仰

三度之後一度、令渡之、次東遊了、給舞人陪從祿、

神酒之後一獻、陪從祿、親朝臣、以政朝臣早出云々、次湯漬、各本居也、余座

同之、但差湯之次、又勸之、余如形服之、人々同

之、自下薦起座、此間、下人等亂入取饗膳、狼藉

殊甚、次余起座降、自西階、須降南、當馬場屋、御前行如、如下社、次上御馬、次馳之、次忠良引引出物馬、隨身引之、次乘車歸宅、用紫野路、于時亥刻也、

今日、行列任長承二年例、聊相違去年、子細見圖、

大將番長一人騎馬、下薦步行、番長二監、下薦西木、寬治三

先、又諸卿雜色略人數、人列不過廿人云々

十八日、晴、此日、祭也、未刻着直衣、參內、申刻、中

宮使參入、御禊了、職事右中將伊輔朝臣、次西廊西面被渡

馬已下、次同門前渡車、次近衛使參內、有御前召、

清涼殿南面簾中儲御座、親國申近衛使參入之由、余

仰可召之由、親國降自長橋代召之、此間、藏人業

廣敷圓座、次使參着、次藏人兩人居、街重、次親國勸盃、次賜御衣、紅打御衣、出自上月給之、次使取之、於砌內拜舞、可出、更歸着、查退出、次舞人進前舞求子歸入了、次御覽傍馬、遇、殊太、未右大將番長一人近衛一

人着褐冠引之、未曾有例也、手振馬副同渡馬引出

車中門了、此事先例不然、仍可引歸之由仰之、次

主上渡御宮御方、御覽雜色已下車等、如宮使、是又

遲々、仍及日沒了、次余退出、見物之者等歸來云、兩

使晚頭渡大路、太遺恨々々、中宮使強不可入夜、而

遲々、子細最不審、可尋也、

十九日、戌、天晴、此日迎大將小兒於余許、可養之故

也、申刻兒來、余庇車々副六人、雜色長忠武着布衣、

高過、親能、忠孝、雅行、無出車、先例也、女房大納言宣旨等、召殿上人車、侍二人、爲迎向大炊亭、相伴兒所來

也、本家之人故不來、是先例也、先例及余女房駕唐

車、公卿扈從殿上人前驅、殊闊威儀也、而今度女房

重服、仍無自行迎之儀、用女儀也、入夜向九條、

依明日方違也、此夜謁或上人、

廿日、辛、晴、小兒祈、依吉日始祈、指向日參、已刻出九

條、入夜向水田、

廿一日、壬子未明解纜、午刻着大渡、以輿歸九條、乘車歸大炊亭、此日、吉田祭奉幣也、

七月

一日、庚申晴、已刻着直衣參內、此日、密々被進小神寶於太神宮、豫祭主能隆朝臣參候、銀小兒銀衣錦茵等也、此外紅薄樣一帖、錦一段、所被相副也、已上內外宮各如此、小兒居高三寸也、以烏毛葺頭、中宮手自令膏給之、具仰御願趣了、來三四日之間隨參着可奉納云々、先可納外幣殿官幣、々次開寶殿奉納、是先例也云々、此外自內御方幣料紙膝突單重等被相副云々、申刻退出、

二日、辛酉晴、鳥羽院御崩日也、任例有免物事、親國持四人勘文、合點給之、於鳥羽安樂壽院、自後院有佛經供養事、御導師澄憲法印、請僧六口、八條院御方有御佛事、請僧廿口云々、其次故院御時有此事、彼例懸佛像同時供養、女院御方布施了、六口請僧殘留、被引院御方布施云々、今又依彼例所被行也、後院別當顯家朝臣行此事、最勝寺御八講結願也、上卿新大納言重喪之間、民部卿經房假爲上卿、

三日、壬戌晴、法勝寺御八講初日也、證義者、山階寺別當僧正覺憲也、上卿大宮大納言實宗卿、辨資實、先定日時僧名如例、

四日、癸亥晴、廣瀨龍田祭、神齋如例、女房在別屋、

五日、甲子晴、入夜前大僧正入浴、依余招請也、炎旱沙旬、雖不及巨害、漸有民愁云々、仍自今日令拂神泉池、又祈雨奉幣可御沙汰之由仰宗賴、與誓公定了云々、

六日、乙丑晴、未刻、奈良前大僧正參入、談議南都衆徒間事、申刻、別當僧正參入、先是權別當法印範玄同參入、共在中門廊、以辨別當親經朝臣爲使、度々仰御寺之間雜事等、各有申旨、大僧正又相議、所詮自今以後圓堂中臈等許成集會、恣申非據事等、永可從停止、僧綱已下上中臈皆悉集會、可申上之由仰之、各服膺之、可成賜長者宜之由、仰親經了、

七日、丙寅晴、法勝寺御八講結願也、雖有參入之志、依所勞不參、家節供乞巧奠如例、女房依重喪、不供節供、例也、此夜、大將於此亭有作文事、公卿四人、兼光卿、光雅卿、定長卿、基親卿等也、雲客儒士

相并廿餘人歟、題後會只期秋、講師宗業、少納言基長、本名能資雖申、可候殿上列之由、先例儘不覺、仍不許之、儒士例置侍也、

八日、丁今日有祈雨奉幣、上卿左衛門督辨宗隆、此日始祈等於無動寺、不動堂始修不動法、座主修之、伴僧六口、又春日五所御本地、年來奉造顯之、今日預僧五口令始修行法也、第一御前不空綱索、鳥覺成僧正、第二藥師、管山座主、相並不動法修之、第三地藏、平印性僧都修地藏行法、先例此尊用息災祈事、未曾聞也、然而就兩界行之、無妨之由所申也、第四十一面、伊勢隆聖阿闍梨、若宮十一面、親嚴已講、如此配分也、余又沐浴齋齋、始修愛染王行法、依有所思、始修此祈等也、又春日御社轉設金剛般若、大僧正參社壇、祈請之一、

九日、戌晴、南部惡僧千榮參入、雅緣法印所召進也、辰晴、此日重有祈雨奉幣、藏人爲使、上卿隆房、辨資實、自明日可有清流御讀經、今日可勘日時、奉幣發遣以後可勘之由仰之、宗賴朝臣申一條之事、

十二日、辛晴、甘雨猶不降、仍神祇官人參、隨本官、

可祈申事、辨水天供七壇可被始修事、仰公定了、又自來十五日可有龍穴御讀經之由同仰之、此夜御方違行幸、五辻左大將供奉、余依所勞不參入、

十三日、壬晴、新大納言定能卿持來興福寺供養雜事注文、先日賜日記等、可抄出之由依相含也、

十四日、癸晴、三堂送盆供、拜之如例、職事兩三人着衣冠役之如恒、今日、女房退出自內裏、直向五條堂、依修小佛事也、

十五日、甲晴、此日、祈等結願、又念誦終、未刻、白地向九條堂、依孟蘭盆講也、今日始請僧三口、略儀也、最勝金剛院同始之、入夜歸來、

此日、於陣勘神泉御讀經日時、自明日可被始、雖爲伊勢幣前齋散所、佛事依有例可被始修、但於日時者、猶今日可勘之故也、上卿兼光卿、辨定經朝臣、

十六日、乙晴、此日於神泉苑被始孔雀經御讀經、依祈雨也、東寺第三長者樞大僧都印性、率廿口伴侶行幸、下野國住人朝綱法師、依押領公田之過、可勘罪名之由、被宣下了、今日先爲遂問注、雖

被召其身、拒詔使、不參對、彌增其科者也、前大將申旨事也、

十七日、丙晴、此日、祈年穀奉幣也、上卿右大將、辨宗隆、申刻、內覽日時定文、忠經卿書定文云々、手跡太優也、同刻、大內記內覽宣命草、見了返給、免清書內覽、能保卿以使者示送朝綱法師之間事、具以仰子細了、召公定自來廿日、仰可被始修祈雨御修法孔雀、之由、神泉御讀經、今二ケ日可延行之由同仰之、又先日山門衆徒張本可被注進之由仰座主、今日密々被注進、即以職事御教書可召進之由、仰座主及西塔院主實全法印、橫川長吏實圓法印等了、此日早旦、沐浴解除、着衣冠遙拜、申刻、天陰小雷、即又晴了、

十八日、丑晴、於神泉苑被始孔雀經御讀經、滿三ケ日依無驗、今二ケ日可延行之由仰之、十九日、戌晴、早旦向九條爲逢舍利講也、佛舍利七百粒納一壺、送法性寺尊忠法印許爲每日供養也、入夜宗賴朝臣來申條々事、侍從明日參春日、相具可參云々、子刻、進朝綱法師罪名勘文、任勘狀、朝綱法師可處遠流、奏事之由、可宣下之由仰之、

今日風吹雲覆、頗有雨氣、歟、自此日被行五龍祭、陰陽頭定憲朝臣修之、

廿日、卯終日甚雨足、爲國土之密、神泉御讀經當五ケ日、尤可隨喜、歟、朝間雨脚始濕、仍今日可被始行之孔雀經法暨延引、御讀經二ケ日可延行之由、仰奉行職事公定了、而終日密降、今日專可被結願、歟、而阿闍梨職事共無申旨、仍自上又不仰下之、以御教書且感悅之由仰遣了、講演等如例、入夜女房相共歸大炊第、此日、小男侍從參春日社、路間布衣、社頭束帶、

廿一日、辰、朝間小雨、已刻以後天晴、神泉御讀經結願、依有効驗也、被仰勘賞、以弟子蓮臺、阿闍梨覺教左大臣息、法、舉申法眼、其身未極官位、尤可叙法印、歟、而舉申弟子頗雖爲過分、其人爲法器、其父丞相也、仍優許之、以公定奏事之由、仰阿闍梨了、季御讀經、次可被宣下也、今日以仲資爲使遣神泉苑、仰感悅之由、入夜印性來臨、泣喜悅、廿二日、巳晴、宗賴棟範申條々事、朝綱法師事可仰遣關東之由、仰宗賴了、此外有他條々、廿三日、午晴、此日於法成寺奉始興福寺金堂中尊

佛師法眼明圖、印性僧部、加持御衣木、行事官左中辨親經朝臣已下、向寺門始之、於金堂前廣庇始之、行事官等座儲壇上云云、日時於余家勘之、宜憲、季弘運、須於陣勘也、然而造寺日時依爲御忌方、於家勘之、今度雖無方忌事、可一同之上、壽永例爲相違、於家勘之、但猶可經奏聞、其旨仰親經了、事了招印性於此亭、奉始白檀愛染王小像、中宮御祈也、自此夜於禁裏被始修熾盛光法、以寢殿良子午廊爲道場、以二條堀河大將直廬爲阿闍梨宿所、座主修之也、余乘燭參內、事々遲々之間、書置御願意趣、祭文、外也、進主上、召阿闍梨直可、賜之由奏之、即退出、向大炊亭、依小子眞菜也、此日、左大將女子食魚味、余亥刻參內之間、及深更也、行向、先是公卿等來集、先大將出居、其後供前物、伊輔朝臣爲陪膳、華族諸大夫爲役供、如例、初獻四位可持盃、雞、非大臣、家例如此、而以政、兼親共以依見病不參、仍爲勸盃、余含了、直向九條、自本不出座、依所勢無術也後聞、隆房哥催馬樂、唱朗詠云々、

廿四日、未、此日、雨氣出來、廿日雨以後又以炎旱、大法御願意趣條々雨中有祈雨事、而今日有日雨氣、可謂

法驗歟、此日逗留九條、明日仁和寺宮參會八條院、可謁之由被示、更歸上亭、依有煩也、

廿五日、申、自曉雨下、天明彌降、可謂法驗歟、可悅

可悅、以長房爲使示慶白於座主、於今者天下可無旱魃愁之云々、晚頭參八條院、謁仁和寺宮、亥刻終歸家、

廿九日、戌、陰晴不定、時々小雨、入夜參內、爲達熾盛光法也、明日結願也、時了退出、

八月

一日、丑、陰、此日、熾盛光法結願也、着法服被行結願時云々、賞追可由請之由被申、仍當座賞、追可被仰之由被仰、初度若三々事、同時仰之、頭中將將宗仰之、於御殿有御加持云々、賞事往年不必然、近代初度必被仰之、仍所仰也、久安應保例被仰賞也、此日旬祝、通拜如恒、

二日、寅、晴、自今夜中宮御祈、始修愛染王法、權大僧都東寺三印性爲大阿闍梨、伴僧六口、盃盤所廊塗

檀、以廳屋爲僧宿所、僧房裝束、自廳沙汰給之、去廿三日所始之愛染王白檀、今日造了、即以伴佛爲

本尊、六寸、居、以、平等院寶藏大師御本尊印相、寫之、
余年來持佛即同印相也、彼手捧、日輪也、中宮令、逢
時給、余候、御傍、祈念御願成就之由、時了多於、御
所、有、御加持、其後余退出、

四日、壬辰晴、北野奉幣如、例、女房先渡、北屋、奉幣了歸
來、

八日、丙申晴、中宮可、令、逢、御修法時、給、仍余又參上、
時了退出、

九日、丁酉晴、釋奠也、上卿平中納言親宗卿云々、

十一日、己亥晴、定考延引、此日於、中宮御方、于時御方始
有、和歌會事、題者光範卿、元兼光範卿、進之、題云、月契

秋久、序者土御門中納言通親卿、讀師大宮大納言實宗

卿、講師權右中辨定經朝臣、余晚頭參內、戌刻、左大臣

已下歌人參集、先着、宮御殿上、次余出、居歌筵、以、南

座、爲、奏所、須、敷、圓座、南面、妻、戶、女房出、袖、紅、召、宗賴、仰、人

張、單、紅、引、倍、發、女、郎、花、表、着、二、藍、唐、衣、白、腰、裳、人

人可、着座之由、次左大臣以下着座、次置、御遊具、次

御遊、呂安尊、鳥破、席田、鳥急、律、伊勢海、萬歲樂、更

衣、三疊急、鷹子、五常樂急、次撤、御遊具、次置、文臺、

次敷、圓座、次立、切燈臺、次人々置、歌、公卿序者位次

置之、次召、講師、披講了、人々退出、

御遊召人、

拍子、左衛門督隆房卿、

付歌、少將宗國朝臣、

琵琶、大宮大納言實宗卿、

右宰相中將公繼卿、比巴二人、承曆歌合
御遊例也、

頭中將兼宗朝臣、

女房於、應中、彈之也、宰相局、安藝姫也、

和琴、少納言賴房、

笛、權大納言隆忠卿、

中宮權亮忠秀朝臣、應期召加之、

笙、從三位經家卿、

篳篥、右少將忠行、

詞人、

關白、左大臣、

大納言、實宗卿、隆忠卿、右大將賴實、

中納言、左大將良經卿、經房卿、經房卿、親宗卿、

參議、左衛門督隆房卿、中宮權大夫家房卿、

從三位、季能卿、季經卿、經家卿、式部大輔光範卿、

頭中將兼宗朝臣、頭辨宗賴朝臣、左京大夫顯家

朝臣、中宮權亮忠季朝臣、右京大夫隆保朝臣、

左少將成家朝臣、右中將通宗朝臣、權右中辨定經朝臣、講師、右少將宗國朝臣、左少將定家朝臣、式部少輔範光、左少辨宗隆、少納言賴房、右少將忠行、少將通具、

女房二人、讀史、賴政女、丹後、賴行女、

權大納言隆忠依禪門教訓、不置和歌事、頗柳棟喻歎、可嘲々々、

十五日、卯、晴、放生會、上卿通親卿、已役、參議忠經卿、辨右中辨棟範朝臣、此夜、御書所作文也、序者賴範、講師宗業、讀師業實、

十六日、甲辰、已刻以後甚雨、此日、無動寺大乘院供養也、願文親經、奉行右少辨資實、公卿五人經房、隆房、定長、季經、賴家、登山

有行香、七僧法會也、導師隆憲法印、布施供養、皆余沙汰也、有額、大將書之、以故皇嘉門院崩御御所、移造

此聖跡、年來之間無便宜、不遂供養、今年破石所遂大願也、此日、中宮御退出、依可有御灸治并御服藥也、自今夜修佛眼法、

十七日、乙、晴、八條院御所炎上、余參上、又向九條依火近也、入夜歸宅、中宮有御灸治事、余奉指灸點、歸家之後、進使於八條院、即歡喜中宮被獻御

書、今日余於堂聊有觸五躰不具穢之事、然而參宿中宮了、依無殊神事也、

十九日、丁、未、晴、午刻向九條、依舍利講也、論義如參、此夜宿堂、依明日故內府月忌也、

廿二日、戊、晴、參法成寺奉禮新造佛、可改置事粗仰了、參歡喜光院、依八條院御坐也、小時歸參宮、

廿八日、丙辰、陰、時々雨降、此日、小童生年三歲、初參般富門

院、有御猶子之儀也、余網代車、布衣前駐八人、藏人五位、共殿上人四人、無出車、乳人車自閑路參會、我車尻

出衣、物具、辛櫃已下物具雜具等同以渡之、自今日即可祀候、暫不可歸來也、申刻出九條亭、秉燭之後參着、左衛門督隆房卿寄車云々、

閏八月

一日、戊午、此日洗頭、自明日爲修恒例念佛也、

二日、己未、辰刻向九條堂、已刻受戒、佛殿上人、午刻始念佛、

九月指合興福寺供養、仍彼岸之間可修之、今日三萬反、

九日、丙寅、午刻、念佛結願、總五十二萬反也、今日依歸

忌留堂、

十五日、壬申陰不雨、此日、十三社奉幣也、依天變怪異、及天下魔緣競起、所々諒言等驚耳、又主上今年御櫛上九月爲太一家御厄、如此之間所被行也、上卿大宮大納言實宗卿、行事左中辨親經朝臣、公卿之外諸社使用殿上人、大原野已上四位也、伊勢、石清水、賀茂、松尾、平野、稻荷、春日、大原野、住吉、日吉、廣田、祇園、北野等也、

晚頭、宗賴朝臣馳來云、奉行吏與鹿食人同宿、即着座了可有憚哉、法家申可有憚之由、但可在勅定者、先例不被憚之例在之如何、仰云、六番無五跡不具、又或文食鹿人雖忌三ヶ日、不及甲乙、隨又先例多不憚、早可發遣、即進發了、勿論事也、

「祭主爲中臣使、爲仰付御願趣、殊所召用也、宗賴奉勅、余計奏其趣、召內裏、殊所仰子細也、又召宮御所賜御衣、仰御祈事、余謁之仰所存旨趣、此次密々語云、先日兩度有吉夢、各注進早了、但有未申上之事、今年公卿二人可有事、是殿御事ヲ惡ク奉思之人云々、凡不可說事也云云、爲後思合仰之、」○祭主以下九條本首書

十六日、癸酉此日、崇德院奉幣也、使定家朝臣、上卿平中納言、辨定經朝臣、又有內侍所行幸、戊刻着束帶參內、即御裝束行幸如恒、頭中將候御劍、頭辨取御裾、入御之時、余褰御簾、辨獻御草鞋、御拜之後還御、御簾御疊新調、又有幣帛、用納殿色紙云々、此夜於院法華堂、奉爲故院、有六部一日經供養事、又以眞圓僧正被修法華經二件僧二口、

十八日、乙亥晴、召高通撰調可進相國管絃緒等、入夜成經卿來、申廻廊之間事、今日物忌也、

十九日、丙子時々雨降、午時始法華經不斷讀經、每事例事也、申刻向九條例講也、此夜宿九條、

廿日、丁丑晴、辰刻、右大臣來、數刻談話、興福寺供養不可具御前之由存知云々、存知之旨可然歟、講演了、未時歸大炊亭、

廿二日、己卯晴、此日、法華經結願、依先例被仰賞、法橋一阿闍梨眞圓僧正、此夕向九條、女房相具、

廿四日、辛巳晴、風烈、寅一刻出九條向南都、大將相具、光雅卿來會九條口、已刻着佐保殿、未刻參堂、先參南圓堂、次參金堂、公卿等相從、議定供養日事等、申刻歸佐保殿、今日、余已下毛車衣冠、明日可

爲束帶之故也、入夜僧都來、又別當僧正來、今日、別當權別當參會御寺也、

廿五日、壬午雨下、此日修造南圓堂之間、依有所思、

運土築壇、寅刻、依吉時也、着束帶、先奉幣春日社、有告

女、親經草之、藤氏、次參御寺、隨身垂袴盃胡錄、上下皆職事清忠爲使、

束帶、先參金堂、公卿僧綱同着座、待雨晴之間、

卯辰兩時空過了、寅巳吉時、卯辰惡時也、已刻雨止、然而依地温、

廻廊之內置土敷座、先以長房問時、在宣朝臣召時、次余已

下移着廻廊座、次余已下入出於袖、取出御紙裏、昇

自堂東階、入巽角壇旁石跡、取杖、聚倚立堂、親經傳授之、三度

築之返、給杖於親經、直着壇上座、公卿僧綱同運

之、社司正久等昇居旁石、々造等立壇下、皆修築

了、行誦誦賜祿、忠孝朝臣取之、次着庭中、總禮三度、細

素同着、總禮三度了、參講堂、誦經之後參東大寺、誦

誦之後退出、即改裝束、申刻歸京、子刻歸大炊亭、

廿七日、甲申晴、大地震、入夜宿大將二條亭、依明日

三社奉幣也、

廿八日、乙酉小雨、此日爲祈請山階寺供養事、奉幣三

社、春日使文章博士繁實朝臣、大原野使室房、吉田使下地守親光、依康和例、無告文、入

夜參內裏、丑刻退出、鐘報之後與女房同宿、
廿九日、丙戌晴、此日、法華經誦經結願也、公卿六七人來、

卅日、亥小雨、入夜甚雨、申刻參仁和寺、兩女院、八條院、入夜歸來、今日戌刻、右中辨棟範朝臣頓滅、昨日參入取布施、今日忽然而赴他界、無常之煞鬼、實以無情者歟、頗辨黑白者也、可悲々々、

九月

一日、戊子雨降、旬祓、遙拜如例、又御燈由祓也、中宮御方依御灸治御服藥、無御燈事、

十五日、口參法成寺、奉禮興福寺金堂御佛、相筵頗宜歟、明後日可奉南都云々、行事所太以庭弱、仍侍四人、中宮大夫屬政職、左大史仲親、左衛門尉政經、同親重等差副行事了、中尊爲大像之間、陸地不可叶、以船可奉渡、脇士座光等、奉乘案可用、陸地之由評定了、仰令行事辨親經及侍所事等了、又御面薄其重猶少、仍今十重可奉押、又座光同可押、薄、仍其數薄、二萬枚計同奉相具於南都、可奉

押之故也、自御堂參內、入夜退出、

此日、奉渡燒銀相具、家司長房奉案置法成寺了、
暫奉安金堂內陣云々、

十六日、行事官行事侍等參法成寺、終日可奉渡御佛之間事、致其沙汰、人夫猶不足、入道中納言八百人沙汰進之上、召諸國并御願寺等及僧宮達等、領狀二千餘人云々、手宛定千六百人餘乘太多、而各所進不如員數之間、殆不足云々、國々多以不進、可譴責之由召仰了、

十七日、辰雨脚滂沱、此日奉渡御佛於南都、雨之間船路陸地共以不合期歟、雖然無濕損云々、人夫猶不足之間、今日不遂前途、宿途中、自元三ヶ日之由致用意了、今夜雜事儲、宇治平等院、明夜事、寺家仰國內土民、於木津儲之云々、御佛明後日可着南都給云々、此日依若宮祭、奉幣如例、又與福寺供養祈、春日一社獻幣帛、使盛經、儒士又有告文、次多武峯椎岡等同獻使、有告文、多武峯使文章博士光輔朝臣、椎岡下野守行長等也、兩社帶劍如例、二臺解劍、取副告文於笏拜之、不還昇、召使賜告文也、御佛渡給大炊御門、余於門下奉禮之、行事等不相副、尤奇

怪也、甚雨之間、有濕損之恐、難遂前途之由、親經來申、於今者不及異議、能々奉裝隱、儘可首途之由仰之、條々懈怠事加勘發、無披陳之方、尤不足言也、今日告文銀豫事殊載之、春日告文同之、此夜小除目、被行辨官轉任、長房任右少辨、兼三光雅卿被仰檢非違使別當了、親國雖爲任四位階之上薦、長房兼五位藏人初負、候中宮、々司家年預等又以器量不足、世之所許在、長房仍奏事由補之、

十八日、巳白地向九條、聽聞懺法、即歸大炊殿、召忠季朝臣車、即同車也、

十九日、丙依春日詣精進、洗頭解除如恒、今日見

厩馬等、移馬引出物等撰定也、不足太多、仍申請察御馬十五疋、其中爲神馬一疋、所望栗毛駿也、

廿日、丁造明後日次第、卯刻着束帶、乘毛車、參法成寺、於金堂佛前、奉鑄銀小像、如圖只一度、奉鑄成了、悅恐不少、座主修行法祈念、皆有作法等云々、余歸宅、金造之間也、其間、座主猶在堂、未刻開眼、其時又參堂、座主爲導師、被物一重、布施一裘、被物等經舍利一粒奉範銀像之中、即安置黑漆小帳、

猶遲々、然而依二日景令欲傾、午刻余出座、裝束如例、但薄物滿色下

重而穢物裏參御寺、先公卿起座列立南階西脇、大納言已下降

自西面大臣次余起座降自南階、左大將與相國相揖、

於木柴外乘車、今日公卿先騎馬了、大將襄儀、季長朝臣獻榻、

路頭列、前指神寶、神寶如例、其後移馬舍人居間、大官掌召使、次

言參議等也、大車、次檢非違使、次經、御寺西南到南大門

外、當門中間立車、解轍立榻、舊記立門坤云々、然

而依無其所、向門立之、次太相國、左大臣、自御寺

右大臣、大宮大納言、藤大納言、右大將等也、左大

將經上薦車後、於余車南方下車、來車下、先是

以長房令見寺中、庭上裝束未終云々、又以親經

朝臣、令見寺司列立哉否、歸來申列立了之由、

先是爲拂羅人、道檢非違使於寺門、季國、明基等也、次余卷、簾立榻於車前、季長朝臣役之、

次大將獻沓、余降立、後人々降立之、人々雖懸裾、余獨

不懸之、懸隨身之弓也、即入南大門、向寺司

相揖、別當已下、列門內東脇、南於中門壇上、先拜金堂、

次向西禮南圓堂、二度、次入中門、經大鼓前、斜進

昇西登廊、儲位、南面石階、自同廊東行、經金堂西南

壇上、左大將三位、中將等相從、於唄座禮佛之後、入自休幕東面

此後事不被記也、

玉葉卷第六十五終

玉葉

卷第六十六

建久六年自正月七年至十二月八日
九年自正月十日至正月十二日
十年自正月正治二年至十二月

〔建久六年〕

○此卷九條本迄今以玉澤補之

正月

一日、亥時、寅刻、四方拜如常、已刻手水、依四位還參、以五位上職國
陪、爲午刻、上達部少々來、余着束帶、先出客亭、長
房來、申師直候之由、仰可召之由、即大外記師直、
覽叙位勘文、其儀如例、見畢、留文返給宮歸入、
小兒戴餅、此間、新大納言來、長房申次、欲進之間、藤
大納來、余欲答拜、重廻案、壯年之姪、強不可然、
願以輕々歟、仍聊有相勞事、且可有拜之由、以長
房仰之、即隆忠已下、公卿九人、殿上人十餘人、家司
職事、上官在此列、任位次立之、六位上官等列立、上首練步、皆悉再
拜畢、余以人人々早々可被參七條院之由示之、
依可有拜禮也、即人人退出、其後、余參內、及西
刻、左大臣已下、自女院參入、小朝拜如恒、余已下
立之、節會內辨大宮大納言、未事訖、余退出、
今日、少將立家拜禮、小朝拜等、任位次立之、不

着染裝束、普通闕服袍也、着濃裝束、又節會之時
着胡床、

今日、家拜禮、來臨公卿、

權大納言、隆忠、定能、

中納言、經房、泰通、親宗、

參議、公時、光雅、

散三位、實教、兼良、

殿上人、貫首已下、

家司、師尙、以政、兼親、隆職、師直、

廣房、國行等、任位次立之、

今日、七條院拜禮、左大臣已下參入、余不參、美福門院
拜禮、故殿不立給、雖爲帝母、未必可受攝錄之
拜歟、況於今之女院者、非上皇之同居哉、是以不
參、女院、打出裳、唐衣、爲公家御沙汰、被宛召諸
國也、今日、余家打出白衣、梅表着、濃打衣、
二日、戊子天陰不雨、此日、臨時客也、尊者左大臣、着染

打下申刻、拜禮畢着座、少將其輔、先居尊者饌、陪膳兼親次一獻、以政持次二獻、取余資、頭中將、殿上人飯、次居海雲汁、干燒、次下箸、次三獻、實明、居雞羹、雞足、生催馬樂、安名、席田、眉刀自女、定能、助音、次四獻、忠經、上下揭、左大臣、放、居菓子、朗詠、又律歌、青柳、次五獻、又朗詠、酒色、居落指粥、引出物馬一疋、鹿、拔箸、自下膳一起座、尊者退出自門廊方也、

今日、定能卿依家禮、昇自中門內方、而通親卿昇自南階、中納言用此路、何年例哉、尤珍事也、可謂奇恠々々、

今日、少將着紅梅織物下襲、萌木表袴、螺鈿劔、紫染平緒等也、公卿座、高麗壺上、敷高麗端龍鬚、其上敷東京錦茵、爲大臣座、其次敷高麗端圓座六枚、爲納言、參議座、先例、或大臣來之時、臨期敷改唐錦上鋪茵等、然而、多不然之上、長承二年故殿、初度無此儀、或說於寢殿行之時、不改座之由、見爲隆記、此條頗不審也、然而任常例、今日不改之、又如寬治五年記者、敷色々綠圓座、如大襲、紫青高麗也、而年々記、皆高麗圓座也、仍用常例、又大臣座上鋪、有敷青端之例、同依非常例、不用之、余座良面、勸

孟人居座上、又第三獻、尊者取孟也、余着打下重、不着半臂、最老之儀也、今日打出二色、紅打、紅梅表着、蒲萄染唐衣、

三日、巳天晴、巳刻手水、陪膳兼親、即小兒戴餅、又見鏡、申刻、着束帶參內、先參朝餉、次參中宮御方、宮自去夜聊有御歡樂事、深夜御汗出、今朝平減給云云、爲悅不少、秉燭以後、先參宣陽門院、於公卿座、謁女房、尤可被招入簾中、歟、太無禮儀、次參七條院、以信清傳女房、被呼入簾中、敷茵爲余座、即退出歸畢、入夜、有殿上、並宮御方淵醉云々、

子刻、職事三人申吉事、兼宗朝臣、親國、出行以前、長房申吉事、方、又定經申吉事、已上傳奏也、長房申家政所吉事、

四日、庚雨降、召兩大外記、并宗賴朝臣等、叙位日次、并少將叙四位從上一例事也、致其沙汰、五日、凶會并余衰日、六日九坎、六日其難雖輕、猶依式日、五日可被行之由仰畢、關白衰日、其例太多之故也、又定家、公清等歷六年、少將七年、不可入勘文之由、大外記師直申之、良業必可被入之由申之、師尙勘申

先例、如三件等例者、尤可入之、仍其旨仰畢、此日、宗賴爲仰召仰、并執筆之事、向左大臣亭畢、其次、少將入勘文之間事、仰合之、可依良業申狀之由被申云々、戊刻、參法成寺阿彌陀堂修正、季經卿外、公卿不參、先神分、次初夜導師、次湯漬、余座略之、依無可然之公卿也、僧座許居之、次大導師、次錫杖之間、賜大導師祿、以政朝臣取之、次余退出、他僧等布施、於座不賜之歟、此日、大將來、病愈畢云々、然而、未返給拜狀之間、不出仕也、

五日、辛卯陰晴不定、此日、叙位議也、巳刻、職事等來、於外出居、內覽申文、余冠直衣、申刻、着束帶參內、日沒、左大臣參陣、即有召、余着殿上、大臣已下列立弓場、此間秉燭、大臣着殿上、余參御前、大臣同參着、右大臣又參、次大納言定能、中納言通親、泰通等卿、置宮文、參議着座之後、依召余并兩大臣、着簾下圓座、奏三十年勞帳、返給復座之間、余賜御硯宮申文、大臣依仰召、續紙、良摺墨叙式部、外記宮無省奏、召宗賴被尋問、申云、省奏加申文畢云々、此事未曾有也、省奏者、立籤入外記宮、付短冊、加硯宮申文事、何例哉、然而、更召省奏之條、依可懈怠、余

撰出與執筆、即叙之、次叙藏人、余示之、次召院宮御申文、此間、叙王氏、持參御申文、忠經、合四通、大臣指笏押宮奏之、返給、叙氏爵殘、次叙外記史、次叙院宮給、次余與外記勘文、折紙、申文等、次第叙之間、依寒風、余參簾中、此間、執事召入內、一加階勘文即進之、宗賴朝臣、大臣指笏進寄奏聞、只一通文、可也、不知返給復座、皆叙畢之後、一度鈎勘文、又申文故實歟、更見合、一々懸勾、入第三宮、叙殘申文、并外記勘文等、加入叙位奏聞、先是、放叙位殘紙、奏聞御覽畢、余卷之、勘文、申文等、不可返給之由、余密密奏之、仍叙位一通返入宮、返給大臣、取之取出叙位、置宮左也、之後、置替宮、所移入第三宮之文書等、如本返入之後、取副叙位於笏、揖退下、殿上授入眼、上卿左衛門督隆房云々、參議公繼卿云々、余參宮御方、泰通、公時等卿、各悅其息加級、定長卿悅自弟昇進、子刻、余退出、宮猶有御不豫之氣、但殊事不御也、

今日、參入公卿、

余、左大臣、

右大臣、
大納言、定能、
中納言、通親、經房、泰通、親宗、隆房、

參議、忠經、公時、
公經、定長、

六日、壬辰、天晴、巳刻、左衛門督隆房卿來、悅加階事、自三七條院、賜書札於女房、薄樣立文也、御使信雅朝臣、即獻御返事、畢、奏覺申平等待一切經會之間事、今日早旦、俊成入道參入、悅申其息定家入叙位勘文之事、余念誦之間不調、逢女房丹後、談和歌事、退出云々、生年八十二云々、言語、耳目、共以分明云云、

七日、癸巳、天陰、此日、白馬節會也、午刻、着直衣、參內、於直廡、改着束帶、未刻、左大臣已下、諸卿參集、先有加叙、隆雅朝臣、叙正四位下、般富門院當年御給也、叙位夜、件御給、自本所、賜他人、而下臈仲經叙正下之間、忽改給隆雅、被申叙云々、又外衛中一人、有被止位記之者、同自彼女院被申云々、內辨進中門邊之間、內侍加賀、持下名、居東階上、內辨左大臣賜下名、無持、着宣陽殿兀子、召三省給之、歸出中門外、次引陣、次內辨着兀子、次內侍出、次內辨謝座、向西揖、向乾再拜揖、如例、先突左膝也、殿、開門、圍司着之後、奏叙位宣命、見之、次下位記宮、次召舍人、少納言隆經就版位、內辨召三刀禰、次外辨大宮大納言實

宗已下參列、上首陣、內辨仰敷尹、無非、謝座、謝酒着座、近仗立、次叙人參列、內辨盤詞、次召給位記、次宣命拜、叙人云々、次白馬奏、右大將一人、次白馬渡、次粉熟、次飯汁、次下箸、次一獻、國柄、仰參議、次二獻、召忠經、仰御酒勅使、次三獻、奏宣命見參、復座召公繼、給宣命、召實明、給祿法、次宣命拜舞、次左大臣歸昇拔、於中門內小庭上、賜祿、一拜退出、事畢改裝束、歸宅、

今日節會、內辨謝座之外不練、如何、白晝之時、每拜尤可練也、又外辨上首實宗卿、參列之時練步、昇堂之時不練、如何、又宣命使泰通卿、凡不練之、此等皆違例也、凡此卅年以來、秉燭以前、白馬渡事、未曾有例也、仍人々頗忌、故實一獻、外辨公卿、皆先突左膝、通親卿獨先突右膝、是一說也、又異位重行之時、二位中納言ハ、大納言列末、頗二許尺引入天可列也、而平頭列立、如何、中納言上首通親也、於此條者、決定失禮歟、又內辨於軒廊、取宣命見參之時、於柱外砌、取之、外記自其前進、文云々、定能細說、此事余不見之、此事未知事也、取白馬舞妓等奏之時如此、於宣命見參者、大內之儀、於石階下取之、里內只於東階

下可取也、外記自左方進杖定例也、

八日、甲午天陰、此日、御齋會初也、大宮大納言爲上首云々、

法成寺咒師、猿樂等裝束、多以到來、各分賜畢、戌刻、參御堂、其後、女房同參、予半部車、前驅地下君達五六人、藏人五位七八人、衛府長忠武、着布衣候車後、出車二兩、殿上人車、半物、雜仕車、不行列、出車後、新大納言連車、其後、少將着直衣、扈從、余用網代車、

先以參入、已殿上人等在余共、地下君達前驅之時、殿上人候扈從例也、咒師五手之後參內、女房同之、依吉日、宸作也、今日、公卿七八人參御堂、

自今日、中宮御所、於法成寺、始修宸勝講、僧五口、五日同答、又於日野樂師堂、以僧十二口、始樂師經御讀也、經限以七ヶ日、又以實詮法印、修樂師法、余今日於御堂、始所作胎藏大日五字真言也、七ヶ日之間、可滿一落又也、依有所思也、又於本願御在所、有祈申事、心有感應歟、

九日、乙未雨下、今日候、內程、無殊事、今日、中宮無御溫氣云々、戌刻、參法成寺、季經卿外無他卿、余湯濱陪膳、依無四位、用殿上人能季朝臣、所作如昨

日、咒師二手之後、大導師、事畢歸大炊亭、

十日、丙申陰晴不定、及晚天快晴、入夜月明、今日召集平等院樂器等、破損殊甚、明日、大略見畢、今日支配人々、爲修理也、

戌刻、參法成寺、所作祈請等昨日、○日下恐有脫字、咒師二手以後、大導師畢、退出、今日、左大辨定長、兵部基親等參入、余湯濱陪膳、依無四位、家司能季朝臣勤之、如昨日、

此日、親經朝臣、申東大寺供養御祈事、條々雖別紙下給畢、又有可仰合左大臣之事等、其旨仰畢、定長卿申云、東大寺中門棟上日、可急注給之由、上人申問日次之處、十七日宜云々、其定可下知云々、又云、修正於大佛殿所行也云々、

十一日、丁未天晴、法勝寺咒師裝束、實經卿、公繼卿、兩人分、且進上、公繼卿所進殊美麗、各可分賜之由仰之、公定申御齋會初日外記遲參不參散狀、各儘可召籠陣之由仰之、宗賴申條々事、其中有僧事之間事等、證菩提院、山分阿闍梨事、觸遣正義院宮許、件宮知行彼院事、然而、身爲寺法師、進退山分阿闍梨、理不可然、須申公家爲上御成敗之由也、今

旦、能保入道之許、諷諫條々事等、有伏理之報、其息尊長、山法師不望僧綱、尤不可然事其一也、入夜參御堂、少將良輔相伴、但依幼稚、令着布衣、是先例也、又宮女房三兩參入見物、咒師六手之後退出、所作、祈請等、如日來、今日、殊有感爲悅、

常祇候殿上人五六人相具宮女房也、又公卿今日七八人許參入、經房、泰通、親宗、實教、兼良、成經、季經等也、今日、湯濱陪膳兼親朝臣、

十二日、戊陰晴不定、資實進基家卿咒師裝束、大赤袍、文、小黒袍、銀文、是模、王納蘇利也、未見事也、宗賴來申條々事、多是僧事之間事也、今日、記錄所評定年始初日也、六位史固辭、大辨陪膳、是非寄人勤其役、無面目云々、仰子細於隆職宿禰畢、伏理無陳方、入夜參法成寺、咒師

二手畢、大導師昇、事了退出、所作、祈請如日來、此日、少將參內、不參法成寺也、此日早旦、隆憲法印來、召籠外調之、

十三日、己雨降、入夜止、深更月明、此日、於陣被定尊勝陀羅尼供養日時僧名、上卿平中納言親宗卿、并左少辨資實、又被行僧事、以宗賴朝臣奏事由、亥刻參御堂、咒師二手、大導師、所作畢退出、今日、光

雅卿一人參入、念誦、祈請如日來、今日、余欲參法勝寺、依雨留了、明日可參入也、今日、少將參鳥羽、入夜來、僧事、

權大僧都靜嚴、元少僧都、二會也、源實、元同少僧都三、第一二、共不足、叙川盟也、

覺辨、公請勞、元職同前、

權僧都勝成、律師一、

權律師增覺、三會巡第三也、第一章玄身爲法印、第二忠殊、爲難講之上、龍居年久也、

經圓、天台灌頂一、

信賢、東寺灌頂一、

能性、真禪、大僧都中、之、能保廟子也、

法印慶智、大僧都一、檢先例、爲大僧都第一之人、古昔任僧正、中古以來、多叙法印、仍叙之、

法眼公覺、實圓、拜大僧都、中、之、元阿闍梨、

法橋長宗、覺增拜少僧都、申之、尋源、玄弘拜少僧都、申之、

行超、覺支拜律師、申之、任尊、圓宗寺功、

融覺、法勝寺功、

又實慶僧正本房桂園院、申寄阿闍梨三口、依先年公家御驗者賞也、

十四日、庚子天晴、此日、御齋會并諸寺修正結願也、晚頭、着直衣參內、先是、官應事了、右大臣已下參內、

右近陣饗之間云々、以右近陣用余參宮御方、此兩三日、御心地宜云々、右陣也、明日可有御湯、小時參內御方、

即出居着座、次右大臣已下着座、平座、已如次僧侶着

元子、覺成、覺藏、兩僧正已下、東面北上、其餘僧綱次東寺法務覺

成進寄、加持香水作法畢復座、次律師下蒲成實讀交

名、不聞、如復座、次當講順高着西元子、北先表白畢、

覺憲召賢圓丁、着東元子、論義一帖、第二重答者取

帖之後、不聞答復座、已下若次又召仁快同前、次

順高復座、次召問答兩人、作法同前、又召兩人同

前、寂末答者、教化畢復座、次右大臣已下取祿、此

間、余歸參宮御方、次參法勝寺、公卿多參入、余兼催

仰也、咒師三手之後、參法成寺、又咒師三手之後、次

第如例年、受牛王退出、今日、所作結願、祈請之間、

有感應、可仰可憑也、

加持香水作法、衆僧着元子之後、覺成僧正、起座東

進、自問答元子之間、北進、就机下、跪置扇、其上

置五鉢、板上置扇也、又無先於左袖內結印契畢、

更以右手取五鉢、加持數反、以左手取之後、又置

五鉢、以右手取散杖、一本、本有加持東方灑水、當僧

如本置散杖、更今一散杖、加持西方灑水畢、如本

置、置更取始散杖、灑東水、是主上御次取後散杖、灑

西水、是臣下之後、取五鉢又加持、加持畢、取加扇

起、經本路復座、今日、右大臣取祿之時、乍立授

祿、退跪授、他人皆跪授、錄、

十五日、丑天晴、座主被來、僧都所被相具也、今日

參內云々、又大將來、持來除目抄物也、自去年秋

比、自舊大間成柄之中、所抄出云々、尤要須之物

也、春秋并八卷、少々可直事等、指示畢、

此夜、節供陪膳兼親朝臣、女房雖候內裡、節供自南

面供之、如在儀也、

十六日、寅天晴、仁和寺宮送使、僧事之間、令申入、

事等、有勅許、悅畏申之由、所被示也、其上被借

三五要錄平調卷、即付使借與畢、垣代圖同之、宗賴、

親經等申條々事、其中、宗賴申伊勢太神宮外宮禰宜

事、入夜參內宿仕、此日、少將歸參鳥羽畢、

十七日、卯朝間小雨、入夜天晴、此日、御方遠行幸也、

亥刻行幸、余候御後、右大將供奉、總公卿七人、皆以

退出、供奉還御之人、只泰通、光雅而已、押小路御所、

密々殷富門院渡御、被奉待行幸也、須先以院

司申事由也、然而表非御所之由、仍置寄御與

於南階也、鈴奏、出御入御、每度也、今日、召典樂頭丹波賴基、密々有尋問事、今日外宮禰宜依祭主舉、可補之由仰畢、

十八日、辰天晴、寅刻還御、余供奉、申刻退出、此日、蓮花王院修正、內女房參入見之云々、入夜、公經朝臣調色、咒師裝束過差、尤不便、仍奏事由、可返給之由、仰資實、美麗之條雖珍重、過法之條、尤可被誠欺、但又可隨勅定之由仰了、

十九日、巳天晴、申刻向九條、舍利講如常、此夜宿九條、

此日、外記政始也、上卿親宗卿、參議數輩參仕云々、廿日、丙天晴、講演畢、入夜歸大炊亭、親經來、申東大寺之間事、

廿一日、丁天晴、宗賴申常供田之間事、祭主能隆朝臣參上、條々尋問、大略無申述之旨、歟、親經又申東大寺之間事、齊衡例發遣宇佐使之由、良業勘申云々、余仰可仰合左大臣之由、須任彼例、尤被發遣也、而彼度未垂跡於男山、仍被立彼使、尤必然事也、今可被立石清水使、強不可及本宮哉、驛家雜事、連年之營、庄公定嗽々歟、殊仰宰府、於本宮一

被修殊佛事、如何、但任彼例發遣、猶正儀也、然者、路次雜事、可有別計略歟、此等旨可被仰合之由含畢、頭中將兼宗朝臣、申熊野詣暇、仰可奏聞之由、但自今以後職事遠所物詣、可被停止歟、去年宗賴、今年兼宗、連年職事遠行、尤不可然事也云々、東大寺寄檢非遠使、可仰季國之由仰之、又伊勢太宮司盛家罪科事、被宥可宜歟、任限今年許也、公卿多申此旨之故也、此旨仰宗賴畢、又頭中將申太神宮鑲鉾之間事、有兩條、共不及造替、修補可宜之由、祭主申之、仍仰其旨畢、

又別宮遷宮懈怠事、可問齋宮寮、并神宮之由、仰宗賴畢、此兩三年致懈怠事也、

廿二日、戊陰晴不定、宇佐使事、猶只驛家雜事闕分、爲私勤可勤仕、可被聽昇殿之由、可尋所望之輩之由、仰宗賴朝臣、不被發遣使之本條、猶無其謂也、去々年恒例使也、明年又當其年限、今春、諸國疲勞、今又此雜事相加之條、決定闕如之基也、仍偏相憑庄公之勤者、更以不可叶、仍石清水奉幣可定之由、中心雖存之、重廻思慮、事已重事也、彼寺事八幡菩薩爲主之由、見度々官符、再興隆之時、尤

可被_レ申_二彼宮、仍無_二國土之煩、爲_レ被_レ遂_二使節、所_レ求_二新殿上_一也。仍仰_二合大臣、事整可_レ停之由、仰_二宗賴_一畢、

廿三日、_酉朝間天陰、午後天晴、今日、女房參_二三ヶ寺、_{廣隆寺、行願寺、六角堂、密々事也、}召_二人車、侍男共四五人許也、午刻、着_二直衣_一參內、此夜、仁和寺宮、_{御室、}始於_二禁中_一、被_レ修_二佛眼法_一、_{八口、}戌刻許、先被_レ參_二於二間、有_二御對面_一、主上御引直衣、余候御、小時被_レ退_二宿所_一、_{座也、}亥刻參上、被_レ始_二時、主上於_二簾中_一逢_二時給、余候_二御傍_一、法親王行法、法體尤神妙歟、時畢、於_二二間_一有_二御加持_一、此夜、中宮御祈、覺成僧正修_二五星供_一、今日、中宮書_二金泥心經_一依_二御願_一也、今夜宿候、廿四日、_戌天晴、酉刻許退出、於_二內裏_一、宗賴申_二條々事_一、太神宮常供田之間事、左大臣被_レ申之趣、強不可_レ及_二御占_一歟云々、但分明不_レ被_レ申切_二云々_一、重可_レ召_二祭主_一之由仰了、又進_二除目所望輩內目錄_一、廿五日、_亥天陰、午後雨降、宗賴朝臣來申_二條々事_一、親經、定經等_{與行事辨也、}來、申_二東大寺供養之間事_一、長房申_二同宮行啓之間事_一、自_二今日_一、修_二除目修法_一、卯性僧都爲_二大阿闍梨_一、不勵法如_レ例、

廿八日、_甲天晴、此日參_二八條院_一、_{御座、}今日未_レ參之故也、歸路留_二九條宿_一之、

廿九日、_乙天晴、已刻歸_二大炊亭_一、逢_二修法時_一、

卅日、_丙除目云々、天晴、辰刻、着_二直衣_一參內、已刻、於_二直應_一內覽申文、職事五人皆參、次於_二朝餉_一奏聞

如_レ例、申刻撰_二申文_一畢、酉刻、左大臣已下參入、宗賴朝臣仰_二召仰事_一、余着_二殿上_一、藏人召_レ之、小時、左大臣已下列_二立弓場_一、_{大臣、北上、}兩丞相着_二殿上_一、_{左大臣入、自、}如何、余已下着_二御前座_一、次隆忠、定能、通親、經房、

置_二宮文_一、次參議雅長着座、次主上召_レ余、余着_二圓座_一、東面、次召_二兩大臣_一、各着座、次依_二御氣色_一、大臣奏_二闕官帳_一、_{取_二移文書_一之間、見_二闕官帳_一、他文移、}畢之後可_レ見歟、但被_レ執_二此說_一云々、次賜_二大間_一如_二先々_一、

次任_二內豎三人_一之後、召_二院宮御申文_一、_{光雅、}小時持_二參之_一、押_二視宮_一奏_レ之、返給復座、置_二少宮少_一、此間、賜_二御宮申文_一、余置_二前撰_一分袖書之申文等、此間任_二四所_一了、余賜_二院宮公卿給等申文_一、書_二袖書_一召_二定長_一召_レ之、先是有_二功過定_一、定藤大納言、見合忠經、讀帳定長、定文公繼、

二月

廿三日、朝間天陰、午後晴、此日、公卿勅使召仰也、余
 午刻、着直衣、參內、上卿勅使等、申刻可參入云々、
 未刻、中將良輔拜賀、先申內御方、申次藏人少將公、次自
 堂上、參宮御方、申次宗親朝、余候內裏之間、別不申
 之、即向大炊亭、申女房、申次、中將伊輔、少將成家
 等扈從、諸大夫二人、騎馬在車後、童二人、府隨身
 四人、本隨身二人、着布衣、爲雜色、隨身着朽葉
 袴、

今日、參內以前、宗賴申條々事、仁和寺宮、被申勸
 賞、仰可示合左大臣之由、又和舞東舞裝束事注
 申、人々申狀等一定、仰下之趣、合點賜之、參內之
 後、親經申條々事、左大臣申狀也、具不注之、

申刻、進內豎於勸使左大將家畢、同刻、上卿左大臣
 參陣、被定廿二社、伊勢在此中、奉幣、並日時等、秉燭之
 程、勸使參入、先是着陣、與左大臣問答使節之
 間事云々、其後、余又招寄大將於鬼間邊、聊有示聞
 事、入精進屋、輒不可他行之故也、其後、勸使參
 着殿上、奉行職事長房、參朝餉、申勸使參入之由、主
 上自宮御方、只今有還御也、余候御前、奏事之
 由、仰云、伊勢太神宮可被奉幣帛、爲勸使可參

詣、又來廿九日發、來月四日可參宮者、長房仰勸
 使畢、即勸使於弓場邊、解劍參內侍所、入北祈、祈請
 之後退出、向川原、祓遙拜等畢、入精進屋了云々、
 余參宮御方、深更退出、

廿九日、西天晴、入夜雨下、此日、天皇幸神祇官、發
 公卿勸使、左大將、上卿左大臣、先宮冠、自閑院幸大
 內、無給奏、親經朝臣、持參宸筆宣命草於朝餉、御書寫、
 此間、余退出、長途步行、依不可叶也、余參中
 宮、閑院、被獻小神寶、事申沙汰之、午刻參神祇
 官、都芳少、小時臨幸、昇居御輿於壇下、敷蓮、公卿列居、
 余同居蓮上、內侍二人在戶內、垂候、受劍璽、下御
 之後、余同參入、御手水之後、頭并、御拜、東間、畢召
 舍人、二音如例、少納言參上、又中臣已下參上、賜幣、
 召中臣、仰勸語、各退出、幣物出宮門之後還御、
 此般、傳御與寄、依問奏、余向大將出立所、大將乘馬之
 後、余於大炊御門東洞院見物、歸參內裏、宿候、

〔建久別記〕伊勢公卿勸使別記
 建久六年
 二月

十二日、戊辰今日有殿上議定、是東大寺供養事可被
 申伊勢太神宮哉否事也、儀定之趣縱橫云々、或
 佛事不被申神宮云々、或天平被發遣公卿勅
 使之由見要錄、任彼例可被發遣云々、或又
 期日已迫、可有其煩哉、供養以後可被發遣云
 云、以件等趣被奏聞處、猶可被發遣之由勅
 定切了、天平大臣諸兄爲勅使云々、今度必不可
 爲大臣云々、

予當使節之仁之由、殿下内々被告仰、於家雖
 無其例、殊有存旨之由有仰也、

十三日、已近日有寫經之事、而公卿勅使事、内々
 雖用意、職事示告其由、可憚否尋左大臣、件人兩
 此役依爲吉
 例所問也不可告之由被答、仍不止之、

十四日、庚午公卿勅使事於家無例、仍爲祈申其
 事、可參春日社、仍自今日始精進、先參殿下、

次向北小路亭一條西堂、仍精進有憚故也、今
 夜、左大將狀返給、是爲勸公卿勅使也、子細在
 別、

十六日、壬申今日可參春日、而常樂會間聊可指合
 之由、別當僧正示遣之、仍延引、明日可下向也、

殿下渡御有仰事等、可祈念事等也、

十七日、癸酉今日下向南京、半部車前駢隨身布衣、予
 直衣、路間用船、參社之時、予束帶、前駢衣冠、隨身
 上臈別車、同委者見曆記、參社之路、於興福寺北
 面逢鹿、仍下車拜之、料知有感應歟、春日神
 事不急寺僧、雖然依公卿勅使内々用意示寺
 僧、不參東大寺興福寺、

十八日、甲戌申刻歸洛、不改行粧、參殿下、令
 參内裏給、依仰予御共參内、後二代御記披取
 出、公卿勅使行幸事被注出也、

廿日、丙子藏人右少辨右衛門權佐長房、承勅來里第、
 予着冠直衣出逢、仰云、來廿九日可被發遣伊
 勢公卿勅使也、勅使事内々可用意者、予申承之
 由、又仰云、召使事來廿三日可仰也云々、抑、兼日
 内々仰先例、職事以書狀告之、今後來仰爲異
 他人歟、頗似召仰如何、

此亭去年有產事、仍胞衣等所置之、可憚哉否、
 問神祇權大副兼貞爲季等、各申有憚之由、二條
 亭西入道家可渡住之由口示遣了、即參殿下申
 勅使間事、次向一條亭西家、豫令於佛經僧尼雖輕

服月水之輩女房等、兼令未儲也、自今日立神事札於家門、

廿一日、丁丑未刻許風頓吹來、梁上塵飛散、是當時居住北面也、他所更不吹云々、仍成奇、以人令見之處、梁上有卷數、仍令撤去、雖末代猶奇異事也、爲後注置之、

廿二日、戊寅入夜密々參殿下、有被仰條々等、多是可祈請申事也、仰召以後不出行之例也、而近代內々仰以後不仕、雖然先例多以不憚、仍所參入也、凡憚出行之意、依恐不慮不淨也、仍殿下御所被禁不淨、又可參之由有仰之故也、

廿三日、己卯天晴、今日伊勢勅使召仰也、仍早旦洗髮沐浴、本結用新物相待勅喚、申刻內堅來仰可參之由、

申承由畢、若束帶蒔繪劔、必不用新調、但可有用心也、參內、毛車、隨身冠、前近入人、應從殿上人三人入左衛門

陣、欲着殿上之處、左大臣於仗座、廿二社使之定申云々、仍先着陣、思事理定了、後可承使事之故也、就中、中御門右府勅使之時如此也、定了後勅使之間不主條々問答之、次參殿上、藏人辨長房仰云、來廿九日可被奉幣帛於伊勢太神宮、其使

可勤仕、又來月四日可參宮、先予承仰微唯退下、

於弓場殿解劔參內侍所、應仰女官、令數座、又仰枚數、座卷、入北戶、着座奉拜之、兩段再拜、無爲可遂

之由祈申之、件事舊例不見、久我相國召出女官、仰付祈由云々、近代多自參、相尋左府之處、我所自參也、今度事多守彼命之上、以慎信可

爲先、仍所參也、即退出於中門邊帶劔、次向東河修祓、二條末祓具座等本家儲之、薦上敷高麗帖一枚、可用半向太神宮方也、陰陽師大膳權大

夫季弘、陪膳以政朝臣、幾凡召其儀如恒、次奉遙拜、兩段再拜、神祇官盟中、八度可拜之由、雖然口左有凡件所奉

行職事長房仰檢非違使、令掃除、故實不定、其所廣令掃除云々、不慮穢物出來之時有憚云々、次

向精進屋、件所一條南室町東、皇太神宮御所遣入車於門內、同大下車、神祇權大副兼真申之、於門外可下云々、而左府

影向之處、只私深齋之所也、何同可仰哉云々、理可然其後又行

水口、次於南庭、河原修、其儀同次遙拜、但即位冠取、件所鋪設皆悉新調之浴具、又同兼遣入所々令洗

酒也、門立犬猊、付鹽筒、引規繩、或引之、或不引之、左府引之

也、神事札不立之、雖不立顯然之故也、見日記

也、自今日、每日白麻一帖、磨牙一折積、付女官獻內侍所、令祈申、是例也、今日予參時、女官申上之、只振鈴也、凡入精進屋之人、當日潔齋、不然雖拾犬糞之外、通常事也、又犬糞付鹽筒、取入物泥鹽也、雖不可供奉之輩、朝夕伺候輩令潔齋仕之也、供奉各於私家潔齋、或五日或又三日不定云々、自今日僧尼服者書札不取入也、召仕女房雖不可苦之由、本官輩申之、雖然依無其要、不相具也、

三月

一日、丁天晴、此日、日蝕也、未刻虧初、申刻復末云々、余伺候禁裏、勅使、他以前起勢多着甲賀云々、四日、戊天晴、此日、公卿勅使參宮日也、雨不下、悅思給不少、神齋殊密、公家日來每日御拜如常、今日、同入夜有御拜、依爲庭上儀也、十日、乙丑刻、行幸南都美豆頓宮、如春日行幸、未刻、着御東大寺內頓宮、申刻、余已下、行事公卿、少々參大佛殿、令檢知莊嚴事、入夜歸來、雜人禁止之間事、仰賴朝卿畢、

十二日、丁甘露相再、午上天晴、未刻以後雨下、此日、東大寺供養也、卯一點、着東帶、紅下重、淨參御所、人參入、即駕風盤、幸大佛殿、以七條院別當權中納言親宗卿、申事由、復命之後、寄御與於西昇廊西面、近將候、下御之後、先御大床子御座、即渡御七條院御方、輕佛前、先御禮三度、無別御座、只於蓮道下拜給也、劍璽供奉、余候御裾、即還御、此間、上卿左大臣、奏願文清書、加御諱、畢返給、此間召仰式部、彈正、辨、少納言等、着中門座、次余着御前座、以頭中將召公卿、次太相國已下着座、次亂聲、振棒、忠節、次殿上人、昇佛布施、名香等机、立佛前、次和舞、次東舞、次迎衆僧、次迎導師、咒願、次總禮、余上首、帶劍於座解之、他人自本解之、又自前進也、禮了又帶之、次供花、次菩薩、蝶鳥、次第舞之、次唄、次堂童子着座、次分花宮、此間雨下、然而、依雨早散花可進之由、再三加催促、然而、一切不進、及數刻、然間、雨脚尤密、仍有議、衆僧行道堂上、樂人在中、又樂屋左在西、右在東、是東大寺例云々、事訖、秉燭還御、頓宮仰賞、上卿光輝、十三日、戊天晴、寅刻還御、余爲參詣春日、身假逗留、即向佐保殿、

十五日、庚子天晴、此日、中宮有御着帶事、承曆以後、於內裏有此事、歟、元永、治承又同也、寬弘五ヶ月

有御退出、又於禁裏、不記着帶事、憶事理、於

里亭可有此儀、仍追寬弘例、去八日有御退出

也、吉時申刻、加持山座主、使權大進宗房、依無障御帶

可召之人、皆有障、大將雖吉例、初度子爲女、仍余

所進也、自今日、有每日御祓、但今日、先有神祇官

御祓、每旬日可有之、中間皆陰陽師也、今日、頭宣憲

參上、申吉時、又候御祓也、御加持畢、於晝御方

帶之給也、其後有御祓也、典樂頭基賴持參仙沿子

二七枚、入御帶中也、

自今日、始藥師法、實全法印、

又於座主房、奉始御佛等、七佛藥師七體、三尺、延命

不動等同始之、又三尺也、佛師明圓、少進兼時相具、

向彼房也、

十九日、甲辰爲方違、向水田高濱邊、

廿日、乙巳歸洛、留九條、

廿四日、己酉自今日、始不動護摩、座主、又奉始佛等、

佛眼、白檀一、手抄半座主加持之、又奉始愛染王、不空絹索

等、已上印性加持之、

卅日、乙卯天晴、參內、謁賴朝卿、談雜事、此日、官列見也、通親爲上首云々、中宮有千座御祓也、

四月

一日、丙辰天晴、此日、平座也、旬祓如例、入夜、賀茂詣

定、長房書權中納言泰通、二位宰相雅長、三位中將兼良

等、在座、經房、光雅等雖來、依輕服不候座、事

了着座、談御價法違亂之間事等、賴朝卿送馬二疋、

甚乏少、爲之如何、

九月大

一日、壬午天晴、今日、聊依有不淨之疑、不行旬祓、

不遙拜、姬宮御湯如例、鳴絃範宗、範清等也、宮御

方、旬御膳如例、法勝寺末寺舞樂領、近江國比良庄民

等、鳥羽宮所被召進也、可遣使廳之由、仰行事

辨資實畢、此事依延曆寺釋迦堂亂訴、所被召也、

雖爲會赦事、山門訴熾盛之上、未及斷罪、先爲

召問子細也、親國申條々事、住吉社未作、并大隅

國正八幡宮修造等事也、大理光雅卿來、申沽價法、并

殺生禁斷之間事、各子細在目録、

二日、癸雨下、今日、記錄所評定云々、大外記良業、注進此月公事見參、依先日召仰也、左少辨資實來、申○光院御念佛之間事、此次仰云、記錄所勘文、可引載律令格式文一歟之由、仰含寄人等、可言上子細者、此事廻恐案所作也、延久記錄所者、被下庄園券契、勘文書偽許也、於今之沙汰者、貴賤之訴訟、偏爲當所之成敗、雖勒理非、不載本條之間、時輩、後昆、自成自由之疑歟、仍寄來之所、粗加載本文之條、有何難哉、居諸司之者、皆是可達法律之器也、況又法家博士、多爲寄人、雖有謬說、盡紀正哉、仍所仰此由也、南京維摩堅義者、破新制、可企過差之由結構云々、仍先日下知寺家畢、未申左右之處、猶以達勅云々、仰遣大僧正許畢、又可被祈申大明神事、注子細遺畢、來四日可被參社之由也、

三日、甲雨下、此日、召念佛三昧院住侶等、定仰院主事等、權大勅進、第一圓證、得前大勅進幸尊讓、可補之由仰下畢、又依天王寺別當言訴、朝海、覺遍、已上帶、權勸進職不及、宗覺、長嚴等、可追却寺內之由仰所房舍田地沒收、宗覺、長嚴等、可追却寺內之由仰之、宗覺、長嚴、房舍田地、可沒收之由仰之、又院僧等、一同可書進起請之

由仰了、依爲神事、召集近邊人家、以河內守廣房、所召仰子細也、奉行職事藏人少將公定、執權辨親經朝臣、資實等、同所令召候也、資實申高倉院法華堂三昧供田事、六口各二町可宛照、交坂、大墓、兩御領之由仰畢、但可奏事由旨、同仰畢、

此日、中宮御服樂種之上、有月御事、仍御燈於河原、修由御祓、大進宗方相具陰陽師、向河原、其後供魚味如例、

四日、乙天晴、此日、大僧正參春日社之日也、仍余行水、向南祈請所思、姬宮御五十日、百日、并任大臣、十一月、春日詣、同等用途、內々可注立之由、仰季長朝臣畢、召資實、廣房等、仰傳教院勘文之間事、雅緣盜犯之事勘帖、凡受、尤不便之故也、入夜、經房卿來、於宮殿上謁之、余在簾中、女房居所也、暫以雜談、然而、經房強非可正禮之人、仍隨便宜耳、

此日、頭權亮公房朝臣來臨、以國行、申例幣之間事、招寄殿上謁之、依經房在座、召上長押上上卿左大臣云々、辨問散帖、仰可催定經朝臣之由、依當仁也、又宣命辭別、神宮恠異事、官注申兩條云々、其外、天變事可載之、可仰內記之由仰之、即退出畢、

五日、^丙戌陰晴不定、廣房持_リ來幸尊讓_ニ圓證_ニ之帖、依_レ有_レ可_ニ改直_ニ之事等、返給畢、今日、記錄所式目評定云々、召_ニ經圓律師、妙香院之間、問_ニ不審條々、以_ニ信光_ニ條々事仰_ニ宗賴卿、又仰_ニ親雅卿、兩人共望_ニ濃州國、共余不_ニ許容、依_レ不_ニ相應_ニ也、

六日、^丁陰晴不定、時小雨、早旦、大僧正送_レ書云、一昨日參_ニ社頭、逢_ニ神鹿、深有_ニ其憑_ニ云々、又春日詣事、仰_ニ合別當、權別當等_ニ之處、覺憲申_ニ不_レ可_レ叶_ニ之由、自身又病惱云々、範玄申_ニ必可_レ候蓋_レ叶哉之由、兩人申帖、如_ニ水火_ニ云々、廣房持_ニ參幸尊讓_ニ圓證_ニ之帖、^{昨日}持來、有_レ可_ニ改直_ニ之事等、仍_ニ以_ニ藏人少將公定、獻_ニ鳥羽宮、相觸仰_ニ其旨、今日直付也、

之後、職事以_ニ御教書、可_ニ下知_ニ、先例如_レ此云々、入夜、召_ニ明法博士明基、問_ニ不審事等、^{處分之間}右大辨宗

賴、申_ニ姬宮御五十日、并御行始等事、季長朝臣進_ニ任大臣、春日詣等祿物注文、仰_ニ可_ニ下_ニ知兩國、并御庄之由畢、

召_ニ泰覺、來十八日、如法經、十種供養、供具可_ニ調進_ニ之由畢、座主被_レ示_ニ天台末寺、鎮西大山在民等狼戾、烟誠之由、可_レ書_ニ給御教書_ニ之由、公定申_ニ日光事、親國申_ニ神宮申條々事、

入_レ夜大風、成勝、延勝寺南大門、顛倒畢云々、今日、頭權亮公房朝臣來、申_ニ例幣辨定經領帖、并宣命辭別之間事、以_レ人傳_ニ之、

七日、^戊天晴、公定示_ニ天王寺宮返事、今被_ニ仰下_ニ旨、可_レ被_ニ書下_ニ云々、親國申_ニ條々事、成經持來、申_ニ伊賀國前大將領官物率法事、天變御祈事等、仰_ニ親國_ニ畢、近日、金火二星入_ニ大微_ニ相犯云々、

八日、^己天晴、公定召_ニ具貞覺僧都_ニ來、釋迦堂衆、訴_ニ申比良庄民罪科事、爲_レ赦_ニ前之犯、不_レ及_ニ斷罪、又其外非_レ可_レ有_ニ裁斷_ニ之事、是魚肉賣買之間事云々、仍不_レ及_ニ他沙汰_ニ之子細、仰含畢、此次、宇津宮訴事、貞覺令_ニ申、又仰_ニ子細_ニ畢、

廣房、隆職、良業等參上問、法成寺領越前國會萬布庄民、堀_ニ土鏡_ニ之間事、引見可_レ申之由、各所_レ申也、又資實來申_ニ條々事、入_レ夜、祭主能隆參入、召_ニ簾前、仰_ニ中宮御祈之間事_ニ畢、此夜、中宮御祈、修_ニ焚惑、宣平、太白晴光、等御祭、又始_ニ一字金輪供_ニ、^{屋簷}皆是天變御祈也、又始_ニ金剛夜叉供_ニ、親嚴、爲_ニ御膳不調之御祈_ニ也、親經申_ニ條々事、

九日、^庚天晴、公定來、申_ニ念誦佛三昧院々主事、幸尊

讓帖、圓證雖有申事等、又宇津宮事、召進官下文、仰可給座主之由畢、雅緣法印來、樂師寺鎮守八幡八講用途之間事申之、去夜爲親經奉行、遣御教書之間事也、今年覺乘、寺僧之間事、有未斷事、付番僧公圓、可令致其沙汰之間事等也、雅緣條々有申旨、又仰畢、大理申沽價法、并道造等之間事、頭中將公房來、申例幣宣命辭別、并今日平座之間事、及晚、新大納言來、於宮殿上余謁之、今日平座、公卿八人參入、近年如此、人數濟々例、未曾有云、

宗賴參入、仰御五十日御行始事等、此日、大將作文、十日、卯天晴、資元進天文密奏、金火二星入大微、各相犯事也、豫內々司天等申此事、仍御祈等、所被修也、

今日、進奏歟、親經朝臣申條々事、其內、傳教院事、進記錄所勘文、予出條々不審問之、以此趣、重加評定、可申沙汰云々、

十一日、壬天晴、此日例幣也、上卿左大臣、辨右中辨定經朝臣、職事左權亮公房朝臣等也、宣命有辭別、神宮佐異、并天變事等也、

今日、俄有穢、內外宮禰宜等之中不審、極位之輩、抽而被授加級、其旨哉宣命、只有所思食云々、是去春、御產御祈之時、若如思食御願成就者、禰宜等可授一級之由、內々被仰祭主畢、而皇女降誕、頗非御本意歟、仍無沙汰之處、猶有神宮感應之由、聊有所有之上、祭主能隆朝臣、少々可被行歟之由、令申之間、奏事由所下知也、加之、聊有夢想之事也、近例、多正禰宜、皆被仰加階、極位之者、讓他人云々、然而、長保、寬弘之比、多以被抽少、今追彼例也、申刻、內記內覽宣命、禰宜加級事、只越交名、不載子細、仍余仰令加越極位之者不及此恩之由、爲後鑒也、

抑依右馬寮御馬不引進、及晚發遣、余聞驚此事、引進私馬畢、以外途例也、寮刀禰前寮頭信清朝臣所致沙汰也、振外戚之威、關嚴重之神事、不恐冥顯之罰、爲之如何、

今日、余修旬祓、去朔日聊有所據不修之故也、遙拜如例、心中有祈請之旨、入夜、宗賴申御五十日御行始、御百日等事、

十三日、甲天晴、親國爲御使來云、右寮神馬事、猶尤

不便、可有沙汰一歟云々、申可然之由畢、寮頭可被召急帖、信清朝臣、恐懼宜歟之由申畢、即宣下左大臣云々、信清事、内々事也、

十五日、丙天晴、寅刻、向座主栗田口房、密々儀也、無前驅、常伺候男共五六人、乘車相從、依爲如法經堂場、自門下車、聽聞後、夜懺法、日出之程、始寫經、先啓白、座主自此如法經、爲先妣所書也、依或女房夢想、余示座主也、其後與座主言談、已刻向九條、入夜、女房同來自今夜、依始恒例懺法也、初夜時以後、歸參中宮御所、先參八條院、謁女房、即歸參也、此間雨降、

十六日、丁雨降、及晚時、頭中將公房朝臣、爲御使入來、余謁之、五節必於大内可被行、束捧十種供具、行列樂人六人、同着童裝束、前行舉樂、鳥向余已下、公卿、定能、泰通、降居庭上、入御之後昇堂、三卿在堂前階以北簀子、數余在堂中巽角壺許、座主已下、上人等、相從御經、皆以着座、導師隆憲法印同着座、但用替圓座、本上人等座、清淨中帖也、次發樂次、傳供、余已下、次有十種樂、次登高座、有樂、說法優美、是不分經三段、只釋十種供具、并所願旨趣也、事了、自是向光明

院、先母墓所也、修小佛事、即奉埋經云々、余不向其所、聊依有憚事也、即相具女房、歸九條、女房歸參宮、余余至于來廿二日、結願、可逗留九條也、仍宿之、

十九日、庚懺法如常、又及申刻、始例講、講師明禪、問者顯尊也、

廿日、辛内府月忌也、

及晚、頭中將公房朝臣、申五節事、仰子細畢、忠季朝臣、申左大臣上表之間事、又申所存畢、猶非重病、被留表例、無慥所見者、可返給之由也、

廿一日、壬晴、覺憲僧正、以三綱申春日詣之間事、指合維摩會之由云々、重仰子細畢、來廿四五日之間、可申一定之由仰畢、入夜、資實參入、仰春日詣事可奉行之由畢、

廿二日、癸雨降、午後晴、懺法結願也、經家、親雅、宗賴等參入、事了、引布施、口別入夜參内、奏五節散帖、依勅定、仰公房朝臣畢、即歸參宮、大炊亭、

廿三日、甲自今日、座主於無動寺大乘院、被修勸學講、以平泉寺領藤嶋年貢千石、分給山上、上人師等、勸門弟等、行八講、有堅義、番論義等、以拔群者、可舉公

諸之、可令致堅義注記之請文、第一之佛法興隆也、

廿四日、乙資實申春日詣之間事、公定、親國、親經等、申三條々事、興福寺三綱參上、掛可沙汰之由申之、但有申請長者宣事等、即成給畢、大僧正送使、僧都、明年講師請、今年可給之由被示、有子細、可然之由返答畢、

廿五日、丙公房朝臣來、申五節散狀、通親卿請文、尤不便、子細奏聞了、招忠季朝臣、付妙香院、本覺院等事畢、入夜歸來、傳勅願、不許云々、實修事、公房卿不引汲之間、兼申置云々、但重奏聞子細畢、

廿六日、丁天晴、昨今物忌也、

廿七日、戊忠季朝臣、上妙香院等事、重奏聞之處、可問實修之有勅定、仍可問之、又云、通親以請文尤奇怪、仍改定能卿宛越中、定能知公卿分可責通親云々、即公房朝臣來、告仰旨同前、早可催之由仰畢、

廿八日、己土御門中納言、五節領帖云々、素過言無益歟、尾籠之人也、

廿九日、庚此日、修如法泰山府君祭、晴光、天變祈也、

卅日、辛晴、晚頭、新大納言來臨、資實相共定春日競馬乘尻、并念人等、承曆、寬治、天永、皆無殿上人念人、長元仁平有之、長元雖爲吉例、仁平不吉、仍可用承曆等也、三度例也、

建久六年十月(大)

一日、壬天晴、旬祓如例、陰陽師晴、或人夢云、大一靈告、今冬、可有皇子懷孕之慶云々、仰而可信着胎、今日平座、上卿民部卿左衛門督、參議藤宰相、頭中將忠季朝臣來、示三條々事、妙香院等事、實修稱病、不進陳狀云々、仰可奏聞之由、又東大寺末寺觀世音寺事、定勝知行、不可有相違之由、有勅定云々、入道中納言執申、又女房引組云々、入夜、資季申春日競馬之間事、親國來、仰天變御祈、可有七社奉幣之由、

二日、癸丑

建久六年十一月四日、此日、右大將良經、有任大臣兼宣旨、乘燭參內、

共士主〇〇六人、前駟八人、殿上人少々、公定朝臣云々、

〔建久別記〕建久六年十月

七日、戊午天晴、今日今上第一皇女御五十日也、未刻、
着東帶參中宮、大炊御門亭、殿下御同宿、相次右大臣參入畢、
依仰謁之、被仰早參由也、頃之、右大將參入
加座、申刻、諸卿參集之後、殿下於御賓筵、宮殿上座
也、與第一先、是左大臣以下公卿十人許在座、次被
催皇女御前物、即供之、陪膳宰相中將公繼卿起
座、於中門廊指笏取打敷、經透殿并簀子等、
自階間供之、役送殿上四五位、取御臺參進、
傳之供了、陪膳復座、復殿下稱至之由、
起座令參給、是是可奉含故也、陽明
院二條太后等例也、嬪子內親王母后奉含之由、雖
見日記、依爲不吉、不被用也、件等例皆里第儀
也、自余所見不明也、次供折櫃物五十合、宛諸
十合調進之、或押薄、或國畫等、地下諸大夫運之、於中
仍其體各別也、餅體同凡人儀也、
寄戶外叙之、置弘徽殿南階以西簀子敷之、二行置或雖
經透波殿、五十日、折櫃物五十人、其外加籠物五十枝、有其

例、已如百日儀也、非常例之上、其理不可然
歟、仍今度無籠物也、次供母后御前物、懸盤六脚、
陪膳源宰相兼忠卿、其儀如初、役送殿上四五位也、
以前役人各別人也、但權供了、陪膳退下、今日次第先供
右中辨宗隆親王兩方、皇女御前物、應御殿下奉含之後、女房等內口口御前
物、是運餅折櫃物口了、供宮御前物、其所經宮此次
之間也、第舊記所見不詳、但并供之儀無所見之、理不
可然歟、而保安三年嬪子內親王例、役送人歸參
付籠下取之、女房傳經本路取出之了、供母后
御前物、件例不吉之上、自籠外撤之儀、專不可
然、仍今日內々女房撤之也、次殿下令復座給、先
一獻、四位家司持參盃、次二獻、別當光雅勸盃、此間
殿上五位取瓶子、所々供掌燈、殿上人座等也、地下五位役之、次居冷
汁、大臣陪膳地下四位、殿下右權頭兼親、左大臣前納言以
範俊、右大臣前時盛也、下兼居之、參議兼忠申上之、次第下箸食之如
常、次三獻、等取通卿今日勸盃人、皆不經座
後、經前廣庇、居殿下御座坤板也、如御產時、
是座狹無路之故也、盃每度傳殿上人座也、次居
魚汁、手長役納言以下同居之、但末座略之、依
無便宜、人々令止之、次申上下箸同前、次居菓

子、納言以下兼居之、大次居湯漬、役人不同、大敷穩座、
於南簀子、殿下以下移箸給、予依無其要留座、
右大將同之、少時予參女房中、不見此後事、此
間有御遊、

拍子、新大納言、付歌左少將宗國朝臣、
琵琶、宰相中將公繼、箏、右大臣、
和琴、少納言和房、笛、權中納言泰通、
笙、左衛門督隆房、篳篥、左少將忠行、

其曲可尋注之、

事了、給祿於公卿以下、祿法可尋、次大臣二人給、
引出物馬各一疋、宮中儀其理雖不可然、寬弘、長
和、長曆、皆有此儀、仍今日被巡彼例也、但不
引出庭中、只於中門外賜前驅云々、殿下御隨
身引之歟、可尋、

姬宮御前物、太政大臣調進、

打敷、嘉濃蘇芳浮織物、

御臺六本、

母后御前物、予調進、

打敷、松重浮織物文龜丸、

懸盤六脚、須用○○○○、近代件物難得、仍用櫻
木、有螺鈿(松鱗)面白龜甲浮織物、總白提、

御陪膳女房、各上髮額許也、

姬宮乳母宗賴卿妻、

入道惟方女也、

中宮御匣殿、

取入女房二人同上髮、其體同陪膳、

兩方同人役之、

奉抱姬宮一人、可尋、

御裝束儀、

打出色蘇黃白上襖也、青草黃青裏表着、

龍腦裳、紅打、白腰裳、

以糸結菊芳、付表着裳等也、

○按以下恐缺脫又下文引三中記建久八年四月廿二日朝觀行幸條恐後
人附取今省之
山田安榮附記

建久七年

正月

一日、辛晴、鷄鳴小浴、四方拜如例、午刻手水、直陪膳
衆親朝臣、右中辨資實、申、大外記師直持參叙位勘
文、由、仰、可、召之由、師直入、勘文於覽宮持參、余留
文返給宮、其間、作法如例、次歸入、改着束帶、此
間、公卿等來、余仰、可、參、七條院拜禮之由、余家拜

禮、相待內府之間、依可遲々也、殿上人等同仰、此間、未斜、內府來、余在_三帳中、資質申次也、內大臣、中納言泰通卿、左大辨宗賴、三位中將兼良、殿上人頭中宮亮定經朝臣已下、十余人、上官等拜禮如_レ例、隨身壹胡籙、細工所加_三修理_一之旨遲々、仍申刻參內、西尅小朝拜、余、左大臣、內大臣以下、公卿皆參入、定經朝臣申次、戊尅節會始、

今日、節會事、

小朝拜畢、余昇_レ自_三殿上_一參上、褰_レ母屋御簾、主上入御、職事等不參、召承之同暫迎々、左大臣稱_レ障早出、內大臣已下、着_レ仗座、以_三亮定經朝臣_一、仰_レ內辨、小時、奏_レ外任之奏、即下_レ之云々、次近衛引_レ陣、次內辨着_レ兀子、先是、諸卿侍來、次內辨謝座、經南樹之間、向_レ西揖、向_レ乾再拜一揖、歸入昇_レ殿着座、開門闌司、着_レ召舍人、少納言就_三版位_一、內辨座、大夫達、外辨公卿參列、皆悉列之後、上首咳警、定事也、今日不_レ然、上首實定卿也、次仰_三敷尹_一、次謝座酒、昇_レ殿着座、居_三饅饅_一、下_レ箸、居_三飯汁_一、此間、余參_三宮御方_一、姬宮御戴餅事、小朝拜了、入御、節會未_レ始已前、於_三東對東北第一間

東、妻戶內、有_三此事_一、先主上召_レ着束帶、渡_三御宮御方_一、即還御、姬宮渡_三御件所_一、女房三人相從、一人_{中宮御持}御劔、加入人形、散米、一人大納言局、持_三御餅_一、小衣_三盤_一、數近江國火切餅也、是定例也、右一人_{實皇御女、持_三御餅_一、薄標_三盤_一、餅三衛門佐宗方、令_レ調_三進_一之也、一人_{民部卿局、仰乳奉_レ抱、余候}御共、於_三件妻戶_一、主上取_レ餅、三度戴_レ之、有祝言、余大橘、一枚_三干鮎_一、大根_三、取_レ之置_三長押上_一、如_レ例、事了、姬宮還御、}

今日、小朝拜違例事、

豫取_三殿上倚子_一立_レ之、立明光見_レ之、雖_三驚奇_一、忽不_レ能_三返立_一事、已依_三能_一了成了_一也、藏人等不覺也、尤違例也、公卿列立、奏_レ事由_一之後、藏人昇_三倚子_一立_レ御殿、定例也、而豫立_レ之、尤不敵事歟、二日、壬晴、手水、陪膳以政朝臣、今日不_三出行_一、齒固又如_レ常、小兒戴餅如_三昨日_一、公卿少々來、今日自_三申刻_一、風病發動、資質、親國、己上、朝經_{藏人}等申_三吉書_一、此日、殿上淵醉云々、三日、癸陰、入_レ夜雨下、辰刻手水、陪膳以政朝臣、齒固、小兒戴餅等、如_三昨日_一、公卿少々來、余風病氣同_三昨日_一、仍不_三出行_一、親經朝臣、長兼、公定等、申_三吉書_一、內府今日參入、夜來_三此亭_一、問_三叙位_一、女叙位等之事、定

經朝臣、入夜來、申吉書、又問叙位刻限、其次仰條事、又大外記師直參入、問奉膳入勘文哉、其申年限不至、余仰云、奉膳不似諸司年限者也、如此事、尤可存知之由仰之、無申方、不知故實、歟、奉膳、六年入勘文二者也、

四日、晴、親經朝臣、持來權別當舉狀、任定法了、爲奏聞也、又內大臣、春日、上卿事可奉行之由、仰親經朝臣、宿院顛倒、新造不可叶、可用假屋之由、親經申也、余許之、定經朝臣、叙位之間、申一條事、左右大臣、辭退執筆云々、仰可催內大臣之由了、今日以藥湯治風病、

五日、晴、雨降、此日、叙位議雖可被行、依沒日延引、明日可被行也、內府來、叙位、女叙位等、令習禮、

六日、丙天陰、雨下、此日、叙位議也、執筆內大臣、申刻、內大臣已下、着陣頭、亮定經朝臣、仰召仰事、仰辨及外記等云々、次藏人知範召之、此間、余奏叙人折紙、子時御即着殿上御倚子、次內大臣已下、列立弓場、大臣東面、納言四上北面、參議北西面、外記三人、持立、納言後、如先年余例、次內大臣着殿上、於小板敷有揖、又入、次余着御前座、相次內府同

着、雖父子着同座、次賴實、通親、隆房等卿、置宮文、右大將作法神妙、通親如例、先突左膝、膝行之時、先進右膝、故不致御所、如何、次宰相中將忠經、着座之後、被引寄御簾、余微唯之後、逸右足一揖、起座經御前簾子、入自御座西間、着簾下圓座、次被引寄御簾、余召云、內大イマウチキミ、內大臣、如余作法、經簾子、先着第三圓座、深揖候、又被引寄御簾、內大臣、稱唯揖起テ、着第一圓座、引寄下襲裾、正笏候、御簾動、大臣奏三十年勞、其儀如恒、如除目開官奏、退居圓座前之後拔笏、又於同所、指笏進寄、此等異當時、大臣進作法也、返給復座、置直宮、取笏候、御簾動、召男共、藏人參入、五位藏人申云、公定、長兼執筆、仰長兼可召之由、即長兼參候、執筆仰云、續紙、長兼退下、持參之、二卷、四執筆取之、御持置前取笏候、御簾動、執筆見合續紙、一卷、入第三宮、今一卷、頗向座下方、繕置、又自端卷寄、置座前、摺墨染筆、二管、更取續紙、又染筆、問加陪人數於余、先書從五位下、又續紙置前、續紙之、每度如此、雖撰求二省奏、外記宮中無之、依無三省奏之者、本省不上奏、猶責省奏之由、先日、外記申之、猶以不上歟、仍余撰御硯宮中文之中、式民各一通、與執筆、先是執筆返給十年勞、復座之、共付短冊、問余賜御硯宮中文、置前也、次叙

式部、披下方、於前讀中次叙民部、次召院宮御申文、仰忠經、召嗣、左、此間、叙王氏、在第三宮上方、次持參院
近中將藤原朝臣、橫置之也、宮御申文、執筆奏聞如恒、返給并置硯上、也、次叙
藏人、余以詞示之、次叙外記、次叙史、外記官無申
出史申文、次叙氏爵等、藤氏、余其名忘却、問遺所進之、次叙
與之、檢非違使、民部、叙諸司之間、舉掌
燈、諸司終頭、執筆奏事由、召入內一加階勘文、公
先進入內、於一加階者、奉仰了、上勘文之由申
也、只出仕之輩之中、以勞至之者、可上之由、先日仰
之、而猶如此申、尤不可然、仍重仰其由、良久獻
之、余取兩勘文、披見、之後奏聞、返給與執筆、
叙從下了、叙加階了、放與卷之、先是、依紙不足
也、余取之披見、無失、返而奏聞、如例返給、取副
笏退下、余召定經少將等叙留、并不可留之輩事
仰之、余起座、參御所、參議撤宮文、入眼通資云々、
七日、亥陰、雨下、此日、白馬節會也、內辨內大臣、有
加叙、又被止位記者二人、秉燭、內辨賜下名、着宣陽
殿元子、召三省下之、了歸出中門外、次引陣、次
內辨着元子、次內侍出、次於元子南間南柱外砌、向
西一揖再拜、又揖、參上、着座、開門閤司着之後、奏

叙位宣命、着陣見之、故殿日記、可着陣之由、分明被記之、然
着陣、仍進弓場奏之、歸昇賜位記宮、無上、次召舍
人、少納言着中門版、內辨宣刀禰、召外辨、參列宜
陽殿代、中門北、三ヶ公卿北上西面二列立、依無所、只仰
敷尹之後、謝座酒了、上首右大將、昇殿着座、次內辨
仰參議、催叙列、々々參列、內辨召忠經卿賜宣
命、內辨已下、列宣陽殿代、入北第一間、北上西面二列
宣命使者版位、北第三間也、即宣制、押左殿、兩段再拜了
復座、叙人賜位記退下、位記案立、次親族拜、此間、余
退出、節會之間、兩脚頗雖止、庭濕殊甚、不能引
裾、仍猶雨儀也、近仗左列中門南、右列透廊、定例
也、
八日、戌陰晴不定、入夜參法成寺修正、先是、泰
通、雅長、宗賴、兼良等卿參入、初夜導師以後、湯漬、咒
師一手也、余參八條院、謁女房、向九條、依日次
宣、可宿始也、依爲三年始也、修正僧名、即光親可
執筆也、今日依吉日、始念誦、
九日、丑陰、今日、依歸忌、不歸大炊亭、內府來九
條、問女叙位不審之條、問遣外記許了、兼親朝臣、
明曉向南勢、以件人、七大寺別當事、示仰前大僧正

許了、

十日、庚陰、雨下、午刻、參八條院、謁仁和寺宮、被

示女院御後事等、大略無其憑、御座云々、可奉行

之院司也、凡無其人云々、年預長經朝臣、兼姬宮年

預、然而、去其職、可奉行之由、余申之、依有先

例也、而遂了去、無術之由申之云々、御葬仁和

寺、御喪家八條殿也、未刻參內、改着束帶、申刻、執筆

內大臣參入、而依近衛司雅行朝臣遲參、秉燭出御、余

着圓座、召定經朝臣、召執筆、內大臣着圓座、只數

先例、依御氣色、召男共、置長兼參入、仍仰硯、續帝

可持參之由、即持參之、可入自當同、而執筆取之

置前、依御目、卷返續紙、摺墨染筆、先書從五位

下、余賜空勘文、并申文、少々叙藏人、御匣殿藏人

等之後、召院宮御申文、右中將雅行朝臣、即持參、取之置前、

硯、硯勘文申文成柄等、於束指笏、取申文、起、置

懸膝於長押上、先左、膝行進文、逆行、於長押上、拔

笏退、降長押、即向乾テ起、先立、至圓座前、先突

膝、居廻正笏候、不正、次御覽了、禮幣卷重、入硯寫之後、申文ヲ卷籠、一通置前

也、大臣參進、於長押端一指笏、進テ賜申文、退復

座、如前、次第叙之、從下終頭、召輪轉、入內一加階

勘文、入內一加階、近代不進之、然即叙之、次叙加階、叙

了書年號月日、奏聞、如常、返後、取副笏、出殿上、

授入眼上卿泰通卿、今日、掌侍、命婦等、事藏人上、又

女官等、小輪轉之外、只叙女嬬一人、是元永例也、事

了、內府相共參法成寺、毛車、東帶、咒師二手、了退而、公卿

光雅、季經等卿參入、

十二日、壬陰、雨下、入夜月明、綱所參入、僧事之間

事、問先例等、又明日可參內裏之由仰之、定經朝

臣來、申中宮春日便之間事、定經服假、權亮、又右大

將、熊野詣之旨、不可叶、長兼、去年冬勤之、仍可

催宗方之由仰之、此日、座主被來、入夜參法成

寺、咒師三手之後參內宿候、今日、八條院賜自筆之

書、三條宮姬宮、可被下親王宣旨之由、可奏聞

之旨被仰、即以奏聞、父宮非親王、其子爲親王例、

問外記、無先規云々、

十三日、巳晴、候、內裏、召良業、問父非親王之人、

蒙親王宣旨例、仰可勘申之由、退出、即歸參、會

無其例云々、又云、綱所等、條々問先例、連年僧事、

雖不可然、少々有可行之事等、仍注目錄、經奏

聞、隨御定書一紙賜定經了、入夜、參御堂、咒師二

手之後退出、歸大炊亭、今日、內府小童、密々參宮御方、退出之次、女房相具退出、明日忍爲物詣也、今日僧事、上卿左衛門督、辨親國、

十四日、甲晴、此日、御齋會終、諸寺修正竟也、申刻、經房卿來、申朝覲行幸之間事、爲七條院々司、可奉

行此事、故也、八條院御惱、爲危急、暫不可及其沙汰歟、明日參彼院、隨御有樣、可左右之由仰了、

入夜參內、自八條院、以長經朝臣、爲御迎、被獻御跡事、被奉處分姫宮之狀所被進也、即奏事由、申御返事了、安樂壽院、歡喜光院等所被奉也、

又廳分御庄々等、分賜中將良輔之外、併可有姫宮御分也、但故三條宮御娘、先年可被相承女院御跡之由、御處分了、仍被一勘之間、不可有相違、

其後、此姫宮一向可爲御沙汰之由、所被申置也、其後參法勝寺、咒師一手了、參法成寺、入自南大門東脇門、事了、承牛王歸家、內府相具余小童

二人、豫所參儲御堂也、

十五日、乙晴、午刻、參八條院、御惱同前、頗鎮給、又謁仁和寺宮、先日女院所被申、三條姫宮親王宣旨事、父非親王之人、蒙此宣旨之例、未曾有也、

加之父宮已爲刑人、被除名了、其子忽預此恩、尤乖物義歟、仍此事不被問人々之、不可及成敗之由、余示之、尤可被問人々之由、所被答也、日來依此事、深不請、今日被申披了歟、即參內、深更退出、

十六日、丙晴、仁和寺宮、被示送云、八條院、三條院

姫宮、親王宣旨、內々示合左大臣之處、深不被甘心云々、尤可然、左大臣尤可謂直人歟、可感可感、昨日如余示云々、被問公卿之條、猶不可然歟之由答了、專不可及御沙汰事也、

十七日、丁晴、太相國被來、可上表事、被示合也、不可被早了、由答了、泰通卿來云、江州訴之間事、

定經朝臣來仰云、朝覲行幸、延引可宜云々、依八條院御惱也、此夜、女房密々可參內侍所云々、今日、最勝光院御八講結願也、內府、春日上卿事、宗方可奉行之由、仰宗賴、由可令奉行之申、今日、頭中將

忠季朝臣祈、如法泰山府君祭、晴光、

十八日、戊晴、朝覲行幸、延引可宜之由、七條院被仰之由、定經所來示也、入夜、宗賴卿來、申春日上卿之間事、有當月姪者、產事以前、承上卿事、定雜

事、始神寶事、如何、產生以後、可有此等事歟、此子細、行向_レ左府亭、可_レ示合之由仰之、酉刻許、頭中將天亡之由來告、乍驚遣_二使者_一、□□□云々、申、無驗者之由、仍尋_二寶全法印_一遣之、然間、公玄阿闍梨來、護身云々、大略邪氣歟、又遣_二使者_一、頗落居之由申也、

今日、有_二宸筆御言_一否、推事也、此日、蓮花王院修正也、

十九日、_亥晴、未刻參內、次參_二八條院_一、及_レ晚向_二九條堂_一、講演如_レ例、自今正月十妙義也、此夜宿_二堂_一、今日、於_二東山故殿御墓所_一、每年今日可_レ供_二養經一部_一、併自筆寶篋印陀羅尼、光明真言等也、頭中將忠季朝臣病危急也云々、請_二驗者_一遣之、稱_二不可_レ叶之由_一、又校云々、仍空歸_二了云々_一、

廿日、_庚晴、尊忠法印來、月忌講演如_レ例、今日、內府來、除目習禮、初日許也、依_レ入_レ夜也、資實來申_二條々事_一、今晚、忠季朝臣歸泉_二了云々_一、近代無_レ可_レ採用之人、此朝臣有_二所見_一、年來殊憐愍、彼又知_レ恩歟、末代之有職也、今已亡沒、可_レ惜可_レ悲哉、朝家共臣被_レ差使訪之、又跡事問之、

廿一日、_丑晴、午刻、內府又來、除目第二夜、併入眼習禮也、依_二歸忌日_一、今日不_レ歸_二自_二內裏_一、以_二御書_一、能登國暫不_レ可_レ相違之由、被_二仰下_一、申_二可_レ然之由_一了、

廿二日、_寅晴、早旦洗_二頭_一、今日、依_レ可_レ始_二念誦_一也、自_二今日_一、中宮御祈、座主始_二不動法_一、禁中塗壇、此日浴湯、依_レ有_二風氣_一也、入_レ夜參_二女院_一、深更參內、中宮令_レ逢_二修法時_一給、余同及_二曉鐘_一退出、始_二念誦_一、今日、公家被_レ始_二除目御修法_一、實慶僧正修之、不動法也、

廿三日、_卯晴、定經朝臣來、申_二親王巡給之間事_一、又召_二師尙、良業等_一、問_二子細_一、左大臣又有_二申旨_一云々、姬宮可_レ下_二巡給_一、別給等_二宣旨之由_一仰之、即宣_二下左大臣云々_一、醍醐寺進_二奏狀_一、申_二祈雨賞_一、可_レ被_レ行之由、又仰_二子細_一乎、_中定所也、香椎之事、可_レ仰_二合左大臣之由_一、有_二勅定_一、仍以_二消息_一、可_レ被_二參內_一之由、示遣了、此夜、初除目修法、_{修之、印性}余逢_レ時、

廿四日、_辰陰、申刻參內、秉燭、左大臣參上、於_二中宮殿上_一謁之、香椎事、以_二勅定_一問之、被_二申云_一、敕慮一決之上、更不_レ可_レ及_二是非_一、若有_二持疑者_一、此事總不_レ叶_二道理_一、御占猶以_二愚意_一不及、只今暫可_レ有_二御祈請_一、無_二靈託異夢之告_一、彼時可_レ有_二議候_一、或以_二他公田_一、若

御領、可被寄進、歟、將又彼御領廣博、神用之殘巨多云々、以件地利、爲郡督之沙汰、於石清水、可被置永代之神事等、歟云々、又余問云、若猶可被伺者、宜下之樣如何、被申云、以香椎廟、可爲石清水領之由、一切不可然、尤有恐、如宮崎、以如成清、被補檢校之條、若宇佐、香椎等、無僧別當例者、又以可有其恐、仍此事不相應之由所申也、事必然之明者、宣下之樣、可被問人々、歟、即以大臣申狀、聞了、暫可有御祈請、又猶可尋證文云々、廿五日、已陰晴不定、大理來、示條々事、又召宗賴卿、春日上卿間事仰之、資實、祈年祭事、成勘狀、持參之、入夜、定經朝臣持參除目所望輩目六、明日々出以前、可內覽申文之由仰之、入夜雨下、及曉天晴、師直持姫宮巡給別給等宣旨、余留之、

廿六日、丙午此日、春除目初日也、已刻、職事等來、內覽申文、未刻、余參內、酉刻、撰申文了、先是召仰、日沒召宮文之間舉燭、執筆內大臣、每事如例、任四所三人、召院宮御申文、雅長即持參、奏聞、返給任四所殘了、并置御申文、今度、隨任引、嘉稱也、余撰可袖書之申文等、各注袖書、召宗賴卿、下期之、仰明日可勘

進之由、是家例也、初度多如此、次任內給、姫宮別給、上第一內親王、公卿當年給等、自給二合申文不、次奏大間一封之、云々、又家例也、封成柄、奏聞、退出、余起座、今日宮文、定能、通親、奉通、家房、此夜宿候、

廿七日、丁未晴、除目中日也、執筆同人、申刻、執筆已下、公卿等參入、余着殿上、有召、公卿列弓場、內府着殿上、余、及大臣、着御前座、通親、泰通、家房、通資、取宮文、參議着之後、依着簾下圓座、召執筆、今夜、直着第一圓座、賜大間、復座、余又賜硯宮申文、宗賴持參下勘申文、又硯宮之中、余年給申文、併巡文、仁和寺申文等在之、撰出與執筆內府、先任余申文、當年二合、不可勘、次下勘巡給、雖爲初度、准故殿納言初度申文、令下期、給例下期之、光雅賜之、次任勘上文等、次任文章生外國、二人、今一人有可任史之者云々、而有未定事之間、今夜暫不任也、次任內舍人外國、三人、即取國、次任諸道諸院舉之、次召轉任、宿官、兼國勘文、即持參之、次任兼國、宿官等、皆任了、封大間成文、奏聞、退出、余又退出、廿八日、戊申晴、已刻參內、酉一點議始、日未入、亥刻議了、每事如例、今夜、先任二分代內舍人、依成殘也、先任文章生散位、依無課試者也、次隨便宜、次第任之、有叙位、

事了、未_二起座_一之間、召_二定經、仰_二下藏人頭_一、高能、朝臣、參_二宮御方_一退出、

卅日、庚戌未明、逢_二修法時_一、即向_二九條_一、謁_二女房三品_一、令參_二春日_一、午刻向_二堂念誦_一了、申刻、參_二八條院_一、御惱頗有_二御減_一云々、次參內、亥刻退出、

二月

一日、辛亥晴、此日、下名也、以_二定經_一、奏_二聞任人事_一、又有_二被_一仰下一旨、上卿左衛門督、參議別當云々、有_二加任之輩_一、少納言宗信、和泉守兼之

二日、壬午陰晴不定、此日、宇治殿御忌日也、任_二例催_一送布施取等、長兼、朝隆等、申_二條々事_一、此中、七條院御所、可_レ被_レ召_二受領功之由_一、有_二勅定_一、任_二國々_一、可_レ沙汰_一之由仰了、

四日、甲寅晴、此日、祈年祭也、幣物如_レ法沙汰調了、上卿中宮大夫、任_二納言_一後、始被_レ從_二神態_一云々、行事辨親國也、今日、祭主能隆來、召_二藤前_一、仰_二祈願之趣_一、自_二今日_一七ヶ日、余可_レ奉_レ拜_二神宮_一、

五日、乙卯晴、此日、大原野祭也、發_二遣奉幣十列_一如_レ恒、陪膳以政朝臣、女房同發_二遣之_一、行事秀隆、執幣陪膳

同人、內府依_レ有_二當月姪者_一、併爲_二春日祭以前_一、不_二奉幣也_一、今日、左大辨宗賴、行_二大原野祭事_一、拜_二參議_一之後、始從_二神態_一云々、

七日、丁巳此日、釋奠也、入_レ夜、頭右兵衛督高能申_二拜賀_一、余出_二賓筵_一、高能申_二吉書_一、其作法無_レ失、

八日、戊午晴、宗賴申_二姬宮准后之間事_一、來四月可_レ宜之由仰_レ之、定經申_二條々事_一、兩社行幸、來四月可_レ宜歟、將又十月歟、奏_二事由_一、可_レ隨_二勅定之由_一仰_レ之、

九日、己未任_二例奉_一幣春日社、使職事親輔、內府依_レ有_二當月姪者_一、不_二奉幣_一云々、御堂不_レ憚_二姪者_一、但非當月有_二御奉幣_一大殿、故殿有_二姪者_一之時、無_二奉幣_一、今度依_レ爲_二當月_一憚_レ之、

十日、庚申春日祭也、辨左少辨公定、近衛府使少將有雅、中宮使權大進兼時、

十二日、壬戌晴、不慮外、得_二靈玉一果_一之子細、故薩摩守業實、五代相傳、奉_レ傳_二此玉_一、業實讓_二其子親俊_一、親俊傳_二其子業家_一、業家所_レ傳_二余也_一、

三月

一日、辛巳參內、入_レ夜向_二九條_一、明日自_二此亭_一、可_レ向_二宇

治之故也、女房同渡居也、

二日、壬晴、巳刻、着直衣、烏帽、淺衣、內大臣來、烏帽、直衣、先寄出車、東對北要也、能季、三兩皆乘之、出衣如恒、柳

衣、紅打衣、花吹冬表着、一車佐中將親能朝臣、二車左少將、蒲萄染底衣、白腰袋、

成家朝臣、三車侍從賴房等也、車副衛府二人、着布

衣、相副也、次半物二人、款冬、白五領、青草衣、於門外乘

車、非藏人康業車也、衛府、雜仕二人、雜仕薄萌木柏三領、紅草衣、

仕、被制、紅草衣、然而、攝錄家、不可混、小女二人、色々柏三領、

諸家、款、仍、被免、牛物、也准、彼令、之、蘇芳草衣、

已上乘侍車、自開路、參上、不行、列路次也、次東

屋、南面寄女房車、庇齊下、下家司六、內府立屏風几

帳等、此間、新大納言、三位中將等、大納言冠直衣、來臨、

在三面上達部座方了、女房乘車、雜物打衣、若同梓櫻小掛、

車後出衣、二色六領、紅草衣、紅打衣、御堂御前同車、故內府

右大臣姬也、純色白織物掛、赤色唐衣、

十領、白合衣、白生袴、車後、宣旨乘之、即懸牛、黑斑牛、

牛、仍召經、遺出東門、余降自西廊西妻、中將其輔、

於北面西門外乘車、內府、新大納言、三位中

將等相候也、

路頭行列、經九條宮小路

先移馬居伺四人、次同舍人四人、已上、不賜當

次前驅、諸大夫爲先、六位、地下君邊殿上人、右大將其輔、在

車前、浮線綾朽葉狩袴、結松藤、付之、隨身四人、

小舍人童二人、舍人一人、余下、
隨隨身武綱相副也、雜色三人、
次女房車、庇、車副六人、白張坪尻、平履、牛童、藥師丸、
(花田黃衣)雜色十人、(赤色仕丁如恒、)

次後騎、左近中將親能朝臣、狩襖、唐紅衣、

次余前驅十人、四位已下、
諸大夫、

次上薦隨身四人、騎馬、水干狩襖、狩胡露、
股脫烏帽、

次余車、綱代、車副四人、立烏帽子、下薦隨身五人、(除武綱、
不召巡、水干狩襖、帶劍、不負、胡露、須上指也、而
垂袴不可然、但又非無其例、仍不
改之、步行雜色十人、仕丁如恒、

次檢非違使左衛門尉源康實、布衣白張、
下染股脫、

次出車三兩、見謁、
次半物車、

次內府居伺二人、
次同舍人二人、

次前驅八人、六位、
次隨身二人、內余、

次車、半薪、不懸下腰野、
次下薦隨身六人、步行、
望之儀者例如斯、

次雜色、仕丁如恒、
次新大納言、前驅四人、
綱代車、

次三位中將、前驅二人、
次余方辛櫃等、余二合、女房
前二合、仍八
人相具也、

次內府方衣櫃二合、侍四人相、
具之、

次中將衣櫃二合、侍三人相、
具之、

雜色贊殿具等、祿辛櫃、女房雜仕等、自開路參、

早旦、女房先參、三位、
出車一兩、侍五人、諸大夫一兩、

相具之、有家朝臣寄車云々、先落付小川、臨朝先

參棧敷御所也、未刻、到宇治川、於東岸昇放車、居船、女房車、併出、車如此、余乘船、內府、大納言、三位中將、中將等、渡川着西岸、女房車、暫立西岸、待出車、余降釣殿、着本堂也、出車到來以後、女房入自西門、寄車於棧敷西面妻戶、內府已下屋從、出車相從、內府寄車之後、來本堂着食、公卿無人數不勤、各向宿所、殿上人、須差膳、而無其儀共也、豫所給膳也、次余相伴內府、中將直向、宿所了、經山路、向棧敷、檢知堂莊嚴等、女房旅宿之間事、能々示置、向小川家、內府宿勝安樂院傍堂廊、中將同宿、

三日、未晴、巳刻、參經藏、經西門、樂人亂聲、舞人左右一拘進來、經經藏北、昇棧敷西面妻戶前沓脫、經南面、自東第三間、加國、入簾中、內府同相具、入自東面、豫下簾、仍召男共上簾、人々着座、余座、太相國暫遲々、仍且召資實、奉行家司、兼、仰親能、伊輔可召之由、兩人自砌下、參進、余仰云、樂行事、各向樂屋、各布衣、帶劍、親能着半、次左右亂聲、此同、從僧、次振梓、次迎衆僧、次迎導師、咒願等、各行事、法會如常、次舞口、左、萬歲樂、春露、桃李花、太平樂、蘇莫者、青海波、衛府、隨身立、現代、胡飲酒、衛府爲先、散手、陸王、右、地久、口、蘇、林歌、擊、新力、龍、散手之間、勸公卿饌、二

獻人々如法食也、長吏法印被出座、三位中將取被物、先例、只布施許也、今、衆僧布施、諸大夫取之、導師咒一度、俟其人一加也、願四位取之、三方有加布施、余、女房、內府等也、樂行事裝束、親能朝臣、顯文抄、二藍狩機、唐款冬衣、今日、內府出衣、唐力、伊輔朝臣、同仁賀色狩機、黃款冬衣、贈馬一疋於相國、相具女房、歸小川、

四日、甲、雨降、今日欲乘船、而依雨延引、宮女房參本堂、於堂東廣庇、有參行之興、定能、泰通、隆房等卿在座、事了分散、入夜、於小川有酒食事、定能、季經卿等候之、

五日、乙、晴、此日、宮女房乘船、余、內府在別船、定能、隆房等卿同乘之、暫以望遊、申刻、乘手輿、內府乘馬、向一坂邊一歷覽、入夜歸來、於小川更參御堂、有詩歌會、又有當座會、天曙講了、中宮大夫已下會合、

六日、丙、晴、早旦、參經藏、女房車、昇放輪、入中門、寄經藏、定能立屏風、正面南間、懸隔御簾、爲女房居所、女房、故內府上女房、披見寶物等之後、歸小川、其次、女房車、巡禮寺中、申刻、歸參本堂乘船、暫棹船、乘燭於東岸乘車歸宅、所始歸大炊亭、

九日、丑、晴、午上、猶加灸、申刻參內宿候、今年、賭弓

不可被行之由、先日勅定切了、而檢例、被行弓場始、無故賭弓停止、尤希有也、保延例不快、仍奏事由、然者、可被行之由有仰、仍召公定下知了、十日、庚子晴、已刻退出、召平等院舞裝束等、押銘、十四日、甲午今日、臨時祭、申刻被行庭座、使右中將公國朝臣云々、余依所勞不出仕、內府參入、十九日、己晴、早旦、監向九條、依灸也、自川原所行向也、

廿二日、壬寅自今日、於蓮花王院、被修卅壇千手供、中壇爲法、寶慶大僧正行之、余可沙汰用途也、供廿九壇、近習輩、并受領等所口也、是天變御祈也、

廿三日、癸卯自今日、以親嚴已講、令參籠春日社、中宮御祈也、此夜、行幸大內、依廿六日賭弓也、中宮同行啓、以弘徽殿爲御所云々、賢所同渡御、

廿四日、甲辰內大臣來、重又習禮、又內大臣、以大夫史隆職、遣右大辨親經朝臣許、仰明日可有官奏之由、又明日、可候奏之文、未申上卿、仍先可有陣申文之由、隆職所申也、余之家例、康平以後、初度奏無申文、又因茲、二條殿令候奏給日、先有政、於諸政一見文云々、可依彼例之由仰之、明日

先可有政、俄所致沙汰也、

廿五日、己晴、此日、吉書奏也、內大臣始候之、先有政、余依所勞不參內、直左少辨公定、依中辨不參也、爲內覽來、依所勞不出客亭、以人傳之、希代例也、加注之療治、入夜聊落居、仍捨身命、丑刻參內、明日賭弓、主上御作法、可奉教之故也、密々於直盧浴湯、是又非穩便、然而挾身爲奉公也、

廿六日、丙晴、此日、賭弓也、當今初度也、三ヶ年雖被行弓場始、依樣々障、不被行賭弓、今年適有隙、仍強奏請所申行也、兩大將所奏、其作法如水火、又有告奏內覽事、成人候時、非必然之事也、然而依嘉保、應保等列、有此事、其後奏覽、申刻有奏儀、一度之間、余依所勞灸治不可堪、下直廬了、事了、丑刻退出、

廿九日、己酉此日、官列見也、

四月

一日、庚戌晴、平座、上卿民部卿源中納言、參議實明卿、云々、

五月

廿二日、辛丑入夜參宿內裏、宸勝講、自明日、依可被始行也、

廿三日、壬寅雨降、宸勝講初日也、余着殿上、以頭右兵衛督高能朝臣、奏事由、爲仰鐘、公辨遲參之間、以行事藏人仰之、不存歟、仍召長兼仰子細了、尤不足言也、此間、右大臣、自陣行賑給定、着殿上出居、着座之後、余以下着御前座、次從僧列、次僧昇朝座、講師範玄法印、獨證義者也、問者三井寺重圓、新參、只問題許也、依講師命打鐘了、行香如恒、夕座講、右大臣不着殿上、定經奏事由、但余着御前座、講師覺辨大僧都、問者良俊、三井寺新參、事了退出、

廿四日、癸卯雨降、第二日也、朝座講師行舜僧都、問者興福寺緣成、古參、夕座講師成實僧都、問者園城寺兼尊、第二取離之後、故今有今日、上省忠良大納言也、余今日述國之詞、尤惡氣也、候三殿中、

宸勝講之間、中宮昇給、打出杜若朽葉表着、青朽葉唐衣也、

十月

廿五日、庚午晴、此日、當今第二度石清水行幸也、去年始臨幸、其後十三年始上卿權大納言定能卿、參議中宮權大夫公繼卿、辨左少辨公定、外記大夫外記師直、史六位史、々々等爲行事、藏人方事、中宮權大進長兼奉行也、去夜已刻、參內宿候、卯刻、天漸曙之間也、着束帶、參御前、御裝束之間也、前馬頭信滿朝臣也、辰刻、公卿以下參集、先是、上卿定能卿參入、以奉行職事長兼、仰留守、民部卿經房卿、右少辨親國等也、兩大將、頗以遲參、左大將內大參入之後、即御裝束了、出御、左中將親能、右中將雅行、等臣、付兩內侍、依藏人頭高能朝臣遲參、藏人大進長兼、獻御插鞋、并取余祿、出御之儀如例、右宰相中將公繼御劔型、出御之間、右大將參會、無關司鈴奏等、不警蹕、不仰御綱、皆神社行幸定例也、余於二條面小門內見物、舞早、口先陣只公卿已下見之、御與過御了、經一町半許、余乘車、二條堀川御路、經一條大宮四條朱雀等、爲方圓記、四條不用京外幸路之由記之、然而、代々作例、全不憚、仍今度用之、

野望之間、余車在後陣之前、未一點、着御宿院部屋、如例、南面寄御輿、左宰相中將忠經役劔型、公卿居地、余候部屋南緣、皆如先耳、下御後、將退御輿、余入三殿中、祇候、內府同參入、先供三腋御膳、女房陪膳、別當典侍、次御手水、同前、此間、公卿使頭右兵衛督高能朝臣、

奏宣命清書、余取之見了、後奏聞之給、次昇立神寶南庭、宣命清書第一二回、次敷宮主、上卿等座、次催御祝之處、舞人皆悉逐電云々、適參入之後、御祝如例、高能朝臣、獻御香、供御贖物、長兼役送、上卿有去就之揖、無進退之揖、中御門右大臣、可爲如此云々、又非無其理歟、行事宰相公繼卿、取揮頭花、先例、或中納言取之、今上卿經前庭、出南暢門、參御在所、余以長兼、仰寺司社司等賞、俗別當、依重服、不仰賞、自叙各一階、是流例也、僧官別當道清、權別當增清、道清之上儀也、仍同祐清、檢校成清、權別當二人、又爲流例、而今度、法印三人、續過分、僧官賞不必盡敷、取檢校、太多、仍祐清今度恩賞不定之間、成清爲總官于登用、可異他、海恩之條、太爲愁、仍可讓自賞之、由殊以申請、且依爲宮寺、殊功之者、所被恩許也、已上三人、皆叙法印、同時三人、叙極位例、已以未曾有也、然而、承應例、別當、權別當叙法印、檢校、後日任大僧都、准彼例、所被行也、次余退下宿所、是也、高房、修理、鋪設儲、一向宮寺所設也、但贊殿供御膳、不儲公卿殿上人饗、依不招人々也、卽解脫差食、暫休息之後者、遣隨身於山上、問事之早晚、歸來云、御神樂始之間也、申終、着束帶參宿院、內府所、相具也、亥刻、山事了、上卿參東暢門邊、以藏人中宮權大進長兼、奏御願平安遂了、余傳奏之、仰聞

食由了、次內大臣於廊召覽見參、進東暢門下、頭右兵衛督高能朝臣、奏見參、用杖、余取之見了、奏聞、取加杖返後、自東第一回、奏之也、高能取之退下、次賜公卿祿、依殿上人等逐電、數剋退怠、余候近衛司等令取之、余候、高能朝臣持來、仰可持來、次公卿列立、將大由、卽於轉邊給隨身了歟、四、次寄御輿、忠經卿役、御乘、乘御後、於南暢門、同經東、出御北門了、余乘車、近候御輿之後、依所勞更發、不參內、直歸大炊亭了、于時子刻歟、後聞、社頭舞人不相調之間、事遲々歟云々、

十一月

五日、晴、此日、賀茂行幸也、今上第二度、去月廿五日、有石清水行幸、寅刻、着束帶參內、主上御製之間也、卽內大臣參入、此外、公卿一人不參、仰奉行職事、頻加催促、天曙之間、御裝束了、右大將已下、少々參入、仍出御南殿、日未出、御反問、右大將渡公卿列、立寄御輿、定例也、右宰相中將公繼卿、候御預役、余於北陣方見物、依路頭逗留、及已始乘車、御路、經二條東洞、院、一條京極河原、於一條京極懸替牛、促車參入、下御後、參蒨屋、先是、昇立神寶了、次上卿奏宣命清書、次御手水、女房、次出御々

拜座、東面、北第二、次召御笏、高龍朝臣、次供御贖物、高龍、長領、次供御麻、高、宮主着座、此間、引立神馬、舞人馬、北、上東面、但神寶以南也、始、次上卿着座、自南方、全進、次陪從發物音、次上卿取幣立、主上御拜、再拜、了余以咳、聲驚示之、上卿置幣復座、行事參議公繼、取挿頭花、自上方、左京、次上卿起座、出車轡門、此間撤御笏、昇出神寶之、以奉行職事長兼、仰社司賞事、次主上入御、脫御裝束給、次余相伴內大臣、退下宿所、于時已終也、申刻、社頭事了云々、仍着束帶、參御在所、即上卿參小轡門下、奏御願平安遂了之由、次撤三方、北、東南、轡、敷公卿座於南庭、與東實、子平頭、次以高能朝臣、召公卿、內大臣已下着座、次舞人上御馬、自北、上南、次馳御馬、自南、北、上、下、先、其內、侍從資家馬、踏入足下、々官顛倒、資家落馬、御馬足損了之由、長兼申也、可用威儀御馬、敷之由、有勅定、余申云、爲神馬、可然、爭以威儀御馬、可被用舞人馬哉、可進下官移馬之由奏之、即仰長兼了、而之間、資家馬足無殊事、即騎用、參上社了云々、次如本立、轡、次寄御輿、先是、公卿列立、於此社、不給祿、不奏見參、例也、忠經卿候、御聚役、此社、公卿

不居地、馬場屋板敷高之故也、余候御後、日欲入之間、着御上社、寄御輿於馬場屋西面、余經轡南、昇自屋南面、參進、忠經候御輿、御所北庭、昇立神寶、御輿次第如例、上卿不撤指花、供奉歟、仍於當社、無賜挿頭花之儀也、余依略休幕、伺候部屋、內府同之、行事所儲、同也、內府、五位藏人長兼、爲陪膳、藏人役送、社頭事了、上卿參入、於南轡門外、奏御願平安之由、次撤轡、敷座於御所西南庭、外、敷之、次以高能、召公卿、內大臣已下參着、次上御馬、馳之、舞人公雅依病不候、兼不申上、臨期今一人不見、仍忽仰職事、召陪從、令馳之、次內大臣奏見參、高、次賜祿、次公卿列立、內大臣外、他卿、不持祿、如何、次寄御輿、忠經役御輿、余不參內裏、直歸宅了、社司賞、以長兼、仰上卿、兩社同前、還宮之後、被仰行事賞、

上卿、忠實能、叙、四位下、

外記、師直于師親、叙正五位下、

參議、辨、史、檢非違使等、追可申請云々、

除夜、長兼來、觸此由也、

建久八年

正月大

一日、乙亥天晴、寅刻、拜天地四方、用宿袍、不着束帶、此次修旬祓、遙拜太神宮、春日等、天漸曙之間、有手水事、兼親朝臣勤陪膳、申刻、民部卿經房卿來、入夜宗賴卿來語了、今日、不參所々拜禮、參八條殿、自是可參節會云々、又云、去年不被行不堪兩度奏、右大臣稱病之故云々、希代之例也、去文治元年、此關白之時有此例、若被好存事歟、又爲遇絕內大臣出仕歟、爲朝家、尤爲不快之、如何、入夜、女房節供如例、

傳聞、關白拜禮、忠良卿上省、其外、民部卿已下、公卿十人參入、然而、依無所便、八人列立云々、右大臣不可參叙位之由風聞、關白可被催大納言之由被稱云々、爲內府尤爲要樞者也、公家催辭退、彌可招恐怖、暗被懸勾、可謂冥如歟、齒固如例、又小兒自去年向齒固、與余并女房、於同所供之、戴餅又至于五歲、有此儀、仍又八歲之元正ニハ、並用兩事、故實也、依內府不出仕、余爲之、

二日、丙子天晴、昨日、節會內辨藤大納言隆忠卿云々、公卿少々來、大外記良業來、手水、齒堅等如例、午刻東札到來、此事聞驚也、誰言之、

三日、丁丑天晴、手水、齒堅如昨、公卿少々來、

五日、己卯此日、依御衰日、節分以前也不被叙位儀、

六日、庚辰此日、叙位儀也、執筆右大臣、傳聞、關白不待參議着座、不應主上之喚、進着簾下圓座云云、

七日、辛巳見聞書、不被中宮御給、侍從資家賜之、內付信清朝臣、申入之處、可有勅許之由云々、而漏了、猶凶人等抑留歟、

白馬宴會內辨右大將云々、初度也、後聞、不取叙位宣命、復座、更下殿、取之着座云々、

三月小

十三日、丁亥女房有吉夢、拂魔事之趣也、可信可信、

十六日、庚寅從閑院、遷御大炊御門齋院御所云々、或云爲就鞠云々、或云、有御夢想事、但祕藏云々、廿日、甲午例講了、入夜歸南家、亥刻、女房自宮退出、

自今日、爲始湯治也、余今日加灸點、一所一壯灸始了、醫師時成也、今日、請法然房受戒、

此夜、七條院被渡三條鳥丸亭、公卿廿二人供奉、右

大將已下云々、親信卿寄御車、有黃牛二頭、水火童

等云々、判官代盛經行之、泥々云々、造國司隆保朝

臣、叙從三位、上臈數輩超越、不便由、關白雖令申、

無勅許云々、以能登國中將猶子源具親師光入道于云々

廿一日、召三時成灸頭、昨日有憚、仍今日灸百余會力

上五處也

左大辨宗賴卿來、以菅氏爲長儒者也、爲中將其輔之師範、可祈申

北野天神之趣、具示付、來廿五日可參詣之由仰

了、

語云、梶井宮病、及獲麟、而猶以出仕、人驚目云々、

廿八日、壬天晴、宿曜師慶算來、召前、使授文殊大

北斗經、爲本拜也、其次問宿曜道事、一宮多星入人

運不傾事、

四月大

一日、甲辰天晴、旬祝如例、於今者雖無益、依有所恐不止之、內府來、自去廿三日、至于昨日、有念

誦事云々、

二日、乙巳天晴、今日巳時、有北斗本拜事、依宿曜師慶

算申也、假令、巳年生人、巳年巳月巳日巳時、向巳方、

拜本命星也、十三年一度廻過云々、其儀、着衣冠、

清淨新衣也、持念誦拜之前、敷淨薦、立白木案、花瓶一口、

差時火蛇一口、香名小幣帛九本、七星外、加羅計科、鳥羽南院御拜時、如此云々

庭儲座、刻報降居其座、先拜本名星武曲星十二

反、次更拜七星、各一反、但武曲星、如今一拜、爲輔星次也、又七星外、羅計各一反拜之

歸昇、中宮已御歲也、中將又同、仍各有此拜、今日先

洗頭也、

建久九年

正月大

一日、己未天晴、萬福可樂春也、寅刻手水、依可有日

蝕也、陪膳季長朝臣、依輕憚無四方拜事、齒堅、女

房陪膳如例、日帶蝕出山、已刻復末畢、余依當日

蝕、自去夜迄于今晚、於樂師如來御前、修小行

法、又轉讀藥師經七卷、不覺而眠之間、心中有吉

瑞、佛法之驗不空之由也、可悅可信、而今日依日

蝕、節會、小朝拜等停止、仍未明供御藥、又有四方

拜云々、今日日御祈、數壇被_レ始行、欲_レ被_レ行孔雀
經法之處、仁和寺宮依_レ觸穢_レ辭退、辨雅座主、於中
堂修_レ七佛樂師法云々、不知_レ法深奧、輒就_レ御請
修之、爲_レ法尤聊爾也、昔康治有_レ十四分之他_レ、十一月
青蓮院座主行玄、行_レ件法、雖_レ天晴不_レ日他_レ、被_レ行
種々賞_レ了、今日豈類_レ彼例哉、正現宜哉、仁和寺宮、
虛穢之由、有_レ謾奏之事、通規天氣不快云々、可_レ被_レ行
孔雀經法者、宮雖_レ被_レ行、覺成僧正、尤可_レ行也、先
例、欲_レ行_レ此法、不_レ被_レ果遂之時、必不快也云々、而
乍_レ置_レ爲_レ御持僧_レ之覺成、以_レ不知_レ法之辨雅、被_レ
修_レ大法、人不_レ知_レ其故、以_レ博陸子_レ爲_レ弟子_レ之故歟
云々、於_レ彼辨雅者、法驗之有無爾、不_レ及_レ沙汰、只以
承_レ修大法、可_レ爲_レ世々生々之眉目_レ者歟云々、追攤
之次、有_レ小除目、博陸末子禁色、又任_レ侍從云々、兩
三之吏、被_レ下_レ重任之宣旨云々、長兼來語云、今度之
他、諸道一同勘申、全無論、而除夜不_レ被_レ宣_レ下_レ廢務
之由、今日他正現之後、有_レ此宣下云々、余行之、康
治之他、算博士行康、奏_レ不_レ可_レ現之由、仍不_レ被_レ候
廢務、果以無_レ他、被_レ行_レ節會了、慣_レ體例不_レ被_レ仰
歟、今度、行_レ衡獻_レ可_レ他之勘文了、何因可_レ有_レ猶豫

哉、頗柳棟之謂歟、

宮御方、御藥入_レ夜云々、須_レ未明供_レ之、而內御方、爭
參入者、可_レ及_レ他刻限、仍入_レ夜也、先例、公家有_レ入
夜之例、

二日、庚_子終日降雨、入_レ夜殊甚雨、今日有_レ關白家拜
禮、七條院拜禮、依_レ雨停止云々、小朝拜又無_レ之歟、節
會如_レ例、內辨右大臣、昨日天晴他現、一昨日今日降
雨、近代定例也、今日辰一點手水、陪膳同前、傳聞、關
白家拜禮、上首右大將有_レ答拜云々、忠良大納言不
立、依_レ家禮_レ歟云々、

三日、辛_丑天晴、手水如_レ昨日、刻限同前、公卿少_レ來、隆
職、良業等來、

四日、壬_寅天晴、依_レ吉日_レ浴始、又始_レ念誦、申刻、內府
來、入_レ夜、與_レ內府同_レ車、參_レ入_レ八條殿、謁_レ女院御方
女房、於一品宮御方所謁也今年、叙位年勞至了者、併爲_レ所免、
仍各被_レ尋_レ申本所、除_レ被_レ申詣之人々、可_レ被_レ載_レ勸
文云々、此旨被_レ申_レ中宮、一品宮等云々、又中宮御
行被_レ相尋云々、賜_レ宗行之由被_レ申了、今日、賴朝卿札
到來、被_レ免_レ造作者、移徙又可_レ恐、早可_レ還云々、可
有_レ中宮入內之由、雖_レ奏聞、依_レ此仰、不_レ可_レ奏云々、

五日、癸天晴、念誦如恒、依吉日一向堂、又見作所、自西山被送、賴朝卿札、無殊事、自此夕、始修愛染王護摩、也、此夜叙位也、召在宣朝臣、問遊年方宿滿一氣之事、憚之有無問之、先例粗有之故也、申云、當道之所習憚之、無異議、仍於御方違、都不可叶者、就例、自然違宿、不可及深恐歟、非兼日之案、可爲自然之事云々、晴光、都不可憚之由所申也、

六日、甲時々雪降、天晴、或人云、可有讓位云々、明後日許、幸大炊殿、以閑院、可爲新帝宮云々、十一日、廿一日之間、可有讓國之儀云々、一昨日東脚到來、其後事一定云々、或云、二三宮之間踐祚、當今王子立坊、或云、直皇子踐祚云々、此等說未有一一定云々、昨日叙位聞會到來、從一位右大臣兼雅云々、以大臣十年已上勞、入勸文、被叙歟、臨時叙一位、之中、土御門右大臣歟、尤爲希〇代叙例、又叙爵之中、撰重代壯年々限淺者等、賜爵云々、是善政歟、勿論也、

七日、丁天晴、白馬節會也、內辨大宮大納言實宗卿云云、右大臣叙一位、定勳內辨、立叙列歟之由、世以

存之、而無出仕之條、還又爲奇云々、讓位事、讓國等事、自元不及沙汰云々、幼主不甘心之由、東方類雖令申、繪旨懇切、公朝法師下向之時、被仰子細之時、懸承諾申、然而、皇子之中、未被定其人、關東許可之後、敢取孔子賦、又被行御占、皆以能圓孫爲吉兆云々、仍被一定了、此旨以飛脚被仰關東了、不待彼歸來、來十一日可有傳國之事云々、桑門之外孫、曾無例、而通親卿爲振外祖之威、被外祖母了故也、二三歲踐祚、爲不吉例、之由申出云云、信精孫三歲、範孝孫二歲、而博陸又響應、尤可被忌例、不可及外祖之沙汰之由、再三被申行、是則其息新侍從兼基、爲桑門之孫、世人爲奇異、爲休其嘲、忘帝者之瑕瑾、同通親謀云々、愚哉、以小人入魂、爲小童之才學、國家之滅亡、足可待歟、於占卜之吉兆、及孔子賦等之條者、如此之事、只依根元之邪正、有靈告之真偽也、通親忽補後院別當、禁裏仙洞可在掌中、歟、彼卿日來猶執國柄、世稱源博陸、又謂土御門、今假外祖之號、獨步天下之體、只可以目歟、讓位之間、將軍兩人、必可供奉、仍內大臣被停左大將了、明日、中納言中將可補云々、其後可被行任大臣、右大將

昇丞相、奪其將軍、通親可拜云々、外祖猶必可補大臣、歟、彼時、又內府可被收公大臣之條、無異議、於此等之次第者、更不足爲愁、猶恐只濫刑也、今日東札到來、其詞快然、還爲恐、今夜奉拜北斗、

八日、丙陰晴不定、小雪降、讓位事風聞、天下事起自倉卒、人皆仰天云々、今日於樂師佛御前、燃七燈、讀七卷、入夜白地向堂、即歸來、今夜、前座主以覺命有被示之事等、依東禮之趣、有可奏聞之事等云々、即爲彼使、向範季之許云々、今日申刻、中納言中將參陣、奉可任大將之仰云々、來十九日可儲慶云々、

九日、丁雨降、此夜、行幸大炊御門第二云々、早旦、前太相國被來、談世間事等、今日向東山云々、或人云、光雅卿云、大將事、雖有解退之志、依不出仕、不能奉辭狀之由、大臣被稱云々、仍有此沙汰歟云々、此事去年春奏聞云、大將早可被申也、而罷居之間、奉解狀之條有恐、若有天許者、身雖不出仕、欲獻狀、又雖不進解狀、只以詞可申者、可付職事、又只可收公歟、條々欲從勅命者、

仰云、此條々、只今難被仰左右、但不意收公一切不可有云々、又以同趣、觸關東、早可申入云々、其後數度雖尋問、無分明之答、今有此沙汰、依件申狀、有沙汰者、尤可被觸仰也、收公者不可有之由、有先日之勅定、今有御要之時、爭不被觸仰哉、以之謂之、非依先日之申狀、只依勅勘之、重有此停任歟、然者、彌可成恐也、今日、熊野使歸洛、有一品經請文、

十日、戊降雨、去夜行幸之間、禁中物騒、取喻無物、大略如燒亡之時、古盛、硯、櫃等之類、每事捧競走云云、此事何故哉、無執行之人之故歟、傳聞豫被定仰隨身等丁云々、臨夕向堂、亥刻歸來、或人云、一宮御名、爲仁云々、光範卿擇申云々、

十一日、己天晴、此日、讓位也、自大炊御門、被渡劔璽於閑院、頭中將公經捧璽、右中將成定持畫御座御劔云々、關白供奉、右大將同前、右大將已下、見出仕公卿、大略供奉、皆淺履也、公卿將三人之中、公經、兼良等卿候本陣、公房卿前行云々、又公繼卿負盃、自余平胡錄云々、先於舊主宮、有固關、及節會等、宣命使通資卿云々、上卿右大臣、於新帝宮、藏人一臘重

資、逐電之間、及數刻云々、昇殿、勅授之拜、混合云云、又殿上人、不拜退出云々、新帝、今日先渡御博陸家、自彼宅渡給閑院云々、今日、二條內裏上棟之間、工與行事、圖諍、及乃傷殺害云々、其血流劍聖之幸路、事甚不吉云々、

建久九年

六月

十六日、壬午晴、奈良僧正之許、遣消息、依有夢想之事、爲成吉事、爲致祈念、所示遣也、此夜、中宮御方、故光長卿女子、忠貞朝臣室妻也、初夢云々、

今日、日中時之間、思惟佛界、衆生界、不增不減之事、耶、雖問答載狀、左、

問、衆生成佛者、共有二增減哉、答、共無二增減、又問云、何故無二增減哉、答云、若謂二增減者、衆生界可有盡期、於三十界、闕減出來歟、又問云、雖欲三十界之無減、不出不可二增減之證據者、其義難成立者歟、先早可述、二界無二增減之子細也、答云、釋云、以三理等故、衆類亦等、勿執事義、而互相謗、問云、今論二增減、幼事謂之何、以一理之義、混二界之

相哉、○按下文恐缺脫

建久十年

正月大

一日、癸巳甚雷雨鳴殊甚、戊刻地震、此日、日蝕也、曆道并宿曜師以賀、申可正現之由、算博士行平、宿曜師兼一等、申都不可正現之由、宿曜師慶算、同申不可現之由、但如算勘、無推移事者、帶蝕入山歟、勘先例者、如今度之算勘者、每度時刻推移、更不正現、仍難存申此旨、今年正朔之蝕、不誤算勘、現了、仍聊貽物疑許也云々、三井寺長吏法親王、承蝕御祈、雨降、雖可謂法驗、恐心竊以醜陶、所以何者、去年有正朔之蝕、明年又可有此蝕云々、而今年蝕、如先例者、多以未虧、初入西山、畢、仍爲他州蝕、此州遙其厄運者也、然則、於今度御祈者、不欲陰雨、只蒼穹高霽、以叶不帶蝕之嘉例、可爲本意也、是即爲使衆人知非此州蝕之由也、而陰雲厚掩、雨脚密下、仍不知蝕之早晚之間、任算勘者、可謂有正朔之蝕也、若比天晴、令正現、雖似可美陰雨、再思之、頗可謂遺恨歟、任算

勘奏御曆、勘吉凶已畢、不見日輪之無虧者、以何可謂他州之蝕哉、雨下者、其厄輕之由、見本文畢、於其條者、雖可悅、比代々例者、猶不通其疑者歟、雖無益、爲後代聊以記之、

依日蝕、節會已下、元正之禮、皆雖有停止之儀、依不正現、猶被行節會了、內辨經房卿云々、依無人無小朝拜云々、寅刻、着衣冠、拜天地四方、即時修祓、陰陽師遙拜太神宮、春日社等、是例之勤也、其後、密々有手水事、陪膳國行、依無四位、入夜、齒堅如例、宮御方御樂、及深更者、是日沒以後、依有內裏御樂也、今日雖爲日蝕、多分不可正現之上、天陰雨下、仍篋中引如壁代、不下格子、且是元正閉戶、有事恐之故也、宮御方同前、余竊雖與中宮同居、僞稱在堂之由、依有所思也、

二日、甲天晴、早朝、手水如昨日、此日、有院拜禮云云、攝政不被參入、以爲奇云々、去夜節會出仕、今日拜禮籠居、可謂不思議、若進退之間、耻窘嘲歟云々、可彈指々々々、院拜禮申次信清卿云々、忠良、經房、泰通等卿、參中宮云々、又公經、公房等卿同云云、經房舊年被免、勅授了云々、此爲遠八卦方忌、

於此僧房邊、待晚鐘、中宮同於西門邊、乍御車、鐘報之後歸入給、常伺候男共四五人候御車邊、余、內府同之、

三日、乙陰晴不定、手水如昨日、此日、兼良、實效、信清、兼宗、雅隆、宗賴等卿、參中宮云々、宗賴卿云、來廿三日可有朝覲行幸之由、忽其沙汰出來云々、

四日、丙天晴、隆保卿、依一級大切之事、可申給故皇后宮御給、即可書進御申文云々、答云、皇后宮御給、仁安之比、可爲加級哉否、可被問外記、又加級、不可及御申文歟之由仰了、伴人如此之事、不知案內云々、

五日、丁天晴、或人云、近衛攝政、背有腫物、及灸云云、典藥頭賴基、參籠殿中、未出云々、藏人間中宮御給之人、申賜兼時之由了、依日次事宜、向堂、入夜歸了、此日、欲被行叙位、而依周公腫物、被問人々、各申、可延引之由云々、而新大外記師直天慶、於議所被行除目之例、依令勘申、於陣被行之、上卿宗賴卿、職事下叙人折紙、上卿以件折紙、下大內記宗業、令入眼、左大辨宗隆、只書下名、不書叙位簿云々、是等儀、源臣與親經相

議、不觸攝政、不申上皇、只任意行之、各不被

知子細之故云々、可彈指々々々、往昔、大臣着

議所、議除目、叙位之事、不限天慶、歟、以彼爲例

被行者、諸公事皆以違亂歟、縱於仗座雖被行、大

臣已下、公卿群參、以非常例、可被興行歟、末座納

言、獨爲上卿給、希代之珍事、彌以輕忽也、聊爾也、

凡非言語之所及、攝政牛車之人也、及夜漏、以車

參直廬之門下、押入冠、竊參入於廬中、被行、何爲

難哉、猶不可叶者、一年不行叙位、有何難哉、

猶必然可被行者、大臣已下參集、仰參議令書

叙位、令覽上皇、併攝政、其後可令入眼歟、今被

行之、或有若亡也、我國已獲麟了、知耻者、豈任

朝闕哉、悲哉、

六日、成雨降、見聞書、上階數輩、其中、親雅卿尻付、

六條院未給云々、是又奇特也、凡不能左右々々々

々、經仲叙三品、大又以驚耳目、況又播州猶以帶之

云々、中宮御給、衆時被叙了、是不思議之其一也、莫

言云々、

正治二年

正月

一日、戊晴陰不定、未明四方拜、着衣冠、此次有旬

祝事、通拜、太神宮、内外宮、各如例、午刻手水、陪膳仲資

朝臣、用烏帽直衣、未刻、左大臣來、即參院畢、入夜、

宮御方御樂、併御膳如例、今日、依凶會無小朝拜

云々、

傳聞、左大臣院拜禮之間、攝政作法不審非一云々、

左大臣

第一、不練步事、去年稱脚病、不列拜禮、今年已列之、計

之、

第二、舞踏了、乍居一拜而立、是流例也、而無件小

拜事、先年如此、忠親朝之、今又道被失儀、而其子右大臣、被

第三、不帶鎗劔、引左大臣有此拜、不從父作法、父子之案、是非如何、着螺鈿劔事、此事、定以有家殿例歟、

珍事、既寂不

可參入、

節會內辨左大臣、外辨上首右大臣、謝酒之間、有失

禮、乍居待酒正云々、凡以失禮、爲家之祕事歟、

又以之可爲奉公歟、末世之法、每事無念無勇、何

爲云々、

二日、丑天晴、已刻手水、陪膳同昨日、今日、左大臣

不出行、今日、公卿七八許登參宮、御方殿上人十八許參入、余謁宗賴卿、範光朝臣等、

宗賴云、昨日節會、無指故、及子剋被始行、人以爲奇云々、

宗賴、範光等談云、關東兵亂事、有申上之旨云々、梶原景時、爲他武士等被猜惡、依此舉、以賴家弟童、名千房爲主君、可伐賴家之由、武士等結構之旨、諷之、即被問他武士等之處、稱可被召合景時之由、忽以對決之間、景時卷舌、謀譏忽顯、景時併子息等、皆悉被追拂境內畢云々、

三日、庚辰天晴、已刻手水、陪膳同前、今日、左大臣相伴中將、參所々、左府螺鈿劍、中將蒔繪劍也、御堂餘流、元三用螺鈿、公卿事也、而近代、區々末生、皆帶螺鈿、未知其由也、此日、公卿多以參宮御方、左府參院之處、依御牛御覽之間、退出了云々、又於七條院、被召入簾中、信清卿外孫、若宮出給、不面嫌給云々、

宜陽門打出、其高及三尺、太見苦云々、

四日、辛巳陰晴不定、自今日念誦、親經朝臣、尋申中宮免侍、注申畢云々、

五日、壬午雨下、此日叙位、執筆左大辨宗隆云々、

六日、癸未雨氣未散、早旦見聞書、帝母新准后給爲加階、一品宮御給、不然也、右少辨範光、申給中宮御給、而不叙、內大臣抑留云々、範光任不經幾程、頻加叙例、重申入畢云々、內府與範光腕力、明日可見歟、

七日、甲申陰不定、此日、白馬節會也、未刻、左大臣參陣畢、攝政遲參之間、秉燭之後事始云々、有加叙、兼宗卿書入、大辨不候座云々、

今日違例事、左右大將、取白馬奏之間、入柱內、是雨儀作法也、又一間之內、兩人立差肩云々、未聞事也、若是大臣大將、准並立異角壇上之例、通親推事歟、外辨上首右大臣、乍居待酒正云々、元日如此、若是祕說歟、但故殿全不然、問公事於禪門云々、若彼人之教訓歟、可尋之、

抑、西海主、併上皇御宇、正月御忌月之間、無出御、仍大將取白馬奏之儀久絕、而適有出御、又大將等早參、而奏以前入御、人以爲奇、攝政不知子細、不執公事之所致也可哀々々、去年豐明棄置主上於椅子、退直廬、於椅子忽御寢、尤有危云々、彼日、

早申行入御、其後被退下、尤可宜、今日、暫指入、御見大將作法、尤可庶幾歟、柳棟之喻歟云々、

八日、乙未天晴、左大臣、供奉修正御幸、直衣、出行相象也、騎馬供奉云々、早旦、自院賜御馬云々、

九日、丙申天晴、昨日女房見夢、今年慎、可有助之由也、爲悅云々、

長兼來語云、去年秋除目、雖有算道課試之者、不被任之、被任舉云々、未曾有事歟、

十日、丁酉天晴、自去四日所始之心經萬卷、今日結願之、於佛前、聊有吉瑞、今日、女房密々參賀茂、吉田、祗園等、

十一日、戊戌天晴、解除、遙拜、

十二日、己亥雨下、及亥刻雨止、此日、上皇爲御方違、幸山崎邊內大臣別業、成實僧都值云、

今日、公家無御方違云々、中宮有行啓八條院、來十五日可有還御、公卿直衣、殿上人、宮司衣冠、無

反閉、左大臣、爲御車寄、余向東山方違、

今日、百日祝終也、召晴光有祓事、賜小祿、上絹一疋、又他所作等同、今日結願也、信心聊發起、此夜、女房參宿廣隆寺、依節分也、是依夢告、去晦日又如

此、百日祈念、結願日、僧都有慶、尤吉瑞也、

十三日、庚子天晴、早旦、自東山歸來、去夜有僧事、良圓轉大僧都、不虛朝恩也、今晚有吉夢、祈請滿

百日之朝、尤可悅云々、自去七日、聊始所作、今日結願之、

仁和寺宮、以成海爲使、被示條々事、其中、今度僧事、非據非一、爲宗尤不便云々、玄上修理之賞、太

輕々也云々、

十四日、辛丑陰晴不定、左大臣可參御齋會、併法成寺修正之由、雖令諷諫、連日出仕之間、有病氣之

上、僕從不出來、仍不參云々、今日、高倉院御國忌也、而一昨爲違節分、御幸山崎、昨日可有還御之

處、空以逗留、今日相當先皇國忌之日、猶遊覽、及晚歸洛給、是定內大臣執奏之旨歟、可彈指云々、

十五日、壬寅天晴、阿彌陀講如恒、十三四五、併三夜、不留宿、於門外、待鐘歸入、爲下付忌也、今日、僧都上洛、即參院畢、

十六日、癸卯天晴、踏歌節會也、左大臣、先參一品宮行啓、其後參節會云々、一品宮、今夜入給院也、今日

歸東宅、

十七日、^{甲辰}天陰、算博士行衡、持_レ來勘文、今日、行年運尤吉也云々、又云、明年辛酉、不可_レ當_レ革命、然而、凡於_二辛酉_一者、爲_二凶年_一云々、

十八日、^{乙酉}雪降、蓮花王院修正、有_二御幸_一、左大臣參_二會寺門_一、依_二攝政不_レ候_一、候_二御簾_一云々、此日、雪積_二庭三寸餘_一、

十九日、^{丙午}天晴、築_二雪山_一、左府、中將等來、爲_レ見_二雪向_一法性寺、雪早消、大無_レ興、恒例舍利講如_レ恒、此日、除月初日也、執筆左大辨宗隆卿、今日、堂_ヲ奉_レ讓_二中宮_一書契狀進了、仍今夜宿_二堂_一、爲_レ撰_二所也_一、

廿日、^{丁未}今日、佛事如_レ例、除目中夜也、

廿一日、^{戊申}此日、依_二沒日_一、除目延引云々、

廿二日、^{己酉}此日、院尊勝陀羅尼也、左大臣已下、公卿濟濟云々、左大臣取_二導師被物_一、內大臣爲_レ不取_二裘物_一、早出云々、導師眞圓僧正云々、此日、除目入眼也、筑前守爲_レ定、^{經房}藏人巡云々、件國、去建久八年、源泰宗爲_二藏人_一、巡_二任之_一、今年當_二第四年_一、管國以_二五年_一、爲_二任限_一、而籠_二二年_一、收公、先代未聞事也、又彈正忠五人同時拜任、未曾有事也、是以_二件官功_一、被_二拘捕_一、爲_レ懲_二天事_一、有_二此拜任_一云々、角直牛死之喻歟、可_二彈指_一云々、

彈正忠三員也、雖_二亂世_一、未_レ有_二剩任之官_一也、

廿三日、^{庚戌}及_二晚見_一聞書、珍事太多、不可_二勝計_一、

廿四日、^{辛亥}此夜下名也、

廿五日、^{壬子}早旦聞_二下名聞書_一、無_二別大事_一歟、一品宮、今日自_二院還_一、御八條殿、左大臣參_二御車寄_一、長兼來、

爲_二內府_一入_二讒口_一之由、所_二歎息_一也、

廿六日、^{癸丑}天晴、此日、爲_レ聽_二聞僧正逆修_一、相_二伴左大臣_一、密々向_二吉水_一、後之七日、澄憲法印來住、勤_二導師_一云々、今日、同說經第五卷、余送_二小布施於法印_一許、爲_レ師尤可_レ營_二其修善_一之故也、

廿七日、^{甲寅}入_二夜_一、爲_二方違_一向_二法性寺_一、於_二東山中_一、遂_二今日_一、僧正送_二札_一、昨日聽聞、併布施美麗之由、被_レ悅示也、今日、晴光來云、景時遂電畢、昨日酉刻、自_二關東_一飛脚到來、今日有_二御占_一云々、

廿八日、^{乙卯}陰晴不定、開_二鐘嚴歸_一新宅、入_二夜_一、中宮行_二啓最勝金剛院御所_一、依_レ爲_二御本所_一、爲_レ被_二付_一王相、大將軍忌也、此夜、余宿_二新宅_一、此日政始、又女叙位云々、又上皇第二皇子着袴定云々、

廿九日、^{丙辰}天晴、入_二夜宮還御_一、左府在_二御共_一、余同歸_二宅_一、僧正被_二示送_一云、可_レ勤_二行如法北斗法_一之由、內

大臣示送云々。

或人云、梶原景時企上洛、於駿河國高橋、自鎌倉京方也、爲上下向武士、併土人等被伐取了、景時、景茂自殺、景季、景高等被討伐畢云々、於法勝寺領古橋庄内、有此事云々、但不知實說、可尋問。

二月大

一日、丁巳天晴、此日、釋奠也、句祝遙拜如例、申終、前座主慈圓被來、自明日、於上皇宮、可被始修如法北斗法、有御請云々、

二日、戊午風雨慘烈、景時討伐必然云々、天下悅也、積惡之輩、盡數滅亡、越高獨運未消、如何云々、御祈等、今日延引云々、

三日、紀天晴、陰陽頭在宣朝臣來、問方違之間事、此日、右大臣家實、爲春日祭上卿、下向南都、中宮御奉幣如例、陪膳長經朝臣、役送宗行、使長兼、供奉上卿之行粧、仍宗行取幣而立、

四日、庚申天晴、此日、春日祭也、修祓遙拜、南極迫山、峰有二星、若是老人星歟、可謂瑞歟、中將小舍人童、生年十二歲、聞國并上手之由、召見之、實以不思

議也、此日以使者、示遣醍醐禪師乳母之許、座主空籠之間、此禪師之間事也、成實可抽忠之由、令申云云、

五日、辛酉陰晴不定、時々小雪、自今夜、被始御祈等、去二日延引、猶今夜被行云々、如法北斗在其中、僧正參住仙洞云々、

仁和寺宮、被送牛二頭、可返與一頭云々、仍留斑牛、返黑牛了、今日召定綱、石見唐船之間事、示入道相國之許畢、

六日、壬戌天晴、僧正被示送云、去夜、如法北斗法、無爲始行畢、令逢時給云々、五壇法同被始行畢云云、

七日、癸亥天陰、傳聞、春日上卿之間、於黑木屋、童舞之間、聞靜出來、尤狼藉、先規未聞云々、又聞、黑木屋、先例三ヶ月不壞云々、而爲內大臣奉行、自院被召、件黑木屋云々、未信受之、

九日、乙丑天晴、此日、左大臣有作文、題云、春作四時始、序者皆爲長、光範卿、兩貫首已下、文人十餘輩云々、講師成信、資實朝臣、有作跋云々、十日、丙寅晴、母遠忌也、自今日、始恒例懺法如恒、

十一日、丁今日、大原野祭也、宮御方御禊如恒、陪膳

成定朝臣、奉行宮司長兼、依無使、奉行取幣立、大

夫進宗行、依分配行社頭事云々、余雖不奉幣、

爲神事、竊修禊遙拜、左大臣奉幣如恒、此日、左大臣

又密々有作文、當座也、雨中對花柳春字、入夜、別

當公繼卿、爲拜賀參宮、申次相語長兼云々、

十三日、己雨下、宿曜師珍善、奉造立虛空藏、尊星王

等、奉渡、今日遣行曉法印許、爲遂開眼也、依夢想

牽造云々、

十四日、庚天晴、今日、上皇幸內大臣水成瀬山莊云

云、今日、中宮爲聽懺法、渡御堂、左大臣、中將候

御共、初夜時了返御、今日、別當公繼卿、參宮御方云

云、謁左大臣云々、今日大風、

十五日、辛天晴、風如昨、凡今年自春始、日々風烈、

阿彌陀講如恒、

十七日、癸天晴、入夜向北小路東洞院亭達方、爲

本所也、依東山犯土也、今日、送佛壇於大原、

十八日、甲天晴、左大臣參院、始謁龍顏云々、披五

翅之春霞、拜一人之天顏、拭感淚、催懷舊云々、

閏二月小

八日、甲天晴、供舍利、僧正持來、

正治二年

六月

廿八日、壬天晴、此日、中宮職有院號事、未刻、左大臣

參院、公卿參陣、公卿參集之後、次右大辨資實來就軾、

仰可定申之由、人々定申之後奏聞、只申攝政殿參院、

由有院、重被仰一同可定申之由、重奏聞之後、職事

仰云、停中宮職、可爲宜秋門院、以進屬爲判官

代、主典代、御季御服御封雜物如舊、但內膳御飯、從

停止者、次左大臣已下、公卿相引、參九條御所、但忠

經、家經、宗隆等不參、定有所存、歟、公房卿參入、尤

可謂知禮也、又親雅卿依未着陣、雖不參陣、

依無人所參本院也、左大臣先參御所方、其後、人

候公權亮師經朝臣頗遲參、件人參入之後、左大臣懷

院司折紙、着殿上座、召師經朝臣下之、次昇出大

床子二脚、判官代兼時、親房、宗行等役之、先卷南階

西間、大床子御簾、撤几帳、入自同間、先昇一脚、時、

親房昇之、下殿昇前也、此次親房歸參、宗行相共昇出今

間、宗行留殿南簾于邊、

一脚、下、昇、共昇立公卿座北底、次兼時、宗行歸參、
 宗行取圓座退歸、兼時直御裝束、並立、同以退歸、
 次修理職下部、昇出火炬屋、布衣冠四、次陰陽寮官人、
 撤時簡、次應官二人昇出御膳棚、此間、左右兵衛官、次院
 司公卿已下、列立中門透廊外、東上南面、主典、付師經朝
 臣懸事由、師經、就殿北底西、歸出、仰聞食之由、復
 本列、次一向拜舞、次人々退出、次於廳主典代等、賜
 諸衛官人、諸司、女官等祿、有差、
 今日定詞、

左大臣、宜秋門院、

權大納言泰道、承明門院、宜秋門院、

春宮大夫忠經、東九條院、

中宮大夫兼良、春寧門、宜秋門、

三條中納言公房、承明門、宜秋門、

宰相中將家經、承明門、東九條、

左大辨宗隆、承明門、

重被仰、一同可定申之由之時、門宜秋門、御
 所東九條之由、奏之云々、

院司、

公卿別當、

權大納言泰通卿、
 權中納言兼良卿、元大夫、
 非參議、

右近中將成定朝臣、本官職事、
 前丹後守長經朝臣、年預、
 左近少將師經朝臣、元權亮、

判官代、

兼時、元權大進、

親房、同、

宗行、元少進、

主典代、

大江政職、元大膳、

三善仲親、元權大膳、

已上五位、

安部資兼、元少膳、

權大夫公繼卿、依衆徒訴解任、仍不出仕、春宮權大
 夫宗賴、自昨日俄頃二禁、仍不出仕、仍此兩人不
 補院司也、長經先可補亮之由、雖奏聞、除書忽
 不可被行、仍只可補年預之由、有院宣者也、
 抑、宜秋門院無殊難歟、女院之初、東三條院也、其

後、上東門、陽明門、郁芳門院、雖爲門號、皆御在所、在其大路側、仍所號也、而待賢門院之時、御所、其後不宜存、始被用、無其故之門號也、白川院御時、

定有思食旨歟、其後、美福門、皇嘉門、上西門、建春門、建禮門、殷富門、宣陽門、皆無其故被用之、宮城外邸、其名盡畢、仍准建春門、可被用、內裏之外門、歟、八省、大內、諸司、皆各別之所也、仍被用、內裏外垣之門、頗似有由歟、其中、宜秋門、其家尤宜、秋字頗通愁音之由、雖有舊難、此事無謂、后宮即以長秋宮爲號、稱秋宮、此謂也、況乎、萬歲千秋之心、尤可謂佳名、秋是萬物成就之時、春秋相比之時、陰陽有次之故、以春爲先之心也、女者象陰、尤是女院之號者歟、仍余所庶幾也、人々又多定之、尤可謂相應也、此旨密々豫以奏聞畢、

廿九日、癸晴、小童着袴之後、始參吉田社者、和衣、祖母同車、密儀也、重季朝臣在共、無出車、成信取幣、共侍四人、

卅日、甲今日、女院御方、六月初如恒例、院中之儀、陪膳長經朝臣、役送親房、陰陽師晴光朝臣也、晦御祓、使宗行、昨夕、院司着薄色指貫、衣冠參入、雖御所始

以前、恒例之事不可默止之故、被行件御祓等、殷富門院、六月廿八日院號之例如此云々、資寶所申也、

七月小

一日、乙天晴、今晚、女房夢云、今月廿日、余可有慶賀、奈良僧都可上洛云々、

九月大

七日、庚中所勢更發、不辨前後、然而、猶出庭、使隆聖拜北斗、依足不叶也、

八日、辛渡堂、一晝夜、卅九燈如常、每月舍利供、又如例、

十一日、甲二品平產男子云々、七佛藥師時之間、有氣分、獨候御加持之間、御產成畢、珍重云々、

廿二日、丁依灸治、仰隆聖、令拜北斗、

廿七日、庚自三夜半、女房病惱、及危急云々、仍修誦、

廿八日、辛依女房病重、迎取堂廊、及晚頗宜、

廿九日、壬女房同前、

卅日、癸未女房、今日殊大事發、仍請法然房、令授戒、有_三其驗、尤可貴々々、又渡邪氣之後、聊落居、成圓祈之、

十月小

一日、甲申及_レ晚、女房溫氣散畢、爲悅、今日猶受戒、自今日修不動法、件續六口、法印其尋修之

二日、乙酉今日、又更發、太以重惱、今日猶受戒、

三日、丙戌及_レ晚溫氣頗宜、猶不醒、自今日始藥師經讀經、燃卅九燈、限以七ヶ日、僧六口、不斷讀之、

四日、丁亥女房今日不發、

五日、戊子女房溫氣今日散了、左大臣除服、

六日、己丑女房不發、爲悅、

七日、庚寅依_三足猶不_レ叶、仰_三陸聖、令_レ拜_三北斗、左大臣今日着障、

十一日、甲午定能卿、仁和寺堂供養、依申請、布施取諸大夫、少々催遣畢、

十二日、乙未左府百首十首等、依召進院畢、付_三光範云々、

十四日、丁酉左府始參院、參_三御前云々、

十七日、庚子今日、女房始浴、又余及女房、共追_三物氣、不動法結願畢、法印今日登山、此日、般富門院御堂供養、有_三御幸、左大臣參入、導師仁和寺宮、今晚、女院御祈、修_三歲星御祭、晴光修之、今月廿日比、木星入_三御命位、仍所修也、今夕、又奉_レ造_三木星、始修_レ供、陸聖修之、明年一年長日可修之、般富門院御堂供養、導師有賞、以_三成賢、任_三權少僧都云々、職事直仰_三大阿闍梨、不_レ仰_三上卿云々、攝政參_三會御幸、擡_三御車簾、下御之後退出了、不_レ被_レ候、御堂供養座、人々傾奇、

十九日、壬寅天晴、此日、宜秋門院殿上始也、晚頭、人々參集、乘燭事始、左大臣着_三殿上、院司公卿五人、殿上人總卅人、加_三藏人二人、定、

廿日、癸卯天陰、女院殿上人等、着_三束帶、參入云々、三ヶ日可_レ如此云々、

十一月大

十三日、丑五節參入也、左大臣出仕、攝政於_三帳邊、不_レ着_三攝政座、在_三扨從公卿座之間、他公卿等居_レ板、尻冷難堪云々、

十五日、卯月蝕、左大臣依_三物忌不出仕、
十六日、辰節會、左大臣不出仕、右大臣、始內辨、雨儀云々、

廿二日、癸此日、春宮御着袴也、左大臣參入、三位中將、先參_三臨時祭、其後參_三東宮云々、

廿二日、甲上皇入_三熊野精進屋_二給、

廿八日、辰上皇參_三詣熊野_二給、道間不可有_三風雨難_二之由、前座主承_三勅祈_二念之云々、

十二月小

八日、庚天晴、此日、宜秋門院御佛名也、打出白掛如例、左大臣已下、公卿六人參入、

十五日、丁今日、願運房歸了、今日受_三十善戒、依_三奈良僧正勸進_二也、此夜歸_三參女院御所_二、

十九日、辛向_三堂、舍利講如_二例、

廿日、壬此日、大童元服、名_三良平、最密儀也、加冠左大臣、理髮左少將定家、脂燭少將資家、侍從賴房、兼良來

扶_三持出入_二今夜、叙_三從五位上_二、又聽_三禁色昇殿_二、但不_三出仕_二也、申_三請院御冠、御直衣等_二、

廿一日、癸此日、今若宮御百日云々、左大臣參_三六條

殿、三位中將供_三御幸_二云々、早速之間、參_三會路頭_二云云、攝政寄_三御車_二之後、不着座、退出如_二例、定法也、
廿三日、乙此夜爲_三方違_二向_三東山_二、山中乍_レ與待_三鐘鳴_二、女院密々宿_三候_二、策勝金剛院御所、報鐘之後還御、下官同_レ之、左大臣同違_レ之、

廿六日、戊此日、香椎事有_三仗議_二、上卿左大臣隆忠卿已下、公卿八人參入云々、左大辨宗隆請_三勘文等定文_二云云、此日、同有_三不堪定_二、而於_三床子_二、辨官見_レ文之間、不堪遲々、攝政攀_三緣_二、早出之間無_レ奏云々、

廿七日、己此日、向_三法性寺_二始_三佛_二、周三尺阿彌陀如來也、院賢始_レ之、院尙子也、法印如_三持御衣木_二、

廿八日、庚長兼來、依_三昨日召_二也、良平、拾遺正下、併良海講師請事、可_レ奏之由仰_レ之、付_三祐覺_二解_三書_二之、明且可_レ奏聞云々、及_レ晚、資實來、依_三官奏間事_二、周公成怒、恐怖之間、元正出仕不定、

廿九日、辛追儺之次、有_三小除目_二、良平任_三侍從_二畢、正下叙位之時、可_レ有_三沙汰_二之由有_レ仰云々、良海、講師勅許之由、資實所_三告送_二也、以上九條本

黑川 興道 校訂
山田 安榮

玉葉卷第六十六尾

明治四十年三月二十日印刷

明治四十年三月廿五日發行

非賣品

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地

國書刊行會代表者

編輯者兼
發行者

市島謙吉

東京市京橋區新榮町五丁目三番地

印刷者

本 季 男

東京市京橋區新榮町五丁目三番地

印刷所

內外印刷株式會社八上場

藤原定家 著

明月記

大正元年（一九一二）東京國書刊行會鉛排本

據大正元年（一九一三）
東京國書刊行會鉛排本影印

明月記

緒言

一、明月記は藤原定家の日記にして、一に照光記といふ。定家は俊成の子にして、和歌を以て後鳥羽天皇の知遇を得しより、天福元年致仕するに至るまで、前後を通じて仕官六十餘年、其の間新古今及び新勅撰和歌集勅撰の事に預り、和歌の名匠として、其名一代を風靡せり。加ふるに、幕府と親密なる九條、西園寺兩家と緣故深く、且つ源實朝の歌學の師たりしを以て、其記する所、此時代の朝廷に於ける政權爭奪の有様、及び公武關係は勿論、院宮攝關家の所領得分、并に朝廷の公事典章、人情風俗の細微に至る迄、其の目睹閱歷する所、直寫詳述して隱諱する所なし。本書は實に鎌倉時代史研究に闕くべからざる根本史料なり。

一、本書傳本數十種あり。其の卷數の異同、内容の粗密重複錯誤等は、今一々之を辨別枚舉するを得ず。本會は之を刊行するに方り、帝國大學史料編纂掛の許可を得て、同掛に於て、諸本を以て校合したる底本を謄寫採收せり。該本は同掛にて蒐集せる傳本二十六種の中、秘閣本、同補寫本、野宮家本、冷泉家本、柳原家本、黒川氏本、早稻田大學圖書館所藏本の七種を、特に善本と認めて校合したるものに係る。治承四年より嘉禎元年に至る五十六年間の記事、其の間缺脱ありと雖も、現存せる明月記の幾んど全部を世に公にするを得たるは、本會の光榮とする所なり。

一、世に後鳥羽院熊野御幸記と題するもの一卷あり、實は明月記の一部分なるを以て、亦本書中に採録せり。

一、又明月記略(明月記附錄)一卷あり、原書の中より歌道の事を抄録せるものなり。今日次によりて之を本書中に編入せり。

一、秘閣本并に野宮家本に、明月記補遺二卷あり。何れも日次闕けて明かならず。其の中、日次を考究推定し得たるものは、之を本書中に編入し、其他は凡て之を卷末に附收せり、
一、紙數を節略する爲め、一日の記事中、文書の様式を示す必要あるものゝ外は、凡て行を別にせず、連續したり。

一、頭註は凡て其日の末尾に、附收せり。

一、本書中、明かに誤謬と認めらるゝ文字は之を改訂し、猶ほ疑のあるものは、右傍に「」と註したり。其の全く讀み難き文字は妄りに筆を加へず。又字句不明にして、確に誤脱ありと思はるゝ處は、傍に其旨を註せり。

一、卷首に、諸家傳によりて、定家の略譜を附收し、以て讀者の便に資す。

一、本書を刊行するに方り、帝國大學史料編纂掛は多大の便宜を與

へられ、阪本廣太郎氏は専ら校訂の勞を執られ、和田英松、八代國治兩氏は注意と助力とを與へられたり、謹んで之を謝す。

明治四十四年九月

國書刊行會

明月記第一

目次

治承四年	一
同 五年	八
壽永元年 闕	
同 二年 闕	
同 三年 闕	
文治元年 闕	
同 二年 闕	
同 三年 闕	
同 四年	一三
同 五年 闕	

目次

建久元年 闕

同 二年

一四

同 三年

一四

同 四年 闕

同 五年 闕

同 六年 闕

同 七年

二九

同 八年

四八

同 九年

四八

正治元年

七五

同 二年

一二五

建仁元年

二〇〇

同 二年

二三二

同 三年 二八二

元久元年 三四七

同 二年 三九八

建永元年 四五二

補 遺

建久元年 四九三

同 五年 四九三

同 六年 四九四

目 次 終

目 次

三

定家略譜

定家略譜

應保二年

仁安元年十一月卅日

同二年十二月卅日

安元元年十二月八日

治承四年正月五日

壽永二年十二月十九日

文治五年十一月十三日

建久元年正月五日

同二年二月十日

同四年六月廿七日

同六年正月五日

正治元年正月廿日

同二年十月廿六日

建仁二年閏十月廿四日

同三年正月十三日

元久二年三月廿五日

承元四年正月十四日

誕生

從五位下

五歲、皇后宮長寬元年未給、于時改光季爲季光

紀伊守

于時改季光、爲定家、父俊成辭左京大

侍從

夫申任之

從五位上

十九歲、頭一、

正五位下

廿二歲、八條院御給

左權少將

廿八歲、

從四位下

廿九歲、少將如舊

因幡權介

復任、母

從四位上

卅四歲、

安藝權介

正四位下

卅九歲、

左權中將

四十一歲、

美濃介

復任、父

讃岐權介

同年七月廿一日

同年十二月十七日

建曆元年九月八日

同日

建保二年二月十一日

同三年正月十三日

同四年正月十三日

同年三月廿八日

同年十二月十四日

同六年七月九日

承久二年正月廿二日

同四年八月十六日

同日

嘉祿三年十月廿一日

同日

寬喜四年正月卅日

同年九月七日

同年十二月十五日

貞永二年十月十一日

仁治二年八月廿日

辭中將以次男爲家申任左權少將、

內藏頭

從三位、五十歲、

侍從

參議五十三歲、侍從如故、

伊與權守

治部卿

辭侍從

正三位五十五歲、俊忠卿天永二年春日行幸行事賞、

遷民部卿

播磨權守

辭參議

從二位六十一歲、堀權守等如元、

罷民部卿

叙正二位六十六歲、超公願、

權中納言七十一歲、

勅授帶劔

辭

出家七十二歲、法名明靜、

薨八十歲、號京極中納言

(完)

明月記第一

治承四年

○二月

(金日) 右宰相中將束帶、參入、若釋奠之次歟、

(六日) 天晴、今夜新宰相中將拜賀、通業郡云、前近六人、具一員二人、私國典、盡胡録、

侍從相具、

七日、夜參內、

九日、未時許參內、新宰相中將束帶被候渡殿、招寄被言談、新頭又參入、參中宮御方、大原野祭御幣等儲之退出、參八條、

十一日、天晴夜雨下、關白御弟元服云々、其年十七、名忠良、(正五位下)、向六角謁申武衛、布衣騎馬之時、着薄色指貫者可具隨身、着淺黃者可無隨身由、有先達之說由語給、

十四日、天晴、明月無片雲、庭梅盛開、芬芳四散、家中無人、一身徘徊、夜深歸寢所、燈勢髣、猶無付寢之心、更出南方見梅花之間、忽聞炎上之由、乾方云々、太近、須臾之間風忽起、火付北少將家、即乘車出、依無其所、渡北小路成實朝臣宅給、倉町等片時化煙、風太利云云、文書等多燒了、刑部卿着直衣被來臨、入道殿令謁給、狹小板屋、每事難堪、

十六日、天晴、今夜行幸閑院、依衣裳等違亂不出仕、出東大路望北方、只見炬火之光、後聞、供奉公卿、大納言四人、(大將、實房、兼雅、大將、實通、實守、三實國、宗國、中納言四人、成範、實家、參議、實宗、)位、(給範、實清、)武衛被注献、今日列見云々、

十八日、天晴、入夜又五條京極有火、

廿日、曉雨降朝晴、參內、束帶、明日御讓位云々、左兵衛佐範能候渡殿、一日昇殿云々、語云、一夜行幸、左馬權頭宗雅供奉、殊以有自愛氣色云々、(參中宮、五條殿、)

廿一日、自曉甚雨、申斜雨止、今日御讓位云々、博陸已下自閑院至于五條內裏、步行云々、

治承四年 三月 四月

廿二日、依徒然竊出見中宮行啓、供奉公卿、左大將、

下藤國^實、大納言^{定房、實房、宗國、中納言、兼雅、賴盛、朝方、參議、實宗、三}

位^{基家、知盛、實清、實家、時忠、實家、在大將後、源宰相中將}

在權大夫前、^{權亮之故歟、}公卿不具馬副、啓將^{左時實、衛門二人、}

兵衛佐親能、云々、御車唐車出車五、毛車、御後殿土人衛

府卷縷、^{警固之問歟、}

廿三日、自夜雨降、晝雨止、依咳病不快籠居、

廿六日、天晴、入道令渡前少將勸修寺給、^{人々皆引卒、一身依病平臥、}

○三月

四日、天晴、夕雨降、去廿八日新院御幸依雨延引、今夜

渡御土御門云々、近日花盛、咳病猶不出仕、中宮又行

啓、

五日、朝間猶陰、關白始入宇治給云々、過門前給、殿上

人十餘人、

十七日、己巳、安藝御幸延引之由聞之、所勞之後未出

仕、

十九日、辛未、自朝雨降、安藝御幸云々、^{上皇御冠直衣云云、侍臣日來衣冠}

可被仰下布衣云々、中宮御時發衣冠云々、

廿七日、天晴、依仰參八條院、^{常盤殿、}

卅日、天晴、向法性寺、右武衛被渡、見藤花、

○四月 小

一日、癸未、天晴、申時許有火、七條南小路西洞院到于

室町、^{處居、人々、群衆云々、}

九日、今夜遷幸大内云々、入夜行五條坊門東洞院雜人

宅見物、供奉公卿、大納言大將、^{馬舍人萌木平禮、馬副取松明、}定房、^{不具、}

實房、^{馬副四人、二人取口、宗房、不取口、中納言兼雅、馬副如、別當、}

火長看督各四人、^{隨身二人、}右將軍、^{舍人蘇芳平禮、馬副不取松明、}朝方、^{馬副六人、}

明在前後、^{實家、馬副如數、二人取口、參議實守、不具、}三位知

盛、^{馬副取口、二人親信、無馬、賴實、二人取口、二人參議定能、}

不具、御後兩頭二行、次五位藏人、執柄騎馬、府生二人、

重服者除服供奉云々、次后宮出車五兩、新院自安藝還

御、^{一昨日發御福原、昨日寺江、}今夜入御八條亭云々、

十一日、未時參常盤殿、奉逢左大將、下車立、依先日御

命也、日入以前、御幸八條室町賴盛御第、騎馬供奉、入

御了退出、

十二日、初參院、御祓、入御紫野云々、

十五日、天晴、夜前中宮密々渡御新院御所、於湖平門乘車給、非恒規歟、

祭使左少將基宗、風流臨時祭云々、不見物、

廿二日、天晴、一昨日內昇殿人少將有房、通實、公時、公守、右中辨兼光、

右少辨兼忠、右衛門隆雅、殿下、今日御即位、紫宸殿儀云々、昨御共料、宗雅、家後、盛定云々、

日叙位、從一位基通、從二位成範、賴盛、正三位賴實、

正四位下敦周、北野、光範、坊實、從四位上長房、八條、基輔、

門、正五位下親經、公兼、行幸、良經、從五位上高階爲

清、安倍廣基、藤家經、從五位下不審、

廿六日、天晴、石清水臨時祭、拾遺勤仕舞人、童二人二藍、青衣、雜色

不審、於中御門大宮邊見物、御共、日入之程事了、行列

舞人、兵衛尉信政、院判官代、雜色、藏人右近將監高階親

家、雜色同付牡丹、童、二藍山吹衣同花、右兵衛權佐盛定、雜色萌木山吹、右少將

基範、雜色蘇芳、侍從成家、侍從實保、童二人、二藍、白、右少將

公守朝臣、童二人、毛香、朽葉曾打衣付、丸、結、盤、附物忌、雜色萌木、

付、養、取物、同、紅梅出衣、橘、殿親、番長兼公久、赤色紅打、

右馬頭長房朝臣、童一人、雜色、左少將通資朝臣、童二人、

色青引、右中將清通朝臣、無童、隨身四人、白雜色二人、使三位中將賴實

卿、馬副、變、隨身、雜色、白、服、四位陪從中務大輔經家朝

臣、色衣、取物四人、薄青薄色衣、右京權大夫信行朝臣、前少納言重雅朝臣、前馬

權頭隆信朝臣、

廿七日、天晴、未時許參院、八條田、中殿、七瀬御祓使也、於臺

盤所北面取御撫物之儀如禁裏、向一條末、御祓了歸參

退出、今日御覽御牛、藏人引也、內々儀歟、

廿九日、辛亥、天晴、未時許霞降、雷鳴先兩三聲之後、霹

靂猛烈、北方煙立揚、人稱燒亡、是隱也、京中騷動云

云、拔木揚沙石、人家門戶并車等皆吹上云々、古老云、

未聞如此事、前齋宮四條殿殊以爲其最、北盡梅樹露根

仆、伴樹懸簷破壞、權右中辨二條京極家又如此云々、

○五月

一日、天晴、參齋宮訪申健御前、奉抱姬宮、心中又不存

可存命之儀云々、檢皮分散庭上、破損非口可宣、

二日、自曉雨降、晝時々霽、參八條院、御月忌、

七日、天晴、臨時祭還立舞人、盛定之外一人不參、通資

治承四年 五月

治承四年 五月

朝臣雲客召簡、長房朝臣兩侍從基範等恐懼云々、但公守朝

臣依被優獎雖參入由、有被賜云々、藏人佐光長以舊狀仰此由、

十日、天晴、衣冠青服衣、滿色指貫、參法勝寺三十講結願、歸路參

前齋宮六條高倉、榮全法眼房、依風破壞奉渡、

十一日、天晴、參院二藍狩衣、獵着張衣、隆房中將着單衣許、於今

者暑氣已催、單衣許宜之由被相示、右近馬場眞手結日

自女車送歌香花田薄標、返歌等態注付被授之、爲覽家君也、

退出、參八條院、

十三日、召藏人通資朝臣親家等被免云々、

十六日、丁卯、九坎、今日朝傳聞、三條宮配流事日來云

云、夜前檢非違使相具軍兵圍彼第、賜源氏之姓、其先是以光云々、先是主

人逃去、不知其所、同宿前齋宮亮子內親王、又逃出給、如漢主出成

早與滕公共車歟、巷說云、源氏入園城寺、衆徒等槌鐘

催兵云々、平中納言賴盛卿參八條院、搜檢御所中申請

彼孫王、依遲々及搜求云々、良久孫王遂出給、重實稱越中大

夫、一人相隨、但納言相具向白川宮出家云々、一昨日法

皇自鳥羽渡御八條坊門烏丸、八條院、舊御所云々、

十七日、夜雨止朝天晴、巷說非一、園城寺騷動、固關構

城云々、山上合力之由有其聞、或云、虛誕云々、

十九日、雨降、恐懼舞人今日被免、藏人佐泰書、可令出仕給、攝政殿御氣色云々、

廿一日、天晴、向法性寺、前典既但馬等往々語三井寺

事、多是賊軍嗽々由也、

廿二日、自夜雨降、今朝云々說、賴政卿入道、年坊門匣七十七、引率子

姪入三井寺云々、今夕俄行幸八條亭、新院又遷御于東

第、北方有火、賴政卿家放火云々、

廿三日、天陰、自今日移坐法性寺華亭、廣博適慰心緒、

亭主坐東方、

廿四日、陰晴、入夜賴政卿東山堂雜舍等燒之云々、

廿六日、天陰、謀反之輩引率三井寺衆徒、夜中過山階赴

南京、官軍追之、於宇治合戰、遂奔至于南京、賊徒多斃

首、藏人頭重衡朝臣、右少將維盛朝臣、歸參獻俘云々、

有夾名、

廿九日、夜雨止、朝天晴、從四位上清宗朝臣叙從三位、

自餘勸賞等了、依昨日催着衣冠參院、百座仁王、人々堂童子、

密語猶不止、於事噉々、賴輔朝臣參入、只見仁王會咒願、握翫其文章、事了退出、宿七條坊門、

卅日、天晴、早旦着布衣參院、帥參候、上下奔走周章、

女房或有悲泣之氣色、密招右馬允盛弘、若州之後見、問子細、

答云、俄有遷都之聞、兩院主上忽可臨幸由、入道使申給、前途又不知安否、悲泣之外無他事云々、退出歸法性寺、

○六月

一日、天晴、遷都一定之由云々、傳聞、遷幸必然、或人云、右中將隆房朝臣一人、着褐顯文紗狩袴市比脛巾、帶狩胡篋云々、自餘事不聞、

八日、天晴、今曉拾遺付中御門亞相殿、便被參新都云云、

十三日、天晴、依新都之催、參白河押小路殿御堂、高松院御

忌、舊院女房等參入、相謁前大納言實長卿、布衣、三位隆輔卿、侍從實保參、取布施退出、又舊臣等少々在北面方、不見知、

十四日、天晴、依穢無馬長沙汰、大納言殿夜前被歸洛云々、

十七日、天晴、入道殿御共參前齋宮、又令渡右少將許給、留七條坊門了、今日髮鍛日云々、

廿一日、朝雨止、三井寺僧綱僧正房覺公顯已下十三人被付使願使云々、

廿七日、天晴、依昨日催束帶參閑院、院七瀬御板、御撫物取入長櫃一合、自新都渡之、於此御所奉行藏人經奏、

取分之、授使々、侍從成家、中務季信、侍從伊輔、下官判官代信政五人也、向近衛末、歸參閑院、付藏人退出、宿七條坊門、

○七月

二日、天晴、未時參安樂壽院、於河原奉逢右武衛、告事訖由給、猶參入謁女房退出、源大納言、中御門云々、武衛、三位實清參入丁、拾遺被參最勝寺、三條大納言、中納言成範、宰相實宗、長方卿參入云々、

七日、天晴、參法勝寺御八講、人々云、來九日可被行神

治承四年 九月

六

今食、源大納言、本上、花山中納言、右兵衛督、宰相中將、
實宗、前大貳、親信、八條三位、實清、清通朝臣加行香、實清
卿取明雲座主布施、

八日、天晴、參最勝光院御入講、行事辨兼忠、每事散
散、參公卿、帥、三條大納言、堀川中納言、忠親、藤中納
言、成範、宰相中將、實宗、三位親信、實清卿、

九日、今日、月次祭、神今食云々、亞相月次祭、武衛神
上
今食被參之由、各有御消息云々、

十五日、天晴、亭主爲禮佛被參御堂、依行步不叶、乍興
被參、堂中扶持女房四五人步行、皆着單衣重、高倉卿、
少納言、肥前、越中、有參法勝寺孟蘭盆、事訖人々退出
之間也、宿七條坊門、今夜月蝕云々、依暑氣上格子、只
望明月、終夜無片雲、蝕不見、如何、

十六日、天晴、炎旱涉旬、參法勝寺如說仁王會、池荷盛
發、兼進青甲、清通中將已下十餘人參、或沉淪老者咲英雄
之餘流、不堪行步顛仆之故也、參公卿、大納言、隱季、中
納言、忠親、參議、實宗、三位、實清、

十七日、天晴、亭主一昨夕聊所惱、今日重被發、凡日來
家中上下侍女房等同時瘡病並臥、病惱極以怖畏、
十九日、天晴、亭主招佛殿房受戒、又一日不動尊造立
供養、同上、遂被發、

廿一日、天晴、諸阿羅漢房被受戒、大納言殿、右兵衛督、各
被枉駕、猶被發了、

廿三日、天晴、今日一日大般若、廿人、又驗者護身、猶被
發、參鳥羽殿御月忌、歸來之間入道殿又令惱給、仰云、

急可去此家、不可同宿、頻被追、旁雖不審、隨仰宿北小
路、前羽林女房等同集此所、

廿四日、天晴、尼御前又惱煩給、

廿五日、天晴、今朝共令渡七條坊門給、同時瘡病又赤
痢病更以不足言、無減涉旬月、每事不能右筆、

○九月

世上亂逆追討雖滿耳不注之、紅旗征戎非吾事、陳勝吳
廣起於大澤、稱公子扶蘇項燕而已、稱最勝親王之命徇
郡縣云々、或任國司之由、說々不可憑、右近少將維盛

朝臣爲追討使可下向東國之由有其聞、

十五日、甲子、入夜明月蒼然、故鄉寂而不聞車馬之聲、步縱容而遊六條院邊、夜漸欲半、天中有光物、其勢鞠之程歟、其色如燃、忽然如躍、似自坤赴艮、須臾破裂如打破爐、火散空中了、若是大流星歟、驚奇、與大夫忠信青侍等相共見之、

○十月小

三日、天晴、今日依吉日、自梅小路令渡高辻京極給、皆引率、亭主坐東方、

八日、天晴、前但馬守親弘日來重病、今日他界云々、外舅也、

十二日、辛卯、天晴、今夜除服、

廿七日、天晴、參閑院殿、七瀬御祓、藏人兼業、通業弟、奉行

下官兄弟、盛實兵衛佐、等三人參勤、還都之後不幾、莖草滿

庭、立藪多顛倒、古木黃葉有蕭索之色、傷心如笑子之過般墟、昏黑向土御門末法成寺邊、彌以冷然、秉燭之後、返上御撫物退歸、

○十一月

七日、天晴、去夜維盛少將自坂東逃歸入六波羅云々、客主之貌已不相若、况亦疲足之兵難當新騎之馬云々、入道相國猶以逆鱗云々、

八日、前齋宮今晚下向攝津國貴志庄給云々、姬宮同被奉具、法眼榮全行事、去夜遣迎車、健御前被渡此亭、此兩人共不快、不從漁父之誨之所致也、

十三日、天晴、九條三品夜前已入滅云々、今年八十五、廿五日、癸酉、天晴、還都事日來云々說、已及出車引替之催、歡喜之淚難禁、

廿六日、天晴、今日天子兩院已以還御、未刻本院六波羅泉殿、新院同池殿、天皇五條東洞院、各入御云々、後聞、新院自御車下御、猶不輒召寄近習、女房令懸肩御、入御之後偏御寢云々、

廿七日、天晴、參新院、執柄參給、

卅日、天晴、參新院、七瀬御祓使、與侍從伊輔相共出向近衛川原、歸參之間、左衛門大夫家實、依御撫物員數

治承四年 十二月 治承五年 正月

少、所相待歸參也、于時秉燭、

○十二月

二日、庚辰、天晴、今朝追討使又發向近江、左兵衛督、

左少將清經朝臣、右少將資盛朝臣、越前守通盛朝臣、

皇太后宮亮經正朝臣、薩摩守忠度朝臣、參河守朝臣、

淡路守朝臣等云々、見物車競馳、

十二日、天陰、風聞力近江軍兵等入三井寺堀關路云々、

仍官軍等奔走、

十三日、天陰、官兵多向三井寺、

十五日、天晴、南京力衆徒明日發向之由風聞、院并禁裏

被儲武士、侍臣各可進勇幹者一騎之由有催、事頗希有

歟、但求白丁一人史大夫盛資從者、令着介冑騎驚駘令參、天明歸

來結番、

廿二日、天晴、今日自一院被行御佛名由有風聞催、秉

燭以後參新院、近日同御所也、中央中宮御方、人々參集濟々、以東中門東爲本院御所、

刻限廻東方名謁、武者所等多參、日來不知在所云々、

不圖再見此威儀、

廿四日、天晴、今夜新院御佛名、欲參之間、庭訓制止及勘當、仍不參、不知其故、

廿五日、癸卯、天晴、傳聞、藏人頭重衡朝臣帥師發向南京、

京、

廿九日、丁未、晴、天晴、官軍入南京、燒堂塔僧坊等云々、

東大興福兩寺已化煙云々、可彈指云々、

治承五年

○正月大

一日、戊申、土危、天晴風寒、

二日、天晴、今日出仕、先參六條、次參鳥羽殿、次參新

院、自河原口武士多警固、異尋帝經南面參中宮殿上、次參東中門東、招

出兵衛尉公朝相示退出、

三日、天晴、參院如昨日、參右兵衛督御許、被出之、云々力奉

謁女房、次參三條前齋院、今日初參、依仰也、蘇物驅香芬頓、次參中御門、

同奉謁女房、申刻歸之後、坤有火、依仰又馳向六條楊梅西洞院、乘燭退歸、

四日、天晴、

五日、天晴、

六日、天陰、夕雨降、見叙位開書、一院御給不叙、新院御給源宰相中將叙從三位、上臈藤宰相以亞相御讓同叙之、

七日、晴陰、未刻雨降、

八日、天晴、侍從忠季正五位下、加叙、父春日行幸實、超公國、

九日、天晴、傳聞、一院北面近習等又少々有事云々、不知委事、

十日、雪紛々、

十一日、朝雪、積地二寸許、天晴陰、

十二日、天晴、

十三日、素雪、天晴陰、

十四日、天晴、未明巷說云、新院已崩御、依庭訓不快日來不出仕、今聞此事、心肝如摧、文王已沒、嗟乎悲矣、

倩思之、世運之盡歟、健御前依懇切、密々求牛車送之、被參池殿、謁或女房歸來、被語云、至于今晚叙慮太分明、夜前實全僧都驗者、依可造山上住房、爲方違可退出由申、若州抑留之、仍申不可罷出由、而殊被仰云、山上方已以尤不便、早賜暇可令方違也、依再三仰僧都退出、其後進泰山府君都狀、召脂燭分明御覽、又依人々申、聊召寄御膳、御寢之際、御氣頗有奇事、奉驚見之間事、已危急仍以泰通朝臣令申院御方、即渡御、打鳴金雖有御念佛、不及御合眼云々、日來法皇渡御、深喜悅思食、乍臥有御對面、御言語如平常、諮詢互懇切云々、付視聽催悲慟之思、須馳參之處、末座者更不可然由、深以難澁、是又前世之宿報耳、只以此說僅散不審、今夜渡御邦綱卿清閑寺小堂、抑是六條院御墓所堂云々、如何々々、聞及事不幾、夜私出交雜人見物、落淚千萬行、十八日、去夜雨降、夜半後雪、去夜前齋宮自攝州令歸京給云々、

廿日、天晴、適依放免初參舊院、依右武衛御說、垂纓衣

治承五年 二月

冠、參公卿、左大將、直衣、卷纏、隨身如例、大納言實國、直衣、垂纏、宗國、衣冠、中納言兼雅、垂、忠親、同、朝方、同、實家、直衣、垂纏、宰相家、通、直衣、垂纏、實守、卷纏、實宗、垂、衣、定能、同、三位基家、同、實、清、同、侍從成家、右兵衛權佐盛定、堂童子、素服公卿已下、帥、前大納言、邦、綱、前大將、別當、新宰相中將通、親、殿上人雅隆朝臣、泰通朝臣、隆房朝臣、通資朝、臣時實朝臣、不見兼光朝臣棟範、

廿三日、天晴、亥始有火、四條以北東洞院云々、

○二月小

六日、天晴、參舊院、中宮御佛事也、衣冠、吉服、與少納言惟基、衣冠、勤堂子、參公卿、大納言隆季、服、實房、直衣、卷纏、實國、、服、不入人數、中納言時忠、服、忠親、諫問、束帶、劔、實家、束帶、劔、、推著云々、、參議家通、直衣、賴定、諫、直衣、實宗、束帶、劔、通親、服、三位基、家、垂、親信、垂、實清、束帶、持笏、

八日、天晴、參舊院、公卿、隆季、實國卿已下濟々、衣冠如日來、十一日、天晴、四七日參舊院、今夜始着諫問狩衣、十二日、天晴、布衣參舊院、諫、結緣經供養、無堂童子、布、公

卿、左府、直衣、諫、、大納言實房、布衣、同、實國、宗家、同、直衣、中納、言兼雅、諫、時忠、帶劔、不賴盛、吉、柳、實家、諫、布、參議實、守、黑布、賴定、布、諫、實宗、同、定能、同、通親、黑、三位中將、、諫、脩範、吉、布、

十八日、天晴、五七日、六十僧依御誦經使參舊院、依堂童子闕如勤之了、參向圓宗寺、日入歸京、

十九日、天晴、東寺圓能阿闍梨受訓經二三卷、

廿日、天晴、着布衣參舊院、大納言三位御佛事、公卿、

大納言、隆季、實國、中納言、時忠、成範、宰相、右兵衛、源、三位、俊、經、

廿五日、天晴、着衣冠參舊院、六七、今日公家於最勝光院

被行御齋會云々、度者使有房朝臣、位和御誦經使兼宗

着橡云々、民部卿資長卿出家、

廿六日、天晴、入道殿御供參嵯峨法輪廣隆寺等、歸路

入法金剛院馬場屋歷覽池邊、上西門院兵衛投歌、以法

印上童爲使、

廿九日、天晴陰、依御法事、束帶參舊院、公家御誦經使

左少將實教朝臣、機、帶劔、取笏、先藏人數圓座、次使參者、次

本院、次中宮御誦經云々、無度者使、說法了與家實敷
上禮師座、圓座、太雖卑賤役、右中辨當座下膳二人可勤
由相示、辭通及實敷、相互可喧嘩、此間事只隨催勤之、
心中不思向後事、但勤之、不歸出本路而出東方、同依
右中辨示也、參公卿、執柄、帶劍、把笏給大納言實房、實國、中
納言兼雅、忠親、成範、實家、宰相家通、實守、實宗、三
位基家、實清、皆把笏、今日中宮密々行啓他所、日次宜云々

○閏二月小

三日、天晴陰、御正日、束帶參舊院、六十僧之外七僧、堂童子六
人、左、親雅、左衛門兼忠、右少納言、惟基、少納言、右、宗賴、中宮權大進、勸解
山次盛定、右兵衛權佐、家實、散位、參公卿、大納言實房、實國、
宗家、中納言忠親、實家、兼雅、連義、宰相家通、賴定、定
能、三位賴實、實清、二人共遲參、事了又每日御佛事、
今夜中宮行啓泉殿云々、供奉人等同前敷、衛府隨身等
帶狩胡籙、與公衛侍從於閑所清談、是只無常悲也、夜
景退出、
四日、雨降、巷說、禪門太相國不豫云々、

五日、天晴、去夜戌時入道前太政大臣已薨之由、自所
所有其告、或云、臨終動熱悶絕之由巷說云々、又邦綱
卿重病之由云々、

六日、天晴、京極殿昨日出家、戒師同證房、後聞、於院御所有
議定云々、謀反事等、

十二日、亭主自去月所勞、灸治盛爛合、更不愈之上、其
身腫逐日有增、今日又移坐北小路、

十五日、天晴、藏人頭重衡朝臣自宇治道發向、赴關東、
遺表申除之內、禪門違言云々

廿四日、雨降、高辻亭主遂以逝亡、龍壽御前又被迎寄、
自去年春有猶子儀、同宿彼家、

○三月

九日、除服、高辻

十五日、天晴、今日初參院并八條院、御八條殿、

十八日、天晴、參議正三位賴定卿薨、御中陰之間頻出
仕受病、日數不幾、家領等悉付屬後家、取五歲小童之
手泣命終云々、後世可悲、今年五十五、

治承五年 四月 五月 六月 八月 九月 十一月

十二

廿七日、天晴、開書到來、左兵衛督知盛、任參議、

○四月

一日、天晴、夜前、下名、隆信、師兼朝臣、叙從四位上、十六日、辛酉、天晴、祭使少將公衡、典侍太理室、出立自近邊云々、未時以後心神忽惱、溫氣如火、於今者更不惜身命、但病躰太遺恨、前後不覺、

○五月

十五日、霖雨始晴、院御供花始、參法性寺殿、前宰相光被參、四位前宰相其例太稀云々、貞信公多年出仕給、但大辨云々、

○六月

十二日、天晴、夜前維盛朝臣任右近衛中將、補藏人頭、先是重衡朝臣叙三位任左中將之替、日來清通朝臣、泰通朝臣已下數輩競望、上臈二人與坊官被問大臣、二人各出坊官者抽賞異他之由被申云々、依仰向彼第、布衣、主人出行之間、隔障子謁申女房退出、是京極殿二女也、

○八月

廿九日、自辰初雨漸降、座主弟子宮今日受戒登山給云、公卿六人扈從、殿上人十七人騎馬、持吉服拾遺供奉、浮線綾白狩衣、服例薄色奴袴、薄色生衣、童二人、二藍、雜色如例、衛府等多具布衣隨身、壯年之輩、或黃張衣、或色々生衣、但左中將泰通朝臣、同少將通資朝臣、白張衣、不具隨身、不帶劔、雜色持劔、是故院素服人忽着吉服、若有所思歟、供奉僧盡善盡美、

○九月

四日、天晴、院御供花、五日、連日參御供花、

廿七日、天晴、入道殿如例引率令參登御所齋院給、有御彈筆事云々、

○十一月

十日、天晴、今晚入道殿初令參院給、龍顏咫尺數刻云云、常可參由有仰事云々、十四日、天晴、御共參院、令參御前給、

十九日、天晴、今日初渡于五條、白晝渡坐、

廿三日、天晴、參鳥羽殿御忌日、先參向六條、

廿五日、雨降、中宮院號云々、後開、建禮門院、

○十二月

一日、天晴、建禮門院殿上始、拾遺參入、殿上人、院御點清撰云々、

三日、天晴、宿東山、

五日、雨止、風寒、開書到來、大納言、資實、中納言、敦盛(一)、宰相長方

(大辨)、中將實守卿不被任、參議經盛、經房、左大辨、光長兼三事、藏人頭秦

通、親宗、頭中將維盛叙三位、中將有茂、通資、少將實

保、伊輔、各侍從勞十六七年、但二人姉妹幸之故也、

十三日、天晴、今日上皇新造御所御移徙、八條院同渡

御、供奉人吉服、自南殿御出、雖非幾程程猶騎馬、兩御

車共入御西四脚、供來列立庭俵人數不立得、每事不能伺見、西門之中崔嵬有坂、

當南庭南有御棧敷、以其北庇爲殿上、其前有屏、屏外

寢殿南庭也、中門廊西有大坂、入御了即退出、今夜建

禮門院又初御幸云々、

十九日、天晴、入道殿參新御所給、見參數刻云々、

文治四年

○四月

廿二日、戊子、晴、已刻許入道殿令參院給、爲勅撰集奏

覽也、日來自筆御清書、白色紙、紫檀軸、具細丸、羅表紙、紘

紐、外題中務少輔伊經書之、納莒、莒蒔繪自御葦手有

新歌、未斜令出給、於御前殊有歡感云云、自令讀申之

給、又蒔繪歌以神筆之本留御云々、

廿四日、庚寅、入夜權尙書奉書云、撰者之詠乏少、猶三

四十首可副進之云云、可撰進之由有御返事、

○九月

廿九日、壬戌、天陰、入夜雨降、良辰徒暮、依難默止、黃

昏參般富門院、與大輔清談、漸及亥時、無人寂寞、欲退

出之間、忽門前有松明之光、有參入之人、內外相驚、權

中將參入、被語云、已欲付寢之間、庭前之木葉忽落、聞

嵐音遂不能寢、忽出騎馬所參也、存人不可候由之間、

見件車感淚相催之由、女房感悅、更又掌燈、連歌和歌

建久二年 八月 十二月 閏十二月 建久三年 三月

十四

等、新中納言尾張等相加種々狂言等、及鷄鳴數聲、雨漸滂沱、遠路天明者不便之由、被急出猶徘徊、空階雨滴之句數返、借笠退出、歸蓬間天漸曙、

建久二年

○八月

三日、己卯、天晴、大將殿來十三日可有御作文管絃和歌等、光範被献題、家月歲月長、詩契万年會、管絃壽域中、已上時共不叶御意之由被仰、松上鶴、和歌、

○十二月

廿七日、辛卯、夜雪既積、三寸許、朝天令晴、今日百首歌進大將殿、先是遣一首、有御和、於披講者、可期出仕由被仰、病氣猶不扶得之間、不能參入、

○閏十二月

四日、戊申、天晴、午時許參無動寺法印、爲悅申牛車也、見參良久之後、伴少輔入道同乘退出、路次參押小

路殿井中宮、此間入道在車中、相次參一條殿、依昨日仰也、入夜被讀上百首、御歌、入道、手、三百首也、事畢有常座狂歌等、深更相共歸家、

建久三年

○三月

一日、癸酉、天晴、午時許參院、小時退出、參內、通宗中將參會之次、語一夜雨皮事、其後基宗□□與兩宰相實數、等、於院大盤所稱大失禮由云々、語此由之處、答云、自今以後無答隨衆議耳、不撤雨皮事、不存知事也者、於下官者只依上臈與參催促所進寄也、又非一身之失、乍覆雨皮寄御與常例歟、又撤却強不可有難歟、未時參大炊殿、大將殿以前□參給、令力、御布衣、前、國布衣、夜半許御共參二條之次、聊有被仰、歸蓬、

二日、甲戌、天晴、沐浴偃臥、三日、天晴、巳時參大炊殿、俄而御參內、與能季朝臣在

御共、雖御物忌奉仕御燈裝束、頭亮參籠云々、宮御方陪膳權亮勤仕之、兩方未被行御襖、即御共參院、以頭中將被尋、近臣右小辨資實出來令申入給之後御退出、入御九條御堂、可歸參之由被仰、仍退出、院中此間無爲云々、夢想之告多云々、風聞、嚴重入御御堂之後、御厩飼口男於近邊小屋有刃傷事、仍給檢非違使資兼了、昏歸參、曉鐘之後還御大炊殿、謁女房退出、祭使依御點小々被催、頭亮奉行、

四日、丙子、天晴、昨日若宮^{第三親王}、御節供、陪膳右少將日

來領狀、依俄所勞不被參、奉行家司少辨猶謹責、被尋

下官之處、出仕之間、入道殿令語成定中將給、仍勤仕了

云々、本所職事也、午時許參院、人々多參入、大宮大納言、大

宮權大夫等束帶、依仁王會定參內云々、申入兩女院女房退出、此間

人々氣色無爲、申時許直衣參內、入四內府、大宮大納言

已下參陣云々、即參大將殿見參、深更歸參內、謁宮女

房、亥終許退出、

五日、自夜雨降、申後天晴陰雨猶降、夕參五條殿、右羽

林此間所勞、非殊事、今日親國以書狀催賀茂祭使事、申障了、入道殿又重有被仰遺旨云々、

六日、天晴、巳時參院、人々多參、未刻退出、參七條八

條院、歸家、昏參內、依無人獨宮御方、下格子之後參大

將殿、見參之後歸參宮御方、深更又參大將殿、曉鐘之

程歸蓬、

七日、天晴、午時參院、近衛殿、三位中將被參、直衣、紫青侍在御供、

以定長卿被申入、被出了、即參內、三位中將

又被參、參鬼間邊、即退出云々、參大將殿、相次參關白

殿、親國申祭使事、院宣云、不可及合點、且尋未役、且

自上薦可加催、猶及闕如者、可辭申所職、可被任替者、

仍殿下仰先被催三人、中將公國朝臣、少將光盛公經朝

臣云々、此□□□對捍歟、尤可恐、公國、光盛、實

家卿所勞獲麟由披露云々、申時許歸蓬、風利而心神

惱、

八日、天晴、午時許沐浴潔齋念誦如例、夕方右京兆被

來、秉燭之後被歸了、

建久三年 三月

十五

建久三年 三月

十六

九日、天晴、閉門籠居、奉寫經一卷、

十日、天晴、前齋院女房達女別當、大納言殿被來、臨昏歸、法皇

自夜前又六借御云々、今夕烏羽行幸延引、

十一日、自夜雨降、終日不止、入夜大風、心神違例整

居、秉燭以後、右京兆過門前、有被示事、院邊又物忌云

云、但非指御事、昨今有御増云々、

十二日、天晴、已時許參殿下、大將殿令參給、御布衣殿下

即御院參、右府被見參、良久御退出、御共宮内、口口還

御大炊殿、御隨身御牛等、番々可伺候由被仰、院中猶

物忌、火急之氣云々、入夜頭中將書狀、明日射禮無參

着將、早可參者、申可參由了、

十三日、天晴、未明雜人云、院已崩御、或說云、亥刻許

御氣絕了、而被秘之間人不知云々、此間闐巷猶靜、爲

聞實否令伺御所邊之間、車馬號馳程也、即着束帶先參

關白殿、於押小路洞院大路奉逢御車、即下車參御共、

利部卿在御共前駟衣冠布衣相交四五人、此間已不取松明於六條殿門

前仰云、禁裏定無人歟、汝早可參候、此由且可觸女房、

常伺候輩可遣召者、即自庭上退出參内、此間大將殿令藏

人次官親國着衣冠伺候、六位之外無人、且申此由兩御

方、漸出來、辰終殿下大將殿御參内、令參御前給、即退

下御直廬、御覽舊記等、諒闇部類記此間聊供膳、左内兩府參

入云々、不經程令參上給、於鬼間令謁兩相府給、頭亮

奉行、此間事不委聞、大外記師直參入、被問先例、有勘

申旨等、又被問師尙朝臣云々、人々云々說諒闇事一定

也、被止音奏警蹕了、日御膳供口口殿下未被仰切、頭

亮辨長房等被止音奏歟、同可止歟由雖存、未被仰左右、

臨時祭賀茂祭四月諸社祭皆可止云々、還詔崩奏御倚

廬諒闇宣下等事未聞定日、此間殿上人等皆卷纓、頭亮

殿上人皆可卷纓由示含、下官治承垂纓了、暫猶豫之間

參御前之次、殿下仰云、殿上人皆可卷纓也者、仍卷之

了、新藏人業家今日可隨口口昨日相示、被止警蹕者、

定無此事歟、仍退出、人々云、御葬送明日重日如何如

何、又云、女房二品、少輔光遠、範殿等、今晚出家云々、

參五條綱、法王御臨終之儀更無違乱、夜前戌時許被奉

渡御佛、其後御念佛、遂如眠令終御云々、其時候御前人、
本生房（大原）御室醍醐座主、殿下以能季朝臣被申仁和
寺親王此間事云々、哺時又着束帶先參六條殿、謁齋院
殷富門院兩御方女房、今夕御入棺云々、即退出、秉燭之
程參內、參御直廬、頭亮候御前、頭中將、中宮權亮等在
宮殿上、頭中將可有警固召仰、左將不候參會尤宜、仍
遣取細大刀笏等了、以官人令觸外記、權亮又俄參會、
借用兄中將劔云々、此間刑部參入語云、御入棺今夜
也、御葬送明後日、三々日中有遺詔、其儀八葉御車密々可
渡御、親々近習公卿已下步行可供奉、但給素服人、公
卿、右府、右大將、藤中納言、定坊門中納言、親民部卿、左
大辨、高三位、奏前大貳、藏能、殿上人六人、親能、基範、
教成、忠行、棟範、資實、入棺役八人、靜賢、親能、教成、延源、法師、能運、榮忠、資時
入道、今一人今夜參內之人皆卷纓、親經辨參入、之儀卷之、忠季朝臣一
人垂纓、宗國朝臣直衣垂纓頗無便宜歟、亥時許太理着
陣由官人告之、即自屏外伺見、先是、數賦、光雅卿着橫敷、此
間院司仲經朝臣在門外、左衛門陣、置路內、大外記師直相逢、還

入着軾、申遺詔事歟、其詞、退出之後、上卿召官人召職
事、頭亮着膝突被奏事由歟、參御所飯出、着軾還出、次
又令召外記、大外記着軾還出、次召官人令召外記、六
位外記立屏下、令召內豎令參入、仰可召諸衛由、內豎
出同花門代召諸衛令參入、列立如恒、佐尉二列也、經炬火、外上臈當上卿後、
右近中將忠季朝臣、左近少將、下官、左衛門尉、副屏、右衛
門權佐長房、左右兵衛尉立了、上卿問、各稱籍、其字不聞、
各卿、上卿氣色、其詞、忠季已下稱唯、右廻自上臈退出、今
日以長房遺詔今夜可被奏由被申本所云々、依無日次
也、警固之後不可着美服由可被宣下云々、今夜遺詔事
葬司事不被申、尤可加其事歟由殿下被仰云々、今日被
止音奏警蹕并日供膳垂御簾、來十九日可御倚廬、來月
三四日之程自倚廬出御之後、可着諒闇之由風聞、同日
可有初七日御誦經、可被始諒闇行事所云々、自今日御
厨子所斷魚類了、殿上臺盤又同、
十四日、丙戌、朝後陰、申後小雨、午時許參院、人々多參
入、法王御尊號後白河院云々、謁宰相中將云、諒闇物

建久三年 三月

十八

具事等小々尋申、隨身、壺、丸緒鈍色、狩袴同之、太刀以下裝束無文、藍革身、物具同之、壺、黑漆可有置口、但只用隨身壺無雜款、

弓、黑漆、隨本府役時着位袍、殿上役着鶴波美、行幸之時着位袍關腋平切錄、黑漆、借六位衛府、最勝講出居或着椽人多、但下官着位袍了者、即退出參五條、仰云、今日又參

院、去夜亥時有御入相事、脂燭、親能、基範、役人、業忠、教成、忠行、資時入道、範綱能盛雨入道六人也、靜賢法印又在此所云々、明日葬送庇御車素服人々可供

奉云々、今朝聞、素服夜前八人之外、右京大夫加年領也、實教卿、御笛師通親卿、宣陽門院執事歟、不入此內云々、後聞、不依此事、只三漏人數了云々、

井寺弟宮、天王寺宮一願、漏素服云々、自本有被仰人々云、般富門院御匣分、押小路、彼御後可爲重上御領、宣陽門院、六條殿、長壽堂已下庄々等、前齋院、大炊殿、白川常光院、其外前齋宮、花園殿、仁和寺、法住寺殿、

蓮華王院、六勝寺、鳥羽等、惣可爲公家御沙汰、即寶倉以下被付殿下御封云々、爲保出家、自餘大略虛言、

十五日、丁亥、天晴、風甚猛烈、巳時許參關白殿、午時許御共參六條殿、御直衣如例、令申入般富門院御方給、右府被

參、御對面良久之後御參內、頭亮已下職事等申事等粗聞之、今夜勅使事、頭亮所案二人也、而長房所持委細江記延久三人之由有所見、然者可有三人歟、仰云、火葬之時、殊依不意多可及度々、今度只可爲二人、頭中位經人、宮御方無官侍等若諒聞否事、基親卿安元宮司、着由申、又同卿申、宮御方可出鈍色几帳、於手者如本、帷改之、頭亮所覺悟安元御筆、御八講之時、上御局黑簾之內被出手、又几帳無謂之故不被出几帳、但此事一定不覺悟、內御方几帳白木手也、御祭祓事、於御祭者、穢限以後可令奉仕、御加持事、倚廬之間以前同之、不可有之、出御後可有之、殿上男女房素服事、公卿、左府、通親卿、給不本所素服、何不替乎、但私若心裏服者如何、自上不給、何事有乎、可也、能保卿、實教卿、公時卿、殿上人職事五人之外、忠季、信清、高能朝臣、範光朝臣、倚廬御裝束、安元光雅卿五位藏人、奉仕之、今度又五位藏人奉仕歟、光雅卿云、其次第只隨松殿仰了、私不存又不覺悟云々、秉燭以後、閭巷物念、雜人奔走、下渡騷動云々、今夜宿侍殿下御直廬、入夜頭中將參入、爲勅使也、

早行向彼邊、可待渡御之由殿下被仰、後使長房可參云、

十六日、陰晴、未後雨降、早旦下人等語云、夜前之儀、亥時許出御、庇御車、下北面物六人取松明在御車前、殿上人素服在御車邊、其次公卿相並步行、雜人狼藉、路次見物之輩無其隙、僧等已前乘輿參儲云々、御前僧十三口、加護摩師定也、勝賢、護摩、澄憲、良緣、雅緣、實全、辨曉、公胤、禪聖、護摩、行舜、寬舜、護摩、仙雲、祐範、聖覺、午時許御共參大炊殿退出、人々云、雅賢卿、經業朝臣、爲保、光遠、範綱等出家、自餘虛言云々、十七日、雨降未後晴、參院、未時被始講筵、長講堂內僧座等如去年御逆修時、撤南廂御簾爲公卿座、大宮大納言已下多參入、布衣、申時許退出、參八條院飯家、御葬送夜親盛公朝等出家云々、今日卿相人々相語云、內裏給素服人、其日雖給以私日次着之、又御倚廬之間、或着位袍、或着吉服、泰通卿安元給素服着吉服之由、自被語之、

十八日、天晴、不出仕、

十九日、天晴、巳時參院、衣冠每日御講訖、人々退出程也、初七日講筵不被始已前、被立御誦經使、隆信朝臣、蓮華王院、基宗朝臣、成家朝臣、最勝寺、公清朝臣、寶莊殿院、信雅朝臣、行房、經高、紀伊守、延曆寺、今日公卿以下卷纓垂纓樣々也、其內成經卿親實等垂纓、於公卿者、參他所時不參定事也、親實等固之間、衛府尤無謂歟、素服人々或着之、或未着、通親卿着鈍色直衣指貫、心喪服云々、御隨身近武裝束顏色淺、下臈可然由存歟、敦佐着例黑色、漸及未時、散花机忽無之、仍遣取最勝光院之間、時刻推移、公卿濟々焉、不被講筵退出、未時許參內、束帶、伺見倚廬、東對、今日帶弓箭、於倚廬以後者、不可取弓不可帶弓箭之由、大將役密々被仰、又直衣同不可着、此事以後、雖暫固只以衣冠可爲宿衣由同被仰、但不知其子細也、相次參大將殿、見參之後、入夜飯參內、上卿^{大宮大納言}參陣、被立御誦經使之間也、渡御倚廬、亥時云々、頭中將帶弓箭伺候、無指役身伺候還有憚、仍退出、殿下自昨日御宿也、今日不被付御物忌云々、院御所付之、立物忌簡、廿日、天晴、辰時參院、俄而被始懺法、先賜杖、訖被牽御小

建久三年 三月

二十

四二〇

袖、公卿已下取之、及伊輔朝臣、每日有此事、十七日御衣、十八日御衣、

即退出、今日有結緣經沙汰、卿相以下近臣邊、下官不入其內、

已時參五條殿、入夜飯蓬、

廿一日、晴陰、未後雨降、參院、每日御講始之間、退出參內、參大將殿、此間聊御風氣云々、參大炊殿、入夜飯廬、

廿二日、朝間雨降、午後晴、不出行、少輔入道來談、

廿三日、天晴、參院、布衣、朝御懺法訖、被引御帷、御汗殿取、

上人及伊輔朝臣、即參齋院御方、相次參七條院、又參八條院、午時許飯家、參五條殿、昏飯、

廿四日、天晴、參院、朝懺法了、被牽御馬、北面衛府二人、礎從僧請取、

每日講以前退出、一品經人數內入道殿令入給、其由申

了、未時許參內、束帶、參大將殿之處、御出了九條殿、云々、

即飯參、與信清、範光、長房等若臺盤、倚處殿上、以南爲典西上、不用例盤、以土

器居之、其後頭亮藏人權大夫等參入、昏退出、藏人範孝語

云、入御倚廬之儀、例御直衣出御東向妻戶、御路筵道等如恒、頭亮取脂燭、頭中將取璽、權亮取御劔、他人不

供奉、其後公卿殿上人相引向東車寄門、南上東面列立、各着素服、布袍、束帶之上着之、公卿還着陣座殿上、其後分散云々、

廿五日、丁酉、自夜雨降、終日不止、午時許小弼息大夫來、相具參大炊殿、令謁女房申入退出、參大將殿、見參移漏、昏飯家、

廿六日、終夜今朝猶雨降、辰後休、早旦參院、懺法之次被引扇紙、不及殿上人、次有例講、布施及下官事、了即退出、參

五條入道殿、令參院給了、昏御退出、羽林同車、殿上人布施及兼定云々、素服人々、每七日裝束之上着素服、實布也、件

儀中今日他人不坐、入道殿猶御座其中云々、

廿七日、天晴、午終參院、小時有例講、公卿入人、已下取

布施及下官、明日有臨時御佛事、靜賢法師所營云々、

相次參八條院、昏飯家、

廿八日、天晴、早旦參院、有臨時御佛事、導師良緣法

印、眞言供養了、公卿已下取布施、都合六、事了退

出、參五條殿、今日日次宜、仍密々先着諒聞、時衣、指貫、帶許也、

戌時向坤着之、兩所見參以後、飯家脫之、

廿九日、天晴、早旦參院、例布衣、懺法之次被引御遺物、番匠

公卿不取、以預直置僧前、即退出、午時相具弼大夫參

殿下、此間御念誦云々大將殿一昨日御風氣之由女房告之、乍驚

馳參、不見參、謁女房退出、參內、又飯參、相具俊基飯

廬、今日於內裏源少納言云、延長例、九月廿九日崩御、

十月侍臣不改夏衣皆卷纓、其夜御入棺者、今度若不可

更衣歟、如予案者、彼下旬也、御入棺日也、是十三日

崩御、葬以後也、明日冬衣不可然歟、權亮若夏染衣可

出仕由存云々、白重事、兩貫首未思得云々、藏人範孝所附也、於非

職者染衣宜歟、入夜參大將殿、深更自內裏退出、

○四月

一日、壬寅、天陰入夜雨降、午時許參院、布衣用夏帶、他人如此、講筵

了取布施、不當其內、親宗定輔卿等若諒闇、即退出、

二日、癸卯、通夜雨降、終日不休、未時許參院、東帶、夏布

施之間邊、不及殿上人、即退出、參內、御細供本殿御裝束之間

也、撤本御簾懸簾、有鈍色布緣、有目、緋、鉤鈍色丸緒、御帳鈍色、御障子等

皆張改、馬形御障子同之、此間上卿大宮納言若陣、被定御齋會事

云々、於蓮花王院可被行、御四十、九日也、小時參大將殿、堀川、御

不例猶不尋常由被仰、此間風雨相交、天如正晚景、以

雨隙飯參內、秉燭以後良久、內覽外記飯參云々、上卿

若倚廬殿上、親國可脫素服由仰云々、不委即相引向北

陣脫之、飯參、上卿被若殿上之間、左金吾藤相公在立節之外、於北

拾之、殿上人出納取之、只若袍許、偏如小忌云々、頭中日來給素服

人、其日雖着之、稱先例只着例吉服出仕也、殿下仰云、

此事更不可然、給素服着之後、爭着吉服哉、雖先例、雖

故實、不可用事歟者、尋常之說、若素服之後若諒闇裝

束、橡宜下以前着位袍云々、又左金吾若心喪直衣出仕之後、更着吉

束帶參內、天下之不思議之由、殿下被仰也、以此仰趣

案之、忠季朝臣存此儀歟、遂不着云々、次撤倚廬御裝

束、先着御歟、不委問、忠季朝臣奉仕御裝束、本御服ヲタ、ミ置云々、被改御裝束、例橡御袍

御衣、鈍色御袴、廿子御引直衣之由也、昨日內藏寮月次

御服不進此、改召御服、即今月初所進也、着御了有御襖、於倚廬東

庭有此儀、不委見、宮主座在庭中、撤本立蒔也、依雨聊休、爲晴儀、頭中將陪

建久三年 四月

二十二

四三

膳、此間權亮出自御所、帶弓箭纓飯參、下官同着之、次還御、頭中將取當時以重爲先也、忠季取御劍、頭亮取脂燭云

云、殿下御直衣令候給、晚景御參、少納言在御共、頭中將取脂、不帶弓箭、後云、動御殿陪膳間、無假不帶

之、依有事恐不同見、入御以後、權亮下官長房等、各取

弓向陣方、頭亮仰解陣由於上卿、太理在奥座、上卿移端座、召

官人令召外記、召諸衛、諸衛參入、人數如警固、名謁又

如恒、稱唯右廻退出、下官撤弓箭纓劍、供朝夕御膳、

藏人今夜相觸也、御臺盤黑漆無臺、御座平座敷席、有御脇息圓

座、止銀器用黑漆合子高盛御さは器等、土器如恒、不

奏御膳、不替蹕、內侍鳴扇如例、今夜不召男共、雖不開御由、藏人合服之間、只示氣色也

夕御膳了、參宮御方、謁女房、今夜令昇御云々、殿下此

間御退出、深更飯廬、雨如注、今夜被下橡宣旨云々、太

理同承之、畫御座、御疊鈍色緣、御茵同色、御劍如恒、

御視莖黑漆、棚不置管絃具、殿上撤御椅子、其跡敷菅

圓座、臺盤黑漆、無圍基等盤、

三日、朝間雨瀝、午後晴、參五條、未時許參院、被始講

筵之間也、公卿濟々、布施不及殿上人、即退出、昨今人

人多着諒間、入夜參內宿仕、明日御物忌、陪膳藏人業家所語也、此藏人此事以前初參、次第延引來也、去夜欲隨事之處、安德天皇御時藏人經泰如此、爲身爲世不吉、仍明日隨之云々、

四日、天晴、巳時許上格子、已後供御膳、了退出參大將

殿、即飯廬、午時許右羽林同乘參院、冬衣冠、三七日也、小

時被始講筵、內府已下十二人着座、導師公胤、事了取

布施、良敷如例、殿上人隆保朝臣已上二反取之、依人數少

也、即退出、諒間平緒組出了、今日兼宗、成定、雅行朝

臣、冬衣冠垂纓、下官兄弟卷纓、顯家、夏束帶卷纓、隆保同

之、已上吉服、經仲、兼定、諒間束帶、公卿大略諒間、

束帶直衣相交

五日、天陰雨間瀝、未時許參六條殿、講筵始後退出、公

卿十三人參、來八日二品可被修御佛事、又可有結緣經

供養、

六日、天晴、午時許參大炊殿、謁女房、參大將殿、猶不

快由被仰、相次參內、又陪膳、昨日兼宗中將番被示付

之、參宮御方、頭亮藏人佐等著椽、右大辨藏人頭亮等未着之、殿下女房云、亮闇御裝束等兼日被調儲、私不吉時一日之內調之也、於公事者不然云々、

七日、晴陰、午時許雷鳴風烈雨零、潔齋沐浴、不出仕、

八月、天晴、早旦參院、懺法了後也、有臨時御佛事、二

品即被始、公胤導師、大日如來、公卿以下取布施、殿上人數反運之、

次有結緣經供養、不相待退出、今日始若亮闇布衣、着

坐指貫、持墨漆、野創、入道殿御命云、祭以前着冬指貫、但今年

無祭、入夏之後、初着諒闇、何可調冬指貫哉、即調給生

指貫、仍着之、但去三日行房着之、諸人嘲之云々、

九月、天晴、辰時若束帶、橡袍、黑草、參六條殿、坊門中納言御

佛事也、巳時許布施了各退出、即參內、殿下自夜前、御參宿、頭亮

云、廿五日蓮花王院御齋會度者御誦經使、先々多少將

勤之、他人不參者可勤者、相次參大將殿、不見參、申御

齋會舊記等見之、度者御誦經使多着椽、先達皆難之、

位袍宜由多注之、

十日、天晴、早旦參內、殿下、御共、已令退出給了、仍馳參大炊

殿、仰云、可飯參也、暫可候、仍日臘頭亮參入、語云、今

日御退出、依如意寶珠事也、件寶珠佛在世之物也、弘

法大師傳我朝給、在醍醐某僧正之時、進白河院、追從、白

河院傳給鳥羽院、鳥羽院御時恩寵之餘預給家成卿、件

卿不令知妻子、安置靈山堂、薨逝之後、自院被召返之

處、後家中不知由、逆鱗付廷尉可被賣山被仰、仍致種

種祈禱之處、經箱底有書付物、示其所、仍掘出所進也、

其後被安置勝光明院寶藏、而法皇御時、義顯事時、以

勝賢僧正、以件珠爲本尊、被行如意寶珠法、其事嚴重

無爲、仍年來預給件僧正、去冬又有此法、而正月七日

結願了云々、殿下聞召此事、一昨日以下官令迎取給、

若置醍醐者可向之由被仰、仍具數引替向彼僧正許之

處、在此房、仍取出所奉也、同車參入、今日殿下御同車、

藏人忠綱持之參御車下、入御以後、被安置南面中間、

赤塗子如障子帳也、置机忽供香花、溜板敷、女房等皆被出寢殿內

了、彼僧正依召參入、可被開拜云々、此僧正依素服人

不參內、仍有御退出也、僧正若被奉聽者、殿下於內裏令

建久三年 四月

二十四

四二四

開給、主上可御覽、但可隨僧正申也、已時許僧正參入、數刻無御出、親經辨申御齋會事等、蓮花王院、僧可坐佛前平

板敷、公卿可坐簀子云々、度者使可經其前、此間以宣平被勘寶珠

返納日、可安置於光明院、申云、十三日吉也、而不開倉日也、雖有

先例、爲公家御沙汰、始被開度、尤可被避十四日吉也、

而文云、不收金錢日也、五月節已後、又可被避歟、重復

日又可被避歟、仰云、不開倉日尤可避、但先例何據乎、申云、先例只尋常時

粗有其例、於初度者無便宜、收金錢事限金歟、將謂重寶歟、是雖非金

錢、粗有相交事、爲之如何、重復日尤可避、五月節又如

何、申云、五月節殊可被避、如斟酌者、乙日不收金錢、

乙未也、金金也、依相刻日有此謂歟、然者雖重寶、非正

金者、有何事乎、仰依請、又以頭亮可被送、但觸右府、

相親院司一人可令催進之由被仰、爲證人也、於御倉者、藏司

可開之云々、最勝講八月可行云々、人々退出、御出猶

遲、依窮屈退出、休息之後飯參、寶珠厨子在御車口、頭

亮相具藏人等儲師口、忠綱非藏人有兼等昇之扈從、其

後參宮御方、相次參大將殿、見參之間、入夜退出、今

日仰云、右大將裝束於院見歟、申云、不委見候、着烏帽
子着重服袍云々、尤希異事歟、如何云々、

十一日、天晴、未時參院、束帶、即被始四七日御講、事了

布施如例、及五位、公卿十三人參入、行房、遠江、仲房、民部大

輔、爲堂童子、即退出、不參他所、垂圓、顯家、卷綱、已下吉

服束帶多、基宗、仲經、冬衣冠、兼宗、實保、但遺物下賜、信清

朝臣、椽束帶、今日聞、智惠光院宮僧都、二條院皇子號人也、自去

八日頓病、脚氣歟、昨日薨逝云々、年廿九、法器之人也、

十二日、天晴、辰時許參院、束帶、他人皆布衣、早旦章玄法印佛事

了云々、次範能卿佛事、公卿已下取布施事如例、導師

三十、請僧口別十、事了退出、參八條院、未時飯蓬、殿

下去夜渡御九條殿、路次令渡八條院給云々、

十三日、天陰、辰後雨降、通夜不止、病氣不快不出仕、

殿下今夕還御大炊殿、

十四日、自曉雨止朝後晴、心神猶不快、脚氣之所致歟、

不出仕、

十五日、天晴、猷閑梨來、晝參五條殿、入夜參大將殿、

昨日令渡北小路東洞院信業後家之屋給、被渡御物氣云々、即退出、參八條院、狛宮遺跡牢籠不便云々、或親王之貧倭也、不便云々、今夜聞、殿下可令渡右府五條亭給云々、

十六日、天晴、今夜月蝕也、月明天晴、臨曉頗現云々、十七日、天晴、早旦參院、布衣、定勝法眼御佛事也、取布施退出、相次參大將殿、見參之間、刑部參會、移漏退出給、御歌一卷即和進之、

十八日、天晴、已時許參大炊殿、午終御參內、與刑部在御共、此次右羽林被示付陪膳番、所勞、物忌之間、又語

左京大夫令勤之、即御共參六條殿、今日右府被修御佛事、佛、中丈、導師澄憲被相待殿下御參云々、令入宮達聽

聞所給、講筵之後、有布施、過差古今無比類歟、導師布施五十六、請僧廿五、請僧一口之外、不引直送之、密有

云々、背釋常、次有例五七日御講、殿下猶御聽聞、取布施

如先、講了後仁和寺宮御對面、秉燭以後還御九條殿、

窮屈失度、今日御誦經、使脫力、依公家御衰日被止、明日可被

立云々、此間天變屢示、災感犯右實坊、(執法) 不知、月蝕又正

見、司天等怖立、仍北斗御修法猶可延修歟由、光綱於院申者、被仰可然由、明日可有平座吉書等云々、

十九日、天晴、申時許晴雨濕、依窮屈不出仕、殿下御參內云々、舊院御誦經使今日被立云々、參五條殿、飯家、

廿日、天晴、早旦着衣冠參六條殿、講筵三座、數成朝臣、光遠法師、等也、二座取布施退出、參大將殿、見參之後參八條院、又

飯參六條殿、般富門院御佛事也、導師澄憲申斜講了、

有布施、講師卅歟、請僧七、公卿十五人、左府已下也、大臣踏指貫中、被取布

鐘之後、南方有火、六條坊門萬里小路文義宅也、雖非近、參大將殿退出、

廿一日、天晴、辰時許參院、東帶、仁和寺宮御佛事也、講

師澄憲、公卿已下取布施退出、參大將殿、見參之後飯

參、宣陽門院御佛事、又取布施、法眼請僧皆悉被引、申

續久三年 四月

二十六

四二六

退出、今日四ヶ座云々、午時許束帶參大炊殿、先是向六角謁申大尼上、多被談古事等、御賴大納言女、崇德院典侍、重通大納言室、殿下此間御脚氣不快云々、謁女房退出、參內勤陪膳、隆雅朝臣一昨日所示付也、

廿三日、天陰時々雨濕、未時許參大將殿、即退出、參六條殿、曼陀羅供始了後也、談衆卅人、僧綱六人、聖公胤相交、公卿若弘庇座、中納言已下對座、坐行房親長敷上禮座云々、

事了大臣已下取布施、殿上人數反取之、參入公卿、左

大臣、內大臣、藤大納言、新大納言、左衛門督、權中納

言、平中納言、右衛門督、別當、大宮權大夫、治部卿、六

條三位、左三位中將、修理大夫、右近中將伊輔爲度者

使、權起、經公卿座中、存其座前之儀歟、就講師右、先氣上卿、

印度者之後、經本路退飯、付所使自簀子可進歟、左近

少將隆保爲御誦經使、權起、伊輔一家、雖公卿不若位起、此少將如何事歟、

廿四日、雨降不出行、

廿五日、天晴、蓮花王院七ヶ御齋會日也、關白殿可令

參給云々、仍先參大炊殿之間、於途中聞御出止了由、即

退飯、參院、朝間三座了云々、アヤ宮右大將、六七日御講未被始、御齋會

以後、公卿已下相引可參云々、仍退出參大將殿、見參

之次、有被仰事等、人々云、隆保殿被、自關東上洛、去月廿日

之比、以彼便有示送事等云々、今日左武衛參入、依所勞乘輿被

下向、參內々、以御書有被申殿下事等云々、飯參六條殿、六七

日講了、有布施、又有佛事、最勝寺云々、入夜取布施、退

出、今日御齋會、度者使右少將雅行、御誦經使同少將高

通、共若椽云々、宗國相具隨身、令持細太刀、參六條殿、

御齋會次歟、

廿六日、天晴、早旦參六條殿、衣冠成經卿公朝法師等

修御佛事、各取布施、次聖護院宮御佛事、又取布施、殿

上人衣冠布衣相交、人云、安元御齋會度者使定能卿着

位袍、御誦經使通資卿着椽云々、雅行追其例歟、於御

誦經使者非府役、度者必可着位袍云々、參御齋會公卿

十四人、左方殿上人上官等相交、右方公卿行香、此外

殿上人無所役云々、殿上人不取布施云々、嘉承三年六

月十八日中右記云、今日殿上辨官三人、左中辨長忠位

袍、權辨爲隆、左少辨雅兼橡袍如何、就中權辨行事也、治部卿云猶行事辨可着位袍歟、先例或位袍或橡云々、此事可尋知者、雅行朝臣袍此儀歟、

廿七日、晴陰未後雨降、午後參內、相次參大炊殿、頭亮已下職事權辨等參會、申事等殊多、御齋會領狀、不參殿上人廿人許、召取請文、可問子細山、頭亮奉之云々、下官無催、隨不參由示了、行香殿上人不足之間、上官相交不當云々、申時許凌雨退出、改着布衣參大將殿、又參八條院、入夜飯家、今日山法親王左金吾定康法師等御佛事云々、

廿八日、通夜雨降、今朝進水精念珠十二於前齋院御方、參五條殿、哺參大炊殿、雨殊甚、御參內止了、入夜凌雨參內、開陪膳闕由仍勤了、參宮御方退出、

廿九日、通夜雨降、終日陰、午時許參大炊殿、御出如例遲々移時刻、晚頭權辨吉服、參入、申役夫工事等、日入之後御參內、與宗國少將參御共、即退出、改着布衣參六條殿、宣陽門院初御幸也、即被寄御車間也、寄殿殿

西面西織戶中門內也、騎馬供奉、其路出西織戶中門、

更經西中門南庭并東中門、出洞院面四脚楊梅東行、已

南庭、御車何不寄南面乎、於土御門列立如恒、取松明、雖具劔人々不帶、若

半靴鞍、依夜陰用破損黑鞍、公卿、左金吾、太理、參議、

光雅、實教、成經卿、殿上人、基宗、成定、通宗、成家、仲

經、公清、行輔、親長、有通、清長、御幸奉行之出車事、曉鐘之程還

御如前、成定、運電、即退出、窮屈失度、今日齋院、齋宮、仁和

寺御弟子法親王御佛事、衣冠布衣相交云々、

卅日、終日雨降、午時許參六條殿、八條院御佛事也、殿

上人殊以不參、朝參布衣之輩多云々、素服公卿等許、

定般富宣陽兩院御佛事日、布衣不交、諸親王御佛事布

衣冠相交、今日冠殿上人員數少、請僧二口許、布施置

之、其殘可送遣歟、將可加布衣人歟、右中辨以此由示

合盛實朝臣、日本坊參入行事、申云、左右可在議定、但布衣人交

之條、強非所御沙汰歟、布施不被融之條、今度御佛事

之內、貴所布施無不被融之例、爲之如何、又來云、尤可

然、加布衣可被融也、近日月來之間、院中之狂人兒女

建久三年 四月

二十七

建久三年 五月

二十八

子之輩、彼院御邊有勝事等、於事嗽々、不足言之輩見
 形勢、今日故着布衣朝參、大畧早出了、見事跡、密有鬱
 憤之思、下官示合保盛隆信等朝臣云、布施被融之條尤
 可然、但兩女院已布衣不交、諸親王之時相交、而今日
 被交布衣人、其人數多者尤可爲至要、朝參之輩皆早
 出、被拘留布衣、纔五六人被加無詮歟、只今伺候人々、
 多是本所格勤之輩歟、且勵私志數反運置、何事在哉、猶
 不可被加布衣歟、當座人々甘心、盛實朝臣即觸右中
 辨、布衣人令退出了、講筵了數反取布施、法服鈍色請
 僧十二口被融、布衣口別十、其物尤華美、無布衣人、知物由人無避避之心歟、公卿皆悉直衣、無布衣人、知物由人無避避之心歟、
 殿上人所存甚奇恠也、若冠殿上人、保盛、隆信、盛實、
 雅行、成家、下官、爲賴、定忠、範光、光親、範經、仲房計
 也、範經、仲房、堂童子、公卿、通親、泰通、親宗、隆房、雅長、實教、
 光雅、成經、泰經、兼服、季能、經家、公衡、定輔卿也、事
 了退出、參大將殿、見參之間、入夜飯廬、
 ○五月
 一日、壬申、天猶陰雨不止、前右大將御佛事云々、依窮

屈不出仕、傳聞、導師公顯僧正、布施被物二十、白唐綾、平絹被
 單、敷、例布施一、錦一枝、綾三十疋、六句綾一、懸子、絹三百疋、
 下、廿疋、白布百段、十疋、紺布、同上、藍摺、同上、請僧鈍色被
 物五重、平綾、例布施絹百疋、白布百段、藍摺百段、導
 師磨牙三百、請僧百云々、參入公卿、實家、定能、通親、
 親信、經房、泰通、親宗、隆房、兼光、能保、雅長、實教、
 光雅、定長、成經、泰經、顯信、季能、季經、經家、公衡、
 定輔卿、殿上人、見出仕四十餘人云々、或人云、今日出仕人、有夾名、可送關東云、
 云、賢者、奔營、
 二日、癸酉、天晴、午時又雨降、小雷鳴、未後更雨、午時
 許參舊院、東覺、俄而被始講筵、澄憲爲導師、六十僧若堂
 中座、七僧在檻欄內、公卿着弘庇座、北上、依座狹又着
 南緣座、參入公卿、除素服十九人、左內兩府、大納言三
 人、實家、實宗、忠良、中納言五人、通親、泰通、親宗、隆房、兼光、參議四人、雅長、光雅、
 實教、三位、顯信、季經、經家、成經、公衡、定輔五人、雅長卿五人在南緣、東上、卿相
 座定後、僧等着座、昇自正面階如恒、堂童子六人賦撒
 花、左方、行房、親長、顯經、右方、清信、親家、有通、

今日公家無度者御誦經使、說法了有行香、及平中納

言、藏人少內記親俊取火蝱、次引布施、雖素服束帶人

人、公卿已下相交取之、三相府五位院司手長、粗房、清長、經高等也

被物十重、公卿取之、裏物已下十三人、殿上人取之、次七僧

布施、被物各一重、例布施一、公卿一人、殿上人一人取之、下官取隆房

卿綾裏物、置辨曉前即退出、依爲御誦經使向尾田祇下

車跪、以小使令付御誦經物、即乘車飯家、今日公卿不

帶劍笏、兼宗中將事次云、於御誦經使非本府役、可着

椽、於度者者必可着位袍、雅行少將椽尤不審也、又云、

最勝講、仁王會、季御讀經等出居、雖御殿猶可着位袍

敷、下官所案如此、昏黑改着布衣參六條殿、被寄般富

門院御車間也、即騎馬六條西行、猪隈北行、御幸泰經

卿家、公卿、隆房、雅隆、光雅、經家、公衡、定輔卿、殿上

人、隆信、成定、伊輔、雅行、顯兼、下官、長俊、隆經、隆

雅、保家朝臣等也、入御之後退出、雖欲參會齋院御共、

已出御了、仍自六條殿退出、宣陽門院今夜御幸左金吾

中院亭、明日還御云々、齋院還御戶部吉田、殿上人騎

馬供奉云々、下官獻出車了、基宗兄弟今夜帶劍、

建久七年

○二月

廿二日、天晴、藏人大進、來月一日大臣殿可有和歌、松不改色、領狀了、

○三月

一日、天晴、午時參內大臣殿、御共參大炊殿、今日大臣之後初度御作文和歌云々、即退出、入夜歸參、詩講始後也、公卿中宮太夫以下濟々々々、中將殿初接文塲給、依殊召中將殿、右大辨、藏人辨若公卿座末、殿上人有家朝臣之外、辨官等也、事了置和歌、季經卿、隆信朝臣、手、保季等在此列、心中無興、祝歌彌不堪無術、今朝中入道殿受歌也、歌講未始之前、殿下御參內、予雖置歌不參講席、深更事了、御共參北小路殿退出、歌題松不改色云々、殿下今夜渡御九條殿云々、

建久七年 二月 三月

二十九

延久七年 四月

三十

廿六日、天晴、賭射也、此間略之、座定後、左大將殿揖起座、令出幔門給、次右大將又同被出、左大將殿令過給、每度予動座、伊輔又同出居動座、御前不可然之由、源亞相被加難云々、事次申處被仰云、除目執筆大臣候御前時、殿下御着座之時、去座下簀子、家禮不寄御前歟、已無其免、仍動座也、

○四月

(編略)

今朝訪右中辨、返事云、昨日一通遣了云々、心操落居、爲人不腹惡人也、又才幹也、今如此、可哀、

十四日、天晴、未時許良方有火、白河方也、仍馳參聖護院宮、異方火也、東岡寺邊云々、治部卿仲經朝臣等以前參候宮、令謁人々給、即入見參之間、火又付北方舊堂、其邊、風之所爲也、公國中將家北隣云々、本所滅了、風異風也、仍此宮無恐、坊門中納言參入、予退出、以使者訪民部卿、參勘解由小路殿、申時許歸家、後聞、後火六角左衛門督墓所堂燒亡了云々、按察并金吾兩人墓所也、不便、

十五日、天晴、可除服出仕由頻被仰、不擇日次今日除服了、明日姬宮准后云々、吉富庄有種々所課等、未時許參大炊殿、頗亮祇候、語云、今日仲賴解官之由宣下了、又藏人邦季被追爵了、其替前大將吹舉熱田宮司等黨、稱中條藏人、去年令前驅所被參內物云々、仲賴被召陣、檢非違使給之、可令候初負廳云々、又申明日准后間事等退出、入夜退出、參大臣殿、俄而源侍從參、語云、仲賴只今參陣、檢非違使請取了、布衣參冷泉油小路陣口、檢非違使三人於左衛門陣承仰、頭亮仰之、自二條町出冷泉西、給打立油小路辻、有國兵等、二人乍乘立、能宗一人下馬、仲賴自小家出向、能宗示近可寄由、步寄、又早可乘馬由示之、令乘油小路北行、檢非違使馬前令打云云、樂盡悲來、人界之習可悲、仲賴猶付入道被召、爲彼沙汰所召進云々、禪門頭兵衛督等閉門云々、又□□云、一昨日番長依繼於別當門狂亂之間、給檢非違使、口候、行者狼藉事、令問註之間、重有此事云々、

十六日、天晴、今日姬宮准后云々、

十七日、陰、申後雨降、參大炊殿、相次參大臣殿、有家朝臣參會、見參之次、御賀茂詣一員次將裝束事伺了、仰云、更不可替例殿上人歟、又申云、行列何様候乎、仰云、在上官前歟、車事以右爲上臈、馬助在左、近衛將在右歟、藏人知範申云、雅行中將朔日不出仕、四日始參內、若白重、自云、白重不可寄朔日出仕、雖後日着之出仕、無憚候由所存也者、仰云、於公卿者、不依朔日着否、灌佛之時所着也、於殿上人者、委不知、知範又云、忠口云、故入道左府經宗、說、又如雅行中將說、當左府又存此由云々、有家朝臣申云、先年爲少納言之時、關儲白重、朔日俄頓病不出仕、三日坊門大納言爲參議被申行政、少納言關如、依被相語欲參之處、染重不關儲之間、朔日不出仕、若白重之條如何之由、父入道尊中山內府並雅賴卿之處、朔日不出仕者、白重不可然歟、由各示之、依其日不出仕、所詮可依人意歟、但後日不着、猶穩便之儀也、可爲先此說耳、刑部卿參入、申世間雜談等、新日吉近日有蛇、男一人隨其蛇、吐種種狂言、

稱蛇託宣、又云、後白河院後身也云々、此事不便、書奏狀進之云々、殿下仰云、是可追拂事也、故院甚見苦事也、又天王寺舍利或聖人如鱗介ハヒアリキ給、人又□□□云、仲賴事不勘罪名、非及傷殺害、勘罪名之事已可輕、但又勝事奇特也、何無左右所被召職也、下部等モ夜故可解劔之由稱之令解云々、二人依馬左右口、於廳令脫裝束、當時白衣在近邊小宅云々、殿下仰云、騎馬條尤非也、可令乘車也者、御覽宇治左府御記次仰云、賀茂詣之時、庭弱公達等四五人、頻追前人啾哖此事、委分別註之給、或云、追ハ是也、頻ハ非也、或云、追前事啾哖可然、或云、前事可用意歟、至源基能者、今案基能長官雅重子行宗三位孫侍從宰相基平曾孫也、追前事不可有難云々、□□□□、今夜力宰相中將、兼宗、□□、十八日、天晴、稻荷祭之間、雜人打破頭云々、是恒事也、巳時許天王寺宮遂薨給云々、日來腫物、十九日、參大炊殿、退出、廿日、天晴、自殿俄有召、馳參之間、御出了云々、追參

延久七年 四月

三十一

會冷泉西洞院邊、御共參內、若衣冠、除服以後未參內、雖日次不宜、依御共宿衣參、時許御退出、有御馬御覽以前歸家、

廿一日、天晴、未時參大臣殿、御出遲々間、暫參內、日、今

始東、依陪膳闕、雖御物忌殊不固之由、藏人相示令勤仕

候也、勤了歸參、申終令參大炊殿給、御東、秉燭之程令參

八條殿給、一品宮今夜御入內也、先是被寄出車了、三

兩寄西面、二兩寄東面、件二兩未寄、可沙汰寄山、長經

朝臣示之、非可然人有恐歟由、再三雖相示、猶頻勸之、

依諾了寄二兩了、先立屏風、次開戶上簾、次引懸疊、次

又立屏風退、女房乘了、自內被告之時、令引車、次寄今

一兩、同先一車五車也、出車、高倉中納言、二位宰相、中宮權

大夫、勘解三位、大藏卿等云々、次寄御車、取松明出南

庭、長經朝臣付轅、大臣殿令寄御車給、公卿列立、右大

將、源中納言、藤宰相、左大辨、新宰相中將、兼宗、頭亮

等立、予即自門騎馬、洞院北行、三條西行、油小路北

行、入御西門、於門外取炬火、列立如恒、殿上人雅行朝

臣、成家朝臣、信清朝臣、宗國朝臣、隆衡朝臣、知光、

奉行

長兼、朝經、宗方、實宣、資家、有雅等也、寄御車訖分

散、即大臣殿御退出、參御共歸家、□□□歸參、八條院

女房料獻出車了、女院今夜御幸室町亭、賴盛卿後八條殿

有例夢、神借之由、雜人等稱之云々、慎事也如何々々い

廿二日、天晴、申時許參殿、相次參勘解殿、昏黑參內、

俄而平中納言參入、相尋諸衛之處、將佐不參、此間藏

人大進參入、相議喚出藏人、右近兼範即出來、上卿□

□□□官人尋職事、大進長兼昇與座坐上卿前、上卿東二

向、申警固由、大進退下、參御所還來、仰聞食由還出、

上卿移着端座、召官人令置膝突、召外記、六位外記參、

問諸衛具否、外記申之退、次令召諸衛、諸衛入口華門

代、予取笏帶劍、進立上卿後帶号前如例程柱ノ筋程、右近將監兼範

經後立予良方、左右衛門兵衛等尉各經後立了、上卿問

云、誰ゾ、各稱籍、ヒダンノチカイマモリノツカサノ

カンノスナイスケ藤原定家、ミギノチカイマモリノ

ツカサノマツコトビト藤原兼範、以下大略稱□□、上

卿仰云、賀茂の祭せむとするがために、あとのまゝに

かためまもりまつれ、隨聞予以下稱唯、右回退出、於弓塲殿邊卷櫻、依暗不及帶弓箭、即退出、亥時許有火、三條島丸云々、即滅了、

廿三日、陰、已後雨降、已時着束帶、卷櫻、相具弓、盤、老懸、手、盤ノイタツキニ結付、

隨身二蓋袴、童萌木紅梅柏着之、牛童、令着薄色、若紐帷、依略不着柏、

參大炊殿、車即女房見物出車料献了、今朝自殿給、黑牛懸之、又舊車

送宮女房許了、今年宮女房不被見、物、仍密、借之、人々未參、左中辨一人伺

候、御前也、被入辨可勤仕、所勢猶不尋常、不扶得替事、內大臣殿今朝御坐御裝束之間

也、蘇芳御下、(文)マヘタ、同中尉、例表袴、自殿下御方、以女房被申云、親房

申前驅障、尤奇怪々々、早可被召具、佗人可然物不候

也者、御裝束了令參候了、此間公卿計會參集、新宰相

中將、民部卿、坊門大納言、左府、三位中將、太政大臣

殿、三位中將等追々參會、內大臣殿令出給、公卿在二

棟簾中、此間坊門大納言招予被示云、明日一定被來訪

歟、爲必定者、所役事例有無勘見、可申左右也者、諾

了、殿下出御、此間中將殿坐御前簀子給、御座西ノ、同東柱下、被仰

舞人可被渡由、藏人佐奉行也、次第渡御前、將監近武、

將曹武安、府生忠武、賴武、殿下武友、府生敦澄、本府、兼

仲、近文、國方、兼直等也、入中門渡西出轅門、次神寶

神馬等入轅門東渡如例、次舞人騎馬同渡、上臈爲先、

武友馬退行、陸梁之間忽歸入下馬、乘直又出來、不似步、立容儀、

也、兼仲馬頗雖沛艾、得其骨之間無過失、國方今度給揚

馬、着薄色、又優也、次乘尻二人渡了、公卿自下起座、予着

查下之中門邊、公卿出中門廊妻戸各下立、大臣殿令下

自內脫沓給、予献御沓、可取殿下御沓、相存可取繼由

有仰、大臣殿令進南階給、予經庭上西行、相儲殿下御

隨身中之間、所司取御沓出東云々、喚尋適持來、予取

之進寄進之、大臣殿令跪地給、跪御前献之退出、此間殿、下令下

南階給、三級、出東門騎馬、先是依雨取笠了、不及甚雨、庭上

略之、舞人舍人御隨身等渡後、稠人停滯、依有事煩打

融了、與刑部卿相共先陣、行力大炊御門西、東洞院北、一條

東行、予打入宮小路辻、乘破車還出大路見物、隨身弓

壺童等皆悉返還了、相具青侍一兩見物、車舁左道無張

席之間、甚雨奇特也、諸大夫一通物等殿上人渡了、御

建久七年 四月

三十四

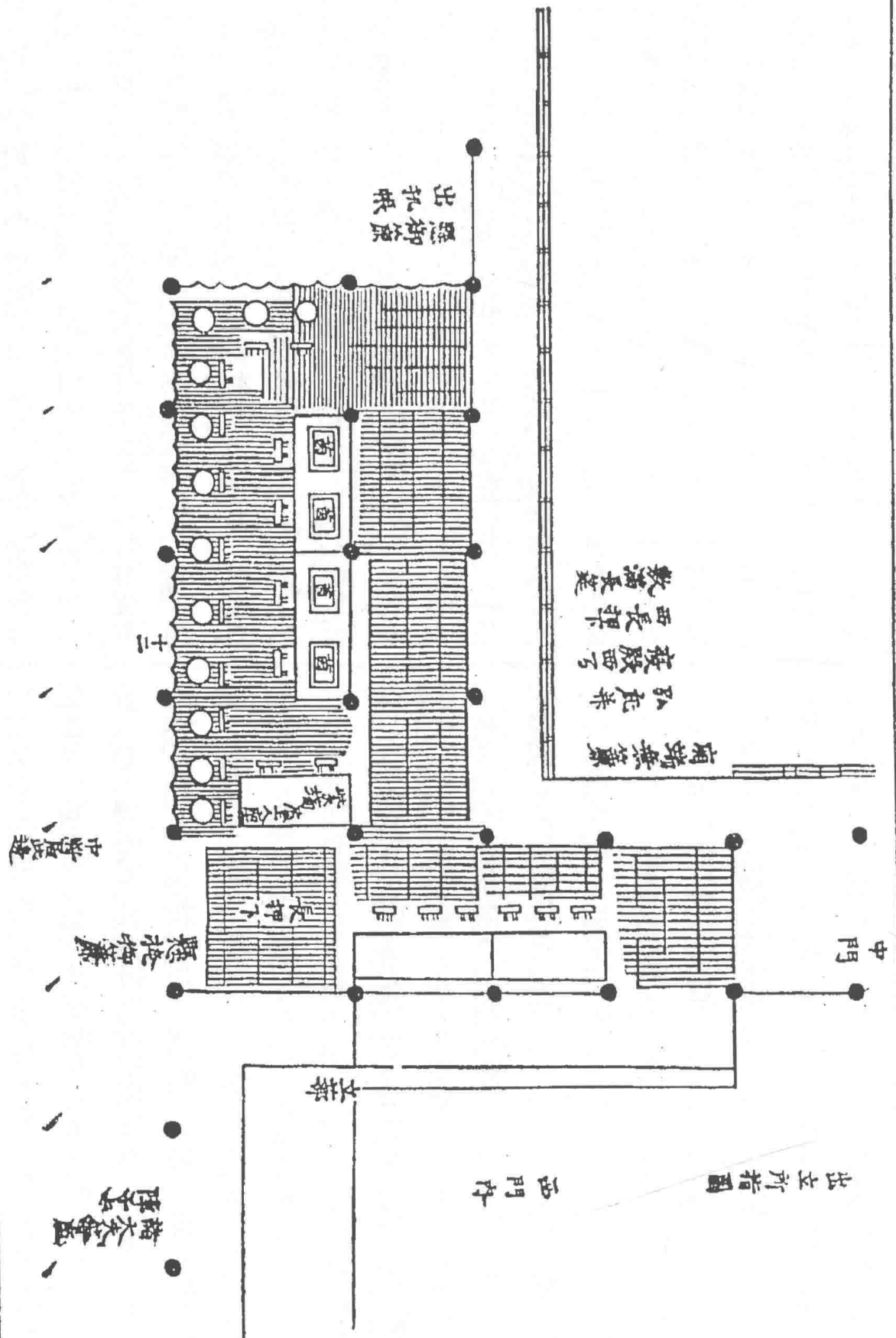
車如例、御前、殿下、左中辨宗隆、少納言隆經、大外記師直、大史隆職、大臣殿、右少辨賴國、少納言宗信、大外記良業、將監史、六位、一員左少將知光、左馬助業家、行列次第等在別紙、殿上人隆信朝臣、宗雅朝臣、成定殿下御車、後通金朝臣、伊輔朝臣、隆保朝臣、公國朝臣、成家朝臣、長經同成定朝臣、仲經朝臣、顯兼朝臣、有家朝臣、能景朝臣、高通朝臣、隆衡朝臣、雅親朝臣、朝經、有通、資家、通具、口、長兼、宗方、實宣、藏人右衛門尉重輔、通宗朝臣、馬由、關奉地下公達等委不見知、前少輔伊經朝臣、越中馬由、關奉守皇太后家因幡孫等有之、大臣御車過了後、依甚雨歸家了、公卿車等不見、後日可尋記、今日宗方隨身、垂袴、壺胡籙、令持平胡籙、朝經隨身、狩胡籙、市比、令持壺胡籙、兩人一門也、作法已後聞、近衛大納言坊門大納言、民部卿、別當、中宮權大夫、源宰相、左大辨、左兵衛督、皇太皇宮大夫、右三位中將、六條三位、修理大夫、新三位中將、新宰相中將云々、

廿四日、朝間微雨、已後漸止、未後天晴、巳時向使出立

所、樋口大宮大納言亭也、早速之間、人未來會間也、此亭無透渡殿、二棟廊南面並寢殿西一間放合之、懸掩御簾、立屏風、敷弘筵、二棟東第一二間敷公卿座、疊二帖、齒四第三間南北行敷紫綠疊一帖、爲殿上人座、與東折敷舞人座、中門廊敷疊居簀、爲陪從座、以前右衛門佐定季朝臣被示云、勘盃事、昨日相語三條中將之處、有領狀、仍服暇日數事、不及尋先例、但被來訪之條、尤恐悅、只今自可申者、答承了由、定季朝臣布衣、上結俄而大納言被出、直衣居公卿座被相逢、予居殿上人座、今日殿下御參內御共有催、無所役者可罷出由相示、依有可許退出、此間前馬頭許在閑所方云々、

參大炊殿、御參內雖不定、暫可候由有仰、數刻雖祇候、御出大略止歇、藏人佐參入、申昨日殿上人散狀等、藏人大進同參入、仰云、有所勞雖可扶參、若遲々者、早任例可申行、長兼參內了、此間重伺御氣色之處、早可退出由被仰、仍參內、于時未時也、前馬頭參入、使出立儀了、已以參內云々、至訪之輩、公卿平中納言、源宰相、

三十五



建久七年 四月

三十六

兩三位、季經、殿上人、依座狹中將二人着座、成定朝臣、伊輔、高通朝臣等云

云、初献成定中將、二献平中納言、木工頭兼定取瓶子、

三献源宰相、侍從資家取瓶子、次移著穩座、使勸盃、少將有雅取

瓶子云々、此間人々參入、左兵衛督直衣伺候、卷、信

清朝臣、仲經朝臣、高通朝臣、老懸帶弓、帶強胡、長兼、

奉行職、宗長、有雅、弓箭老懸、等如例、等也、俄而使參入、入左衛門、殿上人

等群座南殿、同見參弓塙殿邊、主上出御、南面下御座、數御座、女房伺候、

藏人右近將監兼範敷圓座於長橋、中門檻下緣也、去南端一間許、持弓取

圓座敷之、出青鎖門如何、次長兼出殿上戶、進御前申

參由歟、數圓座後也、還出後、使入仙華門代、昇長

橋着座、曳尻取笏、飾銀紫淡平緒、カイヤリカサネ付魚袋、北向座、知向乾、次藏人二人

居衝重、知範、兼範、各通青鎖門如何、次藏人大進長兼於小板

敷取盃、出殿上戶、年中行事障子北對使坐、勸盃藏人取

瓶子擬之、右回退入、使置笏、膝下左ニム、ケテ置之、取坏如飲置之、

置衝重、取笏候、陪從發歌笛聲、舞人出中門、粗舞求子還

入、長兼取勸祿、出年中行事障子北給之、右回退入、使

祿ヲ肩ニ引懸天、取笏左回退下、着杏顏寄南、更北向舞

踏、出本戶退出、即御覽使馬等、人々立南殿就出西方、

信清朝臣頻行事、但良久不引馬、行事男遲參云々、又

舍人等不得心馬、回東方喚尋之間良久、此間宮使已以

參內伺候、又立御幣、御禊已欲始、有出御由女房被示

之、但陪膳頭亮也、猶在殿上、以出納示送云、出御次可

御覽馬、馬早可引、馬引了、宮御禊可宜歟、女房又云、

內女房先有御禊可引馬由被申、內外不同之間、彌雖遲

遲、猶各議定、令撤御幣案、先引馬、飾馬、備、馬寒、栗毛云、但自殿下

遣之、御覽舍人、左近將監中臣近武禊袴付、經(兼力)相副、將曹下毛野

武安袴付、但其駕有組房、不得心、引回御前、馬副手

振等同渡御前、高通少將云、於馬副手振者、可御覽由有

別仰時進參歟、但前右馬頭皆令催、參了各退出之間、

又令引御馬、二備番長著烏帽之間、近武更取之下手、左

府生中臣武友二藍上下付內侍物具、大藏卿遣之云々、銀子以下裝腰帶等也、

次引出了引馬、殿下大駭也、唐鞍、殿宮門院云々、次立御

幣案、有宮御禊、頭亮陪膳、權大進兼時役送、使權大進

右衛門權佐宗方著座、紫淡平緒、蒔繪螺鈿劍、付魚袋、

御襖了立取御幣、御幣可解歟、而結合立之、乍結取之
跪、笏甚重之間頗有煩、乍打懸案取之如何、次置之退
出、主上渡御宮御方、更渡御前有御覽、馬以下上下入
西北門、自殿下御直廬屋南、更出西中門北渡、出二條
西北門、今朝撤餉屋立部等、如五節時、西妻戶懸新御
簾、又北間有掩御簾、出几帳、飾馬籠、見上馬副手振等
行列、次引御馬、左府生武友、同番長桑田次（大臣殿番長、依此事口免了）、赤色上下付口口口口、次使、
次童六人、期木上下海物云、次雜色八人、二藍山吹、取物舍人
四人同上、笠、上張紫結染、唐綾裁牡丹、次中宮使飾馬、馬殿下、
殿云、櫓殿下、左府忠武、付鼓與、柏子、右府生賴武、付籠、馬副手振
蘇芳楊、青、引馬、左右番長清景付五節御、次使疊繪隨身負狩胡
布、青、雜色白張六人、取物舍人四人、櫓笠音笠也、渡
了退出、山北小門、於內、乘車出一條東洞院又見物、檢非違
使等渡了云々、酉時許中宮使車渡、牛飼、赤色、車小八
葉、普通事也、於物見如例、先々多無物見、今度偏如例、次御幣等如例、
使隨身前又有若禍物二人、鹽腰巾、狩胡、他事同內裏使、車
只透大蝶、簾裁薔薇、蝶在其上、有涯等、佗事如例、使

隨身着輦如例、渡了、不見女使、馳所家、于時昏黑也、使
渡間、日不入尤宜、今朝或四位殿上人着冬衣冠參內、
退出着束帶歸參云々、警固之比以後冬衣不聞事也、
廿五日、天晴陰、可參解陣由先日領狀之處、自殿爲御
共有召、午時許參入、卷欄、相具細、太刀弓盛等、姉三位參、談話良久、殿
下御參內、參御共、即勤陪膳、藏人今朝所示送也、明日
本番可催替由約束了、弓箭劔勤之、卷欄、昇出臺盤之間、
主上出御鬼間御弓場殿方、仍自北對方西廻、着弓箭細
太刀老懸、成定中將着老懸細太刀伺候、經通有雅少將
帶弓箭、申始許上卿參入着陣、源中納言職事不候間、
尋出六位藏人右近將監兼範、此間主上御南、殿有御小弓、兼範帶弓箭昇
與座坐、上卿申解陣由、藏人奏此由退出、仰聞食由退
歸、上卿移着端座、召官人令敷膝突、次召官人、召外
記、六位外記參進屏下、令召內豎、內豎參仙仁門下、上
卿仰云、諸衛召七、○以下、左大臣今朝辰時許出家云々、
病猶火急歟、自內以左兵衛督被燒仰、又殿下以頭亮重
被遣云々、生者必滅、只浮眼何爲乎、亞相一人、黃門一

建久七年 五月

三十八

四三八

人、見任之闕已以多、

廿六日、天晴、心神不例、辛苦沐浴、不出仕、

廿七日、雨降、心神殊惱、不食痢病、相共不快、

廿八日、夕雨止天晴、心神猶同事也、

廿九日、天晴、小童大夫去々年以後逢狂事離別、經年

雖不知、去秋以後在資實許之由、日來聞之、仍今日喚

寄見之、事外成人、存外狂事之間、已及異域之物、今始

相見、故御所殊所鍾愛給也、依見之更催懷舊之淚、即

歸送了、入夜右衛門尉通遠初入來、不知其由、

卅日、天晴、不食之氣猶不宜之間、氣力逐日彫弱、府手

結事可著行由催之、荒手結、藤少將實宜著行云々、真

手結、所勞宜者可構著之由示了、

○五月

一日、天晴、陪膳闕如之由、依藏人相示、欲參內之處、

他人勸之由又告之、依病氣不快不出仕、

二日、晴陰、今朝密々令物詣、午時許歸來、

三日、天晴、夕晴雨灑、今日陪膳當番云々、新藏人範清

所語也、末座物今日之條如何、依所勞語申五條少將了、府荒手結、實宜少將着行云々、

四日、天晴、心神猶不宜、

五日、陰、未後晴、已時許入道殿令渡給、申時着束帶向馬場、手結也、昨日取寄兼書之、病氣惡雖不快、所扶向也、隨身童令着賀茂詣裝束、正親町西行、堀河北行、一條東行、去轡四五丈許下車、入自堀西相尋他將、久景云、中宮權亮日來傾狀、今日稱故障由者、仍着西圓座、

此座以東爲上云々、通宗中將兩人着之時如此

前宰相中將立車見物云々、着座了令上轡、久草上之此間大將殿職事等着後座、尋射手、各依

兼申大將殿、不申一人着由、遲參云々、及良久之間、且可上由仰□□□□適參入、物來皆悉申障、近年流例也、依奇怪、更以使令申大將殿、儘可令奉仕由重被仰、仍下知其由之處、猶不承引、或只騎馬打渡、或馳融、或逐電、不足言也、先是居纏一献、予一人着之、不及儀式、可被止二三献由示之、次手結文令請印、請印了持來、更卷懸紙令封、封了持來、書名片字返給了、次

東遊如形舞了、職事清忠朝臣取祿來、予取之、職事立了、令差寄車乘之、祿即給久景、是又近例也、又西行、堀河南行、相次參內、次參大將殿、申入射手次第等了、以人中御返事以前退出、依窮屈也、即歸家、

六日、天晴、午終密々向右近馬場見物、將着了後也、前執柄立車給、例事也、乙殿顛倒、打帳同右近輻借渡左近云々、東面也、將雅行中將、經通少將北上着、此間高通少將來加、

經馬場末西、去堀南七八丈許下車、此間小廳頭取圓座一枚敷加其下、經少將移着新圓座、高少將入堀南、自後加中央、次廳頭等進例文硯、下薦書之、漸齊、此間度

度、被重召之後、射手等上馬、各進寄申障、良久射、右番長行弘一人射之、中了、次先上薦各見了給之、文加封

持來、不請印、定見落款、不實可尋雅行朝臣加封返給了、次總禮、次居鑾、

自輻北局座後將達更西向就之、大將職事勸盃、次又東向、東

遊了、職事欲取祿之間、將皆悉立、仍不持來、差寄車三輛、一度乘之、上薦爲先、各歸西大宮南行、今日自大將殿仰云、昨日射手等尤奇恠、賴久可召問也者、爲被誠

向後尤可被尋之由、申之了、七日、雨降、終日不止、

八日、晴、小念誦、病氣惡不快、入夜向小弼宅、重病之由大夫依示送也、自相逢无別事、雖強不可向、一門絕失已无其人、雖非人纔存命、根性落居漸老者也、仍所訪向也、无程退歸、今日聞、賴久被召籠本府云々、爲向後尤可然、

九日、陰晴、今夜御方遠安非行幸云々、病氣无力之間、不能供奉、

十日、天晴、申時許大雨雷鳴、夜前行幸、有大將以下云々、

十一日、天晴、午時許相扶參內大臣殿、御出了云々、退參大內、今日依御歷覽、一昨日有其召、以人々指圖委

被注丈尺等、宗雅朝臣、顯家朝臣、有家朝臣能季朝臣、有通、保

季、信定等參會、地下并刑部布衣前駟等衣冠、御覽殿舍額等、又

入外記廳南所等、此間有家朝臣小々語少納言公事等、御覽了、令參大炊殿給、予自近衛門遁歸、猶依病不快

延久七年 五月

四十

四四〇

氣力庭弱也、

十二日、陰、午後雨降、

十三日、天晴、依月忌令誦廿一日最勝講之由、藏人催之、

十四日、天晴、今朝脚有小瘡、雖不可驚、喚基能令見之處、頗似六借物、无解忌可付藥之由示之、目ハシキ也、乍驚付之、

十五日、天晴、今日於八幡被供養金銅御佛云々、藏辨下向、脚只同事也、終夜付藥之處无減、如何、

十六日、曉雨降、朝後止、去夜猶付藥、基能夜見云、无別事、於今者可押付車前草、仍用其儀、

十七日、晴、押付草葉如昨日、人云、季能卿母堂逝去云云、雅兼卿娘也、

十八日、雨降、念誦、依无別事止車前草了、

十九日、雨降休、

廿日、晴陰雨、內供來臨、

廿一日、晴、今日外祖忌日也、入道殿令渡法性寺給、被

修云々、導師顯喜律師也、被物事自是致其沙汰、但代課送之、也、五

廿二日、晴陰、押小路如形修法事云々、請阿證房云々、自今日服藥、不食脚氣猶不快之故也、

廿三日、陰、午後雨降、夕甚雨、最勝講始云々、所示之由觸知範了、

廿四日、天晴、未後雨、

廿五日、雨降、申時大雨之後、暫雲晴又雨、押小路正日終云々、

廿六日、雨降、或人示送云、或相公最勝講夕座着座、事了、上臈雖相示不得其心、良久不立、自出居座被教訓立云々、第二日、或亞相落笏、又座ノ疊上ヲ步天、北に向て坐云々、深揖之間、巾子打長押、其日又兩相公如初日不立、良久依自上相示之間、二人不揖、公繼卿初揖立云々、

廿七日、天晴、

廿八日、陰、申後雨降、

廿九日、通夜甚雨、午時晴、最勝講之間事依不審相尋之處、後日知範注送之、

廿三日、壬寅、雨降、今日且有北斗法結願、其儀初

夜時畢、御室以下御退下、其後改御裝束令昇給、以盡

御座爲御座、四面、垂母屋御簾、卷廂御簾、長押際敷

番僧座、其北方二儲大阿闍梨御座、兩面中南方二敷

御經僧座、東廂中爲御座、高麗中其後聊御加持了、貫

首以下及六位取御布施、畢皆悉退下、无別事、奉行

職事藏人佐朝經也、此則天變御祈也、其後予供最勝

講御裝束、其儀如去年、予去年爲三齋奉行、今年爲

一齋、雖不可奉行、依別仰令奉行也、仍昨日粗伺鳳闕

之儀、偏爲狼藉之基、今朝先拂禁庭而敷沙、清御殿

而儲座了、其後公卿令着殿上了、殿下同令着殿上給

之後、頭兵衛督被奏事由、辨迴參之間、予仰鐘、蒙召

昇小板敷、突膝承之、次出居着座、親能朝臣、雅行朝

臣、公經朝臣、通宗朝臣、實宣、次公卿着座、殿下、右

大臣、內大臣殿、坊門大納言、土御門大納言、民部

卿、二位宰相、次僧昇、次事始、次堂童子着座、左方、

藏人大進長兼、侍從資家、右方、右衛門權佐宗方、少

將實宣朝臣、立自出居勤之、位雖爲左方下臈、依爲

出居爲右方、朝座講師範玄、問者阿闍梨重圓、事了

有行香、不足、花山院宰相中將、予着青色縮線、取火

行香之外參公卿、修理、左三次朝座了、公卿以下退下、

即始夕座、頭亮仰鐘、予仰出納、人々着座如朝座、但

通宗朝臣不着出居座、通具着座也、夕座講師權大僧

都覺辨、問者阿闍梨良俊、申剋了、

廿四日、癸卯、陰雲深閉、霖雨難晴、今日最勝講第二

日也、上卿權大納言被奏事由、長兼仰鐘、出居着座、

公國朝臣、成家朝臣、通宗朝臣、通具等也、去年依官

次、公經朝臣之下に成家朝臣着、今年无其儀、通宗

中將着成家朝臣下了、朝座權小僧都行舜、問者得業

緣成也、夕座講師小僧都成實、問者阿闍梨良俊、參

公卿、權大納言殿、土御門大納言、左衛門督、花山院

宰相中將、源宰相中將着之、藤宰相、藤三位、新宰相

建久七年 五月

中將等也、堂童子左方、勘解由次官範光、前遠江守行房、右方、木工頭兼定、兵部權大輔光親也、申別事了、

廿五日、甲辰、雨降、殿下令着座給、令着殿上給畢、以頭定經朝臣令奏事由給、即被仰鐘、凡參上公卿、殿下、內大臣殿、藤大納言、坊門大納言、高倉中納言、平中納言、中宮權大夫、修理大夫、新三位中將、出居、成定朝臣、雅行朝臣、家經朝臣、高通朝臣、師經朝臣、經通等也、堂童子左方、宗方、右少將經通、右方、侍從有通、侍從資家、朝座之間陰雨大風、眼驚心恐、御願嚴重之間、天神降自上、地類昇於下歟、堂上如池、庭中似海、仍出居座疊引上長押上了、公卿出居將入自渡殿、鬼間妻戶徘徊、夕座之時又出自鬼間、并渡殿着座也、朝座講師律師信宣、問者阿闍梨經雅、夕座講師律師圓能、問者得業實尊_{松殿御子}、夕座了、僧退下之後、予爲勅使召得業、下立弓場殿給之後、予出渡殿妻戶下立地、屈腰申可有御參之由、昇給於鬼

間、脫草鞋參東向御所給了、頓而退出、此得業御從僧四人、着法服懸白袈裟、有上童一人、

廿六日、乙巳、雨降、參公卿、坊門大納言、左衛門督、二位宰相、右兵衛督、源宰相、藤宰相、右大辨、藤三位、新宰相中將、上卿坊門大納言、以藏人大進長兼奏事由、出居、公國朝臣、成家朝臣、保家朝臣、堂童子、左行房、有近、有家綱、予也、日來源少納言領狀、俄申所勞之由、仍所勤也、朝座講師範圓、問者宗雲、夕座覺親、問者貞玄也、

廿七日、朝間雨降、今日最勝講結願也、參公卿、殿下、右大臣、內大臣殿、大宮大納言、藤大納言殿、權大納言殿、_{已上着座}民部卿_{夕座着座}、高倉中納言_{着座}、別當_{朝座着座}、六條二位、新三位中將、公房、新宰相中將、出居、成定朝臣、家經朝臣、高通朝臣、師經朝臣、公行、實宣、經通、堂童子、朝經、光親、宗綱、隆仲、殿下令着殿上給之後、以長兼令奏事由給、被仰鐘次第如恒、朝座講師定範、問者春範、朝座了、公卿着殿上、殿下

不令着給、夕座又如恒、右府被奏事由也、出居、成定朝臣、高通朝臣、師經朝臣、定宜、經通着座也、成定朝臣仰度者、夕座講師聖覽、問者重信、夕座之後賜

祿、右府以下及新宰相中將、被取講師祿、右府午長藏人左衛門權佐朝經也、右府鬼間妻戶下午居被取、朝經持祿進寄也、內大臣殿不令寄祿給、大宮大納

言、藤大納言、權大納言、民部卿、高倉中納言也、抑

今度御殿御裝束事如去年、但佛後花轎雖不可懸、其

由初日相觸長兼之處、令懸何事有乎之由被答之間、

懸了、而或公卿被難云々、尤理也、聖供机佛供机佛

布施机三立重了、額間幡花幔依爲里內懸了、又南御

廉卷上了、然而於幡華幔者懸中也、今日高倉中納言

爲上卿、秀才一人、被超下懸三人、今度自肥後國上落、仍補之、數尙、給料二人、淳高、被宣下了、又

灌頂請阿闍梨解文敷通被宣下、殿下今夜御退出、五

日御伺候、

○六月

一日、晴陰、暑氣甚遲如例四月下旬程、自七條院馬長

可騎山、先日有催、近將常騎內御方歟、隨重仰可騎進由申之處、重有催、仍領狀、非別所緣人職事、近衛司必可騎內歟、

二日、陰、

三日、陰、朝後雨降、

四日、陰、入夜微雨、

五日、天晴、入道殿令渡給、午時許着束帶參大炊殿、

今日出仕、依召參御前之間、內大臣殿御參、仍退出、頭朝臣

參內、參宮御方謁女房、歸路參向三條、夕歸廬、

七日、天晴、午時許參內、陪膳番也、雖御物忌殊不堅、

即勤之、參宮御方退出、相次參內大臣殿、又參大炊殿、

夕歸家、祇園御輿迎之間也、

八日、天晴、不出仕、

九日、天晴、已時參內大臣殿、御供參大炊殿、相次參

內、勤陪膳、刑部番也、謁女房退出、參勘解殿、臨昏歸參殿、

晚鐘以後御供參一條殿、歸家、

十日、天晴、殿下御參內之由雖有催、病无術問申其由、

建久七年 六月

四十四

四四四

故親綱朝臣周忌五日可相訪之由、家綱觸之、強雖不可然、先妣中陰之間依相語、彼朝臣度々來臨取布施、存生之間惣付内外結芳約、去年又籠居之間、不加一言之訪、如木石、非今度者偏可忘舊好、仍扶病行向、三條中將、刑部卿、前武衛中書等諸大夫濟々、人々且語具云云、辨曉爲導師訖、此間信光來臨云、今日向此處、參殿之條可有憚、有其仰者、中務大輔等聞驚、至中陰者尤相憚、至周忌者強不可然歟、近代无此事之由各雖相示、仰上不及左右、欲參殿之處、此條如此、仍申病私出行遊、雖爲恐取布施即歸家了、其後忠國御供人猶闕如、可參之由示之、仍平申此由之處、向他所之時无病、御供之時病増、不及左右之由有勘發、此次第雖似不當、又更不過事也、所詮何爲乎、殿中催辭退、今生一度也、仍有御勘發申不及、誰人以亡者親綱可准奉公乎、可有違返事也、

十一日、天晴、未時許大雨雷鳴、申時參大炊殿、昨日事等間女房、一旦雖被仰、強不及沙汰歟由示之、殿下明

日可有御退出云々、

十二日、未時許小雨、雷時々鳴、巳時許洗髮之間、自内新藏人示送云、今日解齋并日陪膳等闕如、勤仕乎者、此事未明事也、午時奉書到來、尤驚存、早可參勤由申了、即參内、抑上格子相待云々、不便事也、即供御粥、上御座間格子一間、昇立御臺盤一脚、不居、御箸先置之、頭藏人持來粥御盤、粥一杯、飯一杯、御取居之了、此事或先置臺盤上、藏人脱々也、陪膳強不可、奏事由、不及音奏、内侍仰聞食由、不鳴扇、即取盤來、如先取居之退出、次昇立臺盤、次上格子、供朝夕膳了、參御直廬方、一日仰之後、成恐無左右不參由相示忠國等、國行朝臣伺御氣色、還來云、早可參御共、仍相待、未終許雨止後還御、與伊與守參御共退出、

十三日、天晴、辰時參大炊殿、巳時許渡御九條御堂、東大寺上人示渡、東大寺四天像於御堂内令奉禮給、此佛本樣也、彼寺四天四丈佛也、是四尺云々、先造本樣摸之、八尺爲丈可奉造云々、未時許退出、依有行幸賜假了、殿下今夜令八條院給云々、秉燭以後着闕腋參内、

俄而內大臣殿御參、即着陣令行召仰給、良久出御、雅行朝臣、保家朝臣付前後、內侍兩頭不參、朝經取御尻、予向本陣了、公經中將、共明、知光少將等也、右將渡、中將雅行、少將保家、高通、公信、有雅等也、雅通、實兼、供奉內侍所、公卿列立、左大將殿、源中納言、二位宰相中將、左兵衛督、別當源宰相、左大辨、右三位中將、兼藤三位、雅隆、新三位基家、新三位中將公房、新宰相中將兼宗等也、少納言賴房鈴奏了、寄御輿、忠經卿昇寄之、將等昇坐如例、御々輿、警蹕了、左公卿兩將、公房ハ弓彌ヲ左ニ持、兼宗ハ彌ヲ右ニ持、御輿左右之時、合彌持之由習之、予他將等同如此、公房卿說、又定有其樣歟、出御、知光、有雅乘御馬、陸梁例事也、入御大內、寄御輿之儀如始、公經中將留階下問名謁、予即參御後、雅行侍從、前中將、予付御劔內侍、於御殿置弓、昇長押置御劔、置之退出、參內大臣御共、自一條殿歸家之間、家忽有五牀不具穢之由聞之、仍又參閑院、馬長事、俄如此之由、以使觸前馬頭信清朝臣許了、今夜宿三條、

十四日、天晴、於北大路棧敷見物、入道殿同御坐、今年梶井宮內力者有別願渡之云々、以金銀錦繡施風流、皆悉着指貫平笠、馬長廿餘騎、其內公信少將、馬長隨身懸緒脛巾、定宣少將付樣々扇、模目、夏冬相交、又有付燕人、武衛乘二人、自餘事等存例、稱馬頭物過差以外也、日入之程、着闕腋參中宮、本內、即參內、晚景、今夜還御、事外被忿云々、而平中納言參內之次、可行位記請印之由、結構云々、長兼奏此由、抑行幸又公卿一人不參云々、良久右將軍參入、戌終許親宗卿參、請印事內覽之間、時尅推移、仍先行幸、於里內可有請印由被仰之處、長兼爲行召仰、召日時勘文、宣憲申云、三ヶ日之中還御之時无反閉、又不献日時、長兼又云、雖一日內侍所渡御之時、爭无召仰乎、猶可進、縱雖无其例、是職事失也、陰陽師何可難澁乎、外記云、先々每年有召仰、去年陣座不敷盛、每事略之間无之也、又人々相共云、如此之時、明日還御之由、夜前同所勘也、仍无之歟、相論之間及夜半、重召長兼有御尋、御裝束以後已及數刻之

建久七年 六月

四十六

間、召仰事、縱雖可有、只可被略之由被仰、出御、仍帶
弓箭取脂燭、親雅、行能朝臣付內侍、頭亮候御裾、予向
本陣、親能、師經、實宣、右將渡、雅行、成家、經通、有雅
等也、公卿列立、右大將、坊門大納言、予、中納言、左兵
衛督、源宰相、右三位、新三位中將、兼良卿寄御輿、少
納言宗信鈴奏、出御如例、入御閑院、雅行不見、不知其
由、親能中將云、可問名謁、而大納言在其列、雖不可憚
頗无便宜、汝可向許諾、即留階下、但右大將爲上首、雖左右
奏了問之退入、右大將猶在四、予向
南間之、右大將退入、副檻下退入、參御後取脂燭、入御本殿、即退出、心神如无、窮屈不知前後、穢
氣之聞依有恐而不歸家、

十五日、天晴、

十六日、天晴、午時大雨雷鳴、申時更晴、入夜參殿、今
夜御參內云々、置籠裝束之間、无衣裳不參御共由、內
內申了、今夜布衣猶借物之由申了、以右馬權頭委細有
被仰旨、年來本意已以是面目、恐悅更不申披、豫別小
所一所給之、但有其闕者、可替尋常所由被仰、畏悅退

出、參勘解殿、入夜退出、

十七日、天晴、雷鳴、去夜勘解小路殿雞鳴云々、仍可令
立給之由、人々申之云々、

十八日、天晴、入夜雨濕、夕參勘解殿、相次參大炊殿、
猶々畏申之由申女房、

十九日、天晴、巳時參大炊殿、御共參內、小時渡御九條
御堂、例講始之程退出、今夜齋院密々渡御七條坊門大
納言局舊宅、依无其所、戶部可然由被申云々、隨身兼景
死去云々、又人云、圓隆法橋已逝去云々、能讀一卷也、
可惜、今年亡逝之人已以數多、就中才能過身者殊在此
中、末代令然歎、自去比天變顯示、一有天下大事之由、
司天頌奏、御祈无隙云々、衆口嗷々、閭巷浮說、狂亂可
恠、

廿日、天晴雷鳴、午時許參內大臣殿、見參之後、申時退
出、心神殊惱、圓隆事以外謬說也、雖重病得小減氣云
云、今日又人云、證賢僧正逝去、

廿一日、天晴、內大臣殿自昨日御風氣之由聞之、午時

許馳參、謁女房、昨日於泉候御前之間、御心地違例之由被仰入御、其後事外六借、御溫氣相加、今日同事之由云々、爲歎無極、申時許退出、證賢雖萬死、一生猶又存命云々、

廿二日、天晴、時々雨瀟、巳時參九條殿、終日日臘、未時許二夜一品宮行啓止了云々、天一方可有憚之由、宣憲申之云々、上下忘却之間、日來无此沙汰云々、又入道殿松殿、御子息一人逝去云々、依其事殿下可有御除服歟之由有沙汰、又爲被問日次、遣召廣基、入夜參入、无御除服事、戌終御參內、御共之後歸家、大臣殿今日殊大事御云々、

廿三日、天晴、巳時許參一條殿、御不例、朝間還御、晝後每日令發給、但雖朝間、猶溫氣御坐云々、相次參內、午時許歸家、今日刑部語云、昨晚侍雜仕開妻戶出之間、着柿法師走懸欲取付、仍逃入妻戶內ト思之間絕入了、所司見付令昇出、昨今猶度々絕入、是天狗所爲歟、此一條殿惣不吉也、

廿四日、天晴、巳時許參七條坊門、御少熱、猶六借御坐云々、午時歸家、自昨日股有小瘡、出行之間甚痛、仍請時成朝臣令見、雖非大事、可付藥之由示之、殿下一昨日御參內之間、御足頗痛御、自昨日事外令苦痛給、仍去夜御退出、召醫師等有御療治云々、

廿五日、天晴、暑氣殊甚、去夜今日付藥不忘、殿下御足事外六借御云々、折節籠居爲歎、入夜源少納言過門外被示云、殿下猶事外六借御、今日一條邊兵士等有追捕事云々、故知盛卿子冠者、聚其黨類、明曉欲襲一條、其事兼聞、仍今日皆悉追捕云々、法性寺清水白河邊如法師頭有其數云々、勝事也、淺猿云々、天變頻示、凶事間聞、可恐云々、北政所御退出云々、

廿六日、天晴、殿下御足及御灸云々、去夜終夜令苦痛給由、女房示送之、猶又同事也、

廿七日、天晴、去夜暑氣殊甚、終宵辛苦、腫物殊苦痛、又招基能朝臣令見、猶可付藥之由示之、

廿八日、天晴、股物猶苦痛、

建久七年 七月 八年 八月 十二月 九年 正月

四十八

四四八

廿九日、天晴、苦痛頗宜、猶可付藥之由、基能來示、坊門大納言又依贖物、今日被灸云々、荒和祓不堪着、如羅衣之間、以衣合着貫、今夜陰陽師資元門生云、妊者不貫貫也、俗說云、六度着貫之如何、此各大謬說也、只如例祓、雖向贖物不立之由稱之、仍今夜用此說云々、

○七月

廿一日、申刻許參大臣殿、又有三首歌、亥時許退出、昨日明月、今日微雨、明日逢戀、

建久八年

○八月

十六日、黃昏着束帶、依駒牽事也、退出之後、送一行右中辨許、

立馴之三三乃雲井乎今更爾隔天見霧原乃駒

返事歸廬即持來、

時乃間乃隔鳴覽立馴之雲井爾近霧原乃駒

○十二月

五日、天晴、少輸入道來、一日依召參仁和寺宮、仰云、欲詠五十首和歌、定家父子可詠進之由可相示者、時云、身雖憚多聞此事、無左右領狀、宮御事更不似事、

建久九年

○正月

一日、己亥、日蝕、天晴、日帶蝕出、十四分可缺之由、雖有兼日之聞、其光如例、於蝕者現顯、已時許復例了、昨今念誦、午時許以後寫經、雖日蝕土部了、文義來語云、三位侍從之預小相撲童、午時許自內退出語云、今日殊無出仕之人、左中辨兄弟參內之外殊不見云々、但於被歸者、晚陰出仕、可被參中宮九條殿之由所承也者、申終藏人大進長兼、參九條殿云々、一品宮御節供今日之由、有舊年之催、猶依不審、以使者相尋長經朝臣之處、返事云、秉燭以後必可參、今日一定也者、仍秉燭以後着舊束帶參入、帶劔、宮御方供御樂之間也、大進長

房給之、語云、今日出仕之人不減、又申時許參此宮了、

其後若有人云々、小時供御藥了後、供御節供、二棟、長經

朝臣陪膳、去月廿五日以後、出仕參內云々、予、長房、宗方等、各四度往反、二十

也、事訖參女院御方并宮御方退出、參角殿退下、前夜除

目、侍從兼基、關白殿御子、最愛外孫、去月十四日元服、從五位上、左兵衛尉家長、非藏人、

侍中職事非藏人皆悉衛府、二箇國重任、侍從即被聽禁

色云々、

二日、天晴、辰時以後漸陰、未時計雨降、終夜不止、今

日節會也、申終計參八條殿、若國祚付魚袋、依夜景用馬腦帶、隨身令着紅梅袴重單、昏

黑退出、參入道殿、於路頭秉燭、見參之後退出、參內、

雨殊甚、內辨已立中門之間也、雜人狼藉、甚雨之間、旁

進退谷、權大納言一人被着外辨、依無路自陣座後經內

侍所立都內向仗下、以前宗國、教成、雅親等引陣、中門南廊

內、教成不置胡床道而坐、但宗國之由有胡床、予喚陣物

口立其胡床之間、宗國即立了、仍替坐、自上、無程雅親教

成立去了、此間開門閉司相催之間、良久適出來着草

盤、內辨左大、喚舍人、少納言隆經立中門下、稱唯出還

入、出本所又稱唯出、即向外辨參入、右大將、權大納

言、花山院中納言、中宮大夫、左府、三位中將、新宰相

立了、源宰相追加立、謝座謝酒了、各召寄笠之間、殊以

狼藉、予即退出、直出乘車飯家、心神甚歡樂、入家門

之後、身殊歡樂忽不知爲方、終夜甚歡樂、臨鷄鳴頗落

居、後聞、雨以前關白殿有拜禮云々、訖人々參七條院

之間、雨降無拜禮、小朝拜頭中將申之、雨儀、任奏節會

事等頭中將申給之云々、

三日、朝陽快晴、晝天間陰、小雨時灑、寒風殊烈、歡樂

之氣、已時計後、猶以不似例、終日通夜同前、鷄鳴以後

又立、後聞、昨日宗國少將袍、其大頸袖等用他文、人々

見出此中嘲哂之間、拜禮可取殿下答拜御杵之處、忽被

改定被用雅行云々、又云、有雅少將着縫腋出仕云々、

四日、天晴、今日可出行由雖有存事、心神猶不似例、仍

返遣僮僕等了、猶依有風疑、申時計沐浴、其後無別事、

自殿以景親有仰事等、沐浴之間不能相逢、伊豫少將消

息之次示云、去二日或次將着縫腋出仕、去年佛名夜或

建久九年 正月

五十

殿上將帶劔取笏參入、有如此事等云々、不知其人、又有魚袋付左方出仕之人云々、心神今夜無別事、

五日、天晴、雪飛、入夜爲方違行坊門、

六日、天晴、曉鐘之後飯、巳時計開書到來、宮侍所司親

康預爵、無慙之世也、兩宮之侍甚多、從一位藤兼雅、從

二位同兼良、正四位下源顯兼、殿宮門院 當年給平業兼、宣陽門院 當年給

從四位上藤能成、策管原長守、同、同在高、同、丹波有成、

和氣貞經、和氣時成、七條院御 從四位下 大正院御 從四位下從四位下大江匡範、策、藤

有能、正五位下賀茂在親、父在宣御 從五位上從五位上藤有通、從下

同雅經、同、一安部有貞、清原忠業、平經高、後白河院永 安四年御給源

光輔、御新用 途切源仲章、策、藤公茂、四條院當 年給同朝基、朝隆卿久安五 年給

中同親定、七條院 當年給同帥親、從五位下資賴、寬和 御給大江清貞、

入內、藤實隆、藏人、藏範資、式部、大江景宣、民部、中原元貞、外

記、三善仲康、史、源兼衡、氏、藤盛兼、同、大江國輔、皇太宮當 年給

藤資季、一品內親 當年給平仲忠、式子內親 當年給藤範經、範子內親 當年給同定實

前女御 當年給中原友景、內記、藤賴平、大、大中臣信宣、諸司、中務 當年給中原

基光、同、圖 當年給平康房、同、諸 當年給藤光經、同、建 當年給宮道盛式、同、大 當年給大中

臣廣綱、同、本 工源重久、同、典 膳藤親實、同、主水 權祐藤忠業、同、左 京進藤致

忠、左 近大江忠直、右 近藤親康、外衛、左 兵衛中原景國、同、右 兵衛大江以

忠、同、右 兵衛藤成資、同、右 兵衛平永康、同、左 兵衛藤爲輔、同、右 兵衛宮道式俊、

同、右 兵衛藤光清、同、左 兵衛藤保高、同、右 兵衛藤倫房、同、左 兵衛藤盛業、同、左 兵衛

源光俊、同、建久九年正月五日、

七日、天晴、青侍等說云、可有讓位云々、辰時許或人告

云、此條實說也、來九日行幸大炊殿、十三日可有傳國

云々、以兼定去五日被申渡御之由、於齋院仍又渡給吉

田云々、重事出於卒爾如反掌、迷是非之外無他歟、早

旦參角殿、午時計退下、未時着關腋出門、先參宮、相次

參大炊御門殿、出納等且參入、令敷陣座板敷等、明日

可渡御吉田、依爲大伯方曉鐘以後可渡御云々、次參

內大臣殿、刑部、與州等參會、大府卿參入、東帶付 魚袋見參

之後、日沒之程參內、昇下侍、雅親、教成等朝臣在此

邊、小時入內侍所邊見物、此間諸司付御弓奏之間也、

秉燭以後被下々名、內辨、大宮大 納言若兀子召內豎、被下之儀

如例、了被退入、于此間進出引陣、引尻 取袴雅親少將相隨、教

成追來、內侍不隨之前也、猶以陣物立梓、右仗成定、伊輔、雅行、高通歟、

不隨、通具朝臣惣六人引之、今一人不隨見、內辨立兀子進軒廊之

後、更還立被練、須家禮、然而依無其命如此、於左仗南頭、西面一揖、

向乾謝座、拜了被昇、開門闌司着之後被奏宣命、良久還

着、被下位記莒、輔代等不知東西、殊以迷惑、兵部代傳文義也、他事於此

猶不、莒乍三置式部案、兩輔代取笏立、其後兵部退下、又

無下知之人、近仗之中成定朝臣等頻口入、取兵部位記

莒令置其案、式部又令取分、兩輔代始終將立案後不退

者、次召舍人、少納言宗信替參入、內辨宣云、ト子メ

七、稱唯退出、外辨參入仗立、內辨則座訖還之間、右、成定、

通具、列立謝座謝酒、此間雅行予二人、數成雅親立去了、右、雅行、

內辨忽下被立軒廊、令召外記、外記參入歟、此間叙列

早可引之由、頻雖被催不見、大略無參入人歟、適出來

自立明後出舞臺下、或直拜、狼藉甚、主殿官人等加制止

不令拜、內辨還昇被召立宣命使之間、予退人直退出、

今夜左將皆引尻、右將皆懸尻、後聞、今夜奉行職事狂

二省之時コソ下名ハ書ベケレ、左少辨加教訓取之了、
又云、宣命ハ祿時コソ奏禮云々、不足言、參入條院、謁
女房之間、兵衛親康自九條殿持參御書、又大事出來之
由、女房密々示之、但大臣大將事云々、是存內也、不及
左右、一度事不切送年月次第增加奇特也、予身所帶可
在今度歟、相待之程只出仕耳、飯家之後又參角殿、臨
曉退下、今日云々說、傳國十一日云々、儲君必定能圓
孫一宮也、可爲源大納言外孫云々、依帝王祖彌可任大
臣云々、賴實卿又爲令去大將任之、或云、右府可勝太
政大臣、事次可有立坊、七條院之內如滅火云々、通親
卿結構之外、帝王以下不可有他人歟、關白之子又爲執
行孫、執行放光之最中也、伊時之幸尤其理也、可貴、
八日、天晴、朝行水、念誦之後參角殿、即又參一條殿、
南御門等悉被鏢、自室町面參入、人々車不可進立之由
有仰、依不令出給不見參、未時計退出、參大炊殿、明曉
可出御、常以追從不便、定經宰相乘毛車參云々、不相
逢、任大將兼宣旨之所有喚參入云々、女房之說也、予

建久九年 正月

五十二

四五二

即飯家、又參角殿、殿下白地渡御御堂、御供之後參八條殿、謁女房退出、二位中將今夜拜賀被參、前驅六人、輕通少將相從乘車、

今日云々說、明夕行幸大炊殿、十一日曉行幸大內、其

日讓位、其夜御幸大炊殿、廿一日初度御幸、七條院、三條院（殿九）、

儲君第一皇子、高倉帝一女坊門院範子內親王必定可有立后、爲同典云々、諸事

近例尤可被追、珍重々々、皇后物吉不及左右、又云、可

有任大臣、或云、內大臣殿可被任太政大臣、爲絕望云

云、希望之條不可依其歟、忠仁公大政大臣之後、攝政

寧有障乎、人口狂亂、皆以虛言歟、女院御方之人云事、ヤカ

中間又有小口舌、兵衛尉以忠預爵之間、長經朝臣依

私構、自御所々給折紙ヲ書改、除以忠入光時、送頭中

將許、此故以忠預爵之由、太理以孝等依構讒言、長經

聞此事、驚騷周章、儘可被尋問之由申之、女院中本自無

成敗之間、只僻事之由聞食直之上無沙汰、長經猶憤

之、猶無沙汰、可向太理之由結構云々、奇特沙汰也、

（願注）

謝座了、酒正趨出持空盞授將軍、先跪其前、後將軍

相跪、置笏取盞、酒正持盤還去一許丈之間、將軍持盃乍居一拜立、次一同再拜了立、酒正取盤如初寄、相跪置盃、取笏持去之後一拜、立了又揖離列、

九日、雨降如注、夕休止、早旦參角殿、退下之後甚雨、

乘燭以後參內、閑殿、巡方帶、行幸料也、下車之間、戶部又下車、仍

下、置路禮節立留也、依急事急罷融也、入左衛門陣、先

見參中門邊、此間府吉上來云、明後日可參行啓、予云、

行啓トハ何事ゾ、答云、東宮行啓也、問云、東宮トハ誰

人御事乎、答云、明日可立給也、予云、然者東宮行啓近

衛司不參歟、兵衛司可參歟、從問外記可來、抑又有故

障、奔飯間外記飯來云、申僻事了、全無東宮之儀、明後

日御讓位可參者、即示承了由、但問其所、又奔飯々來

云、大炊殿也者、次昇下侍、今夜無地下將、人々五六人

在此所、公國中將參入、此人自公經補頭永不出仕、而今度參入、依不密常有出仕歟由問之、答云、節分行

幸所供奉也、其後今夜參入也者、且如此事行事乎、依府以下有議定事云々、不知其事、良久太理著陣行召

仰、予此間出殿上口向中門、帶弓箭着靴了、即出御南

殿、右將渡來、左將不來、予云、上臚參濟々也、不被來問、爲之如何、成定中將云、其條全不可被知、只見御座許也、先是予召寄御與、長令取炬火、即相共見之了、公卿列立、右大將中

納言隆房、通資、忠經、二位二人、實教、兼其、參議公繼、實明、

三位成經、雅隆、公房、信清、閑司奏了、少納言宗信鈴

奏了、進御與之間、實宣少將來加、宗國、公國、教成竟

奔出來、甚見苦、寄御與、公卿將相副如例、兼良卿開籠

役、劔聖、震儀御々與、關白殿、候給、右大將以下發警蹕音、出御

之儀如例、關白殿立給無名門代前、予猶出乘馬先陣供

奉、入御大炊殿、如例下御了、未撤御與之間、少納言宗

信趨出、人々相示迫入了、次昇御與、宗國以下相從退

出、公國問名謁、路次深泥、予直退出參八條殿、子後退

下、今夜宗國少將隨身着紅梅袴、人以屬目、他人皆染

分也、

十日、已後甚雨、已時計參角殿、相次參一條殿、刑部以

下少々參會、談世間事等、實否難辨、此殿閑門、車等違

可立之由有仰、今日可有九條殿御參、可御共由有仰、

仍日臚臨昏止了、早可退出由被仰、昏黑退出、參八條殿退下、八條院今日令參日吉給云々、即還御云々、世間事等虛言相交、雖多風聞不遑記、

十一日、天晴、參角殿退下、未時計出門、經服袍、丸柄帶、時給細大刀、腰相具、

老驛弓盛、隨身、先向押小路京極中宮御匣殿里亭、其母儀有令若二藍袴、

爲相訪也、此御匣殿祖母三品養子、最愛之人也、以女房度々被示

頗以有其緣之故、宮中第一上臚也、乃所參向也、本意之由、此間以忠弘令參內、示送大外記事、警固召

仰左將誰人乎、他人參者引陣刻退可參入、無其人者可

早參也者、又令見右府參、還來云、外記返事云、警固

可有御勤仕也、早可令參給、右府又參入訖云々、聞此

事參內、大炊御門、京極方、昇下侍暫坐、人々漸參集、家經中將、卷櫻、

公國中將、垂櫻、等在此邊、中人々去冬以後無其證、先是經通

少將參入、垂櫻、參行啓之由稱之、逐電退出、第一皇子

今日自博陸亭渡御閑院、殿上人前駐十二人、公卿少々

扈從云々、其人數未聞、成定中將、保家少將、公信少

將等候此內裏、又右少將被參、藏人信綱來觸五條少將

云、可立警固給、左頭中將命也、被答云、兄弟兩人頗似

延久九年 正月

五十四

四五四

無他人歟、信綱云、中持明院少將之處、卷纓了有煩之
由被申者、猶可觸他人之由被示了、又宗國少將垂櫻參
入、漸及昏上卿被行固關、藏人大進兼左少將右中辨
等相共同見、少納言隆經、堀河中務少輔時賢、大內記
宗業等奉仕此事、稱人狼藉、脚氣難堪之間、又昇下侍、
先是清長來云、可供奉內侍所、予云、於勤仕者不及申
故障、但他將已多、地下物頗無便宜歟、相計被催可宜
歟、將可隨御定、此事內心所案甚不可然、爲次將今日
出仕、雖不可嫌其役、非無他人、不快不吉、疎遠地下之
物何可供奉吉事初度事乎、又神鏡近邊甚可有恐、依思
此事示此由、清長不得心、偏存公事對捍之由、有忿怒
之氣、尾籠之至也、予不答、左右可被相計由申了、其上
有催者謹領狀、但猶經奏聞一定可候也者、又還來云、
早奏聞了、早可被供奉、申承了由、實是虛言也、更不經
奏聞、固關遲々之間、及乘燭了、此間實宣少將參入云、
只今行啓了、前伊輔驛（刑部三位）、高通、同賀、通具、（本所人）、
實宣、（時美男）、經通、（同前）、光親、（近日物吉）、
了、八人也、冠從通親忠經卿御車、殿下御車云々、此間

宗國語云、內侍所已有改定、我被召定了、無術事也、予
示神妙由了、是誠勅定歟、近日重事、予不可供奉事也、
此間固關了由聞之、仍又向陣方、上卿召內豎令召將佐、
予端笏進立上卿前、左衛門佐隆仲、右衛門權佐宗方相
從、（偏如繁）上卿云、今三府ハ如何、早可催具、外記頻雖
尋催更不見來、先是次將皆悉卷纓老懸了、無來寄人、
外記等尋求召出、右將監左右兵衛尉列立了、上卿端笏
南向ニ坐成天被問、タゾ、予稱（微音殊不）ヒダンノチカイ
マモリノツカサノカンノスナイスケ藤原ト、隆仲
堅固不開、右ノユゲ井ノツカサノカンノスケ宗方粗
開程也、上卿被仰警固之由、慥不開、予稱唯右廻退出、
即卷纓老懸帶弓箭之間、次將等競出中門邊之由聞之、
仍又行向、下人狼藉、事猶遲々、及良久右府被奏宣命
返給、被立中門東、此間將猶不出、雖奇思隨上臈、內辨
云、イカニ陣ヲバヒカ天ニラミアハシタタルゾ、聞
此音各出陣東西、左、中將公國朝臣、若桃家經朝臣、宗
國朝臣、少將教成朝臣、桃雅親朝臣、桃實宣朝臣、桃右、成

中將

定朝臣、伊輔朝臣、淺原雅行朝臣、成家朝臣、保家朝臣、高通朝臣、淺原、公信朝臣、經通朝臣、淺原、有雅、橫弓、出立定後予立弓、他人々群列之後立弓、各立了間家經退入、依內辨歟、內辨被昇了開門、開司召舍人、少納言宗信參入、仰云、トメセ、宗信退出、外辨參列、大納言實宗、隆忠、賴實、平胡錄、忠良、中納言經房、親宗、通資、胡平忠經、光雅、二位實教、兼良、參議公繼、兼忠、實明、兼宗、親能卿參云々、不見、三位公房、信清、次將退々各立入了、予同退入、太理放列參進、宣命使歟、此間予出中門直退出、不知其後事、粗聞事等、劍聖役、頭公經朝臣、成定朝臣云々、家經中將云、昨日可劔聖役由有催、即領狀、今日改定他人可奉仕云云、神妙事也、賢所、予兄弟蒙寵、但尾籠奉行人也、宗國有雅點定云々、又云、內殿上人廿一人清撰云々、又云、院殿上人不可被渡、今度更清撰、本人多可被除云々、內藏人重輔、留巡尉有定經卿子、範季三位子、範光子、長房子被定、而今日範光之子頓病、在近邊宿所殊及死門、仍令出其所、俄經仲子加其所云々、又說云、保家院內共不可昇云々、定虛言歟、

無双近習也、如何々々、世上事難盡筆端、劍聖之路、大炊御門西行、東門出御、東洞院南、二條西云々、卿相已下辨官群官皆可相隨云々、於予者韻外今日出仕、猶狂氣也、依有見物之志遂以狂出、清長不得心、猶可謂奇特、職事皆渡云々、今日二條內裏上棟之間、鬪亂及傷或及死門、或昇出之間、劍聖之料作路血先流云々、又作路之間、鬪亂及傷云々、又圓勝寺修正猿樂寺鬪諍、又法成寺咒師之中鬪諍云々、吉事之始可見後際、皇子無親王宣旨、職事仰上卿云、以為仁皇子為皇太子、即可有讓位云々、是光仁之例云々、弓削法皇誰人乎、如何如何、此時光範卿撰進云々、為人之音、如何々々、非為身事歟、尤可忌歟、其反音又院音也、尤可憚歟、及傷事三人被疵一人死了云々、口匠緣者下人等叫喚競爭、如軍陣作時聲云々、

十二日、終日陰、早旦參上退下、酉時許業清來、相乘參一條殿、季經卿參會不可仕云々、無談事、戌時計御共又參角殿、今夜御宿、即退下、世間事不聞及、

建久九年 正月

五十五

延久九年 正月

五十六

十三日、天晴、早旦參上退下、靜開梨白地出京來、今日
念誦、小兒女房等物詣於白川禮百拜、夕飯、參大臣殿、
御共參一條殿、深更退出、參八條殿、即退下、人云、法
成寺修正初夜、導師落自禮盤頓死云々、不知實否、又
云、殿上始之後、主殿司一人頓死昇出云々、定虛言歟、
武者所^取一人入來語云、昨今御所無別事、人々猶冠
車、又未寄門邊云々、上棟所乃傷物被追放了、^{依爲吉事}
^{之沙汰云々}、件所馬同被疵斃了、仍同昇出云々、內殿上
人、^{次第}成定、家俊、伊輔、家經、隆衡、資實、保家、教成、
雅親、公信、實宣、經通、範光、長房、光親、宗方、隆清、
道經、通光、基忠、兼基、賴平、藏人頭公經、通宗、五位
藏人兼定、清長、長兼、六位重輔、爲定、範茂、^{範季}範基、
^{範光}忠成、^{長房}範基依頓病不出仕、仍忠成超了云々、非藏
人高階重經、^{經仲子、後開下、腦子皆補職事、上}平知國、^{親國}所
衆中原行盛、中原宗定、大江宗親、出納佐伯久親、中原
貞重、紀清景、瀧口藤盛景、藤親明、惟宗貞政、院殿上
人^{顯出、今度四位}保盛、經仲、^{藏頭}成定、家俊、親經、^{大辨}伊輔、
^{初有此例}

公經、家經、通宗、保家、高通、信雅、宗隆、教成、隆衡、
資實、公定、公信、通具、實宣、經通、五位範光、兼定、親
國、宗長、知光、長房、清長、長兼、光親、親長、伊時、有
通、隆清、通光、資經、道經、隆仲、有雅、忠信、兼基、雅
經、師親、通方、別當通親、忠經、信清、公經、判官代長
房、藤親綱、藤信綱、同忠綱、源保清、藏人康業、源仲
家、同家長、橘以忠、非藏人重輔、源光定、主典代左衛
門尉中原政經、^{年預}小志安倍資兼、
十四日、天晴、風寒雪飛、今日不出行、猷開梨來、人云、
今年大元法御衣、更依無先例獻舊主云々、未曾有事
也、
十五日、晴、雪降、午時計參吉田殿、申時計退出飯家、
日入了、入夜參八條殿、^{依一品宮御}少將被參會、予云、被
除院籍之輩、不蒙恩免仰以前出仕如何、被答云、此條
不存知勘當之儀、仍所出仕也、予所案雖非勘當已被除
其籍、云耻云恐、今朝出仕無謂歟、內々申入、於出仕者
無憚之由、被仰者非此限、但此上不及口入、小時雅行

中將參入、垂綬、已以兩人出仕、其上不及沙汰歟、中將即爲陪膳、予兄弟、親國、宗方參等役送了、非人雖不可參內猶卷纓、依冥加之恐也、世上之儀式更以難計、不足言歟、人云、近日可有除目云々、所帶之有無兼難存、御即位三月三日云々、裝束等事雖可調儲、世間之儀尤難計、恐惶之外無他事耳、

十六日、陰、月蝕也、晝參角殿、未時計本陣吉上來云、

明日可參射禮、他將達不參歟由問之、各所勞故障無參人云々、申可參由了、近日出仕雖似物狂、非禁中儀式、

如此府役隨堪可勤仕耳、女房說云、公清訴、隆衡給七條院御給

超越申八條院御給、件御給雅親給了、仍召返時通所給

未給賜公消了、高通又訴、下臈超越申女院並宮御給云

云、予近日之躰更以酌外、雖然於中宮女院御分者、給

高通之條無術由申入了、此上事只可任天運、月出之後

參八條殿、此間雲晴蝕現、宮御方藥師御念願、一品宮

藥師經御讀經、女院孔雀經御讀經、子時許復抹之後各

結願、予、宗方、兼時、清季、隆範等取方々布施退出、

十七日、天晴、午時計出門參大內、於建禮門帳邊、相待上卿及數刻、外記纔參入、雖問諸司參否稱不知由、官堂等又云、今日御即位定訖後、上卿冷泉中納言可被參云々、以人欲令伺內裏之儀之間、中御門邊追前、予即帶劔插矢取弓ギ、如例、但從禮、今日不相具時精弓、中合坊門大納言也、上卿參入、於帳前取弓矢被着南一座、將被參者且有着座之由被示、仍予即着座、公卿末南座北面也、暫談話、召召使被問諸司具否、申云、新宰相、左少辨、源少納言所被參也、右將不參云々、近日有御即位定并擬侍從等定、仍右府被參陣云々、上卿且可行之由被示、即居粉熟、次居飯、撤ハツタウ、次勸盃、上卿取之被傳擬、予取之置机邊、次令射、射手等相雙出來、如形射了、予即起座退、次上卿又起座被退出了、此間少納言重定出來、予入左衛門陣邊、脫束帶着狩衣參一條殿、此間藏人重輔不慮相違、着行事所歟、尤無骨不及透隱合眼了、細大刀返送三條了、路次所借申也、參大臣殿、有家朝臣伺候、見參之間入夜退出、依窮屈直飯家、二位中將被參、十八日、天晴、早旦依召參上、以女房有被仰事等、一昨

萬久九年 正月

五十八

日子有申入子細、官途事絕望了、御給等又無所望、但至子下、簡近衛司於女院中宮御給者、人之所見耻思給旨子細也、所申尤有其理、以事次可申兩方由有仰事、又事次有被仰旨等、又申入了、申旨等殊有御感言答云々、於超越者全不可痛、於所望者又依無其緣、更不可申、但無解官者、本官出仕全不可懈怠、人超越翌日即可出現、此上依無申入旨、於被解却者又不可痛之由也、此條殊有御甘心、有御興言等、即退下、念誦之後、申時計歸參、昏御共參八條殿、亥時計還御、予退出、

十九日、陰、入夜雨降、終夜如注、公清朝臣所給女院未給、依御口入變改、不便不當、汝訴申歟、絕官途之望由、已以事舊了、今訴此事、西御方母儀尼公定成遣恨歟、此上又以他方給爵被叙者、還可爲耻歟由、女房有其告、予陳所存了、他方超越并公清朝臣昇進等、一切不可痛、不可耻、如本自申女院中宮兩方事、所痛思給也、次又於公清者、殊不結意趣、但隆衡超越馬頭非公達、猶公清痛之、況公清超越高通爭不訴乎、高通ハ近日吉人也、公

清ハ殊不然、公清持種子者、高通成就無賴、仍以女院御結構爲兩將被越之條、(寧)定爲面目乎、爭不訴申乎由返答了、甚無益事也、午時計人々々參由聞之、仍着布衣參御堂、例講訖取布施、成定中將、被聽兩昇殿、近日吉事之身、今日參入難有事也、有家朝臣、盛房、有經、所々無參者、爲所見才學所參歟、諸大夫兩三取之了後、中將暫問談事等、一白馬節會日、始聞任大將事、依之其夜忿參一條殿、伴日大臣未下下名以前、職事清長以藏人催陣可引由、伊輔、高通、經通等、周章欲着靴、下官聊相示、仍各逗留之間、清長又來云、早可被引陣、下官答云、於陣事者如形所存知也、所詮不可及職事懈怠、不可被知、忽腹立云、有出御時コソ引陣遲速ハ有禮於無出御者早可被引也、又答云、於此御時者御忌月無出御、是每年之儀也、更不可寄出御有無、御元服年許コソ出御ハ有シカ、其時又或奉行職事早可引陣由譴責、被下下名之後可引由答申之間、職事怒奏聞、上仰云、將所申有理、仍暫可被候其邊由示之、其間居所不及召籠、いづこにゐても刻限に引込はさてあ

りなんと申了、此條全非新儀、不可被知、清長無所答
逃去了、不足言、被御元服年、職事宗隆所行如此、其後
坊家奏取繼將事思忘不汰沙、職事逐電、大外記於階下
催下官、其時左中將也答云、打任天ハ右將常勤仕之、依有便宜也
可隨催、即勤仕其役了、忠季中將問云、奏取繼無催人
如何、答云、已勤了、忠季歎息云、依思此事所留候也、
而不相觸長祇候、甚無益、退出許也者、今年白馬節會
無馬頭沙汰、但雅親、經通被召定由粗聞之、雅親俄問
其儀、答云、久廢忘一切不覺悟、但兩說候歟、尤可隨御
存知旨、淺履取笏人も候めり、若靴取袴之人も候め
り、於渡儀者全無樣歟、嚴命如斯、忽成不審之條如何、
但臨期無催、沙汰人兩將立切御罷下不知其事、白馬渡
了後退出云々、一今度御讓位日之儀事、昇殿事更不存
知、當日以女房申入之處、被申合殿下可定由被仰、而
臨期忽加清撰、自愛無極、劔璽役事、公經取璽、下官取
劔、先於中門邊、弓ヲ鳴隨身、空手進寄取之云々、後日右大將問云、府次第歟、位大猶荷主御前也、只依爲所進寄取之上、不及相論取了
也、下南階出東門路頭供奉、大略同行幸歟、右大將被

供奉近邊、殿下御御後、公房卿ハ員平胡録在公卿列、
公繼卿眞壹列近衛陣、件日宗方着縫腋承警固、召仰之
後着改闕腋供奉、光親同着縫腋勤仕、皇子前驅着闕腋
供奉、此事兩佐作法一同云々、經大炊御門東洞院二條
入左衛門陣昇南殿、有蓮道經南階并南實子長橋持參日御
座、內侍在御座左右取之、入夜太殿了、主上不御、此次將退出之後、主上出御、被仰藏人等事歟此間民部卿、平
中納言等小々在中門邊、難此道云々、其難後日有事
間、僻難頗卷舌云々、仁安之時同新主御閑院、偏此儀
也、其時公卿列立庭上、今度不列立、他事皆同彼儀其時賴定、
實家卿取劔璽、今度兩人自然同彼例、經家、忠雅公大
將也、大將又同路、又同前難之條不當歟如何、其後殿
上始列拜等可有歟由、人々雖不審遂以無之、人々自然
分散了、殿下於御直廬覽吉書、又御院參了云々、其間宗
隆於大盤所前不昇殿之由放音忿怒、無成敗之人、不奏
院、不申殿下、只放大音聲述懷、大略臨曉退出云々、
十四日依催參法勝寺、公卿上卿一人、實宗、殿上人無他
人、預法師相共取大導師布施退出了、一皇子渡御閑院

延久九年 正月

六十

之間、前駟殿上人十二人被催、四人申障、八人參云々、御車殿御車被用何乎山、雖不審不聞、問木工之處、不隨答、半部カト問、慙雖答其由、慙不見氣色也云々、御即位日甲事、所持物ハ大宮大納言甲ヲ本ニテ所新造也、今度殊不損、其甲ハ偏腹卷之舛也、近代之甲草摺腋楯などしたるは、今すこしやうともありて宜見歟、先年顯家朝臣ハ以錦タ、ミテヲトス、忠季朝臣ハ紅紫ノ勾打物ヲタ、ミテヲトス、美麗ニ見キ、打任天ハ以組ヲトス、或金也、或頸紙也、押錦、又唐のうすやうにてきらめきたる物ヲ用タル宜也、讓位夜次將、伊輔、高通、經通之外皆着靴、成定於任大臣之時着着淺履、今度着靴、右大將命也者、昏中將退出入、予退出、奈良僧都御房參入給、今日解陣丁云々、高通少將參由聞之、深更兼親朝臣告送云、除目、美濃守源有雅、左近大將家實、中將雅行、後關、爲年預將曹下野武安、府生忠秋、右近將曹秦兼澄、兵衛尉成重、瀬口、のき秀保、同、檢非違使公澄、無左右、被渡云々、但明後日御隨身將曹近武、救助、

此二人今度許勤仕、近武如本任將監、救助又還本府、相共參御所邊、可知行召繼、於後々者新補將曹、武安、二人兼澄、可爲御隨身云々、府生、兼直、依武、本兼澄番長、依櫛、近春、近補番長、近武、連源、大納言、能盛、源、下膳、助信、武景、武安子、久清腹立、遠付、高、能、仰、申、入、勅、許、云々、殿下膳、兼平子云々、

廿日、終夜今朝甚雨如注、已後雨止、天猶陰、參吉田殿、即飯家、依氣不快不參他所、廿一日、天陰、今日太上天皇初度御幸云々、路大炊御門西行、東洞院南行、三條西行、可入御三條殿、鳥丸東門云云、路不幾稠人之所無從者、有怖畏仍不見物、一昨日任大將之儀問公明少將、未練之人所見不幾、不參內直向饗所云々、出仕次將三位中將公房、中將雅行、權少將宗國、雅親、實宣、公明、公卿大納言實宗、忠良、中納言經房、親宗、隆房、通資、參議公繼、兼忠、定經着座、殿上人家俊朝臣、資實朝臣、兼定等云々、勸盃五献云云、未時計參八條殿、今日布衣、雖未被仰布衣、於今着冠、又還可爲嗚呼、又被仰布衣之由、之條似疑院中、只漸自然恩免何事有乎山、越中侍從參、衣冠、相共下格子丁退、一日有御沙汰、故着之、

下、入夜參角殿、大臣殿御北政所、今夜御八條殿、人々
參云々、太相國事猶似定訖云々、不可歎、何事有乎、

廿二日、天晴、參上、與州參會、退下沐浴、

廿三日、天晴、參上、白河法印御房參給、午時退下、知

範語云、一昨日見物供奉之人、六位四人、藏人二人、

中宗、康榮、判官代二人、忠綱、仲殿上人三十人計、保盛朝臣、成

定朝臣、伊輔朝臣、經仲朝臣、公國朝臣、公經朝臣、通

宗朝臣、資實朝臣、高通朝臣、保家朝臣、教成朝臣、通

具朝臣、實宣朝臣、經通朝臣、隆衡朝臣、範光、兼定、長

房、有通、知光、有雅、師親、隆清、隆仲、光親、忠信、伊

時、通光、公卿廿人、藤大納言、隆右大將源大納言、御後高

倉中納言、泰冷泉中納言、隆平中納言、親別當堀川中納

言、光雅左大將花山中納言、忠經右衛門督、二位中將、中

宮權大夫、藤宰相、二位中將、六條三位、經家持明院三

位、基宗三位侍從、親能右兵衛督、新宰相定經、攝政殿

御車扈從、新大將番長、左府生武守更爲番長云々、其

替右府生師武、渡左、武宗武安、補右府生云々、太上天皇御

直衣、二重織物、御指貫、紅打御用衣、入夜行坊門、爲方違也、

廿四日、天晴、開曉鐘飯九條、昨今依或人結緣之勸、奉

書涅槃經一卷、巳時計終功、或人云、美乃多藝庄顛倒

云々、可以目、未時計參角殿、相次參八條殿、女房密談

云、公清未給不給之間、母儀尼大納言局忿怒、如此小

事猶不許、西御方不可伺候給、於今者永不可參給之由

稱之、奉取範了云々、今度事不過、又似過急、爲人極無

益事也、但力不及事歟、御匣殿母堂猶難存云々、又坊

門大納言所勞大事也、仍女房大宮殿又可退出、兩方女

房弼無伺候之人云々、申時計退出之後權京兆來、清談

移口、入夜退飯、被催大將代云々、

廿五日、天晴、今日自殿給資房卿記七卷、萬壽長元長曆元年也、此

記極以難有、人以秘之、年來不借得、今給之、殊以握

瓶、秉燭以後御共參八條殿、深更還御、今日大外記良

業參入語云、明日禮服御覽也、又長俊等語云、立后範子

王、猶一定也、以天仁之例御即位宣命可被載之、來月三

日御幸般富門院、始布衣、晴、保元先御幸上西門、院、次御幸美福門院、准彼例、可有御一宿、

建久九年 正月

六十一

建久九年 正月

六十二

本所結構非一、其營々云々、雜遊具等様々被儲云々、
二月八日、八幡、十四日、賀茂、廿日比、日吉、連々晴嚴重嚴
重、又云、廿一日御幸、左大將殿前駐信廣欲恐參下馬
所之間、奔馳雜人之中、範光共侍引其從者足令顛倒、
信廣依此事、以笏打侍手奔去了、依此事侍從者等奪取
傍外前駐季佐笏、并取袍ハタ袖、於今者殿中無言物
也、極輕々歎、只非一身之不觉、執政之耻也、手中笏何
及被奪乎、不足言、又番長依繼以弓打落居飼衣帽子、
居飼取依次從者衣帽子、檢非違使等欲捕之間、狼藉騷
動、惣見物車棧敷之間殘害損物甚多云々、又云、二條
造營北對十三間顛倒云々、權大進兼時云、昨日頭中將
奉行、中宮一品宮各可令獻瀧口一人給由、可申沙汰之
由、示送宗賴長房二人許云々、宗賴卿計攝政殿御消
息、長房攝政殿御氣色云々書云々、
廿六日、陰、未後雨降、昏後風雨、不出門向舊記、及晚
景無人音信、病氣又不快、徒然更難消懷舊之思、思外
無他唱、然而嘆耳、

廿七日、通夜雨如注、朝後休、巳時晴、今日左司即被引
送黃牛一頭、尋常牛也、自去年之冬惣不持牛、東西雖
相尋更無芳心之人之處、殊以悅喜、昏參八條殿、越中
侍從相具小男退出、定忠入道之子、九歲云々、予參入下格子盛房、之
後、向坊門大納言亭、又喚出侍從違事付公事、度々向
此人許、又頗有芳心、依聞重病故所詣也、殊爲本意之
由以侍從被命、自十二月廿二日病惱、數灸之後聊雖有
苦痛之減、本休寸白、不食無力一切不直、遂日羸弱云々、雖
非指其家跡、於末代已有識之人也、宗能內府之說多受
傳之、今又如之、尤可惜之、即退飯、飯參宮、又退下、下
人云、今日太上皇密々乘御女車御最勝光院、不限此一
所、近日京中並邊地日夜御歷覽、尤可有用意云々、
廿八日、天晴、除目之始云々、書舊記、及晚景文義相具
小童來、話云、昨日俄有御幸於法住寺殿、通親高能卿
乘車扈從、女房一人參云々、彼御所未臨乎、昨日欠日
也、惣每日每夜有此儀、被馳牛馬云々、吉上來云、明日
可參大將殿着陣、有所勞若無人數、殊有可參仰者、可

扶參之由申了、推參又無益之故也、着陣將本只予一身也、依此事人々被合着陣歟、

廿九日、自曉雨降、終日陰、并舊記不知他事、今日事無音尤爲吉、

卅日、自夜雨降、時々雖晴遂陰、入夜大雨如注、除目入眼日也、健御前參詣日吉、又女房令參彼堂、翌日見聞書、

神祇權大副大中臣爲定 同定輔 權少副隆宗 同

知雅 權少祐齋部孝光 權大納言藤家實兼 權中

納言藤公繼 參議藤公經兼 源通宗兼 少外記清

原信重 權少外記中原尹光 中務丞中原盛忠 少

錄平有俊 侍從藤基良 少內記惟宗以忠 皇太后

宮權大屬安倍久景 少屬中原俊兼 縫殿允大江清

定 陰陽大允安倍有貞 式部大丞源仲家 丞藤廣

光 卜部兼經 少錄中原國貞 算博士三善長衡

諸陵助藤友家 民部權少輔藤家信 大丞紀景忠

少丞藤經光 主計允中原重宣 主稅允大江家元

兵部權大輔藤重邦 丞源清家 少錄平成隆 刑部

丞源通澄 平範遠 大藏丞惟宗忠成 宮內丞藤行

盛 木口口藤景保 主殿頭中原師親兼 允中原信

良 正親正顯經王 采女祐中原成康 主水佐藤佐

良 藤成俊 彈正少弼源具康 少忠安部資兼 東

市權佐藤守光 修理權亮藤遠賢 勘解由次官藤朝

基 山城守三善信成 伊賀守藤定親 伊世權守清

良業 上總守藤家隆 下總介藤成倫 常陸守藤師

親 下野守藤親房 加賀介賀茂宣平 越中守藤公

長 越後介菅原在茂 丹波守藤信雅 權介賀茂在

宣 但馬權介中原師親兼 播磨權介藤道經兼 備

中權守源宗兼 介藤教成 安木權守藤範資 周防

權守大江景宣 長門介中原助正 阿波守藤忠清

權守源重定 价藤國道兼 讃岐權守藤宗賴 權介

源賴家 太宰大貳藤季能 筑後守三善惟長 豐後

權介三善仲康 肥前權介安倍吉弘 肥後權守三善

宗仲 介中原定滿 權介中原弘貞 日向守高階業

建久九年 二月

六十四

國 左近少將藤隆清 將監大江泰重 右近權少將
藤資家 將監源親盛 將曹大神式賢 左衛門尉惟
宗忠久 右衛門佐藤基清 少尉中原有親 同遠
貞 左兵衛佐藤家衡 尉平重宗 藤家景 少志藤
盛友 右兵衛尉橘景廣 左馬允藤盛景瀧口 藤景
賴 右馬允中原宗景 少屬小野則時 兵庫允源泰
景

建久九年正月卅日

正五位下高階親家 藏人頭藤伊輔 藤宗隆

○二月

一日、天晴、送賀札新少將、資家、又以書狀訪成定中將、
伊輔朝臣越越、親
經門龍居云々、入夜向新中納言中宮權大夫六
條堀河亭、許、被相逢、清
談之後退出、參入條殿、亥時計飯廬、

二日、天晴、申時計以後心神忽遠亂俄病惱、終夜辛苦、
三日、天晴、心神猶惱、今日春日祭御禊、中宮、陪膳日來
領狀、頓病之由觸奉行權大進宗方許了、今日上皇御幸
西郊女院云々、依之彌無參入之人歟、所勞尤爲歎、晚

頭自權大進兼時、示送云、宗方雖相催人々、已散用盡之
由示送之、爲之如何者、雖所勞無術可扶參山答了、但
與州此間又送使者、所勞猶無術由示之、返事云、密々
借用冠已下早可勤仕也者、重答感悅由了、即取其袍等
送之、此人布衣參
御堂云々、先是未時計車送宮女房許、密々爲見物
也、入夜雜色等還來云、日入之程御幸了、殿上人衣冠
束帶相交、非布衣之
儀云々、廿三人供奉、其外六位二
人云々、中將家經一人、
依何面目
供奉乎、近將高通、通具、教成、保家、實宣、知光、有雅、
保家、實宣相具布衣隨身云々、辨官資實、長房、職事兼
定、侍從雅經、通光、
伊時、兩廷尉、自餘云々、公卿十三人、權源大
納言、中納言親宗、通資、忠經、宰相公經、通宗、定經、
公經相具布衣
隨人四人、二位實教、三位經家、公房、信清云々、御車
庇、御直
衣、公澄在御後、北面十二人供奉、此間昏黑云々、
見物之輩車無其隙云々、
四日、陰、小雨時降、臨昏大雨、即雲晴西天月細、馬助
業清俄下向春日祭云々、昨日被責催之、近衛府使石少
將經通不送摺袴、稱觸穢之由、依
心中冷然也、

五日、西風扇、春天晴、風病猶不快、今日沐浴、殿下御參八條殿云々、依所勢不參、取寄堀河宰相中將兼紫、鎧、爲本樣也、咳病又不快、沐浴之後心神猶惱、

六日、天陰、辰後晴、心神殊惱、扶重病今日書訖舊記七卷、依宿習之催、不顧病惱終功了、世以秘之、不可外見、不可外見、

七日、天晴、先日所給記七卷一快櫃付女房返上之了、今年歡喜光院修二月可奉行之由、一昨日有太理命、雖加

院司如此事更無其命、又不所望之處今如此、又日次非惡日、事非不吉之故也、仍無左右領狀、但公卿殿上人等五位判官代定催具歟之由存之處、猶依不審、今日尋申彼卿之處、返事云、五位判官代無之、可然人々相計可被催也、平中納言可催上卿、一人參者、其外殿上人兩三可相催者、仍書御教書送平納言許、即有領狀、又時々參彼院殿上人等少々相催之、雅行朝臣、有通、行房、範宗、隆信朝臣兩息可令參由、嚴開申相示之、近日彼院中萬事不足言歟、仍不肖物忽奉行耳、彌無領狀之人歟、咳病殊無

術、心神甚惱、

八日、朝天晴、俄陰小雪降、即又天晴、雪猶飛、或人云、今夕下名云々、相公鎧返奉三條、是右羽林同爲本樣、自一日被請取云々、彼日高通少將可借用、猷閑梨來談、

九日、天晴、宿雪白、即消、昨日令甚寒、心神猶惱、終夜辛苦、下名、

中務丞源盛業 內舍人中原兼經 大江景康 藤康

隆 兵部丞藤業信 左京進大江景友 勘解由判官

楠親季 飛騨守楠惟國 大隅守藤兼範功 右近將

監藤重泰同 右衛門尉源定滿 左兵衛尉藤俊清四

時 藤範信 右兵衛尉平能清功 左馬允藤景經

讚岐守藤光俊重功

二月八日

十日、天晴、內大臣殿自一日比御北小路殿云々、土御門宣陽院可爲上皇御所近邊、有憚之故云々、心神猶惱、

咳病無術、

十一日、天陰晴風、入夜雨降、咳病彌增氣、明日修二

建久九年 二月

六十六

四六六

月、人々散狀等書之、示太理許、有返事、

十二日、明後雨止、風猛烈、時雨間降、咳病殊無術、酉

時計行坊門、心神惱雖進退谷、今日非惡日、又事非不

吉、依始奉行、相扶參歡喜光院、先是事始了、上卿平中

納言、五位判官代隆範、依太理示送、今朝殿上人保盛朝臣、

範宗、隆兼、親長、越中權守等參入、予日來所入後戶加其

座、中納言被招予暫談話、此次問御即位禮服、人々答

云、外辨納言、泰通、宰相、宗賴、擬侍從、宗俊朝臣、宮內卿、少

納言、隆經、典儀、重定、親王代、宰相中將兼宗、三初夜了、大

導師昇之後、納言退出、錫杖了取布施、折紙授民部少

輔了、今夜可持參由相示退出、依咳病無術也、保盛朝

臣語云、明後日御幸以御點被催云々、吾不入其內、伴

日鳥羽修二月可參之由被仰也者、

十三日、天晴、早旦公雅律師來臨、即修小佛事了、請僧

也、佛阿彌陀來經、撰寫、又如形修此持佛堂修二月、靜閑、又

有健御前佛事、同閑梨入夜女房詣彼堂、依心神猶無術不

能念咒、

十四日、天靜風靜、入夜雨降、上皇幸八幡也、是雖可見

物本自不好也、早旦飯九條、青侍等來云、即御幸了、供

奉人々大略、後聞、前齋院範子、今夜入內給云々、或云、

無釐車宣旨云々、後日前武衛注送云、於棧敷見物、辰

始時前掃御幣神馬等先行、口官二人若束先是使廳下部十

人着色々結染水干茶染小袴脛巾等三行行列、是太理供

奉之間所被召具敷、遠所之行幸之時必被召具敷、家之

例云々、次六位二人、左兵衛尉源家長、殿上人十六人、伊輔

保宗、高連、隆衡、資實、實宣、經通、知光、長房、光親、宗方、有雅、隆

仲、忠信、雅經、此外長被被催之中也、若還參敷、將又參會之後敷、

達部九人、右大將、源大納言、後孫、花山納言、別當中宮權大夫、三

皆着束帶供奉、次御隨身六人、胡衣襖袴、壺兼澄列右將

曹、是敦助衰老之間所被召替敷、今日若唐綾襖袴、以紺地次

御車、底御御車副八人着蘇芳唐紙、文尋款冬柏副轅牛盃

丸、藥王着二藍、召次持御榻、又廳官一人着束帶持御沓、置柳

御裝束、御束帶也、赤色御次御隨身下臈等步行、次後騎人、

次召次等御後官人、季國、布袴、次北面下臈、康實、公澄、成實、仲盛、

盛能、供奉如恒、次殿下、但京出前駟六人、季佐、信廣、仲基、

俊清、

檳榔毛御車也、他事如常社頭儀、午時計着御宿院、於

高良下自御車、即御登山、御步行召人々先行、先例於宿院

高良社御幣先被分奉歟、今度於御所須臾自大坂臨幸寶前御在

所、南樓四腋公卿座立樓東、殿上人座其末云々、次御奉

幣、先御拜歟、小金銀并白妙御幣等也、又有神馬一疋、俗

別當兼遠朝臣申祝、即申了給祿、大番、藏人大進長兼取

之、次召出檢校成清於西經所前給祿、大番、長房取之、次

有里神樂事、巫女三人、惣一大王出來舞、唱人五人、ハヤ不

及着座只舞、各給祿、巫女正絹、唱人廳官等取之、次有御經

供養、御經金泥法花經一御導師公胤、啓白給御布施被物一

重、公經朝臣揖裏、經仲朝臣次被行御諷誦、導師宮寺僧執行

給帝裘、長兼取次被仰勸賞、頭中將伊輔起座進右大將前

仰之、良清、成清叙法眼、宮寺勸賞直被仰、法眼事稱永元年後白

清叙之、今度事了御退下馬場殿御所、女房等多以參仕云

云、人々退下宿所、右大將直秉燭之後着御淨衣、御香、令

參若宮、御近習人々同着淨衣參仕、無指座籍、只隨便

宜群居于所々、巫女三十人計、不論老若皆悉參集於拜

殿、亂舞堪能之輩小々及白拍子、于時雨降、即入御馬

場御所、人々又退下、曉鐘程各着束帶飯參、即還御、

御束帶如初、雨脚頻降宛如注、便路令參藥師堂給、無御諷誦、每

手執炬火下山、或若自懸路若宿院之間、夜漸曙雨猶降、

如昨日於高良駕御御車、渡御鳥羽北殿、供奉人々御隨

身等明日十六日未刻可還御之由被仰、仍分散云々、

十五日、朝天晴、午後俄陰風雨猛烈、即晴、上皇昨日無

還御、御逗留久我、通觀有種々御遊等云々、八幡檢校

成清盡海內之財力云々、入御鳥羽、供奉人退出、其後

近臣等供奉入御久我云々、

十六日、天晴、咳病猶不快、

十七日、天陰晴、入夜深更降雨、咳病頗宜、昏上皇還御

云々、通親卿、直衣、殿上人五六人、布衣、供奉御車如例、

御隨身等云々、

十八日、天晴、晝風雨、夕降又晴、今日始沐浴、入夜參

御堂、

十九日、天晴、午時許參上御堂訖、懺法訖取布施、季

建久九年 二月

六十八

經、親雅卿、宗雅、成定朝臣以下諸大夫等相並十人計取之、次有例講、又取布施暫退下、又參上、日入以後取舍利講布施退下、參八條殿、秉燭以後飯廬、成定中將談事等多、本府之間事也、應頭幼稚不傳文書之間、惣不知案內、無術事、其父景弘死去之時、以文書付屬舍弟、此男其時意也、而依爲小相撲有勲被稱應頭、而不持文書、万事不覺、只來年預許示此事、仍心之所及雖下知、大覺會之時神供物事、左右近應頭進上朝前所備進也、於如然事者年預將不及御(口脫力)入、○以下此男依上仰補了、於今者召渡文書給之、可宜歟之由示付頭辨了、本府御倉去元曆之比強盜入、取雜物等之間、物具等已紛失、欲新調云々、修理用途可及七千正歟、所給只內舍人功也、件內舍人又可進二千正之由申之、自上可進三千正之由被仰、上下半籠之間、大略欲闕如、雖然猶可構濟三千正之由、昨日申之者、萬歲旗爲盜被取了、本府願與長等左近用布、右近用絹之由聞之、尋見之處是實說也云々、中少將代裝束等間應頭、不知之、構尋之處又散不審了、胡床之員數又不知、求出官廳圖計之、所令下知也、又頭中將奉行臨時祭、於代始者、擇吉日被行之由不存、一日相逢問答之處、

稱云、被擇吉日事も小々候歟之由覺悟云々、又問其由歟之由問之處、又云未問云々、已以前不知歟、又右大將云、院於坂口下御、八幡御幸 通宗取 御否伊輔不參會、仍有雅取御劔前行、如內裏之儀、此條如何云々、又出御之時被寄御車之間、取御劔之儀同不似存、是吾僻事歟、不知事也云々、又云、親經自翌日出仕、更不籠居、公國又籠居云云、去年出現、今度籠居是何故乎、尾籠之極也、又云、高通等昇殿數輩相加云々、又云、雅行朝臣補左年預、右年預敦助、彼本府裝束事、應頭相催之處、一切不可調進之由申之、先例皆調進之、兼尙、李利等調進、當時所遣也、而申云、上古、大糧米年預沙汰也、依之所勤仕也、於今者以何可勤乎者、是又非無理歟、予問云、幼主同與之時、格子令勤仕給歟、答云、此院大覺會御禊日所勤仕也、左右各最末將一人役之、左昇自東階、脫轉入其妻戶次第下之、階間一向 不右同昇西階入妻戶者、又宗雅朝臣語云、任大將夜儲將座四、依頭 狀也而公明少將稱障忽參入、人々着座之間、推而着座末、無座 無座、越上人々

雖立箸已無其餐、只受盃之流巡猶在座、宗國有所役起座之間、昇坐其座、還來復座之時、又被追下、暫奪人襲又被取返、未會有事也者、未練之人不便々々、於八條殿兼時語云、上皇今晚幸城南、御共人皆悉儲船云々、但又說云、明夕行幸可有御見物、逗留之條不定、近臣之輩只周章云々、一日於鳥羽殿先競馬、次俄鳥合、取聚近邊之、老若分方云々、老方^{大納言}負、仍爲負態渡御久我、事了又還御鳥羽、又鳥合、若方負、爲其負態今日又御幸云々、無才貫首惣不覺、鴻才貫首又現尾籠、木工勾勘不及左右、職事奉行惣暗夜歎、可悲之世也、

廿日、任大臣兼宣旨之由兼風聞、昨今又無音云々、不知有無、御堂御入講始也、二日之儀、每日四座、發願有御經供養、取二人可入、自夜前依被仰、雖上右大辨參候仍退出、參北小路殿、內大見參之後退出、入夜參內、今日大內御渡也、自今朝云々、既云、上皇可有御見、物、御車可立二條大宮、仍詳官早參出有備云々、依禮重有騎馬所勞、參內侍所平由、關奉行職事兼定、神妙之由有返事、仍不相具馬、先是行水裝束了、以陰陽師分被了、直參內侍所方、以薄樣一重付女官奉幣了、行幸早速之由雖有催、已及深更、御幸還御

有無被尋申鳥羽云々、雜人說云、使^{所下}適飯來、不可有還御并御見物、早可有行幸者云々、明後日可還、御云々、亥時計左大將着陣、被行召仰、大略如例、不撤輶、但乍卷輶、行此事御、其後又良久出御云々、自御殿步出給云々、但於南殿攝政殿奉懷給云々、此間於池巽雜人後伺見、左將來中門許、公國、推行、宗經、敦成、雅親、實宣、右將渡、成定、成宗、高通、經通、公卿公明、公清追加云々、列立、左右大將、太理、花山、忠經、堀川、光雅、中宮權大夫、二位中將、右京大夫、新宰相等歎、少納言重定鈴奏、寄御輿乘御了、殿下出東方給了、左右將昇東西階下格子、各二人云々、高通、右經通、乍持弓入東西妻戸了云云、進寄自階東西間下之、不見置弓所、階ノ間ヲノコシテ、其大第二中ヨリ端セマニ下也、其後同輿之儀良久經時刻、右大將漸出、被立中門外之間、猶又良久之間、暫入無名門、被坐小板敷歎、左大將又進出、被立中門、數刻之後出御、於中門邊奉伺見、聊上御輿前帷側見給、出御訖後、藏人次官清長來、早可奉出之由示之、無右將云々、可奇、以將監、可用將代云々、如何云々、手乍着靴長步行、路頭車等敢不去、近代事依無益不加制止、入待賢門建春門

建久九年 二月

七十

四七〇

奉抑宜陽門外清長以小舍人令觸殿人、又經時刻、每事同與

之故、公卿等雖退出不融、大理云、猶可奉昇進門內、依路要示

歟、仍奉進即融了、此間小舍人來可奉入之由示之、予即

逐電飯家、參出中御門、于時鷄鳴也、後聞、同輿遲之

間、小主密々下盤給、女房等候歟、而近將等不知、齋院乘御了

昇出御輿、及版位之程覺此事、又寄又乘御云々、次第

不足言事歟、

廿一日、天晴、人云、右馬權頭兼親朝臣日來參籠八幡、

夜前忽不覺、仍以與令出京之間、已以已逝了、或云於八幡逝去、

或云途中、又云若吉田黨以後云々、哀慟之心更無喻方、年來之好過于親姪、

心操穩便無双、至于最後於御山之上、有如此之聞、縱雖

虛言人口如何、是又信力之餘也、去年得其驗之間、猶

抽其思歟、此春住宅有恠、去其所參籠彼宮之、從者之

侍依女事、突宮寺別當之侍法師即死了、件侍彼朝臣給

檢非違使資兼了云々、人云、於宮寺殺害法師、猶直可給

宮寺檢非違使歟、神慮有恐、又此事大恠也、以之爲微、

早可出也、而猶不出、遂如此云々、此條誠失也、悲哀之

思更無休方、父母臨老存生、彼心中尤可悲、未刻許參

上、申時四座了、取布施僧八口、口別三、予、右中辨國行、忠

國、業家、國時四人之外無人、數反取之退出也、又人

云、左京權大夫有隆重病出家云々、入夜一殿之後、大

雷鳴、其聲猛烈、大雨如注、怖畏無爲方、荒屋悉倒、一時

計之後休止、又一殿之間、又雷鳴雹降、其音如飛礫、小

時又休、可恐々々、予病逐日難堪、不能採筆、

廿二日、天晴、午時計參北小路殿、給宇治左府御別記、

御即見之多散不審了、其與有書圖等、彼日物具等之體

也、申時計退出、路便參八條殿、依其體見若不參宮御方

退出、參御室即退下、

廿三日、天晴、聊念誦、不出行、

廿四日、天晴、已時計參上大臣殿、御參、有來朝臣御共其後向

坊門、又參三條、入道殿見參之後飯坊門、又出向六條尼上

御許、謁申之後參八條殿、依無人雖布衣參宮御格子了

飯廬、又參御室、今夜被修二月云々、依布衣不供奉其

事、大臣殿還御、前小納言參會、乍立談話、退下之後左

近大夫資清來臨、有可轉問事予所請也、甲上結平緒之樣大畧訓之還去、可謂本意、今日晴齋院櫻木栽此宅、三位中將薨逝之後未音信、依此事一日送使者拾遺、公棟許容爲本意者也、

廿五日、天晴、自殿仰云、竹雨雪降、古歌小々可注進、予蒙此仰之後、引見三代集并後拾遺金葉集之處、竹雪歌無之、近代常詠歌也、定巨多歟由存之處更不見、詞花集當時不持之間、又勘見梯本紀氏集、遂以無之、仍崇德院百首、堀川百首、予并千載集二首、讀人共以非可然人書之持參召御前有仰事等、猶可引見萬葉集以下歟由有仰、其歌又質難用歟、是引物繪ニ被書竹雪了、爲歌繪所被求也、即御覽候所等、若君同御坐、入御之後、予逢權大進兼時間兄子細、答旨等委細、悲慟之思更無喻方、去十八日まで宮廻云々、十九日猶乘輿於馬場末奉遙拜、廿日小沐浴之間殊厓弱、仍其夕所令飯洛也、大略不遂前途氣絕了云々、末代諸大夫之中、心操身之振舞已以不似等輩、於事知耻、生年四十二云々、父母猶存生、心中察

之更不可云盡、又云、其次男自誕生之始爲兼時猶子、今年十二、不可令着服之由人以雖示之、吾已着心喪、可營此事之由雖存知、宮司有限、依仰等難去不觸穢、今所生實子又爲吾猶子、止其儀已可背所存、仍入彼小男令着服、如佛事代以身可經營由所存也者、嚴申朝臣又來廿九日可出家、是又此事以前申暇所思立也、而此事之後還似物恣、雖思惟已思定之上、又依之遲引、還可爲罪報、仍猶欲遂素懷者、此間又以侍仰云、雪歌猶可求出者、仍退下、更引見和歌六帖勘出二首獻之、其內、

あしひきのやまよりゆきはふりくれといつもかはらぬわかやこのたけ

是頗寄祝言可用之由被仰、六帖又雖非如勅撰、於和歌不輕々者也、何事有由申了、又退下、今日間、御即位有延引之聞、依用途闕如云々、雜人之說也、今日於御前申此由、仰云、御燈廢務日尤似可被憚、而延引宜事歟、又令問一夜御輿事給、予先是問右羽林之處、此儀一定

建久九年 二月

七十二

四七二

也、昇出版位罪程、已向東之後更還云々、申此由、大驚御、但此邊之人一切不可問尋此事、可掩口之由有仰、此次有仰等、不違記耳、明日賀茂御幸云々、文學房一日俄參入道殿御許、近日詠秀歌之由語申云々、

世のなかのなりはつることかなしけれひとのするのほわかするそかし

此歌心籠殊勝、但有答人者、可謂文學事之由稱之云云、誠非無心歌也、不思議也、

廿六日、天晴、辰終計出門、向北山長谷方、依有賣地所行向也、先是賀茂御幸訖云々、雖貴賢人舊跡其所甚無興、已無相傳之思、空赴販路、未時計販宅、遠路無益無益、昏自大臣殿、俄有御方違、可參御、共之由有仰、秉燭以後參入、戌終計御一條殿、終夜一人伺候御前、鷄鳴之後還御、即退出、院未時計自賀茂還御、即御幸最勝寺鞠云々、今夜叙位也、宗賴卿不用醫家之諫參勤執筆云々、任大臣在近、今度納言昇進決定、一度不勤仕遣恨之故云々、雅行、宗國、清信、資家、親房、時賢、□□等

八九人、依召一日俄院參即鞠、被免還昇云々、近將本

殿上人地下大略右少將許歟、兄弟沉淪尤足奇驚、於身者別事也、彼躰尤不便、無渡世之計人也、不便々々、

正四位下藤重季御給 藤宗國御給 藤保家御給 藤宗隆

從四位上藤伊經御給 藤資實御給 源雅親御給 藤

師經七條殿御給

正五位下藤兼基院御給

從五位上源通方御一

從五位下藤重輔藏人 源有綱式部 藤忠輔氏 源具成

天曆御給 清原信重 齋部敦光御給 藤時綱一品內親王御給 藤

實經女御御給 藤光知諸司 藤忠圓外衛 伴親重 佐伯

忠尚同 和氣相尙民 百濟岑基同

從五位下下部兼高諸司

建久九年二月廿六日

廿七日、朝天晴、已後陰有雪間、夕後大雨落即止、巳時見聞書、甚善政等驚目、申時計參大臣殿、御即位事等猶申承之、台記小々抄出之、參宮下格子了、又飯參、新

少將實家、御即位事等又示合之、明日可參向大納言許之由約束了、深更退下、今日木工頭兼定催祭使、申當月姪夫人之由、但使明日可來由稱之飯了云々、

廿八日、天晴、參上御室、給官廳御即位圖退下、祭使事返事取了、雅親、公明、同蒙此催云々、未時計成定中將參御室、相逢語云、同興立后事、去比入內之後、自本所申驚之處、遮不及申驚可有御計、又必不可有立后之由有御氣色、仍成恐無音之間、及此間又俄有沙汰、非皇后登高御倉事無其例云々、依之忽彼日可有立后、而饗祿用途等惣有世之煩、率爾事更不可叶、又退出之儀已以為同興、無便宜云々、仍只可御坐大內云々、依建春般富門院例、可為院司沙汰之由有定、被仰經仲朝臣之處、申云、先々院司沙汰事、是自院御倉被渡用途等之間、有其儀歟、今度已無其實、於被責諸國等者、院司更不可勝於職事、被仰職事可宜歟者、依之又被仰清長、清長云、於今者先雖催諸國、其領狀彼日以前難申、況於難濟乎、若猶可奉行者、只申請此由、諸國各宛其公

物、其上更不可聞入子細、切懸用途、可申本宮歟之由申者、此等事未聞分、昨日退出了云々、無饗祿立后并不出內裏皇后、今度是始也、殊勝々々、只以其名號可為本所之幸運、又云、宮司風聞等、大夫、右大亮、公賴朝臣將、已可調御物具之由被仰云々、大進親國、權官未聞云々、又一夜行幸事、未乘御警蹕了、同興數刻遲々、先是女房小々參御與邊、是非無先例、只御ムツケテ名草目タマツルヨシ存、其後同興乘御、女房等取之機帳飯去、其後頃而二位中將立閉簾戶、奉昇出御輿、過版位之間頭辨俄云、可寄御輿、諸人聞之仰天、三位中將云、猶非大事者、雖不寄可承者、頭辨顯示此之間、三位中將以實宣少將令進寄問之、密々云、主上未乘御、聞之萬人周章、無是非昇返了、其後女房自二間邊奉懷奉乘云々、是偏女房不示告之所致也、大內之儀及天明事訖云々、又小々陪或人事等、雜談移漏退出、或近將於殿上云、八省堂ハ如御即位之時開扉歟、佛又如何云々、依堂家存佛寺之由歟、近代識者也、此中將并隆衡聞之云々、不便、又云、無佛者何稱堂乎云々、不足又云、入夜官廳指圖寫了返上之

建久九年 十二月

七十四

四七四

廿九日、晦日、天晴午後陰、依召參大臣殿、弟君令參九條殿給御共料也、無程被寄御車、陰陽師此間女房御兄弟僧在簾中、與女房雜言狂氣、雖爲櫺門落胤、於貴所甚不可然、誇張之外前後不覺之所致也、予寄御車坐簾外不祥也、於御堂寄御車於南面妻戸了退下、依風病不快也、小時依有告飯參、即寄御車御共飯參、不入見參退出、向西成實宅、右羽林此間被坐、申合御即位事等退飯、參宮下格子了退下、先是雨間降、昏黑之後漸甚雨、伊與少將昨日借送元曆之式、寫取了返之、不審事等尋間坊門大納言堀川宰相中將等、各有返事、家絕心思、萬事只惘然、臨期問諸方、又無後世之人、適尋得事、是萬々一歟、雖然又不可有不勵營、雖九牛之一毛、猶師說大切之故也、

○十二月

十日、殿下御法性寺殿、內大臣殿御參、候御前之間、木工頭兼定奉書到來、臨時祭舞人重誼責也、此由申內大臣殿、令申殿下給、代始春冬兩度勤仕、頗無先蹤歟、殿

仰云、帶劔四位數輩之中兩度勤仕尤可奇、但汝近日乍給中宮御給、爲下醵七人被超、已希代之例歟、當此時辭退所役無便歟、就中地下者、無夙夜勤節、又不勤本宮役歟、以何可致奉公哉、早可領狀、又仰云、今度大內之儀歟、舞人有出入之間、近代之人、不存之輩、多似忘故實、一二舞過東砌、進寄入仁壽殿土廂、一舞出件廂北第二間、二舞出同一間重舞也、其餘從此次壁下座召藏人頭路事等申之、仰云、大內其間狹、後座逼壁、着前大臣、自後着、着後座人宰相三位、自前着、向東揖、突膝坐也、仍其查可混合之故、前座人取沓置座前、閑院後座後有可、仍參議已下自後着、仍無取沓置前之儀、依不可混也、但前座人猶思大內之儀置前、又非無所據、召使頭大內自兩座中通之、里內准之、而經中央、又雖非難、後座之後有又申云、二獻以下勸杯、公卿奉行職事觸氣色歟、公卿存而立歟、去春頭不示之、右府被申云、推參にやあらむすらん、さりともしも追はかへされじな、仰云、職事尤可示也、但若雖不觸非殊失、又存而可立也、但以觸可爲可、又申云、勸杯

之人以盃揖、或有不揖之人、以何爲勝說哉、仰云、只兩說也、更無勝劣、故殿兩說共令用給、但以杯揖、似援水飲、不揖ハ宜歟、又仰云、挿頭花ハ手ニ持ヨリ挿方ニムケテ持也、假令大内之儀、使藤花ハ左ニ挿ハ、花末ヲ右ヘムクル也、舞人花ハ左ヘムケテ持也、御殿御前有儀式日下小節也、申云、參議已下着長橋座、下薦經上薦後歟、狹少如何、仰云、可經後、件座人數不可多、宇治殿三位御時、令候件座給、御堂見遣之、令落涙給、若不任納言之心歟、一條院御覽之、無程任納言給、

正治元年

○正月

一日、癸巳、日蝕、自曉更陰雲忽疊、微雨頻灑、遲明以後甚雨、終日如注、臨昏雷電地震、入夜天晴、自昨日參籠社頭、夜前奉幣通夜、曉奉拜大殿開、退下宿所、終

日閉樞不見天、入夜雨止之後、參上通夜、

二日、甲午、朝雨降已後晴、奉書寶篋經、即於寶前令開題、爲今年除病息災也、日入以後宮廻、入夜登坂、深更通夜、

三日、乙未、立春、正月節、天晴、秉燭以後宮廻、奉幣、戌時許內供來臨、輕服日數僧侶不憚之由社司示之、仍社參云々、廻廊通夜之所、衆徒制止不立屏風云々、塞風無術之間、今夜在宿所、

四日、丙申、天晴、鷄鳴以後參、退下一寢之後、遲明赴歸路、長時入京、於蓮華王院北乘車歸宅、沐浴、昨今風氣不快、元三之間人々多參宮云々、申時許參大臣殿、相次參宮御所、巽方悉造畢、風流之勝形不異仙洞、殿下御覽廻、依召參御前、御共暫徘徊、自令下御所、中宮御格子給、供奉其事、入御之後退下、

五日、天晴、午後陰、入夜雨降、傳聞、執柄依腫物灸給、依此事叙位議未定云々、午時許參宮、相次參八條院、今年御給大貳子給之、雅親朝臣懇望之間、去年大嘗

正治元年 正月

七十六

四七六

會、能季朝臣所給之御給被召返云々、來十三日日吉御幸、參御共乎由被仰、申可參之由退出、參大炊殿、申時許參三條、昏退出歸宅、今年元日有節會、深更始有節、及夜半諸司備參入云、今日可有御幸三條女院御所之由、兼日雖有其聞、止了云云、不知其由、

六日、雨降、昨日叙位、奉行職事願親以折紙出陣、直下內記云々、先例有無不知之、如何々々、聞書驚目如例、

午時許參大臣殿、深更退下、此間乾方有炎上、後聞、四條坊門猪限

云、刑部今日語云、執柄自去年晦日、此事御坐後發之下

云々、無沙汰元日入夜參內給、二日召賴基令見給、申

云、不及療治、無別事物也者、三日猶有增氣、仍又召問

之處、顏色忽變、昨日奉見誤了、早可被灸之由申之、仍

四日終日灸之、本自灸不堪、御坐愁悶之間、及終日六

十草許灸了、賴基申云、於今者已灸課不可有恐云々、

而又五日召時成令見之、申云、未被灸課、猶六十草許

可有御灸、仍又灸給之間、膿汁忽出、減給之由有披露

云々、祈禱願神馬更不可勝計云々、減否之條未有一

定歟、

七日、天晴、午後雨雪霏々、健御前被參宮、未時許相

具小男參宮、實宣少將參會、不相逢、節會製束也、予依布衣不逢、以女

房可參殿下御前之由有仰、即令參、大臣殿出御令引導

給、預過分賞翫仰等、退出之後、令參角殿、參女房御方也、予不

參、忠弘清弘等令相具、豫州信定等引導、女房見參之後退出云々、

小時中將殿參給、前源少納言在御共、予退出、入夜又歸參、參御

堂、殿下渡御之間也、即御共又歸參之後退下、健御前又今夜歸參

八條殿、小男樺櫻織物、浮文、狩衣、萌木衣二、紅單紫指衣、紫指

貫、紅下袴令著之、今日改名清家卿、中其山、本名定繼也、繼季非普

通、可有謗難之故也、以後日可觸外記、今日良南廐始立小馬、依日次宜

也、

八日、曙後雪、忽降積三寸許、已後天晴、參上退下、參

角殿、御出了、又參宮、又御共歸參角殿、昏退下、

九日、天晴雪飛、今日見一昨日加叙開書、叙位正二位

親宗、臨時、從二位公繼、建久七年八幡賀茂行幸賞、正三位親雅、六條院、承安四年、

宗賴、臨時、公房、入道左大臣東大寺供養、從三位定繼、臨時、高階經仲、

臨時、攝關從四位上光章、從四位下道繼、府公明、府保

季、左馬廐藤隆清、臨時正五位下兼時、中宮通光、院管爲

長、左兵衛佐藤忠信、七條院從五上源重定、少納言仲重、

一加藤知家、源行時、父時盛辭木工權頭藤永隆、臨時藤範時、

策賢、藤成信、策重保、大藏人從五下親資王、寬和菅淳高、

藏人、藤宗明、皇太子平保教、一品藤能宗、檢非違使以下諸司加

叙、正三位藤實明、從四位上同親兼、正五位下公長、皇

宮源定通、宮藤隆宗、殿從五位上成能、八條院從五下

實親、隆清、少將能宗、使如元止位記二人、午時許參上、又

參角殿、申時御共歸參、殿下出御、植竹於南壘、日入之

後殿下御御堂、御共後退下、明後日八條院八幡御幸、十

三日日吉御幸御共有催、申領狀了、入夜參八條殿、於

西織戶中門內有御被、御精進始由也予候陪膳、依此院之樣取

半帖進入簾中、清季役送、高杯二本陰陽師奉仕御被、予取

大麻如恒、撤之退出、

十日、天晴、沐浴潔齋、入夜健御前退出、爲明日精進也、

十一日、天晴、早旦參八條殿、八幡御幸日也、辰時許出

御、先是御被、右少將陪膳予兄弟、丹後前司、治部大輔知長等著淨

衣在御輿前、女房與二供奉、四御方備中太理手與先參、直御

參社、御奉幣訖入御廊御所、御經供養了、殿上人四人

取布施、次入御馬場御所、女房三品百々日參籠云々之後、各入宿所、宮

寺皆悉儲之、甚過差、食了即歸參、俄而還御、申終入御

八條殿、於路雨霽風烈退廬女房、戶部宗賴卿妻又虛言狂亂言語道斷

事等出來云々、黃門女房、任此間事又參宮、喧嘩口舌甚

無由官仕也、

後年漸々傳聞此事、彼戶部局猶不過事乎、或不善之

人恣吐惡言、黃門罵辱戶部之由、書書狀送戶部之

間、夫妻共發惡心云々、可謂道理歟、其故於長公主

至極不忠者、彼御方存忠寓直之人爲令退出所廻之

秘計云々、陳平之六奇間、項羽范增之策也、非心之

所及、隔多年聞此事、所注加也、

十二日、天晴、參大臣殿、終日伺候、申時許退下、入夜

黃門參八條殿、爲日吉御共也此官仕甚無由事也、凶女之舌端

如入虎口、

正治元年 正月

七十八

四七八

十三日、天晴、暹明參八條殿之間、已聞出御由、仍參會蓮花王院北、安藝範宗子兄弟御與二、姫宮、女房二人、

黃門、太理兼手與、先參入御御宿所二宮彼岸所前引帳、之後退下、果

儲之、元三、食了歸參、良久御奉幣、右少將、被幣付、登坂、社司、即還

御、又不入御、被止御所、秉燭以前入御八條殿、了歸廬、今夜有僧事云々、

云々、

十四日、天晴、參角殿、終日伺候、入夜退下、仰云、一夜

定能卿來談、踏歌節會次將隨身袴說々不同之由語之、

昨日院御月忌、左右府參會、各所存稱之云々、今夜又

有僧事、兩度合四十餘人昇進云々、

十五日、天晴、雪飛風寒、依番上格子了、向坊門、次參

大炊殿、申時歸、秉燭以後束帶參八條殿、一品宮御節

供、長經朝臣陪膳、予宗行役送、訖退出、亥時許殿下御

供參法性寺殿、御方、今夜頭權大夫、親經、春日祭使重催

之、即刻領狀了

十六日、天晴雪飛、曉鐘以後逗御、未時許着關腋、魚袋、細

細、隨身着紅梅袴、元三雖不出仕、付用此色之服、懸令着、相具小男參大炊殿、

次參三條殿、入道殿見參、昏參內、仗下鴈列雖失面目、此節會

久絕始被行、爲見其儀所參也、於西渡殿方、成定中將來

談、內辨左府云々、密々自南庭向東中門方、亥時許出

御南殿、上臈不來、仍予先取杵、陣列雅親、師經朝臣相

從、自胡床下立前如恒、雅行、家經、宗國、公清、數成、於今者上郎五人也、但依胡床少着第五、依不皆參

也、兩將令取上胡床立下立其前、相待出御、雖望見御

帳不奉見宸、但置、良久成定、高通、兼季、公信、資家等

以下各座胡床、依內辨進軒廊也、內辨謝座、甚草、於左仗平頭向正

西方拜、自使東二丈許被步、今夜略儀歟、昇殿開門、關司召舍人、少納言

隆經參入、承召稱唯出、外辨參入、入中門間、中納言泰通、

隆房、通資、忠經、光雅、公繼、參議實教、兼宗、信勝、公

房等卿歟、仰敷尹、謝座謝酒了、各揖放列昇着座、着座

訖後、兼定於西渡殿頻催御膳、此間內辨退出、忠經兼宗卿先降

次供御膳、聞警蹕音仗立、成定予許也、他人皆入了、未及版之間、自東

方親經朝臣可有出御、御膳相待可進由示之、公卿聞之

追返、空退歸仗居、此間主上御二間、二棟廊、邊歟、人々雖

申可出御由不叶歟、又兼定催御膳、又警蹕、仗又立、又追

入事依見苦予退入、先是上官先是頭權大夫以陳官人示

云、坊家別當不參、可取繼奏者、答承之由、御膳遂止

了、無出御、御而嫌國栖等奏了、及三獻歟、有立樂、舞四曲、訖內

辨坊家別當中納言泰通卿下殿立軒廊、西一間、向予曳尻

着靴相對立府官人、無將監、無顯頭、仍持杖立傍、予先見上

卿、被目不取杖指寄之、上卿笏ヲ左袖後ニ入天文ヲ拔取天

披見、奧、天綵見、如本卷訖、予又指寄、杖烏口ニタ、サ

ニ挿之、被取笏、予右廻退之間、上卿經前被進弓場、

予返給杖於官人、懸關腋尻屢從於弓場、被目之時、又

取杖奉之、上卿取之、被授職事、予退去、此事先年尋申

大納言之處、我所存如此、節會最中歟、須在陣、何若淺香歟、此間

之由被示、仍用此說、依塞風窮屈、不見此後事、退出於

三條、相具小男歸家、于時夜半歟、

十七日、天晴、早旦參角殿、申夜前事等、於定能卿者、

以夜前所爲爲可之由被仰、先例不同云々、今日射禮也、

依本府催、先日申可參由了、未時許出門向坊門、申時

參大內、徘徊建禮門邊、相具上卿可早參由、兼被下知

召使云々、但先參院尊勝陀羅尼、遲參云々、相待之間

甚雪、及日入止、乘燭以後、上卿別當參入、於帷外取弓

直着座、被催諸衛、予即插矢取弓着座、右少將兼季朝

臣着第二座、次一獻傳盞、催射手、此間少納言重定參

着、射了之間、予先起座、當府射了起、退出之間、左衛門權

佐光親參入、少納言座、南而上卿次將、西上又行坊門、

健御前今夜被參八條殿、

十八日、晴陰、雪飛甚寒、早旦閭巷說云、前右大將依所

勞獲麟、去十一日出家之由、以飛脚夜前被申院、仍以

公澄爲御使、夜中可下向由被仰、又公朝法師又爲宣陽

門院御使相共馳下云々、朝家大事何事過之哉、怖畏逼

迫之世歟、又或說云、已早世云々、午時許參角殿、謁女

房、又參新御所、於不吉必然歟、不聞分存亡之實、蓮花

王院御幸止了云々、

十九日、天晴、今日以書札觸廻摺符事、昨日卷說以前、以使

雖須神事期日尙遠、仍參御堂取布施、臨昏成定中將參

入、以使者被告參由、仍參御堂、清談之次、示坊家奏

正治元年 正月

八十

事、奉公若靴淺履、共有例云々、治承之比、有房中將着

云イ

靴、故中山内府猶立目歟、淺沓宜由被申云々、於裾歟、

猶可懸上由存之、白馬日、少將實宣取之、上卿進弓場

之間、自取杖相隨、是又失也、尤可令持將監也、又云、

七日坊家奏、上卿加署、件筆次將不取傳、次將持杖、以

將監直令進筆之山、右府被申者、進弓場自持杖、是又一說也、先例互存云々、此中將偏稱

失、引陣之間、胡床立座事示合之、所存親王之外惣自

上不坐其座、仍雖臨時立坐、猶着時自下可座、立時臨

時ハ自上立、事訖之時、自下可立由存之、又問云、進寄

之間、何様可寄乎、自日華門進、直我胡床の程を指て

可進歟、將監胡床の程を計て、末胡床の後程に進て、さ

びしく北折て、自次將胡床後、可進各胡床下歟、答云、

雖無將監胡床、計其程可寄由、右府所被存也、一夜予

作法叶所存由被示、入夜退出、人々返事到來、於祿は

大略不許、

廿日、天晴、參角殿、又參新御所、御共往反又退下、歸

參終日、前將軍去十一日出家、十三日入滅、大略頓未時

許除目、頭權大夫承仰内覽、殿下即參内、可書下由有

院宣云々、其後隆保朝臣參入、申必定入滅由、飛脚到

來云々、除目此事以前之由有沙汰云々、今朝早々右大

將上表、使成定除目少納言忠明、内藏頭仲經、兼、右近大將通

親、中將賴家、造東大寺長官資實、遭喪之人本官猶以

服解、今聞薨由被行任官、頗背人倫之儀歟、春除目以

前臨時除目頗珍事歟、後見及仁安二年正月七日宗盛任右近中將後聞、内覽極

辭事也、此除目并十四日僧事不内覽云々、

廿一日、天晴、依風病不出、秉燭以後京兆來、又靜開梨

來之間、北方有火、仍向坊門高辻北富小路西、小屋四

五宇燒云々、滅了歸、

廿二日、天晴、參宮并角殿、即退下、心神不快早出、人

云、右大將自初任翌日閉門、前將軍有事之由不奏聞、

後輩又稱見存由、行除目之後聞薨逝、忽驚歎之由、爲相

示閉門云々、奇謀之至也、又巷說云、院中物忌、上邊有

兵革之疑、御祈千萬被引神馬、新大將籠候御所不出里

亭、是有事故云々、入夜參上即退下、

廿三日、天陰、參角殿、見參之後退下、參大炊殿、奈良僧都出京、在近邊宿所云々、行向相謁、權別當不被補事、時儀無術計由被語、申時許退出、參八條殿、入夜參宮、依侍初參束帶着侍退下、設脱アラン

廿四日、自夜雨降、午後止、昏參角殿、深更退出、參八條殿歸宅、右大將來月二日拜賀之由、又有其聞、

廿五日、天晴風烈、依病氣沐浴不出、

廿六日、天晴雪飛、風猛烈、早旦參角殿退下、午時許參大炊殿、於北宿所謁僧都、入道殿令渡給、申承退出參八條殿、昏

歸、入夜又參角殿見參、深更與興州退下、巷說、京中

騷動、衆口狂亂、院中又物恐、新大將猶恐世間云々、

廿七日、天晴、參角殿、又參宮上格子、又歸參角殿、御

共往反、興州以下會合宿所、院中警固、女房等凡被出

人不知何事、又云、掃部頭親能來廿九日可上洛、其時

可有成敗云々、

廿八日、天晴、參大臣殿、御共參新御所、乘燭以後參八條殿、又歸參宮、深更退下、世間狂言逐日嗽々、院中警

固如軍陣云々、

廿九日、朝雪積、未後天晴、辰時參角殿、御共參宮、未時許御共歸參之後、申承風聞事等退出、

卅日、天晴、申時雪降、參大臣殿、刑部參會、未時退下、行嵯峨宿、後聞、軒廊御下、依天下穢、諸社祭停止之由被仰云々、典侍兼宗、卿局也、正四位下賴基、殿下御惟熱療治也、

○二月

一日、天晴、午時許歸九條、乘燭以後參大臣殿、深更退下、

二日、天晴、巳時許參上、又參角殿、見參之後參八條殿、

鳥羽院御月忌、自今月於此御所可被行由聞之、可參也、今日依日次憚自三月可被行云々、此年來於安樂今日嘉院被行也、

寅時八幡有炎上、西谷大塔小塔釋迦堂鐘樓小屋等小

小云々、今日春日祭事等尋頭權大夫、來廿二日歟云々、

三日、天晴、未時許參上、又參角殿、入夜退下、以使者

又問貫首、返事云、來廿二日一定也云々、抑今月忌月也、忘却却申領狀、若有憚哉由同相示、不及沙汰由答

正治元年 二月

八十二

四八二

之、但過忌日可
進兩文由示之、

四日、晴陰、申時許雨漸降、夜晴、參上、又參角殿退下、
入夜參御堂、

五日、天晴、午時許參大炊殿、夕參官、

六日、天晴、入夜風雨、及曉雷鳴三聲、參上、參角殿退下、

七日、朝天晴風猶烈、夕雨瀟、參上、參大臣殿、夕退下、

依遠忌事暫申假、

八日、天晴、早旦向坊門、與女房等行嵯峨、

九日、天晴、

十日、天晴、夕參詣清涼寺、

十一日、天晴、入夜甚雨大風、忠行少將來臨、東家行向

相謁、又參清涼寺、一昨日京中忽騷動、隆保朝臣行向

北小路東洞院、喚集諸武士議定、依此事天下又狂亂、

衆口嗷々云々、是皆不幸之人可招殃之故歟、

十二日、天晴、午時許歸京、入坊門、關東飛脚歸京、右

大將放光、可損亡人々等多云々、

十三日、天晴、早旦公雅律師修恒例小佛事、請僧如例、
自一昨日院有不斷御讀經、十二靜快入其內、

十四日、天晴、早旦歸九條、即參上、取御堂御懺法散

花、未時許頭權大夫送書、春日祭使忌月不可憚、早可

令勤仕給者、請文、春日祭使忌月不可憚之由、此承候

了、可令存知勤仕之狀如此、所請如件、今日以後不可

隨佛事、入夜官有御稔、攝政殿妹女房
天亡事云々、京中又騷動、左衛門

尉三人、基濟政
經義成、新中將雜色召取之參院、先而惟義許、

武士守護被渡院御所、給武士三人云々、

十五日、天晴、參上退下、入夜又參大臣殿、深更退下、

十六日、天晴、應頭久量稱病安主男來云々、以光資等

計定祭使間事、大畧令示了、又進差文、申時許參上、又

參角殿見參、入夜退下、近日此近邊門々戶々、運資財

馳走東西南北云々、相互雖稱我不知由、心中皆憶病

歟、

十七日、晴陰大風小雪、未時參上、東帶、大原野祭御禊、

予陪膳、野釂、兼時役送、侍長爲使、事了脫束帶、又歸參、

今晚宰相中將公經卿、保家朝臣、隆保朝臣被止出仕云云、巷說公卿七人可滅亡、不知誰人、文學上人、年來依前大將之歸依、其威光充滿天下、諸人追從也、夜前檢非違使可守護之由被宣下云々、

別當相具官人參院、夜半許廷尉三人承之云々、

十八日、天晴、今朝依神事、憚女房輕服、渡高倉了、參

角殿、午時許退下、乘燭以後成定中將參入之由有告、

參上相謁、入夜靜閑梨來、今日院御讀經結願、偏是前

右大將追善云々、聖覺辨說云々、右大將直衣、未拜人以下濟

濟取布施、此御讀經事以上新大將沙汰、又中行其後又

參角殿、甲斐左大辨宰相送春日祭祿布二十、

十九日、天晴入夜雨、今日又無聞出事、終日往反、御堂

例講等、不交其事、夕大臣殿見參之後退下、入夜參八

條殿、民部卿被送祿布二十、

廿日、雨降、終日如注、夕休、夜月晴、淡路範季卿送祿布

十、喚寄光資文義、依本府沙汰者來、裝束料并祿布大

褂隨到來并調出、沙汰給之、書送文遣本府、應頃、祿猶

追到來之可送由仰之、摺袴約束變改甚多、定閑、申時如歟

許入道殿令渡給、無程令歸給了、乘燭以前參上、亥時許官有御被、百日陪膳、衣冠退下、右中辨明日御禊陪膳可勤由相示、曰使雖不可然、每事依非例儀領狀、廿一日、天陰晴、參角殿、退下、乘燭之程又參上、即退下、

左近衛府

注進、來十一月十一日春日祭舞人陪從御共官人以

下例祿、色目事、合

御出立 舞人十二人 陪從八人 手振近衛十二人

已上各裝束給之、

御琴持裝束 退紅袍 白襖袴 白布下袴 白布襖衣

烏帽子 帶 藁沓 唐笠 已上給之、

唐韋持四人裝束 退紅袍 白襖袴 白襖布衣 白布

下袴 烏帽子 帶 已上給之、

宿院例祿 舞人十二人、國絹十二疋、各一疋、陪從八人、國絹八疋、各一疋、

加陪從八人、絹八疋、各一疋、

御共官人 將監一人、被物一疋、摺袴一具、絹四疋、將曹一人、被物一疋、摺袴一具、

正治元年 二月

八十三

正、粗二府生一人、取重一、粗三正、已上隨參仕數給之、

別祿 飼祿粗廿、奈良坂祿國粗廿正、唐鞍預國粗一正、

饗頭三人、國粗三正、裝束所預一人、國粗一正、宿院預一

人、國粗一正、

淀例祿 如宿院給祿法員數、

別祿 雷鳴粗一、饗頭二人、國粗二正、平張預一人、

粗一正、

還祿 舞人番長一人、白布四段、案主一人、白布三段、近衛一

人、白布、已上隨參仕給之、陪從番長一人、白布三段、府掌

一人、白布二段、近衛一人、白布一、已上隨差文給之、加

陪從八人、白布十六段、各二段、

御共官人 將監一人、國粗四正、將曹一人、國粗三正、府生一

人、國粗二正、已上隨參仕數給之、

任例注進如件、

(文治九)承久三年十一月 日

府生大石久綱

表端書云、春日祭使勤仕記、

廿日、終日雨降、臨昏休止、夜月晴、春日祭使祿布、

下野國、大藏卿親淡路國、三位範各十段到來、參川甲斐

昨日一昨日送之、各廿段、本府沙汰者、男安主出來、廳頭

久量稱病不見來、月來重病裝束料並祿布大掛等隨到

來並調出、沙汰給之、又書送文送本府了、入長祿猶隨

到來雖小小可送由示了、摺袴先日各觸廻之處、多

以稱障、適領狀十四人、重相觸之處、又以違亂多稱

穢由、近代之例事云々、裝束等色目委見送文、

廿一日、天晴、摺袴漸到來、或約束變改之間、不足二

具、於家忽調之、昨日所來男今日又入來、待具到來

可請取之山下知之間、漸及晚陰、仍且給小小遣之、

隨到來追可遣由仰含了、入夜之間、二ヶ國又送祿

布、上野五段、各相副送文遣本府了、適到來摺袴之內、

小小無平裏云々、件袴加入他人之裏中、於家調加袴

又如此、月出之後深更裝束了參內、故有存旨及深

更、裝束闕腋袍巡方魚袋飾劍、中宮權大夫紫綾平緒只

蠻繪、隨身二人雜色一兩具之、不具他共人、不可爲例、

思、於陣邊尋舞人陪從之處、一人不見云々、以雜色

遣尋願頭許之處、早速雖參聚、使遲參之間、各退出
由稱之云々、不當不足言、但及深更、強不及尋催、禁
裏寂寞無人音、僅尋出泰時一人、令觸藏人新藏人、
以政卿入藏人所付寢云々、再三相示之間、只件鷄人
漸聞見鐘、臨曉更藏人適出來、出無名門代相對還
昇、入上戸俄而又來對、仰由歟、無詞、又還入取白大褂來給
之、懸左袖拜舞了、給祿於隨身退出、於九條及鷄鳴、
廿二日、甲申、春日祭日也、天晴風靜、去正月依蒙催
勤仕使役、抑今月忌月也、仍申其山之處、不可憚之
由重有院宣、仍領狀、上申日去十日也、依關東穰氣延
來、洛中被行軒廊御卜、諸社祭延引、被用下申日云
云、去十三日遠忌日、依修佛事觸奉行職事、願權大夫、親經朝臣、
暫中障山、同十四日重貫首奉書到來、重領狀之後立
神事簡、出障人等、三ヶ日潔齋、去比以後攝政殿下
御輕服、仍不被立神馬云々、舞人陪從裝束、今度本
自不申請殿下並大將殿、私給之、八條院前殿下內大臣殿、內御防等充其事等、
未明以前、共人等隨到來、先遣之、此間在九條宿所、

正治元年 二月

近日有子細、殊憚近邊之行粧、仍各先令向深草邊、
藤杜、乘馬等各未明引遣之、日出之程裝束、直衣、當時地、下之身也、薄
色衣紅單衣、今度不出衣、相夾帶野、密乘八葉車、相具雜人、
於藤杜騎馬行列、先私幣、和琴、本府下部不來、仍以私人、夫令持之、但各著白張上
下、次前驅二人、源長邦、八條院、判官代、藤光資、同院藏人、用例
鞍平轍、左中辨馬、長邦、乘、光資乘白馬、次隨身二人相並、
朽葉上下、期木伯、生單衣、狩胡、毛香、次使、路頭乘、水干鞍、馬鞍新
大納言經、被借送之、舍人賜水干小袴、腰巾、次侍五
人、隨有、右衛門尉藤通遠、右馬允豐原政時、右馬允藤
忠弘、武者所豐原賴時、內舍人藤清弘、皇太后宮、上日、次雜
色三人、騎馬、萌木單狩衣袴薄色伯生單衣、先是裝
束辛櫃等、相副青侍小冠、令前行、雜物等、付之、於宇治橋下
馬渡之、於八幡伏禮下馬、入丈六堂休息、奈良僧都
覺辨、於此所被儲雜事等、破子一荷給舞人等宿所、食
了即出此所、於泉木津乘船渡之、馬等步渡、下人渡、未
時許於法花寺鳥居邊、乘大和鞍馬、四位藤少將(高)所、借馬等常、仍用之、
經東大寺西興福寺東大路、入僧都住房休息、菩提山

八十五

正治元年 二月

八十六

付正御房沙汰給雜事等、兼日九條殿被仰付也、僧都被儲小浴、

戌時許行事辨、右中辨、送使者、被催可早參山、即裝

束、如夜前、參社頭、隨身蠻槍、前驅取松明、辨已若積

殿座、予經座下後若第二座、曳尾、馬助業家來着、皇

后宮使權亮、右少將、雖參入、不着座云々、次會參等

着座了、居贖物積了、辨以下撫大麻、次起座着若

到殿云々、予不着、使或着云々、故中御門大納言說可着云々、且古儀正說、彼家重辨官之故歟、近代之

人、無若座、直參社頭、於西中門下解劍、帶、洗手、儲手

拭、小時徘徊之間、辨參入各相觸、相共昇棚、第一棚

四人昇之、與辨相對昇之、先跪指笏立昇之、或說引裾取具之云

云、今度、一辨、入中門之間、微音警蹕、昇立第一、

御社寶前置之、二使、乍立垂裙、次跪拔笏乍坐一拜、

立歸出着座、兼數、辨第一、使第二也、次々着座、皇后

宮使又不見、辨催內侍、內侍參入、供神物了歸出、次

辨召辨侍令取幣、下官召隨身令取幣、自後持來、擲笏取之、膝突

以隨身付社司了、使隨身此役訖之後、賜假早出、是故實出、隨身所望也、次奉幣列

拜、前後、社司來取幣、授之、各、參寶前申祝歎、相待還祝

之間、其音不聞、辨成不審令尋之、社司等云、還祝了

者、辨揖起座、予即起座、着沓直參着若宮、辨着直會殿

帶劍、前驅取松明、若宮奉幣了、歸參寶前、懸裾立舞

殿邊、此間有大和舞云々、其事了東遊、發歌笛、予立

陪從傍、駿河舞求子舞了退出、陪從發歌笛、相隨出

中門了、舞人等呼盜、是例事也、於鳥居外騎馬、還入

本房付寢、

廿三日、天晴、日出以後赴歸路、裝束如昨日、雖神事歸路、參

詣御寺金堂南圓堂、奉拜了赴般若路、丈六堂如昨

日、未三點許入洛、於稻荷鳥居前下馬、共人皆返、乘車

入九條宿所、

廿三日、天晴、勤仕祭使之後、未時許歸京之後、參宮、

入夜退下、近日陶化坊之近邊、上下之心中只如晉陽

三畔、惘然迷是非、

廿四日、天晴、日出以前騎馬參詣日吉、巳時參着、宮

廻、登坂馬一疋付親成宿禰了、伴馬去廿一日越部庄補

地頭將來馬也、即赴歸路、申時入高倉宿、

廿五日、天陰大風小雨、申後甚雨、參宮、參大臣殿、見參之後退下、世上之說大略同事也、虛言等又如雨脚、自一昨日聊始念誦、

廿六日、天晴、依召參御堂、聊蒙仰、相次參八條院、又參大炊殿、申時許行高倉、日入之程歸九條、又參御堂并角殿、入夜退下、親能今朝入洛、天下事可決云々、又云、夜前入洛云々、

廿七日、天晴、世間云々說今日頗無爲、彼是不知其故、依番上下格子、高通少將送消息云、臨時祭使可勤仕也、馬一疋可相訪者、領狀了、非上筋非其巡、只平資云云可弁、人云、上皇明日御幸鳥羽、夕大臣殿御共參、見參之後退下、參八條殿歸廬、深更一寢之後、又有召、仍參御堂、面蒙仰退下、

廿八日、天晴、參上如例、參廻、未時許依召參御堂、健御前今日遂以退出、日來喧嘩終始不吉、更不可驚、但女院仰云、依可企灸治退出之由可披露者、夕又參角殿、見參良久之後退下、

廿九日、天晴、夕參上、又參御堂、大臣殿御共參角殿退下、

卅日、天晴、早旦行向高倉、相具女房向嵯峨、詣釋迦堂之後、沐浴、入夜少納言被來臨、此間在嵯峨別當房云云、

○三月

一日、天晴、辰後陰、午後雨降、未時許出京、入坊門、健御前被留了云々、即行高倉、相具兩小兒等歸九條、

二日、天晴陰雨瀝止、參角殿、見參之後退下、參八條院、今日鳥羽院御月忌更被修之、別當、布衣、理趣經并讚等了、各取布施、僧六口、雅行成家朝臣以下八九人許、退出之後參宮、下格子了退下、自晦日御堂有穢、七日、宮不混合、

三日、天晴、未時許束帶參上、御燈御視陪膳、役送兼時、事了退下、乘燭以後參八條殿、一品宮御節供、長經朝臣陪膳、子資家少將、役送、六度往反、無人之世、此乃方役共帶事還役歟、劍笏、

正治元年 三月

八十月

四八八

四日、天晴、巳時許參大炊殿、昏依召參角殿、見參深更退下、三人金吾昨今下向關東云々、不同道、各武士等預之相具、此輩七人父子、解官云々、

五日、天晴陰、風雨間休、朝參角殿退下、自昨日御堂礎混合宮中、大臣殿猶不被觸、仍不參宮、

六日、天晴、早旦騎馬行嵯峨、八條、四行、爲見雜舍也、於清涼寺謁前少納言并別當法眼等、秉燭歸京、

七日、天晴、參角殿并宮退下、夕又參上、

八日、天晴、參上退下、八條院廳官來、禪師冠者定時補判官代由仰之、以待給被物一重了、此男以猶子名號可申補也、

九日、天晴、參角殿并宮退下、今朝北政所有御物詣、又大臣殿有女房御物詣、予奉仕御後陪膳、未時出京、參詣日吉、入夜奉幣通夜、昨日親能又搦山僧云々、

十日、天晴、遲明出路、歸九條後參角殿、

十一日、雨瀝止、參角殿、退下行向坊門、健御前今日灸治、右大將拜賀過東洞院、於門前小屋伺見、移馬居伺

舍人各四人、皆自院遣之、一曰、殿上人十一人、雅行、雅

親、通具朝臣、兼定、清信、有通、通光、定通、通方、雅

清、守通、番長助信、近衛等、公卿別當、新車、檢非違、源宰相、

管車、雜色不副、

十二日、天晴、巳時許歸九條、參宮并角殿、入夜退下、

十三日、天晴、早旦參大臣殿、爲御使參八條院、密令御

覽歌合、奉付中將殿、僧、退出參大炊殿、行舜僧都參入、有

御佛事、請僧三口、說法了、嵯峨東面爲道場、後、予家綱資經

等取布施退出、又參宮、大臣殿御共參角殿、入夜定時

令初參八條院、此冠者予令首服、雖須召仕、是依稱定

長卿、左大、落胤、有憐愍之志、先稱猶子之名、依其器且可

見將來、以藏人光資可訓由相示、令付簡、深更歸來、今

日上皇御幸六條殿云々、

十四日、天晴、臨時祭也、驚駘一疋引送使少將許、翌前、

自餘事不知之、定時參八條殿、奉仕御格子、密入最勝

光院見花歸、

十五日、天晴、健御前灸治了、被向嵯峨、日來念誦、今

夕訖之、入夜參角殿、見參退下、

十六日、天晴、申後大雨、依脚氣不快病臥、夕雨止後參上、相次參角殿、

十七日、天晴、早旦參大炊殿、午時計申後參上御堂、先是舍利傳供已了云々、式講了取布施退下、入夜歸參深更宮還御今朝渡御了退下、

十八日、天晴、早旦騎馬行嵯峨、雜舍如形遣乘燭以前歸、

十九日、天晴、午終參上、未時殿下御御堂、御共後講論了、取布施退下、參角殿、夜深退下、今晚女房輕服之後兩兒乘車參詣日吉、日入歸來、參祇圖

廿日、天晴陰、夕雨降、午時計參御堂、殿下渡御、例講、取布施退下、女房令參賀茂、文覺上人夜前流罪定了、左中辨被示之、昏參角殿、入夜參宮退下、

廿一日、終日雨降、辰時計參八條殿、相具定時平中納言參、

招予暫言談、午終許僧參聚、御影供了、布施口別二、無被物、公卿取被物、二反取之退出、自今朝腰俄痛、退出以後宛燒石、彌以增、

廿二日、天晴、腰痛增不能動身、靜閑梨來、被遣關東金吾三人不請取、自路追上、左右可隨勅定申之、或云斬罪云々、

廿三日、天晴、腰同事也、昨夕止燒石、關梨云、脚氣之腰燒石必成增、仍止之、今晚立、間時成朝臣、以湯可試、除目入眼云々、

廿四日、天晴、已時計被昇載車向嵯峨、湯治、小兒等相具、

廿五日、天晴、今日見除目開書、雅親、師經叙正下、次將悉超越、予兼安藝權介、被載開書、尤以珍重、似在世身、

神祇權大祐卜部兼濟 少祐大中爲茂 少外記中原行永 權少外記大江良成 左大史三善仲康 右少

史同定職 內舍人平國宗大嘗會功 藤時永同臨 源重以

少監物源重隆 太皇太后宮大進源清實本宮 皇太后

宮權少進藤信綱 大舍人助菅原資高文章得榮生 內藏助

菅原長重 縫殿權助藤政國權中納言藤原朝臣二合 圖書助藤懷

範中宮權大夫年給二合請人息子 陰陽少允中原季信道 大屬惟宗有

正治元年 三月

九十

景同 少屬大中俊尙 陰陽師同宣繼 式部大丞藤
範政 少丞橘次忠藏人 藤賴季 大學允中原家重
明法博士中原章親兼 音博士中原師行復任 清原業
綱明經 治部權大市藤範宗 民部大丞藤經光 中
原康成 少丞紀文衡 兵部少丞源親光 刑部少市
藤範基 小判事中原基政 木工權頭源仲國 典樂
侍醫丹波憲保父經 基訓 掃部少允平景康女御察 勘解由
長官宗隆 山城守大江以孝外記 權介中原貞仲 伊
勢守中原經重史 尾張權守菅原涼高 介藤宗國
權介小槻公尙兼 遠江權守藤資實兼 介藤信能兼
甲斐守藤宗房 武藏少掾大江爲範內會 下總守藤
親季 權守同爲久功 權介橘康季內給 近江權介藤
基忠兼 美乃介藤公信兼 信乃權守卜部兼直父兼 貞讓
上野少掾藤盛長內會 越前權介中原明基兼 加賀權
介源有近兼 能登權介清原忠業兼 權掾大江政康文
章 越中權掾大江佐尙同 越後權守菅原爲長兼 權
守同長守兼 大掾大江成能文章 丹波介中原師行

權介賀茂宣憲兼 但馬權守丹波賴基兼 介藤隆衡兼
伯耆介同長基兼 因幡介丹波有忠兼 出雲介清原
仲隆兼 播磨守藤經清兼 權守同信清同 備前介藤
公定兼 備後權守藤宗隆兼 安藝守藤重輔 權介藤
定家兼 讃岐守源家俊兼 權守藤實教兼 介藤保
實兼 伊與權守藤實明兼 土佐權守藤隆保兼 豐前
守紀宗季民部 權介高橋盛直史 肥前介中原尹光外
記 左近將監平棟村功 大江盛康成イ 右近將監源忠
宗功 藤盛助功 左衛門少尉藤季清藏人 少志同宗
貞 右衛門權佐藤親長 少尉平盛業功 豐原章繼功
少志中原久基功 同能貞 左兵少尉中原宗定藏人
源廣綱功 同宗信父信綱止式 藤次利攝政內舍 右兵
衛少尉中原友業宮功 藤忠兼功 同清成功 同光康功
左馬頭藤隆衡 權頭經範 權助藤仲重 康業 少
允藤親明堀口 宣親功 橘直職臨時內給 右馬頭藤親兼
權助源仲家 少允藤宗隆院臨時御給 同信久臨時內給 惟宗
友成功 三善平尙 藤光國功

辭退 中務六藤盛正 縫殿允大江清定 大學允藤
高久 兵部錄惟宗重運 掃部允橘俊久 大膳進藤
行量^{取イ} 右京進橘成清 主水權佐藤成俊
解官 左馬頭兼安藝守源隆保

建久十年三月廿四日

阿闍梨外文 延雅^{庶主}給文 從四位下藤公明^{少將}如元

使宣旨 藤親長 藤以賴 中原能貞 正四位下藤

有家 源雅親 藤師經 從四位上藤道經 從四位

下藤信定 正五位下藤親光 源光輔 藤邦輔 從五

位上藤業清 藤業家 從五位下藤親季 豐原利秋

廿六日、天陰微雨、午後晴、湯治之後腰漸宜、今夕行

步、季御讀經云々、付都出京、

廿七日、終夜雨降、已後休、行步復尋常、手足又苦痛殊

難堪、

廿八日、天晴、雜舍遣戶等持來、

廿九日、晦、辛酉、天晴、午後雷鳴、大雨休止之後猶陰、湯

治如日來、蟄居寂寞、九春之節空暮、

○四月

一日、壬戌、坎日、天晴、山居無爲、沐浴偃臥、令栽萩海
等、

二日、朝雨下、午後晴、沐浴今日滿七日、杲云來、

三日、晴、不浴、

四日、晴、已後陰、未時以後大雨如注、夕沐浴、今夜宿

東門腋、^{木守}爲方違也、終夜大雨、後開、今日覺尊僧正

入滅云々、年四十、^{一脫力}

五日、朝天晴、今日令堀溝、

六日、天晴、

七日、天晴、令引出南田中石、令置砌邊、

八日、天晴、未後雷鳴、大雨雹、大夫夜來臨、

九日、天晴、靜開梨入來、御讀經候間無暇云々、

十日、天晴、

十一日、天晴、

十二日、天晴、

十三日、天晴、昏知範來談、參法輪之次云々、世間之事

正治元年 四月

九十一

正治元年 四月

九十二

小々聞之、文學上人高雄堂延果僧正給之、自庄丁卿典侍等之輩、近信女房等皆悉給之、隆保朝臣於攝政殿被召問、粗陳披旨等有之、九條殿邊常時無爲之由歟、三金吾□□有其聞云々、除目下名事等始聞之、中務美市歟定

十四日、天晴、密々於大井河乘船歸來、

十五日、陰、午後風、未時許法眼被過談、

十六日、終日小雨、

十七日、雨、入夜甚雨、

十八日、天晴、早旦洗髮、未時許出嵯峨歸京、先參大炊殿、昏黑歸九條、女房小兒相具歸了、今日稻荷祭日云

云、

十九日、天晴、杲云入來、十六七日以後忽懸訣門章、年來所養育小男保盛朝臣子□□□庶子自關東被召出、

此事親能觸申入道殿、事甚恐惶、今朝相具冠者行向謝披、大略優免之由語之、件男本自元服、極不可有事也、

自今以後猶可招殃禍事歟、午時許參上、參御堂、有宗朝臣、能守朝臣、予、保季朝臣、隆範等取布施退下、酉時

入夜又歸參、即退下、

廿日、天晴、參角殿、依御物忌不入退下、參御堂、取布施、盛經參入、又々語世間之風等、自今日始精進、

廿一日、陰雨、入夜大雨、參角殿、見參之後、未時許退下、又參宮、夕退下、

廿二日、天晴、未後雨瀝止、入夜晴、警固召仰右少將被參云々參宮、上格子了退下、未時許出京、入夜宮廻、二宮十禪師入王子三宮

御與御王子宮拜殿、於其所奉幣、正眞子客人御與御大宮拜殿、仍又同奉幣、參姬宮御宿所、小時入御御通夜所、例十禪師御宿共同候其所、曉懺法了御共退下、於宿所一寢、此曉御殿開了四御與又御大宮云々、不參會、依稠人見者也、

廿三日、天晴、早旦乘興行杲云棧敷、午後漸渡、巫等往反了後行列云々、先僧綱一物、密々及相論及傷云々次今年經師等依別願乘一物云々、次稱馬頭四人許行列、次所司僧窮美麗過差、次五綱一人、令若當色三綱行列、次社司束帶供奉、二宮執行並祝等、相具黃衣法師二人、神主相具三

人相宜、今年依老屈自閑路參云々、次神馬、中七以後、御子云々、次御輿、七社、次巫等渡了、予乘輿、密々出白山路乘馬歸京、山科取松明、初夜以前著京、

廿四日、乙酉、賀茂祭日也、陰、巳時以後雨如注、不送

摺袴、先日雖領狀、依無其儲不送、去春使少將如此、雖

強不思其報答、依貧乏不構出也、可謂不知禮、不見物、

心中冷然、青侍說云、祭使車造檜皮屋形、左右、庇車歟、

物見ヲ二間ニ作天、懸翠簾前後如何、袖ニ片方ハ屏ノ上ニ

□□□片方ハ唐牆上ニ竹ニ雀、左右ちがへて造之、翠

簾下ニハ板、緣由、歟、板下ニハつるはしら、いしするの石、件

板上ニ薔薇開滿云々、備官人、依武、院武友、同下手、本願、無引

馬、皇后宮使權大進經高、新任、親國巡役也、而老屈之

後、排□□□稱本所舉、依申力、申依經高、本所聞此事、帥入道

等各答訴、親國被譴問云々、但經高又頻懇望、且被□

行粧可爲耻之由訴申之、仍懇恩許云々、備忠武、對揚無、慙、資、

老物異機供奉也、應被召出歟、□教近、右府官、所舉力、□已上木□□也、

其身又定自愛□希有也、馬助仲家、狂物院中近臣□□□訪也、一物私不調云々、

雨下如注、風相交、定越鼻歟、午時許參角殿、凌雨御共

參宮退下、乘燭以後凌甚雨束帶歸參、賀茂祭御禊、宮

主遲參、及深更僅參入、陪膳如例、宮司等故障、宣房

刑部、爲使、依雨南土庇之内敷座、立御幣案、役送宮司

又故障、盛經勤之、六位進季忠奉行之、任替固間、予猶

卷纓、雖○已下脫、文アリ、其加也、此間甚雨拜以難○已下脫、文アリ、蝸廬漏

濕、寢所失度、亂代貧者前世果報可哀、

廿五日、天晴陰、雨氣猶不止、終日蟄居、臨昏參上、參

角殿、心神不快、

廿六日、天晴、巳時許參大炊、未時歸家、靜閑梨來、晴光來臨、談天變事等、又去

廿三日隆保朝臣武士等被召合事等粗語之、隆保武士

同座地上云々、御前御壺也、院執柄御座中、大將親經、盛衰浮、朝臣坐堂上云々、

眼歟、可悲、此間口狀等惣不覺云々、大略一身○已下脫、文アリ、

或云、可遣夷島、或云、可遣以往島云々、但傍外橫災大

略休歟、祭使不具童、依雨無取物、雜色八人萌木縫目

誤脱アラン被御麗綠文出机帳帷衣云々、少納言重定、馬助□時風

流歟如何、亥時許參上、即被寄御車、御最勝金剛院、

中將殿御坐、騎馬供奉、僧等出來、儲酒肴、一兩献、又献出車、

正治元年 五月

九十四

四九四

廿七日、天晴、曉鐘以後還御、出車、女房又參法性寺云、自昨日咳病不快、心神又惱、

廿八日、天晴、依心神惱不出門、咳病外無術、

廿九日、天晴、傳聞、有改元云々、改建久十年爲正治元年、

卅日、天晴、心神惱不出行、今夜家神祭云々、作龜神日來坐坊門、去廿七日渡此宿所坤方了、

○五月

一日、天晴、大炊殿女房告送云、雜熱事候之間、召醫師等云々、

二日、自夜降雨如注、午時休止、未時天晴、雨止之後扶咳病參上、先是小治、宮御御堂、御車如例、大今日有舍利供養

事、兼日有此事、夢想之告云々、被供養千種物、百華、百咲、百香、百燈、百寶、百藥、百符、百歌、百經、百讀、百宗朝臣讀之、百真言云、有轉供、一方僧并五位等小々立其末、一方大臣殿已下五位以上左右八人許、侍

立庭、自庭上机供佛前之机百味百花也、其外物豫置佛前轉供了、有講筵論義之間、移漏及乘燭、依心神甚惱退下、不取布施、左衛門權佐光親催府手結事、先度申候所勞由、

猶可扶者依大將殿家司也、先々本府催之後付職事、仍有

職事催、又年預爲催之、此御時家司如此、定有樣敷申、

三日、天晴、扶病參角殿、見參間入夜退下、

四日、天晴、爲上格子參宮、午時許退下、參大炊殿、御

雜熱、昨今無御煩云々、傳聞、公朝入道公澄等依關東

事被處勘當云々、不聞其子細、枉勢恩寵無双物也、今

有此事、是天之責歟、

五日、雨降、沐浴、晚陰雨頗休、參角殿、深更退下、手結

事不知之、

六日、陰、細雨下止、自昨夕宮御風氣不快之由、有女房

之告、即參上、又參角殿、御共歸參、去夜御酒氣今朝頗

宜云々、心神甚惱、仍退下、夕又參上、晝後又如昨惱御

云々、即退下、

七日、陰、未後天晴、參上、參角殿、御共歸參之後退下、

脚氣殊惱、不能歸參、

八日、晴、已後雷鳴暴風、大雨雹雨、午後晴、沐浴念誦、

夕參上、今日不發御云々、雷鳴之間能季資宗少將等候

御前霞子、

九日、天晴、今日日吉小五月就馬等被起座事云々、公朝法師滅亡事、不知其由來、所知等皆悉被分配人々、各預其恩云々、今朝大臣殿御物忌也、仍不參、

十日、自夜曉更甚雨如注、終日不休、河水大溢、依番爲上格子參上、殿下出御、於御前指將基、國行被召合、三盤了、殿下御堂了退下、河水大溢、蓬屋殆如池、密々向川原方

見之、八條以北在家等多流損、夕爲下格子參、以前他人勤仕了、仍退下、女房密々見水云々、今朝前參河權守忠國死去云々、殿中夙夜物也、日來煩時行云々、於末代當職之時、頗辨是非之上、當時無貳心伺候、有所思物也、世上無常悲而有餘、則此事心神彌惘然、沫泡身誰人可止乎、嗟乎哀哉、後聞、今日御幸六角殿御、□□□□云々、

十一日、天晴、依召未時許參殿下、御灸治、此間於御前大臣殿御將基、臨昏退下、深更御共參角殿、退下、十二日、天晴、已時許參大炊殿、御肩雜熱、自一日止大

黃被付膏藥之間、又左御臂下被見出小瘡、仍又被付大黃云々、依此事驚參女房、云但別事不候、未時歸家、參角殿、秉燭退下、又歸參、殿御共參八條殿、曉鐘以前還御、

十三日、天晴、朝小浴念誦、已時參上、御法性寺、大臣殿御同車、與豫州同乘參御共、御覽造作所、未時許還御、又酉時許依召參上、入夜退下、

十四日、天晴、參角殿、但御出以後也、北政所聊自昨日不例之氣御、但非殊事云々、退下以後、入夜又參上、桂月清明、終夜在御前、多承恩言、臨曉退下、

十五日、天晴、參角殿、未時許退下、沐浴潔齋、十六日、朝間雨瀟、已以後天晴、參上、上格子、參角殿、御共參北殿退下、又參上、候御前、依仰與國行將基、秉燭以後退下、

十七日、天晴、申時雨降、夕休、遲明出京參詣日吉、已一點參着、俄而宮廻登坂、親成依灸治不出來、語相親者令申祝、伴男於坂下止了、年來宿所尼昨日朝遂以死

正治元年 六月

九十六

四九六

去云々、日來不食病過日之處、遂以如此、健御前以伴
尼娘家爲宿所、猶可被籠云々、午終出宿所、申始入京
之後雨降、路頭不逢雨、殊以感悅、夕參上、謁女房、及
曉鐘退下、

十八日、自夜雨降、午後休、夕陽晴、夜月明、參宮、相次
參角殿、秉燭以後退下、又參宮、召慶忠法橋於南殿御而西
戶、讀經一部之間、依召候御前、大臣殿御參、又召丹州
連歌一部給、御共參角殿即退下、月清明如秋天、

十九日、天晴、參御堂、取布施退下、入夜女房達出遊、
資家少將相伴、深更退下、

廿日、天晴、參御堂、取布施退下、參大炊殿、未時許退
出、依召參上、於御前將基、入夜退下、

廿一日、天晴、參角殿、御共參北殿退下、

廿二日、天晴、人云、前左馬頭隆保去夜配流土佐國、夜
中出京云々、依番上格子以後、參角殿退下、入夜又參、
下格子、

廿三日、自夜雨降、晝休止、參八條院、取御月忌布施、

隆信、長經朝臣、賴房、隆範、隆兼參入、中將殿見參之
後退出、又參上、於御前將基、大臣殿御共參角殿、深更
退下、忠行少將參云々、自今日最勝講云々、予不蒙催、
廿四日、甚雨、依雨不出門、車役送女房、

廿五日、天晴、今明宮御物忌也、未時許參角殿、有宗朝
臣參會、入夜退下、前兵衛尉爲景強盜、今日被渡云々、

廿六日、自夜甚雨、終日如注、河水又溢云々、堀河大路
偏如海、所々橋悉流失云々、出七條以北粗見之、

廿七日、天晴、參上、與豫州言談、退下之後、入夜又參
上、八條院女房參入云々、深更退下、

廿八日、天晴、依番上格子、但通參晝夜角殿、刑部參
會、入夜退下、

廿九日、天晴、參大炊殿、申時許歸家、入夜宮女房達被
入云々、予此間伺候御所之間也、

○六月

一日、天晴、早旦依宮御方御祓繼目、著衣冠勤仕陪膳、
又殿御祓同勤仕陪膳、晴光奉仕之、退下之後未時許歸

參、依召參御所、入夜仰云、明後日新有所思、以人令參詣吉田、而能季申輕服由、無可然人、汝參示、無指障可參候由申了、即退下、小浴、召陰陽師令禳了、

二日、天晴、午時參入條院、御月忌了、僧退出之間也、羽林殿見參、移渡退下參口、依召參殿御方、仰云、明日物詣事非別事、此晦日或物夢、以人可令參吉田、內府祈料也、彼母儀又讀心經十卷、可法樂、依此事所願可成由見之云々、仍相親物等之事可詣之處、或異姓或故障之間所不付也、但依憚世間間、如幣不可仕、只如私宿願可遂參詣也、又幣物等別可送之也、於其事者不可專知也者、此次多承古事等、不逸記、入夜參角殿、今夜經讀僧參入、令聽聞給乎山、早仰申之、深更御共歸參之後退下、

三日、天晴、辰終許出門參吉田、寄奉物、令申祝了赴歸路、午始還家、快凝信心後、想云、信定卜云人可參候歟云々、信定尾張權守、雖伺候已異姓也、仍被仰能季、申障間被用予、此定宗頗和計、信定是信心家也、尤所

貴思也、今日依御物忌不參大臣殿、昏參宮、

四日、天晴、參角殿、今日車借、女房都隨、退出料也、

八日、天晴、不出行、念誦、入夜例女房達被立入、爲謁健御前也、

九日、天晴、參角殿、申時許退下、依召參御堂、入夜退下、

十日、天晴、巳時許參大炊殿、申時歸家、

十一日、天晴、參角殿、終日伺候、入夜退下、依番雖參上、格子了後也、晚景大臣殿有御禊、奉仕陪膳了、

十二日、天晴、參角殿、刑部參會、入夜退下、資宗少將參會宮、

十三日、天晴、依月忌念誦、申時許依召參御堂、○以下闕

思有風聞事、今日任大臣召仰了云々、入夜著行幸裝束參內、但申騎馬障、供奉內侍所也、於西廊邊相逢右將

達、先是被了良久間出御由、右將等滅了、成家朝臣、

公信朝臣、兼季朝臣、有通、公卿列立、右大將、近渡階前更南折立、

隨以著染、別當花山中納言、忠經、中宮權大夫、右衛門督、二

正治元年 六月

九十八

四九八

位中將、三位中將云々、不委見、少納言重定鈴奏了寄御輿、左將雅行、宗經、公清、雅親、師經、隆清朝臣云云、次第如例、乘輿了、殿下如例早出給、出殿上方給了、下臈次將昇自西下格子了、卷机帳、良久同輿了、取机帳之間右大將揖出、次御輿出御、次將兩三人閑出西方、騎馬不常也、雅行之輩也、出御了後、予進寄內侍所御方、密經南庭藏人大進長兼來加、相共奉出、予先陣如例、予入宣陽門暫奉止於門外、令奏事由、未聞復命之間、長兼只可奉入由稱之、仍即入御了、予跪地退出、密々於待賢門騎馬歸廬、任大臣召仰、左大將一人云々、此事當時無闕云々、或人云、有子細云々、

十四日、天晴、參宮退下、

十五日、天晴、月他已時云々、依始精進洗髮、未時許參角殿、昏退下、

十六日、天晴、宮御物忌也、參角殿、夕退下、

十七日、陰、風涼、未時許出京參日吉、入夜宮廻通夜、

十八日、自曉雨降、午後休止、未時天晴、曉赴歸路、甚

雨之間入三井寺、汎園梨房借輿、法師四五人、猷園梨來會、已時許出路入京、入洛之後、未時許參角殿、入夜退下、戌時許參宮御方違、渡御法性寺、予、資宗少將、兼時、國行、持守供奉、曉還御、今夜右大將任大臣召仰云々、一度任大臣、兩度兼宣旨始例歟、

十九日、天晴、宮依犯土事、御御車御文殿西庭、供奉了參御堂、未時許例講始了、論義了、取布施退下、參角殿、昏依召歸參御堂、仰云、前太政大臣昨日請前座主出家、今爲宮御使可向彼亭、其次又可示事付等者、承了退下、暗夜遠路雖無術、相具青侍等參向禪林寺南山座主兩方、御訪仰了、以遠江權守定綱申入之、承御返事歸參、依御寢示付女房了退下、右大將夜前召仰了、今日一日造直寢殿立四足門云々、土御門家也、日來謙退、忽如任其意、如何々々、不審々々、

廿日、天晴、申時許參宮、入夜退下、卷說頗似告實事、又私通歟、依被秘無聞及事、世間人々遍又稱告事由云云、不知實否、小女子今日行向三條坊門、健御前又被

參八條殿、次第非尋常儀、當時伺候女院御方料云々、
簡居事女院深依咎思食、此御方許早可參由頻被仰、

廿一日、天晴、巳時許參上退下、又參角殿、見參之間、

如當時之事可成就歟、障得不知之、何爲乎々々、清長
藏人大官、參入、所示語大略此趣也、猶實事云々、殊隨時儀

人已參入、雖有若君御乳母之名、近年不參人也、

廿二日、天晴、任大臣日也、稱有勞事不參內、申時許良

業以風聞說注申之、太政大臣賴實、左大臣良經、右大

臣家實、超實定隆忠良三卿內大臣通親、權大納言泰通、超親宗通資、房權中納

言實教、參議一兼良、參議家經、終日在御前、及聞此事心中欣

悅、無物取喻、於此上者各御宿連也、事次第更不可云

盡、今日內辨新大納言泰通云々、兩大臣大體相互尊者

云々、晚不參宮退下、

廿三日、天晴、參左大臣殿、藏人大進長兼、藏人次官清

長等、今日以長兼可爲執事家司由内々被仰、拜賀日時

事等即奉行以晴光令擇進、來月五日云々、公卿底金職事兼時可

行之、大藏卿内々執行雜事等歟、參八條院、取布施、歸

參之後退下、乘燭以後內府拜賀云々、源氏不論題乎、
拂底供奉云々、

廿四日、天晴、見夜前開書、

侍從藤忠房 小內記藤國俊 大膳權主小槻能兼

・越後守源具兼 伯耆守藤濟基 左衛門督藤宗賴兼

小尉藤成重 同秀康功 右衛門督藤信清兼 小尉

藤基貞功 左兵衛督藤定輔

正治元年六月廿三日

從三位藤道經中將 別當宗賴 使左衛門尉藤信久

左大臣 內大臣 大將 如元 宗經中將 禁色基良

通光

人云、太政大臣不被仰可任之由俄推任、聞此事閉門云

云、或云、土佐國務同辭之、排闥上表云々、無兼宣旨之

條、勝事歟、參左大臣殿、入夜又參入、多承除目事儀

等、深更退下、御拜賀延引來十三日云々、予可御共由有仰雖中思何事○

以下脫文云、女房行向三條坊門、入夜歸來云々、

正治元年 七月

廿五日、天晴、右府未時許拜賀給云々、殿上人廿人、前
駐公卿、民部卿、光雅卿、定隆卿、範弘、渡鳥羽殿御接
敷、被參南殿、今日潔齋、依始精進也、參上退下、

廿八日、天晴、參廻如例、奈良醍醐法性寺殿下御子息
依召參會給、入夜退下、

○七月

四日、天晴、拂曉出社頭歸洛、於三井寺前天津曙、酉時

許東帶參左大臣殿、三條中將以前參入、藏人大進行

事、乘燭以後御出、御車以下如恒、前駐十八人之内、六

位二人、中宮少進秀忠、
勾當信親、五位十六人、國行、長俊、兼時、信光、國
基、清實、榮清、宗保、元基

保、宅綱、行時、國時、成廣、親輔、
範綱(知範兄)、有長(長俊子)、武安爲衛府長在御共、布衣、

中將成定朝臣、少將、予、資家等乘車扈從、先中宮、中

將取御沓、藏人大進御拜了令參御前給、次被出御送

物、中將
取之、琵琶、袋、次自南面會參殿御方、供奉人自庭上

同參於釣殿方、御拜、藏人大進申之、北政所資宗少將

中之、即自庭上御出、中將褰御簾、予取御裾、九條西

行、高倉北行、令參院給、路次見物雜人并車不異晝晴、

嚴重無疆、丹波守信雅朝臣申之云々、拜舞了令參御前
給、口儲堂燈御座等、被引御馬、下自東對南階取綱令

拜給、中將進寄請取之、諸大夫取松明、御馬諸大夫御隨

身引、忠綱、兼
澄云々、御退出之儀如前、次内裏、二條四行
中將申之、次頭

權大夫出來口仰昇殿歟、即御昇殿著座、次參殿上申御

前召事歟、即被令參御前、日御座云々、御引
直衣出御云々、次御退出、七條

院右衛門權佐親長口之、帶劔取笏奉出逢退入、解劔昇

申事由、不帶劔歸來、此儀如何不審、拜舞了、親長又氣

色令昇給、御送物琵琶、次宣陽院清長申之、儀如前、御

送物琵琶、次八條院長經朝臣申之、拜舞了、口口口同

人申之、次又氣色令昇給、口口口俄而御退出、御送物

筆、口上中將皆取之令還入口口、長兼申政所吉書、挿文
御覽之後返給、不
結申退出下之歟、

來、進出於檻下給、武安懸肩退出、即歸廬、窮屈失度、今

度武安老氣歟、總仰天、今夜衛府武安給生衣事、今日

可有御參之由被申殿下、仍御返事云、家無便宜、爲之

如何、又被申云、不可依御所仰事、不參乎、御返事云、

內府拜賀之時、依大鑿申請女院御所了、今度は非被中、於此家は無便宜、仍不可答拜、不可引馬者、於此上は又不及沙汰□□御返事旨可然乎、奇特、

五日、天晴、巳時許參口上格子了、參南殿申日來事等、

未時退下、日入以前、束帶歸參之後、二位中納言參給、

即○以下閣被下立中門外、予取御沓至南階献之、即下南

階出中門、向納言於門外乘御車、先次納言乘車給、是

予祇候脱力資宗少將參云々、富小路北行、以人立辻兩三、先此間乘了、令禁僧尼等、是例

也、前驅八人、五位、六位、於信乃小路辻、三條中將參會、信乃小路四行

高倉北行、七條西行、洞院北行、三條坊門西行、町北

行、自二條御參內、引帳、入左衛門陣直御著陣、經數政門代、引御尻、

左中辨公定朝臣、少納言隆經、大外記良業、六位上官

等在床子、各致禮、直著端座、作法召官人令敷膝突、次

右大辨宗隆、著座、與橫座、昇坐揖、即退立、著床子座、六位史

献申文、大丞披見返給、史插文杖持來、大丞先著座、

端橫座次史重献申文、令拔取給、持杖候膝突披見、三通、口北、

返給、史結申之退出、次大辨復與座、次頭權大夫參、

經柱外如也、□□□披見之、大夫□一詞也、不聞也、退立、次召官人召辨

□□十人參入候膝突、下給書、即結申退出、次左大辨

退出、次御退出、留御前、上官平伏、並路左右、令立留

給、御氣色之後、上官稱唯立、喚召使、二音稱唯、上官

又平伏、此間前所等自其後進出前行、曳御裾令過給、

令取御裾給、召使前行追前、於幔內召使等平伏、不下

御裾出門外、乘御御車、中將襄御簾、予取御裾、經本路

還御、了退出、今日藏人次官爲院御使參入、明後日御

幸法勝寺、可有御參者、於騎馬有障、可參山可申由被

仰、殿上人云供奉、云故障、各欲參御供、但於御幸以後

者、供奉人々定可有便宜、於路頭并若爲御幸以前之儀

者、已以無人、猶雖路間可參御共由有殿下仰、於事無

便宜、雖有事憚申承了由、右內兩府供奉云々、嚴重嚴

重、昨日三品局於大原出家云々、殿下數御子息母儀

也、

六日、天晴、參角殿、入夜退下、神宮上卿事、此間可被

仰云々、又仗議事已被□□神宮神鏡事、香椎宮神人自

正治元年 七月

百二

五〇二

害事云々、祈年穀奉幣、公卿勅使召仰、連々可出仕由有仰、

七日、天晴、早旦依召參大臣殿、東朝、今日御供儀甚無術、只隨仰也、於路頭可止云々、辰一點御出、於最勝寺西程立御車、被奉待御幸、予自此所退歸見物、殿上人廿餘人許、公卿右内兩府、民部卿、高倉大納言、泰通、二位中納言、兼其、新中納言、實教、中宮權大夫、別當、右衛門督、三位中將、左兵衛督、三位侍從、右京大夫、高三位等也、奉見御車之後、依暑氣難堪、入押小路殿、借請仲資朝臣領者、入殿上廊休息、開夕座訖山歸參尊勝寺邊、御幸以前還御、即御供、右府自庭上退出、内府著座、行香以前退入、參御所、殿下御坐籠中云々、後開、無召推參、後日有不快御氣色、行香之後御退出云々、入夜參一品宮、依御節供也、予陪膳、前少納言賴房、右近將監隆兼等役送、事訖退出、昨今心神甚不快、咳病歟、八日、天晴、雷鳴大雨、不經程天晴、申時許參上、宮、大臣殿御坐、左中辨參、入夜退下、神泉御讀經今日結願、

雨不下、

九日、天晴、午時許參大臣殿、今日始直衣、可令參院給云々、御供少將資宗可參、未時許退下、今晚殿下御大原、密々兼時、經光御供、令訪三品出家給、酉時許參大炊殿、戌時許退出、參八條殿、又參宮退下、咳病殊不快、十日、天晴、午後大雨雷鳴、其聲猛烈、申後雨止、雷猶不止、昨夜夢想云、予依人詠詠和歌、

さかきはを吹秋風のゆふかけて神の心をなひけと
そをもふ

寤後案之、日吉重可致祈禱之由、此間案之、未思得其事之處如此、仍可修神樂之由思得也、仍今日立使、送料物等親成宿禰許、示神樂事了、明日可送之也若有感應者可謂不思儀耳、右少辨參宮云々、世上之儀古今如此、如何如何、巷說云、前大將第二娘又如姊長病逝去云々、漸聞定說也、晦日逝去、年十七云々、(四)

十一日、天晴、早旦沐浴潔齋、本府催明後日皇后宮行啓事、申所勞了、午時許參大臣殿、大外記良業參入、明

後日修事定無人、近代之儀召使催及兩三度、公卿加放言更不及返事、於今者被仰職事可被催歟、被仰頭權大夫了、來十八日祈年穀奉幣延引云々、乘燭之程、始直衣令參院給、資宗少將直衣、在御供、昏予退下、未時許小兒病惱、日來小女每日發、○以下闕文アリ餘廿日了、又如此、物忿之甚也、但近日天下一同病惱云々、入夜參八條殿退出、

十二日、天晴、去夜夢與人談云、予去常職可任內藏頭、仲經闕時歟、藏部雖要須官去欣躍、何不遂望乎、次又去藏部者、其時可補貫首也者、此夢可謂吉、仍注之、後半見之無答、虛夢歟、

今朝女房令參皮堂、是又依有夢事也、靜快閑梨於今者平減了云々、午時許參宮、即參大臣殿、與州參會、未時以後大雨雷鳴、昏休止之後退下、小兒今日無別事、但猶申時以後聊有溫氣云々、

十三日、天晴、參大臣殿、今日依條事定御參陣云々、忠少將參御供、但右內兩府今日著陣、其後可有此定、仍爲相計其程、先可參院山被仰、後聞、內大、臣不著陣、申時許退出、參八條

殿、入夜退出、參御堂、又參宮退下、小兒今日又未時許發云々、小男又此兩三日溫氣病惱、天下瘡病不可勝計、三人子共病、不思議也、

十四日、天晴、參宮、大臣殿御坐、未時許退下、盆供、拜之送法性寺如例、入夜向坊門、禮佛不口千人騎馬、歸路逢上皇御車、四裔八極速如飛、於高辻東洞院已一町之內也、馳馬逃隱之間、下人等云、御車ムナガヒ切結之間、經程適隱得、是今日冥加、速之聊不盡也、雖自今以後、如此路頭可慎怖事、依無益、此條猶不可披露之由、誠僕從了、

十五日、陰、辰後雨下、始有秋景氣、參大臣殿、終日、入夜退下、明日仗議延引云々、關東女子穢氣不審之間、公卿使延引、九月可被發遣、仍此仗議又依不可被忿被延云々、一昨日條事定、左衛門督、中宮權大夫、左大辨、冷泉中納言、陸房、參內、行祈雨奉幣并除目等事、巷祝有聞、一定、件除目、土佐守宗行、太政大臣成根、辭職并同僚、仍又忠告歟、勅許被召了云、幸人宗相給之、新妻之故、和泉守宣房、元石見、長房給、石見守雅家、元加賀、大相國出家之後、大略

正治元年 七月

百四

五〇四

被召停歇、但石見替國云々、加賀守親時、親宗卿朝恩給之、以二男任之、去年南宮兼徒所給、還太事歟、去十二日以信清卿被補御腕別當云々、公經卿遂以被改歟、施居之間猶蒙給言、依呈御馬御劍等、悉納受云々、世間之體、□□□□□□□□□□、

十六日、天晴、參宮、大臣殿御坐御堂、信光云、明後日可令參般富門院給、可御供者、申承了由、夕參大臣殿、左宰相中將兼參入、又神祇大副爲定參入、申小朝熊社神鏡事等、私所在申之、事次被仰神宮上卿神事間事、深更退出、

十七日、天晴、參八條院、來廿八日姬宮於日吉可有御經供養、可參之由有仰、公卿勅使延引、依穢疑者參否如何之由、雖觸女房、其條不然歟、於此御所者、更不被憚、猶可參歟之由、女房有命、仍申可參由了、未時許參大臣殿、兼定參入、稱院宣、奉鴨社氏人二人私論文書、理非之間被問三公云々、最小事也、晚景退出、

十八日、天晴、辰時許參大臣殿、已一點御出、令參院給、地下雖進退谷應參入、令昇給之後、雖昇下侍殿上下、

緣邊、日影暑氣難堪、仍私退出、參大炊殿、資家少將同在御供、仍事不可、良久難色奔來、告御退出之由、令參御所給云々、即乘車、大炊

院門西行、於二條壬生奉待御車、御供般富門院、仁和寺安非殿

小時御退出、漸及西日、車中如燒、大宮南行令參八條

院給、又無程還御、自宮御所退下、依暑氣難堪也、人

云、出羽守基定妻君代、院御時、依嫉妬行向常光院、齊院

引入伴女打調之、伴女從女參齋院、併訴申此子細、民

部卿聞之、仰執行召出彼院預、勘發及檢非違使云々、

刑罰過法歟、共以不思議、雖下女心操可彈指、女髮多

落散彼御堂廊云々、

十九日、天晴、昨今炎暑殊甚、未時許參御堂、取例講布

施、保季、國行、有雅四人、度々取之、訖退下、改衣裳參

大臣殿、見參、及深更退下、月昇後也、

廿日、天晴、鷄鳴之程出門、相具女房於八條殿相伴健御前向嵯

峨、日出之程到着、少輔入道來謁、

廿一日、天晴、遲明出嵯峨、日出以後歸九條、依暑氣難

堪不出行、人云、三宮始參院給、殿上人等前驅云々、不

聞其儀、強出仕、近代無指用歟、只追從之至歟、

廿二日、天晴、已時許參大臣殿、仰云、今日可渡神宮文書、仍沐浴之後欲解除者、未時許晴光奉仕御祓、于陪膳、殿下御衣冠、於庭上御祓了、有御拜、爲請取彼文書、家司親房束帶伺候、以中門妻戶內爲置所云々、申時許御供參宮御所、殿此間御不例、兩若君又令煩瘧病給、入夜御供、歸參之後退出、今夜所々婚姻之儀、宗賴卿執侍從通光、國土之內無不經營人、侍從親房迎信清加姫云々、

廿三日、天晴、已時許參八條院、御月忌例講了取布施、予兄弟、長經朝臣、賴房、範宗、隆範等參入、退出之後參入道殿、此間御坐北小路成實宅之由聞之、仍參入、少納言參會、小時相共退出、暑氣難堪、夕參大臣殿、入夜退下、左中辨依召參入、被仰祈年穀奉幣等、來月三日云々、人語云、通光煩瘧病、稱吉例強以配合內府、迎通宗卿女之時有此病、翌日落了云々、今度毎日發云々、

廿四日、天晴、參上如例、大臣殿御此御所、午時許還御、御共參、大外記良業參入、有召參御前、承仰之後、稱唯退出、夕

退下、

廿五日、天晴、早魃涉旬、參大臣殿、今日依小朝熊神鏡定、可有御參內、公卿等多申障云々、甚乏少云々、右府雖有別院宣、稱病不被參云々、今日正二位行中納言平朝臣親宗薨、日來病惱云々、春秋五十六、去年爲南京衆徒訴訟、被停和泉國、不過程預加賀朝恩、子息雖有流入號、剩浴正二位之恩、此事背神慮歟、給國之後不經幾程、可謂嚴重、申時許依召參殿御方、兄若君御坐御堂、今日令落給了、隆聖已講候護身、予蒙感歎仰、參向仰之、薄青單衣重相具之、侍持於御堂取之被之、即傳仰旨了、有悅喜之氣、即依仰歸參、以女房給下總國三崎庄政所御下文、蒙種々恩、是奉公本意也、參、申并悅之由退出、參大臣殿、密々示尾州退下、又以女房申宮御方了、遼遠所雖不幾、御志之至超過傍輩、可謂面目本意、去春以伊賀、庄給女房、御匣殿其時此事殊仰出云々、今最前預此恩、殊增氣味候也、

廿六日、天晴、早旦參大炊殿、午時許向坊門、未時參八

正治元年 八月

百六

五〇六

條殿、即歸廬、女房此間向西九條、歸來之後參御所、大臣殿御坐、無程退下、人云、親宗卿僻事也、猶存命云云、

廿七日、天晴、參大臣殿、兼定參入、進神宮文書、縣所記

狀、着直衣令出逢給、兼定獻文退出、小時左大辨參入、

進一昨日仗議定文、又令謁給、入御之後大丞招予談

話、退出之後、參宮云々、申時許退下、午時許親宗卿一

定入滅云々、

廿八日、天晴、入夜退下、依仰獻車於宮女房堀川殿、通親

內府、今夜初參一品宮料云々、備前同相伴初參、

廿九日、天晴、今日以難色光澤始下遣三崎庄、爲觸地

頭也、此男官仕勝傍輩、心操正直者也、雖有恩顧之志、

無力清貧之間、年來無一事之芳意、此庄又雖有拜領面

目、已以不及重下沙汰、只依地頭進止、相尋其運上云

云、然而若雖聊事、依知行之始、所下遣也、路次近邊等

少々求便書給之了、午終許仰云、只今爲御使可令參般

門脫力富院者、仍借求牛僕、申始許參上、仰云、爲宮御使可令

參彼院、御發心地之由承之、依不審所馳申也者、又其

次可傳申我詞、又可申仁和寺宮、只今依承及馳申候、

御心地何度許發御乎、兼又護身之由承之、頗早速候

歟、如何等之由也、馳參各申此由、院以女房申之、宮

事云、廿五日以後今日及三ヶ度、以實全法印令護身之

處、今日又發御了者、宮御返事大略同前、但此間範御

廣隆寺、於彼寺御惱出來了、昨日所還御也者、歸參、乘

燭之程申此由、仰云、於廣隆寺御惱出來者、又平愈之

後可還御歟、次第之理似不當、尤爲奇者、即退下、又申

宮御方了、頭中將右大辨等參會、

卅日、天晴、午時許參上、大臣殿御坐、退出參八條殿、

相伴黃門行向坊門、參大炊殿、乘燭之程歸家、

〇八月

一日、天晴、參大臣殿、旬御被奉仕、陪膳了、清光奉仕、庭中敷御座、

今日左中辨、頭置大夫、藏人大進等參入、皆令謁給、乘

燭之程退下、人云、般富門院今日又令發給云々、實全猶候、兩

度違種々御祈、自方々被始云々、

正治元年 八月

百八

五〇八

事如例、南線敷盛、予、公茂、隆實、依無人儀被催出二、著此

先是令置御願文、爲長草之、光親書之、人共無官五位也

座、予仰可發願由、導師昇禮盤說法、大衆聽聞、不知其

數、良久事了、予以下取布施、導師被物二重、單衣重一

領、布施一襲、色々布二襲、各二度取之、次請僧紙裏各

一、兩手不取之、次寄御輿還御、于時申終也、入夜私奉幣、還入

宿所、又參上御所、御通夜、御共私通夜、曉鐘以後、御

供參入御所、退下、

七日、自朝小雨降、未後甚雨、午時許參大臣殿、藏人大

進長兼參入、心閑談心事、終日伺候、深更退下、延景僧

正一長者、承祈雨御所、無程甚雨、可謂靈驗、但爲國土於今

者無益歟、

八日、通夜雨降、今日猶不休、午後雨止、天猶陰、未時

參大臣殿、小時御被了御出、成定朝臣參入之處、先參

宮著座、仍空退出云々、仍一人參御供、於左衛門陣、召

使申云、上卿著陣、被行內文事者、即令昇殿上給、召職

事長兼被仰勅使定間事、此間昇下侍、良久內文內覽、外

記歸參云々、此間於聯子外伺見之、少納言忠明取筥置

案、請印了、置上卿前、出口華門退出了、撤案令撤膝

突、上卿退出、予申此由、即令着陣給、左中辨爲內覽參

攝政殿、良久歸參、不見此間事、依窮屈在閑所、次有軒

御卜、良久事了御退出、秉燭以後新大納言通資、參殿上、

承勅使事、前駐六人、三人不相隨、參內侍所退出、自今夜坐廣元頭、

二條宅云々、

九日、天陰雨濕、御所又穢事出來、三十日云々、述々不

思議、久不可參入、每事鬱々、巳時許參大臣殿、御覽馬

牛等、北殿穢事被尋仰明元之處、七々日之由申定了云

云、件穢物背骨殊與頭不放云々、仍有卅日疑、然而腹

方已失無五藏等、仍可爲七日云々、午時許退出、參大

炊殿、申時許又退出、參八條殿、秉燭以後歸廬、中將殿

自去四日惱給云々、但別事不御坐之由、賴保示之、或

人云、兵衛佐師親死去云々、不知實否、後聞、定說云

云、件師親信輔朝臣子也、而甥定輔還爲子、御熊野詣

御共人等多故障、有其沙汰云々、

十日、終夜雨、辰後天晴、早旦馬一匹以忠弘引送勅使

大納言許、雖甚無恩、依爲女院執事致志耳、今度猶不被觸馬事、是依惡予甚也、雖然且依存神事、冥加引之、但異樣瘦馬也、日來往反日吉、遠路偏用之、雖容舛闕、無過失逸物也、返事遮引送、本意之由有悅氣、未時許參大臣殿、大府卿參入、申鞍事等、近日水干袴被尋事也、終日伺候、入夜退下、傳聞、師親事被定定輔卿子了、仍仲經、親兼、并右衛門督以下無服憚云々、

十一日、天晴、參大臣殿、御被陪膳了、刑部卿修理權大夫等參會、俄密々被講絕句、今日故被始之、成信知範許歟、和歌同事別紙、是十六日夜聊爲被述講席也、

十二日、雨降、參上、先是覺玄律師送書、披見之處、在九條宿所之由載其狀、仍忽有穢疑、申上之處、仰云、不慮見書者不可爲穢、早禱了可參者、仍私召陰陽師禱了參上、興州爲御被陪膳、依雨於堂上有此儀、勅使進發以前每日可有御稔云々、入夜退下、自女院給卷物一卷、申請御本、即返上之、

十三日、夜雨止、天晴陰、參上、午時御院參、成定中將

御供、御出了退下、申時許又依召參入、今朝奉仰送消息左中辨許、而稱出行由無返事、今日執柄同參院給云云、無御對面、御幸七條院、并刑部卿三位家、件三品長病、萬死一生云々、明日依被始熊野御精進、有御幸歟、入夜退下、中宮權大夫消息、明後日德大寺八講來臨乎者、可參向之由領狀了、

十四日、陰、早旦參大臣殿、承仰參僧白川正御房、日來病惱給、依昨日聞及所參入也、次申御事傳了、去二日於小野有此病氣、仍還此本房之後、雖似增無減、大略是最後病歟、雖可謁言談枉辛苦之間、以人相示之由、以良雲律師被仰、小時法印御房令謁給、此御病之體、尤恐怖之由被仰、即退出、參大炊殿、申時許歸家、自車中心神忽不快、手足繼目甚痛、俄而又參大臣殿、申御返事旨等之間、心中猶違亂、手足猶冷之間、恐退下之後忽病惱、酉時以後前後不覺、夜半許之後、聊安堵、是發心地歟、去年已以獲麟、今又如此、運之盡也、

十五日、陰晴、曉更女房密々令詣日吉、依見苦不告親

正治元年 八月

百十

成、今朝心神雖無別事、憶病之間不向德大寺、以忠弘觸中所勞之由了、

十六日、雨降、午後時々休止、早旦參大臣殿、已一點御被了御參內、與成定中將參御供、入左衛門陣、直令着陣給、此間勅使大納言參內、前驅四人、少將相其、同着陣、依發日怖畏、即退出歸廬、未時許發出、乘燭以後汗聊出頗寤、勅使發遣之儀不聞、

十七日、晴陰、雨降止、

十八日、天晴、入夜雨降、自朝浴垣山湯、本自不堪湯之間、不及經程、四々度上下之間、未一點許於槽中發出、今日動熱無物取喻、湯甚不快歟、溫氣如火、悶絕周章、終夜辛苦、

十九日、雨如注、曉更之後、心神聊安堵、昨日發殊無爲方之間、臨氣窮屈、無力殊甚、飲食總不似例、心神有若亡、後聞、今度勅使每事不合、下人等大略入飢、馬多被盜取、甚不便云々、

廿日、雨降、申時天晴、早旦詣九條宮小路地藏堂、近日

發心地有微驗之由、人々稱之、入壺稱之內祈念、未時有其氣、仍忿歸之間、如例發出、但溫氣事外宜、申終許汗出漸寤了、乘燭以前復例、是致信心奉念十禪師之故也、今日聖尊阿闍梨來問、日斜了、明後日可被來臨之由約束返了、

廿一日、天晴、午時許自大府卿許送越後廳宣一枚、年來比肩之輩皆在此列、一人漏之、是依無故禪門之好也、而今始以御意被沙汰之時有此恩、近代之法以之爲面目本意者也、恐悅之由返答了、又以書狀申女房許、又示尾州了、後聞、成定中將同給之云々、尤爲本意、咳病又更發、心神惴不快、殿今夜御方違、御法性寺云、

廿二日、天晴、午後陰、聖尊阿闍梨來、已時許即護身、申終許有其氣、但事外宜、幾不振、入夜之間寤了、闍梨發出之後還去、明後日猶可來之由示了、後聞、天台小僧、號少將、予有猶子之儀、今日死去了云々、後日聞之、去年出家、法器勸也、可惡々々、

廿三日、終夜今朝猶雨降、入夜進車北政所、密々令參

一品宮給云々、依御不例、日來六借御云々、

廿四日、終日雨降、聖尊阿闍梨又來、終日護身之間、今日無爲落得了、感悅無極、一牛引之了、依無他物不與之、乘燭以前還了、但咳病此間無術、仍心神猶不復例、越後小所今日示付右衛門尉通達了、此男雖不知心操、近年以後頻入來、春相伴春日遠路、日來無一事之恩、仍所云付也、此所石六十許云々、極不幾、只以名字爲大切、

廿五日、雨猶降、申後陽景晴、咳病殊辛苦、未時許仰云、今夜可參八條殿、御共人皆以故障、雖片路扶參乎者、自今朝大略不食、身軀苦痛、目眩轉雖無術、此仰上不能申是非、申承了山、但無牛、又自御所給國行牛、仍如形著雁衣參入、日人以後、乘燭以明、以前御裝束了、即御出、此間與州又參會、兩人參御供、大理在八條殿、入御之後無程退出、牛返了、豫州語云、去十九日自大臣殿被獻御馬、雲雀毛新馬也、置示于鞍、大略以銀作之、今一匹鴨毛、不置鞍、伴雲雀毛尋常之由有沙汰、即被用御馬了云々、人云、今度勅使長途人

飢、下人等多以無力、又馬盜多取馬云々、勅使歸洛、於粟田口落入深泥、甚不便云々、

廿六日、陰、未後晴、未時主計頭資元人來、隔障子談話、能圓法印死去云々、一昨、比歟、其娘督殿猶昨日在禁裏

之由、有其聞云々、近代之法耳、又語云、昨日被立止雨幣、忽天晴、有感應歟、上卿二位中納言云々、

廿七日、天晴、朝後陰雨濶、酉時天又晴、信光入來、語云、院於熊野道、聊御不豫之由有其聞、未知實否云々、

入夜宮澁州密々臨健御前方、談少々事等歸參、今夜宮所宛云々、權大夫參入、職事忠行少將參云々、

廿八日、陰雨又濶、已後甚雨、今日大臣殿令參般富門院給云々、咳病殊惱、

廿九日、通夜甚雨、終日不休、入夜猶如注、旱損所殘悉水損云々、越部庄去十九日洪水堰山襄陵、一項無餘殘之由、今日使者告來云々、不運之身遇亂代、以何支餘命乎、哀而有餘、通達又云、被付攝政殿小舍人被破燒宅云々、可謂不思議、

正治元年 九月

百十二

五二二

○九月

一日、通夜如注、今明猶甚雨、今明宮堅固御物忌云々、
二日、天顏始晴、朝陽快明、通遠來披子細、

三日、天晴、自西自東開損亡之由、門々戶々無不愁悶
云々、明年革命、已以在眼歟、不運之身存命何爲乎云
云、今朝健御前被參御社、家中今月以後惣無所憑、日
夜只仰天云々、咳病雖不得減、依日數久積、今日沐浴、
宮御燈陪膳成定中將勤仕之云々、

四日、天晴、今晚忠弘下向越部、爲見損亡之跡也、健御
前午時許歸洛、濱路爲水底、仍往反之路用山路云々、
左衛門大夫知範入來相逢、

五日、天晴、靜閑梨來、入夜濃州又立入、爲謁健御前
也、傳聞、八幡檢校成清逝去云々、不聞其日、末代運者
也、

六日、陰、朝後又雨降、光資來、昨日齋院渡御、御八條
殿云々、自昨日供奉、

七日、通夜雨降、巳時許聊休、午後又甚雨、辰時許出

京、來向嵯峨、爲述心緒也、未時許女房達密々來向、秉
燭以前歸洛了、忠行少將車借用之、爲拾栗也、但依其雨無
其興、宮中人猶以不令知、

八日、朝後雨似宜、巳時許又甚雨、午後雨止、閉門病
臥、不聞車馬喧、聊述心、入夜又雨、夕小浴之後、心神
殊惱、此間少輔入道來臨、隔物談話、即被歸了、上皇今
日御還向云々、人云、季弘死去了、未聞其仔細、

九日、雨如注、午時許出嵯峨歸九條、路次甚雨難堪、入
夜健御前參八條殿、

十日、朝猶甚雨、巳後聊休止、未後陽景晴、夜月明、入
夜杲云來、所招寄也、貧乏闕如事、謹責苛法事、日吉御
八講用途源亞相平切懸、杲云平遁避、兩人厚顏之間、
一身失詞耳、來十七日、女院可有御幸日吉云々、

十一日、朝陽晴、珍重々々、八講用途事、以假名狀申入
之處、聊被處不便、可切替他庄之由有仰云々、此事更
不可叶、上御意全以無益、宗賴卿知行庄可勤仕之由、
雖有上仰、三品局退絕、只可計沙汰由、被仰應云々、是

本支度也、但可參御供由、清季又示送、病宜者可參之由返事了、今日始病惱聊事宜、依聞無人由、欲扶參、是又無益奉公也、忠弘以消息申越部損亡仔細云々、

十二日、天晴、終日不陰、夜月明、甚爲珍、龍壽御前被渡健御前、又同會合、夕兩人被歸了、夕奈良僧都被送人夫五人、爲法性寺殿御造作、兼日所示付也、即觸權大進送遣了、吉力下同太宮用途事、猶以問答、龍壽御前今日物語、其次云、所召仕之女房爲令吐虛令入御所、大炊東車

寄南細所、而有怖畏氣色、依奇思強問其故、甚雖秘藏、強問之間、語云、去年七月之比歟、爲伺見舞、女一身入彼細所之間、同形寸分不違物六人並坐、與我問答、其詞之內、我約束云、奉爲御所不成凶、不奔散、被坐此所者何事在乎、全不可語人申了、仍此事一切不可披露之由存之云々、重雖問其容體物樣、委事依成怖畏秘之、不可申之由稱之云々、但非法師、非尼、非女、非兒之由稱之云々、所推量人コソ小物歟、雖極不審、不語之間力不及、抑件女房雖有如泥尾籠、不好虛言、仍所信受

也云々、今聞此事、奇而猶可奇、若非虛言者、末代奇特何事過之乎、仍記之、惣彼所於事有如此之聞、院御所之時、女房等見尼成怖云々、又齋院先年御寢殿之時、女房周防有驚事、申其事之後、非御寢殿云々、予值遇彼御所十五年、云禁裏、云射山、云槐門椒房、日夜相馴、未嘗見不審事、聞此事大奇驚者也、殿下御坐之時、又女房達時々稱怖畏之氣、今思合頗有云々說等歟、後日間之、全無別事云々、又云、民部卿參間、爲謁周防、在簾中之間、尼來坐傍、存別當殿來由不憚、又見遣之時、忽然不見云々、初夜鐘以後相扶參東殿御所、依所勞宜扶參也、明日坎日也、仍今夜相構謁女房退下、十三日、天晴、夜月明、秉燭之程參上、權大夫參入、大臣殿令謁給、資宗少將參入、不得便宜之間、聞渡御之由參御堂、良久之間、病屈退下、

十四日、朝天晴、已後俄陰雨降、申終雨止、天猶陰、入夜月漸晴、午終許凌雨參大炊殿、夜部還御云々、申終退出、著束帶參宮、百日御被繼目也、權大進兼時役送、

正治元年 九月

百十四

五一四

於御車寄妻戶、如例勤仕了、秉燭以前退下、人云、知光

少將妻逝去云々、依座事也、是仁用寺法師娘也、先參中宮、其時備觀覽、有召院參、寵哀之後、件少將好之間、御氣

色猶不快之由、去年所聞之也、

十五日、曉更甚雨、朝陽晴、已後又甚雨、朝洗髮始精

進、甚雨無笠、仍不指出、狂青侍等霖雨之間、盜取打破

了、秉燭之程參上、人々漸參集、亥時許宮渡御于御堂、

大臣殿御參於御所、寄御車還御、依御神事也、能季朝臣、資家少將以下、取松明候

御供、入御之後暫昇、有宗朝臣已下依番伺候、依咳病

殊無術退下、不取散花、

十六日、終夜今朝雨、已後聊休止、猶小雨、早參御堂、

明日散花番也、依日吉御幸不可勤、仍相替豫州所參勤

也、取散花、暫祇候之間、彈正忠景親自御前來云、此御

所五體不具穢出來、但夜前參入人皆穢了、各可觸此

由、女房兵衛督局下、昨日有臭香、雖成奇昨日暮了、今

朝令見之處、小人頭也、仍被立穢簡了者、乍驚以使着

奇弘、申八條院女房許、又相觸中務大輔消季了、境節雖

存外、返々爲恐、夜前今朝咳病殊不快、不可參之處、扶

參遂如此、不運之至也、後夜了、又取日中花、其時午時也今日人不參

只與國行二退下、咳病殊增氣、終日辛苦、酉時許又參上、

下格子之後、取初夜散花、即退下、穢氣大臣殿混合、令

參此御所給云々、咳病無術之間平臥、不能經聽聞、深

更又依召扶參、明日春日若宮祭御神事、雖爲穢中、猶

不可御御堂之由、今夜御覽出之云々、仍宮並殿還御東

殿、大臣殿御坐、如例取松明、入御之後、御供參南殿、

謁女房之間、聞曉鐘鷄鳴音退出、

十七日、天陰、雨不降、申時許暫見陽景、午終許參宮、

相次參大臣殿、御共又參宮、退下、依所勢不快不早參、

仍不取散花、今日番也、秉燭以下參上、太理參會、不昇

堂上、著沓懸尻參入之間、依氣色進寄、暫談話、兼時來

間退去、今夜可御御堂、獨可及深更之由、女房示之、仍

又退下、依咳病無術也、小時又依催歸參、御御堂、大臣

殿御車寄、御共御取松明、於御堂取散花即退下、臬云

來、示合貧窮事等、深更慶忠法橋不慮入來、周章出逢、

和歌事爲示合故所來向也、是已希代逸物也、月夜來

臨、道之面目、歌之氣味也、珍重々々、不及他事退歸了、明月蒼々雲漸盡、秋月不得雨隙、含恨之處、今夜適養病眼、聊述心緒、

十八日、晴陰、景云來談、未時許參御堂、御供騎馬參法性寺、御輿、御覽瀧水潺湲等、形勝地也、瀧高一丈五尺云云、明日宮女房可歷覽云々、昏還御之後退下、咳病猶不快、不取散花、

十九日、自朝雨降、終日不止、入夜如注、早參、取兩度散花了、未時許退下、今日女房行止了、依甚雨也、秉燭之程又歸參、例講論義、訖取布施、能季朝臣以下五人、國行、信光參數、僧退下、懺法衆參入、即取花筥退下、甚雨、暗夜無松明、貧窮現形、

廿日、終夜雨如注、今朝猶不止、終日無聊隙、依甚雨不出門戶、光澤今朝歸來、地頭返事、即承了、御年貢以下事、無懈怠可致沙汰之由注之、年貢等追可催出之由、相示云々、驚胎一匹之程事、猶不付使者、奇怪之甚也、但最下品馬□□□二匹引與光澤云々、雨水峻難之路

次、皆失之云々、以還來爲冥加耳、傳聞、五條上出家云云、予同胞大姊也、此儀尤宜、

廿一日、通夜又甚雨、已後雨止、夕方良方晴天見、凌雨參上、取後夜日中花退下、此間雨暫止、依咳病押加灸治一所、大體雖番心神不快、夜不參上、

廿二日、浮雲頻奔、朝陽間晴、未後雨瀝、入夜漸甚雨早旦女房等行向東山、今夜今朝風吹、仍爲拾栗也、午時許參上、今日着菰織襖、綾袴衣、今日始著之、但於菰色者非宿老之儀、壯年之人皆著之云々、張指貫、

紫苑之白張衣、近年如此未時許被出散花、有家、能季、予以下取之、日中懺法了、慶忠申上云々、了有御布施、日別十、季經卿以下取之、四位以下次第取之、予、保季等、殘而取第二僧被物、綿大而取ニクキ故、令寄諸大夫等也、被物生衣、例布施色革、綿、子手箱、童裝束、色々布二結、今日宮可還御云

云、依雨漸降無笠、仍忿退下、靜閑梨來臨、今日自大臣殿、越後少鄉一加給、日來所給之菊羽鄉之內、熱所之鄉有之、而被割分如何之由、知國案內者相示之由、景云稱之、仍申入之處、件所別所也、此所乏少之由存者、

正治元年 九月

百十六

五一六

近邊今一所少鄉可加之由有仰、雖非本望、此上不及申
仔細、畏給了之由申之了、一昨日有止雨奉幣云々、高倉大納

官行
此奉、

廿三日、雨降、時々休、巳時參入條院、良久長經朝臣參
入、始舍利講、僧四口、最末爲講師、源大納言、三位中將、公房、

若座、攝下數典、阿彌陀經了取布施、公卿同取之、講師絹一

卷、自餘各扇上置扇紙十枚、三位中將取時僧扇紙、右

少將成家朝臣、取講師扇紙、大納言尻也、予、隆範等、取第三

第四了、即退出、今日開天下大事等、十一月十七日第

三宮魚味事、於院可
有此奉、廿七日、朝觀行幸、廿九日、一品宮

御着袴、院入條殿之間事未切云
云、女院殊念思食云々、相當今年隨責所課等、定不

知其數歟、兼以爲歎、仰趣又理也、江州水損事、度々雖

申入、已無裁許、是又天下一同之殃也、限一所難有恩

容歟、又道理歟、土民全逃散云々、即參大臣殿、藏人大

進參會、參御前、昏於庭上御被、中門下
敷御座、凌雨候陪膳、御

拜了昇御之後退出、

廿四日、夜大風甚雨、曙後漸休、陽景時晴、雲猶飛口、

依番參勤、上格子、六位進季忠參、相次參大臣殿、召成

定中將、爲御使御馬二匹被獻院、中將今日著練指貫、覺玄律師川原毛一

匹、於花葦毛一匹、共不置鞍、頗有事聞、聞食及云々、

仍所被獻也、御共參北殿、引出御馬、御覽之後被獻了、

其後又越後地頭所獻馬一匹、以親兼左近將監、令馳御覽之、

未時許退下、中將語云、夜前有除目、別當上卿、粗聞

之、權中納言道經、兼右近少將通光、左衛門尉資兼、元

志、加賀、通資卿、壹岐、親國分、公時給、日向、侍從雅經、廣光聲

也、任人等不委聞、左中辨壹岐事飛去了致不便、申時

許又歸參、藏人大進參入、此事口口大臣殿御兵仗事云々、但內
中被申入、御氣色宜云々、以職事可

令申給之由有御氣色、仍付職事被
中之處、申入了、未承御返事云々、逢尾州、又相示越後事、可申

之由也、加給少鄉、重相尋聞之處、更不及左右、被副一

紙、更無其詮云々、仍爲此儀者、還無益之由所申也、未

時以後大風猛烈、昏黑以後雨如注、戌時許大臣殿還

御、御與、不能御共、自
門邊還入退下、忠弘今夜歸來、庄之躰不及左右云

云、但得田二十町許構出云々、

廿五日、雲始赴東南、陽景時晴、巳時許參大臣殿、先是

入道殿有御消息、稱自鎌倉有消息、其狀奇特、左衛門尉景高奉書云々、吉力太宮庄民等訴之也、相尋杲云了、申時許參宮、即退下之間、隆覺已講入來、相逢之間及秉燭、

廿六日、雨氣始散、朝日快晴、午時許依召參南殿、於庭有御被御拜、即令參北殿給、小時殿下出御、先出御、御與若君令

同與仰云、女房御車、中將殿能季、定家可候其御共、次又

別有出車二兩、一兩子、已車中無牛由、兼時送田牛、召山之左道也、牛意猶用子重、一兩資宗少將車、資家、

兼時可在其共、國行、國基等可在吾與共者、仍留候、

御車出御之後、大臣殿同出御、予乘豫州車、所相具

馬清實借騎、在此御共、二三町許之後、又出車遣之、

兩人騎馬但大臣殿不令入御堂給、仍出最勝金剛院門前、

下御車駕御輿、自北堀池方直御新御所、少將殿、與州、

予入門參入、此間被寄女房御車、侍從次殿若君同御、

人々可在此御共、此次女房可集行、資宗並中將許可在

其共由有仰、御覽此御堂池、又渡堀橋、御新造御所、女

房可來、人々可向山東之由被追入、即赴山行東方、良

久女房爲見松茸入北山云々、仍奔渡御前、又向御堂方、此間法印並阿闍梨某等頻招請、依誘引入片角着座、居酒饌、但甚異樣、無松茸之形、人々云、此法印住此山、年々歲々申無松茸之由、多以盜取之、仍爲表其事、御出之時取隱松茸之外無他、一兩巡之後、出端方之間、大臣殿還御云々、仍出門外、仰云、一人可相伴、仍予乘國行馬參御共、入御之後、暫伺候、此間北方有火、一條以北云々、不知其所、即滅了、秉燭之程退出、參大炊殿、乘鞍亥時許歸廬、

廿七日、朝天陰、辰後晴、巳時許參上、相次參南殿、又

御共歸參、即退下、杲云來、入夜沐浴、

廿八日、天晴、自今日始精進、依月詣也、

卅日、天晴、午後陰晴、未明出京、參詣日吉、即奉幣、

參洛往反夜前罷歸、今日又夕方、依重申旨可參洛者、

仰云、可進惡僧執當入宿所、即歸洛、山路險而長途彌屈、仍

事、可有裁許云々出戶津濱、借乘小船、入三井寺大門大路、船中眺望催

正治元年 十二月

百十八

五一八

興、自其所騎馬、未時入洛、即參御所、北殿、下格子之後退下、

○十二月

一日、天晴、不出行、小浴偃臥、

二日、天晴、早旦向坊門、病者殊重之由聞之上、去夜夢想頗奇思、仍爲問安否所向也、去夜殊危急、今朝落居云々、巳時許還來之後、午時參入條殿、御佛遲々、及斜

陽事始、酉時許取御布施、源大納言、隆信朝臣、長經朝臣、予、長房朝臣、親國、賴房、公仲等取之、範宗給事、即退出之間、自御堂有召營參、俄有時、中將殿御坐依爲長參歟、題云、冬

深眺望中、楚忽終篇、又書和歌各序、題云、野徑雪深、遊月後朝、爲長成信知範候之、深更退下、又給和歌題十、此等事甚無興、就中僧都事、近々如此、交衆不異禽獸、依爲密儀隨仰也、

三日、天陰、雨濕甚寒、參御堂、取後夜日中萩花退下、參宮御所、女房語云、一夜八條殿事上下和合、御氣色甚吉、一品宮來九日可入御二條殿之由、有沙汰云々、

但又有除目之聞、依之頗不定云々、內府甚入興云々、是被奉久我庄之故也、近代之法、只非賂者無他計、兩方病者猶不可憑、心中家中甚以冷然、凡三歲末事、公私重疊、已無其計、爲之如何、依可有御出、終日昇降、寒風難堪、未時許渡御東殿、亥時許御法性寺、入御定法寺、宿此所、

四日、天晴、鷄鳴以後御造作所、巳時許歸參御所、午時許北政所御御堂、寄御車相伴此尼、御前御法性寺、即參御共、御所置失聞之由申之、不足云々々、仍直御最勝金剛院、殿下御此所、即賜級退出、相具女房行三條坊門、即參大炊殿、令惱給事、逐日如增云々、酉時許退出、向坊門、此病又兼日庭弱、如待時、心中更無爲方、昨日西御方按察殿兩人渡訪給云々、可行向嵯峨事、猶每事繁多之間、邊土之居、被不可叶之由各示之、仍不願始終見苦、可畏之由議定了、秉燭以後參八條殿、如打火退出、即飯廬、大臣殿御方違、御共雖有催、連夜無術之間、入臥了、女房今夜宿三條坊門、件病者又無

憑云々、是只一身物忿之極也、今夜北政所密々御八條、殿下資家少將在御共、殿下夕還御云々、一品宮來九日白地可令入院給、件儀極省略、是何故乎、近代以略儀爲先、可依人可依事歟、甚無謂、

五日、天晴、早旦參上、謁都護退出、少々開夜前事、今日卿典侍可參八條殿云々、未時許參御堂、爲御使召季經卿於御前、人々漸參集、懺法日中時結願、如例季經卿以下取布施、無手長、諸大夫侍授之、其無便、宜奉行國行、勸修寺倫口等、隆信朝臣、顯家朝

臣、成定朝臣、有家朝臣、予、保季朝臣、長正、隆範、知長、知家、殿上人、東帶、盛經、親房等也、事訖退下、

六日、天陰晴、雖御法性寺、申他行之由不參、早旦山法師三位、入來、依有事緣、可云付伊勢事者也、乳母女房

傳之、仍相逢、示事子細、令書下文給之了、次向坊門、於六條重相示下文事、相次行嵯峨沐浴、夕飯洛、日暮騎馬行向坊門、病只同事也、但昨今夢許似有減、雖聊先爲悅、

七日、天晴、未時許大臣殿令參御所給、依召參上、今日

文會、殊無心隙之上、題牀不知案內之間、迷是非、心中極無興、交衆痛多、雖然愚作經御覽、多直之、猶可交其筵之由有仰、仍愁書之、秉燭以前講始、五六人之間、舉燈講了、又有續序、當座之時、予被宛所褒之句云々、全不知子細、問兩儒書出狂事了、披講了、亥終許退下、中將殿、有家朝臣、長兼、爲長、成信、成定、知範接此事、兼日題、年光流似水、當座、雪飛隱士家、

八日、天晴、風寒、沐浴念誦、未時許參上、長經朝臣參、依大神祭陪膳也、依爲輕服日數不勤仕之、兼時役送、入夜參大炊殿、騎馬、御不例猶有增無減、又依雜熱被付御樂云々、被宛御燒石之間、火ツクレ、出來之間、又被冷之云々、又行坊門、訪病者飯、

九日、陰、雨降止、今日除目云々、女房行三條坊門、入夜參上、即退下、昨今依風雨不行法性寺、

十日、天晴、開書不見來、已時許右少將任中將之由自高倉告送、仍奉賀札了、其後見開書、殊超越事等不見、筆力

但老翁數輩新任、顯耀驚目、右少將通平、廿年沈淪、通親院代始殿上人、兄弟違背、參開公御邊、世忘之、今被抽任、年四十五六者也、被任少將、未聞歟、如何々々、左少將清信、侍從

正治元年 十二月

百二十

五二〇

勞廿一年、大宮權亮定仲、仁平御賀人也、六十之人云々、參議藤公國、侍從
源師季、內舍人同貞康、藤季兼、石清水行、辛酉風功、二條院、藤遠兼、二條院
藤行職、大御功、藤國成、二品宮、藤政基、臨時、大宮權亮源定
仲、權大進源仲正、木宮、權少進大中臣信經、同、皇太后宮
權大進藤範弘、藤範仲、同、大屬中原尙光、同、大舍人頭
丹波有忠、岡背允藤爲弘、皇后宮、縫殿允紀行光、式子、陰陽
助賀茂在宜、兼、權助賀茂宣平、內匠允平經成、明經、大學
頭大江家景、中宮、玄蕃允大江知信、文章、主計頭安倍孝
宣、兼、助同國道、主稅允藤康光、皇太后宮、兵部權少輔源
信定、父有、刑部丞平通衡、宮內丞源定遠、大膳權大夫
安倍資元、兼、少進藤爲國、宣陽門院御給、藤盛孝、中宮、木工允藤
信能、主殿助藤親繼、陪從、大屬伴有方、典藥助丹波基
兼、侍醫督和氣貞基、父貞、經議、掃部頭中原廣元、少允橘遠
量、皇太后宮、內膳典膳中原友貞、辛選、造酒佑平盛家、女御
彈正忠安倍資宗、左京亮同晴幸、少進藤通澄、八條院、右京
進源行長、修理進大江親成、七條院、尾張守藤忠清、信清、筑
後守藤顯經、紀伊守藤家能、基宗、阿波守藤隆宗、左近少

將源清信、將監高階基邦、藤重實、功、右中將藤成家、藤
高通、權少將源通平、將監橘盛信、(成)、府奏、藤仲房、左衛門
尉藤親重、藤光成、中原高親、右衛門尉大江景盛、藤爲
久、左兵衛佐藤家衡、尉大江盛能、賀茂社、後開永云々、藤行康、院御
高階泰忠、督調、平賴幹、賀茂、右佐藤公長、權佐藤家隆、
尉藤盛家、多治光重、大御功、源重基、悠紀、少志平景貞、左馬
權助藤忠綱、允藤祐遠、功、右馬允惟宗、宗清、大御功、藤貞清、
父清綱、龍所、帶申任、兵庫頭藤康業、允中原經弘、明法、正治元年
十二月九日、
從四位藤雅經、大中臣隆宗、祭主能隆、御祈賀、高仲資、龍所、藏人
頭資實、使宣旨左衛尉藤親重、午時許參上、大臣御坐
於大盤所方、見參仰云、今年可出仕日々、十六日若宮
魚食親王宣旨、廿一日宣奏、元三元日一度、白馬、蹈歌
等可參之由存之、未時許殿下御法性寺、御共、有例有
立事、乘燭程還御之後退下、
十一日、天晴、風寒雪霏々、午時許三名魚食、小兒、乳母餐之、的
坏相、之後、相具參御所、柏上令着被褥、先參宮臺盤所、又

令懷忠弘參殿下、御出居給、手本造物蒙種々感言、尤爲面目、此子於事物吉、自今所爲悅也、其後入車令下乳人之後、又乘之退出、乳母即予相具歸了、入夜之間、女子令着袴、了相儲衣、申宮御衣令着、依有存旨、更不憚所申請也、前物又乳母儲之、兩人隨分吉事無爲遂了、爲悅、今旦宮令入院給云々、密儀云々、

十二日、天晴、終日蟄居、晚景清景來、自相逢、有術所思事可哀憐、入夜參上、即退下、騎馬向三條坊門、謁法師內供侍從等、辨參內云々、所惱事外減氣、仍明曉可退物云々、法眼自護身尤可謂傲驗、即飯廬、十三日、天晴、見夜前開書、下名、夕參上、依番下格子、入夜參八條院、中將殿見參、深更退下、雨濕風寒、月又明、

內舍人實貞殿宮門當年二分代 中原忠遠去年御禮皇后宮御同典用途功 皇后宮
權少進藤維房本宮 治部權少輔藤盛經兼 刑部少輔
源家兼 少丞藤季通御祈功父通澄讓 大舍人允藤康光元主稅允
采女祐中原貞綱司奏 主水佑源行清司奏 左近將監

藤貞兼去建久七年八輔行幸御屋功 左衛門尉中原清國得長藤院御佛功 右

□□□大江行忠父以孝辭山城守上可進五千正 左兵衛尉中原行景賀

社選宮兵衛尉脫力大神 右藤季隆賀 左馬允大江家宗熊野神寶用途并御祈功

右□□宮道種宗父重宗親右衛門尉申任 □□□藤行景修造親 同

教忠定功

正治元年十二月十二日

正五下朝清 大舍人有忠 主計助國通給兼 典侍

高重子

十四日、天晴、雪飛、早旦權大進兼時示送云、兵仗事大略一定之由、有其聞云々、辰時許參御堂、但未被宣下云々、相次參東殿、又參南殿、門前北見、喚出兵部權輔相逢、粗散不審、參御前退出、語云、兵仗事大略一定歟、但於明後日御出仕者、不可有其儀、其後可被仰歟之由有仰云々、明後日第三皇子御食并親王宣旨云云、雜人云、可有立太子云々、秉燭以後又飯參、大臣殿御坐、深更殿下還御御堂、大臣殿又還御、參多御共退下、十五日、天晴、參上之間、自坊門告病者殊危急之由、仍

正治元年 十二月

百二十一

正治元年 十二月

百二十二

五三二

觸此由女房、即行向、大便想止之間、其苦痛無術、日夜辛苦云々、如只今者、不似可有忽事、仍秉燭以後飯廬、今夜月蝕也、天陰、靜閑梨語云、一昨日天子御母儀准后云々、天下吉事重疊、

十六日、朝雨降、月蝕有驗之由歟、其後漸止、早旦參八條院、午時許退出、雨漸止、向少納言許、子息大夫加首服云々、聊依有相示事行向、即還廬、參上、小時御法性寺、大臣殿令參內給、依親王事云々、秉燭以後還御退下、知光少將俄入來、

即相逢、盡心事飯云々、今夜第三皇子親王宣旨并御魚食事、後聞粗記之、左右內三亞相參內、着仗座、親王宣旨了、進弓場列拜、左右亞相即參院給、執柄着殿上、初獻、仲經朝臣持參盃、不取續杓退去、兵衛佐家衡取瓶子、殿下取盃、不被仰左右、默然之間、宗賴卿召返仲經、還來寄宗賴座下、更訓其儀、取杓盃流巡、了殿下起給、其後三獻、依後白川院例無御遊云々、魚食了、左大臣殿又令參內給、於仗座頭權大夫仰殿上別當兵仗事云々、別當上卿下宣旨云々、昨日兩親王宣旨、二宮長

仁親王、家司信雅、公定、長房、家衡、隆仲、職事雅親、師經、實宣、勅別當泰通大納言、三宮守成親王、家司仲經、長房、範光、職事公信、經通、通光、勅別當宗賴卿云々、

十七日、天晴、此事極荒說也、供記之、未時許參上、依兵仗御廬、人多參云々、御隨身事未有一定、或云、自院可被定仰云々、酉時許殿下御法性寺、大臣殿又還御、漸雨降、秉燭以後俄還御、今夜有御宿儀、仍與有家朝臣能季朝臣三人同車、馬各所返遣之、復雨、退下、

十八日、天晴、未時許相具三名參上、入女房見參、酉時許退下、秉燭以後束帶參上、宮御佛名也、依無人爲上衆、行香名謁如例、權大夫別當、左宰相中將、兼家子、忠行、長兼、清長、資家、知長、兼時、季忠等名謁、

十九日、天晴、小雨瀟瀟、雪飛、參御堂、取例講布施、予、國行、隆範只三人往反、申時許如例御法性等、秉燭以後還御、

廿日、天晴、雨雪飛瀟、爲例講御布施、參御堂之間、俄

御法性寺、仍退下、忽御覽水、終日牙寒、秉燭以前還御、自仁和寺宮成海法橋爲御使參入、被召御前、今朝喚寄商賈買取毳毛馬一疋、日來獲毳毛并如鼠栗毛、雖不及晴馬、當時頗有脂肉之故也、無尾髮、

廿一日、天晴、兵部權少輔入來、神宮文書明日早旦可被渡源大納言云々、未時許向坊門、病頗似宜、相次參大炊殿、秉燭以後行向春日小家、飯廬、

廿二日、自曉雪紛々、積地五寸許、天不陰、口口月明、朝天晴、早旦參上、相次參八條殿、奉具中將殿飯參之間、殿下即御法性寺、大臣殿御同車、三、午時許大臣殿還御、殿下今夜御宿云々、隆信朝臣參入、入夜有連歌、深更與京兆相共退下、雖可參、宿病發無術之間、申暇了、此由示送與州、爲明日參也、漸及曉鐘了、大臣殿御隨身自院昨日被仰云々、左番長兼岑、右番長武澄、兼澄元大臣殿下耶小冠也、其凡事、今日神宮文書渡被源大納言許云々、今夜又姬君御魚味、資家少將可參云々、仍予不參、依殿下仰也、

廿三日、天晴、依病氣不出行、終日偃臥、申時許片時參上、殿下猶御法性寺之間也、依重日欠日不參南殿、

廿四日、天晴、早旦參南殿、御隨身下膳二人猶未定云云、申向戶部許之由退下、午終許向吉田新堂、堂屋嚴重具了、次々事甚以半作、且營出之間也、堂上如花、門前成市、暫各坐中門廊紫端疊之間、亭主出各會釋、公卿已着堂前座了、入妻戶之內、可被座之由、示上衆之人、隆信顯家朝臣以下在此所、前後群集濟々焉、申時許導師來臨、有執蓋、敷蓮道、眞圓、僧正曼陀羅供養、昇着之後、供奉此御拜覽之輩各起座、就出了、不見其外事、予即入家、改夜裝束、秉燭之程參南殿、御裝束之間也、堂供養所訪向人、中納言隆房、宗賴、實教、參議兼宗、宗隆、前參議公時、成經、三位經家、親雅、東帶、皆著、基宗、直衣、殿上人地下相合二三十人許、大略兩貫首親經朝臣資實朝臣也、隆信朝臣、顯宗朝臣、雅行朝臣、成家朝臣、早山、公清朝臣、實宣朝臣、親實朝臣、今日內昇、殿云々、範光朝臣、早山、大臣、殿院申出、長房朝臣、清長、長兼、早山、光親、行幸、資經、行房、顯俊、兼隆、

正治元年 十二月

百二十四

五三四

知長、朝基、不委覺悟、戌時許御身固了、出御中門妻戸

之間、御隨身始追前、御隨身自狩袴、盤腰巾、狩胡笠、今前驅十人之内、仲資朝臣四位一人、今成定中將、予、資家少將乘車夜補御隨身所別當、

在御供、先中宮大進長兼、出御之間同奉行之、申繼之、御拜了令昇給、又

出巽方、如例有兩方御拜、自庭御出、中將殿扈從、右中將成

宗朝臣依女院仰此御共云々、願前後相達也、是力不及事也、三中將兩少將連車御院參、

右少辨範光申之、御拜舞了令昇給、如去秋被引御馬之

間、下自對南階取綱、一拜徒跪、訖間、中將殿請取給、又

給成定朝臣、予獻御沓、即自庭退出、御參內、經敷政門

代令進弓場給、中將成家朝臣申之、拜舞了令昇給之

間、頭辨出來申召由、參御前、令還殿上給、源大納言着

陣、行齋宮卜定事云々、不委聞、退出之後又中宮樞大

夫行之、此等事不聞于細、良久令相待給、各退出之後、御着陣如

秋、訖還御、此間中將殿申昇殿、付殿上簡給、湯漬事等如例云々、頭樞大夫沙汰之云々、不見之、令參八條

院給、送物有琵琶、資宗少將取之、予在殿上邊之間不

取之、還御訖退下、寒夜殊難堪、每事如不見、但今夜ト

マリミサキ無之、此由御存知之由、重被尋仰良業之

處、申云所不候也、

廿五日、天晴、冴寒、午時許參勤、上格子、參大臣殿之

間、令參此御所給、仍退下、酉時許又參南殿、頭辨參

入、爲御使有申事、今年依日次不宜、無小朝拜、明年又

凶會日也、初度可被擇吉日歟否事云々、大略可被憚歟

之由令申給云々、御對面已後相逢、述所思等了、今度

出塵之後未示之、依憚身也、仍所陳也、入夜見參之後

退下、此間寒氣殊甚、病氣競起、

廿六日、天晴、依召參大臣殿、御共參北殿退下、遣伊勢

御厨使、今日飯來、百姓等雖出逢、依恐地頭、當時不預

供給之由返答云々、使者又及歲末講無答之由空還了、

改年以後猶可下向云々、次第無處于成敗、酉時許又飯

參、御共參、又飯參、殿御共、戌時許參八條殿、子夜還

御、

廿七日、天晴、沐浴念誦、昏參大臣殿、深更退下、

廿八日、天晴、申時許參大臣殿、御共參北殿、秉燭之程

御參內、左大辨依申於產穢由、今夜殿上所宛事止云

云、自餘事被行之、四々寒風難堪、臨深更還御、

廿九日、天晴、夕參大臣殿、又御共參內、子夜還御、今夜有除目云々、連夜寒風、心神無爲方、地下之身進退惟谷、衰齡卅八、每望傍人榮貴、只預運命、三崎庄所課雜仕裝束、以忠弘夕進入了、殊美麗過分之由有沙汰云々、御簾疊等同付之了、私廬今年殊以信仰、簾疊不改之、只車一兩僅構出云々、元三出仕雖甚見苦、只如例隨仰也、今夜信光密々傳仰云、正下加階并昇殿等事、此間頗被仰宗賴卿并範光等、各申云、於伺候此殿邊者、全非此障礙、限彼人一人、深有御意趣、有御氣色不快事、仍難申出此事者云々、此條甚不便也、是偏先年朝觀行幸見物之由、御覽之故云々、其上枝葉華葉等有之云云、申云、不望申以前、御沙汰不及申左右、深畏申之、彼人々計申之旨、又不能左右、此上事只可隨御定、何樣可相計順、私二覺悟、只隨仰可進退耳、但於心中者、此事極道理也、人皆私奔走迷惑、限一人無此事、宗賴橫惑之餘、深嫉惡予邊、今以此事被仰合、彼卿事所詮

天運也、非愁歎之限耳、

正治二年

○正月

一日、天晴、曉更於庭上祈念、依有所思也、午終許着裝束之間、大臣殿已御出、自宮御退出了云々、追參途中、前驅十二人、一員被召具、移馬八疋、參毛雖異樣、今朝此料引進之與資少將在御共、令參院給之間、成定中將參會、院中人未參、此間私退出、參大炊殿、相次參押小路齋宮退出、稱人車馬競立之間、於二條大路、奉待御退出、于時申終也、拜禮訖云々、殿下右府參六條殿給云々、大臣殿直御參內、二條四行令昇殿上給、此間又退出參入道殿、見參之後歸參、日入之間、殿下參給大臣殿、御着陣了、秉燭以後右府着陣給、此間頭辨被奏外任、奏了之後、節會又遲々如去年、殆經時刻、但外辨皆着了、主上御寢之由

正治二年 正月

百二十六

五二六

有其聞、不知實否、亥時許適出御南殿、左中將雅行朝臣、宗國朝臣、予等引陣、坐第六胡床、雅行不下尻自下坐、右中將成定朝臣、成家朝臣、高通朝臣、右少將兼季朝臣、公信朝臣、雅平、資家等云々、不憶見、宸儀出御、稱警蹕、各坐胡床、內侍臨檻、內辨令進軒廊給之間、予寄階下退入、他將同之、無留人、謝座着座、開門闌司召舍人、少納言參入、宜刀禰稱唯、外辨參入、右大臣、權大納言泰通、通資、中納言忠經、實教、公繼、宗賴以下不委見、甚多。○以下文、家經、宗隆卿猶立三位中將之末如何、也、不知事、內辨宣敷尹、謝座、右府如法拜給、自餘不然、酒正持參盞、右府相跪取給、酒正退一許丈之間、持盃乍坐一拜立、再拜訖不立、乍坐相待酒正參返給之、退去之間、取笏揖、立揖離列昇着座、自餘同之、着座人々入軒廊之間、予還着胡床、經通少將在右、他將不來、供晴御膳之間起、供了坐、小時又退入懸尻、於閑所暫見物、大臣殿着陣、令奏宣命給、以願辨奏之、返給、令還着給、宣命拜了、直御退出、右府早還御訖歸座、于時夜半許歟、今日兼宗宰相隨身着蘇芳袴、

コケル院拜禮、執柄三丞相以下云々、後聞、院拜禮、攝政殿不練給、舞蹈訖之後、取笏無一拜、乍居是先年出仕給之時、無此儀、仍始終有其事歟、但左大臣殿以下皆同有之、右府同此儀給云々、父子間如何、諸人乍坐一拜之間、相待漸立給云々、
二日、天晴、雪霏々、早旦依有催參八條院、布衣、一人不見、仍退出、參宮退下、午時許着束帶又參八條院、恒例御月忌始了、未時許事了、取布施兩度、退出、長經朝臣、隆範、奉行、皆布衣、隆兼四人參入、人々多參宮、
三日、天晴、夜雪埋庭草、終日霏々、巳時參大臣殿、午時許出御、與成定中將參御共、先北殿、依召參殿下御前、依仰召大臣殿御隨身御覽之、又召中將殿御隨身童等、御覽了退下、又依召參御前、仰云、雖御堂御流、殿上人之間、帶蔭給劔、公卿以後、帶螺劔之由聞之、而各帶螺劔云々、如何、申云、或帶之、或又帶蔭給、不同候歟者、成定中將予帶螺劔也、賴實右府之所爲、大略不帶之、兼宗宰相先年帶之、成定師經等又帶之、予猶有

所思、今年帶之、即御出、今日一員等中將殿扈從、右中將又共、此事強不可然事也、先御參院御所之間、上皇於對面南御但如院知不及左右、

覽牛云々、二三十頭許引立門内、大臣殿御障子上、不

經時刻、即御退出、令參内給、御坐殿上、中將殿坐給小

板敷之間、攝政殿退出給、自年中行事障子西直南出給

了、不經殿上方、小時大臣殿又御退出、仰云、中將直可被參八

條院、於今者不可扈從、予觸此由御共人云々了、次七

條院暫御坐公卿座之間、女房奏御座、令參廉中給、昏

御退出、次宣陽門院、不經程御退出、次八條院、入御座

中、亥時許御歸參北殿、深更還御之後退下、御參内之

間、太理奉逢陣、自取笠此間降坐地上、件卿新妻典侍今

日參内云々、車馬如雲、宗門扈從、又參八條殿、大臣殿

御參會云々、公國、宰相中將今日出仕、參八條殿并宮、

明日上皇始御幸三條殿云々、

四日、天晴、參大臣殿、夕方、見參之後、北殿下格子了退

下、

五日、天陰、已後微雨、午後漸甚雨、夕休、巳時許參北

殿、相次參大臣殿、終日在御前、節會文書等御覽之次

仰云、宣命使就版指笏之時、若不指得者、如指落其笏、

拜訖退之時、ウツブキテ取笏、非失禮、是故實也、公教卿故

落之、而隆房卿指笏之間、誤落之、而ウツブキテ先取其

笏、故指之時、人最稱不知故實、遺恨也云々、台記云、

依坊家別當不參、取坊家奏、少將爲通取繼之、返給、進

弓場之間、爲通自持杖、應頭某示云、杖可返給將監、爲

通云、自可持進弓場、奏訖之後、還着問諸卿、諸卿云、

返給杖於將監、於弓場更取之、奉上卿者恒例也云々、

應頭知故實、可感云々、來八月修正行幸、可有騎馬御

供奉云々、歸參下格子、女房達面々訪叙位事、是更不

思寄事也、大嘗會予所給御給泰通卿申之、當時不許云

云、給人依不運、自傍申奪之條、難堪事也、雖化原上

土、猶不可被召返御給、是非可叙之料、只其度超越之

訴、爲示後代、以其年御給、與身可朽、以之可爲一之面

目也、天下儀無定、何可思絕乎、今年範光朝臣申給宮御

給云々、萬事以之可見、不定世也、宮中面目也、能季朝

正治二年 正月

百二十八

五二八

臣事、自殿有御沙汰、宗賴夫妻可申入之由納受云々、
六日、天陰、辰後晴、見開書、

正二位通資去年朝親行
學院印云々 從三位家經 宗隆 從四位

上良輔勞 源賴家院當年
御給 藤兼基 丹波經基勞

藤公信皇后宮
年給 從四位下藤顯行勞 通光從三位源朝
臣當年給

藤長正勞 源定通宣陽門
當年 大中臣知雅造豐受大
神宮功 正五

下藤顯俊八條院
當年 藤隆仲臨時 藤基忠臨時 藤季房所

帶宮內
大輔叙 從五上源有資從下 中原明基明法
博士 源時賢

大中臣明親造豐受太
神宮功 業資王父神祇伯建久
九年大嘗會賞 高經時殿富
門當年

源顯成簡一 從五下盛直王寬和
御後 源季清藏人 藤

賴季式部 藤經光民部 中師名外記 三善仲康史 源

雅房氏 藤仲親氏 橘久恒氏 藤行家一品舅子內
親王當年給 藤

公俊式部內
親王 藤實基女御
子給 藤基光諸司 藤兼盛同

中盛房同 大江兼資同 藤親通同 大中臣季信陰陽

平宗知左近 中季良右近 藤助朝外衛 大江保遠同

藤國房同 平知國同 平重綱同 藤忠業同 平賴時同

惟宗憲景同 藤近光 齋部孝義入內

正治二年正月五日

通光右少將
如元 定通侍從
如元 左中將賴家禁色

已時許參八條殿、爲中中將殿御慶也、先是參御所、即

退出、未時許參大炊殿、入夜歸廬、叙位勝事等、自九條

殿申八條院御給給能季朝臣、去年不申上女院、通資卿
押取大伴會未給之替也 頻付

宗賴卿被申入院、宗賴御氣色不可惡人也、於定家者不

可叶、於能季者可申入之由許諾之由、殿中上下稱之、

夜前及深更、卿典侍以書狀申女院云、能季依上薦多不

可叙云々、件御給、顯俊爲人被超越、可憐慙、仍所申給

也者、而御返事不許、不開御返事被行叙位了云々、一

品宮御給如此、古來多加階之由、宗賴勘申歟、近則宣

陽門院親王之時、通具通宗叙之、而內府稱無例猶爵

之由定之云々、於母儀從三位者、又加階云々、中將殿

以一品宮雖被申不成就、以勞階被叙之、其勞數年過

了云々、實客力取御給計也、於今者所々御給不申本所、

只爲盜可被取歟、奇口殊勝、

七日、陰晴不定、雨雪霏々、未一點參大臣殿、御裝束之

間也、小時先令參北殿給、訪叙、紫微御平、請有文和殿下御前着靴、

令棟庭給、二三許丈、即御參內、乘御御車之間、雨雪忽降、

六七町許之後漸晴、於錦小路東洞院撤雨皮張席等、

前駐國基落馬、于時申時也、入左衛門陣、令着端座給、右府

以前着給了、與忠經中納言、兼宗、家經、宰相中將等

在座、兩相公、平伏召官人令敷貳、攝政殿未參給云々、此間予

昇下侍了、雪又降、晚景執柄參給、高通在御、共云々頭權大夫親

經仰加敘事云々、兼宗卿書之、此間又於陣邊伺見、書

了進自座前奉之、於座揖立進寄、跪揖奉之、內辨召頭

權大夫被奏之、入宮、次又召同人被奏外任奏、還出奉

之、結中力令口口給如恒、次召大外記良業、御弓奏可付內侍

所之由、即被仰馬頭代事、予在下侍之間、頭權大夫以

使示此事、即諾了、以權大夫奉下外任奏、還出之間、問

右將資家云々、此間兼季少將着例裝束在此邊、今日加

叙之由也、叙列車不存之由稱之、保元四、事歟、予和議云、故內

府加叙給之時、垂纓細太刀引陣給之由、聊所見及也、隨

故頭中將被叙從四上之時、同加叙也、用此儀給之樣二

所見及也者、兼季聞之、深以甘心、此間忠經卿起座入

殿上、件少將相具行習叙列事歟、又還來云、於加叙者、

多以此儀爲宜云々、此事但於他人者、此儀所不見及

也、只可隨諸人歟、公卿前後多參集、內府戶部高倉亞

相等在座、內辨起座、令出宣仁門代給、即着靴、召予被

仰云、出御加例遲々歟、可伺聞、仍以主殿司相尋職事

之處、返來云、出御成了、仍申此由之間、已爲賜下名令

進給之間也、進東階給下名、令下二省給之儀如例、二

省給了、暫令入陣腋給之間、予相觸傍將達令進、即

引陣、左中將雅行朝臣、宗國、少將教成、三人不置、胡床予

立第六胡床前、清信在下、右中將成家、高通、

少將兼季、垂纓細太刀、登國夜叙公信、經通、雅平、資家、通光、

待出御之間、以前御御帳了云々、不憶見、仍不稱聲蹕、

皆坐了、內侍臨檻、內辨令進軒廊給、予寄階下退入、他

將又同之、令通兩木之照給如元日謝座昇殿、開門關司令奏宣命給之間、予又

引陣、一人爲見、物也內辨下軒廊、返給杖、令還昇給、召二省輔

正治二年 正月

百三十

五三〇

代、令下位記筥給了、各置之机上丁、式部案二脚、筥二也、上階北、內辨召舍人口丁、少納言忠明參入、刀禰召七、机也、

稱唯退出、左大將入中門給之間、予退入、資宗少將一

人在右陣、文外辨列立、右內兩府、戶部、高倉大納言、

皇后宮大夫、權大夫、二位中納言、中宮權大夫、別當、堀

川宰相中將、兼宗右衛門督、信清、花山宰相中將、家經、左

大辨、宗隆、不憶見、光雅卿同列歟、謝座謝酒、右府取蓋

二拜、乍坐待酒正給、此儀元日同如此、如何々々、二拜、各着座

了、叙人參入、二省不、式部叙人北、源大納言爲上首、宰相中將

光雅卿、顯後時賢、兵部南、少將兼季、公信、實宣、經通、通

光、左衛門佐隆清、各立了、宣命拜、使公繼中納言、其儀

歟、不、各昇了、叙人賜位記、式部大輔代、大膳權大夫資、大納

言通資、跪取位記、符之間事不見、乍坐一拜立、右廻立本所、

家經卿同之、宗隆卿左廻、範光朝臣同左廻、少輔代等、兵

部少輔代、左大辨取位記之間、進寄、藏助文義進案下、立取位記、每

度相跪授之、少將兼季跪置弓、取位記取弓、乍坐一拜立、

右廻加本列、少將公信同之、自列後加之、少將實宣左廻、與公信不同、如

何、自後加之、少將經通又左廻、少將通光右廻、左衛門佐隆仲右廻、次

檢非違正明基進寄、揖跪置弓、取位記、乍坐一拜、取副弓、立揖右廻、退

加列、家經兼季共右廻如何、用一說者、式兵之叙人一門之人、不可替歟、

輔代退

列立了、式兵兩叙人共拜、但兼季、公信、實宣、二拜、是入

府院、帶胡繩不舞云々、今夜實宣朝臣同示合此事、頗難不有甘、心說、萬事申合彼邊、仍隨被命事不可背之由陳之、尤有其詞、經通、

通光、隆仲舞踏如例、各退入、次親族拜了、內辨令還昇

給、右府不昇立軒廊給、西二、內府同並立、自餘公卿自其

東并後昇了、兩府共笏、左袖ノ之口指天、抽取奏文披

見之、取筆加署訖、如元卷懸紙、乍令持指、誤脱アラシ、本杖弓令

持、左將軍進弓場、付職事給、還昇南殿、右將軍又相替

進弓場、其間在、奏之、直退出了、此間喚陣物取寄梓、取之

相持、右將口又馬可引之由相示之間、右少將資宗來

會、同召陣物取、予問云、左右之條、何樣令存給乎、資宗少

將云、愚存左北右南也、但只可隨上臈命、有兩說歟、

或云左南、予云、先年度々勤仕之時、立北了、又右令存給、

已以同之、然者猶可用左北之儀歟、少將云、最可然、即

相並渡了、於西土廊邊着淺履、更自立明後、密々東歸

了、國栖等了、右府先是退出、小時左大臣殿御退出、於

中門外令着淺履給、即還御、御共之後退出、加叙大略、

以聞及書之、非藏人一人叙爵云々、從四位上兼季、實

宣、經通、隆信、範光、中宮當年御給云々、此事今夜間雅行朝臣、若

一門有如此說歟、而答云、無一門、非一門之儀、是諸人

之習也云々、實宣聞之後、大咲之、稱不足言之由、不論

加叙、於叙人者、卷櫻野劔不付魚袋、引陣立入便所、帶

實宣經通朝臣如此

胡籙卷櫻是例也、但於兼季之儀者、已有先蹤、今夜又

云、於加叙者、以此儀爲上說云々、問忠經卿之儀示此由、實宣少將

去年取坊家奏之時、着淺沓之由語之、自不持、以將監

令持之由今夜稱之、去年自持之由人沙汰云々、不知實

否、右府謝酒二拜之後、乍坐待酒正給事如何云々、又

異位重行之儀、近代極不審、不知其由、

八日、天晴、午時許參大臣殿、自院範光朝臣以私使引

進御馬、御覽之次、移馬等同御覽、各非尋常、當時無御

馬之間、以引出物鶴毛黑二疋被充移馬了、御厩舍人居

伺等賜裝束、御隨身以前給之、申時許退下、秉燭之程

相伴宮女房達

車一兩獻之

密々出見物、

三條京極達

可乘車又乘半物

一人、御幸高倉南行、三條東行云々、殿上人如例、先

陣二切三渡、公卿殿上人又多相交、內府隨身上薦着絹

狩衣袴、打物也、華麗殊勝、右府御隨身布裝束付金銅風流、

下薦二色、左大臣殿不被施別風流、各布狩衣等也、院

御隨身又以殊勝、御車過御之後、猶密々向法勝寺、自

西腋門密々下、女房達於庭上令見物、攝政殿參會給云

云、御車等寄訖之後、相具歸參、三公執柄供奉、嚴重殊

勝、公卿、泰通卿、忠經卿、實教卿、兼良、宗賴、兼

宗、公經、家經、宗隆、公國、公房、隆保

、經仲、親能、定輔、信清、御後、殿上人濟々

焉、大臣殿無御出衣、淺履、右府紅打入熱、出衣、半靴、內

府紅梅厚衣、淺履、帶劔云々

九日、陰晴、參御所、北政所密令參加茂給、參大臣殿、

羣毛馬今日引送仲資朝臣、內々可見合之由依示送也、

入夜又持來、以此馬可給御隨身、今暫可勞飼云々、宮

女房堀河殿迎車、依召獻之、進使定事遠路難堪、

十一日、雪飛天陰晴、午時許參大炊殿、申時許歸廬、相

具女房向三條坊門、向知光少將門前相尋之處、答所勞

之由、不相逢、仍自門外歸、

正治二年 正月

百三十一

正治二年 正月

百三十二

五三二

十二日、天陰、雨雪交降、申後漸甚雨、上皇今日御幸皆

湘御所云々、供奉人着水干云々、八條院御幸宇治、四母

也、中宮行啓八條院、并節分御方違也、已時許參大臣

殿、先參、申時許退下、仰云、今年欲參釋奠、其以外可行

政、而日數漸迫了、除目十九日可始云々、十六日節會、

十八日修正可參、其間無日次歟、此事欲示合良業、仍

遣召之、乘燭以後束帶此間雨止、參大臣殿、御共參御所、深

更御八條殿、大臣殿中、取炬火、出車三兩、子、忠行朝、前驅、

顯家、能季、保季、安家、長兼、奉行國行、兼時、宗行、衣冠、公卿騎馬、權大夫、二位中

納言、兼良、三位中將、公房、中軌、入御、大臣殿、御退出、御

共之後退下、今夜參御所宿、依節分忌也、

十三日、陰晴、雨瀝止甚寒、念誦、乘燭之程參大臣殿、

深更退下、今日三崎莊物適到來、不法奇恠、但立春後

期以之爲吉事、健御前被歸坊門了、夜前僧事、奈良僧

都御房任大僧都給云々、

十四日、天晴、爲上格子參宮、酉時許殿下御參之後、中

將殿依仰令參九條殿給、御共奉具若君歸參、下御車之

間、無御沓、仍奉懷之、依無可然人、雖重役強所奉仕

也、入夜若君相具女房令還九條殿給了、深更殿下還

御、御共之後退下、明日宮還御延引云々、不知其由、今

日羣毛依召引進大臣殿了、給御隨身了云々、爲面目、

上皇今日還御云々、女房二品先歸洛、以殿上人爲前

驅、是常事云々、

十五日、天晴、早旦依召參大臣殿、仰云、踏歌宴隨身袴

事、至極小事也、仍不載舊記、猶非無不審、殿下御時

事、又依爲小事無御覺悟云々、猶依仰雖引舊記等更不

見、未承左右、午時退下了、申時許參御堂、取阿彌陀講

布施、無人之由國行、奈良僧都御房今夜參院給、牛童

一人可借進之由、兼時示之、尋求奉之、從僧車歟、乘燭

之程參八條殿、無人、相求之間、及深更宗行僅出來、以

之爲人形有御節供、長經陪膳、六度往反甚見苦、明日

前驅又人數闕乏云々、雖慙有此事等、已以劣無歟、如

何々々、夜深月明、退出之路無人逢、連日連夜辛苦、非

現當二世之勤、爲之如何、

十六日、天晴、未後雪飛、深更紛々、踏歌節會也、依有

腹病氣、終日偃臥、依被仰可早參之由、申終許參大臣

殿、東如、例備會、日入之程御出、令參北殿給、御隨身上議、近衛

襖袴、大將以上不著、紅梅云々、乘燭之程、令參八條殿給、人々未參云

云、戌時許出御、車、取炬火、東洞院北行、四條東、高倉

北、入自四脚、經殿上廊東、寄御車東屏中門內、對東、面

公卿立中門內、通資卿、乘車、二位中納言、東帶節、中宮權

大夫、直衣、宗賴卿、東公房卿、東殿上人立中門外、成

宗朝臣、關腹、顯朝臣、予、有通、縫腹、守通、衣冠、宗行、顯俊、公

仲、衣冠、成定朝臣路頭供奉、稱改裝束退出、雅行諸關腹參八條殿、其

後不見、予隨身紅梅袴也、中將今夜令着朽葉、示合兼

宗卿之處、雨儀非難云々、兄弟不同無謂歟、入御之後、

即御參內、直令着端坐給、御座定之間、源大納言參着、

座定之後、召官人敷軾、令直、御否、召外記、良業參、承仰稱唯

退出、持參外任奏、召親經朝臣付之奏聞、還出、件朝臣以

指指燭、但於箱者、自持之往反、令結給退出、召外記被下之間、出御南殿云

云、甚早速、外辨起坐、兼其、兼宗、家予入中門着靴、實宣

經、公國在座、

少將來催可引陣之由、少將云、將達在下侍可觸歟、予

云、不來歟不可知、即取梓引陣、少將相隨、立第六初、床前、以陣

物令伺御帳、已出御訖云々、仍警蹕坐、右將又坐、令立

梓了之間、敎成、雅親取梓來、加傍官座不可然、以官人可

內辨令着兀子給、內侍臨檻、令進軒廊給之間、退入如

例、漸令進立給之間、敎成實宣退入、左雅親、右公信、

孝平等不退入、表非家禮之由耳、雅親異樣也、御辭座

之後、又進出一入坐、開門關司召舍人、少納言忠明就

版、マウチギミ達メセ、稱唯出、通資卿入中門之間立、

外辨列立、通資、兼良、宗賴、兼宗、信清、家經、公房、公

國立通資卿後仰、シキ尹、再拜、、空蓋、通資卿取

蓋不揖立、如何、二拜立、酒正進授蓋、還蓋、取笏揖立、

揖放列參上着座、各入軒廊間坐、次供晴御膳之間、立

供了坐、無程退入了、不知其後事、國栖舞樂、此間事、殊

內辨令立軒廊給、實宣少將取奏、淺腹曳尻、令進弓場給之間、

自持之、又宇治龍云、爲通自持之云々、付長兼令奏給、令還昇給、坊門大

納言云、著靴引尻事、存可然由、節會之庭、淺腹懸尻事、不知其理云々、

妓女踏歌了、令着陣、給宣命、見參令還昇給、公國卿着

正治二年 正月

百三十四

祿所、床子通具朝臣同着之、後床宣命拜如例、一獻以前納

信清卿宣命使、當中門揖折事如例、宣命使還昇、內辨

直御退出、成定中予無車、騎馬自閑路參會、雪紛飛、月

清明埋路、不及入御之後退下、今夜借騎法眼馬、通資卿

自乘車參會、雅親乍出仕不令供奉、奇佐異樣也、今日

出仕次將着縫腋事不審、雖刻限以前、猶闕腋非難、况

於入夜事乎、如何々々、今夜袴、雅親、兼季染袴、家經、

公國卿、實宣朝臣等着紅梅袴、

十七日、射覆陰晴、雪飛甚寒、連日窮屈雖無術、依度々

催參御所、可御法性御出遲々、仍參大臣殿、被仰夜前事

等、午終許歸參、御出猶遲々、未斜渡御法性寺、御共之

後即歸家、着東帶參大內、隨身着紅梅袴入自待賢門、右衛門督右中

辨等在建禮門樓上、上卿遲參云々、高少納言家衡、兵

衛佐等在春花門邊、加其所、○頭書ニ、尋外記之處、右將兼季

日入以後、皇后宮權大夫參入、直着帳座、南座各進出

帳邊、右衛門督入自北着北座、北面立盤盤二脚、上卿

前小臺盤也、宰相辨少納言前長臺盤、各有將佐前立机

居饗、上卿參入之後、外記等行之、此座之牀不審、不知

可否、又將佐之料不可依參否、各可敷之、而敷座二枚、

立饗机二脚、辨少納言各取着座之間、予插矢展、取弓着

座、南北兵衛佐家衡同着之、上卿召外記、外記取弓參着

膝突、退問諸司歟、不聞其詞、一獻了射手如形射了、次

予起座退出、直出待賢門、向坊門即歸家、中宮還御事、

今朝又被仰今夜延引之由、仍返僮僕了、而歸家之後、

又今夜之由有催、周章之上心神惱、身軀屈無術計之

間、不參入、大臣殿又俄御參云々、能季朝臣在御共由

聞之、仍不參、於出車者獻八條殿了、今日越後北卿下

向、使者稱脚力送小分物等云々、

十八日、天晴、申時以後雪降、入夜積地四寸許、終夜不

休、曉更爲始精進、女房向高倉、明後日參籠日吉、女子

沐浴之後參上、相次參大臣殿、今日蓮花王院修正、可

有御參會、秉燭以後成定忠行朝臣參入、爲御戌時許御

裝束之間退出、參宮、密々相具女房令見物、御幸既成

了、無詮赴歸路、

十九日、雪紛々、朝天晴、早旦參上、可御法性寺之由、夜前被仰之處、人々遅々及辰時之間、御出止了之由有仰、依召參御前、人々遅參事、勘發御詞委細被仰含、爲恥爲恐、雪朝參更不可具威儀、只一人隨天曙打出可參也、中將隨身共人待具、遅來之條甚見苦、相府遅々、惣無數寄心之故也、壯年若年之人皆如此、心中已冷然、仍不可向法性寺、隨身共遅參、無云甲斐、雪朝更不可待催、拂曉着毛沓參入、必エフリヲ可持、而被尋求之後、適出來、被召仰雪山事、エフリ可給之由申之、尾籠之中尾籠也、各非父祖子孫歟、無慙也々々、諸人不得心之故也、於今者、只可沙汰雪山也、汝可爲奉行者、蒙此仰成恐祇候、猶爲申此由參大臣殿、以女房申入了、歸參之間、大臣殿御參、俄而御氣色漸和平、已時許猶可御法性寺之由有沙汰、女房車二兩被寄、北政所御車、殿下、御與大臣殿、中將殿、合同車給、入御最勝金剛院之後、女房以御輿渡御、密々渡御歟、宮女房達多被參于新御所、御輿二也、此間雪猶紛飛、及未漸休、小時又還御了、大臣殿相具女房車一

兩御最勝光院、予在此御共、貴家少將參御車御共了、令開御所并御堂、御堂御覽廻之後、申時許還御之後參御堂、例講始了、仍相待日入以後、取布施退下、知長之外無參人、今夕杲云白葦毛馬持來、兼日所請寄也、

廿日、天晴、今晚以車令參日吉了、牛借案、乘獨以後右之侍歸來云、天明出京、已時參

著云、午時許參御堂、取御月忌布施退下、參大臣殿、仰云、稱高通朝臣雜色男只今出來、可參所之由申之、是

若見聞及物歟、申云、不委承、重有御尋之處、件男頻申子細、猶可被召仕之由懇望、仍御免了、昏黑退出、參北殿、下格子了退下、今日伊勢事示付僧入來、

廿一日、天晴、申時許參大臣殿、有家朝臣同伺公、秉燭以後退下、宮御方下格子了退下、候力

廿二日、天晴、午時參大臣殿、良久御裝束、御直衣、淺黃堅文織物御指貫、御院參、依尊勝院羅尼供養也、御隨身上蘭冠、各著紫服、成定中將一人在

御共、前駟六人、葦毛馬、前駟料獻之、其後參宮、申斜退下、入夜又歸參、曉鐘以前退下、除目入眼也、

廿三日、自朝雨降、午後天晴、聞書遅々、傳聞、午斜消

正治二年 正月

百三十六

五三六

書了云々、午終許參八條殿例講、未訖之間、隆兼任宮
內權大輔之由有人賀札云々、父朝臣聞之、不可取布施
之由示了、罷所帶右京權大夫申請云々、申始許事了、
取布施隆信朝臣、長經一、子隆延、流季奉行、退出、參大臣殿、始見開書、日
來風聞珍事、皆不被行、除目甚美麗、善政也、大略、左
衛門督公繼、別當旨、宗、細辭退云々、從三位實保、太皇太后宮大夫光
雅、權大夫仲資、珍重、左近少將忠信、右少將公氏、侍從
家能、不知、右京權大夫爲季、八省輔等不懺覺、中務少
輔長清云々、不知、同權大輔有平、有通子云々、五位少將子相、並中務權大夫、勝事奇特歟、
或云、父筑前守爲定、定經宰相子、藏人巡、康宗任中被解却、未曾有
云々、夕參北殿即退下、

廿四日、天晴陰、秉燭之程參八條殿、即退出、參御所退
下、今夜下名云々、人云、院中一品宮御方竊盜入、取御
乳人衣等小々物、但秘之云々、

廿五日、陰、雨降止、臨昏甚雨、來廿八日始可講詩歌、題
云、春作四時始、各分脫力、一如例密儀也、但以爲長可令書
序、未時許退下、國行示送云、今夜中將殿御拜賀、宮御

方并殿御方可申繼、仍秉燭以前、束帶參儲宮御方申繼
之、於御手水間中、殿御方同之、中將被參御供、定事也、殿之、帶御把笏、
仰云、今夜夜行日也、一品宮還御及深更之、甚不便、不
能早參、其由ヲ可忝申之由可申左府、仍參大臣殿、
申此由、仰云、只今事已具了、仍可忝參候也、歸參申此
由退下、今夜大臣殿姬君御前御着袴也、南面敷御座
二帖、其リウヒン茵等敷之、御座傍立屏風、御座前
ニ御前物居許板ヲ置テ、其前敷疊、訓讀取入、女房座料也、御机帳
等如例云々、成定中將陪膳、束帶、諸大夫衣冠、役送、御
大臣、他事訖、即渡御北殿、此御前母儀今夜始奉謁中宮給、令入給之後、大
臣殿令參一品宮給、後聞、御車寄訖之餘云々、御八條
殿之後還御、女房又還御云々、手献一品出車、一品宮方供奉雖
領狀不參、甚雨無術之故也、勵心無詮、後聞、可營御
方、大小事多違亂、竊盜度々、或取女房以下衣裳、或取
御物云々、

廿六日、天晴、早旦依召參上、辰時許大臣殿御同車御
吉水僧正御房、日來有五十日逆修、爲御聽聞也、應應法印賦法、乍御車入御、先懺法、

次說法、次供兩御膳、能季朝臣、不參上、次羞私酒饌、與例等雜言、

覺命法眼交座、夕事了、入夜還御、于時亥刻也、窮屈難

堪、今夜在御所、

此間有例事

廿七日、天晴、自日吉歸洛、迎牛等昨日沙汰之、巳時還來云々、殿下今夜爲御方違御法性寺、申所勞由不參、

女房

西郡預法師葦毛馬將來、爲一見所取寄也、

廿八日、天晴風寒、此間餘寒過嚴寒、曉更女房令參詣

賀茂吉田祇園等、

自高倉出立女子相具

但借牛等遲々及天明云々、

午時許歸來、忠行少將并法眼借牛、今夜宮法性寺御方

違云々、戌時許參上、行啓無其期、仍參南殿、小時御共

歸參、又經時刻夜半許御法性寺殿、能季朝臣、宗行、親

房四人騎馬、大臣殿令參給、入御之後即退還、明夕可

還御云々、兼時妻依所勞獲麟行山里云々、今日中將殿

依參給春日、詩歌會延引、來月二日云々、引替牛依召

相儲狛川源、

廿九日、今月小天晴、參大炊殿、酉時歸廬、欲參行啓之間、

自西九條以藏人大夫邦長、一日雜色事可申大臣殿之

由被示送、相逢示子細、雖似少事、難申違候由也、戌時

許欲參法性寺之間、行啓已了由聞之、仍參御所、亥時

許大臣殿還御、御共後退下、今夜知範語云、白川僧正

御房參院御修法給、昨日有御使、又有內府使、可勤仕

御祈給之由也、自明日參候壇所給云々、天下事不思議

多、於今者只下官一人之不幸耳、是又果報也、不可歎、

梶原景時蒙賴家中將勘當逐電之間、天下可警衛之由

沙汰之、又申院云々、依之世間頗物忿歎、今日聞、隆雅

三位妻死去、病起自嫉妬云々、皇后宮半物

本北政所半物

わか

つま、三品自愛之間、深惡之、飲食不通、漸爲病遂終命

云々、

○二月大

一日、丁巳、天晴、巳時許參上、相次參大臣殿、詩歌事

等被仰之、申時許退下、大藏卿書送消息一通、

下向越後使者申請

事等也

二日、陰、大風雨、間晴、未時許雷鳴二聲、夜前兼時妻

死去云々、人云、景時已被討了云々、未知其旨、午時參

正治二年 二月

百三十八

五三八

八條殿、未時許理趣三昧訖、隆信、長經、隆範等四人取
布施、備六此間殊甚雨、中將殿見參、昏黑退還、雨止風
猶猛烈、

三日、天晴、已後風猛烈、申時小雨瀝、早旦依番上格子
了、即爲見物出、相具女房小男自綾小路京極邊、今度上相之
上人、家之外不被備路、自近衛殿出立、近衛四、西洞院南行、中御門
云、凡不被中所々、路四、京極南、五條四、萬里小路南、自六條出川
云、途中逢內侍車、新藏人車、相具雜仕二人、山吹句袖赤色
云、漸來加、良久相待、午時許神寶神馬等渡、白馬、次舞人

馬居飼舍人、二重二人、蘇芳二人、崩木二次舞人、或稱乘其舁
人、杉葉二人、青三二人、例摺袴、ツカル、近武、院御着褐、依武、同上武友、同上武

宗、殿府種武、同助信、不信見、敦澄、恒元、敦近、今一人
敦文、今日依武之外、其舁皆以異樣、雖近武武友、猶以不
心力得日也、凡於鬼形老翁等乎想以左道也、天下無近衛舍

人之故也、敦佐被催、爲院御隨身兼置依武等所訟、爲院御隨身之
輩、未□□爲本府物下屬云々、因茲止敦佐、其後被催兼澄、又申明日、兼直、本府物不爲當職之間、忠武被

無此外如此非人也、次移馬居飼舍人、赤色山次一員
被欺、六人、次前駐諸大夫殿上人打加、近代少年等想不見

知、藏人木工頭兼定、嘉山吹出最前出來、五十騎出衣、見知
之輩大略、資實朝臣、衣冠、顯宗、衣冠、宗俊朝臣、衣

冠雅行朝臣、束帶、打口隨身袴成宗朝臣、衣冠、不負胡露、高
蕭物、左道口物歟、通、束帶、隨身保季朝臣、束帶、有通、束帶、隨身宗衡、衣冠、

（入薄綿）紅打出衣、隨身基行、其名不分明、右衛門佐也、隨身布衣袴
布衣袴胡露、其舁優美也、基行、胡露、クスハカマ、キソメ袴衣ノホ
リ替之、重二、光親、令懸調長兼、衣冠、清長、衣冠、親輔、內殿上
人、キソメ、度衣冠、衣冠、地下親家、伊經、白砂權守等、不

諸大夫布袴、此內信廣（右馬次御隨身下臈爲先、皆蘇
權頭）帶銀、芳狩袴、不施風流、次御前、左馬助左近少將清信、束帶、隨

將少納言隆經、左中辨公定朝臣、外記良業、史國宗、
皆束、次御車、山衣紅打次檢非違使範近云々、不見次公卿

光雅、舊車甚中納言中將、出衣青若標前木左大辨、宗隆、經家
見苦、卿、伊輔卿、白襖袴、有前駐、和袴、隨身崩木袴、只一惣今日供

奉人、其舁不刷、右衛門佐并家衡之外、大略如官御裝
束、不異夜御幸、本所御厩舍人等裝束、又以不法色、不

尋常、惣下品布荒々事也、定有卿仰欺、不知其由、人數
乏少、見物後悔、束帶人濟々、未使五品猶如此、惣不得

心、末代之法耳、就中保季有通等來帶甚上皇於二條京極御

見物、御車、後聞供奉云、後聞有子細不供奉云、宗國、光宣、雅平、兼季、隆雅等不見、家人之

內猶如此、如何々々、奉行顯軍教房殿時弟兄弟也、即被召見云、入坊門、即歸家、

未時許參大臣殿、依春日御奉幣有御禊、陪膳與州奉仕

之、晴光奉仕御禊、御束帶、同上刑部中書等參會、此間

退下、

四日、天晴、風雪甚寒、午時許依召參八條殿、中將殿參

給九條殿、可御共仰也、未時許御共參入、中將殿小童

圍非上手也、件非御覽之料也、召御前了、其後參大臣

殿、未見參之間、腹痛忽發、苦痛無術、仍即退下、辛苦

無極、

五日、天陰、雪飛風烈、未時許右府還給云々、依寒風不

出、院御讀經、僧達上北面盤依小弓興舞狂云々、喚白

拍子女、召舞僧於母屋簾中見之、又有別曲童、北面之

聲天明之間送使資於川原時、笠懸童入實詮法印房、法

印弟子等乘雜後車送返云々、天下只如此、以之爲在世

魂、

六日、晴陰、雪飛、連日風始休、依腹痛不快不出、沐浴
偃臥、

七日、天陰、寒沍過冬、午後雨雪降、午時許參大臣殿、

仰云、明後日可有詩歌云々、予今度詩歌更不成、心中

冷然之間、此事殊難堪、夕令參北殿給、依甚雨不能御

共、騎馬退下、昨日有圍基興云々、依不堪事不參入、三

名乳母來語、梶原滅亡事等、其餘黨等追捕之間、京井

邊土多以有事云々、

八日、陰晴甚寒、風烈、申時許雨雪、入夜止、聊念誦之

後、昏參上、即參南殿、入夜見參、承明日御作等、子夜

退下、今日以羣毛馬引替右京權大夫黑糟毛馬、是又雖

小馬、依尾髮尋常所請替也、
依舊參動上格子

九日、天晴、風雪沍寒、未時許參上、文人等漸參集、乘

燭以後有特講、式部大輔公卿一人、在座□□、親通朝臣、直衣、□資光

朝臣、東帶、置詩還入之間、被召付著座、□指、
（親力、親經又坐上○以下圖文アリ）有家、予、長兼、

宗業、爲長、序成經、高範、知範等也、皆以才士也、一人

極見苦、資光朝臣有秀句、滿座感歎、漢十二皇高祖德、

正治二年 二月

百四十

五四〇

唐三百載太宗功、尤足賞翫、本自堪能也、殊勝々々、

予胸句頭情大夫加感詞云々爲面目

講師、成信、讀師、式部大輔、講了有和歌、無序季經卿、隆信朝

臣、保季朝臣、業清等加之、李部兩貫首、宗業、高範不

進和歌、保季可講師之由被仰、依爲四位思食忘歟之由

奇之、密々取御氣色、仍長兼可奉仕之由被仰、今夜奉行人也、即

着圓座、季經卿讀師講了退、無尋常歌、今夜准后帝母

可有行始云々、而延引明日云々、可參院云々、件人爲

源氏着吉衣云々、或人語云、近日院中雜御遊被摸修

正、人々皆勤仕、鬼役他人作鬼之時、如形加打擲、顯兼

作鬼之時、每手以大杖張伏之云々、以是爲詮、御氣色

愁不快之故云々、內府見之、於今者吾力不及之由相示

云々、世上之跡只迷也、爲之如何、進退何爲乎、

十日、天晴、頭辨送消息示夜前餘味、午時許參上、持參被狀

書取件詩歌送了、殊可感之由有仰、參北殿、中將殿御

座、見參之後退下、今夜御堂被始御懺法云々、宮侍初

參之由聞之、仍入夜束帶着之、即退下、職事手、着座、端

上座定後、所司男木工尤政教、着座、端末、次召着新衆、入下殿月、經座末者

與末、豫居物、次所司召小舍人、二音、小舍人入小庭稱唯、所司

仰云、御簡之御封開メカシ、所司稱唯、取御簡解結緒取出

之、申云、侍所小舍人從七位下豐原、御簡御封開シ

見カ、申雜仕取簡授所司、所司書入新衆、各坐寄覽職事、職

事目了返給之、次所司取筆封紙授職事、令書名上字返

給、次又召小舍人、二稱唯、仰云、御簡御封付シ、小舍人

稱唯、入袋結緒付封如前申云、、、、、、御簡御

封令付、申雜仕置簡袋於赤唐櫃上、所司召雜仕女、二、

答云、尾緒、仰云、瓶子ニ參禮、雜仕取銚子來、職事取盃

居、飲、入酒擬所司、所司進寄取之飲、入酒給新衆、新

衆飲之、次所司召雜仕女、初、御盃スエヨ、雜仕一人居

之、又召雜仕今一人、唯、仰云、瓶子ニ參レ、持來如初下、

又如前令獻盃、三獻了所司目職事、職事立箸、所司召

雜仕、おもゐまいらせよ、持來入之了、所司目、各立箸

置之、了各起座、是最小事、雖嗚呼事、依徒然書之、

十一日、天晴、夕雨降、入夜甚雨、巳時許相具女房小兒

等、行向三條坊門、下置參大炊殿、申時許退出、行向坊

門、昏歸廬、入夜雖有召、風雨深泥無術之間、申所勞由不參、後聞、別當拜賀、爲申繼長兼參入、伺候之間、忽被賦詩云々、題云、雨中對花柳、

十二日、終夜今朝猶風雨、晨後雨漸休、天猶陰、去夜夢參大臣殿、有御稜之次、召晴光仰云、吾夢右府、於左中將者辭退了、可赴戌亥方云々、晴光云、是無左右吉

想也、春自東生、先繁昌方、御攝籙先可有云々、覺後思之、誠是吉想也、仍記之、辰時參上御堂、但後夜懺法散花出了後也、取日中散華退下、又參新御所、中將殿御共參大臣殿、申時許退下、乘燭以後參上、取初夜散花、即退下、

十三日、朝後雨止、天間晴、申終又其雨、雷鳴兩三聲、入夜月明、又雷鳴甚雨、早旦向坊門、巳時許公雅律師來臨、如形修佛事、阿彌陀三尊如例、經撰請僧如例、光輔布座、午終歸九條、入夜參御所、殿下北政所御御堂云云、公雅律師不仕事、中女房了、即退下、夜雷數聲、早春尤可歎驚、雨又降、風頻烈、近日惣天氣無春景、慘烈

似怒、可怖、

十四日、天晴、陰風烈雨瀟、巳時許依催參上、宮渡御御堂、大臣殿御參、午時許寄御車、自內池砌、渡御如例、取日中散花退下、昏歸參、被忿行初夜、取散花、懺法了還御、深更大臣殿御共參關殿、又歸參、謁女房退下、太理參入、

十五日、天晴、風寒、入夜雪、未時許出京詣廣隆寺、相次赴法輪之間、依風不乘船、空歸嵯峨、雖雜人多、自西方入、涅槃講訖之間也、講筵之後、別當法眼出來、與薩摩盛經談話、予露顯接其座、言談之後、入中院沐浴、今夜宿、

十六日、天晴、夜月清明、早旦參詣法輪、還中院、又小浴之後、未時許歸洛、入夜向坊門、又向五條、開尼上所惱重之由、仍所到訪也、喚出參州達其趣、依重惱不能相逢之由被命、即歸廬之後、參上御所謁、今夜大臣殿有御方違云々、殿下又今朝御法性寺云々、十七日、天晴、雖番遲參、日中散華了參上、即參北殿之

正治二年 二月

間、大臣殿御堂了、小時退下、又歸參、又退下、靜開梨來、入夜參上、取初夜散華退下、深更又歸參、大臣殿御共參南殿、歸參、子時許殿御方遠、御北小路御共、不及一寢間雞鳴、即還御之後退下、

十八日、天晴、昨日散華番不參勤之替、今朝欲參之處、又遲參、仍參北殿、又參南殿、今日御院參、已時許成定中將御共先令參御堂給、此間退下、

十九日、天晴、早朝信光入來、已時許依召參大臣殿、相次參御堂、御懺法訖也、午時許取散華、日中時了有布施、能季朝臣、子、長俊、知長、隆範、以經、俊基、有長、國時等三反取之、僧退下、被始御忌日講筵之後、季經卿以下濟々參入、延信、顯家、宗雅、保季、朝臣以下也、依人多退下、參北殿、

即退出、今日御堂渡給嵯峨、國行一人在御共、明日被供養彼自筆五部大乘經、故內府御參(辨力)所也、公雅律師可爲導師云々、成信書願文、殊以優美、是題目又可然之故歟、親雅卿詩書云々、被尋伊經之處、他行云々、殿下北政所明曉可渡御云々、

廿日、天晴、風靜、夕雨下、雞鳴以後、聞御出之由、馳參御共、遲明入御嵯峨小御堂了、即與能季朝臣相共入私廬、信光清實相具、彼三人令沐浴、又儲小膳、辰時許歸參、說法始後也、諸僧六口、公雅辯說人拭感淚、布施二十、國行父子

井長正朝臣等相次取之、諸僧口別、被物景(蓋力)僧退下、次自昨日所被修一晝夜念佛僧十二口讀例時、嵯峨廿五三昧之聲云々、其內一人爲導師、供養靈像阿彌陀佛、又被布施、即還御訖、御堂上即還給、兩御車連之、

出車各一兩、同連之、與州自路止、入御之間、寄御車訖、即參大臣殿、即御院參、成定中將御共、御束帶如例、今日第二親王御着袴云々、酉時許^{日入}、參御堂之間、大臣殿還御、令參給、忠行少將在御共、入夜與使少將參宮、深更退下、

廿一日、終夜今朝猶雨下、今朝開五條上夜前已入滅云云、連々服假極爲歎、世上無常雖不可驚、同胞之中未有一人、次第雖爲道理、長兄先如此、殊催哀慟之心、以女房申輕服之由了、國行示送云、雖不除服猶可參、依無人也、兼又可令除服之由有仰、此上不及左右、仍參上、昏黑四座說、堂重子諸大、夫二人動之、有布施、公卿以下、皇后宮權大夫、

百四十二

二座訖間退出、依藤中納言、宗朝三位、季經、大藏卿、隆信朝臣、不聞此事參入、又取御氣顯宗朝臣、予以下人數不幾、布衣小々相交、于衣冠、

廿二日、天晴、曉更出門除服、前日之外、不擇日、早旦參入道殿、三

條、見參、仰云、病軀更不得心、溫氣殊不熱、只飲食不通送日、雖然其氣力無殊事、仍一昨日申時許取寄車歸此宅之間、即使來稱絕入由、驚送使者之處、無云甲斐如此、更無云限者也、而前少將之輩云、是時行也、仍不可修佛事云々、此事又殿室權辨來雖示、今吾又不知、仍示合民卿云々、又云、委不知、示親範卿、入道可申左右云々、謁申中將之後退出、即向冷泉油小路權辨宅、即相逢、所相示大略同前、時行之條更不存知、是只後家中人所云出也、如此事不知子細之間、推而難行、又其所有方忌等、勸修寺山庄已憚、仍可向南郊、其間一向沙汰、旁進退恐之也、所被詰事甚多、不遑記、今夜葬送云々、此人深恩難謝之由被相示、聞之催悲淚、無程退歸參大炊殿、戶部參入、於殿上相逢、稱時行不修佛事

之條、甚奇軀也、更不可有之由被稱之、即被出了、俄而予退出、向坊門又退出、直參御所、大臣殿御中將殿御宿所、俄有出題云々、今日詩筵、極雖深恩事似無興、又可表不堪之由、仍應立座諷吟、題云、花開遊宮中、秉燭以後、講了分散、大臣殿御共參御堂退下、

廿三日、天晴、依召參大臣殿、被仰和歌事、予無風情、更不成、今日構出書進之了、可有撰三人由云々、入道

所勞之間、講序之交頗痛廻給之由、今朝申之、殿下仰

所申頗有理、馳走可被延日數款、計其程可申上云々、

其程計申之條、又有其恐、所催可隨御定由申了、午終

許參八條殿、即例講了取布施、長經朝臣、予、隆範、知

長、信兼五人取之、即退出、歸參大臣殿、藏人大進參

會、退出參北殿、中納言典侍定輔參入、世間事出來之

後、夜陰密々之外不參、今日白晝參入、世間之躬不定

歟、中將殿見參之後、入夜退下、

廿四日、天晴、未時許依召參南殿、御共參御堂、又參北

殿、今夜此御堂修二月也、諸大夫等被布施、其事了殿

正治二年 閏二月

百四十四

五四四

下御北殿、御共、大臣殿還御、御共之後、良久候御前、夜半過退下、今日可被撰右方歌之由雖有仰、有宗朝臣家方不參之間、無其事、

廿五日、天晴、午時許依召參大臣殿、與中書撰右方歌了、御共參御堂、隆信朝臣寂蓮入道等依召參入、撰右歌了、後昏參御前、有和歌、題、待華日暮、春夜增戀、讀上了退下、殿下今夜御方遠、歌人、十題左方、中將殿、

實殿下隆信朝臣、保季朝臣、宗隆、寂蓮、業清、右方、資家、實大能季朝臣、實信正有家朝臣、定家、臣殿、顯昭、丹後、深更歸參、殿御共參法性寺、宿定法寺、

廿六日、天晴、曉入御新所、隆信朝臣參入有例石沙汰、申始許還御北殿之後退下、又參上、雖參南殿、依御物忌自土歸、下格子之後退下、相具女房向坊門、此間二宮渡御七條殿云々、殿上人衣冠束帶十餘人許共奉、公卿應從方三四人尾信奏通料、不見誰人、戌時許歸九條、女房留高倉了、明後日以後爲始精進也、

廿七日、天晴、依番上格子了、未時許御共參法性寺、昏

黑還御、宗綱同在御共、

廿八日、陰雨間降、雷兩三聲、早旦參上、又參南殿、歌合之間事、爲御使往反、夕退下、此間雨雷、入夜行坊門沐浴、戶部自去廿二日病惱重之由聞之、仍今日以書狀問之、資經示送返事、萬死一生云々、

廿九日、天晴、早旦自坊門歸九條、巳時依召參大臣殿、午時許殿下御法性寺、御供之後、申時許歸廬、深更又歸參、今夜行啓也、寄出車之間也、予車、被返即出御、能

季朝臣、資家、家綱、國行、季忠等供奉、入御本御所、中將殿曉鐘以後還御如前、即退下、

卅日、天晴、已後大風陰雲、早旦參大炊殿、自一昨日御足又被休藥之由聞之、仍驚參、女房云、戶部所勞如待時云々、於今者天下古老也、可惜可痛、午時許退出、向坊門、相次參八條院、明後日以後、暫可籠居之由申假退出、未時許依召參大臣殿、夕退下、女房參詣日吉、申時許歸來、殿下申時許還御、今日被沙汰訖瀧云々、

○閏二月

日本漢文史

籍叢刊

卷二

維史

[General Information]

书名=14664076

SS号=14664076